静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第192集

老　平　遺　跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－4

2008

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第192集

老　平　遺　跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－４

２００８

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

調査区全景（東より）

茅山下層式土器（奥）と野島式土器（前）

藤内式土器

巻頭図版 2

集積された石斧

回収した石斧

序

第二東名高速道路の建設に伴って静岡県内では多くの埋蔵文化財発掘調査が行われました。静岡県東部の愛鷹山東南麓では旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数存在することが知られており、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地における発掘調査によってさらに多くの貴重な遺跡が追加されました。

平成19年３月、裾野市に所在する佛ヶ尾遺跡（第二東名No.147地点、裾野市－１）の調査報告書を刊行し、続く平成20年３月には、その南に隣接する下ノ大窪遺跡（第二東名No.146地点、裾野市－２）の報告書を刊行いたしました。今回報告する老平遺跡（第二東名No.145地点、裾野市－４）は、更にこれらに続くもので、下ノ大窪遺跡の南に隣接する遺跡で、後期旧石器時代後半期から縄文時代中期までの遺物と遺構が検出されています。

多大な労力をかけて高い精度で行ってきました発掘調査の成果を、埋蔵文化財発掘調査報告書としてようやく纏めることができました。この成果が研究者、愛好家に資料として有効に活用され、そしてなにより幅広く多くの方々から理解を得られるように資料が公開されることが必要だと考えます。

現地調査および資料整理、報告書作成にあたり中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）・静岡県教育委員会ほか多数の機関とご助言をくださった方々に厚く感謝の意を表します。

平成20年９月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長　清水　哲

例　言

1．本書は静岡県裾野市大畑字老平他に所在する老平遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本道路高速道路株式会社横浜支社沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成14年４月から同年11月まで行った確認調査の結果を受け、平成15年４月から平成16年３月まで実施した。

3．資料整理は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成19年５月から平成20年５月まで実施した。

4．調査体制は以下の通りである。

平成14年度（確認調査）

所長　斎藤忠　　副所長　飯田英夫　　常務理事兼総務部長　粂田徳幸

調査研究部長　山本昇平　　調査研究部次長兼調査研究１課長　中嶋郁夫

主任調査研究員　前嶋秀張　　調査研究員　中村雅昭

平成15年度（本調査Ⅰ期）

所長　斎藤忠　　副所長　飯田英夫　　常務理事兼総務部長　粂田徳幸

調査研究部長　山本昇平　　調査研究部次長兼調査研究１課長　中嶋郁夫

主任調査研究員　前嶋秀張　　調査研究員　岩崎しのぶ

平成19年度（整理作業）

所長　斎藤忠　　常務理事兼事務局長　清水哲　　事務局次長兼総務課長　大場正夫

事務局次長兼調査課長　及川司　　事務局次長　佐野五十三　稲葉保幸

調査課係長　笹原千賀子　　常勤嘱託員　阿部敬

平成20年度（整理作業）

所長兼常務理事　清水哲　　次長兼事業係長　稲葉保幸　　次長兼総務課長　大場正夫

次長兼調査課長　及川司　　東部総括係長　中鉢賢治　　東部調査係長　笹原千賀子

常勤嘱託員　阿部敬

5．現地作業においては、掘削業務、測量業務を以下の業者に委託した。

平成14年度（確認調査）　掘削業務　セリザワ建設株式会社　測量業務　国際航業株式会社

平成15年度（本調査Ⅰ期）　掘削業務　株式会社渡辺建設　測量業務　国際航業株式会社

6．黒曜石産地分析は望月明彦氏（独立行政法人沼津工業高等専門学校教授）に委託した。附編はその分析成果である。

7．石器実測及びトレースは、大部分の剥片石器類、全ての打製石斧、全ての接合資料、一部の礫石器類を株式会社シン技術コンサルと株式会社東京航業研究所に委託し、ほかは当財団で行った。

8．本書の執筆と編集は、第１章１節を除き、阿部が行った。第１章１節は、本遺跡と同様に第二東名建設事業に伴う調査の対象となった佛ヶ尾遺跡発掘調査報告書（静岡県埋蔵文化財研究所編2007）の第１章（及川司・野田正人）からのほぼ全文引用である。

9．発掘調査および整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。

安斎正人　池谷信之　尾田織好　国武貞克　小崎晋　佐藤宏之　中村雄紀　森先一貴　役重みゆき

（五十音順・敬称略）

10．発掘調査資料はすべて静岡県教育委員会が保管している。

凡　例

1．調査区の方眼設定は、国土座標（平面直角座標Ⅷ系）を基準に、国土座標（-90510．35560）＝（A．0）と設定した（座標は平成15年度改訂以前の旧座標を使用している）。1グリッドは10m×10mで、各グリッドの呼称は、該当グリッド南西角の座標名称を採用している。

2．出土遺物は5桁の通し番号（＝遺物番号）を付して取り上げた。遺物番号と本報告書掲載番号の対応関係は出土石器属性表を参照のこと。

3．遺構番号は現地調査時に使用した番号を付した。遺構の略号表記に付いては以下の通り。
RG：礫群　SY：集石　PF：土坑　SB：竪穴住居跡　TA：竪穴住居跡状遺構　FP：焼土　CB：炭化物集中

4．石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。

5．出土遺物図の縮小率は以下の通り。いずれの場合も縮尺を付した。

土器	：1/2か1/3
剥片石器類、剥片類、石核	：2/3
打製石斧	：1/2
磨石・敲石類	：1/3
石皿・台石類	：1/4

6．色彩に関する記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）に準拠した。

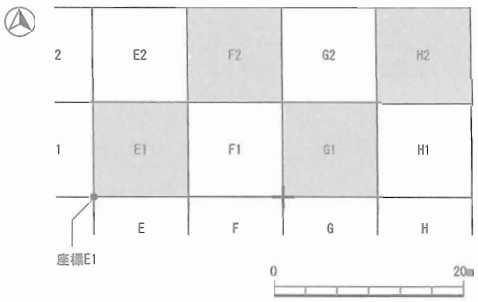
7．石器集中は、旧石器時代の石器群に限り、個体別資料や接合資料の検討とは無関係に、5点以上の石器が集中して検出されていることを基準として設定した。また、石器集中の番号は時代や時期に関わらず通し番号を付した。

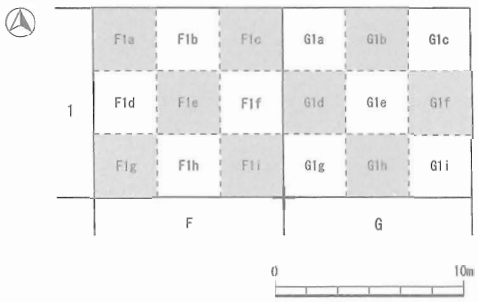
8．礫群は、3点以上の礫が集中して検出されていることを基準として設定した。また、礫群の番号は第Ⅰ文化層から第Ⅳ文化層まで通し番号を付した。

9．集石は、旧石器時代以外の礫群に対して設定した。また、集石の番号は時代に関わらず通し番号を付した。番号は検出された順序に対応する。

10．土坑は、時代に関わらず通し番号を付した。番号は検出された順序に対応する。

グリッドの表示方法





目　次

巻頭写真
序
例言・凡例
目次

第１章　調査に至る経緯 …… 1

第２章　調査の方法と経過
第１節　調査の方法 …… 3
第２節　調査の経過 …… 3
第３節　報告書の作成 …… 7

第３章　遺跡の環境
第１節　地理的環境 …… 9
第２節　歴史的環境 …… 9

第４章　旧石器時代の遺構と遺物
概要 …… 13
第１節　第Ⅰ文化層 …… 13
概要
1　石器集中
2　出土石器の検討
3　礫群
第２節　第Ⅱ文化層 …… 17
概要
1　石器集中
2　出土石器の検討
3　礫群
第３節　第Ⅲ文化層 …… 23
概要
1　出土石器の検討
2　礫群
第４節　第Ⅳ文化層 …… 26
概要
1　石器集中
2　出土石器の検討
3　礫群

第５章　縄文時代の遺構と遺物
第１節　土器分類 …… 43
第２節　縄文時代早期の土器群 …… 48
概要
出土土器の検討
第３節　縄文時代前期の土器群 …… 82
概要
出土土器の検討
第４節　縄文時代中期の土器群 …… 92
概要
出土土器の検討
第５節　縄文時代草創期から中期の石器群 …… 102
概要
（１）尖頭器類 …… 103
（２）DEF５－８グリッドの石器群 …… 108
１　石器集中
２　出土石器の検討
（３）EFG13-16グリッドの石器群 …… 119
１　石器集中
２　出土石器の検討
（４）CDE19-21グリッドの石器群 …… 130
出土石器の検討
（５）HIJK６-11グリッドの石器群 …… 132
出土石器の検討
（６）その他の石器群 …… 141
出土石器の検討
（７）表採資料 …… 142
第６節　縄文時代の遺構 …… 145
１　焼土
２　集石
３　土坑

第６章　時期不明の土坑 …… 175

第７章　まとめ …… 181

掲載遺構属性表　掲載遺物属性表 …… 189
附編　老平遺跡出土黒曜石の産地分析（望月明彦） …… 203
写真図版
抄録

挿図目次

第 1 図　調査区の設定 …… 4
第 2 図　テストピット配置 …… 4
第 3 図　土層の堆積状況 …… 5
第 4 図　トレンチ北壁断面 …… 6
第 5 図　層序と文化層 …… 8
第 6 図　愛鷹山東麓の遺跡分布 …… 10
第 7 図　第Ⅰ文化層　器種別分布 …… 14
第 8 図　第Ⅰ文化層　石材別分布 …… 15
第 9 図　第Ⅰ文化層石器集中 1　器種別分布（上）
　　石材別分布（下） …… 16
第 10 図　第Ⅰ文化層の石器群 …… 17
第 11 図　第Ⅱ文化層　器種別分布 …… 18
第 12 図　第Ⅱ文化層　石材別分布 …… 19
第 13 図　第Ⅱ文化層石器集中 2・3
　　器種別分布 …… 20
第 14 図　第Ⅱ文化層石器集中 2・3
　　石材別分布 …… 21
第 15 図　第Ⅱ文化層の石器群 …… 22
第 16 図　3 号礫群 …… 23
第 17 図　第Ⅲ文化層　器種別分布 …… 24
第 18 図　第Ⅲ文化層　石材別分布 …… 25
第 19 図　第Ⅲ文化層の石器 …… 26
第 20 図　第Ⅳ文化層　器種別分布 …… 29
第 21 図　第Ⅳ文化層　石材別分布 …… 30
第 22 図　第Ⅳ文化層石器集中 4　器種別分布 …… 31
第 23 図　第Ⅳ文化層石器集中 4　石材別分布 …… 32
第 24 図　第Ⅳ文化層石器集中 5　器種別分布 …… 33
第 25 図　第Ⅳ文化層石器集中 5　石材別分布 …… 34
第 26 図　第Ⅳ文化層石器集中 6
　　器種別分布（上）と石材別分布（下） …… 35
第 27 図　第Ⅳ文化層の石器群（1） …… 37
第 28 図　第Ⅳ文化層の石器群（2） …… 39
第 29 図　第Ⅳ文化層の石器群（3） …… 40
第 30 図　第Ⅳ文化層　礫分布 …… 41
第 31 図　2 号礫群 …… 42
第 32 図　1 号礫群 …… 42
第 33 図　早期土器群　型式別分布 …… 49
第 34 図　撚糸文土器　個体別分布 …… 50
第 35 図　撚糸文土器（1） …… 52
第 36 図　撚糸文土器（2） …… 53
第 37 図　早期　縄文土器　個体別分布 …… 54
第 38 図　早期　縄文土器 …… 55
第 39 図　判ノ木山西式土器　個体別分布 …… 57
第 40 図　判ノ木山西式土器（1） …… 58
第 41 図　判ノ木山西式土器（2） …… 59
第 42 図　判ノ木山西式土器（3） …… 60
第 43 図　判ノ木山西式土器（4） …… 61
第 44 図　判ノ木山西式土器（5） …… 62
第 45 図　沈線文土器　個体別分布 …… 63
第 46 図　沈線文土器 …… 64
第 47 図　野島式土器　個体別分布 …… 66
第 48 図　野島式土器（1） …… 67
第 49 図　野島式土器（2） …… 68
第 50 図　野島式土器（3）
　　茅山下層式土器（1） …… 69
第 51 図　茅山下層式土器　個体別分布 …… 70
第 52 図　茅山下層式土器（2） …… 71
第 53 図　茅山下層式土器（3） …… 72
第 54 図　茅山下層式土器（4） …… 73
第 55 図　打越式土器　個体別分布 …… 74
第 56 図　打越式土器（1） …… 75
第 57 図　打越式土器（2） …… 76
第 58 図　打越式土器（3） …… 77
第 59 図　その他の条痕文土器　個体別分布 …… 78
第 60 図　打越式土器（4）
　　その他の条痕文土器 …… 79
第 61 図　早期　その他の土器　個体別分布 …… 80
第 62 図　前期土器群　型式別分布 …… 83
第 63 図　上ノ坊式土器　個体別分布 …… 84
第 64 図　諸磯ｂ式土器等　個体別分布 …… 85
第 65 図　上ノ坊式土器　諸磯ｂ式土器（1） …… 86
第 66 図　諸磯ｂ式土器（2） …… 87
第 67 図　諸磯ｂ式土器（3） …… 88
第 68 図　前期　縄文土器およびその他の土器
　　個体別分布 …… 89
第 69 図　前期　縄文土器　その他の土器 …… 90
第 70 図　中期土器群　型式別分布 …… 93
第 71 図　新道式土器　個体分布 …… 95

第72図　藤内式土器　個体別分布 …… 96
第73図　中期　縄文土器およびその他の土器
個体別分布 …… 97
第74図　新道式土器　藤内式土器（1）…… 98
第75図　藤内式土器（2）…… 99
第76図　藤内式土器（3）……100
第77図　藤内式土器（4）
縄文土器　その他の土器 …… 101
第78図　縄文時代　剥片石器類の器種別分布 ‥ 104
第79図　縄文時代　剥片石器類の石材別分布 ‥ 105
第80図　縄文時代　礫石器類の器種別分布 …… 106
第81図　縄文時代　礫石器類の石材別分布 …… 107
第82図　縄文時代　尖頭器類 …… 108
第83図　DEF 5－8 グリッド　器種別分布 …… 111
第84図　DEF 5－8 グリッド　石材別分布 …… 112
第85図　石斧集中 …… 113
第86図　DEF 5－8 グリッドの石器群（1）… 113
第87図　DEF 5－8 グリッドの石器群（2）… 114
第88図　DEF 5－8 グリッドの石器群（3）… 115
第89図　DEF 5－8 グリッドの石器群（4）… 116
第90図　DEF 5－8 グリッドの石器群（5）… 117
第91図　DEF 5－8 グリッドの石器群（6）… 118
第92図　EFG13-16グリッド　器種別分布 …… 122
第93図　EFG13-16グリッド　石材別分布 …… 123
第94図　EFG13-16グリッドの石器群（1）… 125
第95図　EFG13-16グリッドの石器群（2）… 126
第96図　EFG13-16グリッドの石器群（3）… 128
第97図　EFG13-16グリッドの石器群（4）… 129
第98図　EFG13-16グリッドの石器群（5）… 130
第99図　CDE19-21グリッド　器種別分布 …… 131
第100図　CDE19-21グリッド　石材別分布 …… 131
第101図　CDE19-21グリッドの石器群 …… 132
第102図　HIJK 6－11グリッド　器種別分布 …… 133
第103図　HIJK 6－11グリッド　石材別分布 …… 134
第104図　HIJK 6－11グリッドの石器群（1）… 136
第105図　HIJK 6－11グリッドの石器群（2）… 137
第106図　HIJK 6－11グリッドの石器群（3）… 138
第107図　HIJK 6－11グリッドの石器群（4）… 139
第108図　HIJK 6－11グリッドの石器群（5）… 140
第109図　HIJK 6－11グリッドの石器群（6）… 141
第110図　その他の石器群 …… 143
第111図　縄文時代　礫分布 …… 144
第112図　集石・焼土分布 …… 146
第113図　焼土 …… 147
第114図　集石（1）…… 147
第115図　集石（2）…… 149
第116図　集石（3）…… 150
第117図　集石（4）…… 151
第118図　集石（5）…… 152
第119図　集石（6）…… 153
第120図　集石（7）…… 154
第121図　集石（8）…… 155
第122図　集石（9）…… 156
第123図　集石（10）…… 157
第124図　集石（11）…… 158
第125図　縄文時代　土坑分布 …… 161
第126図　縄文時代　土坑（1）…… 163
第127図　縄文時代　土坑（2）…… 164
第128図　縄文時代　土坑（3）…… 165
第129図　縄文時代　土坑（4）…… 166
第130図　縄文時代　土坑（5）…… 167
第131図　縄文時代　土坑（6）…… 168
第132図　縄文時代　土坑（7）…… 169
第133図　縄文時代　土坑（8）…… 170
第134図　縄文時代　土坑（9）…… 171
第135図　縄文時代　土坑（10）…… 172
第136図　縄文時代　土坑（11）…… 173
第137図　時期不明　土坑分布 …… 176
第138図　時期不明　土坑（1）…… 177
第139図　時期不明　土坑（2）…… 178
第140図　時期不明　土坑（3）…… 179
第141図　時期不明　土坑（4）…… 180
第142図　老平遺跡における旧石器時代から
縄文時代の石器群編年 …… 182
第143図　縄文時代草創期の石器集中 …… 185
第144図　縄文時代草創期の石器群 …… 186

挿表目次

表1　旧石器時代文化層の概要 …… 13
表2　第Ⅰ文化層　石器石材組成 …… 17
表3　石器集中1　石器石材組成 …… 17
表4　第Ⅱ文化層　石器石材組成 …… 22
表5　石器集中2　石器石材組成 …… 22
表6　石器集中3　石器石材組成 …… 22
表7　第Ⅲ文化層　石器石材組成 …… 26
表8　第Ⅳ文化層　石器石材組成 …… 27
表9　石器集中4　石器石材組成 …… 28
表10　石器集中5　石器石材組成 …… 28
表11　石器集中6　石器石材組成 …… 28
表12　老平遺跡の土器分類基準 …… 46
表13　縄文時代　剥片石器類の石材組成 …… 102
表14　縄文時代　礫石器類の石材組成 …… 103
表15　DEF5－8グリッド
　剥片石器類の石材組成 …… 110
表16　DEF5－8グリッド
　礫石器類の石材組成 …… 110
表17　EFG13-16グリッド
　剥片石器類の石材組成 …… 120
表18　EFG13-16グリッド
　礫石器類の石材組成 …… 120
表19　E15グリッド石器集中
　石器石材組成（ZN-SNZ） …… 121
表20　E15グリッド石器集中
　石器石材組成（ZN） …… 121
表21　CDE19-21グリッド
　石器石材組成 …… 131
表22　HIJK6-11グリッド
　剥片石器類の石材組成 …… 132
表23　HIJK6-11グリッド
　礫石器類の石材組成 …… 132
表24　その他のグリッド　石器石材組成 …… 142
表25　土坑の平面形態と小穴の有無 …… 162
表26　土坑の平面形態と掘り込み面の層位 …… 162
表27　礫群属性 …… 191
表28　集石属性 …… 191
表29　土坑属性（縄文時代） …… 192
表30　土坑属性（時期不明） …… 192
表31　掲載土器属性 …… 193
表32　掲載石器属性（旧石器-縄文時代） …… 196

写真図版目次

巻頭図版1　調査区全景（東より）
　茅山下層式土器（奥）と野島式土器（前）
　藤内式土器
巻頭図版2　集積された石斧　回収した石斧
図版1　NLa及びYLU全景　テストピット全景
図版2　深掘り範囲全景　完掘全景
図版3　テストピット31遺物出土状況
　遺物検出状況（北から）
図版4　遺物検出状況（北東から）
　テストピット22遺物検出状況
図版5　テストピット27遺物出土状況
　テストピット34遺物出土状況
図版6　テストピット46遺物出土状況
　テストピット47遺物出土状況
図版7　テストピット48遺物出土状況
　テストピット49遺物出土状況
図版8　テストピット53遺物出土状況（東から）
　テストピット53遺物出土状況（西から）
図版9　テストピット58遺物出土状況
　テストピット62遺物出土状況

図版10　H５グリッド遺物出土状況
K/L６グリッド遺物出土状況（南東から）
図版11　K/L６グリッド遺物出土状況（東から）
K６/７グリッド遺物出土状況
図版12　１号礫群検出状況
２号礫群検出状況
E６グリッド黒曜石集中検出状況
石斧集中検出状況
焼土完掘状況
図版13　１号集石検出状況　２号集石検出状況
３号集石検出状況　４号集石検出状況
５号集石検出状況　６号集石出土状況
７号集石検出状況　８号集石出土状況
図版14　９号集石出土状況　10号集石検出状況
11号集石検出状況　12号集石検出状況
13号集石検出状況　14号集石検出状況
15号集石検出状況　16号集石検出状況
図版15　17号集石検出状況　18号集石検出状況
19号集石検出状況　20号集石検出状況
21号集石検出状況　22号集石検出状況
23号集石検出状況　24号集石検出状況
図版16　25号集石検出状況　26号集石出土状況
27号集石検出状況　28号集石検出状況
29号集石検出状況　30号集石検出状況
31号集石検出状況　32号集石出土状況
図版17　33号集石検出状況　１号土坑完掘状況
１号土坑底面の状況　４号土坑完掘状況
17号土坑完掘状況　18号土坑完掘状況
19号土坑完掘状況　20号土坑完掘状況
図版18　21号土坑完掘状況
22号土坑完掘状況　24号土坑完掘状況
27号土坑完掘状況　28号土坑完掘状況
28号土坑裁ち割り断面
29号土坑完掘状況　30号土坑完掘状況
図版19　31号土坑完掘状況　32号土坑完掘状況
33号土坑完掘状況　34号土坑完掘状況
35号土坑完掘状況　36号土坑完掘状況
38号土坑完掘状況　39号土坑完掘状況
図版20　40号土坑完掘状況　41号土坑完掘状況
42号土坑完掘状況　43号土坑完掘状況
44号土坑完掘状況　45号土坑完掘状況
46号土坑完掘状況　47号土坑完掘状況
図版21　２号土坑完掘状況　２号土坑底面の状況
３号土坑完掘状況　５号土坑完掘状況
５号土坑底面の状況　６号土坑完掘状況
７号土坑完掘状況　８号土坑完掘状況
図版22　９号土坑完掘状況　10号土坑完掘状況
11号土坑完掘状況　12号土坑完掘状況
13号土坑完掘状況　14号土坑完掘状況
15号土坑完掘状況　16号土坑完掘状況
図版23　23号土坑完掘状況　25号土坑完掘状況
26号土坑完掘状況　37号土坑完掘状況
図版24　第Ⅰ文化層の石器群
第Ⅱ文化層の石器群
第Ⅲ文化層の石器
第Ⅳ文化層の石器群（１）
第Ⅳ文化層の石器群（２）
図版25　第Ⅳ文化層の石器群（３）
第Ⅳ文化層の石器群（４）
第Ⅳ文化層の石器群（５）
図版26　撚糸文土器
図版27　早期　縄文土器
図版28　判ノ木山西式土器（１）
判ノ木山西式土器（２）
野島式土器（１）　野島式土器（２）
図版29　野島式土器（３）　野島式土器（４）
野島式土器（５）　野島式土器（６）
茅山下層式土器（１）
図版30　茅山下層式土器（２）　茅山下層式土器（３）
打越式土器（１）
図版31　打越式土器（２）　打越式土器（３）
打越式土器（４）　その他の沈線文土器（１）
その他の条痕文土器　判ノ木山西式土器（３）
図版32　その他の沈線文土器（２）
早期　その他の土器（１）
早期　その他の土器（２）
早期　その他の土器（３）
上ノ坊式土器
図版33　諸磯b式土器（１）　諸磯b式土器（２）
諸磯b式土器（３）
図版34　諸磯b式土器（４）　諸磯b式土器（５）
前期　縄文土器
前期　その他の土器（１）
前期　その他の土器（２）

図版35　新道式土器（1）　新道式土器（2）
藤内式土器（1）　藤内式土器（2）
藤内式土器（3）　藤内式土器（4）
図版36　藤内式土器（5）　藤内式土器（6）
中期　縄文土器　その他の土器
図版37　縄文時代草創期の尖頭器類（1）
縄文時代草創期の尖頭器類（2）
DEF 5－8 グリッドの石器群（1）
DEF 5－8 グリッドの石器群（2）
DEF 5－8 グリッドの石器群（3）
図版38　DEF 5－8 グリッドの石器群（4）
図版39　DEF 5－8 グリッドの石器群（5）
DEF 5－8 グリッドの石器群（6）
図版40　DEF 5－8 グリッドの石器群（7）
EFG13-16グリッドの石器群（1）
図版41　EFG13-16グリッドの石器群（2）
EFG13-16グリッドの石器群（3）
図版42　EFG13-16グリッドの石器群（4）
EFG13-16グリッドの石器群（5）
EFG13-16グリッドの石器群（6）
図版43　EFG13-16グリッドの石器（7）
CDE19-21グリッドの石器群
HIJK 6－11グリッドの石器群（1）
HIJK 6－11グリッドの石器群（2）
HIJK 6－11グリッドの石器群（3）
図版44　HIJK 6－11グリッドの石器群（4）
HIJK 6－11グリッドの石器群（5）
HIJK 6－11グリッドの石器群（6）
HIJK 6－11グリッドの石器群（7）
図版45　HIJK 6－11グリッドの石器（8）
その他のグリッドの石器群（1）
その他のグリッドの石器群（2）

第１章　調査に至る経緯

混雑する東名・名神高速道路の抜本的な対策として昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。その後、第４次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道路建設法の一部改正等を経て、平成元年１月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において飛島村～神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市に至る延長約270㎞の第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170㎞に及ぶ。この基本計画の策定を受けて静岡県は平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、教育委員会文化課もメンバーとして参加した。

その後、第二東名の基本計画については、文化財を含む環境影響調査等が行われ、ほかの公共事業や地域開発計画との調整をはかった上、平成３年９月24日には静岡県長泉町～引佐町の都市計画決定告示がなされた。

こうした環境影響調査と並行する形で、埋蔵文化財の分布状況の把握作業もなされている。第二東名建設に関する調査の指示を受けた日本道路公団は平成４年２月17日付けで文化庁へ通知を行うとともに、平成４年５月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、長泉町～引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。また、平成４年８月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務局長から静岡県教育委員会教育長宛に、「第二東名自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けて県教育委員会は平成４年９月29日に関係市町村教育委員会を集めて第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。踏査結果については、各市町村教育委員会からの回答をもとに協議を行い、県教育委員会が取りまとめたものを平成５年３月18日付けで静岡県教育委員会教育長から日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所等宛に回答がなされている。この時点での調査対象箇所は136カ所、調査対象総面積が1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町～引佐町間については、平成５年11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について協議されるとともに、発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所へ委託することが確認された。しかしながら、第二東名建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が想定されるため調査体制をどのように確保するかが大きな課題となった。

さらに平成６年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年に示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告ととりまとめがなされた。こうした状況調査や新たな踏査結果をもとに見直しがされた結果、この段階での調査対象地点は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成７年度後半には、路線の一部では幅杭の打設が開始され、埋蔵文化財の調査の開始についてもかなり見通しが出てきた。こうした状況の中で、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いを協議する場として、日本道路公団静岡建設所（平成６年２月設置）と県教育委員会文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第１回の協議が平成７年12月13日に行われた。これ以降、細かい埋蔵文化財の取り扱いについてはこの会議で協議することとなった。なお、日本道路公団静岡建設所は平成８年７月１日をもって日本道路公団静岡建設局に改組された。

平成８年度には、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、平成８年９月24日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての確認書を締結した。さらに調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた３者は平成８年９月25日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成８年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半には、掛川市倉真のNo.94地点、浜北市大平のNo.136地点およびNo.137地点の確認調査が実施された。その後、平成９年度からは、発掘調査も本格化し、県内各地において確認調査から順次着手した。

一方、長泉町～御殿場市間についても日本道路公団に対し、平成９年１月31日付けで施行命令が出されている。この区間については、建設省の立会いにより平成６年度後半に踏査が行われ、調査対象地点のリストアップが行われたが、調査開始を受けて再度、平成10年９月２日付けで日本道路公団静岡建設局より静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされた。これをうけて、県教育委員会文化課は、関係する市町村教育委員会に平成10年９月25日付で再踏査の依頼をするとともに、10月２日には踏査の実施に関する打ち合わせを行った。11月上旬には長泉町、裾野市、御殿場市教育委員会から踏査結果についての報告がなされ、県教育委員会文化課がそれを取りまとめ、平成10年12月17日付けで県教育長から日本道路公団静岡建設局長宛の回答を行った。この区間で埋蔵文化財調査の対象となった箇所は21地点、調査総面積は108,734㎡であった。関係者協議の結果、これらの調査対象地点についても、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとし、平成11年３月５日付けで協定変更を行った。

なお、第二東名にかかる埋蔵文化財の調査は関係者協議の結果、基本的には本線およびサービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路および取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかないため、本線部分の一部についても沼津市や静岡市、浜北市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応していただくとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、裾野市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、老平遺跡（第二東名No.145地点）の調査も行われた（及川司・野田正人2007 『佛ヶ尾遺跡』より引用）。

第２章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

道路工事の工程の関係上、調査対象地の東半部を西半部に先行して平成16年度に引き渡すことになったため、上り線センターラインに沿って引き渡しラインを設定し、これを境に調査区を東半部と西半部に区分し、東半部の北側を１区、南側を２区とした（第１図）。１区の北部は当初、調査テントが張られていたが、調査区外にプレハブを建てる用意が整ったため、追加調査された場所である。調査面積は１区が1707.7㎡、２区が6558.3㎡、追加調査部分が764㎡である。

調査区には、Ｘ軸（南北）方向にアルファベット、Ｙ軸（東西）方向にアラビア数字を付して10m四方の方眼を設定し、これをグリッドとした（第２図）。国家座標（日本測地系　平面直角座標第Ⅷ系）旧基準（Ｘ，Ｙ）＝（-90530.0，35560.0）上を原点（Ａ，1）とした。第二東名沼津工区内の遺跡を同一座標で管理する必要性から、すべての遺構、遺物について国家座標のＸ、Ｙ座標と水準値（Ｚ座標）を記録した。本書では、調査区設定のための座標名称（例えば座標（Ｘ，Ｙ）＝（Ａ，1））は、この座標を南西角とするグリッド名称として用いる。

第２節　調査の経過

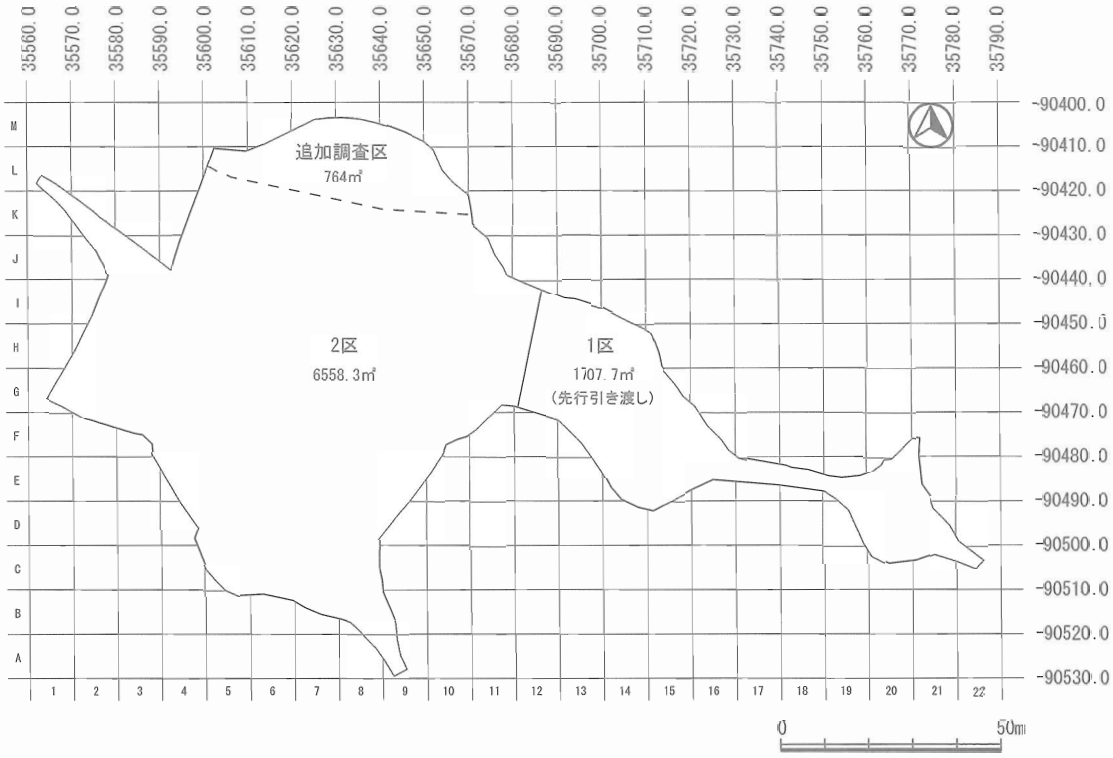
確認調査

調査区全域を対象として、平成14年９月上旬から11月上旬に実施した。テストピットは16箇所（TP１-16）を設定した（第２図）。また、E16-19グリッドにかけて東西に伸びるトレンチを設定した。以上の設定範囲は、樹根と表土を重機で除去した後、人力で掘削し、掘削後に撮影と実測を行った。諸作業の終了後、重機で埋め戻し作業を行い、確認調査を終了した。確認調査の結果、時期不明（だが中世の可能性がある）遺構と、縄文時代から旧石器時代の遺構と遺物が出土したため、本調査を行うことになった。

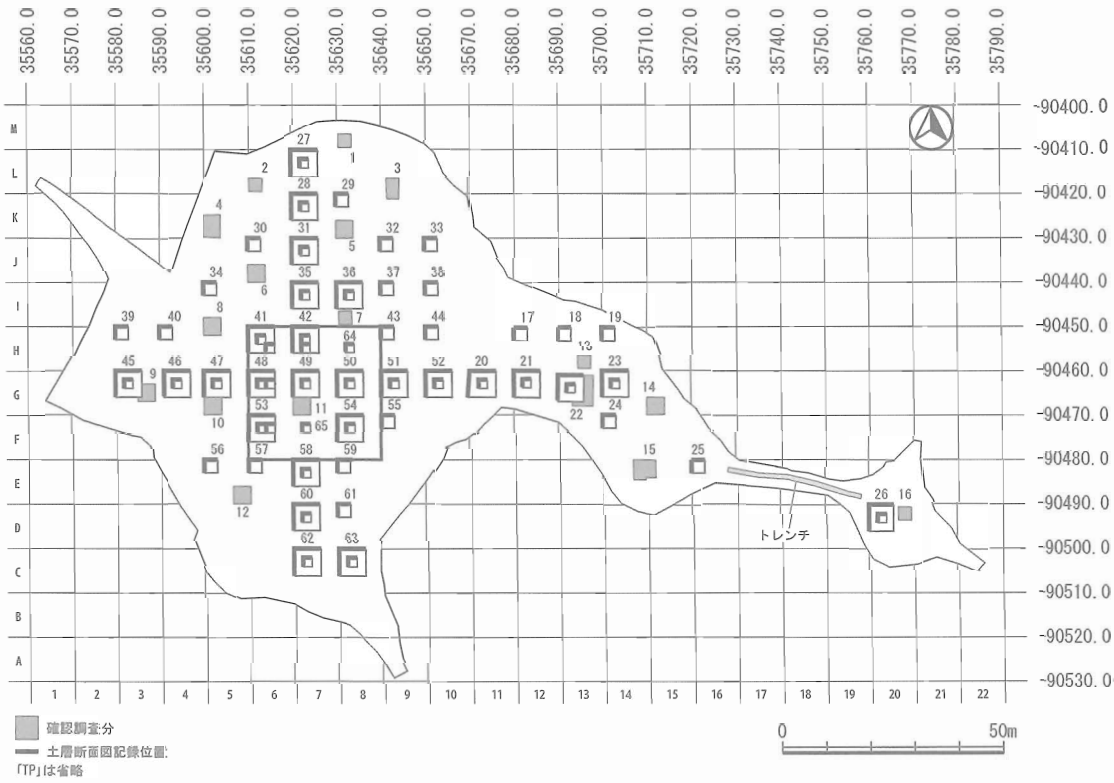
本調査

平成15年４月から16年３月まで行った。15年４月に重機で抜根と表土除去を行い、同月から人力掘削作業を開始した。５月中旬までに富士砂沢スコリア包含層（SNZ）まで掘り下げ、時期不明の土坑を検出し、撮影および実測を行った。５月中旬から、富士砂沢スコリア包含層下位の暗褐色土層を掘り下げ、縄文時代の遺構と遺物を検出し、撮影及び実測を行った。７月下旬から、栗色土層（KU）と富士黒色土層（FB）を掘り下げ、引き続き縄文時代の遺構と遺物の検出、撮影、実測を行った。

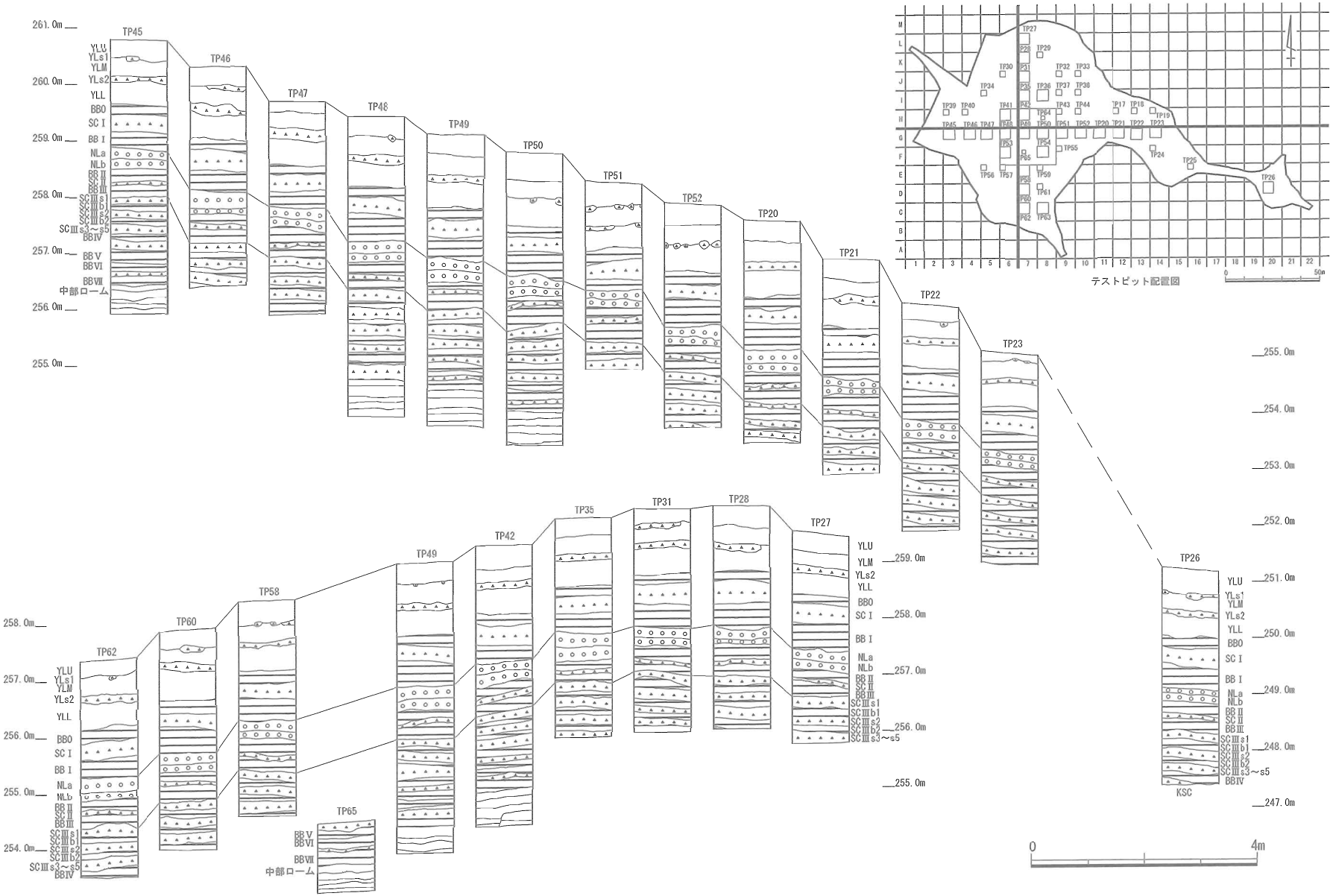
11月上旬から、休場層上部（YLU）を掘り下げ、縄文時代及び旧石器時代の遺構と遺物を検出し、撮影と実測を行った。同下旬からは、休場層中部（YLM）から下部（YLL）を掘り下げ、引き続き旧石器時代の遺構と遺物を検出し、撮影と実測を行った。休場層より下位の層準については、２月中旬より49箇所のテストピット（TP17-65）を追加設定し（第２図）、遺構と遺物の検出状況を把握しながら、中部ローム上面付近まで（休場層より最大３ｍの深さまで）掘り下げた。掘削終了後、すべてのテストピットの位置及び北壁と西壁の土層を記録し（注１）、３月下旬に埋め戻して全ての作業を終了した。



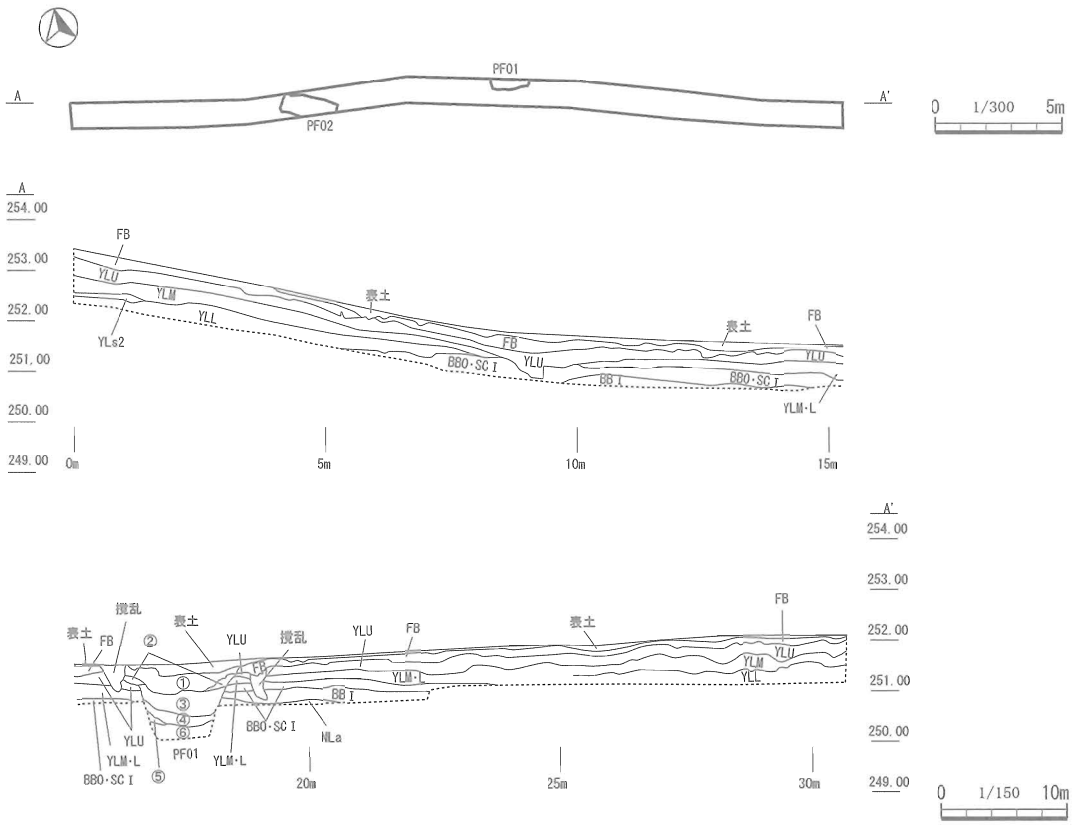
第１図　調査区の設定



第２図　テストピット配置


TP45
TP46
TP47
TP48
TP49
TP50
TP51
TP52
TP20
TP21
TP22
TP23
TP26
TP27
TP28
TP31
TP35
TP42
TP49
TP58
TP60
TP62
TP65
261.0m
260.0m
259.0m
258.0m
257.0m
256.0m
255.0m
254.0m
YLU
YLs1
YLM
YLs2
YLL
BBO
SC I
BB I
NLa
NLb
BB II
SC II
BB III
SCⅢs1
SCⅢb1
SCⅢs2
SCⅢb2
SCⅢs3～s5
BB IV
BB V
BB VI
BB VII
中部ローム
KSC
テストピット配置図
0
4m

第３図　土層の堆積状況



第４図　トレンチ北壁断面

土層と文化層

本遺跡は愛鷹山の東南東へ伸びる尾根上にあり、地形はこの方向へ傾斜している。この尾根は、調査区東部で急速に幅を狭めており、E16-19グリッドにかけて馬の背状となる。土層の堆積は良好で、一部の撹乱を除けば、縄文時代の主要な包含層である富士黒色土層（FB）から栗色土層（KU）、および旧石器時代の主要な包含層である休場層が、調査区のほぼ全域で確認された。ただし調査区東部ではE16-19グリッドにかけて砂沢スコリア包含層準（SNG）の欠落が認められた（第４図）。

各テストピットにおいて、北壁と西壁の土層断面を記録した。第５図は、これらの記録に基づいて本遺跡の土層を模式化し、観察所見と検出遺物の時期（文化層）設定をあわせて、その対応関係を表したものである。遺構と遺物は、旧石器時代がAT包含層直上の第Ｉ黒色帯（BBＩ）から休場層上部（YLU）までに４枚の文化層にわけられ、縄文時代が漸移層（ZN）から天城カワゴ平パミス包含層（KGP）に草創期から中期まで含まれていた。

第１層は黒色を呈する表土である。

第２層は2500年前に噴出したとされる富士砂沢スコリアを含む層である。本書ではSNZと略す。

第３層は2800年前に噴出したとされる天城カワゴ平パミスを含む層である。本書ではKGPと略す。縄文時代の集石と石器群が僅かに検出された。

第４層はKUである。栗色土層である。縄文時代前期の石斧集中（集積地点）が検出された。下位にあるFBとあわせ、石鏃の主要包含層準である。

第５層はFBである。富士黒色土層である。縄文時代早期土器群の主要な包含層である。

第６層はZNである。上位のFB層から下位のYLU層への漸移層である。FB下部からこの層を挟んでYLUまでが、有舌尖頭器を主体とする石器群の主要な包含層準である。

第７層はYLUである。休場層上部にあたる。２基の礫群と、切出形石器および両面加工尖頭器を主

体とする第Ⅳ文化層石器群の主要な包含層準である。異なる時期の石器群が混在しているかもしれない。

第８層はYLs１である。休場層スコリア帯１である。

第９層はYLMである。休場層中部にあたる。下半で１基の礫群で検出された。第Ⅲ文化層の包含層準である。

第10層はYLs２である。休場層スコリア帯２である。

第11層はYLLである。休場層下部にあたる。下位にあるBB０とあわせ、背部加工ナイフ形石器（背部加工尖頭形石刃石器）を含む第Ⅱ文化層石器群の包含層準である。

第12層はBB０である。休場層直下黒色帯である

第13層はSCIである。第Ⅰスコリア層である。

第14層はBBⅠである。第Ⅰ黒色帯である。剥片・砕片等で構成される第Ⅰ文化層石器群の包含層準である。

第15層はNLaである。ニセローム層上部である。

第16層はNLbである。ニセローム層下部である。28000年前に噴出したとされる姶良Tn火山灰の濃集層準である。

第17層はBBⅡである。第Ⅱ黒色帯である。

第18層はSCⅡである。第Ⅱスコリア層である。

第19層はBBⅢである。第Ⅲ黒色帯である。

第20層はSCⅢs１である。第Ⅲスコリア帯スコリア１である。

第21層はSCⅢb１である。第Ⅲスコリア帯第黒色帯１である。

第22層はSCⅢs２である。第Ⅲスコリア帯スコリア２である。

第23層はSCⅢb２である。第Ⅲスコリア帯第黒色帯２である。

第24層はSCⅢs３－５である。第Ⅲスコリア帯スコリア３から５に相当すると思われるが、堆積が不十分で区別はできなかった。

第25層はBBⅣである。第Ⅳ黒色帯である。

第26層はスコリア質土層である。

第27層はBBⅤである。第Ⅴ黒色帯である。

第28層はBBⅥである。BBⅤとの間にスコリア層が観察されなかった。

第29層はスコリア質土層である。

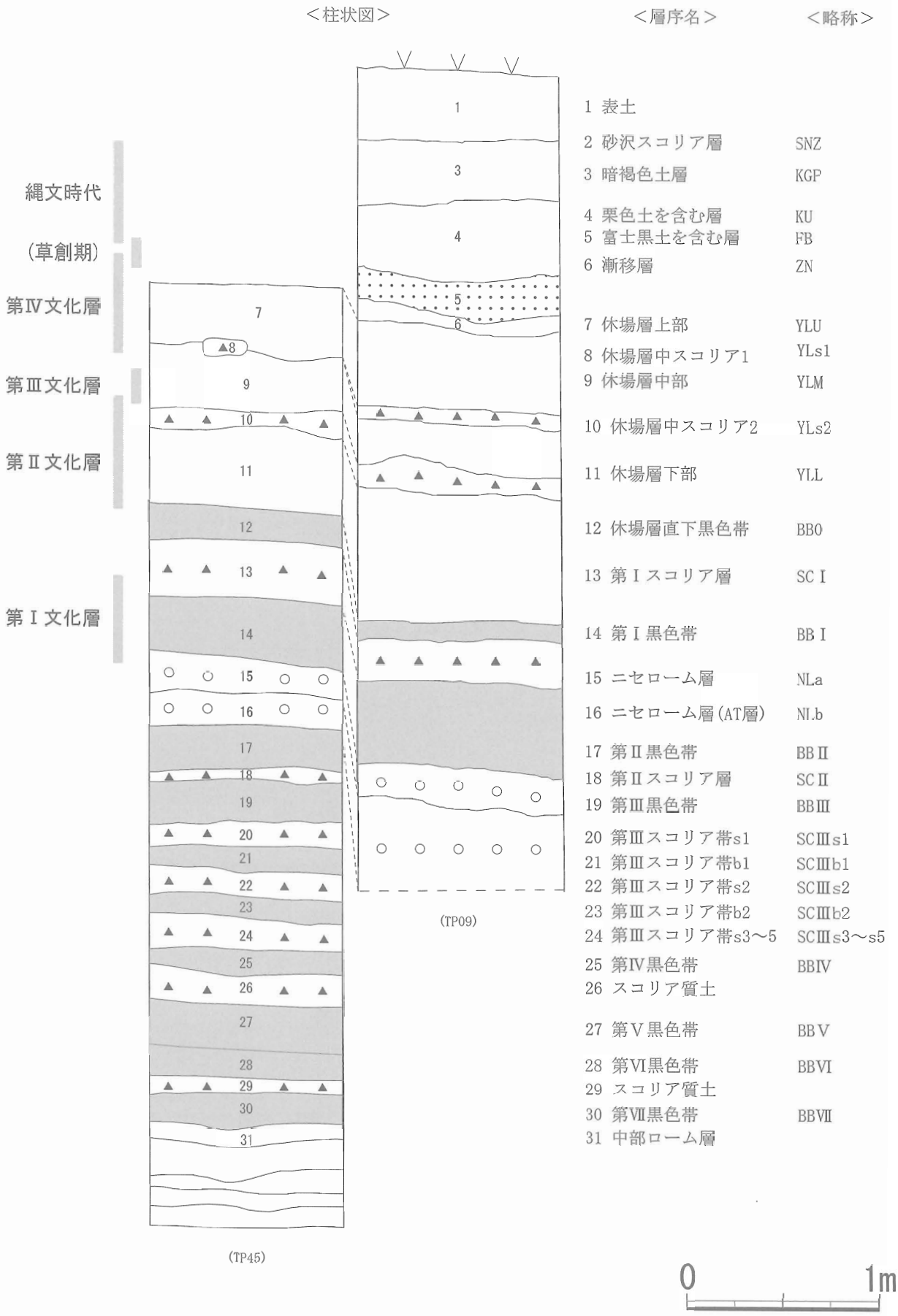
第30層はBBⅦである。第Ⅶ黒色帯である。本地域の後期旧石器時代石器群のうち最も古い一群の包含層である。

第31層は中部ロームである。本書ではMLと略す。BBⅦとの間にスコリア層は観察されなかった。

第３節　報告書の作成

資料整理は平成19年６月から平成20年５月まで、洗浄と注記と石材分類を基礎整理棟、接合作業と実測ほか編集から校正までを長泉地区事務所でそれぞれ実施した。黒曜石産地分析は、沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に依頼して蛍光Ｘ線分析を行って頂いた。分析対象資料は、BBⅠ層からZN層までのほぼ全点と、FB層以上の主要なトゥール（石鏃等）である。石器実測およびトレースは、礫石器類（磨石、敲石、石皿、台石、礫器）を当研究所で行い、剥片石器類および石核、およびそれらの接合資料、打製石斧と一部の礫石器類（礫器、砥石）を株式会社シン技術コンサルと株式会社東京航業研究所に委託した。

注１　土層断面図は、本書の文化層設定等を説明するのに最低限必要なもの以外、すべて割愛した。


＜柱状図＞
＜層序名＞
＜略称＞
縄文時代
（草創期）
第Ⅳ文化層
第Ⅲ文化層
第Ⅱ文化層
第Ⅰ文化層
1 表土
2 砂沢スコリア層 SNZ
3 暗褐色土層 KGP
4 栗色土を含む層 KU
5 富士黒土を含む層 FB
6 漸移層 ZN
7 休場層上部 YLU
8 休場層中スコリア1 YLs1
9 休場層中部 YLM
10 休場層中スコリア2 YLs2
11 休場層下部 YLL
12 休場層直下黒色帯 BB0
13 第Ⅰスコリア層 SCⅠ
14 第Ⅰ黒色帯 BBⅠ
15 ニセローム層 NLa
16 ニセローム層(AT層) NLb
17 第Ⅱ黒色帯 BBⅡ
18 第Ⅱスコリア層 SCⅡ
19 第Ⅲ黒色帯 BBⅢ
20 第Ⅲスコリア帯s1 SCⅢs1
21 第Ⅲスコリア帯b1 SCⅢb1
22 第Ⅲスコリア帯s2 SCⅢs2
23 第Ⅲスコリア帯b2 SCⅢb2
24 第Ⅲスコリア帯s3～5 SCⅢs3～s5
25 第Ⅳ黒色帯 BBⅣ
26 スコリア質土
27 第Ⅴ黒色帯 BBⅤ
28 第Ⅵ黒色帯 BBⅥ
29 スコリア質土
30 第Ⅶ黒色帯 BBⅦ
31 中部ローム層
(TP09)
(TP45)
0
1m

第５図　層序と文化層

第３章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

老平遺跡はJR裾野駅から北西に約2.5km離れた裾野市大畑字老平他に位置する。ここは富士山の南東、愛鷹山の東麓である。愛鷹山は約50～40万年前から活動を始め、約10万年前に活動を停止した火山である。その後、約８万年前から活動を開始した古富士火山の噴出物が堆積して愛鷹ローム層を形成した。約１万２千年前には新富士火山から芝川溶岩流が流出し、その後も火山灰が厚く堆積した。この古富士火山の活動期に数回の開析作用が起こり、その結果形成された樹根状の尾根の上に新富士火山（現在の富士山）の噴出物が覆い、いまの地形が造り上げられた。愛鷹ローム層は現在、上部ローム（関東の立川ロームに対比）、中部ローム（同じく武蔵野ロームに対比）、下部ローム層に分けられており、西は富士川、東は裾野市まで拡がっている。本遺跡はこのようにして形成された最大幅約60m程度の痩せ尾根上の、標高250～260mに立地する。調査区の南北には黄瀬川の支流によって形成された比高差40m程の開析谷が存在し、それぞれを挟んで佛ヶ尾遺跡（No.147地点）と老平遺跡（No.145地点）が立地している（第６図）。

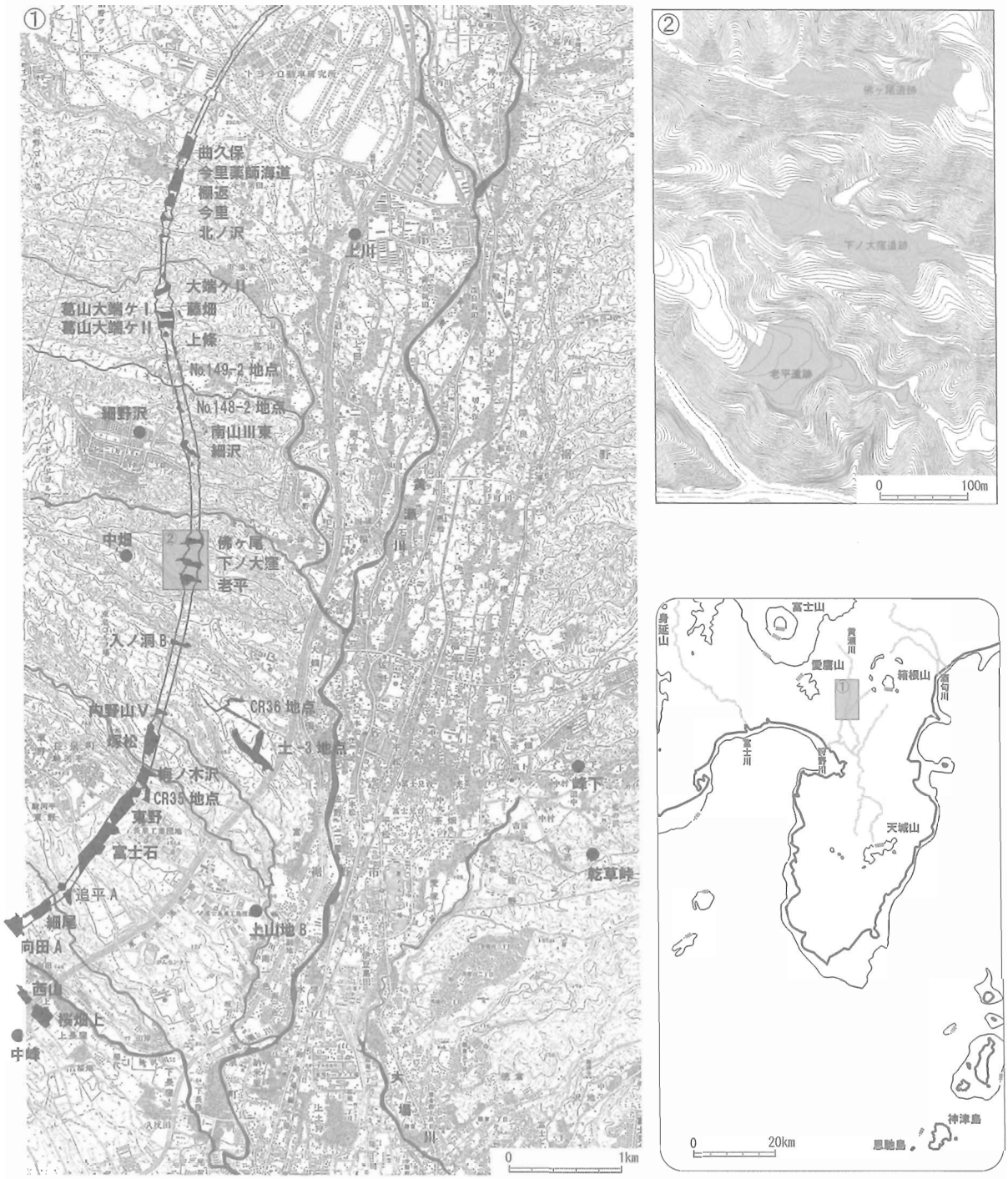
第２節　歴史的環境

黄瀬川を挟んで西側、愛鷹山東南麓には旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在する。発掘調査された遺跡の殆どは長泉町と沼津市に含まれているが、これまで愛鷹東麓の裾野市にはたいへん少ない状況が続いていた。しかし、第二東名関連の調査によって、この地域にも多数の遺跡が存在することが確認された（第６図①）。

後期旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡としては、これまで上川遺跡（中野ほか1987）や富沢平林遺跡が知られ、ほかには尾畑遺跡（裾野市教育委員会編1987ｂ）、丸山Ⅱ遺跡（裾野市教育委員会編1982）、屯屋遺跡（渡瀬1990）、相生原遺跡（渡瀬 前掲）などで僅かな石器が回収されていただけだった（裾野市編1992）。第二東名関連の調査によって、裾野市の棚返遺跡・今里遺跡（壬生ほか2008）、佛ヶ尾遺跡（野田ほか2007）、下ノ大窪遺跡（阿部ほか2008）、入ノ洞Ｂ遺跡・内野山Ｖ遺跡・塚松遺跡（藁科ほか2008）などが発見された。南に隣接する長泉町では梅ノ木沢遺跡（笹原ほか2008）、向田Ａ遺跡（富樫2007）、西山遺跡（笹原2006）などが続いている。どの遺跡でも該期の遺構と遺物が重層的に検出されている。

旧石器時代の陥し穴とみられる第Ⅲ黒色帯期の土坑群は、箱根山西麓に多いことが知られているが、愛鷹山南麓も同様の状況である。本報告されたものでは、鉄平遺跡（笹原ほか2003）で７基、向田Ａ遺跡で５基などがあったが、さらに最近、塚松遺跡の16基が追加された。今後報告されると思われる周辺諸遺跡の事例もあわせ、旧石器時代における罠猟研究の最重要資料となるに違いない。

縄文時代早期の遺跡では住居跡の発見例が目覚ましい。早期後半では従来、上川遺跡（中野ほか 前掲）で早期末の竪穴住居跡２軒、中畑遺跡（井上1986）で竪穴住居跡を含む遺構群、富沢内野山Ｉ遺跡（芹沢1986）で竪穴住居跡と推定される遺構２基が知られている。打越式期の集落としては箱根山西麓の三島市乾草峠遺跡（三島市教育委員会編2005）もつとに有名である。第二東名関連の発掘調査では、



第６図　愛鷹山東麓の遺跡分布

愛鷹山東麓における第二東名関連報告書（県埋文）の刊行状況

曲久保遺跡	未刊行	上條遺跡	未刊行	入ノ洞B 遺跡	藁科・荻野 2008	富士石遺跡	未刊行
今里薬師海道遺跡	未刊行	No.149 地点	未刊行	内野山Ⅴ遺跡	藁科・荻野 2008	追平A 遺跡	未刊行
棚返遺跡	壬生・佐々木 2008	No.148-2 地点	未刊行	塚松遺跡	藁科・荻野 2008	細尾遺跡	未刊行
今里遺跡	壬生・佐々木 2008	南山Ⅲ東遺跡	未刊行	CR36 地点	未刊行	向田A 遺跡	富樫 2007
北ノ沢	未刊行	細沢遺跡	未刊行	土 -3 地点	未刊行	西山遺跡	笹原芳 2007
大端ケⅡ遺跡	未刊行	佛ヶ尾遺跡	野田・成田 2007	梅ノ木沢遺跡	笹原千・岩名 2008	桜畑上遺跡	未刊行
藤畑遺跡	未刊行	下ノ大窪遺跡	阿部・岩崎 2008	CR35 地点	未刊行		
葛山大端ケⅠ遺跡	未刊行	老平遺跡	本書	東野遺跡	未刊行		

佛ヶ尾遺跡で打越式期の竪穴住居跡が６軒、下ノ大窪遺跡でも同時期の竪穴住居跡11軒および竪穴住居状遺構５基が検出された。両遺跡に共通して礫石器類と石鏃が多量に組成しており、安定した生業活動を窺わせている。

前期の遺跡は早期や中期に較べて少なく（注１）、住居跡となるとさらに希少である。細野沢遺跡（裾野市教育委員会編1982）で竪穴住居跡５軒を含む前期後半の集落跡が検出されている。

中期の遺跡はとても多いが、住居跡の報告は裾野市になく、今後の事例増加が俟たれる。周辺をみわたしても多いとはいえないのだが、望月由佳子の集成（望月2000）によれば、南に接する長泉町で勝坂式期の上山地Ｂ遺跡（平川ほか1988）で27軒、中峰遺跡（小野ほか1971）で24軒と突出した数の竪穴住居跡が検出されているほか、桜畑上遺跡（小野ほか1971）と桜畑下遺跡（小野ほか前掲）でそれぞれ１軒、沼津市でも広合遺跡（高尾ほか1987）で３軒、大郭遺跡（沼津市1958）で２軒、大芝原遺跡（沼津市前掲）、中見代第Ⅱ遺跡（高尾ほか1988）、二ツ洞遺跡（沼津市教育委員会1991）、大谷津遺跡（石川ほか1982）でそれぞれ１軒ずつ発見されている。中期の住居跡では少数の集落とそれを取り巻く多数の滞在地点との規模の格差が明瞭である（注２）。

縄文時代後期から古墳時代については資料が乏しく、遺跡の実態は現在のところ不明である。

本書で報告する老平遺跡では、後期旧石器時代後半期から縄文時代中期までの遺構と遺物が検出されている。旧石器時代文化層４枚、縄文時代草創期石器群、早期から中期の集石、土坑、石器、土器が検出された。

注１）瀬川裕市郎の集成（1990）では、静岡県内で縄文土器の出土する1,245遺跡の内訳は、草創期３遺跡（0.2%）、早期366遺跡（29.4%）、前期218遺跡（17.5%）、中期518遺跡（41.6%）、後期125遺跡（10.0%）、晩期15遺跡（1.2%）とある。中期の遺跡は縄文遺跡全体の約４割にも及ぶ。

注２）望月の集成（1999）は、静岡東部地域における中期のセトゥルメントパターンの地理的変異を考察する上でたいへん示唆的な情報を提供している。それによると、箱根山西麓の縄文中期遺跡は300遺跡で、住居跡があるのは18遺跡（6.0%）である。このうち、住居跡１－４軒のものが13遺跡、５－９軒のものが４遺跡、そして10軒以上となると１遺跡しかない。愛鷹山東南麓では、37遺跡中、住居跡のあるものが10遺跡（27.8%）で、おなじように軒数で分けると、それぞれ27遺跡、８遺跡、０遺跡、２遺跡である。遺跡数が箱根山西麓にくらべて８分の１以下と少ないが、逆に住居跡の出現比率がかなり高いこと（4.6倍）に注意したい。また、参考までに同様の視点から天城山西北麓をみると、68遺跡中、住居跡が検出されたのは９遺跡（13.2%）で愛鷹山南麓より低率だが、軒数別では、それぞれ４遺跡、１遺跡、４遺跡である。10軒以上で構成される集落の比率がかなり高いようだ。「地域」面積と発掘調査面積比率は考慮していないので安易な推測は避けたいが、少なくともここでは、箱根山西麓地域の居住地点は天城山西北麓や愛鷹山南麓にくらべて低調である点は指摘し得よう。

住居軒数と遺跡数の相関

住居跡数（軒数）	０軒	１－４軒	５－９軒	10軒以上	計
箱根山西麓	282	13	4	1	300
愛鷹山東南麓	27	8	0	2	37
天城山西北麓	0	4	1	4	9

参考文献

阿部敬・岩崎しのぶ　2008『下ノ大窪遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
石川治夫・北川恵一　1982『子の神・大谷津・山崎Ⅱ・丸尾Ⅱ』沼津市教育委員会。
井上輝夫　1986『裾野市大畑中畑遺跡発掘調査報告書』裾野市教育委員会。
井上輝夫・宮井英一ほか　1982『裾野市千福市場平第１・第２　小杉平第１・第２　細野沢遺跡』裾野市教育委員会。
小野眞一・白石竹雄　1971『上長窪遺跡群』長泉町教育委員会。
笹原千賀子・岩名健太郎　2008『梅ノ木沢遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
笹原千賀子・吉村たまみ　2003『鉄平遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
笹原芳郎　2006『西山遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

鈴木敏中・芦川忠利・池谷初恵　2005 『三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ｘ　乾草峠遺跡　ほか』三島市教育委員会。
裾野市教育委員会 編　1975 『裾野市日向・丸山Ⅰ・丸山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』。
裾野市教育委員会 編　1978 『裾野市深良城ヶ尾遺跡発掘調査報告書』。
裾野市教育委員会　編　1992 『裾野市史　第一巻　資料編　考古』。
瀬川裕市郎　1990 「第２章第２節　縄文時代遺跡の概観」『静岡県史　資料編Ⅰ　考古一』、299-312頁、静岡県。
芹沢充寛　1986 『裾野市大畑中畑・裾野市富沢内野山遺跡発掘調査報告書』裾野市教育委員会。
高尾好之・池谷信之　1987 『広合遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。
高尾好之・池谷信之ほか　1988 『土手上・中見代第Ⅱ・第Ⅲ遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。
富樫孝志　2007 『向田Ａ遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
中野國雄・渡瀬治ほか　1987 『上川遺跡』静岡県教育委員会。
野田正人・成田修一　2007 『佛ヶ尾遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
沼津市　編　1958 『沼津市誌　下』。
沼津市教育委員会　編　1991 『広合ｅ区・二ツ洞遺跡ａ区発掘調査報告書』。
平川昭夫・杉本誠　1988 『上山地遺跡』長泉町教育委員会。
平川昭夫・前嶋秀張　1986 「野台遺跡」『中尾・イラウネ・野台』長泉町教育委員会。
三島市教育委員会　編　2005 「乾草峠遺跡」『三島市埋蔵文化財調査報告Ｘ』。
壬生亮輔・佐々木富士子　2008 『棚返遺跡　今里遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
望月由佳子　1999 「第Ⅱ章　遺跡の環境」『押出シ遺跡（遺構編）』、３－９頁、静岡県埋蔵文化財調査研究所。
渡瀬治　1990 「裾野市内における旧石器時代および縄文時代について」『裾野市史研究』第２号、21-57頁、裾野市教育委員会。
藁科泰裕・荻野正裕ほか　2008 『入ノ洞Ｂ遺跡　塚松遺跡　内野山Ｖ遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

第４章　旧石器時代の遺構と遺物

概要

旧石器時代石器群の時期区分は、平面/垂直分布密度、石材、型式等の観点から行った。その結果、以下のような文化層が設定された（表１）。

すべてニセローム層（AT包含層）よりも上位にある後期旧石器時代後半期の文化層である。各文化層には石器集中と礫群とが観察され、前者は４枚の文化層で計９箇所、礫群は計３基である。点数が最も多いのは第Ⅳ文化層で、ほかの文化層では僅少である。なお、SCⅢ（第Ⅲ黒色帯直下の第Ⅲスコリア帯）から亜角礫が検出されたが、調査区全体で僅か１点（重さ40ｇ）だったので、文化層の要件にはしなかった。

表１　旧石器時代文化層の概要

層位		文化層	石器	集中	礫群	主要石器群
ZN	漸移層					
YLL	休場層上部	Ⅳ	67	3	2	両面加工尖頭器　石刃/剥片製ナイフ形石器　切出形石器　細石刃
YLs1	休場層中スコリア1					
YLM	休場層中部	Ⅲ	2		1	石刃
YLs2	休場層中スコリア2	Ⅱ	19	2		石刃/剥片製ナイフ形石器　切出形石器
YLL	休場層下部					
BB0	休場層直下黒色帯					
SCⅠ	第1スコリア帯	Ⅰ	5	1		剥片
BBⅠ	第Ⅰ黒色帯					
NLa	ニセローム層上部					

第１節　第Ⅰ文化層

概要

J/K７グリッドのBBⅠを中心に検出された石器５点と礫５点で構成される。石器集中は１箇所を確認したが、礫は集中していなかった（第７/８図）。石器群の内訳は、諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片２点と砕片１点、ガラス質黒色安山岩製剥片２点である（表２）。

１．石器集中（第９図、表３）

１箇所が検出された。

石器集中１

５点の剥片で構成される。本文化層の剥片石器類全点が含まれる。

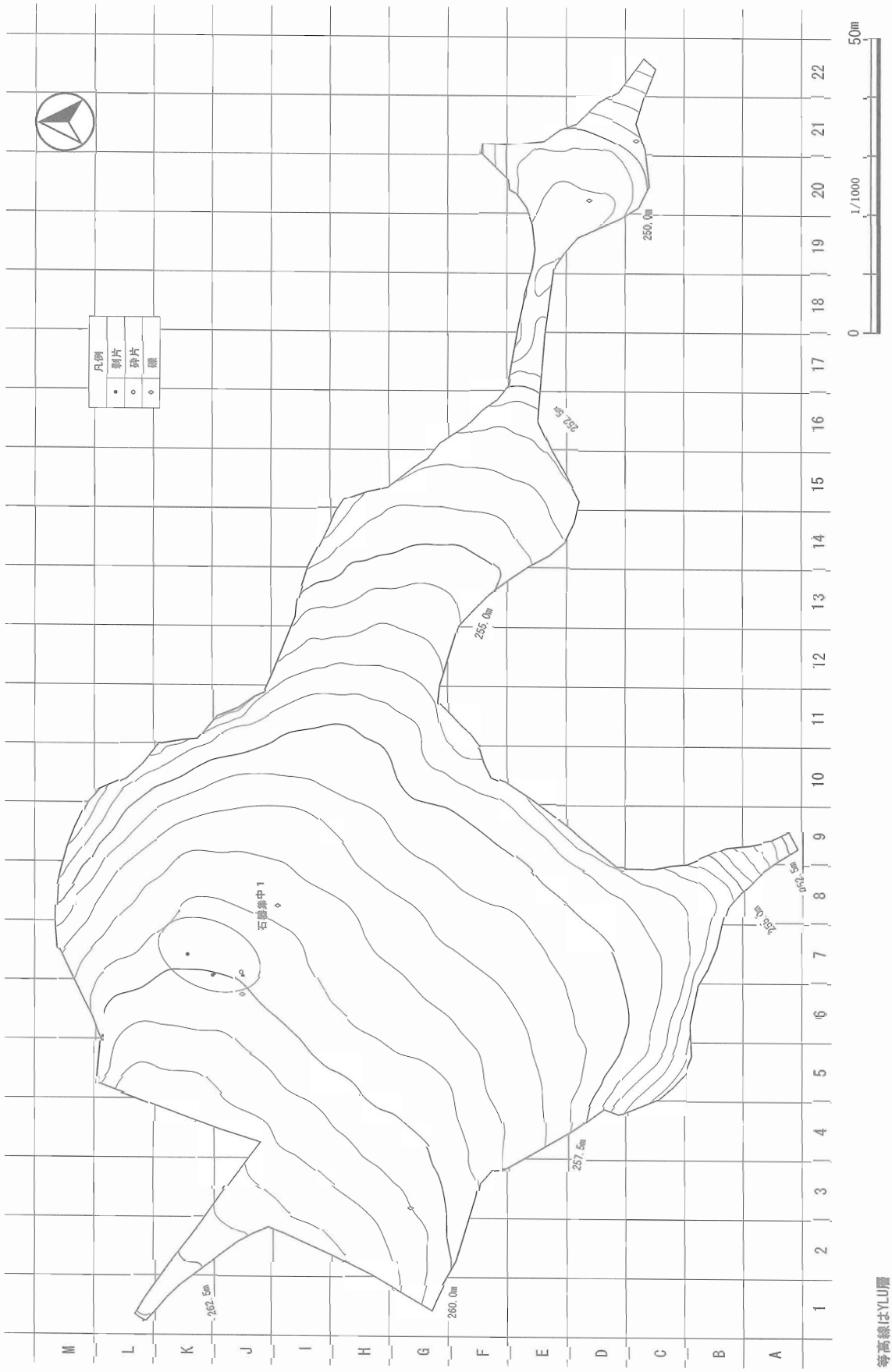
２．出土石器の検討（第10図）

１と２は共にBBⅠ出土のガラス質黒色安山岩製剥片である。石器集中１に含まれる。

１は縦長剥片の端部の折れたものである。２は自然面を打面として同一方向に連続剥離する過程で得られた剥片で、末端右を僅かに折損する。右側縁上部の急角度な剥離面は二次加工ではない。

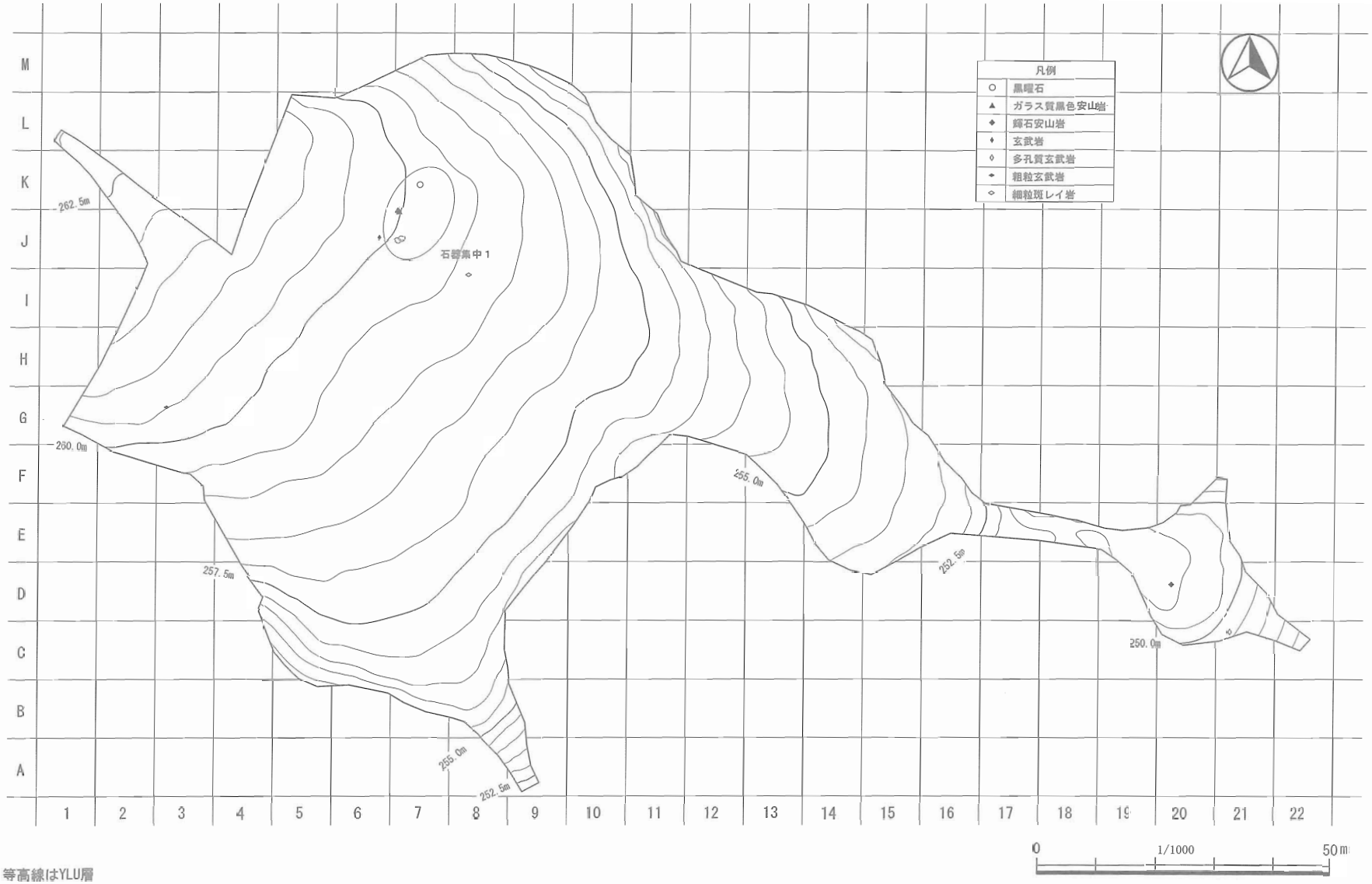
３．礫群

５点の礫が回収されたが、分布は散漫で、それぞれの被熱痕跡も不明瞭であった。



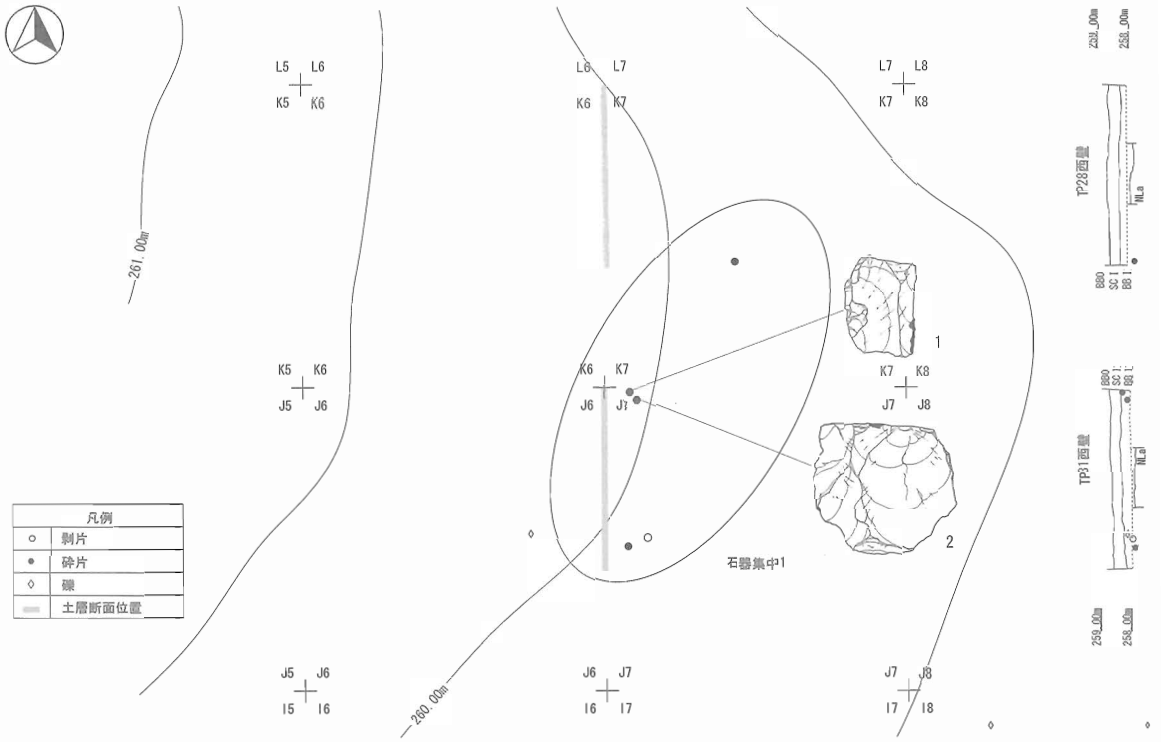
第７図　第Ⅰ文化層　器種別分布

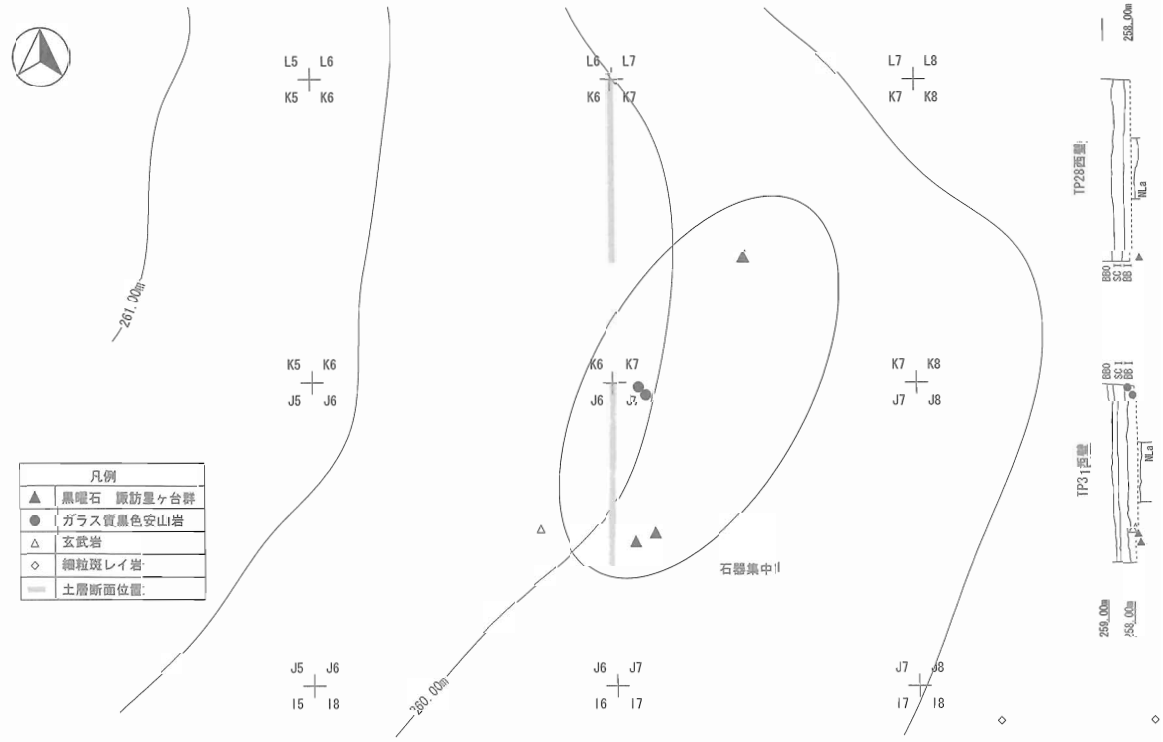
等高線はYLU層



等高線はYLU層

第８図　第Ｉ文化層　石材別分布





0　1/250　10m

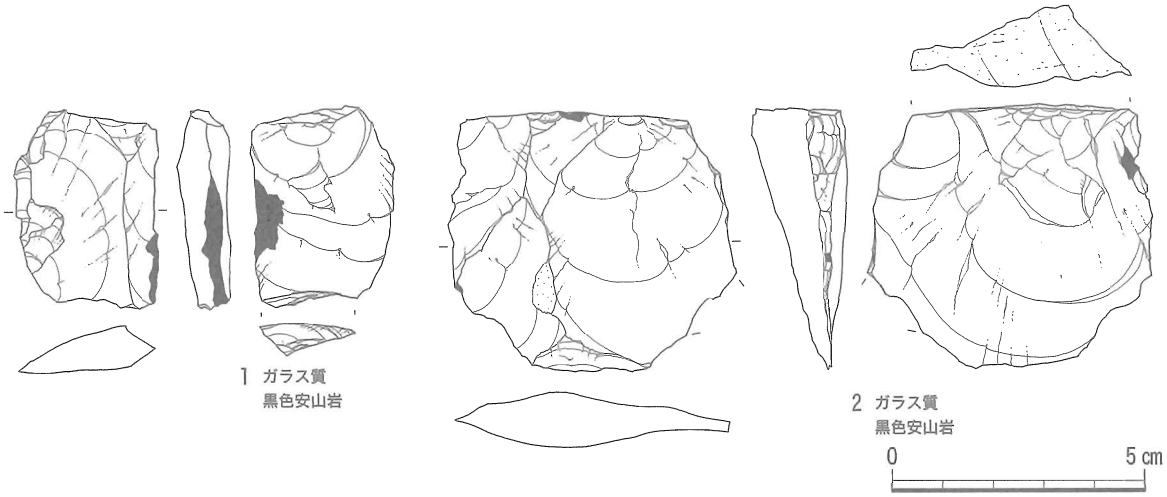
第９図　第Ⅰ文化層　石器集中１　器種別分布（上）　石材別分布（下）

表２　第Ⅰ文化層　石器石材組成

	黒曜石	ガラス質黒色安山岩	計
	諏訪星ヶ台群		
剥片	2	2	4
砕片	1		1
計	3	2	5

表３　石器集中１　石器石材組成

	黒曜石	ガラス質黒色安山岩	計
	諏訪星ヶ台群		
剥片	2	2	4
砕片	1		1
計	3	2	5



第10図　第Ⅰ文化層の石器群

第２節　第Ⅱ文化層

概要

調査区西南部F６とD７グリッドのBB０からYLLを中心に、ホルンフェルスを主体とする石器集中２箇所と集中を構成しない石器と礫、調査区東端部で輝石安山岩製剥片が検出された（第11/12図）。総点数は26点で、内訳は切出形石器１点、ナイフ形石器７点、石刃１点、剥片７点、砕片３点および礫７点である（表４）。

１．石器集中（第13/14図）

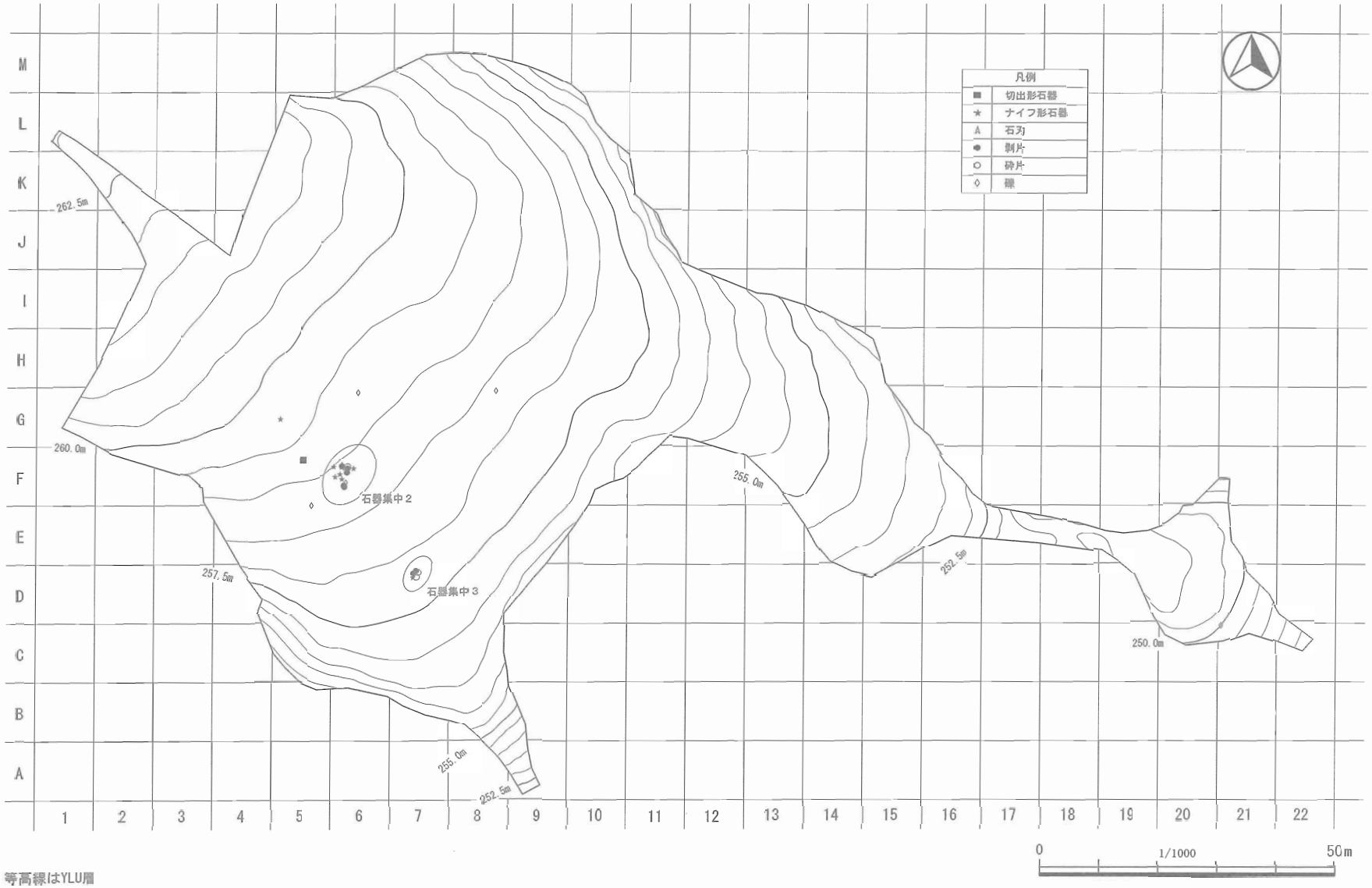
２箇所が検出された。

石器集中２（表５）

F６グリッドのYLL上部からYLL下部で、数点で構成される礫群と重複して検出された。ホルンフェルス13点で構成される。内訳は、ナイフ形石器５点、石刃１点、剥片６点、砕片１点である。小規模ながら、石刃がここで生産された可能性がある。ただし、砕片の点数からみると、ナイフ形石器の大半はここで製作されたものではないかもしれない。

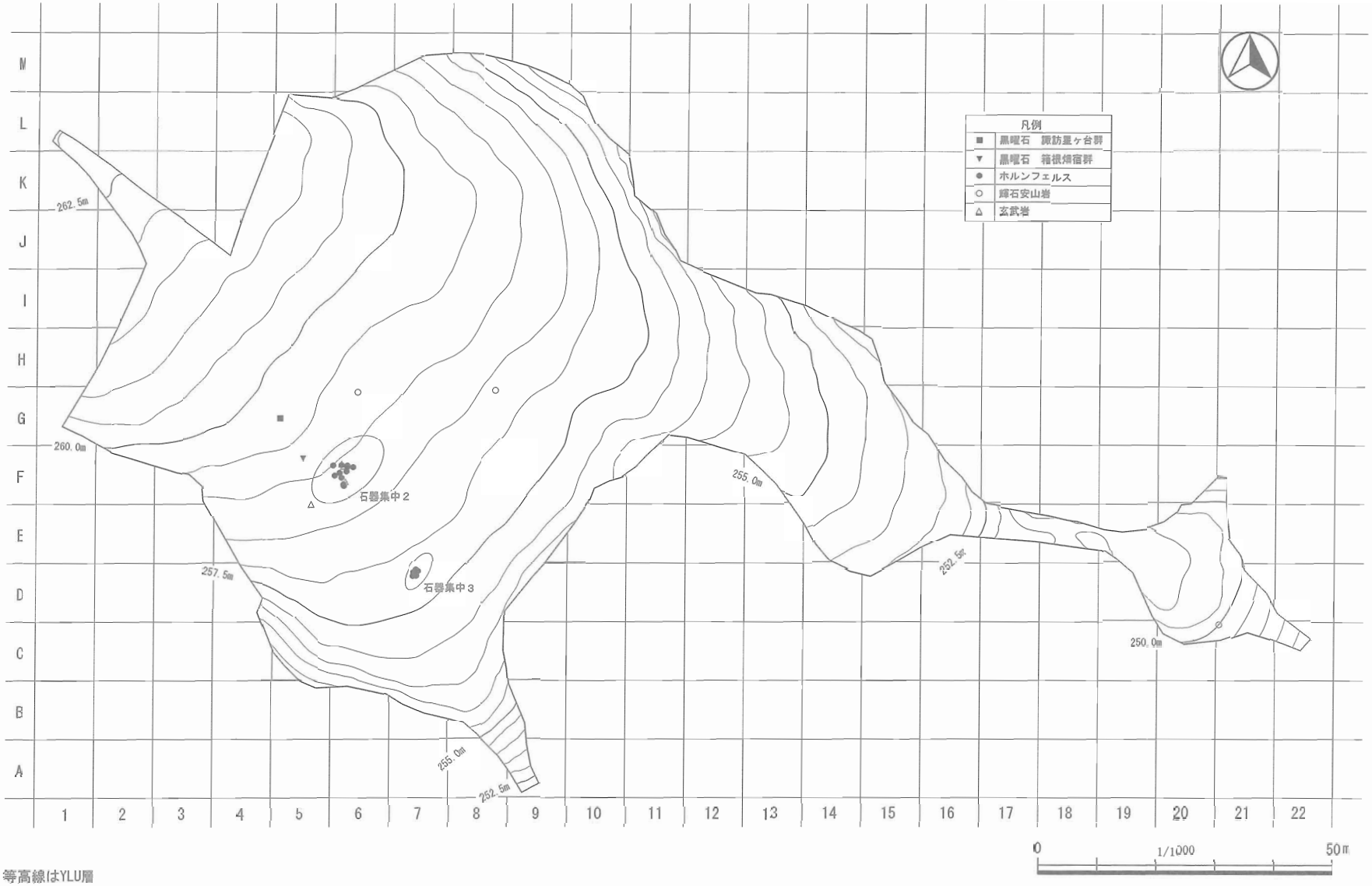
石器集中３（表６）

D７グリッドのYLLを中心に検出された。ホルンフェルス５点で構成される。内訳は、ナイフ形石器１点、剥片２点、砕片２点である。ナイフ形石器は、図示していないが、他の剥片類とは異なる母岩によるもので、両端部が折損する小型石刃製の部分加工品である。



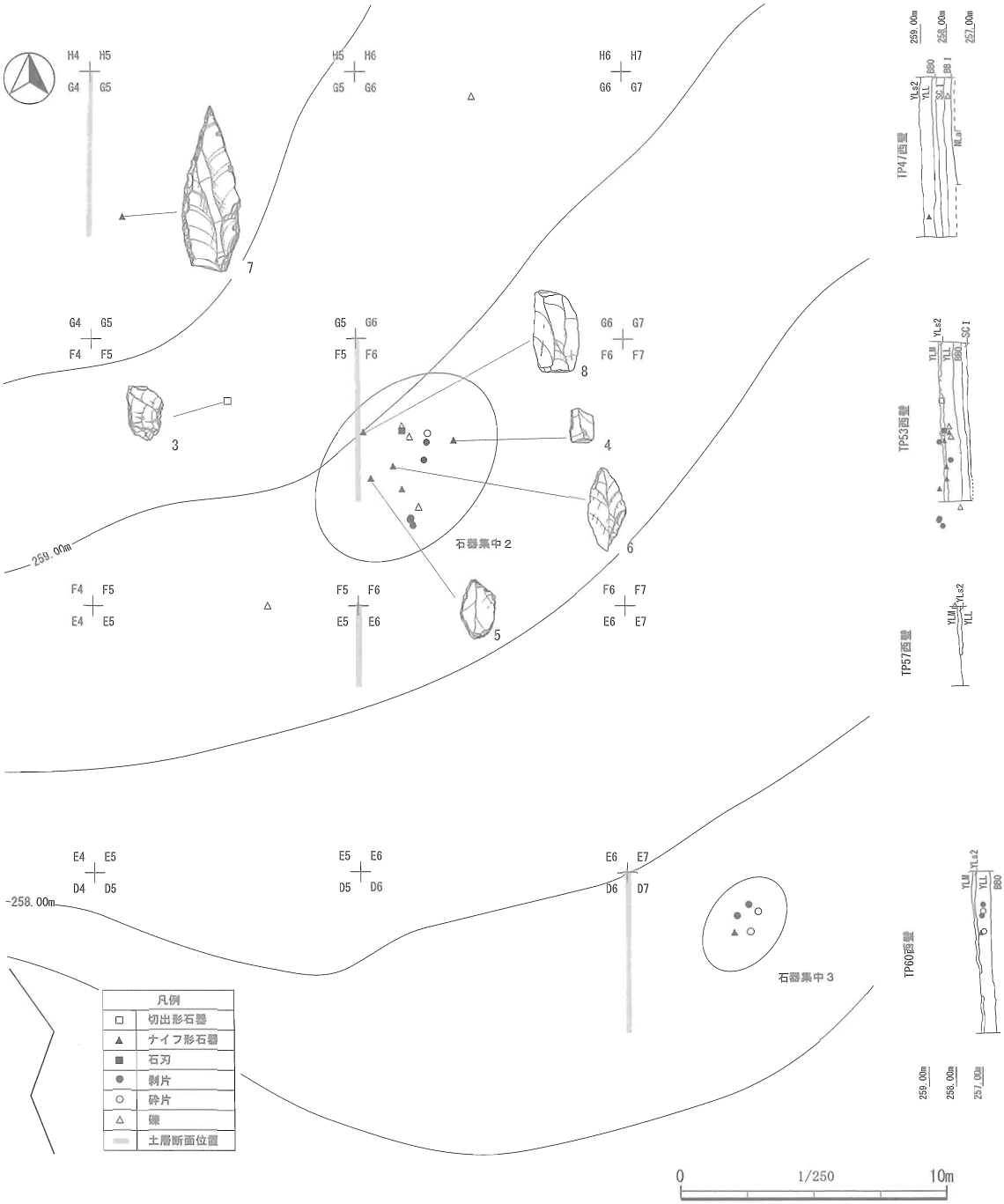
等高線はYLU層

第11図　第Ⅱ文化層　器種別分布



等高線はYLU層

第12図　第Ⅱ文化層　石材別分布

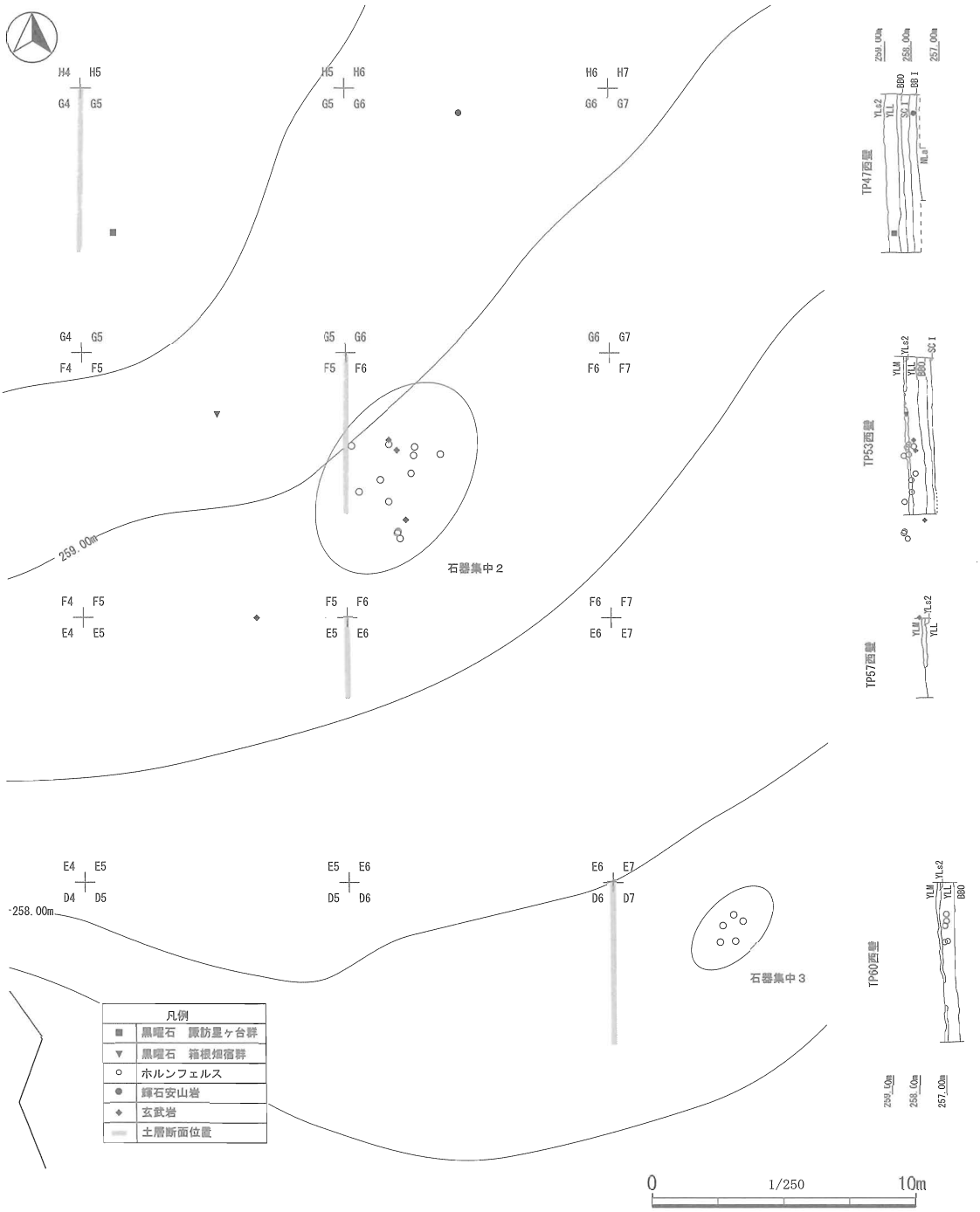


第13図　第Ⅱ文化層　石器集中２・３　器種別分布

２．出土石器の検討（第15図）

切出形石器（３）

３は箱根畑宿産黒曜石製である。同一方向への連続剥離過程で得られた幅広剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端に急角度の二次加工を施して略台形に整形する。刃部の連続的な微細剥離痕と折れ面は使用の痕跡と推測される。また、本文化層に同石材は他に認められないので、ほぼ製品の状態で搬入されたものと推測される。YLL出土で、石器集中を構成しない。



第14図　第Ⅱ文化層　石器集中２・３　石材別分布

ナイフ形石器（4-8）

4-6と8はホルンフェルス製ナイフ形石器である。風化しやすい石質のため、剥離面の遺存状態は良いとはいえない。

5は剥片を素材として背部と基部を整形する。欠損と剥落のため、具体的な観察は不可能である。YLL出土で石器集中２に含まれる。

6は石刃を素材として、これを縦位に用い、急角度の二次加工で打面を大きく切り取り、端部に僅かな二次加工を施して尖頭形に整形する。8607とは異なる母岩である。YLL出土で石器集中２に含まれる。

４は石刃を素材として、これを縦位に用い、右側縁に急角度の二次加工で背部を整形する。基部と端部を折損しているので、上下も定かでない。

７は諏訪星ヶ台産黒曜石製で背部加工尖頭形石刃石器ともいいうる。大型石刃を素材にして、これをやや斜位に用い、左側縁のほぼ全体を急角度に二次加工して背部とし、右側縁の打面寄りを急角度に二次加工し、ならびに裏面のバルブに対して平坦に剥離を施して基部を整形する。基部は折損している。刃部には連続的な微細剥離痕が観察され、執拗な使用履歴を窺わせている。本文化層に同石材は他に認められないので、ほぼ製品の状態で搬入されたものと推測される。YLL出土で、石器集中を構成しない。

８は基部加工尖頭形石刃石器ともいいうる。上下に打面を有する石核から得られる石刃を素材として、これを縦位に用い、基部両側縁とバルブに二次加工を施し打面を残す。

３．礫群

数点の小型亜円礫が検出されたが、遺構として認識できるものはない（第11/12図）。いずれもYLL出土である。

表４　第Ⅱ文化層　石器石材組成

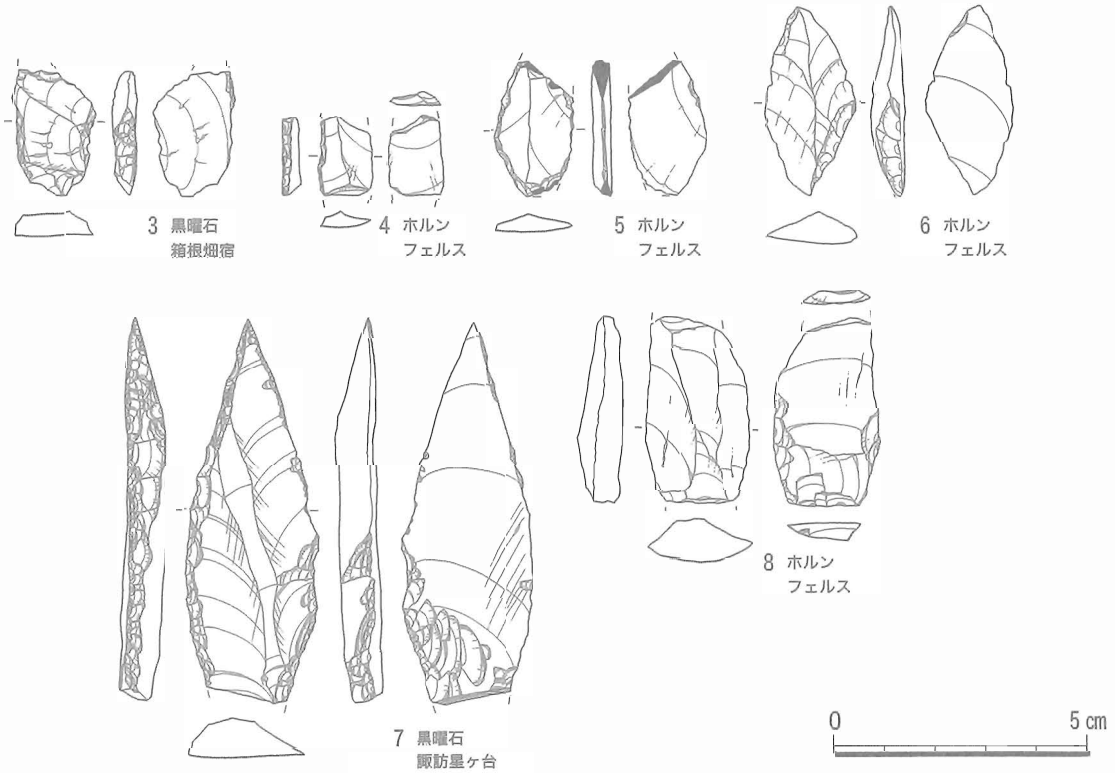
	黒曜石		ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台群	箱根畑宿群		
切出形石器		1		1
ナイフ形石器	1		6	7
石刃			1	1
剥片			7	7
砕片			3	3
計	1	1	17	19

表５　石器集中２　石器石材組成

	ホルンフェルス
ナイフ形石器	5
石刃	1
剥片	6
砕片	1
計	13

表６　石器集中３　石器石材組成

	ホルンフェルス
ナイフ形石器	1
剥片	2
砕片	2
計	5

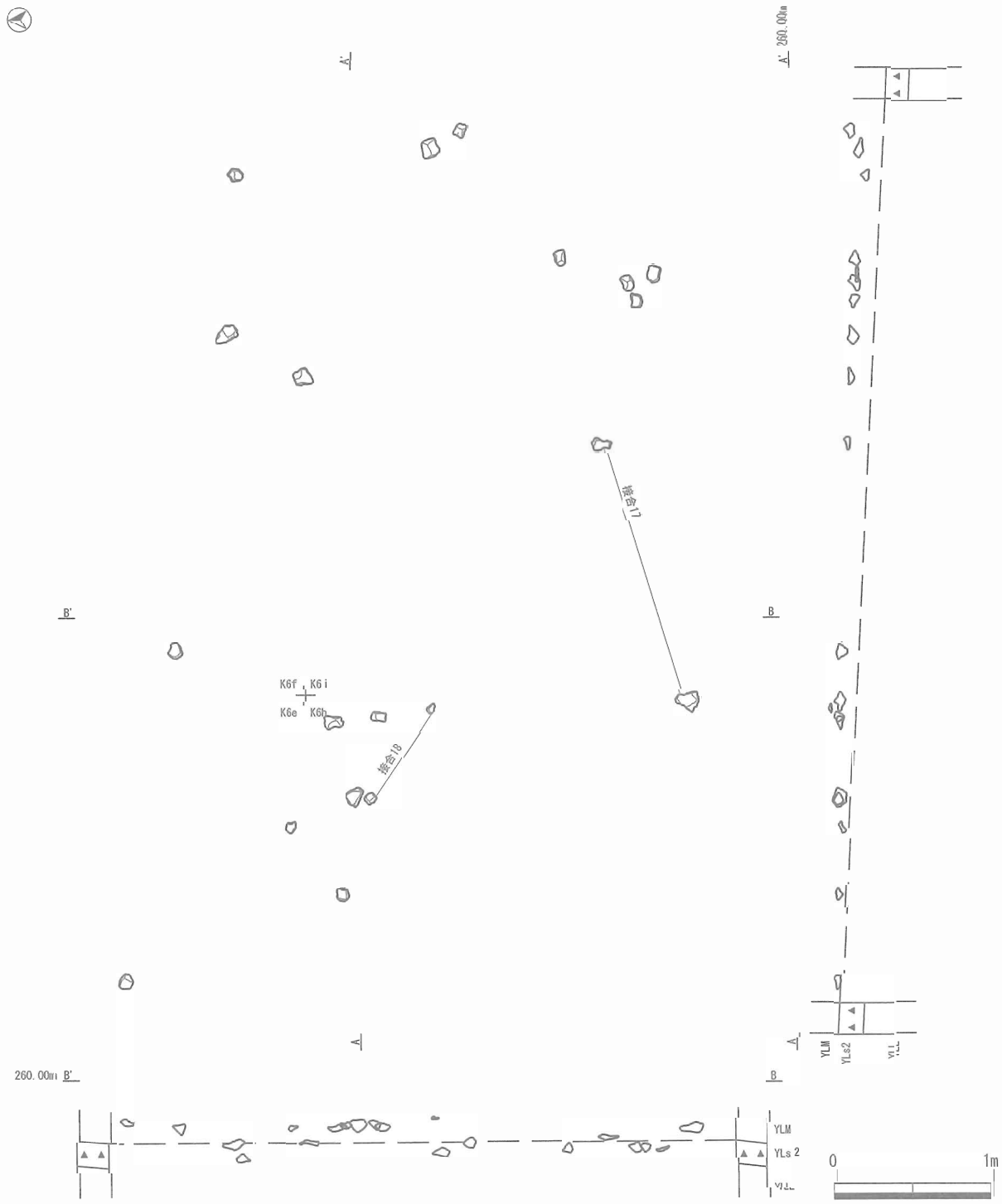


第15図　第Ⅱ文化層の石器群

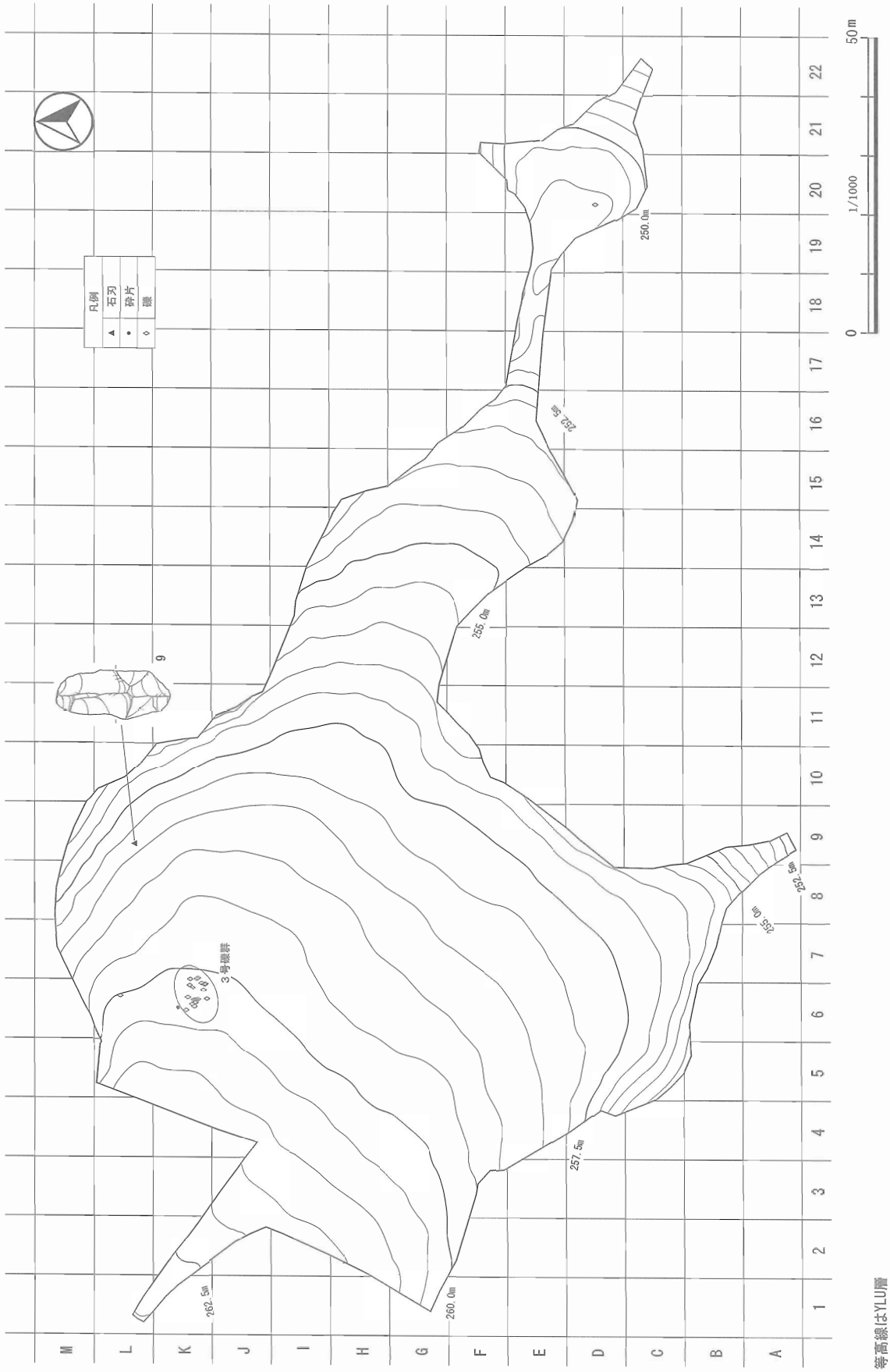
第３節　第Ⅲ文化層

概要

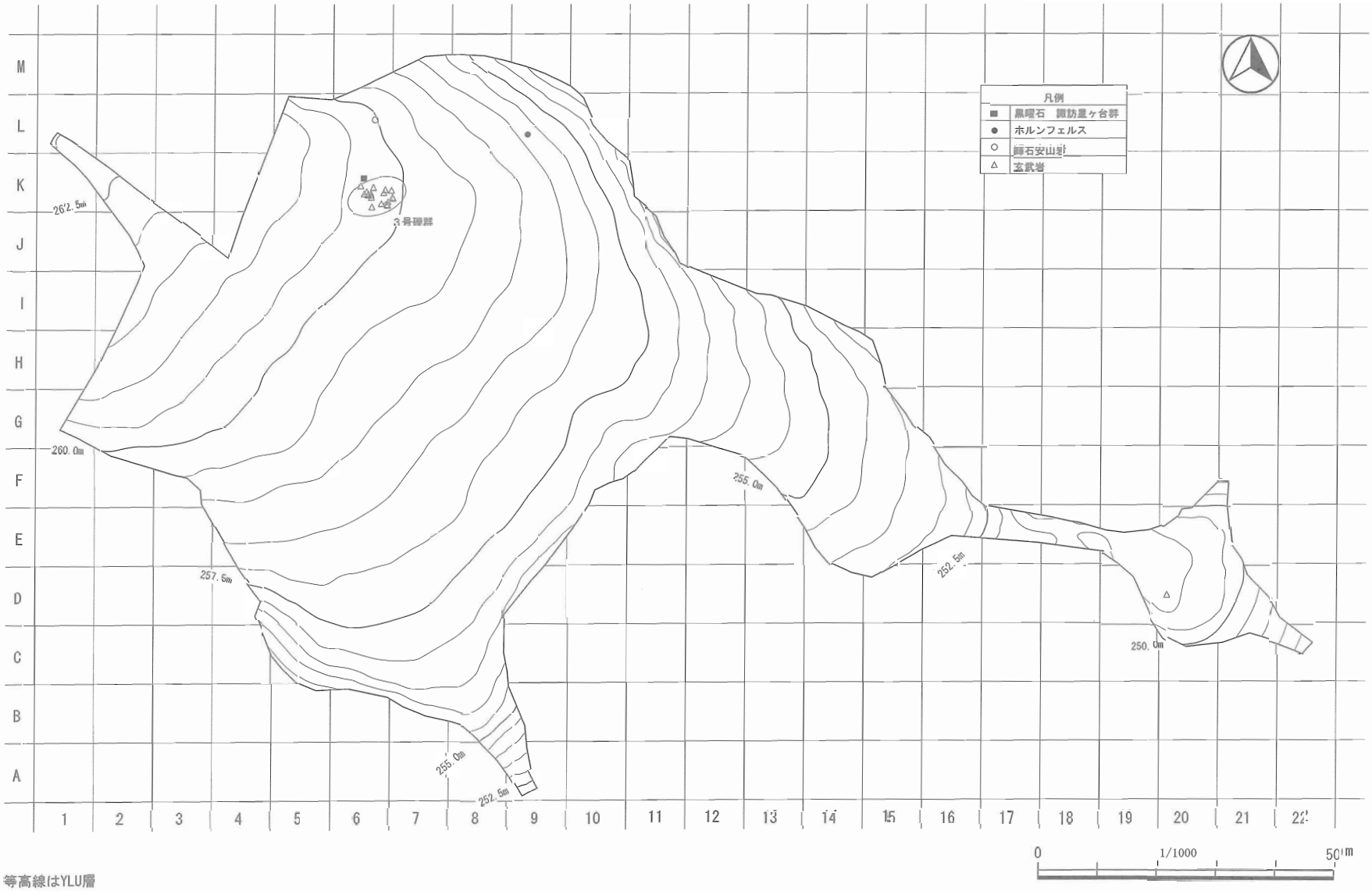
調査区北部のYLMを中心として、ホルンフェルス製石刃１点、諏訪星ヶ台産黒曜石製砕片１点、礫群１基が確認された（第17/18図、表７）。また、E20グリッドでも礫１点が検出された。



第16図　３号礫群



第17図　第Ⅲ文化層　器種別分布

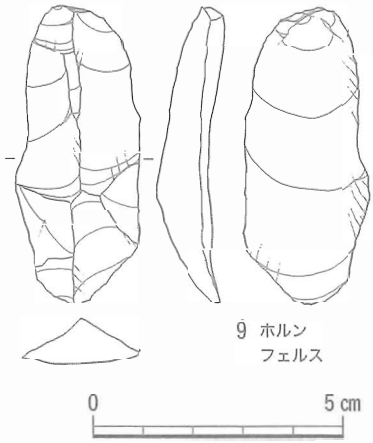


等高線はYLU層

第18図　第Ⅲ文化層　石材別分布

表７　第Ⅲ文化層　石器石材組成

	黒曜石	輝石安山岩	玄武岩	ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台群				
石刃				1	1
砕片	1				1
礫		2	20		22
礫を除く計	1	0	0	1	2



第19図　第Ⅲ文化層の石器

１．出土石器の検討（第19図）

石刃（９）

９はホルンフェルス製である。YLM出土である。風化が激しく詳細な観察は困難である。

２．礫群（第16図、表27）

３号礫群　K６/７グリッドで検出された。YLM下部を底面とし、20点で構成される。

第４節　第Ⅳ文化層

概要

調査区西部のYLUを中心に、石器集中３箇所と礫群２基が検出された（第20/21図）。礫を除く石器総数は67点である（表８）。尖頭器（５点）、切出形石器および横打剥片製ナイフ形石器（計16点）を中心とし、角錐状石器（１点）、削器類（４点）や細石刃（４点）等を組成する。石材は黒曜石製32点、ホルンフェルス製16点、ガラス質黒色安山岩製５点などで構成される。黒曜石は諏訪星ヶ台産を主とする中部高地産９点、伊豆箱根産17点、神津島産２点、そして珍しいことに高原山産１点（二次加工剥片）が含まれる。二次加工痕のあるトゥールが石器群全体の43.3％（29/67点）に及び、非常に高い比率を示すのが特徴である。

また、多種類の石器群が複合していることも特徴だろう。器種と石材との対応関係はたいへん明瞭で、切出形石器群が伊豆－箱根産黒曜石、小型石刃製ナイフ形石器が中部高地産黒曜石、尖頭器がホルンフェルスと安山岩などに結びついている。伊豆－箱根産黒曜石製の小型剥片製石器群は高尾好之の編年におけるⅢ期に該当する特徴が認められるが、尖頭器石器群との共存を妨げるものではない。Ⅲ期石器群の主要な包含層準であるBBⅠ-YLLとの間には、YLM下部の文化層を挟んでおり、十分な層位差が認められることを明記しておく。

しかし他方で、ナイフ形石器と細石刃の共伴は疑わしい。この点については、新しい時期の石器群が同一層準に重畳している可能性がある。

表８　第Ⅳ文化層　石器石材組成

	黒曜石									ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩
	諏訪星ヶ台群	蓼科冷山群	和田鷹山群	和田芙蓉ライト群	高原山甘湯沢群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	未分析		
切出形石器						3			1		
ナイフ形石器	2		1	1		7					
尖頭器	2									1	
角錐状石器						1					
削器						1					
二次加工剥片					1	1					
微細剥離痕剥片		1				1					
細石刃								1	2		
削片								1			
剥片	1									3	
砕片	1						3				
石核										1	
敲石											1
礫器											1
計	6	1	1	1	1	14	3	2	3	5	2

	細粒安山岩	流紋岩	デイサイト	水晶	ホルンフェルス	計
切出形石器						4
ナイフ形石器				1		12
尖頭器					2	5
角錐状石器						1
削器	1		1		1	4
二次加工剥片	1					3
微細剥離痕剥片						2
細石刃				1		4
削片						1
剥片		2	4		10	20
砕片				1	1	6
石核					2	3
敲石						1
礫器						1
計	2	2	5	3	16	67

１．石器集中（第22-26図、表９-11）

３箇所の石器集中が確認された。

石器集中４（第22/23図、表９）

Ｋ６/７グリッドのYLUを中心に分布し、ホルンフェルス製剥片６点で構成される。

石器集中５（第24/25図、表10）

Ｅ６グリッドのYLUを中心に分布し、諏訪星ヶ台産黒曜石製尖頭器や箱根畑宿産黒曜石製切出形石器を主体とする11点の石器群で構成される。また、ガラス質黒色安山岩の小規模な消費痕跡がみられ、石核を組成する。

石器集中６（第26図、表11）

G13グリッドのYLU下部を中心に分布し、ホルンフェルス製５点、デイサイト製５点などで構成される。デイサイト５点はほぼ同一個体とみられ、この場所で小規模な消費が行われたことを示唆している。なお、この集中の東に５ｍほど離れた場所のKUから切出形石器が１点検出されている。旧石器時代遺物包含層よりもかなり上位で検出されたことになるが、風化の度合いと二次加工技術等の特徴から旧石器時代の所産と推定した。

２．出土石器の検討（第27-29図）

主要な石器38点を図示した。

■　二次加工石器類

切出形石器（10-13）

10は箱根畑宿産黒曜石製である。同一方向からの連続剥離によって得られた剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端を折断し、この折断面を打面とする二次加工をそれぞれ背面と腹面に施す。YLU出土で石器集中５に含まれる。

表９　石器集中４　石器石材組成

	ホルンフェルス
剥片	6

表10　石器集中５　石器石材組成

	黒曜石					ガラス質黒色安山岩	計
	諏訪星ヶ台群	蓼科冷山群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群		
切出形石器			1				1
尖頭器	1						1
削器			1				1
微細剥離痕剥片		1					1
細石刃					1		1
剥片						2	2
砕片	1			2			3
石核						1	1
計	2	1	2	2	1	3	11

表11　石器集中６　石器石材組成

	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	デイサイト	ホルンフェルス	計
削器		1	1	1	3
二次加工剥片		1			1
剥片	1		4	2	7
砕片				1	1
石核				1	1
計	1	2	5	5	13

11は箱根畑宿産黒曜石製である。求心剥離によって得られた剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端を背面加工して背ー基部を整形する。基部は互いに接する二次加工部によって尖状を呈する。刃部は、僅かに欠損したが、残された一部の腹面に連続的な微細剥離痕が観察された。YLU出土で石器集中に含まれない。

12は箱根畑宿産黒曜石製である。同一方向への連続剥離過程によって剥離された剥片を素材として、これを逆斜位に用い、直線的な刃部を残してその他の部位全体に連続する急角度な二次加工を施す。KU出土であるが、風化の度合いと技術形態的特徴から旧石器時代の石器と判断した。石器集中に含まれない。

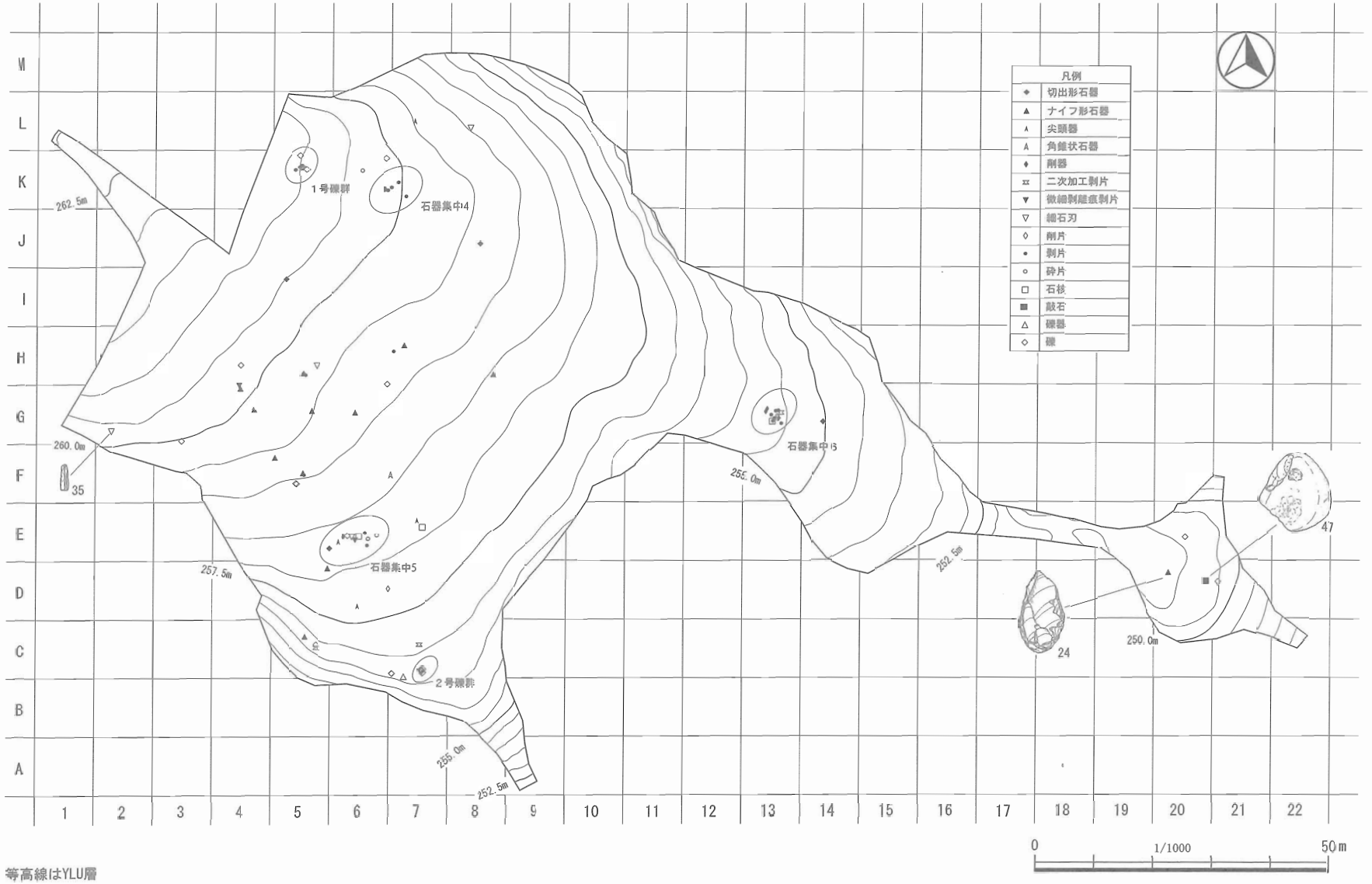
13は黒曜石製（産地未分析）である。ほぼ同一方向からの連続剥離によって得られた剥片を素材に、これを横位に用い、打面と末端に急角度の二次加工を施す。基部は切り取りよりもあとに折れているので、全体形状は不明である。KU出土であるが、風化の度合いと二次加工技術の特徴から旧石器時代のものと判断した。石器集中には含まれない。

ナイフ形石器（14-24）

14は箱根畑宿産黒曜石製である。縦長剥片を素材にして、これを逆位に用い、左側縁に背部を整形する。基部全体が折損しているので素材剥片や全体形状は不明である。YLU出土である。

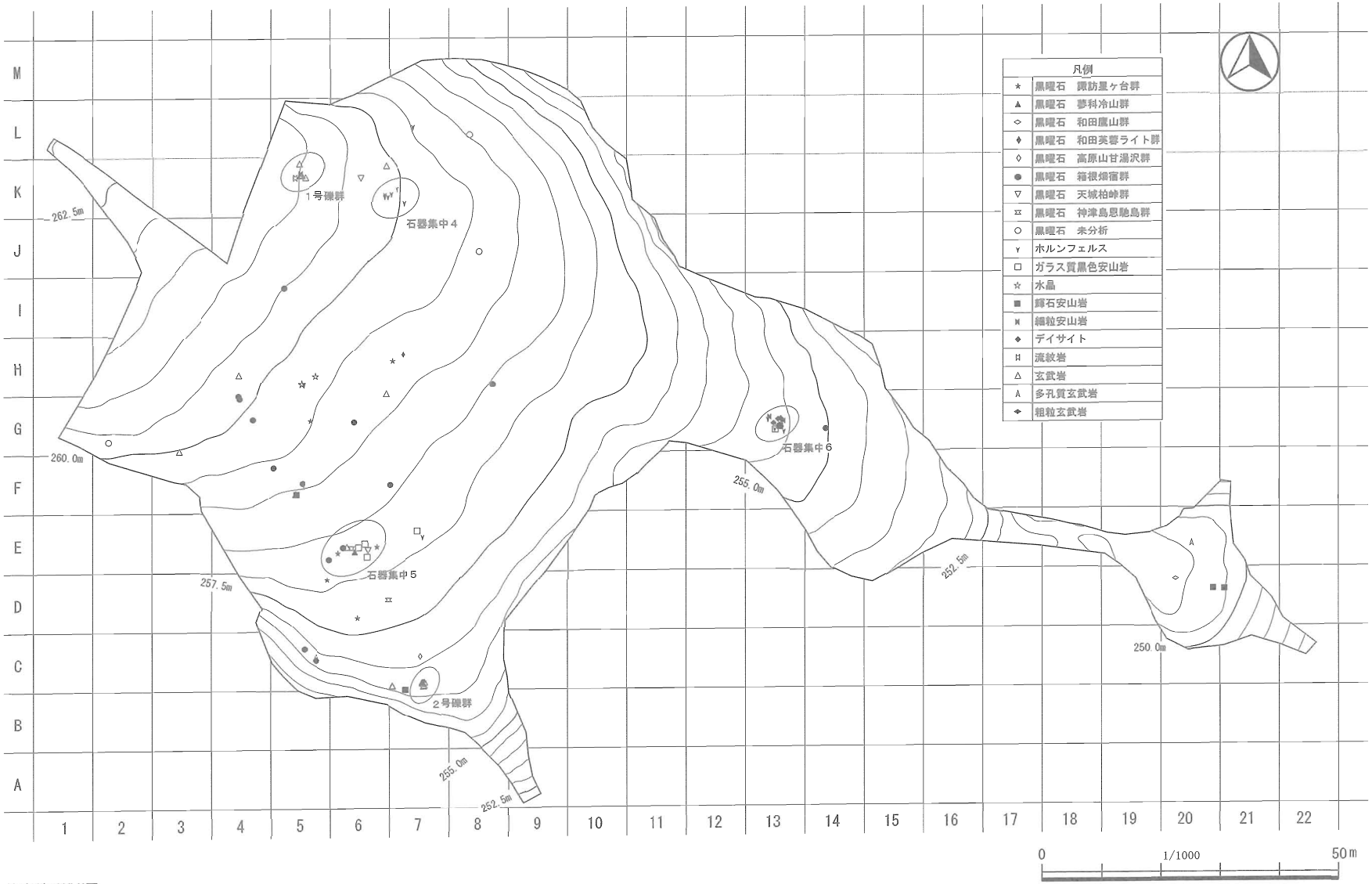
15は箱根畑宿産黒曜石製で横打剥片を素材とする。同一方向から連続剥離する過程で得られた剥片を素材として、これを横位に用い、打面を弧状に切り取って背部とし、末端を内湾するように切り取って基部を整形する。横打剥片製であるが、刃部が上に偏っているとまではいえないので形態分類上はナイフ形石器とした。YLU出土で石器集中に含まれない。

16は箱根畑宿産黒曜石製である。半求心剥離によって得られた剥片を素材として、これを縦位に用い、



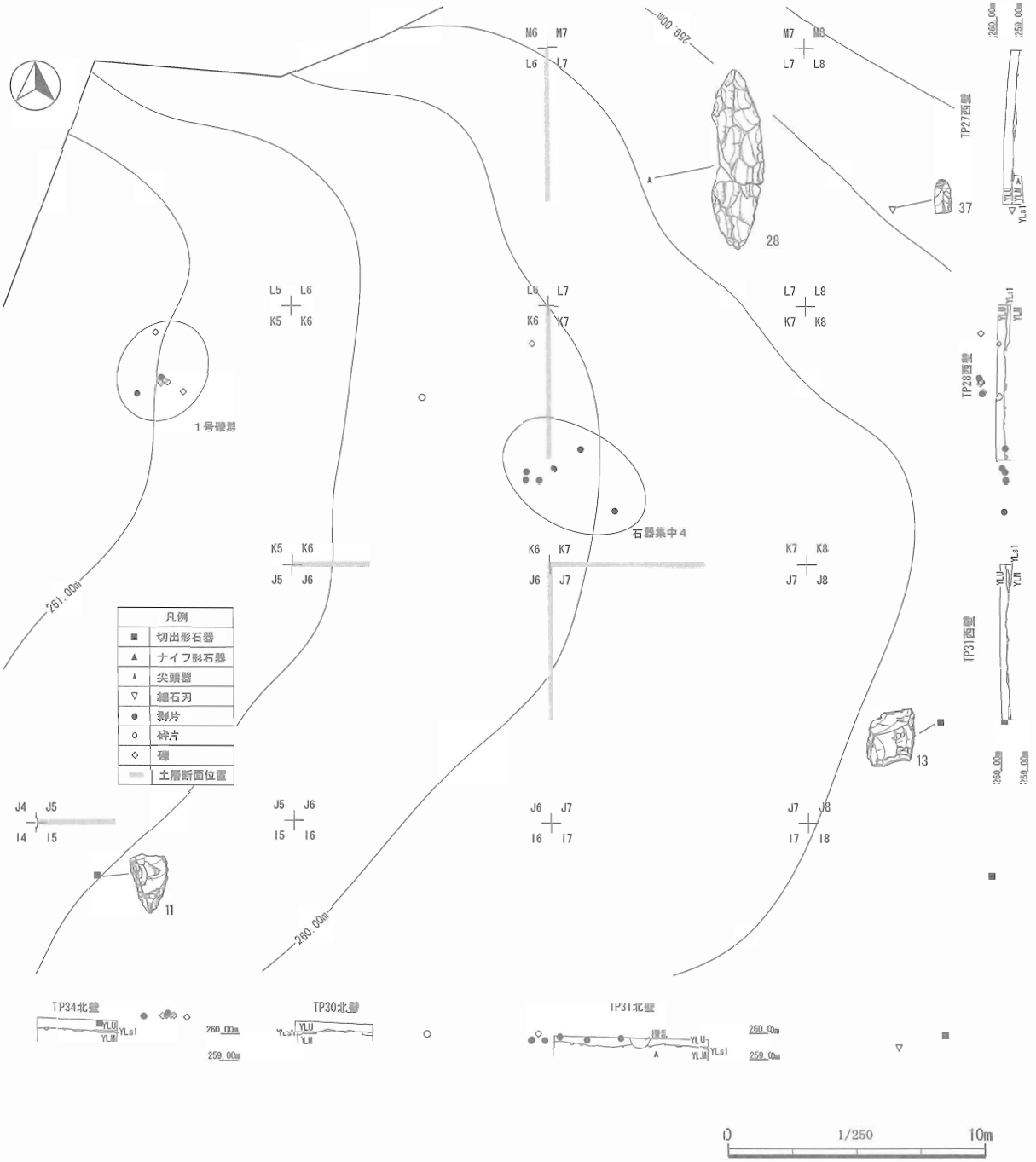
等高線はYLU層

第20図　第Ⅳ文化層　器種別分布



等高線はYLU層

第21図　第Ⅳ文化層　石材別分布

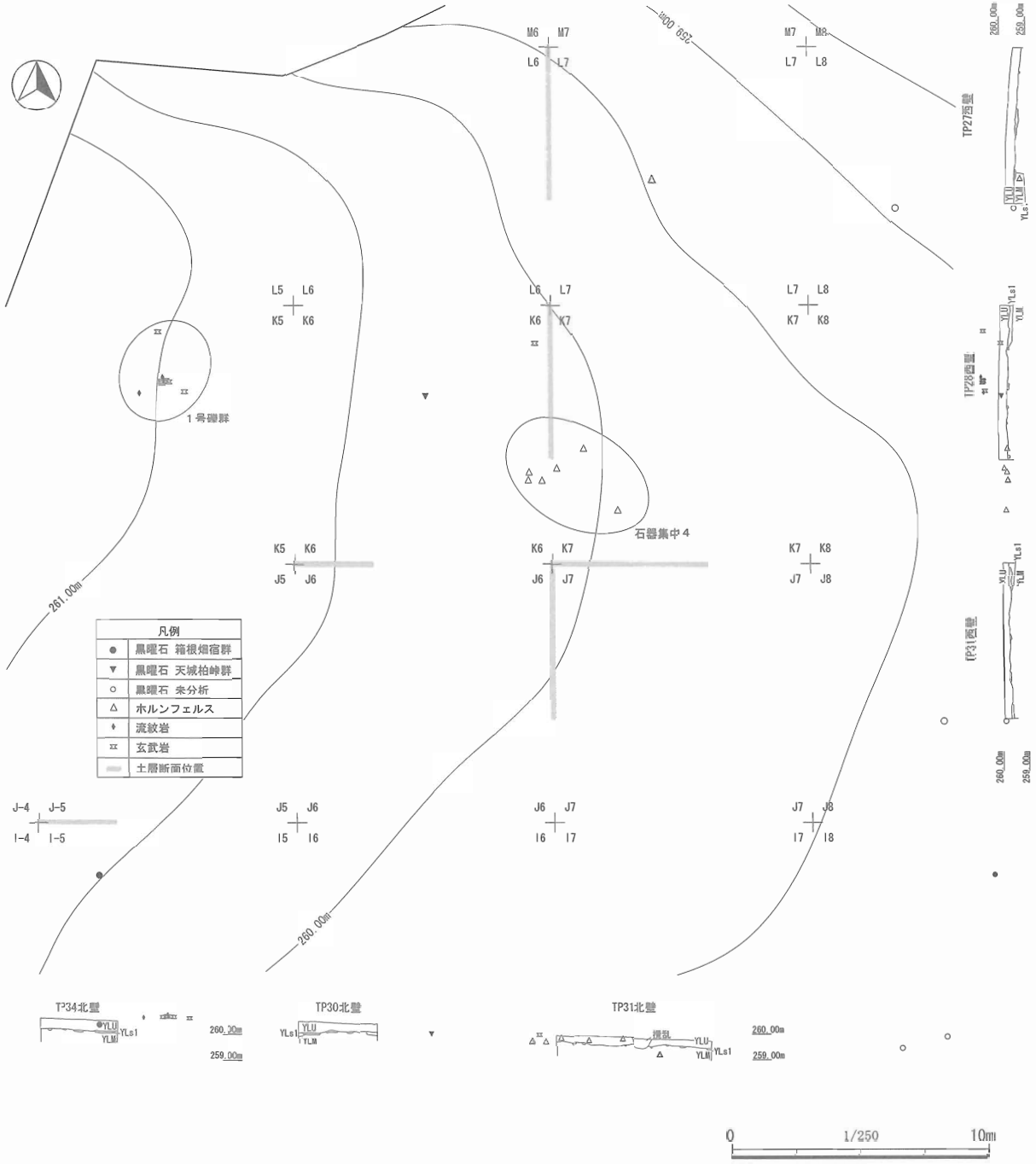


第22図　第Ⅳ文化層　石器集中４　器種別分布

左側縁に緩やかな弧状を呈する背部を整形し、右側縁に内湾する基部を整形する。また、背部加工部位を打面として基部に平坦剥離を施す。尖端部が折損しているので全体形状は不明であるが、右側縁の形状からみて、失われた部分は刃部と推測された。YLU出土である。

17は箱根畑宿産黒曜石製で横打剥片を素材とする。尖端部が折損するので、全体形状が分からない。台形石器ないし切出形石器の可能性もある。

18は箱根畑宿産黒曜石製である。縦長剥片を素材としてこれを縦位に用い、左側縁に急角度の二次加工を施し背部を整形し、右側縁の中位にも二次加工を施す。尖端を折損する。YLU出土である。

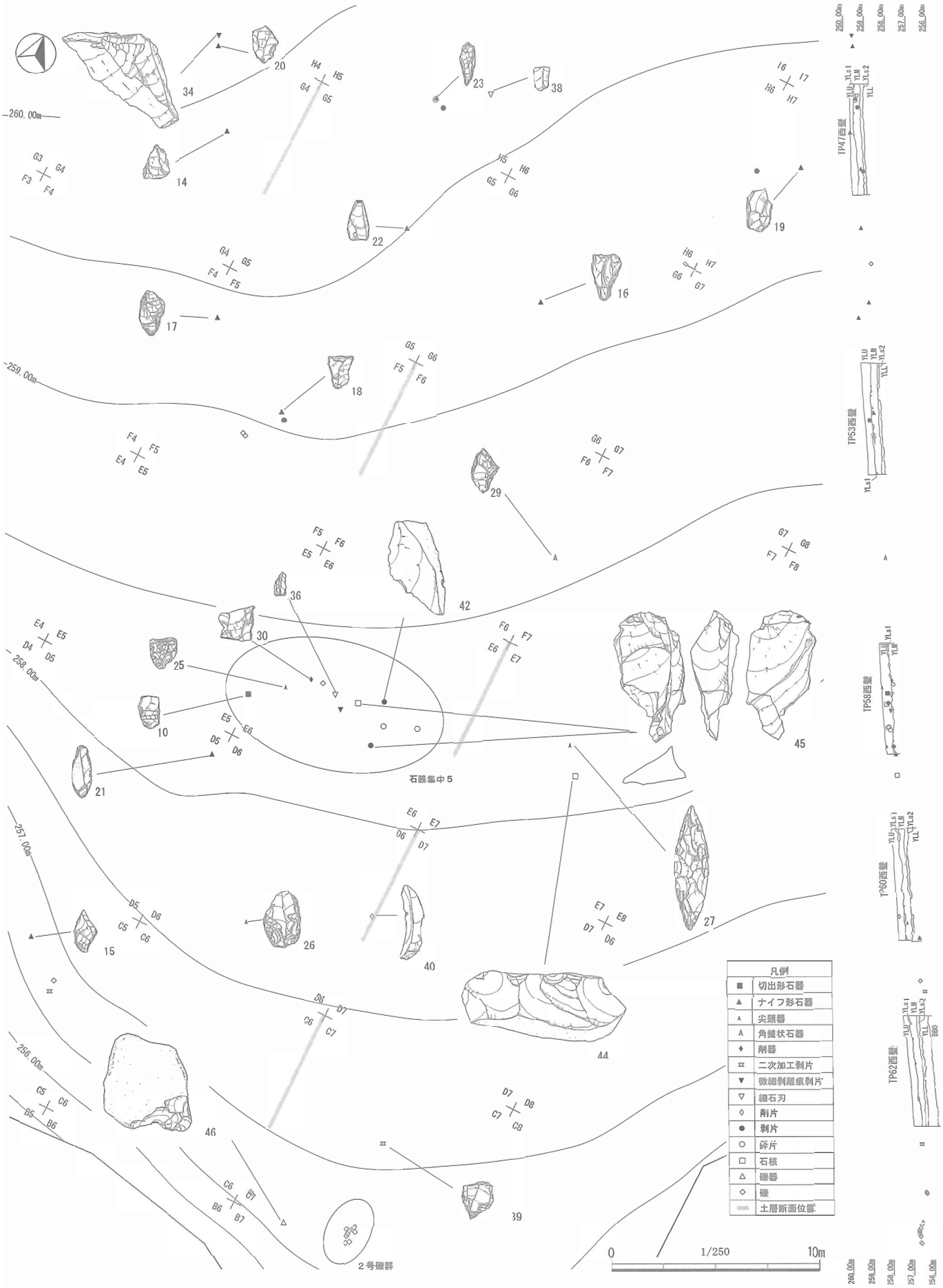


第23図　第Ⅳ文化層　石器集中４　石材別分布

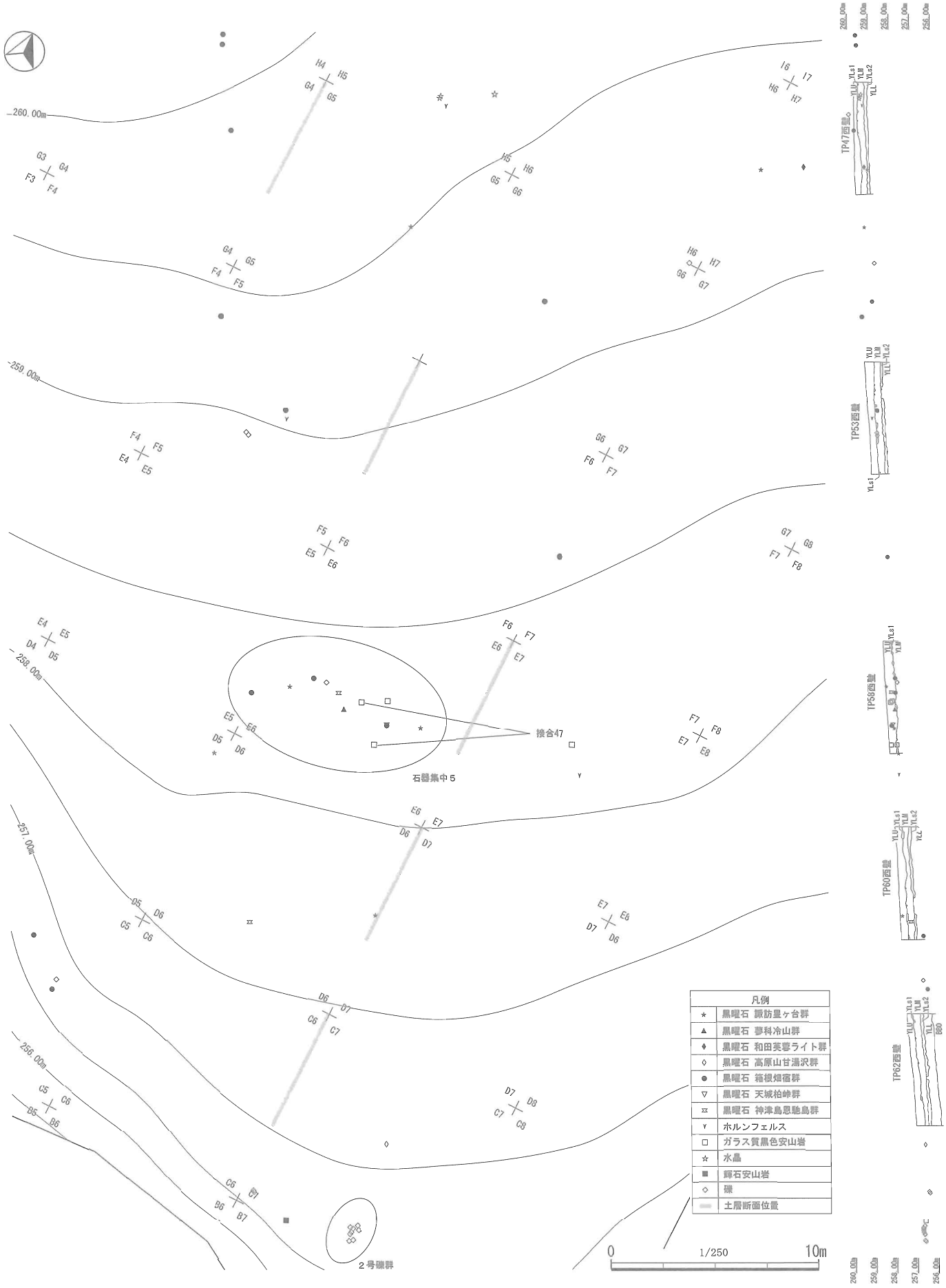
19は和田芙蓉ライト産黒曜石製である。同一方向から連続的に剥離する過程で得られた剥片を素材に、これを横位に用い、末端を切り取って背部とし、打面を外湾気味に切り取って基部を整形する。尖端を欠損したので分類は不確定で、切出形石器とすることも可能である。FB出土で石器集中に含まれない。

20は箱根畑宿産黒曜石製である。石刃ないし縦長剥片を素材として、これを縦位に用い、右側縁に２辺からなる背部、左側縁に基部を整形する。尖端部は折損しており、裏面に及ぶ折れ面の状態からみて、使用によるものと推測される。基部は発掘時の欠損である。YLU出土である。

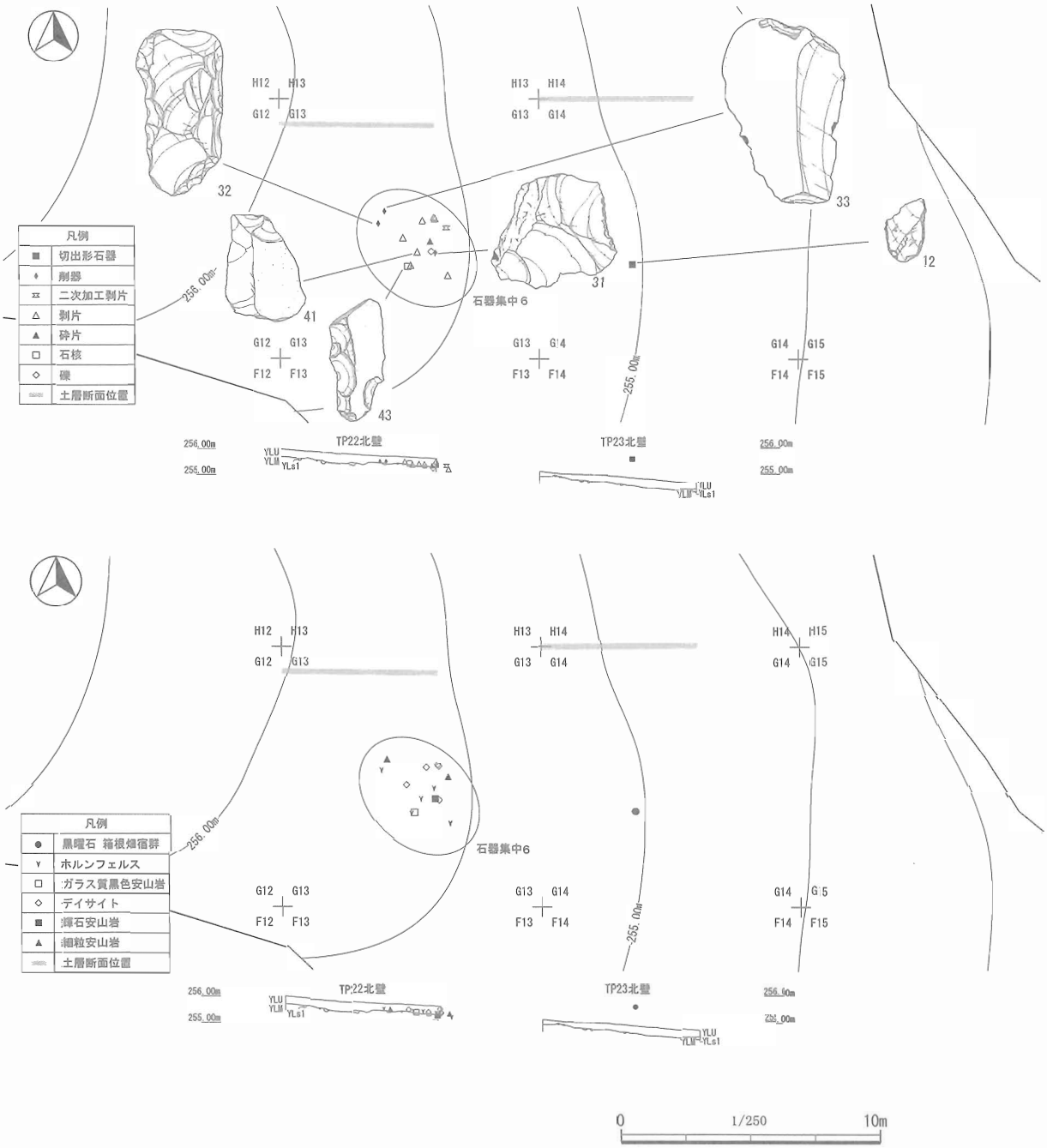
21は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。小石刃を素材にして、これを縦位に用い、急角度の剥離によって



第24図　第Ⅳ文化層　石器集中５　器種別分布



第25図　第Ⅳ文化層　石器集中５　石材別分布



第26図　第Ⅳ文化層　石器集中６　器種別分布（上）と石材別分布（下）

左側縁に弧状の背部を整形し、右側縁に基部を整形する。裏面には平坦剥離が認められる。また、尖端部は、急角度な剥離によって左右をやや内湾するように二次加工する。尖端部は折損したようにみえるが、その後も使用が続いたのか、やや摩滅して丸くなっている。石錐かもしれない。YLU出土で石器集中に含まれない。

22は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。石刃を素材として、これを逆位に用い、左側縁を二次加工して背部を整形し、右側縁株に微細な二次加工を施して基部を整形する。基部加工には平坦剥離も併用する。尖端は発掘中に欠損、基部は折損している。YLU出土である。

23は水晶製である。小石刃を素材にして、これを逆位に用い、右側縁にやや弧状の二次加工を施して背部とし、左側縁に直線的な基部を整形する。上方は、使用によるためか、微細剥離痕が連続して尖状

を呈さない。YLU出土である。

24は和田鷹山産黒曜石製である。同一方向から連続剥離する過程で生産される、やや厚手の縦長剥片を素材に、これを縦位に用い、左側縁全体を弧状に切り取って背部とし、対する右側縁も弧状に切り取って基部を整形する。刃部には微細な剥離痕が連続し、使用頻度の著しさを示している。YLU出土で石器集中に含まれない。

尖頭器（25-28）

25は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。魚鱗状の剥離によって表裏を整形する。折損しているので尖端の形状が不明であり、したがって尖頭器としての分類も不確定である。YLU出土で石器集中５に含まれる。

26は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。縦長剥片を素材にして、これを縦位に用い、右側縁背面全体と左側縁背面下半分および裏面に魚鱗状の二次加工を施し、涙滴状に整形する。左側縁裏面は使用痕かもしれない。二次加工技術の違いを除けば24（ナイフ形石器）と近似する形態である。YLU出土で石器集中に含まれない。

27はガラス質黒色安山岩製両面加工尖頭器である。魚鱗状剥離で両面を整形する。YLU出土である。

28はホルンフェルス製両面加工尖頭器の折れたものが接合している。風化が著しいため、剥離面の残存状況が非常に悪い。欠損部は風化を原因としている。

角錐状石器（29）

29は箱根畑宿産黒曜石製である。厚手の剥片を縦位に用いて弧状の背部と内湾する基部を整形し、さらに端部にも、基部加工と接する二次加工を施す。17のような切出形石器の変異かもしれない。YLU出土で石器集中に含まれない。

削器（30-33）

30は箱根畑宿産黒曜石製側削器である。180度の打面転移－剥離を行って形成された作業面から得られた縦長剥片（推定）を素材にして、急角度な剥離によって右側縁にやや鋸歯状を呈する刃部を作出する。YLU出土で石器集中５に含まれる。

31はデイサイト製である。新鮮な面（ガジリ）と金属音からガラス質黒色安山岩とよく似た質の石材であるが、明灰色に風化している。求心剥離で得られた幅広剥片の右縁辺に直径３㎜程度の二次的剥離痕が連続している。使用痕かもしれない。YLU出土で石器集中６に含まれる。

32はホルンフェルス製鋸歯縁尖頭削器である。石材消費の比較的早い段階で得られたやや大型の剥片を素材に、左右側縁の裏面に大振りな二次加工を連続的に施し、尖頭部に繋がる鋸歯状刃部を作出する。YLU出土で石器集中６に含まれる。

33は細粒安山岩製鋸歯縁側削器である。先細りする厚手の大型剥片を素材として、左側縁の裏面に大小不揃いな二次加工を連続的に施し、鋸歯状刃部を作出する。また、右側縁の打面付近にもひとつの二次的剥離が認められる。YLU出土で石器集中６に含まれる。

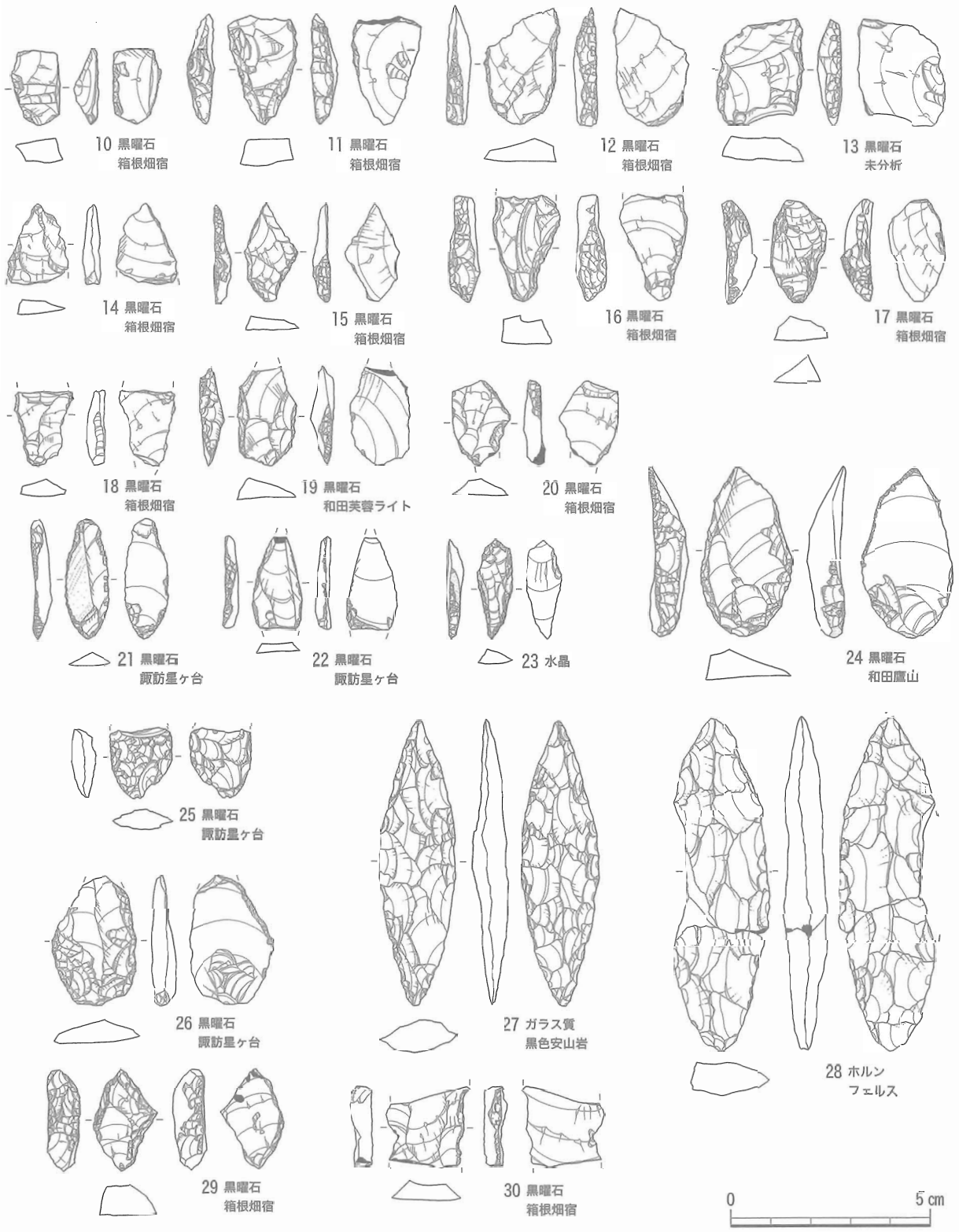
二次加工剥片（39）

39は高原山甘湯沢産黒曜石製である。同一方向に連続的に剥離する過程で生産された剥片の左縁辺に背部加工様の急角度な二次加工を施す。また、裏面には挟み撃ちで潰れたかのような二次的剥離が、打面側の折れ面と右縁辺の２方向からはいっている。端部は急角度な面なので折れ面のようにも見えるが、主剥離面に後行するかどうかはっきりしていない。YLU出土で石器集中に含まれない。

■　剥片・石核類と接合資料

細石刃（35-38）

35は黒曜石製である（産地未分析）。石器集中に含まれない。



第27図　第Ⅳ文化層の石器群（１）

36は神津島恩馳島産黒曜石製である。YLU出土で石器集中５に含まれる。

37は黒曜石製である（産地未分析）。石器集中に含まれない。

38は水晶製である。YLU出土である。

削片（40）

40は神津島恩馳島産黒曜石製削片である。大型剥片の打面部付近を打面として、縁辺を取り込みつつその腹面を剥離したものと思われる。背面右側の剥離面はポジティブである。主剥離面に後行する打面部からの細長い剥離は、二次加工ではなく、剥片剥離と同時に形成されたものと推測される。YLU出土で石器集中に含まれない。

微細剥離痕剥片（34）

34は箱根畑宿産黒曜石製である。背面に大きく自然面を残す大型剥片の左右縁辺に微細剥離痕が連続する。打面はなく、バルブの発達が極めて微弱である。打面は折れているが、その折れ面は背面と急角度をなさず緩やかに連続する。おそらくは剥片剥離時に折れたのだろう。こうした事例は両極剥離を多用する縄文時代石器群に顕著に見られる傾向である。YLU出土である。

剥片（41/42）

41はホルンフェルス製である。YLU出土で石器集中６に含まれる。

42はガラス質黒色安山岩製である。尖頭形を呈する。右縁辺の下部に二次的剥離痕が観察される。YLU出土で石器集中５に含まれる。

石核（43/44）

43はホルンフェルス製である。石核自然面を除去する際にとられた分厚い剥片の二縁辺の一方を腹面剥離、もう一方を背面剥離して幅広剥片を得る。

44はホルンフェルスである。分厚い剥片の１縁辺を作業面にして、しばしば石核底面を末端に残す幅広剥片を連続的に交互剥離する。YLU出土で石器集中に含まれない。

接合資料（45）

接合資料は大変少なかった。トゥールの組成比率が非常に高いことと関連しているだろう。剥片の接合資料１例（接47）を図示した。45（接47）はガラス質黒色安山岩製剥片２点が接合する。厚手の不定形剥片の末端部に小型剥片が接合する。

■　礫石器類

礫器（46）

46は輝石安山岩製である。正面観が台形状を呈する扁平礫の端部に数回の二次加工を施して刃部を整形する。YLU出土で石器集中に含まれない。

敲石（47）

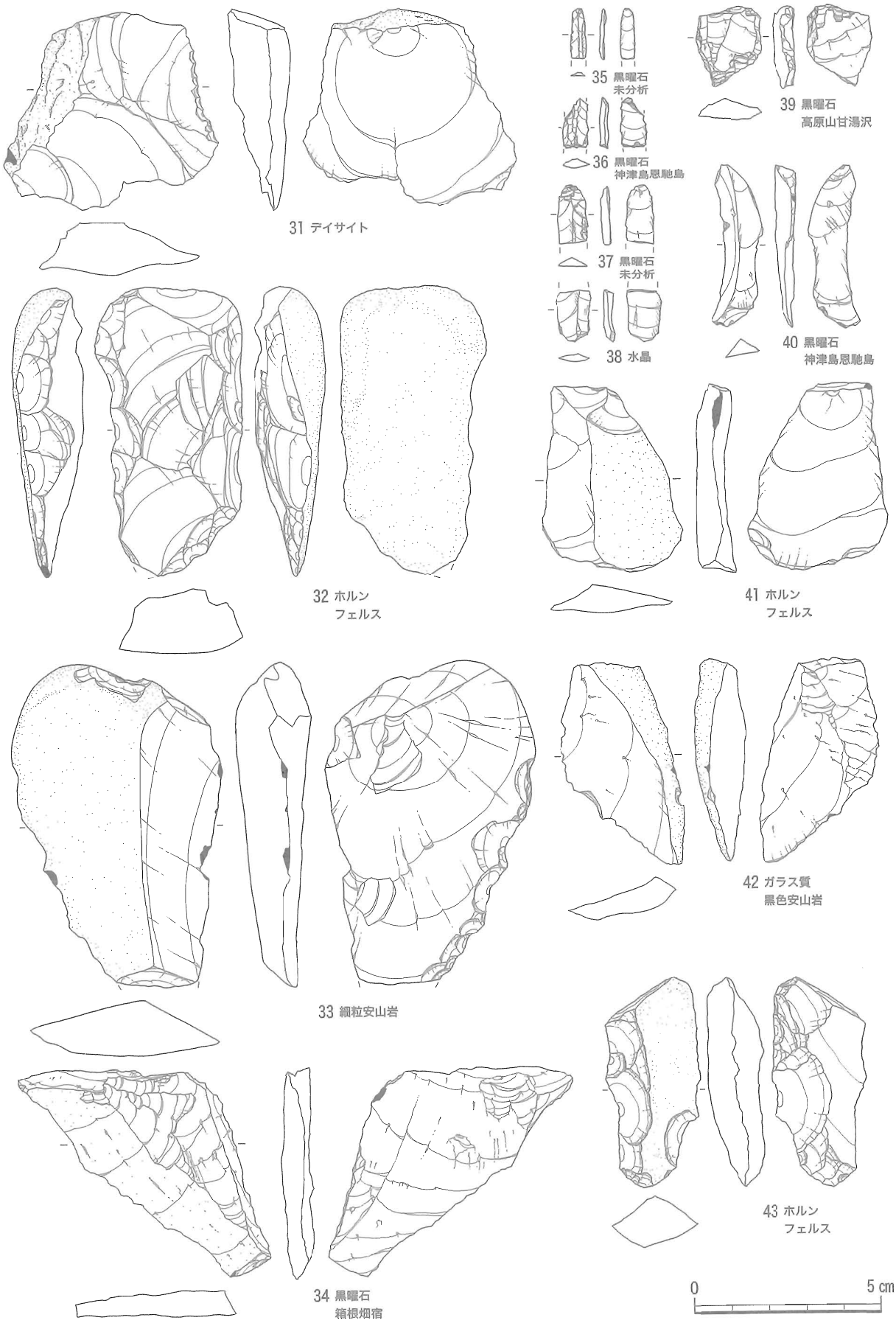
47は輝石安山岩製である。中央に敲打痕が認められる。この点から所謂「凹石」にも分類可能である。裏面下部の剥離面は敲打の衝撃によるものと推測される。研磨痕は認められない。YLU出土で石器集中に含まれない。

３．礫群（第31/32図、表27）

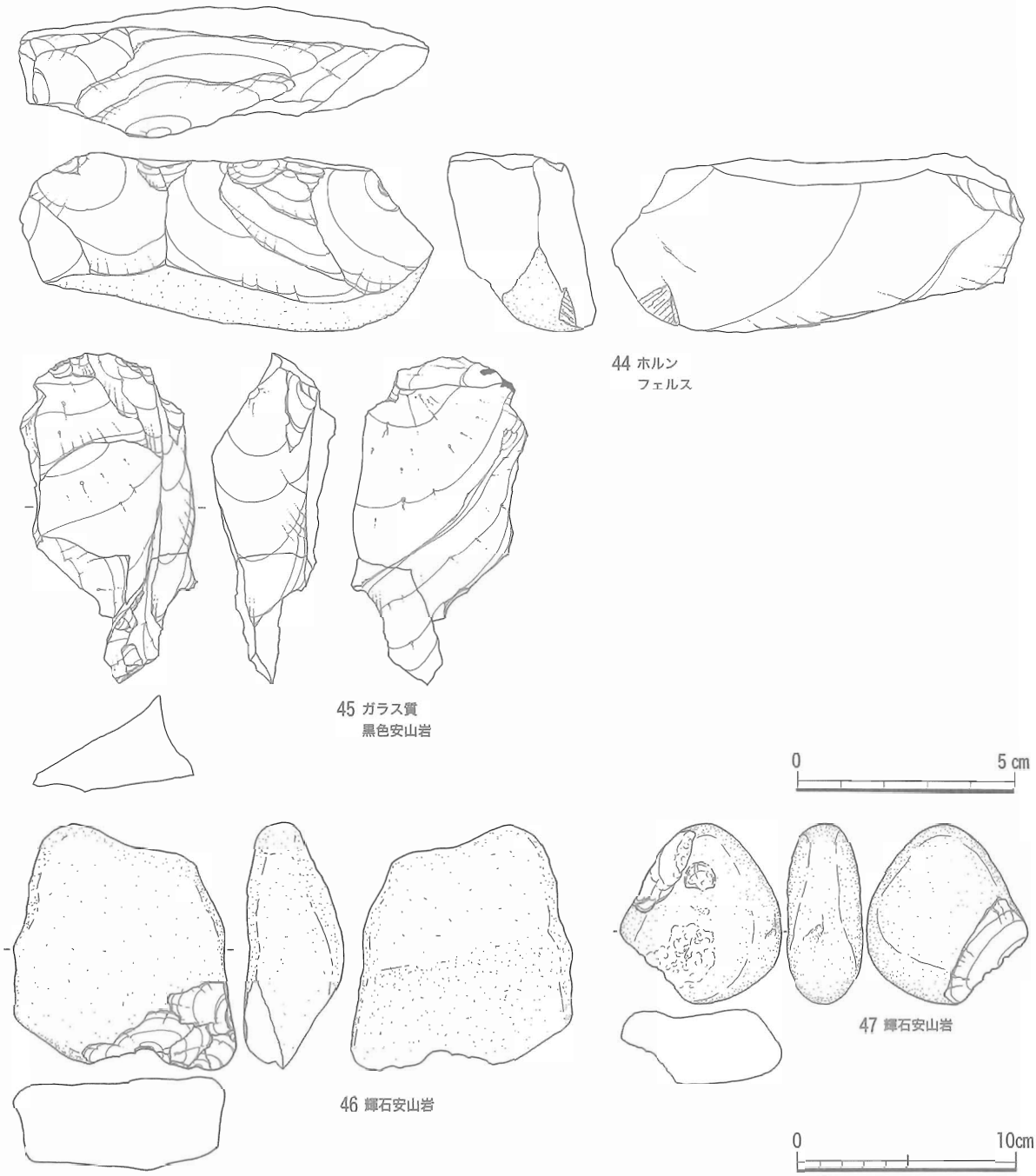
２基が確認された。

２号礫群（第31図）　Ｃ７グリッドに分布し、YLU中部で検出された。礫８点で構成される。

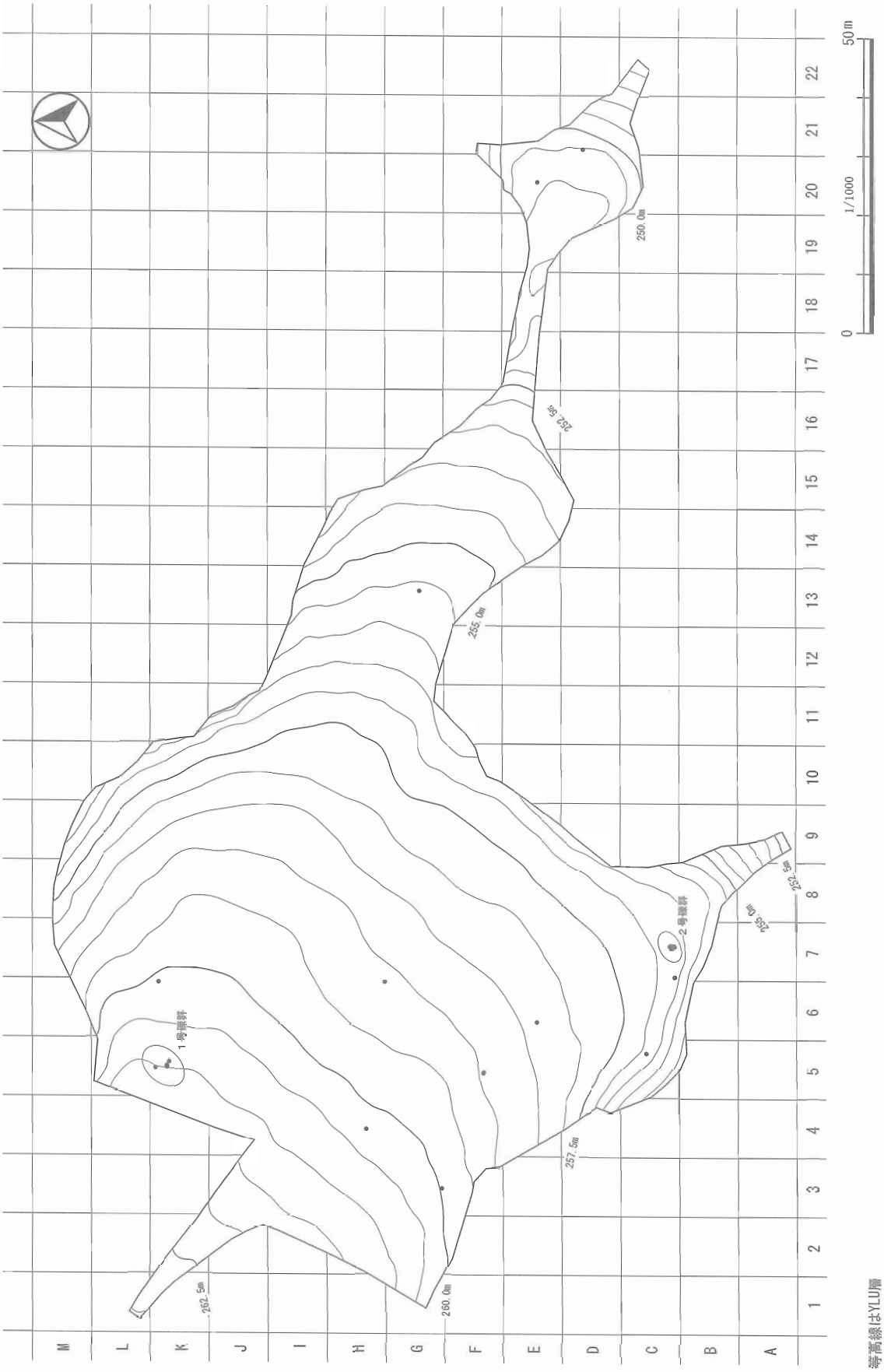
１号礫群（第32図）　Ｋ５グリッドに分布し、YLU中部で検出された。礫６点で構成される。剥片石器２点と重複する。



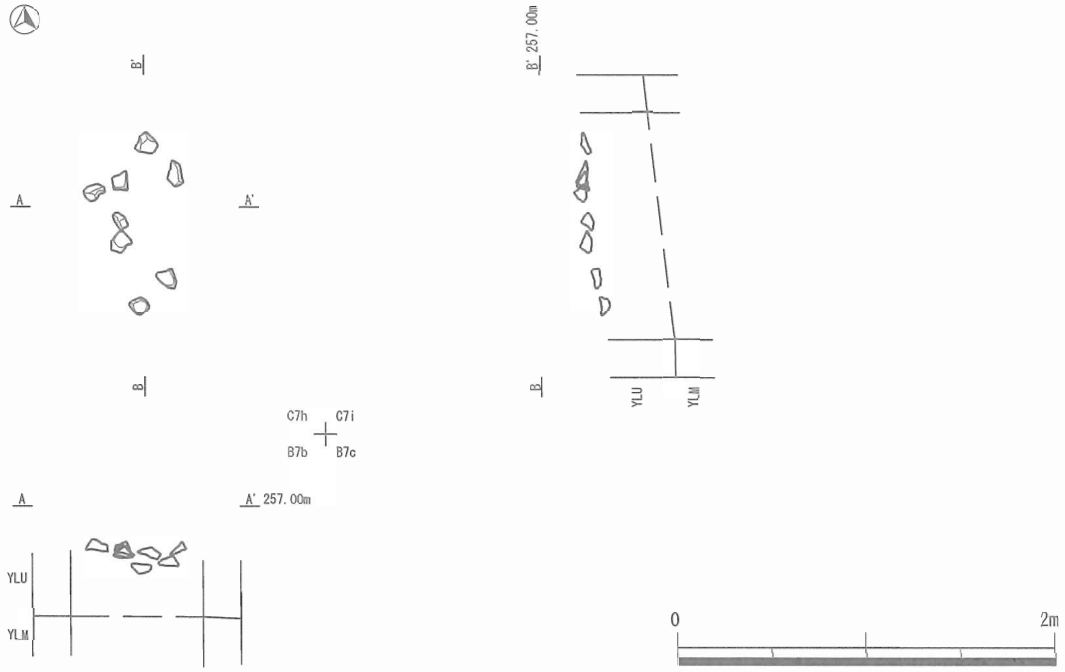
第28図　第Ⅳ文化層の石器群（２）



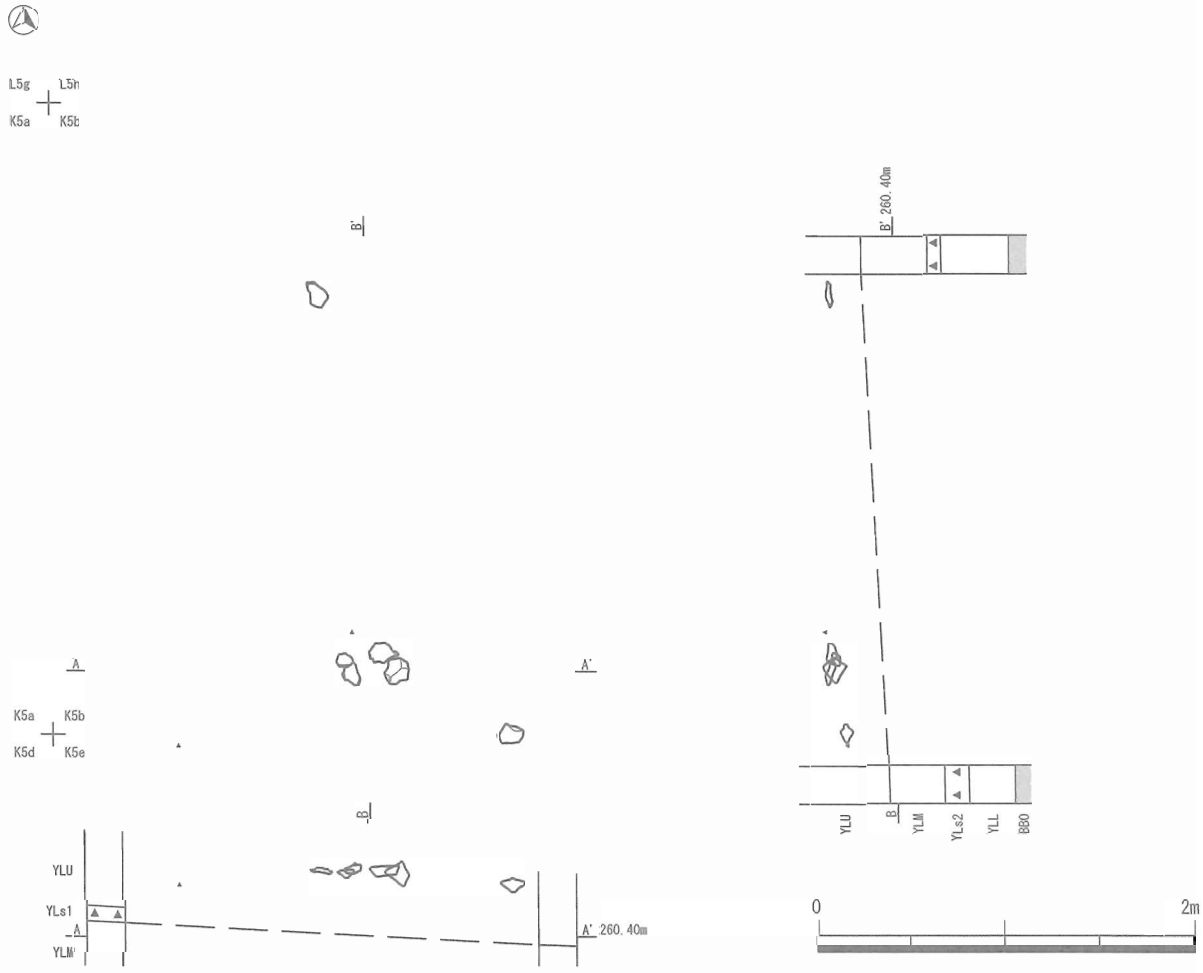
第29図　第Ⅳ文化層の石器群（３）



第30図　第Ⅳ文化層　礫分布



第31図　２号礫群



第32図　１号礫群

第５章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　土器分類

本遺跡で出土した土器は1107点である。徹底的な個体分類作業の結果、63個体の存在が明らかとなった（分類不能な小片は除く）。最も多いのは早期土器群40個体である。ほかに前期土器群12個体と中期土器群11個体がある。分類は表12にあるとおり、時期（群）、系統（類）、型式（種）等の分類を行ったうえに、胎土、器形、文様の特徴から細かい分類を重ね、記号化した。この記号は、例えば「Ｉ群Ａ類ａア①」などとなっているが、しかしこの表示方法では、そのつど分類基準を参照しなければ文章を読み下すことも儘ならないと思われたので、省略した分かりやすい記号を付すことにした。以下の分類の括弧内がそれである。本文と分布図にはこの略号を使用する。

Ｉ群　早期土器群

Ａ類　撚糸文土器

型式の認定は困難だったが、文様、器形、胎土の特徴から８個体抽出された。

ａ　細かい撚糸で施文する
　ア　器厚を厚くする
　　①　Ｒの撚糸で縦位ないし斜位に施文する　（撚糸文２）
　　②　①のうち、撚糸がさらに細かい　（撚糸文３）
　　③　①とは異なるＲの撚糸で横位に疎らに施文する　（撚糸文７）
　イ　器厚を薄くする　（撚糸文１）
ｂ　粗い撚糸で施文する
　ア　白色粒子を多く含む黄褐色の胎土を用いる　（撚糸文４）
　イ　赤褐色の胎土を用いる　（撚糸文５）
　ウ　石英粒子を多く含む灰褐色の胎土を用いる　（撚糸文６）
ｃ　網目状の撚糸で施文する　（撚糸文８）

Ｂ類　縄文土器

型式の認定は困難だったが、文様、器形、胎土の特徴から６個体抽出された。

ａ　外面と口唇部に縄文を施す　（早期縄文１）
ｂ　内外面に縄文を施す
　ア　器厚を厚くする　（早期縄文２）
　イ　器厚を薄くする　（早期縄文３）
ｃ　外面のみに縄文を施す
　ア　白色岩片を多く含む赤褐色の胎土を用いる　（早期縄文４）
　イ　にぶい赤褐色の胎土を用いる　（早期縄文５）
　ウ　赤褐色の胎土を用いる　（早期縄文６）

C類　沈線文土器

１種　判ノ木山西式土器

a　口縁部直下に刺突を列点状に施す　(判ノ木山西１)

b　口縁部直下に刺突し、等間隔の沈線を縦位に施す

ア　口縁部直下と胴部に１段の刺突列を横位に施す

①　等間隔の沈線を縦位に施し、あいだに格子目状沈線を充填する　(判ノ木山西２)

②　胴部に格子目状の沈線を施す　(判ノ木山西３)

イ　胴部に２段の刺突列を横位に施し、また沈線を格子目状に施す　(判ノ木山西４)

２種　その他の沈線文土器

a　口唇部に刻みを入れる

ア　頸部を括れさせる　(沈線文１)

イ　沈線を縦位に施す　(沈線文２)

b　口唇部に刻目を入れず、口縁部直下に刺突、また沈線を斜位に施す　(沈線文３)

c　その他（口唇部が明らかでない）

沈線を縦位に施す　(沈線文４)

D類　条痕文土器

１種　野島式土器

口縁部に条線を縦位に施し、内面に貝殻条痕文を横位に施すものが３個体抽出された。

ア　同種「イ」ではないもの　(野島１)

イ　口縁から胴部の間に段をつける

①　胴部に括れをいれない　(野島２)

②　口唇部に刻み、段の下に括れを入れ、中位で砲弾形を呈するように脹らませる　(野島３)

２種　茅山下層式土器

胴上部に貝殻腹縁文を「ハ」の字形に施すものが３個体抽出された。

ア　沈線による文様のあるもの

①　胴上部に右から左方向の刺突列を施す　(茅山下層１)

②　胴上部に左から右方向の刺突列を施す　(茅山下層３)

イ　沈線による文様のないもの　(茅山下層２)

３種　打越式土器

口唇部に刻みをいれ、貝殻腹縁文を施すものが３個体抽出された。

ア　口縁を波状にする　(打越１)

イ　口縁を平らにする

①　口縁部に「く」の字状の貝殻腹縁文を施す　(打越２)

②　口縁部に波状を呈する２条の貝殻腹縁文を施す　(打越３)

４種　その他

条痕文土器のうち、特定の型式にあてはめることができないものが７個体抽出された。

a　口唇部に刻みを入れ、条線を縦位に施す　(条痕文１)

b　口唇部に刻みを入れず、条線を横位に施す

ア　鈍い黄橙色を呈し、石英を多く含む胎土を用いる　(条痕文２)

イ　褐色を呈し、石英と輝石を多く含む胎土を用いる　(条痕文３)

ウ　石英が非常に多い胎土を用いる　口縁部を外反させる　　（条痕文４）

E類　その他

A-D類に含まれないものが５個体抽出された。

ア　口縁部を角頭状にする　（早期その他１）
イ　口唇部を僅かに外反させ、内側を削ぐ　（早期その他２）
ウ　多くの繊維を混和させた胎土を用いる　（早期その他３）
エ　平底に丸みを帯びさせる　（早期その他４）
オ　平底にするもののうち「エ」以外のもの　（早期その他５）

II群　前期土器群

A類

棒状または篦状工具で刺突列を施す上ノ坊式土器が２個体抽出された。

ア　口縁部刺突列下に連続的な刺突を斜位に施す　（上ノ坊１）
イ　口縁部から胴部に粘土を盛り上げ、その上に５列の連続的な刺突列を施す　（上ノ坊２）

B類　竹管文土器

地文に縄文を施し、半截竹管による沈線を平行に引く諸磯ｂ式土器が３個体抽出された。

ア　RLの原体で縄文を横位に施す　（諸磯ｂ１）
イ　Lの原体で縄文を横位に施す　（諸磯ｂ２）
ウ　「ア」のうち白色粒子が多い胎土を用いる　（諸磯ｂ３）

C類　縄文土器

半截竹管文を施さないが、器形と胎土により諸磯ｂ式土器に分類可能なものが２個体と、型式不明の土器が３個体抽出された。

ａ　地文に縄文を施す
ア　胴部にRLの原体で縄文を横位、口縁部付近に斜位に施す　（諸磯ｂ４）
イ　胴部にRLの原体を疎らに押捺する　（諸磯ｂ５）
ｂ　原体を推定できない縄文を施す　器形と胎土から諸磯ｂ式の可能性が高いもの　（前期縄文１）
ｃ　その他の縄文
ア　RLの原体で縄文を横位に施し、口縁部の内側を削ぐ　（前期縄文２）
イ　RLの原体で縄文を横位に施し、一部にLRの縄文を施し、底部を平らにする　（前期縄文３）

D類　その他

A-C類に含まれないものが、繊維痕の有無により２個体抽出された。

ア　繊維を混和させた胎土を用いる　（前期その他１）
イ　繊維を混和させた胎土を用いる　（前期その他２）

表12　老平遺跡の土器分類基準

群	類		種		細分類1		細分類2		細分類3		個体番号
Ⅰ群 早期	A	撚糸文			a	撚りが細かい	ア	厚手	①	Rの撚りを縦位、斜位に施文	撚糸文2
									②	より細かいRの撚りを縦位、斜位に施文	撚糸文3
									③	Rの撚りを横位にまばらに施文　胎土が非常に脆い	撚糸文7
							イ	薄手			撚糸文1
					b	撚りが粗い	ア	黄褐色で白色粒子を多く含む胎土			撚糸文4
							イ	赤褐色			撚糸文5
							ウ	灰褐色で石英を多く含む胎土			撚糸文6
					c	網目状に施文					撚糸文8
	B	縄文			a	外面と口唇部に施文					早期縄文1
					b	外・内面とも施文	ア	厚手			早期縄文2
							イ	薄手			早期縄文3
					c	外面のみ施文	ア	赤褐色で白色岩片を多く含む胎土			早期縄文4
							イ	にぶい黄褐色			早期縄文5
							ウ	赤褐色			早期縄文6
	C	沈線文	1	判ノ木山西式	a	刺突有り、等間隔に縦位の沈線なし		口縁部直下に刺突列			判ノ木山西1
					b	刺突有り、等間隔に縦位の沈線有り	ア	口縁部直下と胴部に横位一段の刺突列	①	等間隔の縦位の沈線、その間を格子目状沈線で充填	判ノ木山西2
									②	胴部に格子目状の沈線	判ノ木山西3
							イ	胴部に横位二段の刺突列		格子目状の沈線	判ノ木山西4
			2	その他	a	口唇部刻み有り	ア	頸部が括れる			沈線文1
							イ	縦位の沈線			沈線文2
					b	口唇部刻み無し		口縁直下に刺突			沈線文3
					c	口唇部不明		縦位の沈線、石英を多く含む胎土			沈線文4
	D	条痕文	1	野島式		口縁部に縦位の条線、内面に横位の貝殻条痕文	ア	口縁から胴部の間に段無し			野島1
							イ	口縁から胴部の間に段有り	①	胴部に括れ無し	野島2
									②	口唇部に刻み　段の下が括れて脹らむ砲弾形	野島3
			2	茅山下層式		横位の貝殻条痕文	ア	沈線による文様有り	①	胴部の段の上に右から左方向の刺突列	茅山下層1
									②	胴部の段の上に左から右方向の刺突列	茅山下層3
							イ	沈線による文様無し		ラッパ状把手を口縁に付す	茅山下層2
			3	打越式		口唇部に刻み、貝殻腹縁文	ア	波状口縁			打越1
							イ	平縁	①	口縁部にくの字状の貝殻腹縁文	打越2
									②	口縁部に波状の二条の貝殻腹縁文	打越3
			4	その他	a	口唇部に刻み有り					条痕文1
					b	口唇部に刻み無し	ア	にぶい黄橙、石英を多く含む胎土			条痕文2
							イ	褐色で石英、輝石を多く含む胎土			条痕文3
							ウ	口縁部が外反する　石英が非常に多い胎土			条痕文4

群	類		種		細分類1		細分類2		細分類3		個体番号
Ⅰ群 早期	E	その他				無文	ア	口縁部角頭状			早期その他1
							イ	僅かに外反する内削ぎの口唇部			早期その他2
							ウ	繊維痕が非常に多い			早期その他3
							エ	丸みを帯びた平底			早期その他4
							オ	平底			早期その他5
Ⅱ群 前期	A			上ノ坊式		篦状工具による刺突	ア	口縁刺突列下の胴部に斜位の連続刺突			上ノ坊1
							イ	口縁から胴にかけ粘土を盛り上げた上に、工具を横に使用した5列の連続刺突			上ノ坊2
	B	竹管文		諸磯ｂ式		縄文の地文に半截竹管状工具による平行沈線	ア	RLの横位縄文			諸磯b1
							イ	Lの横位縄文			諸磯b2
							ウ	RLの横位縄文			諸磯b3
	C	縄文		諸磯ｂ式	a	縄文の地文	ア	RLの横位縄文、一部口縁付近に斜位がみられる			諸磯b4
							イ	RLの横位縄文をまばらに施文　金雲母多い			諸磯b5
					b			原体不明			前期縄文1
					c	その他の縄文	ア	内削ぎの口縁、RLの横位縄文			前期縄文2
							イ	平底　RLの横位、一部LRの横位もみられる内側にスス付着			前期縄文3
	D	その他				無文	ア	繊維、補修孔有り			前期その他1
							イ	繊維無し			前期その他2
Ⅲ群 中期	A			新道式							新道
	B			藤内式	a	円筒形の抽象文					藤内1
					b	胴部に縦の区画	ア	頸部に相対する耳節状把手			藤内2
							イ	頸部に下をキャタピラ文で押さえた貼付け隆帯を巡らせる			藤内4
					c	爪形文の区画		厚手　僅かに外反する角頭状の口縁			藤内3
					d	縄文の地文					藤内5
					e	頸部に楕円の区画					藤内6
	C	縄文			a	RLの横位縄文					中期縄文1
					b	Lの横位縄文、一部縦位に施文					中期縄文2
					c	RLの縦位縄文　石英が多い					中期縄文3
	D	その他				無文	ア	平底			中期その他1
							イ	僅かに屈曲した平底			中期その他2

Ⅲ群　中期土器群

Ａ類　新道式土器　（新道）

１個体抽出された。

Ｂ類　藤内式土器

６個体抽出された。

ａ　胴部を円筒形にする　（藤内１）

ｂ　「ａ」のうち口縁部から頸部にかけてやや内湾させキャリパー形にする

　ア　頸部に相対する耳飾り状把手を付ける　（藤内２）

　イ　頸部に下をキャタピラ文で押さえた隆帯を巡らせる　（藤内４）

ｃ　爪形文で区画する

　厚手に作る　角頭状の口縁部を僅かに外反させる　（藤内３）

ｄ　地文として縄文を施す　（藤内５）

ｅ　楕円で区画する　（藤内６）

Ｅ類　縄文土器

３個体抽出された。

ａ　RLの原体で縄文を横位に施す　（中期縄文１）

ｂ　Lの原体で縄文を横位に施し、一部縦位にも施す　（中期縄文２）

ｃ　RLの原体で縄文を縦位に施す　（中期縄文３）

Ｆ類　その他

Ａ−Ｅ類に含まれない無文土器が２個体抽出された。

　ア　底部を平らにする　（中期その他１）

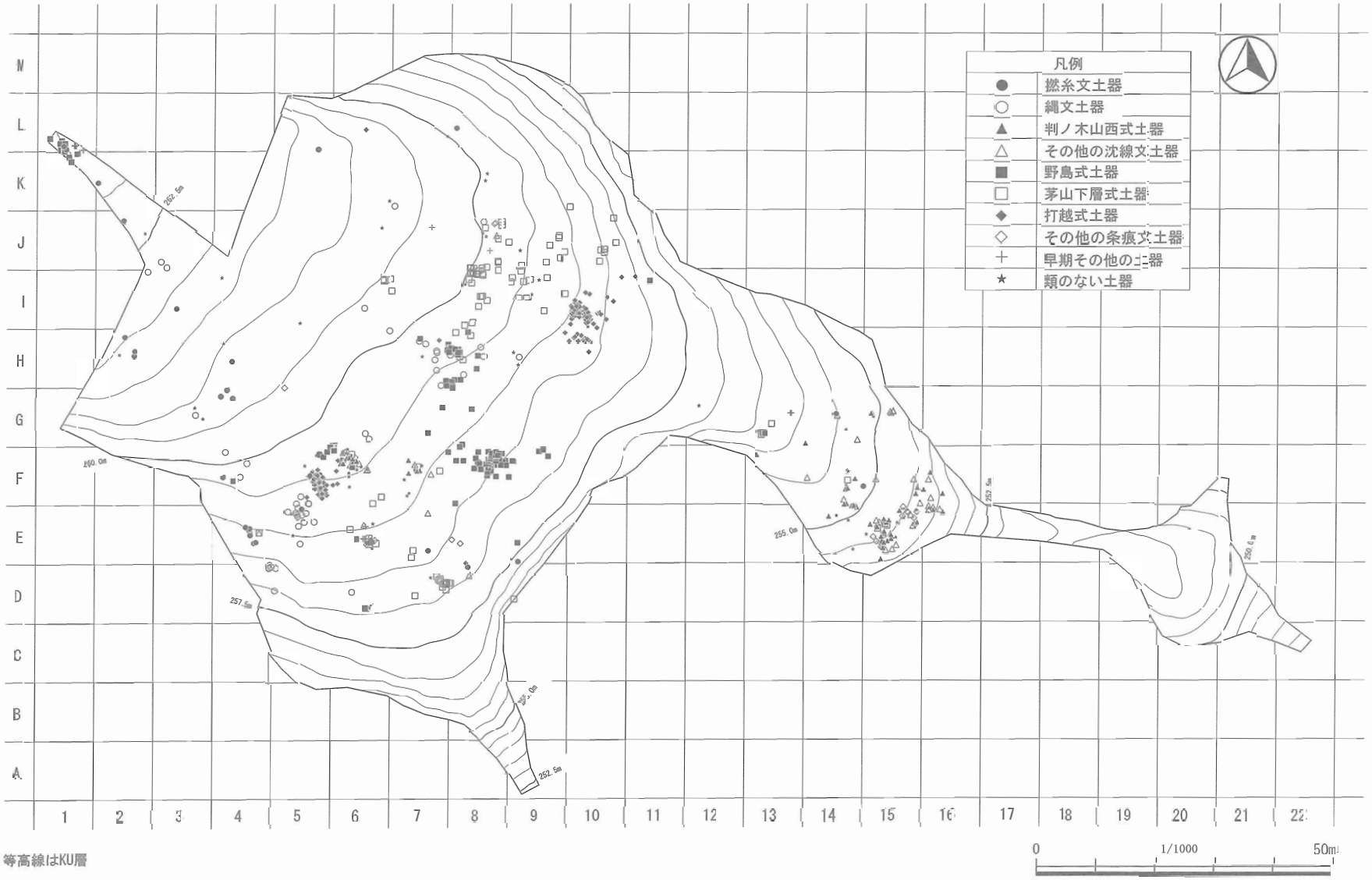
　イ　底部を平らにし、わずかに屈曲させる　（中期その他２）

第２節　縄文時代早期の土器群

概要

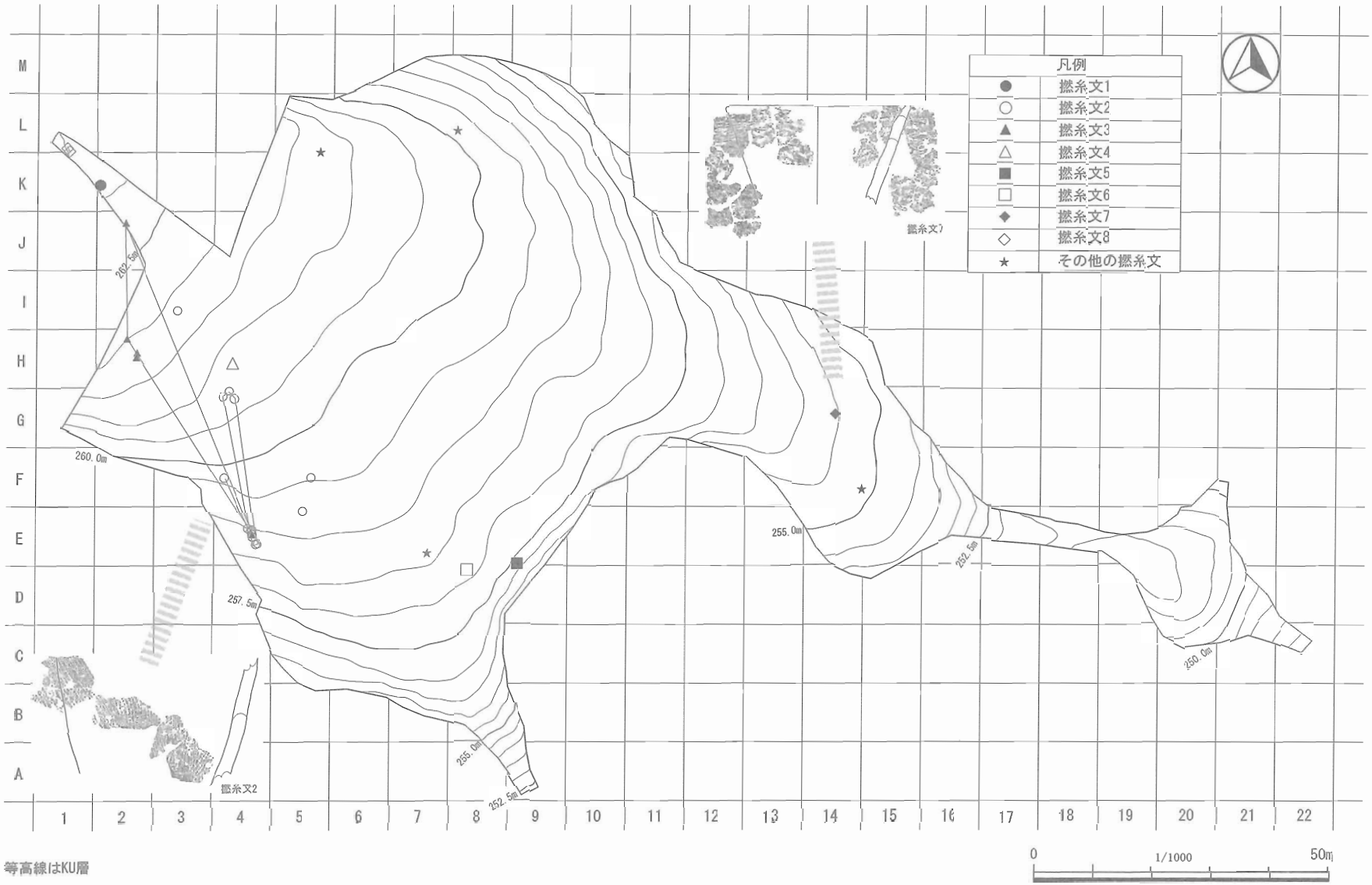
早期土器群は40個体である。土器型式別の分布を第33図に示した。早期土器群は大きく分けて４箇所程度の集中域が認められる。すなわち、EF５−８グリッド、EF14−16グリッド、HIJ７−10グリッドが該当する。前二つはちょうど縄文時代石器群の集中域と重なるか近い範囲である。後一つは、剥片石器類との重複が希薄ながら、礫石器類とよく重複する。このような分布傾向は特定土器型式と特定石器群とを結びつける材料とはならないが、しかし生業地点間の機能的差異を知るための材料としては重要である。

遺構は、以上の土器との層位対比により、１/８/17/25/28/30/31/32/33号集石が早期で、年代差はあるが、殆どが当該期後半のものと推定された（詳細は第６節を参照）。土坑の時期は、早期に限らず判別できないものが殆どだった。



等高線はKU層

第33図　早期土器群　型式別分布



等高線はKU層

第34図　撚糸文土器　個体別分布

出土土器の検討（第34-61図）

第34図は撚糸文土器の個体別分布を示したものである。調査区西部に偏在する小規模な集中が北西-南東に伸びる分布帯を形成する。本土器群は８個体が抽出された。

第35図１-３は撚糸文２の深鉢胴部破片の接合資料である。繊維を混和し輝石の少ない胎土で、底部に向かって緩やかに脹らむ器形を作り、胴部上部から中部にかけてRの撚糸で縦位ないし斜位に施文する。

４-７は撚糸文３の深鉢胴部破片の接合資料である。白色粒子がやや多く繊維を混和する明赤褐色の胎土で、底部に向かって緩やかに脹らむ器形を作り、胴部上部に撚糸文２よりも細いRの撚糸で縦位ないし斜位に施文する。各施文単位が短く、またしばしば逆斜位にも施文する。

第36図８-10は撚糸文７の深鉢口縁/胴部破片の接合資料である。輝石と黒色粒子が少なく、礫が多く、繊維を混和する鈍い赤褐色を呈する胎土で、口縁部から胴部下部に直線的に窄める。Rの撚糸で横位に疎らに施文する。

11は撚糸文１の深鉢口縁部破片である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する鈍い赤褐色の胎土を用いる。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。口縁部に細いLの撚糸で横位に施文する。

12は撚糸文４の深鉢胴部破片である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する、鈍い黄橙色の胎土を利用する。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。Rの撚糸で縦位に施文する。

13は撚糸文５の深鉢胴部破片である。輝石が少なく繊維を混和する赤褐色を呈する胎土を用いる。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。Rの撚糸で縦位に施文する。

14は撚糸文６の深鉢胴部破片である。石英、輝石、白色粒子が多く、繊維を混和し鈍い褐色を呈する胎土を用いる。Rの撚糸で横位に施文する。

15は撚糸文８の深鉢胴部破片である。輝石が少なく白色粒子が多い、繊維を混和する明赤褐色の胎土で、胴部上部から中部へと緩やかな逆Ｓ字を描く器形を作り、RLの網目状の撚糸で横位に施文する。接合するこの２点のほかに同一個体は認められなかった。

第37図は早期縄文土器の個体別分布を示したものである。本土器群は６個体が抽出された。その分布は大局的に見て、早期縄文１が集中するＨ７/８グリッドと、早期縄文４が集中するＥ５グリッドに分けられる。

第38図は早期に帰属すると思われる縄文土器である。

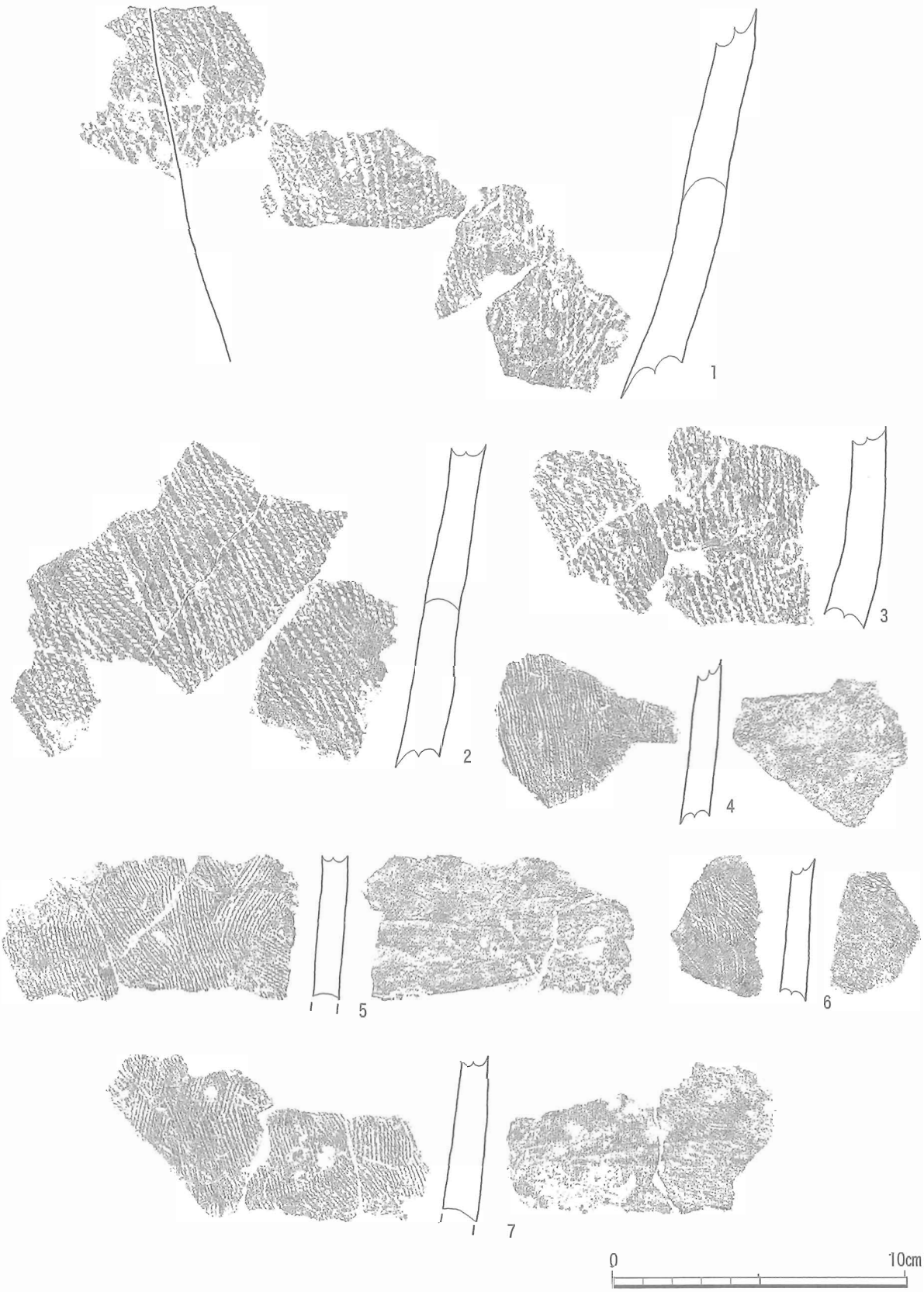
16-18は早期縄文１の深鉢口縁部の接合資料、19-21は同一個体の胴部破片の接合資料である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する胎土を用い、口縁部が開く器形を作り、口唇部と外面全体にLRの原体で縦位に施文する。

22/23は早期縄文２の深鉢口縁部破片の接合資料、24は同一個体の胴部破片の接合資料である。口縁部から胴部上部にかけての内外面にLRの原体で横位に施文する。

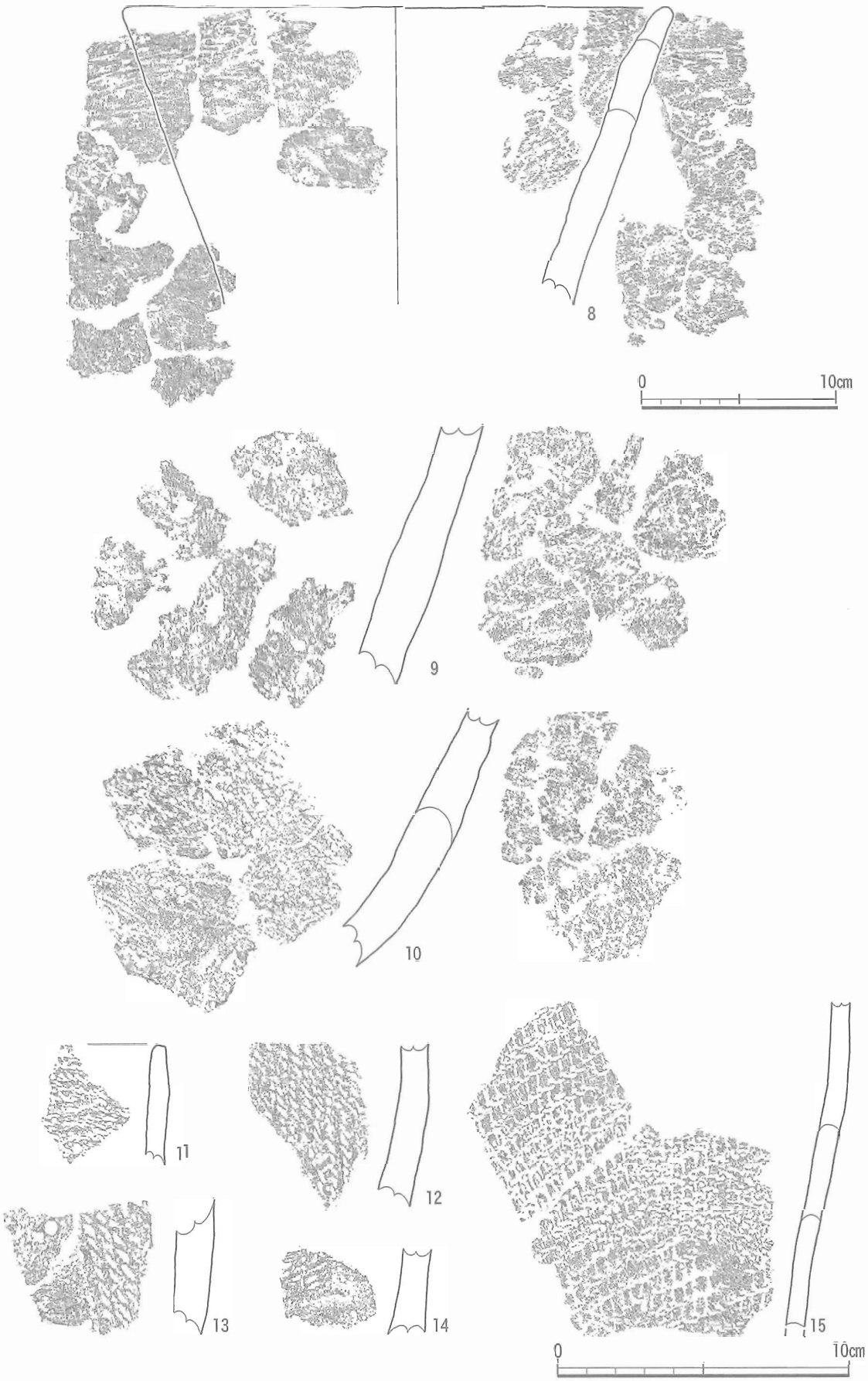
25は早期縄文３の深鉢口縁部、26は同一個体の胴部破片である。輝石と白色粒子が少なく繊維を混和しない胎土を用いる。口縁部から胴部の一部にかけての内外面にRLの原体で散漫に施文する。

27-30は早期縄文４の深鉢胴部破片の接合資料である。輝石が少なく、白色岩片がやや多く、繊維を混和させない胎土を用いる。胴部外面全体に太いRLの原体で縦位に施文する。打越１と分布位置が近いので垂直分布図を作成して検討したところ、早期縄文４が若干下位に包含されることが判った。

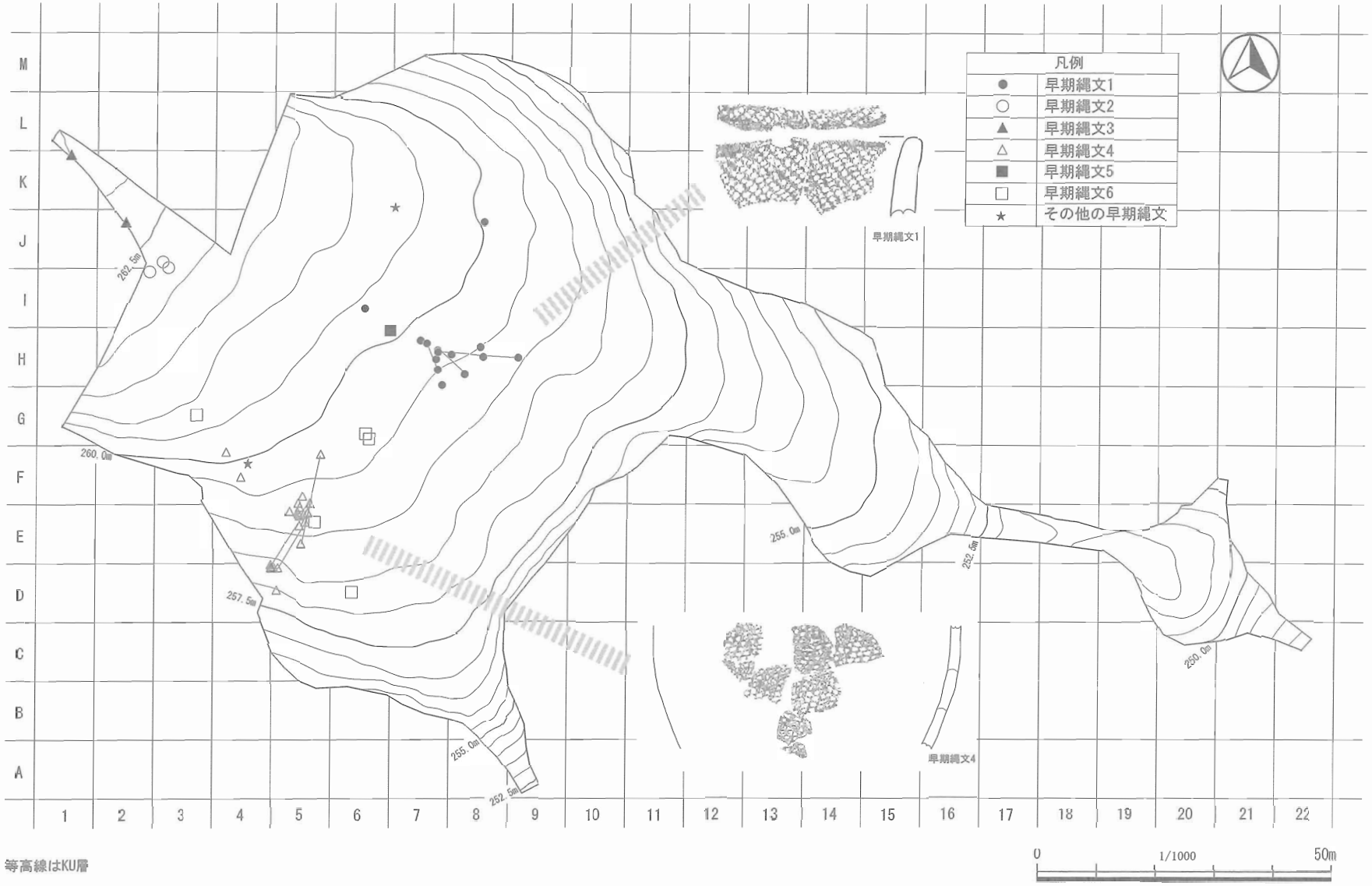
31は早期縄文５の深鉢胴部破片２点の接合資料である。白斑粒子がやや多く、繊維を混和させる胎土を用い、RLの原体で縄文を縦位に施す。



第35図　撚糸文土器（１）

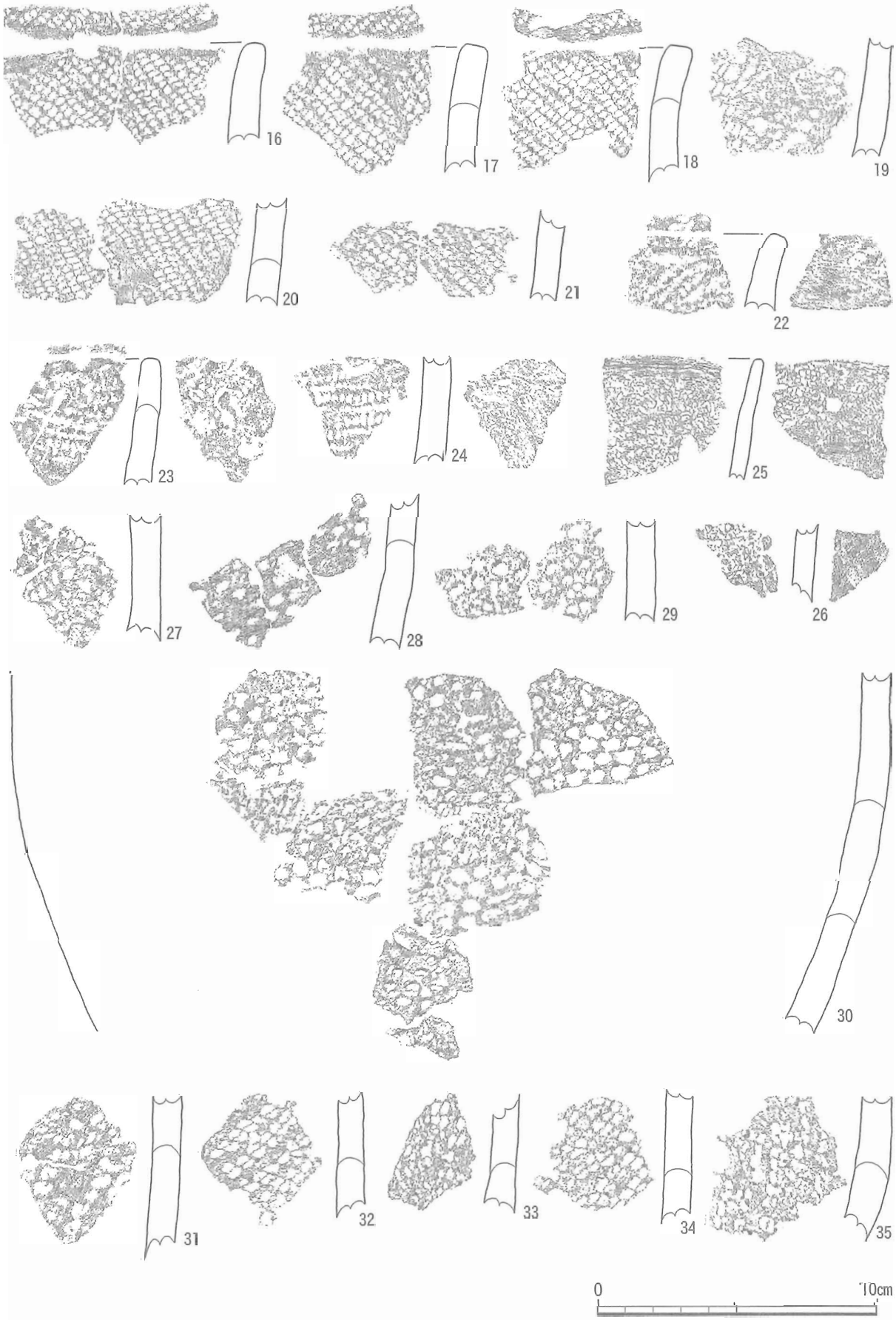


第36図　撚糸文土器（２）



等高線はKU層

第37図　早期　縄文土器　個体別分布



第38図　早期　縄文土器

32-35はそれぞれ早期縄文６の深鉢胴部破片の接合資料である。白色粒子がやや多く、繊維を混和させる胎土を用い、RLの原体で縄文を縦位に施す。

第39図は判ノ木山西式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は４個体が抽出された。その分布は判ノ木山西３が集中するEF13-16グリッドと判ノ木山西２が集中するF６/７グリッドに分けられる。あとで石器群の検討の際にも述べるが、EF13-16グリッドは黒曜石が集中する範囲である。

第40-44図36-55は判ノ木山西式土器である。

36は判ノ木山西１の口縁部破片の接合資料である。石英が多く、輝石と白色粒子が少なく、繊維が混和する胎土を用いる。口縁部には下方から篦状工具で刺突列をいれる。

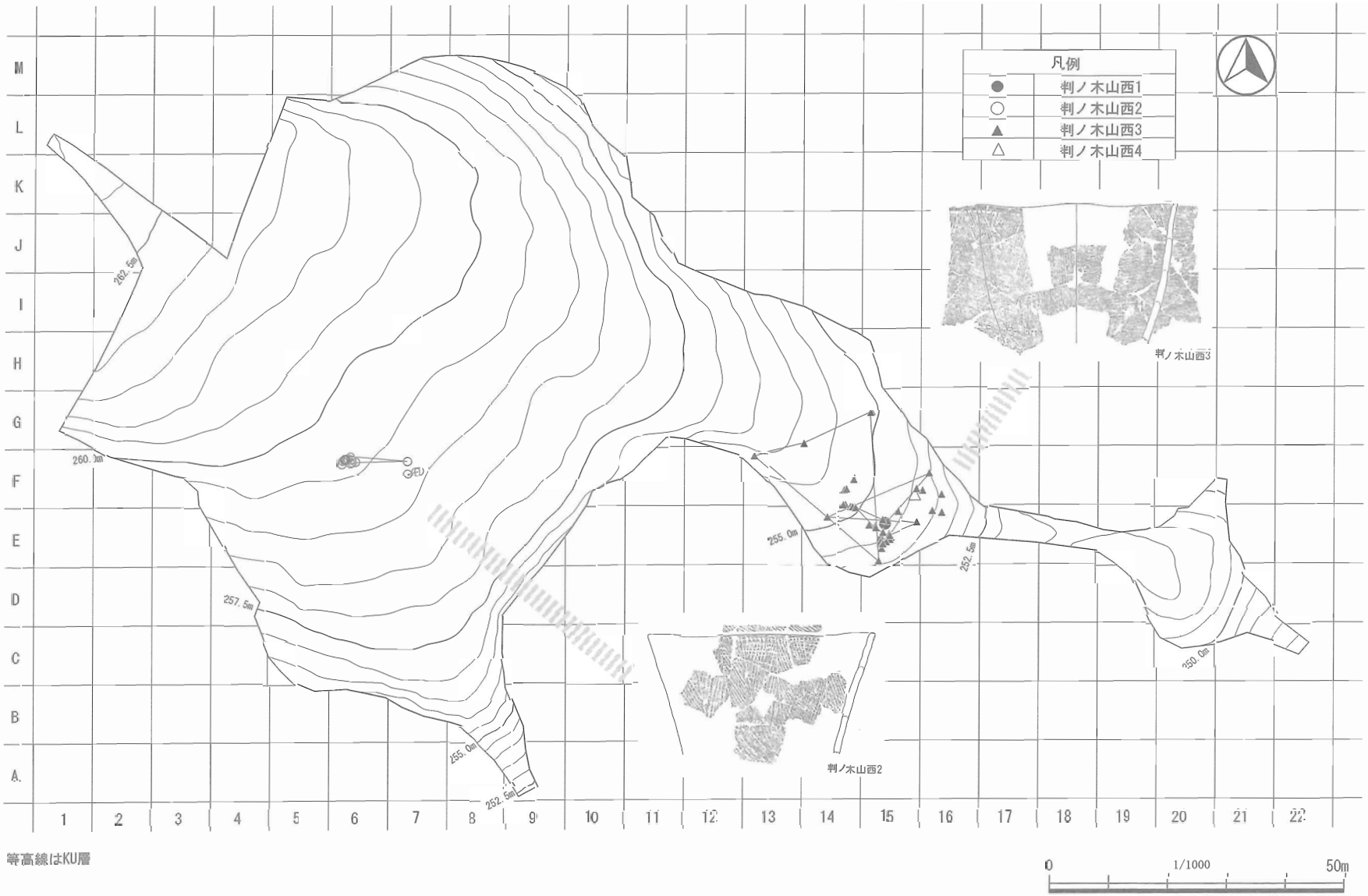
37-42は判ノ木山西式２の口縁部から胴部中部の接合資料である。37は上に外面、下に内面を提示している。石英が多く、輝石と白色岩片がみられ、赤色粒子が少なく、繊維が混和する胎土を用いる。口縁は緩やかな波状を呈する。内外面全体に貝殻腹縁状工具で左上から右下へ流れる器体整形を行う。これは口縁部で横走するが底部に向かうほど斜走するようになる。施文は、口唇部に短く斜行する刻み目をいれ、口縁には１本の沈線を引き巡らし、その上に重ねて１列の刺突列を巡らす。加えて胴部中部にも同様の刺突列を巡らす。次いで、両刺突列の間に左上から右下へ斜走する沈線を１本ずつ間隔をあけて引き、文様帯を縦に区画する。この区画内には矢羽状の沈線を充填する。なおこの沈線は、42に見られるように、文様帯を胴部で区画する刺突列の下位に及ぶこともある。器体調整以外の文様はおそらく全て同一の棒状工具で行っている可能性が高い。

43-54は判ノ木山西３の口縁部から胴部中部の接合資料および破片である。口縁は僅かに開く緩やかな波状を呈する。内外面ともに貝殻腹縁によると推測される器体調整がみられる。内面は横に、外面は左上から右下へ流れている。施文は、まず半截竹管状工具の腹面を用いて左右から襷がけ状の沈線を引き、これが器面を覆う。次いで口縁部に幅約５㎜の篦状工具で下から上へ突き刺し、１列で口縁を巡らす。また、胴部中部にも同様の列を形成する。判ノ木山西２とは異なり、口唇部に刻目はなく、また口縁の刺突列に先立って引き巡らす沈線もみられない。また、判ノ木山西２は刺突列による文様帯の区画が沈線に先行するが、判ノ木山西３は逆に沈線が刺突列に先行する。このような刺突列と沈線の施文順序の相違に、棒状工具の単独使用と篦状工具・半截竹管状工具の複合使用という施文工具選択の相違が対応する。なお、整理作業の終盤で53が43に接合することが判明した。

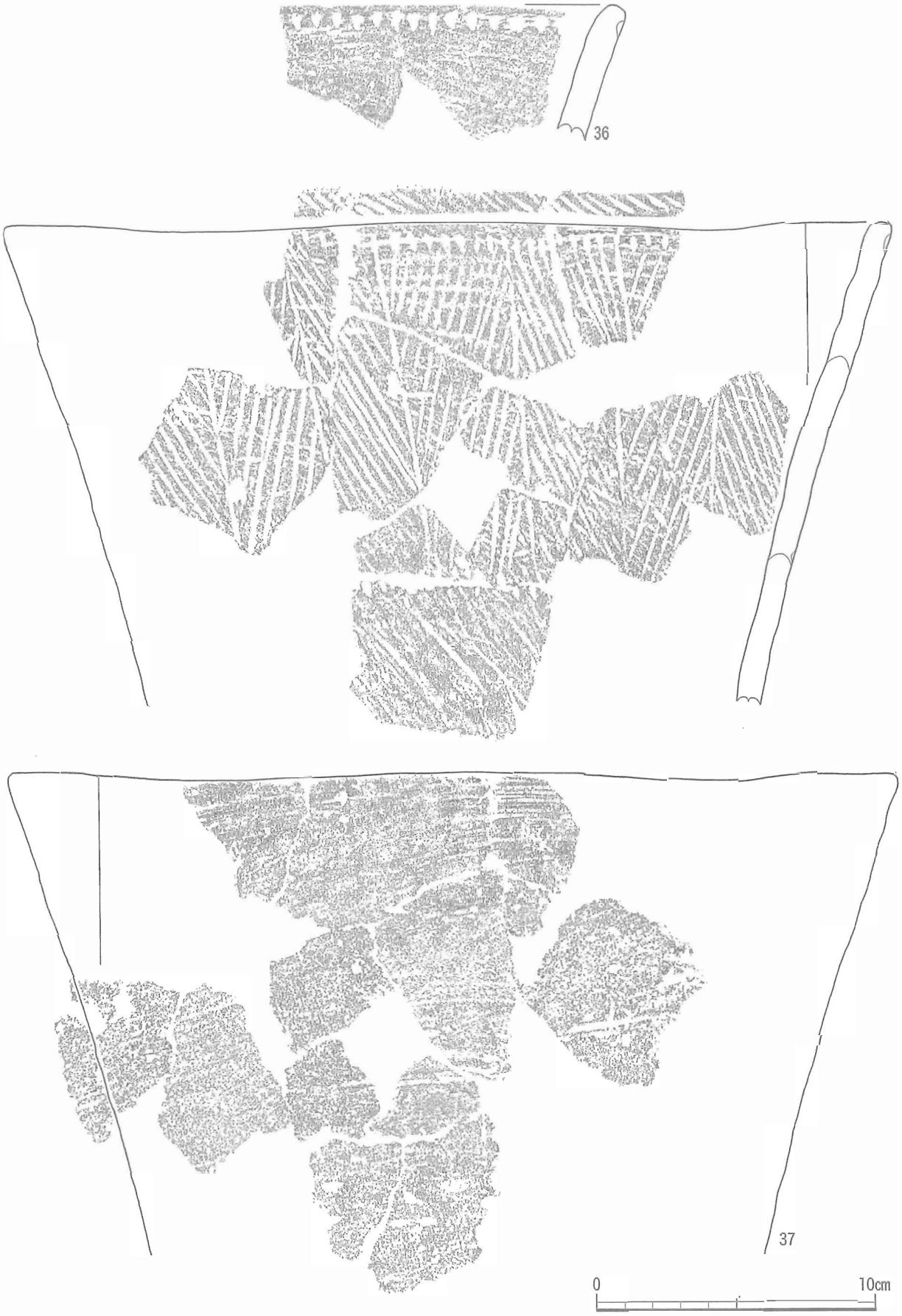
55は判ノ木山西４の胴部破片である。どういうわけか１点しか検出されていない。若干反っているので、おそらく胴部上部であろう。外面は沈線文で覆っているので分からないが、内面には器面調整がみられる。施文は、半截竹管状工具で交差しない斜めの沈線を交互に引き、次いで幅約４㎜の棒状工具で突き刺し、２列の刺突列を形成する。この施文順序は判ノ木山西２と共通する。

第45図は沈線文土器の個体別分布を示したものである。４個体が抽出された。その分布はEFG14-16グリッドとEF６/７グリッドを中心とする２箇所に大きく分けられる。両集中はともに判ノ木山西式土器の分布と重なっており、共伴関係にある可能性が高い。

第46図62は沈線文１の接合資料である。繊維を多く混和させる胎土を用いる。口縁部が開き、頸部の括れをつけてその下位から外湾させる深鉢である。文様はいささか複雑である。口唇部に刻目をつけ、口縁部最上部に右上から左下へ向かって平行する平行沈線を引く。次いで、この沈線の下縁に右下から左上に向かって突き刺す突刺列を巡らす。この下には、平行沈線を垂下させて区切る二様の文様を施す。ひとつは「へ」もしくは「ハ」の字形の沈線を４段充填する区画、もうひとつは平行沈線間に左上から右下に向かって斜行する沈線を充填する区画である。おそらくこれらの区画を交互に施して胴部最上部



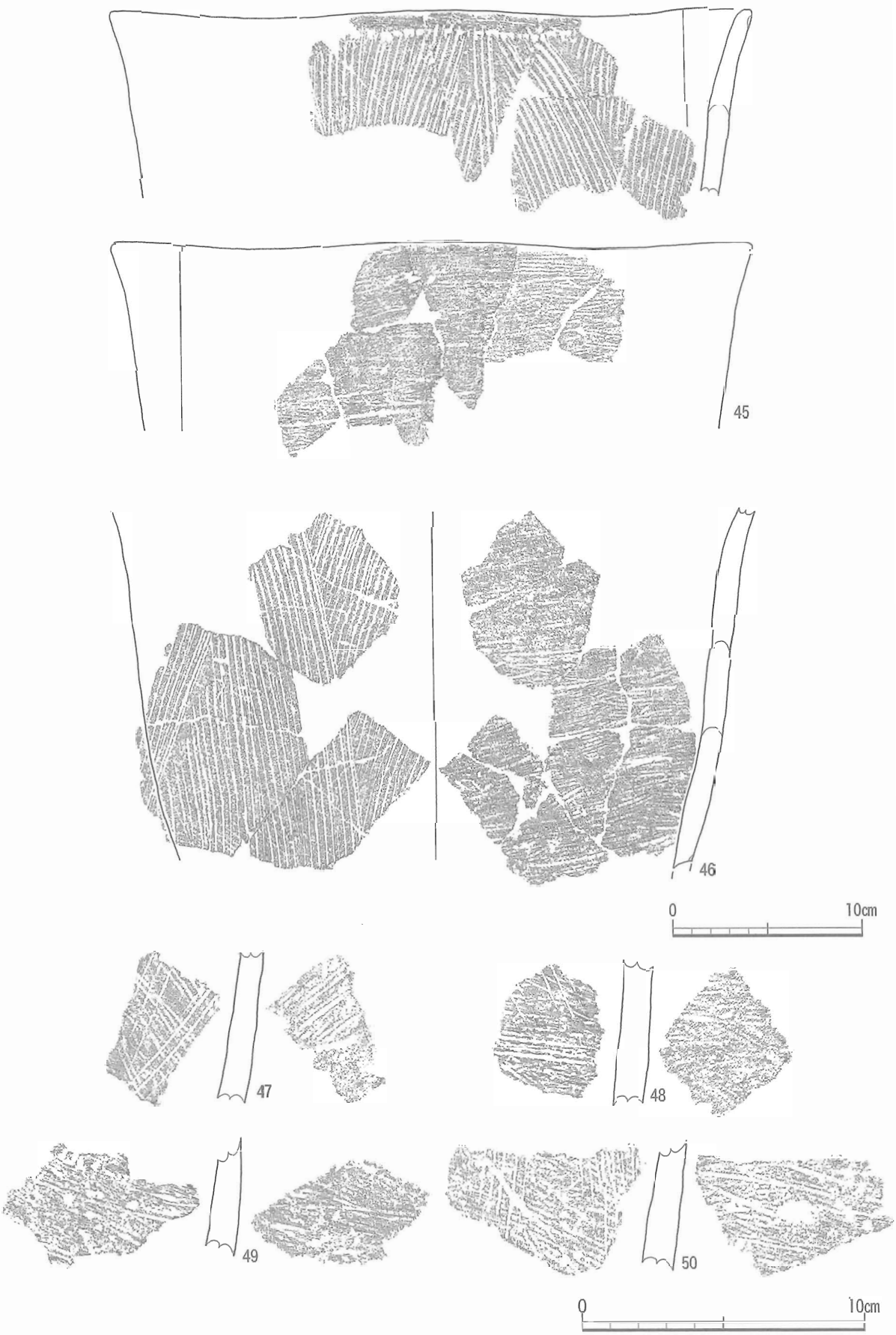
第39図　判ノ木山西式土器　個体別分布



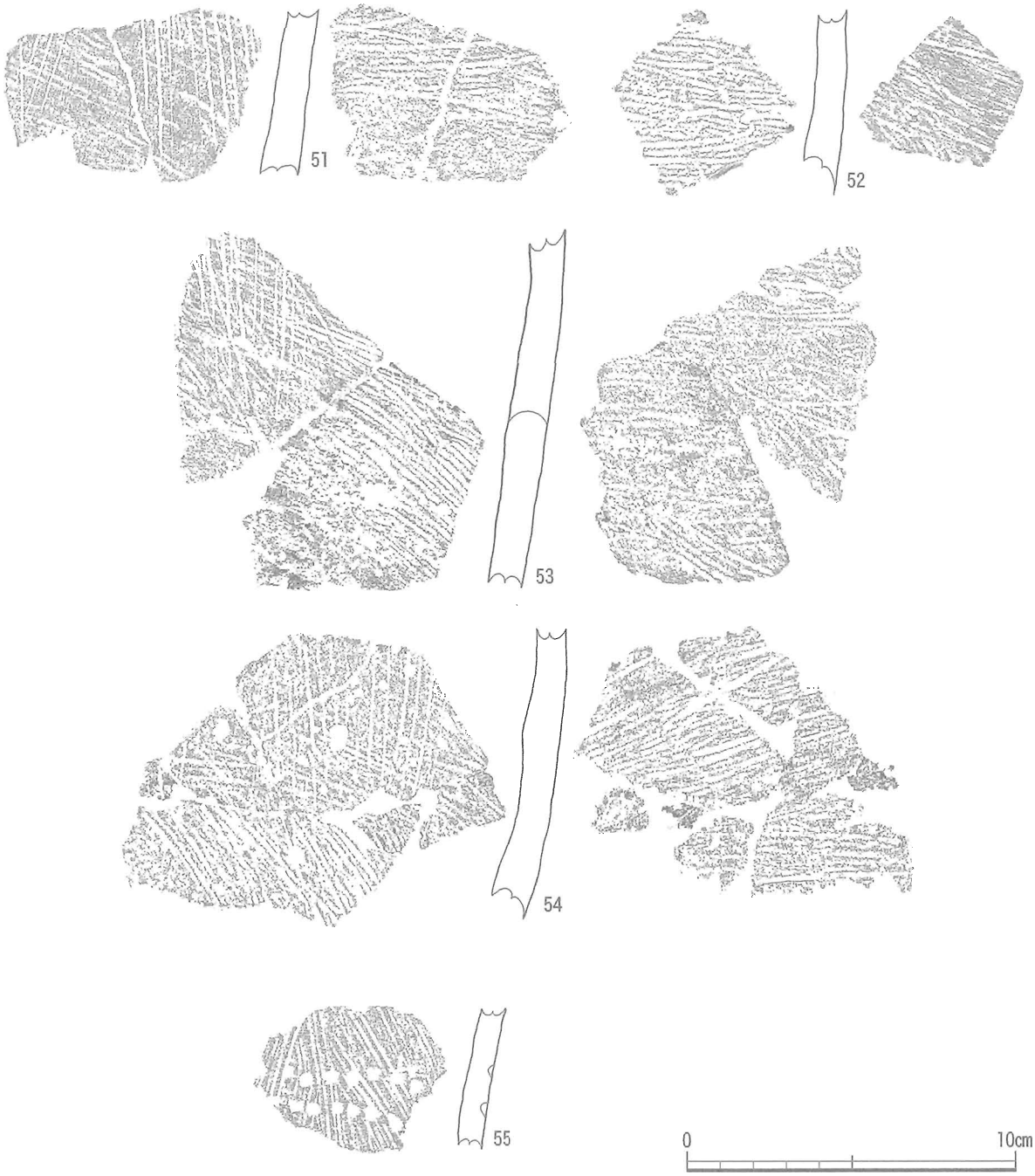
第40図　判ノ木山西式土器（１）

第41図　判ノ木山西式土器（２）

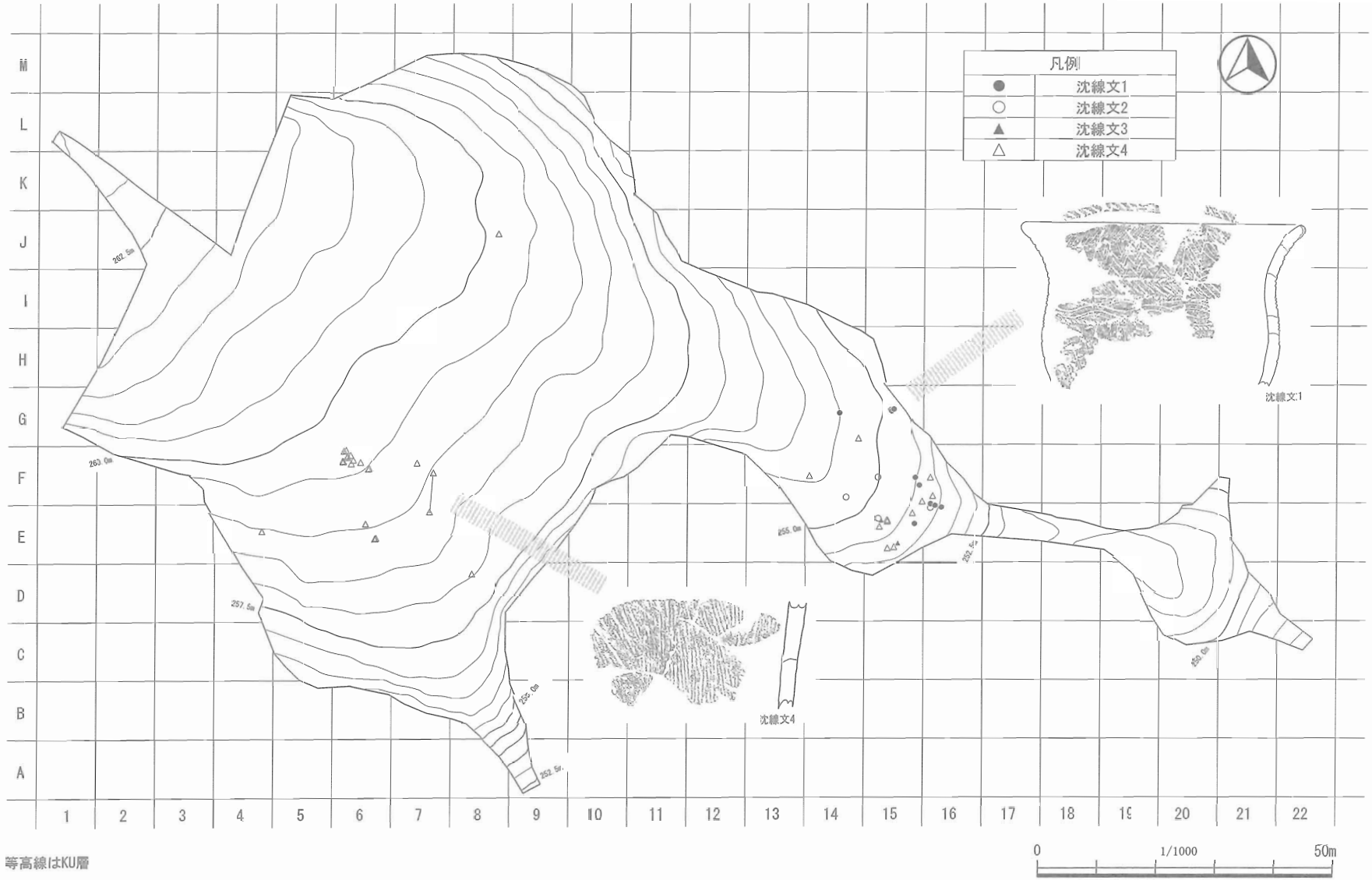
第42図　判ノ木山西式土器（３）



第43図　判ノ木山西式土器（４）

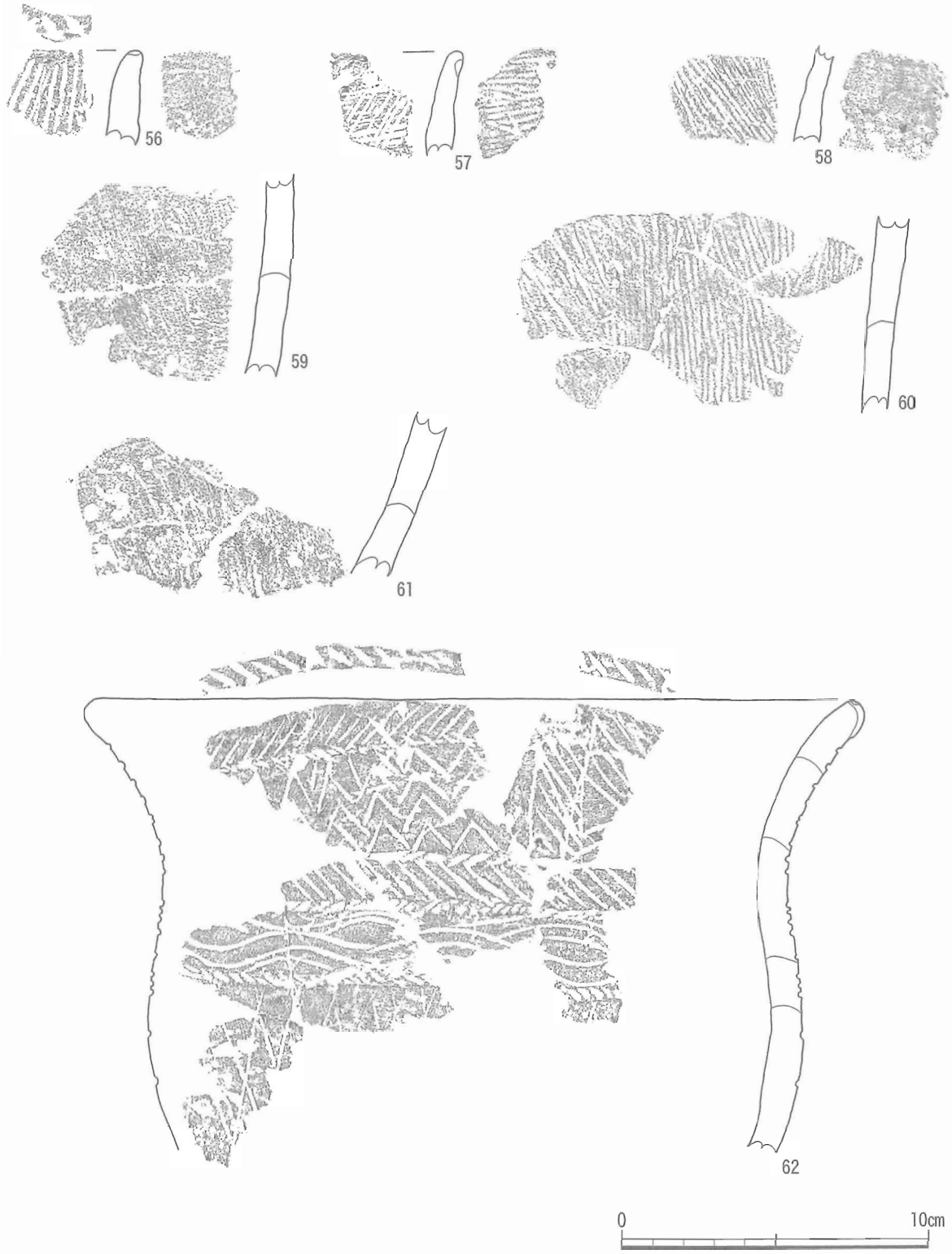


第44図　判ノ木山西式土器（５）



等高線はKU層

第45図　沈線文土器　個体別分布



第46図　沈線文土器

文様帯を構成する。この文様帯の下縁には右上から左下へ向かう刺突列を２列巡らせる。より上位の列が器形の括れの最も深い場所にある。この２列の間には左上から右下へ向かって斜走する平行沈線を充填するかに見えるが、実際には平行斜走沈線を先に施している。これらのあと、さらに波状の沈線文様を巡らし、この下縁に右下から左上に突き刺す刺突列を沿わせる。この下にはさらに右上から左下に斜走する平行沈線を引き、次いでこれを斜断する平行沈線を重ね、斜格子目文とする。検出部位の限りから、この文様の水平/垂直方向の文様はともに不明である。以上の全ての文様は篦状工具の角を用いている可能性が高い。近隣に類例が少ないので断定はできないが沈線文を主体とする数段の文様帯構成などは田戸上層式土器と類似する。

56は沈線文２の口縁部破片である。口唇部に篦状工具で刻目を入れ、胴部上部に斜位の沈線文を施す。

57と58は沈線文３のそれぞれ口縁部と胴部破片である。57は内外面に貝殻腹縁状工具で調整したあと、斜位の沈線文を施す。58は上部に向かって急速に薄くなる点やそりが急激になる点から、口縁部を僅かに欠いたものと思われる。斜位の沈線文を施す。57とは向きが異なるが、胎土と器厚、施文工具の特徴がよく類似するので同一個体と判断した。これが正しいなら、この個体の施文は斜格子状の沈線であろう。

59-61は沈線文４の胴部破片の接合資料である。その湾曲から60は胴部の上半、59と61は下半とみられ、とくに61は底部にかなり近い。60はやや反り返っているうえ、沈線文がより明瞭に観察される。

第47図は野島式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は３個体が抽出された。その分布は個体ごとに異なって、野島１はGH７/８グリッドに集中箇所と散漫な箇所とを織り交ぜ、早期縄文１と分布が大きく重なる。野島２はF５/６グリッドの境界で集中するものの、調査区の広い範囲に点在する。他方、野島３はF８/９グリッドの境界付近にほぼ限定して密度の高い集中を形成する。

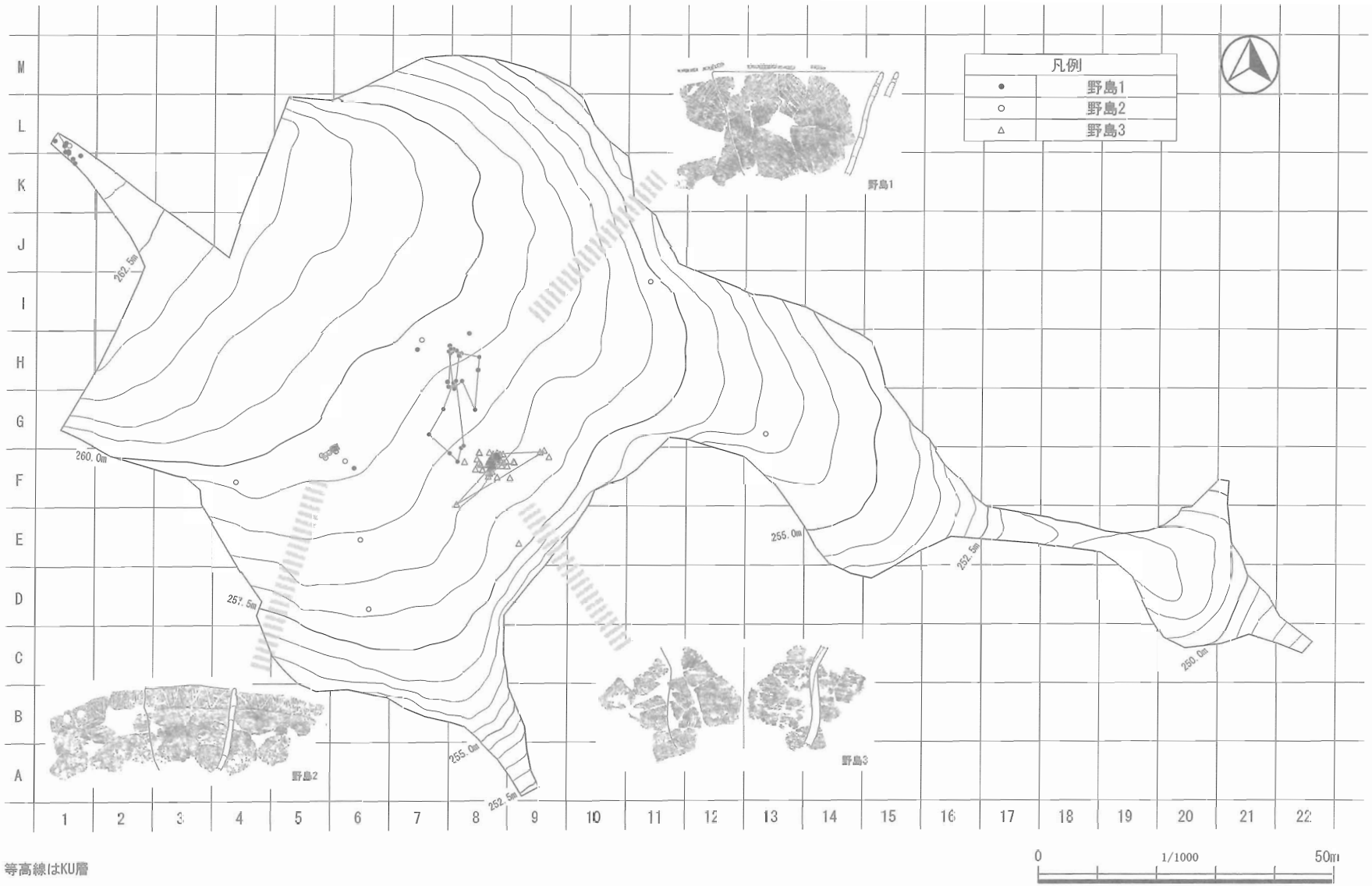
第48-50図63-72は野島式土器である。

63と64は野島１の深鉢口縁部から胴部破片の接合資料である。内面(63下)には調整痕が見られる。尖端が平らな工具で口唇部に刻み目を入れ、胴部上部に沈線を引く。沈線は９本を単位として右傾-左傾し、胴部上部の左から右へ左回転しながら順次引く入り組み文を構成する。胴部中部以下は無文である。

65は野島２の小型深鉢口縁部から胴部下部破片の接合資料である。緩やかな波頂部を３箇所有する波状口縁で、胴部上部の文様帯は段で区切られる。内面は刷毛状工具で調整する。文様は口縁部から胴部上部の段の間に半截竹管状工具で縦走する平行沈線を引き、次いで幅４㎜前後の刷毛状工具で文様帯をジグザグに斜断する沈線を引く。

66-72は野島３の深鉢口縁部から胴部破片の接合資料である。口唇部に刻目を入れ、口縁を波状にし、胴部上部に段を付け、その直下から括れをつける。口縁部から段の間に縦走する平行沈線を引く。この平行沈線は、68によく表れているように、２種類の太さが交互に施される。次いで、それらの沈線よりもやや太い工具で、先の沈線を斜断する入組み状沈線を引く。

第51図は茅山下層式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は３個体が抽出された。その分布はやや特異である。茅山下層１は大局的に３箇所に分布している。すなわち、HIJ７/８グリッド、DEF５-７グリッド、EFG13-15グリッドである。この分布範囲間での接合関係がないので、それごとに個体が異なる可能性を考慮し、胎土や接合関係を再確認したが、明確な証拠は見いだせなかった。対照的に茅山下層２は茅山下層１の分布する３箇所のうちHIJ７/８グリッドと重なって分布する。比較的まとまりのある一群といえる。茅山下層３は、整理作業上でかなりあとになってから茅山下層１から分離したものである。こちらは茅山下層２の分布範囲とよく重なるが、点数が少なく実態はよくわからない。

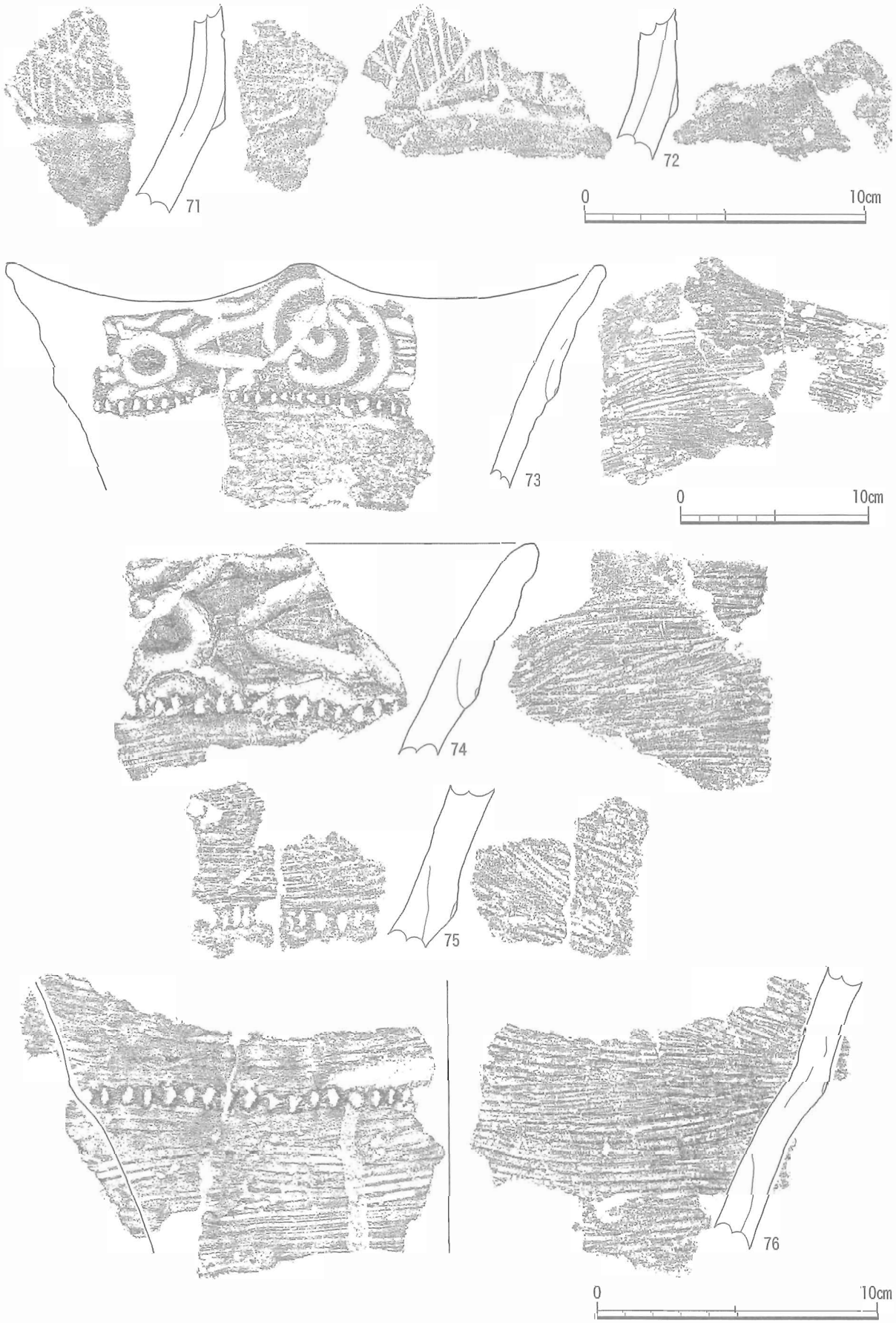


等高線はKU層

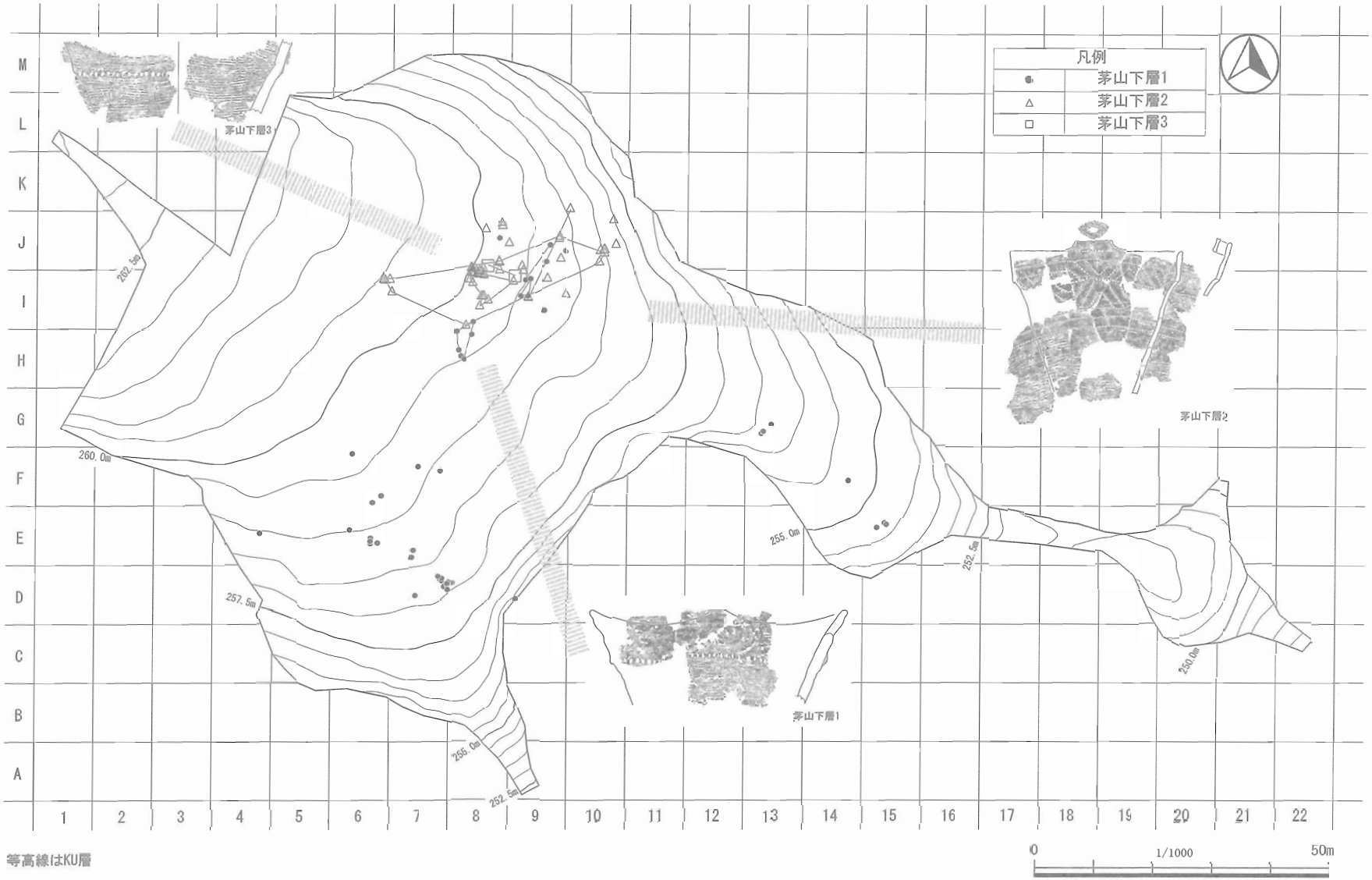
第47図　野島式土器　個体別分布

第48図　野島式土器（１）

第49図　野島式土器（２）

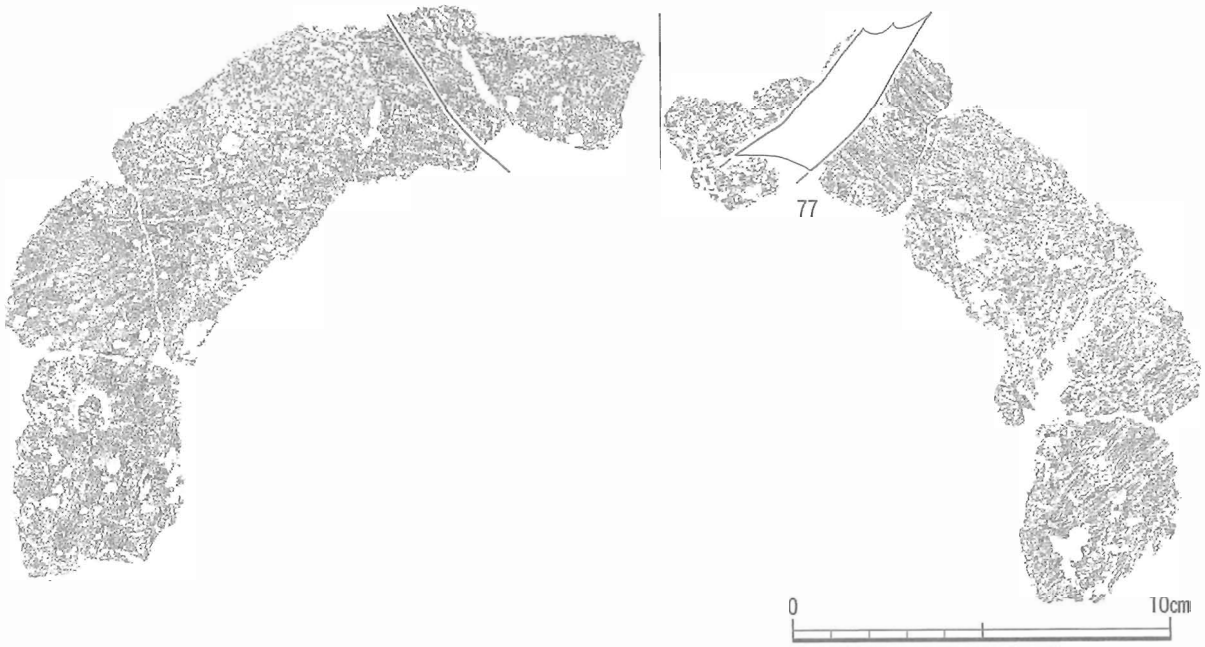


第50図　野島式土器（３）　茅山下層式土器（１）



等高線はKU層

第51図　茅山下層式土器　個体別分布



第52図　茅山下層式土器（２）

第50/52-54図73-81は茅山下層式土器である。

73-75/77は茅山下層１の深鉢口縁部から底部破片の接合資料である。白色粒子が多く、赤色岩片が少ない繊維を混和する胎土をもちいる。輪積みの最上段の接合面を盛り上がらせて胴部上部に段をつくり、口縁は波状にする。次いで器体内外面に貝殻腹縁状工具により横位の器体調整を施す。段の上に篦状工具で右から左へ突く連続的な刻目をいれ、文様帯を区画する。文様帯には指頭により流線形の沈線を引く（74/75）。この沈線は、とくに波頂部直下で渦巻文となる（73）。73の下端にも緩やかな輪積み接合面があらわれている。

76は茅山下層３の接合資料である。指頭圧痕文が文様帯全体に及んでいない。この個体の胎土は茅山下層１に極めて良く似ているものの、文様帯の指頭圧痕文が部分的で、粘土紐上の刺突が左から右へと突かれている。

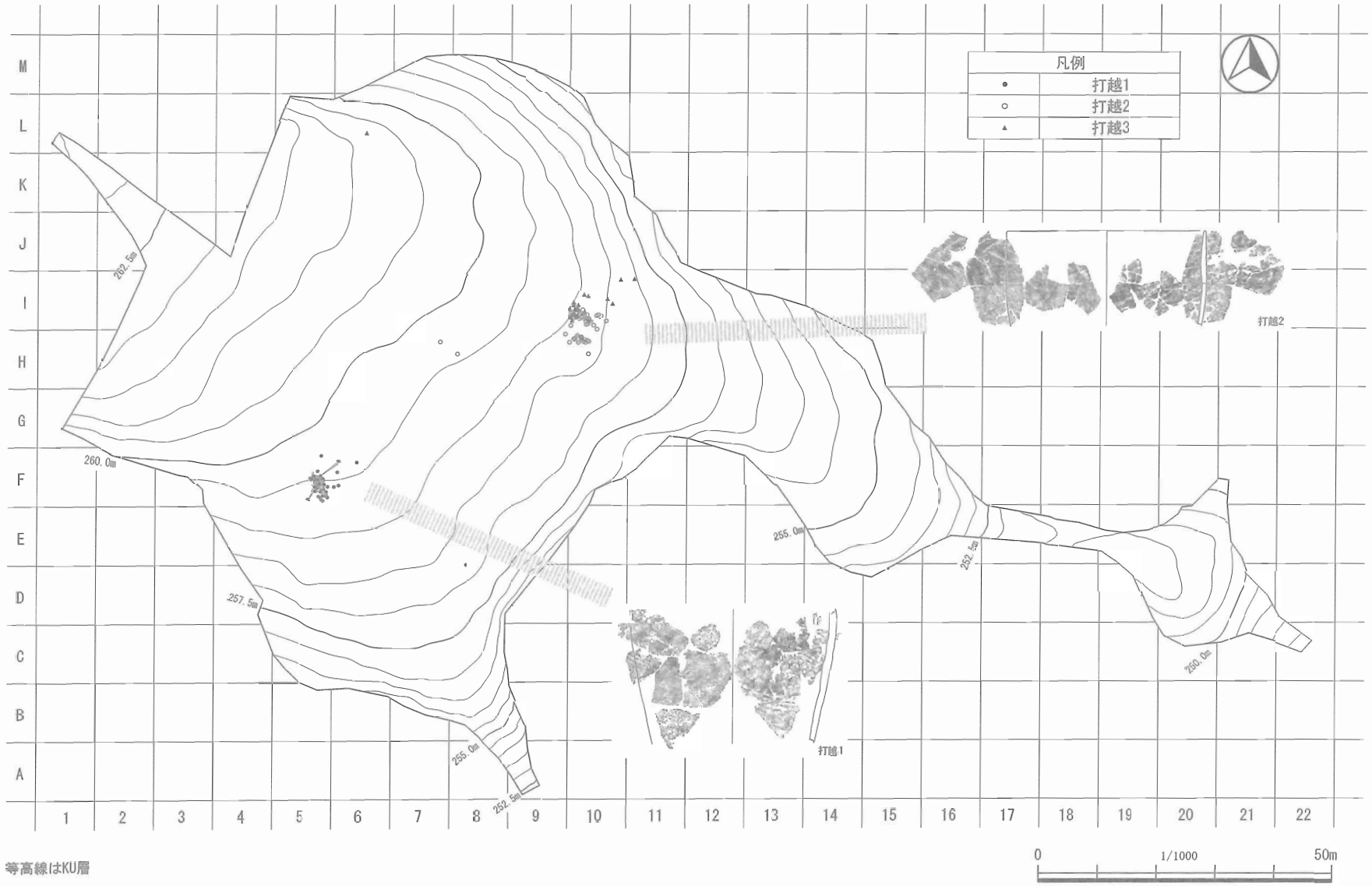
78-81は茅山下層２の口縁部から底部の接合資料である。石英が多く輝石がみられ、繊維の混和する胎土である。にぶい黄橙色を呈し、全体に白っぽい印象をうける。底部は平らにし、底面から２センチ程度の部位で括れをいれる。胴部上部と中部に緩やかな段をつけ、口縁は２箇所の波頂部に筒状突起部（78/80）のある波状にする。内外面に貝殻腹縁で調整を施す。器体上部は、棒状工具により、筒状突起部を含む口唇部内外面、口縁部外面等に刺突を施す。平行な刺突列を６列周囲に巡らし、上から３列目を軸として上下に反転する幾何学的な刺突列を充填する。なお、上から２列目と上部の段、６列目と下部の段の位置がそれぞれ対応関係にある。刺突列は内面にもあり、口唇部に沿うもののほかに、筒状突起に３列みられる。

第55図は打越式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は３個体が抽出された。分布は打越１がF５グリッド、打越２と３がI10グリッドに集中するほか、数点が遠くに飛散している。後者のグリッドには剥片石器類が皆無に近いが、その反面、大型の石皿を含む礫石器類が集中する。なんらかの加工作業が集積する地点だったのかもしれない。

第56-58/60図82-90は打越式土器である。

第53図　茅山下層式土器（３）

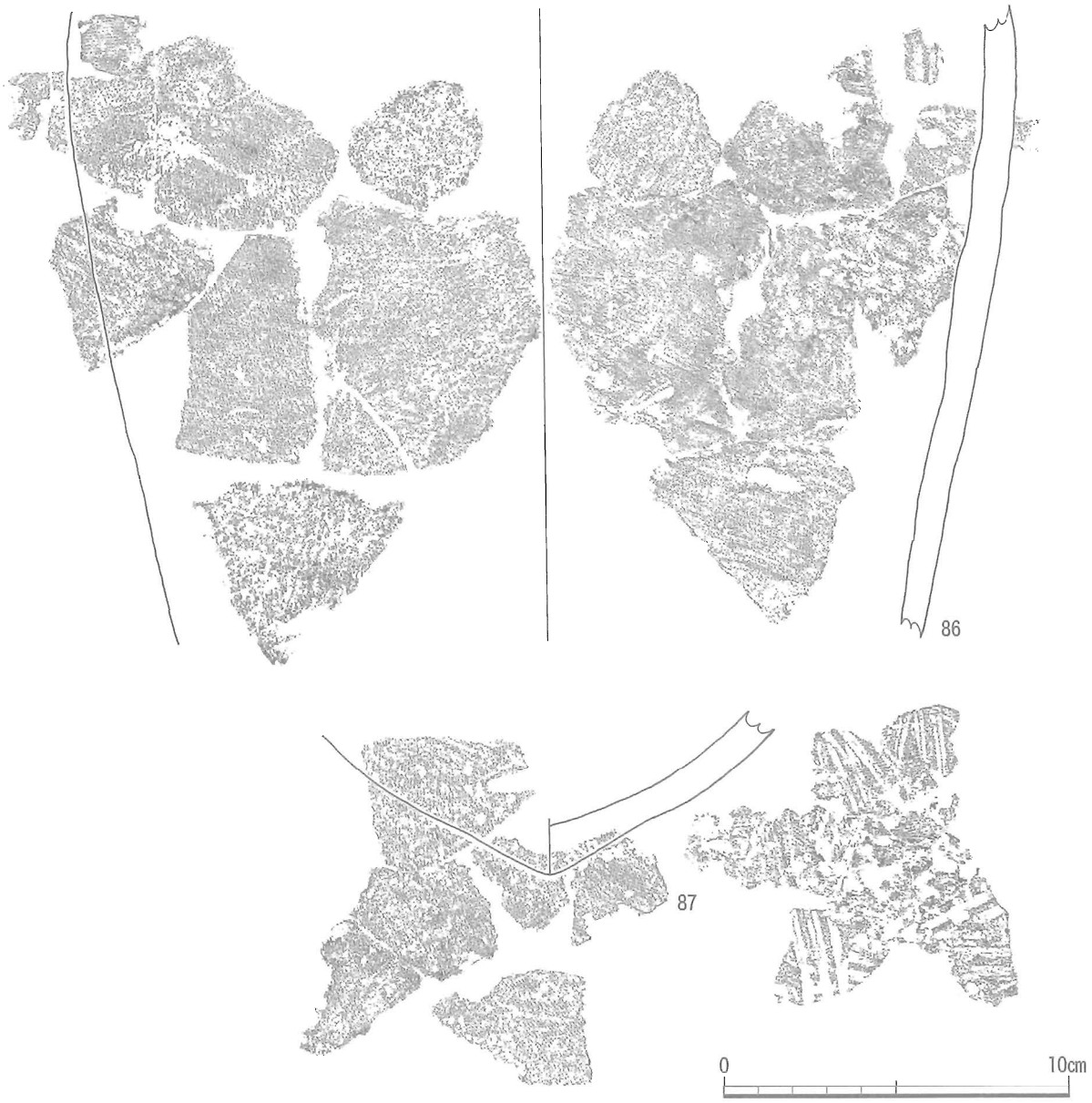
第54図　茅山下層式土器（４）



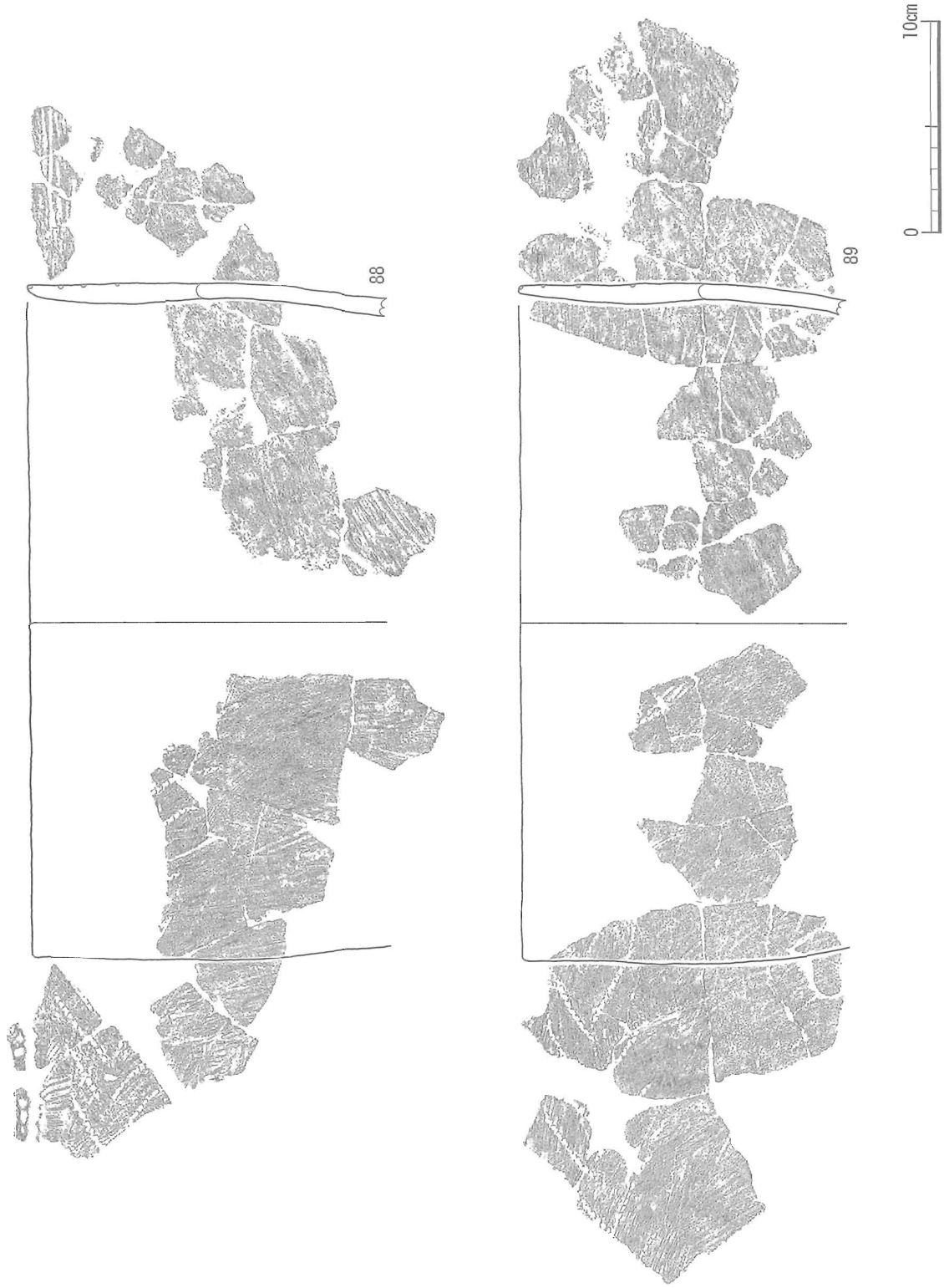
等高線はKU層

第55図　打越式土器　個体別分布

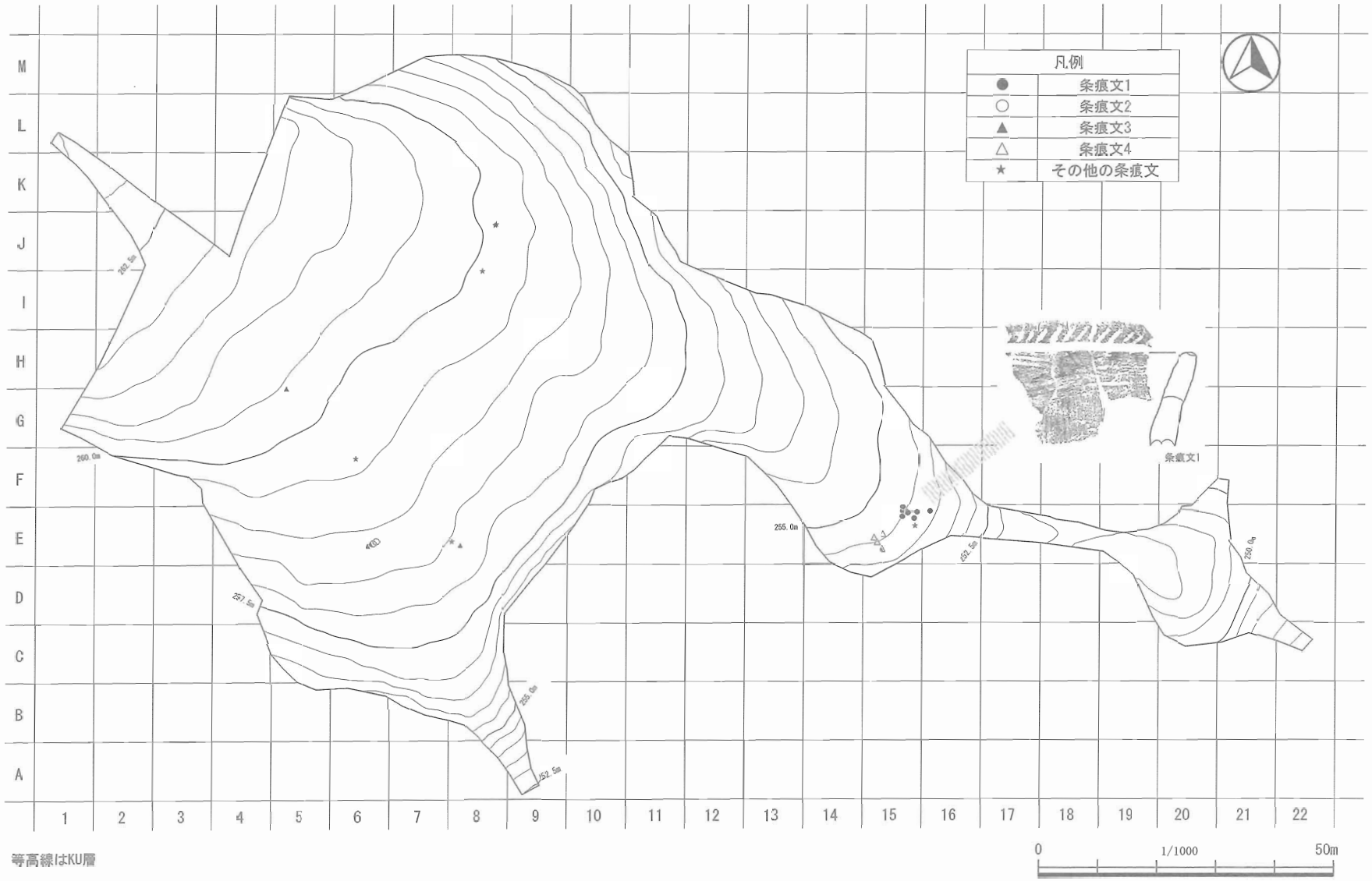
第56図　打越式土器（１）



第57図　打越式土器（２）



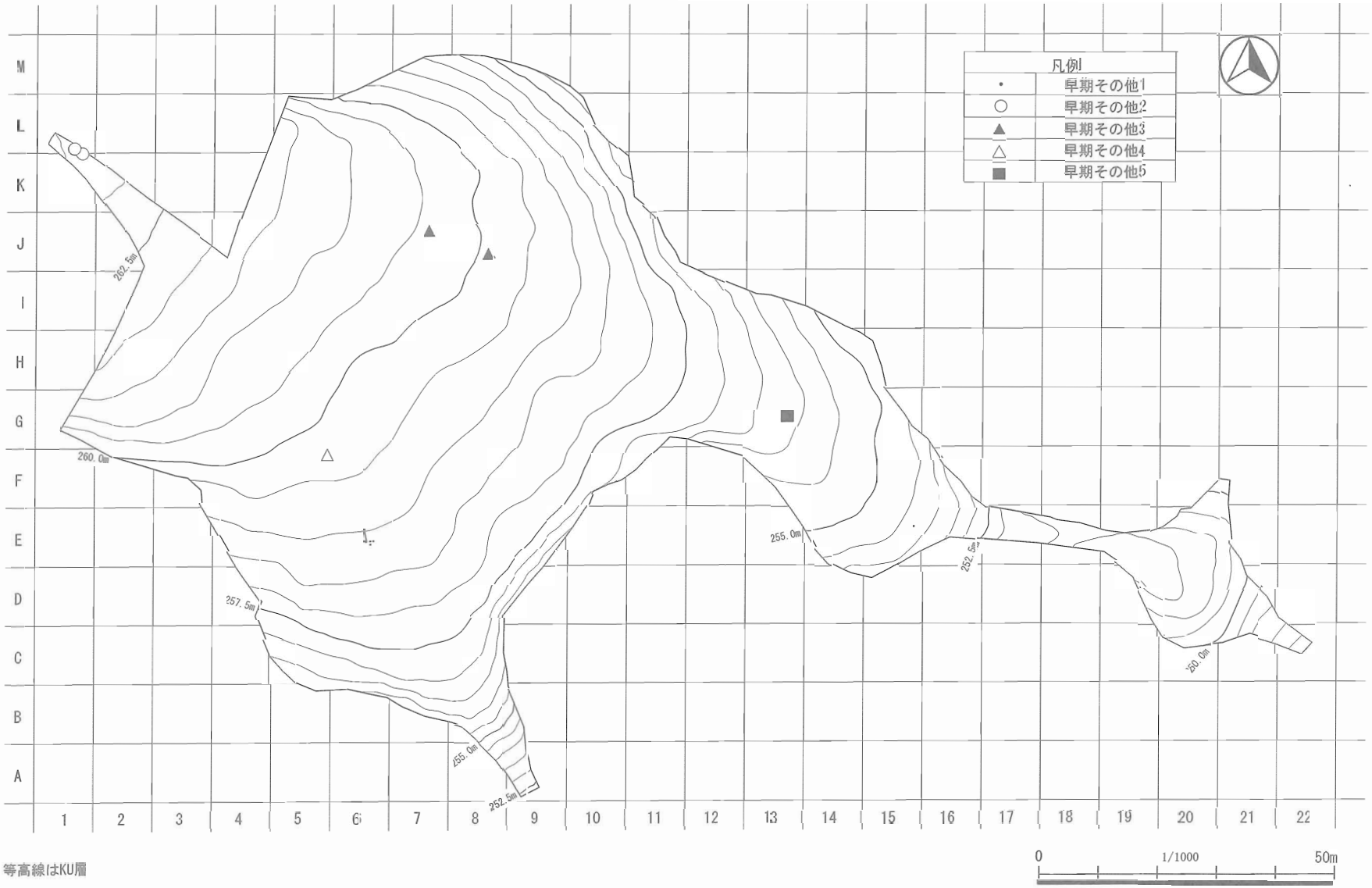
第58図　打越式土器（３）



等高線はKU層

第59図　その他の条痕文土器　個体別分布

第60図　打越式土器（４）　その他の条痕文土器



等高線はKU層

第61図　早期　その他の土器　個体別分布

82-87は打越１の深鉢口縁部から底部破片の接合資料である。繊維を混和させる胎土を用いる。緩やかな波状を呈する口縁部直下をやや括れさせ、胴部を緩やかに脹らませたうえ、底部は尖らせる。内外面に幅約６㎜の篦状工具で器面調整を行う。口唇部に篦状工具で刻目をいれ、胴部上部に貝殻腹縁文を施す。接合できた口縁の部位が小さいので施文のパターンが正確に読み取れない。

88と89は打越２の深鉢口縁部から胴部の接合資料である。口径約31㎝と比較的大形に整形し、内外面を貝殻状工具と刷毛状工具で調整する。口縁の形状は、接合部位が小さすぎて判然としないが、口唇部に貝殻腹縁による刻みをいれる。また、胴部上部に貝殻腹縁を押し付け、「く」の字形の連続する文様帯をつくる。

90は打越３の口縁部破片の接合資料である。口縁に刻目をいれ、胴部上部に貝殻腹縁で波状の刺突を下方に若干引くようにして施す。下位にもその一部とおぼしき痕跡が見られるので、この波状文様はおそらく２列あると推測される。

第59図は上記以外の条痕文土器群の個体別分布図である。本土器群は特定の型式に同定することができなかったものを一括しているが、とりあえず４個体が抽出された。E15グリッドの条痕文１とE６グリッドの条痕文２の分布域はそれぞれ限定的であり、個体分類制度は概ね良好といえよう。しかし、分類精度に若干問題があるのか、例えば条痕文３のように同一個体に分類されたものが遠く離れて散漫に分布している例も一部に認められる。

第60図91-97はその他の条痕文土器群である。

91-97は条痕文１の口縁部と胴部破片で、このうち91と92が深鉢口縁部の接合資料である。内外面を貝殻腹縁状工具で調整し、口唇部に篦状工具で刻目をいれる。

94と95は条痕文２の口縁部の接合資料である。内外面に条痕文を施す。

96は条痕文３の緩やかな波状口縁破片の接合資料である。内外面に条痕文を施す。

97は条痕文４の口縁部破片である。外面に条痕文を施す。

第61図は早期のその他の土器の個体別分布を示したものである。５個体が抽出された。いずれも数点程度で構成されるだけで、はっきりしない。ただし、早期その他１の分布はE６グリッドに集中し、これは茅山下層１と条痕文２の分布とよく重なるので何か関係があるかもしれない。

第60図98-103はこれらの土器である。文様が観察されないので型式等の詳細は不明である。98と99は早期無文土器の深鉢口縁部の接合資料である。分厚く整形する。100も口縁部の接合資料である。口縁部直下でやや湾曲する。101は胴部破片の接合資料である。102と103は底部破片の接合資料である。

第３節　縄文時代前期の土器群

概要

前期土器群は12個体である。抽出された型式は上ノ坊式と諸磯ｂ式で、あとは胎土から前期に比定されたが型式の判らない縄文土器があった。土器型式別の分布を第62図に示した。前期土器群には大きく分けて４箇所程度の集中域が認められる。すなわち、EF５/６グリッド、DE７/８グリッド、JL６、EF14/15グリッドである。JL６以外は早期土器群の一部とよく重なる。

EF５/６は石器群の集中域とも重なる。JL７/８は剥片石器類と礫石器類の双方とも重なる傾向がない。石斧の意図的な集積（石斧集中）が１箇所検出された。上ノ坊式土器に関連するものである。

遺構は、12号/16号集石が前期前半上ノ坊式とほぼ同時期で、２号土坑が諸磯ｂ式土器とほぼ同時期である。２基の集石は石斧集中と近い場所にある。

出土土器の検討（第63-69図）

第63図は上ノ坊式土器の個体別分布を示したものである。２個体が抽出され、分布も離れている。上ノ坊１は調査区北部のJ６グリッドとL６グリッドに分布する。上ノ坊２は調査区南部でE５グリッドに特に集中する。北部と南部で互いの個体が１点ずつ混入しているのがやや気にかかるが、個体分類に問題があるとは思われなかった。

第65図104-114は上ノ坊式土器である。

104-110は上ノ坊１の深鉢口縁部破片と胴部破片もしくはそれらの接合資料である。口縁部を肥厚させず薄く仕上げる。口縁部に篦状工具の角で約５㎜間隔に連続して突き刺し、横位に１列をつくる。また、その下に、おそらく同一の篦状工具で幅12-14㎜程度の右傾させた爪形を横位に２列施す。104-106に１列目、104の下部および107/108/110に２列目がみられる。109はどちらか判断できない。

111-114は上ノ坊２の深鉢口縁部破片と胴部破片もしくはそれらの接合資料である。上ノ坊１と同様に薄作りである。波状を呈する口縁部の輪積み外面と胴部の一部に文様を施す。幅８-９㎜程度の篦状工具を横に用いて５段または６段の連続的な刺突列を形成する。また、112の下部にみられるように、爪形状工具（爪かもしれない）により横位の列を形成する。

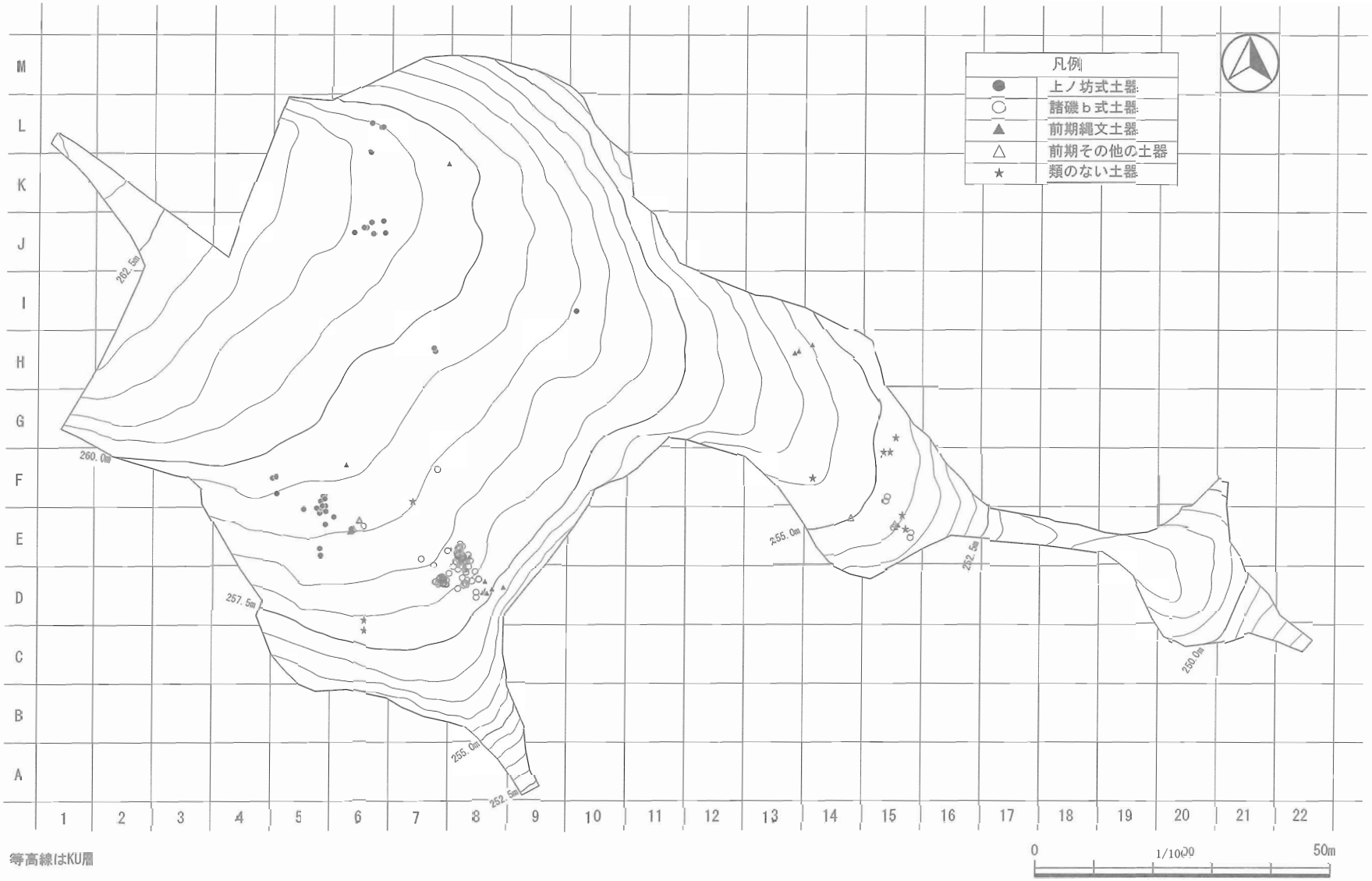
第64図は諸磯ｂ式土器の個体別分布を示したものである。５個体が抽出された。殆どがED７/８グリッドに集中し、５点（諸磯ｂ４と５）がE15グリッドないしその付近に分布する。しかし、両グリッドの土器には接合関係がない。

第65-67図115-128は諸磯ｂ式土器である。

115-118は諸磯ｂ１である。口縁部がキャリパー形を呈し（115-117）、括れた頸部の下に粘土紐を貼付け隆帯を形成する。口唇部と外面全体にRLの縄文原体で地文を横位に施し、次いで同様の部位に半截竹管状工具で周囲を巡る平行沈線を等間隔に施す。貼付けた隆帯上にジグザグの沈線を巡らして文様帯を形成し（118上部）、その上位に半截竹管状工具の端部（腹面を右する「C」字の状態で）を連続的に突き刺して横位の列を１列（117左下部、118上部）施文する。

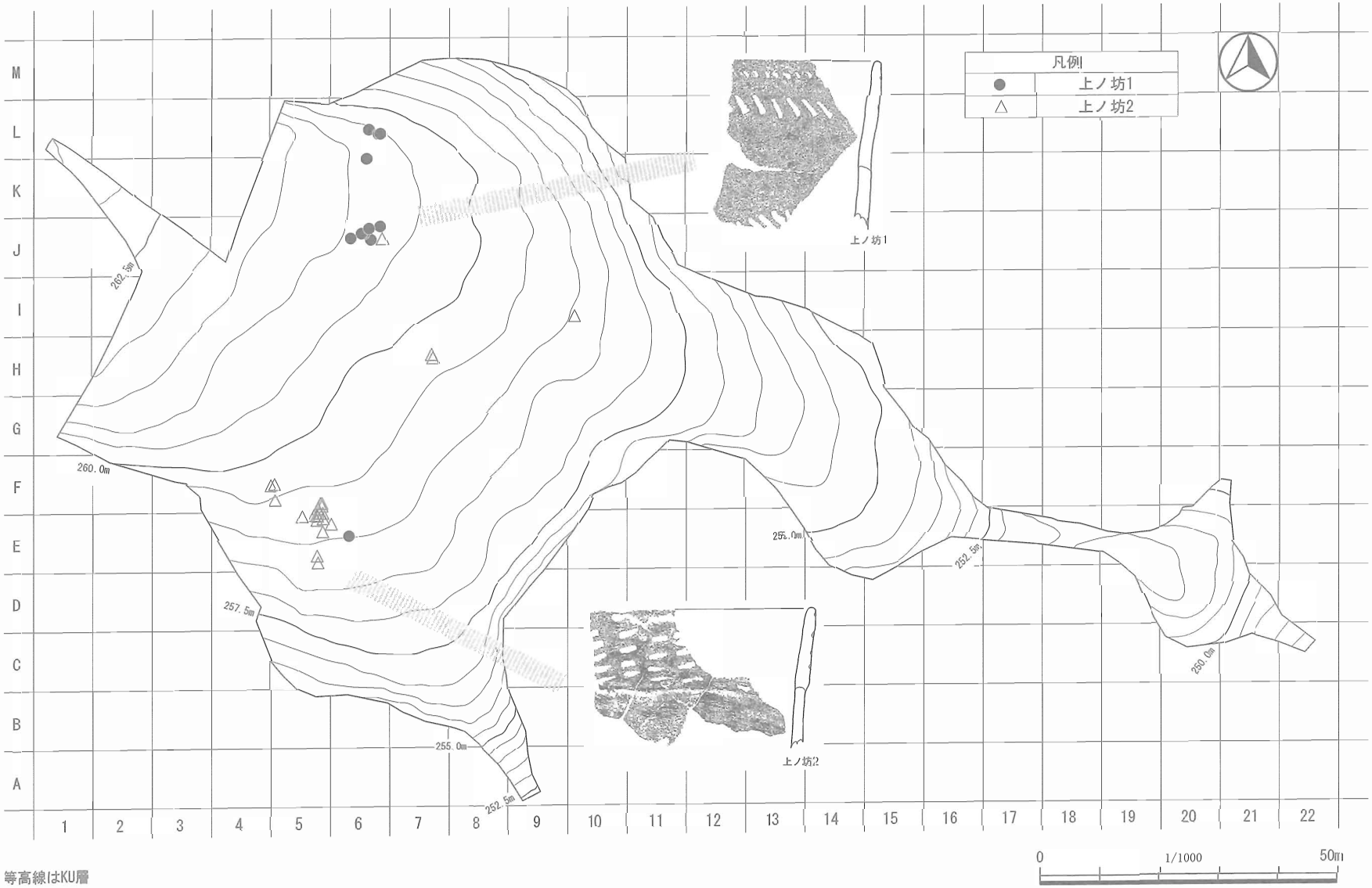
119-122は諸磯ｂ２の胴部破片とその接合資料である。緩やかに括れる胴部を形成する。Lの縄文原体を横位に施して地文とし（119）、半截竹管状工具により間隔を空けた平行沈線を引く。

123と124は諸磯ｂ３の胴部破片である。RLの縄文原体を横位に施し、隆起線の上位に細い棒状工具を連続的に突き刺して列を形成する（123）。



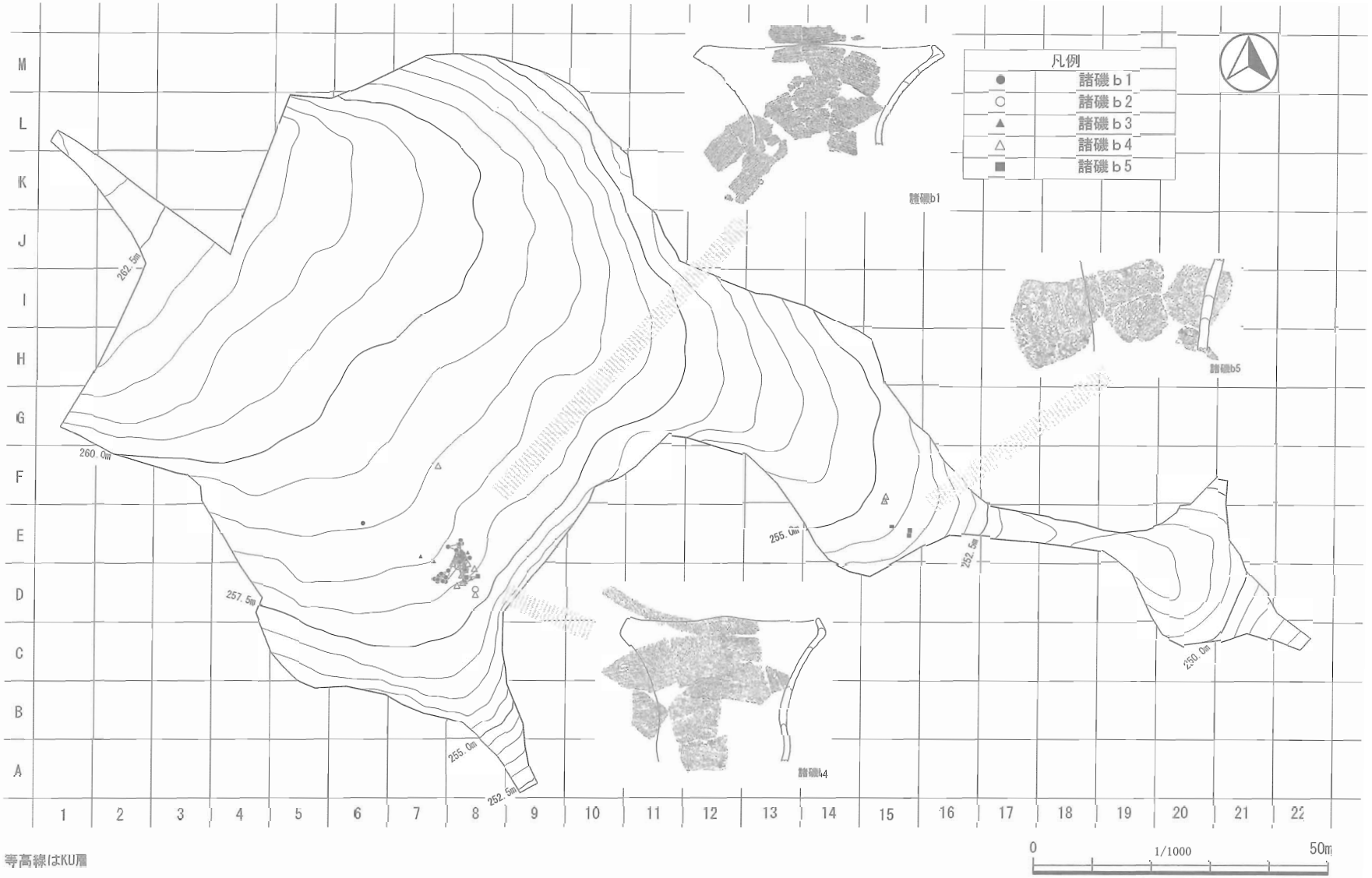
等高線はKU層

第62図　前期土器群　型式別分布



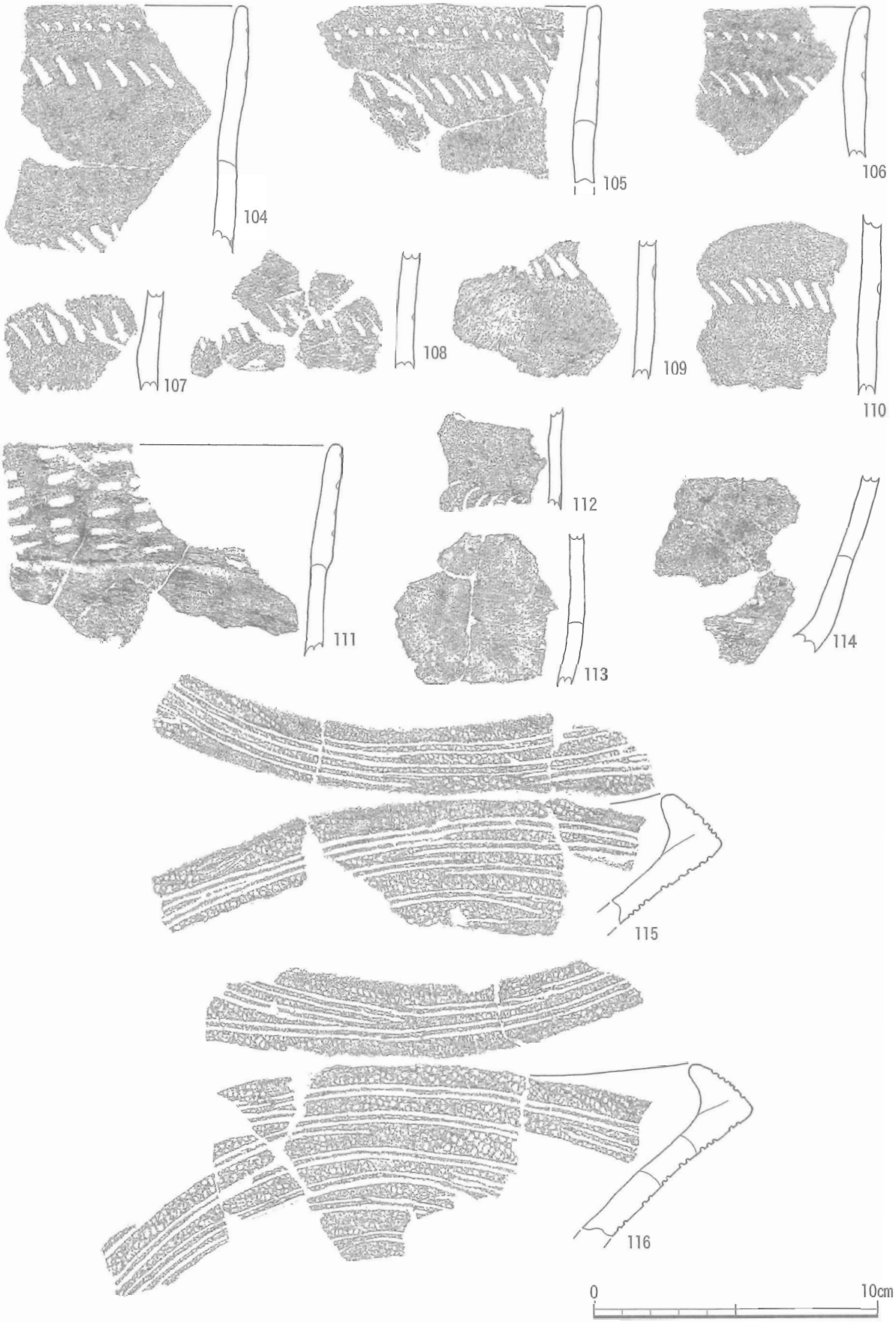
等高線はKU層

第63図　上ノ坊式土器　個体別分布

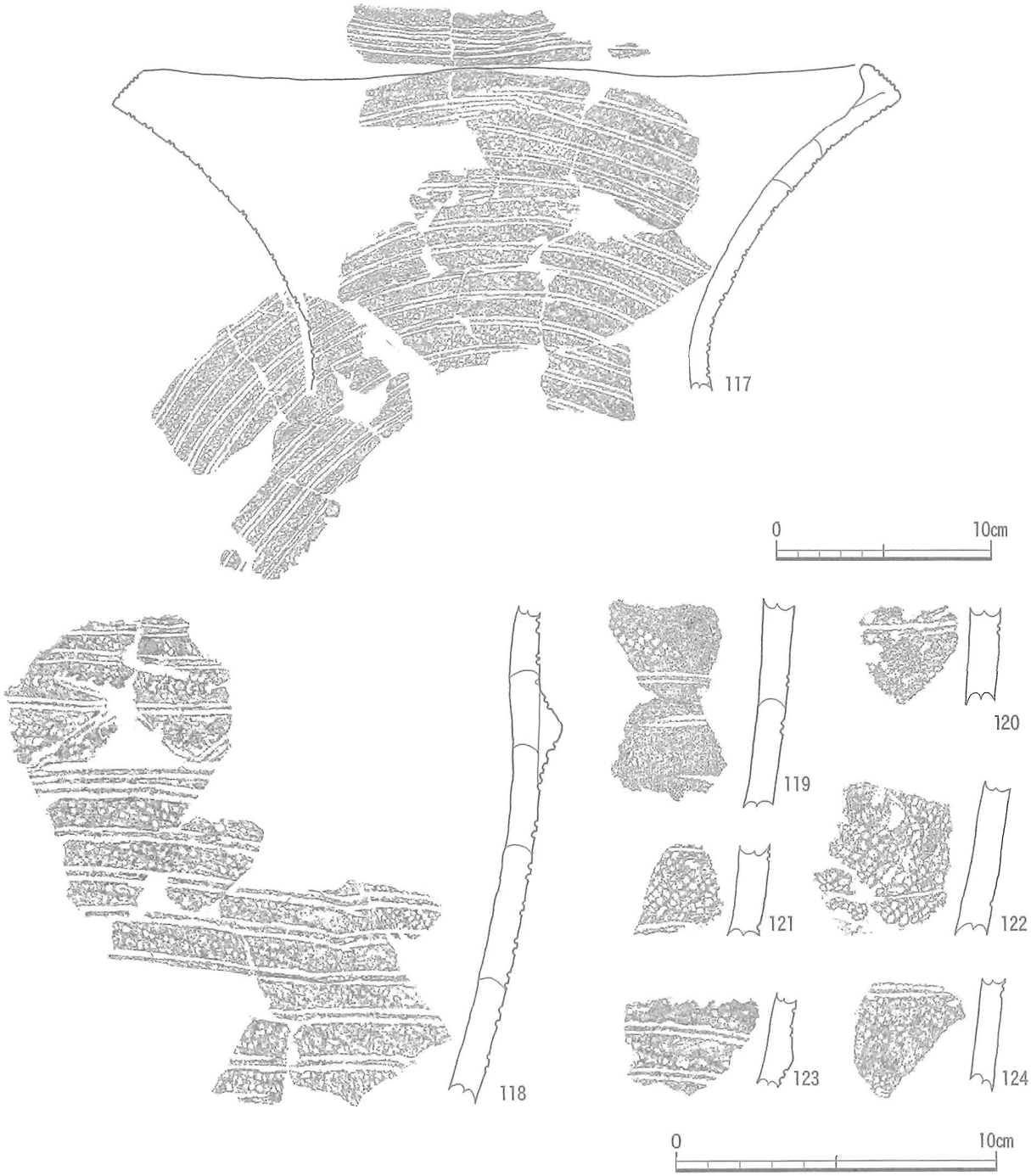


等高線はKU層

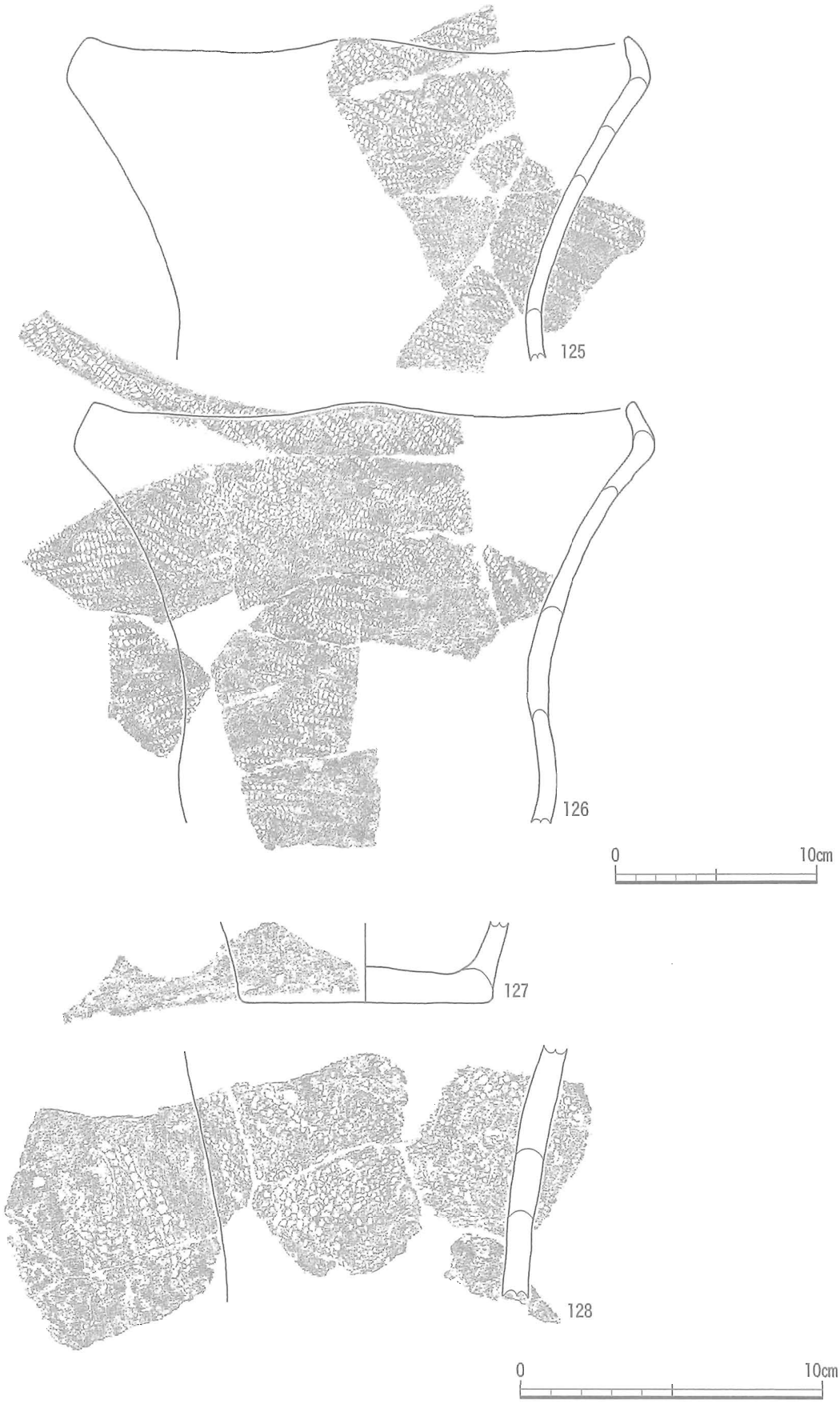
第64図　諸磯ｂ式土器等　個体別分布



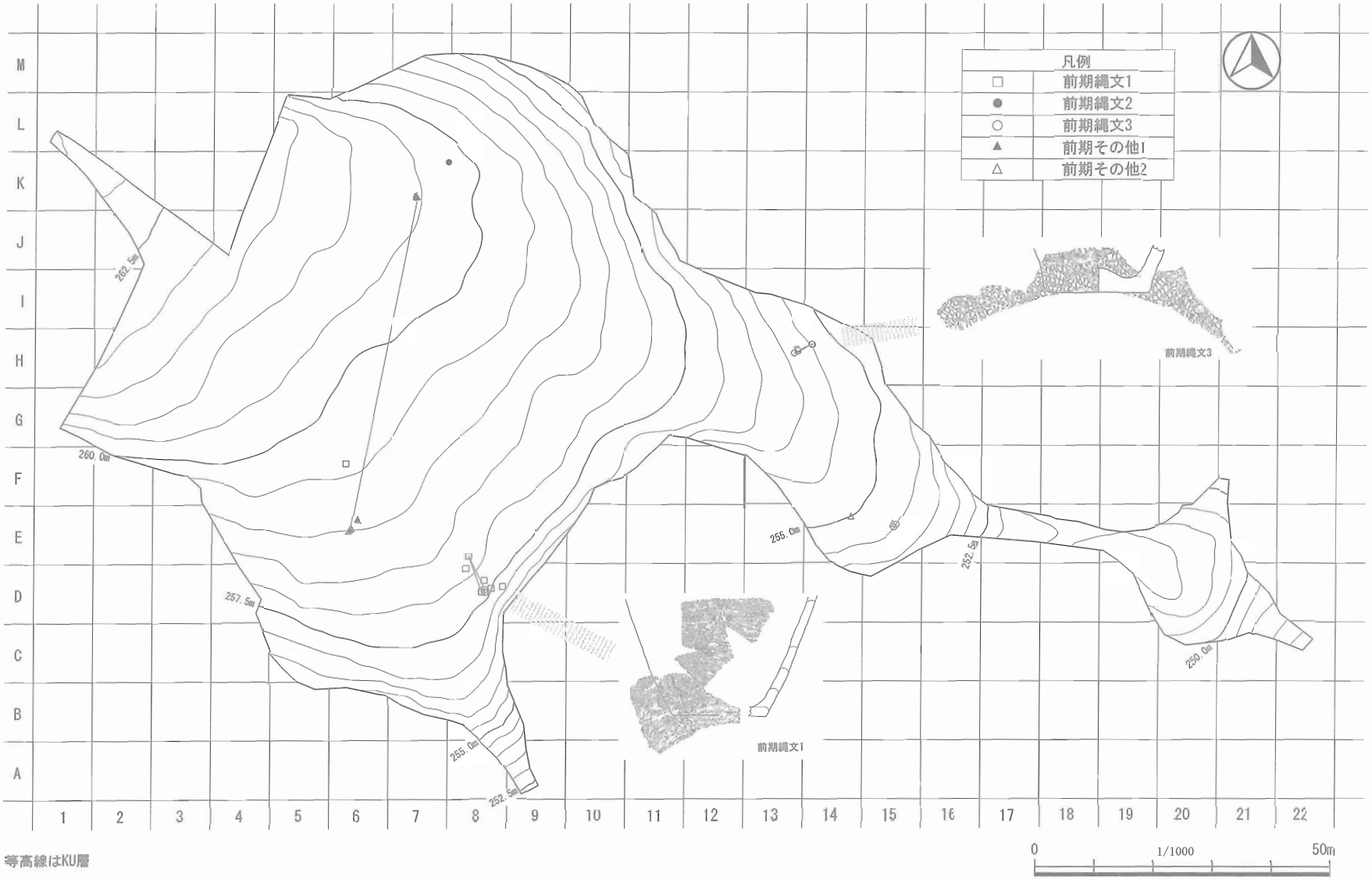
第65図　上ノ坊式土器　諸磯ｂ式土器（１）



第66図　諸磯ｂ式土器（２）

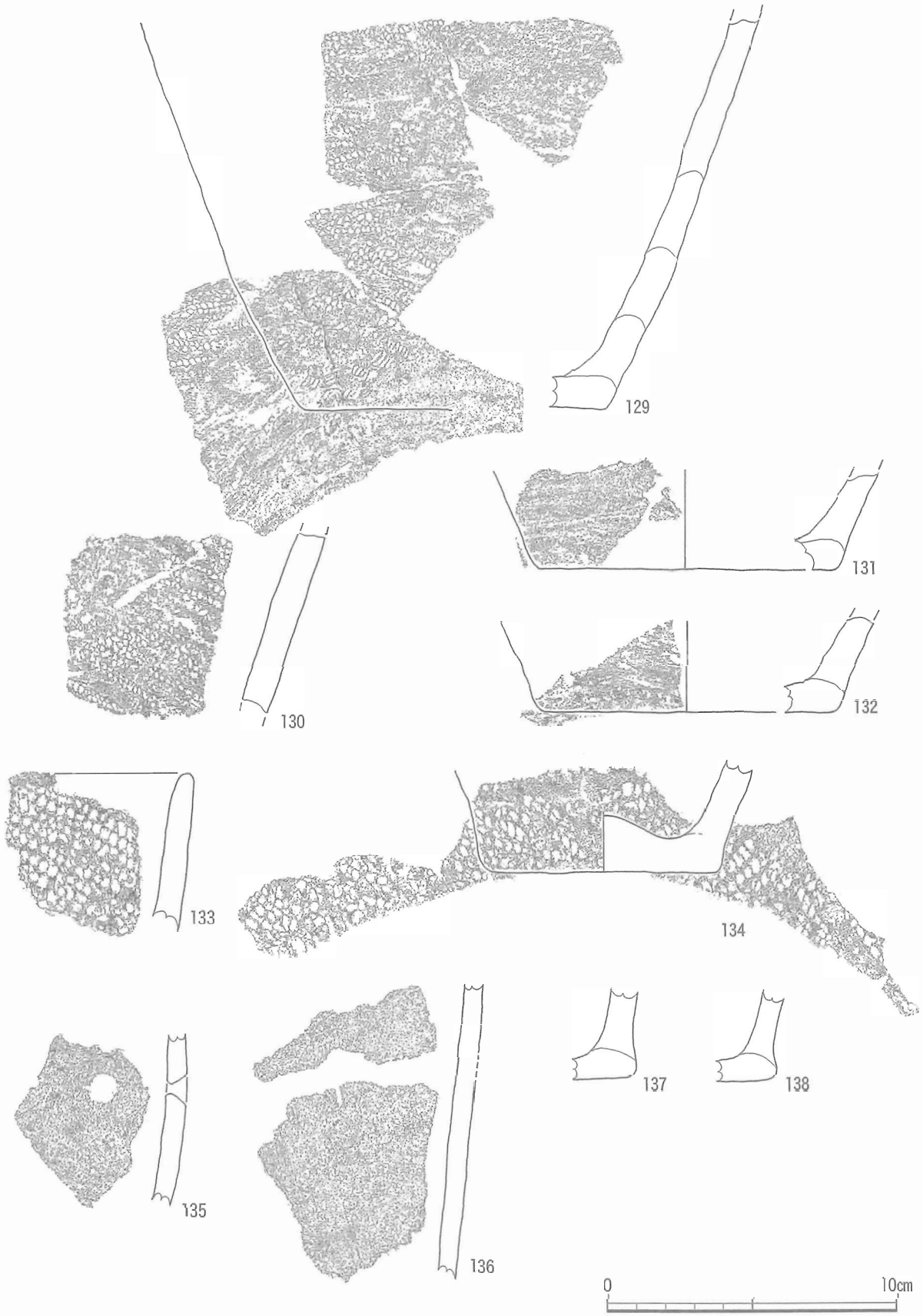


第67図　諸磯ｂ式土器（３）



等高線はKU層

第68図　前期　縄文土器およびその他の土器　個体別分布



第69図　前期　縄文土器　その他の土器

125-127は諸磯ｂ４の深鉢口縁部から胴部破片および底部の接合資料である。４方に頂部のある波状口縁のキャリパー形に整形する。外面全体にRLの原体で縄文を横位に施す。

128は諸磯ｂ５の深鉢胴部下部破片の接合資料である。RLの原体で横位に疎らな縄文を施す。

第68図は、型式が不明であるが前期土器群と思われる胎土を用いるもののうち、縄文を施すものと、無文のものの個体別分布図である。縄文を施すものは３個体、無文（その他）は２個体が抽出された。Ｄ８グリッドに前期縄文１が集中するほかは割と散漫に分布する。前期縄文１の集中分布域は諸磯ｂ１－５に近く、その南東で一部重複する。しかし、垂直分布を検討した結果、諸磯ｂ２／４よりも下位に包含されることがわかった。したがって時間的には本遺跡の諸磯b式土器に先行する一群である。

第69図は型式不明の前期土器群である。

129-132は前期縄文１の深鉢胴部破片と、胴部から底部破片の接合資料である。外面全体にRLの原体で疎らな縄文を横位に施す。胎土も縄文も諸磯ｂ式のそれによく似ている。

133は前期縄文２の口縁部破片である。RLの原体で縄文を横位に施す。調査区全体をみわたしても１点しか検出されていない。周辺の土器群とあせて垂直分布を検討した結果、中期縄文１と３よりも上位で新道と藤内６と同層準にあることがわかった。おそらく使用場所から逸脱しているものと推測される。

134は前期縄文３の底部破片の接合資料である。RLの原体で横位に施文するが、またLRの原体で縦位に施文する部分もある。

135-138は無文土器である。

135と136は前期その他１の胴部破片の接合資料である。薄手作りである。135には補修孔、136には大型の繊維が横断していた痕跡が見られる。

137と138は前期その他２の底部破片である。以上の前期土器群と同一とは思われない胎土を利用している。

第４節　縄文時代中期の土器群

概要

中期土器群は12個体が抽出された。新道式土器１個体、藤内式土器６個体である。藤内Ⅰ式とⅡ式の区別は行わなかった。土器型式別の分布は第70図に示した。土器群には数箇所の集中域が認められる。すなわち、Ｃ７グリッド、Ｈ５グリッド、KL６－８グリッド、I11グリッドなどである。しかし、これらの集中域はほとんどが同一個体の破片化されたもので構成されているため、集合的といえそうなのはKL６－８グリッドに留まる。この範囲の土器群は、剥片石器群の集中域とは重なっていなかったが、台石を始めとする礫石器類がわりと目立って分布する。遺構は、15号/20号集石が中期に帰属する可能性が高い。

出土土器の検討（第71-77図）

各型式の個体数が少ないので、先に分布図をまとめて掲載しておく（第71-73図）。

第71図は新道式土器、第72図は藤内式土器の個体別分布を示したものである。

第74図139/140は新道式土器である。139と140は新道式土器の深鉢口縁部から底部付近破片の接合資料で、同一個体（新道）である。139は破損している耳飾り状突起を付けた口縁部に刻みを入れ、その下位に原体RLの縄文を横位に施し、さらにその下位に篦状工具でキャタピラ文を横位に施す。このキャタピラ文の上下に篦状工具の角で山形の沈線を引く。また、キャタピラ文の四方から、同様のキャタピラ文で両側面を押さえた隆帯を垂下させる。

第74/77図141-156は藤内式土器の口縁部から底部破片の接合資料である。

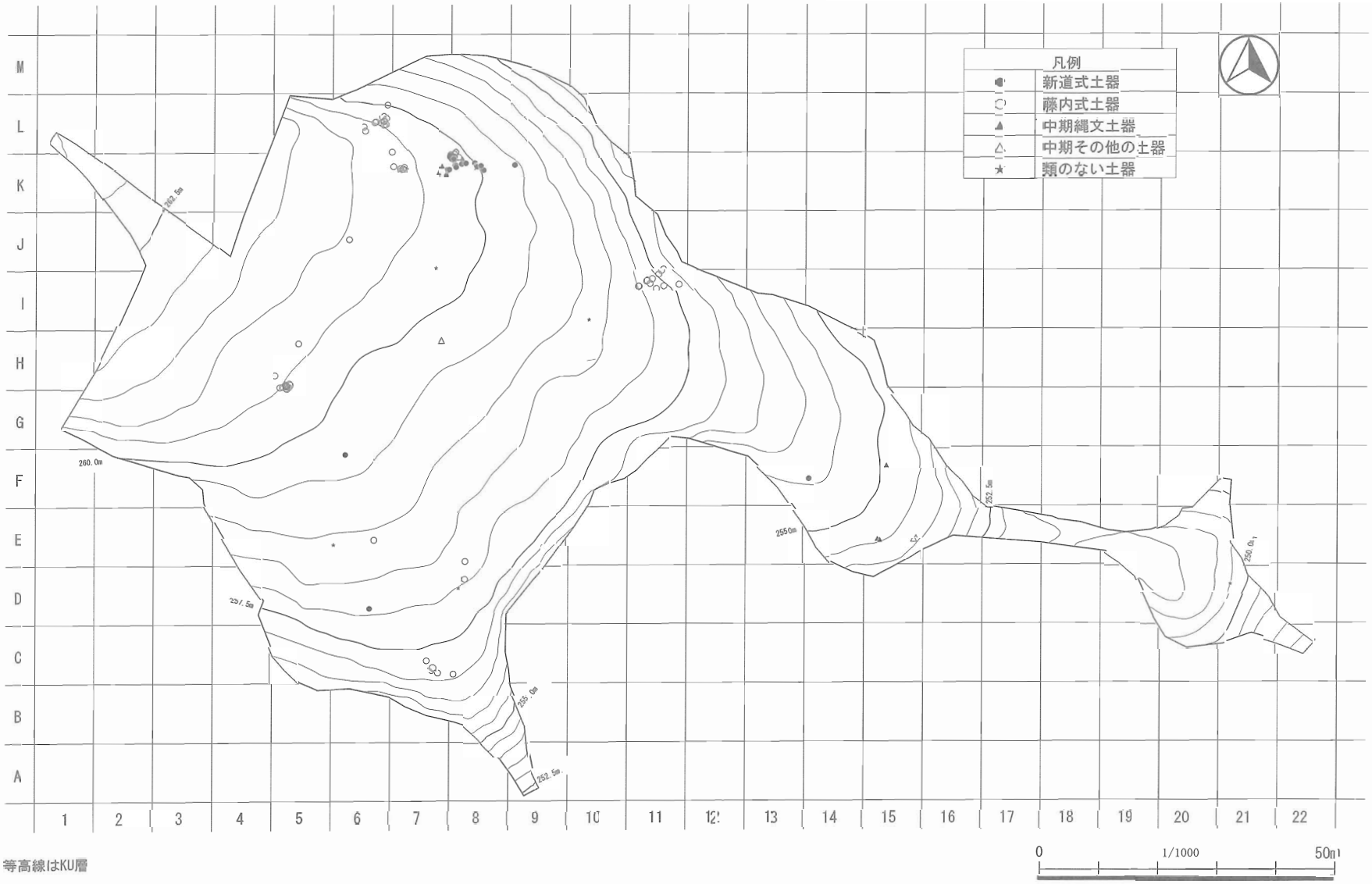
141と142は藤内１の口縁部から胴部破片の接合資料と胴部から底部破片の接合資料である。口縁部に突帯が付くと推測される円筒形を呈する。半截竹管状工具で片側を重ねた沈線と貼付け隆帯の脇を篦状工具で連続的な爪形文で押さえ、また周囲を巡らして上部文様帯を区画する。区画内の空隙には半截竹管状工具の端部を押しつけたC字形の刺突文を連続的に施す。中部ないし下部の文様帯は抽象的な流れをもつ隆帯の両脇を上部文様帯と同様の篦状工具で連続的な爪形文で押さえる。また、爪形文には山形文を沿わせる。小区画内にはまた、流線型の沈線が認められるが、観察できるのが部分的なので形状はよくわらかない。

143は藤内２の深鉢口縁部から胴部下部破片の接合資料である。口縁部に刻みを入れ、口縁に屈曲部を形成する。この屈曲部頂点の上下は無文である。この下位に、連続的な爪形文をつけた隆帯を四方に垂下させて縦位の文様区画をつくり、半截竹管状工具で沈線を引き縦長長方形を主体とする区画を形成する。内部には小形の半截竹管状工具で縦位と横位の沈線および同工具の端部で突き刺すC字形の刺突文を充填する。耳状の突起は相対する箇所に付ける。

144-146は藤内３の頸部破片の接合資料と口縁部破片である。口縁部から頸部の屈曲部にかけて半截竹管状工具の端部を連続的に押し付けた爪形文を施す。また一部に隆帯を垂下させる。

147-149は藤内４の頸部破片の接合資料（148）と頸部破片（147）と胴部破片（149）である。縄文地の上に抽象的に流れる隆帯の両脇に篦状工具で連続的な爪形文を施し、それに沿う山形文を縦位/横位に施す。

第76図150-155は藤内５の口縁部から頸部の接合資料および胴部破片と底部破片である。Ｈ５グリッドを中心に分布する。キャリパー形を呈する口縁をつくり、口唇部に爪形の刻みを連続的に施す。その下位は全面に原体RLの縄文を横位に施す。



等高線はKU層

第70図　中期土器群　型式別分布

第77図156は藤内６の接合資料である。Ｋ７／８グリッドに分布する。耳飾り状突起を付けた口縁部下で大きく脹らむ。頸部の内湾部に隆帯で楕円文を施し、内側を沈線でなぞり、その内部を縦位もしくは斜位の沈線を充填する。一巡りする隆帯から隆帯を２箇所垂下させて二つの区画をつくり、次いでこの中に原体RLの縄文を斜位に施す。藤内Ⅱ式と思われる。

第73図は中期のものと推測される胎土を使用するもののうち、縄文を施文するもの３個体と型式の不明なもの２個体の個体別分布を示している。中期縄文１と同３の平面分布は新道と藤内６にたいへん近い。そこで垂直分布を検討したところ、中期縄文１・３（同層準）は新道・藤内６（同層準）よりも30㎝余り下位に包含されていることがわかった。攪乱等がないとすれば、中期でもかなり早い時期に帰属するのだろう。

第77図157は中期縄文１の口縁部破片の接合資料である。口縁を角頭状にし、原体RLの縄文を横位に施す。

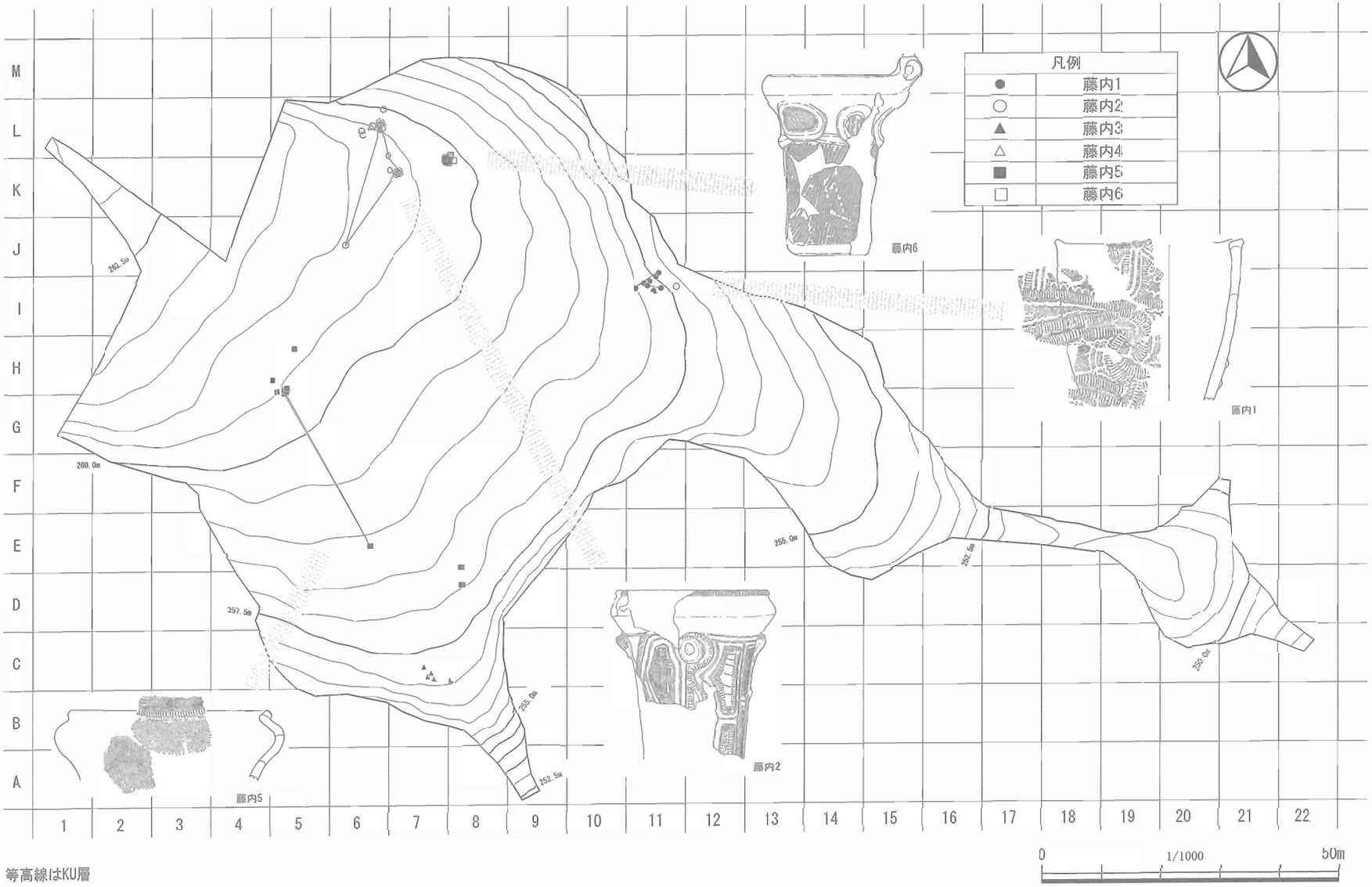
158-160は中期縄文２の頸部ないし胴部破片である。原体Lで縄文を縦位・横位に施す。

161-165は中期縄文３の胴部破片である。原体RLで縄文を縦位に施す。

166と167は中期その他１の底部破片である。168は中期その他２の底部破片である。中期その他１に比較して僅かに屈曲させる。

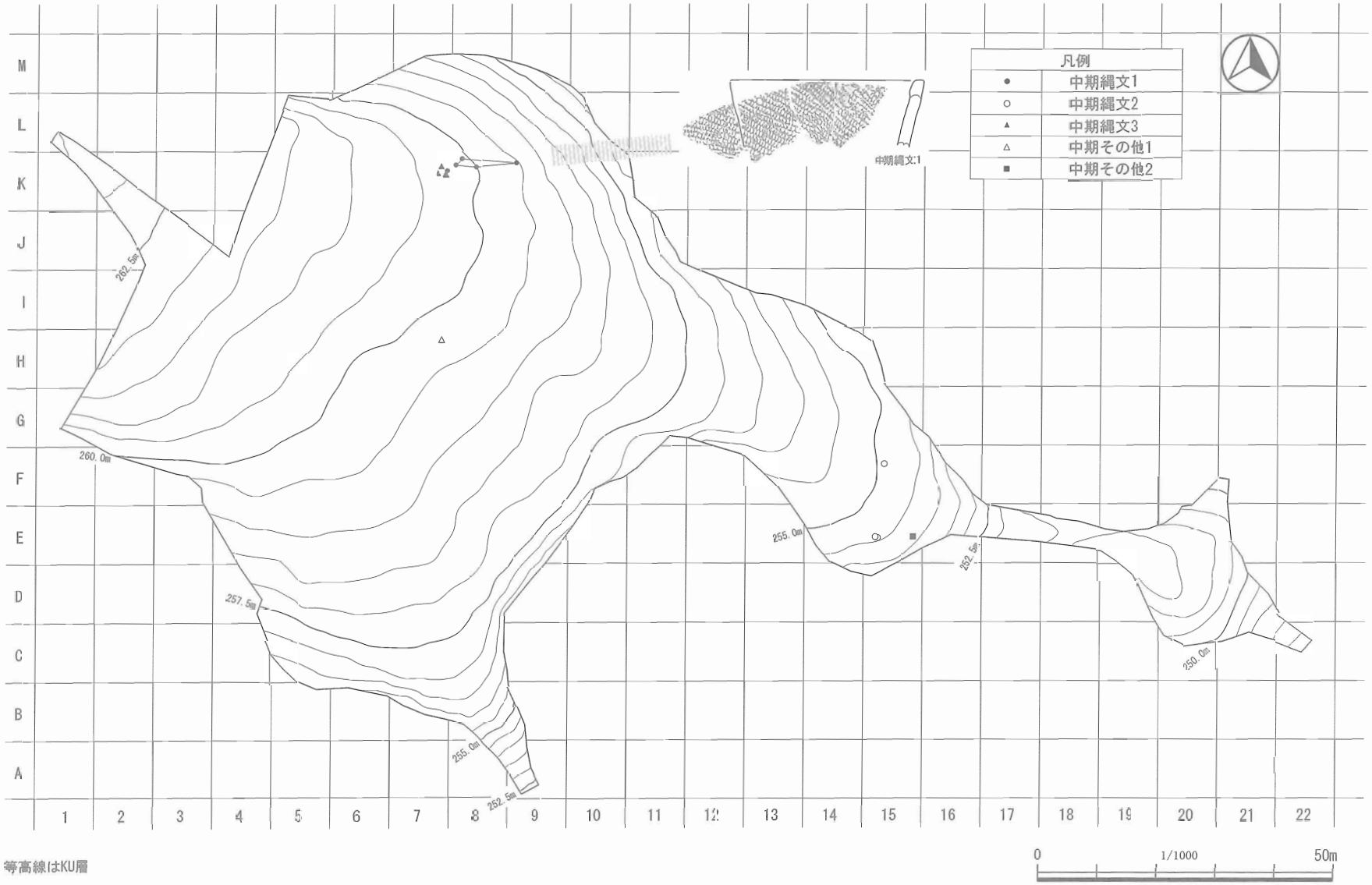
等高線はKU層

第71図　新道式土器　個体分布



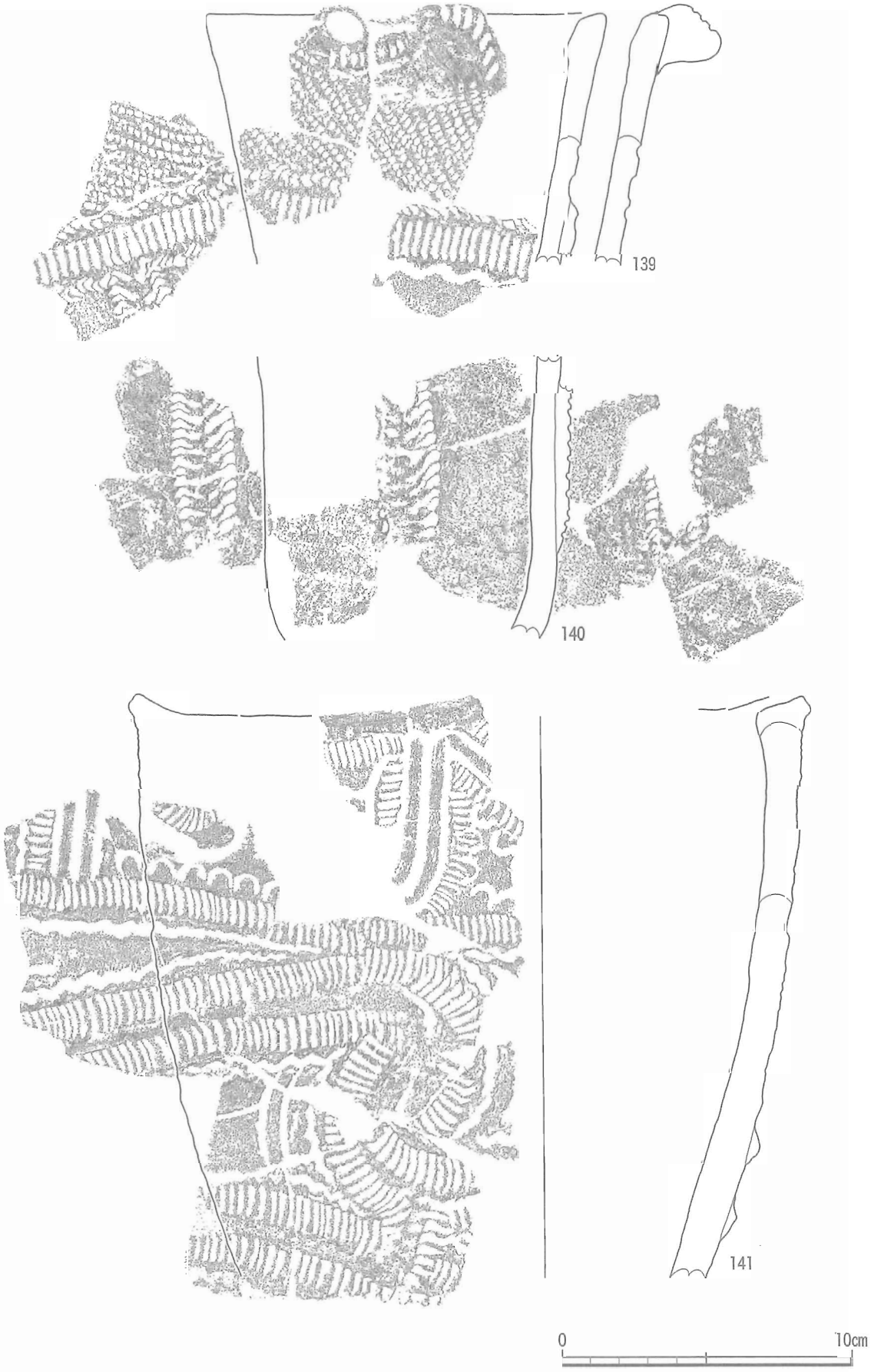
等高線はKU層

第72図　藤内式土器　個体別分布

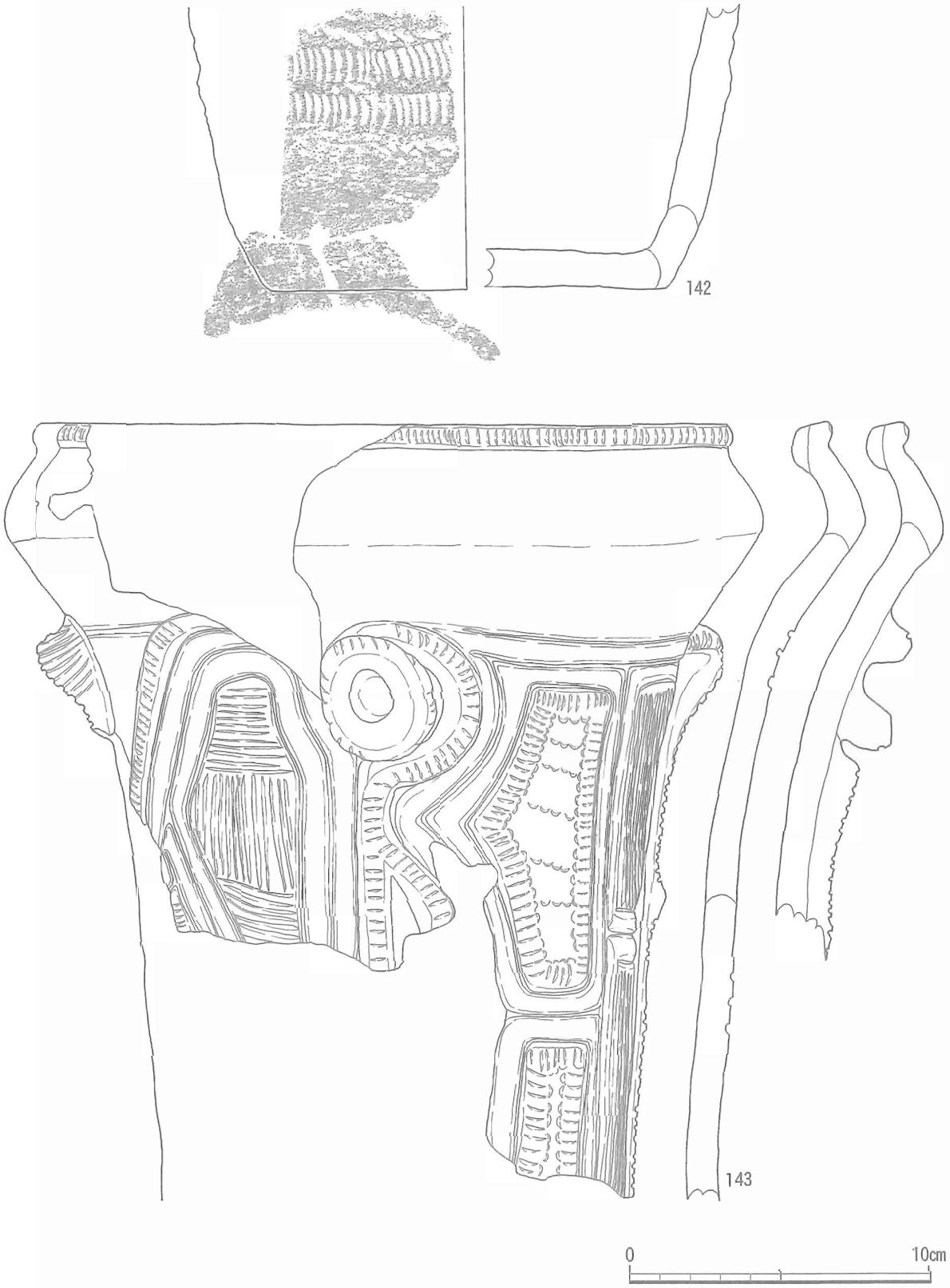


等高線はKU層

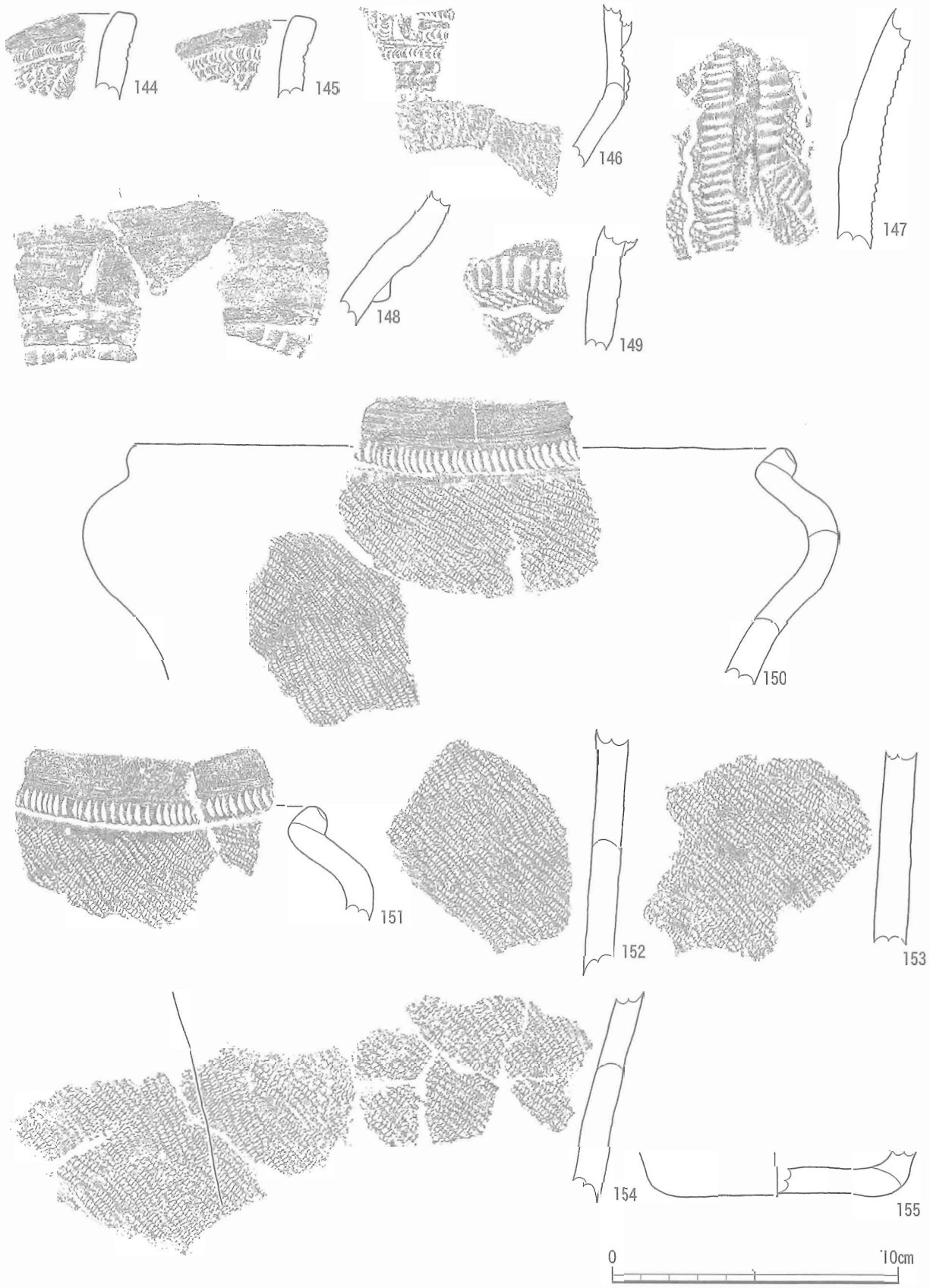
第73図　中期　縄文土器およびその他の土器　個体別分布



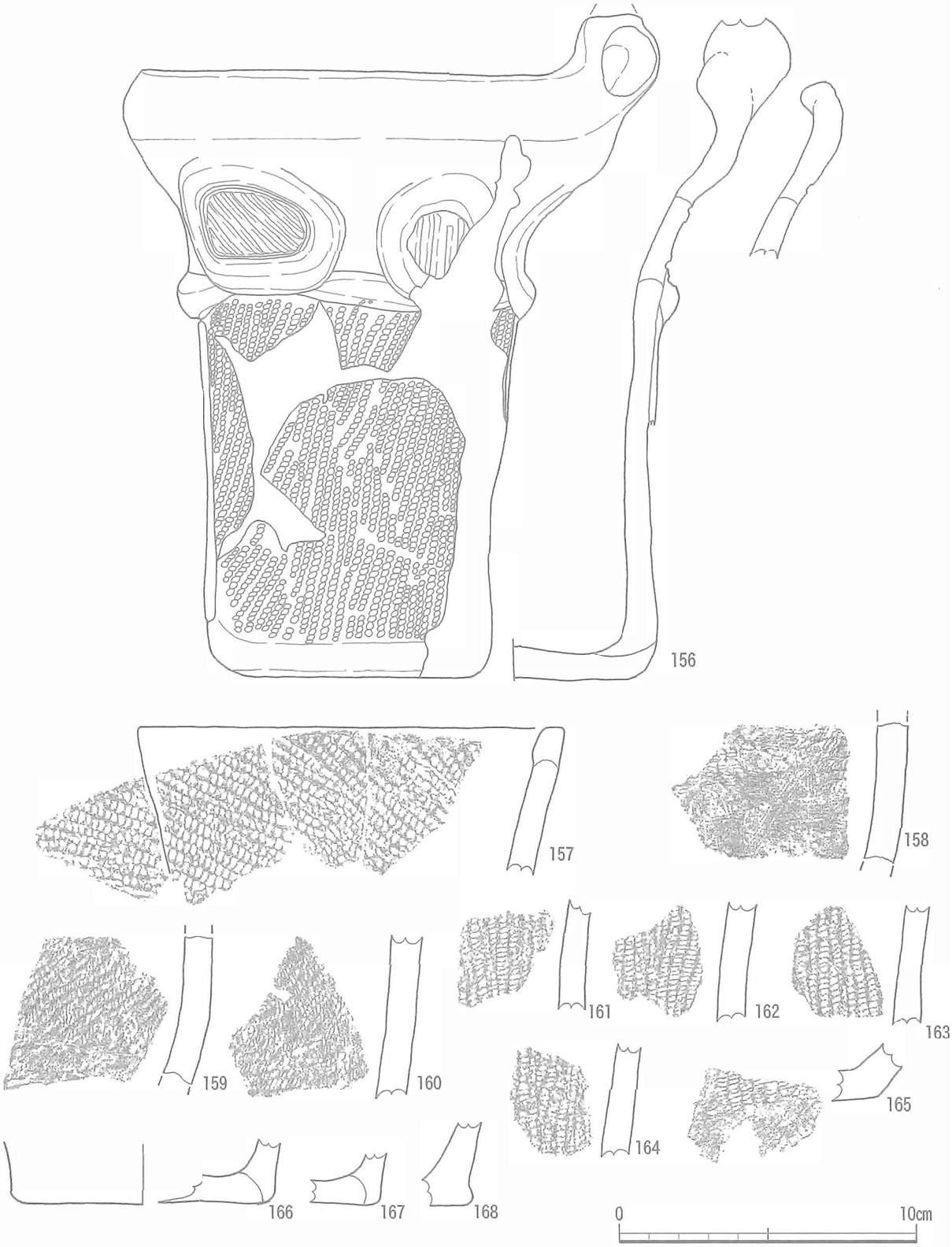
第74図　新道式土器　藤内式土器（１）



第75図　藤内式土器（２）



第76図　藤内式土器（３）



第77図　藤内式土器（４）　縄文土器　その他の土器

第５節　縄文時代草創期から中期の石器群

概要

縄文時代石器群は総点数3805点(礫を除く)で、剥片石器類3494点、石核44点、石斧７点、礫石器類260点を組成し、YLU最上部(有舌尖頭器の主要な包含層)から新期スコリア包含層までに広く包含される。

尖頭器類と、これと関連のありそうなガラス質黒色安山岩製の石器集中はおそらく縄文時代草創期に帰属するが、その他の石器群の時期は、いくつかの集中部を形成している反面、よくわからなかった。そこで、以下では草創期に帰属する可能性の高い尖頭器類を先に提示し、次いで石器集中を中心とする４箇所（DEF５－８グリッド、EFG13-16グリッド、CDE19-21グリッド、HIJK６-11グリッド）を抽出し、それぞれについて報告する。

表13　縄文時代　剥片石器類の石材組成

	黒曜石												ガラス質黒色安山岩
	諏訪星ヶ台群	蓼科冷山群	和田鷹山群	和田芙蓉ライト群	箱根畑宿群	箱根鍛冶屋群	箱根黒岩橋群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	推定不可	測定不可	未分析	
尖頭器													1
有舌尖頭器	1								1				1
石鏃	30	1	1	1	10	1		12	16	2			6
彫器												1	
石錐				1								1	
楔形石器												5	
抉入削器												1	
削器												2	5
打製石斧													
二次加工剥片					2							13	3
微細剥離痕剥片	1											7	2
石刃													
細石刃												1	
削片												1	
剥片	27		5		2			10	4	1	1	646	13
砕片	102		29	4	12			9	2	69	198	2200	1
石核	1				1		1					35	3
計	162	1	35	6	27	1	1	31	23	72	199	2913	35

	輝石安山岩	細粒安山岩	玉髄	流紋岩	緑色凝灰岩	デイサイト	細粒斑レイ岩	ホルンフェルス	頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	珪質粘板岩	チャート	計
尖頭器								2			1			4
有舌尖頭器								1						4
石鏃				1						2		1		84
彫器														1
石錐														2
楔形石器														5
抉入削器														1
削器		1		1										9
打製石斧	5				2									7
二次加工剥片														18
微細剥離痕剥片														10
石刃						1								1
細石刃														1
削片														1
剥片	2				1		1	7	1	2			1	724
砕片			1							2				2629
石核								3						44
計	7	1	1	2	3	1	1	13	1	6	1	1	1	3545

表14　縄文時代　礫石器類の石材組成

	輝石安山岩	多孔質安山岩	細粒安山岩	角閃石安山岩	玄武岩	多孔質玄武岩	粗粒玄武岩	閃緑岩	デイサイト	細粒斑レイ岩	珪質粘板岩	細粒砂岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ひん岩	計
磨-敲石	12				7				1							20
磨石	54	5	4	2	26	5	2		7	1						106
敲石	28	1			7	3		1				3	6	1	2	52
敲石片											1					1
台石	36	1	1		10				1							49
台石片	6				1											7
石皿	8	1			3	1										13
凹石						1										1
礫器	6				3											9
砥石														2		2
計	151	8	5	1	57	10	2	1	9	1	1	3	6	3	2	260

(1)　尖頭器類（第82図）

尖頭器類はその他の石器群と時期が異なる可能性が高いので、抽出してここに纏めておく。

尖頭器類にはホルンフェルスとガラス質黒色安山岩、それに黒曜石などが利用される。ホルンフェルスとガラス質黒色安山岩は愛鷹箱根地域における尖頭器石器群の最も一般的な石材である。黒曜石は主として中部高地産、伊豆箱根産、神津島産を特徴とする。神津島産は最近検出例が増加し始め、草創期の尖頭器石器群の石材として珍しいものではなくなってきている。

有舌尖頭器（1－4）

4点すべてを図示した。

1はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。小型で薄作りである。尖端部は折損する。

2は諏訪星ヶ台産黒曜石製の有舌尖頭器である。発掘時の欠損も含めて複数箇所を激しく損傷しており、全体形状は不明瞭である。

3は神津島恩馳島産黒曜石製の有舌尖頭器である。2と同じく、尖端部と基部が損傷している。器体の最大幅は茎部直上のかえし部分ではなく、中位にある。

4はガラス質黒色安山岩製有舌尖頭器である。灰色に風化している。

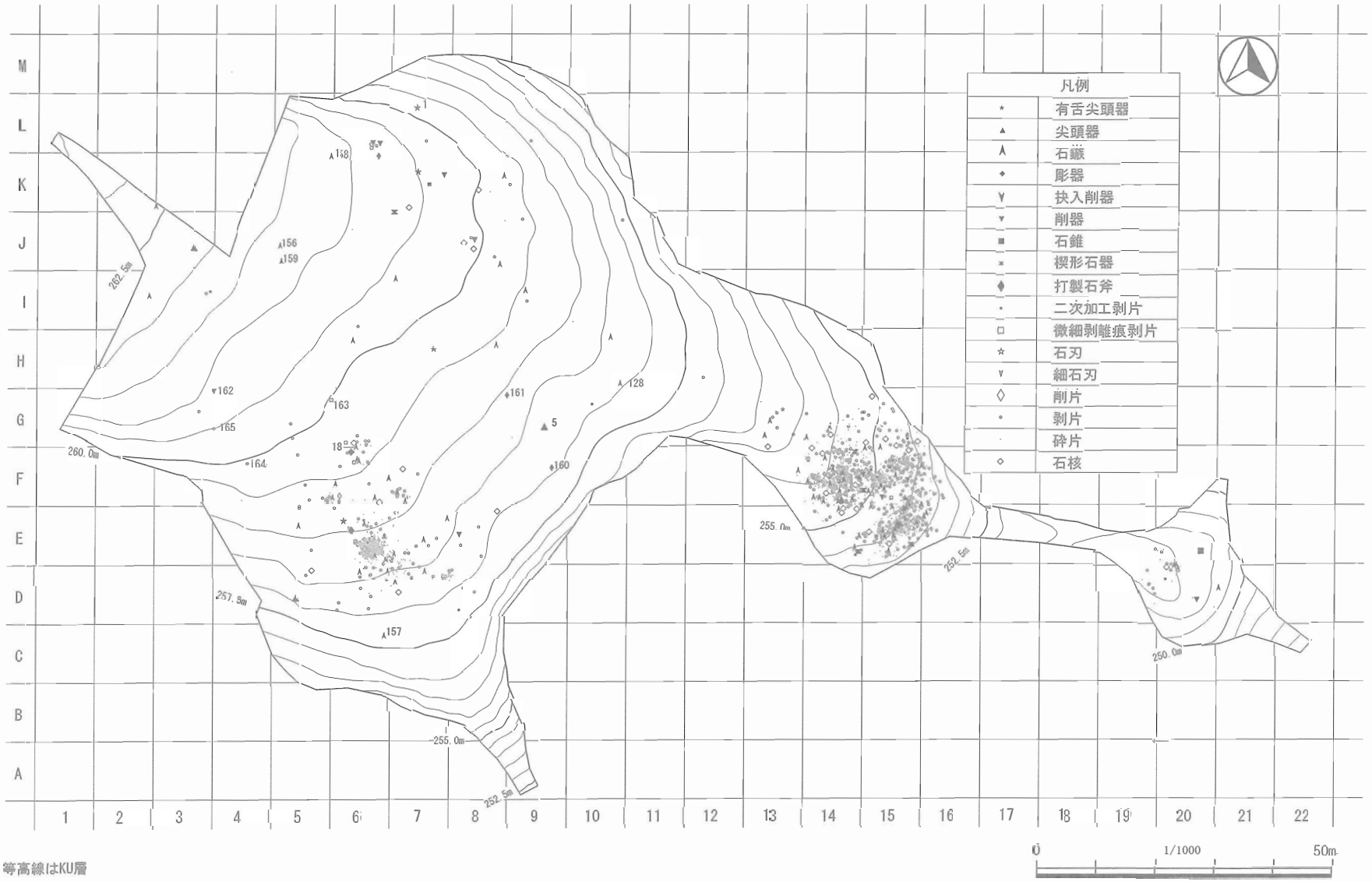
尖頭器（5－7）

3点すべてを図示した。

5は硬質頁岩製両面加工尖頭器である。赤褐色の硬質頁岩は本遺跡で他に例がない。形態的には旧石器時代に類例が見当たらないので、縄文時代草創期に帰属させた。

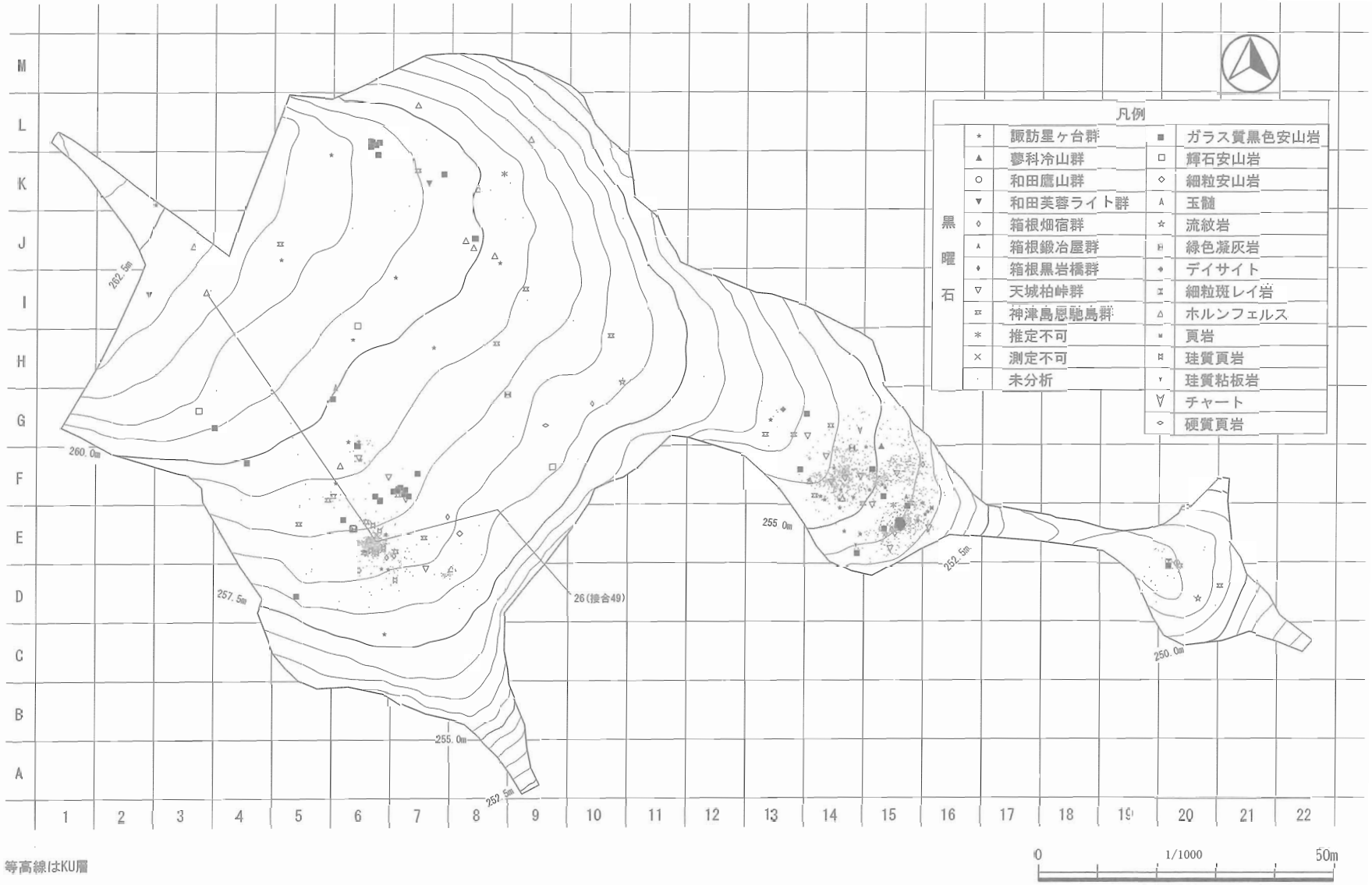
6はガラス質黒色安山岩製両面加工尖頭器である。最大幅が基部付近にある縄文時代草創期に特徴的な形態である。表面は黄褐色に風化している。

7はホルンフェルス製である。基部が折れているので断言できないが、両側縁が平行に近いこと、幅が狭い割に中央部に厚みをもつことから、有舌尖頭器の可能性もある。



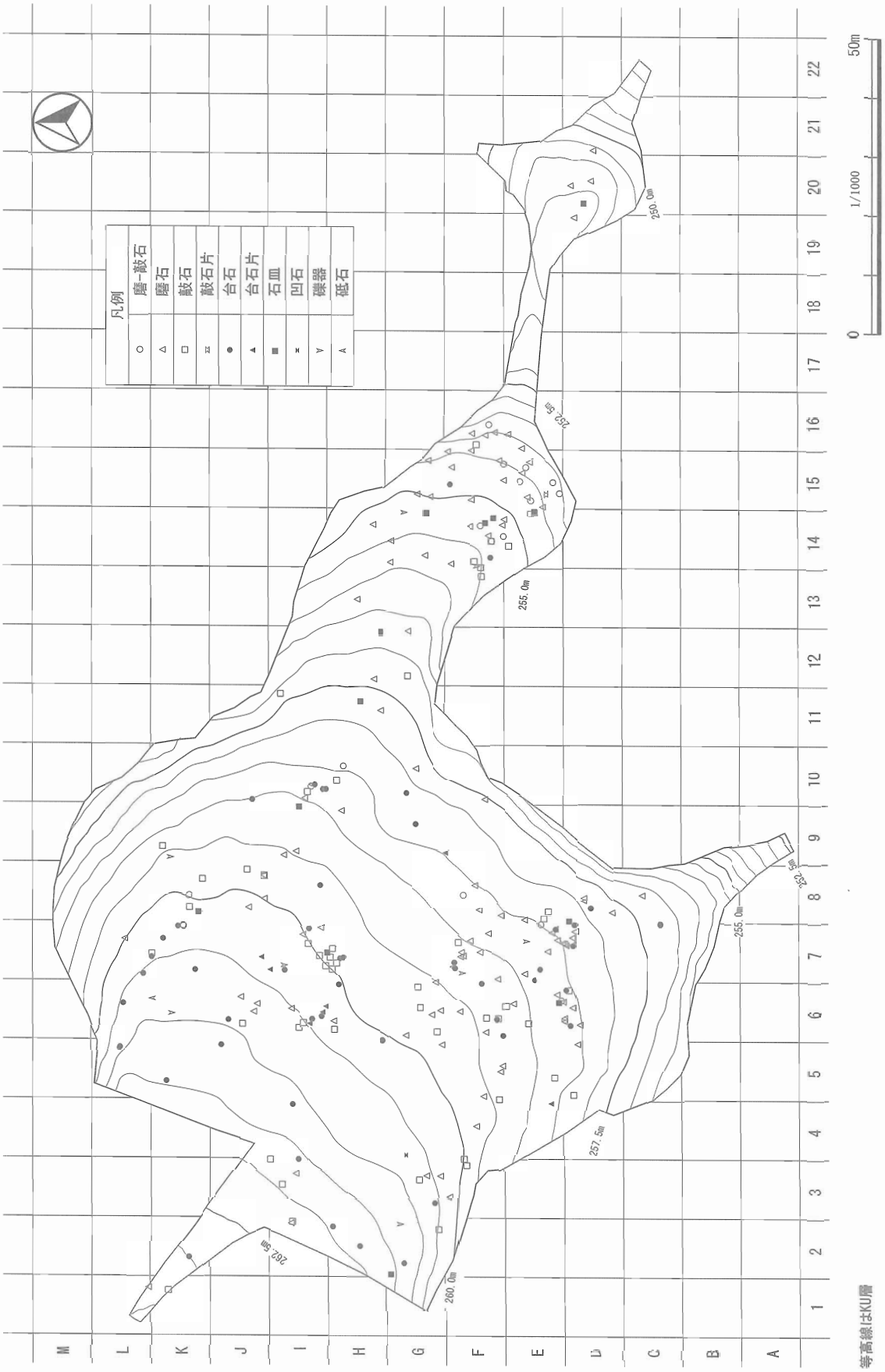
等高線はKU層

第78図　縄文時代　剥片石器類の器種別分布



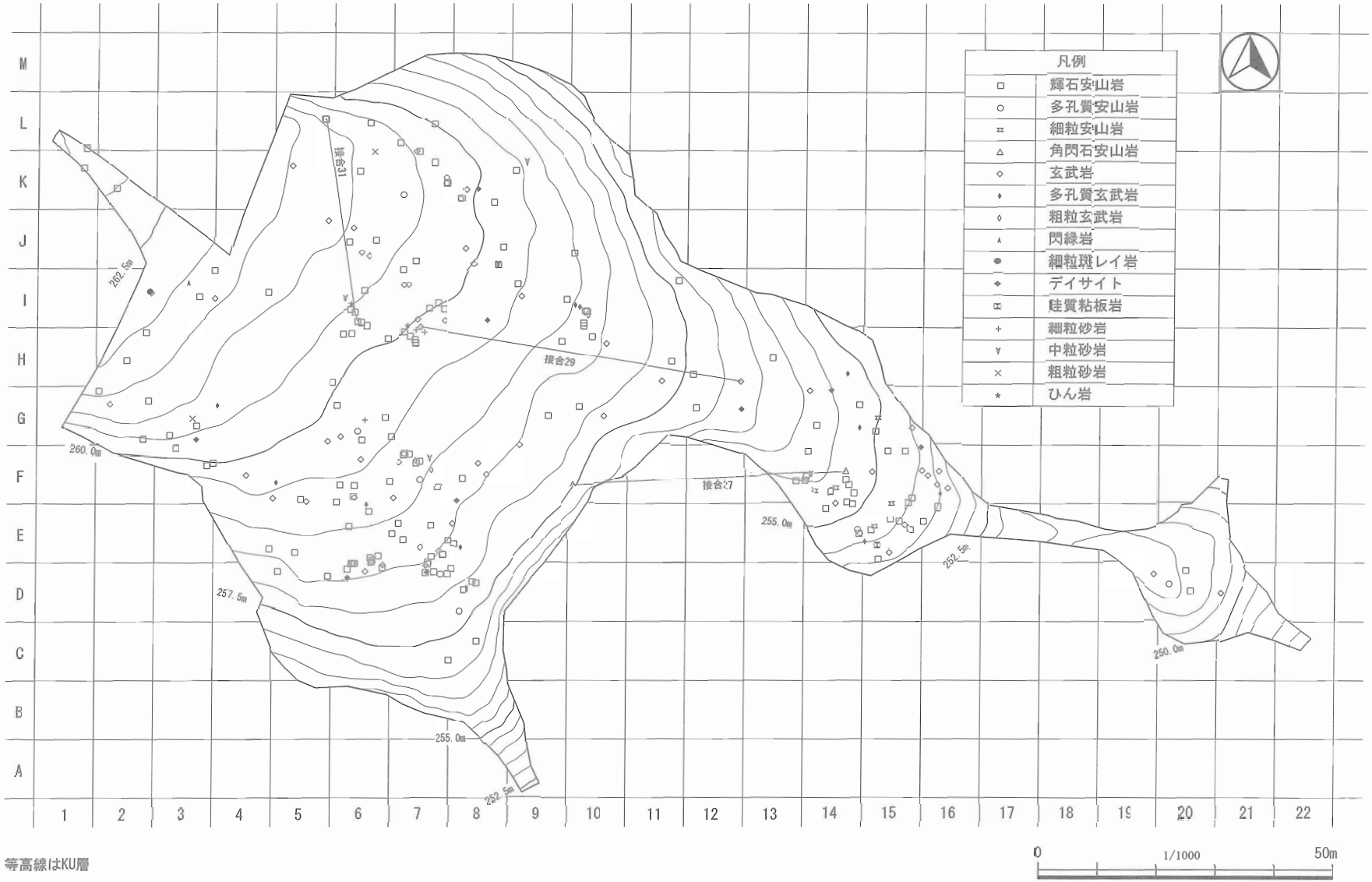
等高線はKU層

第79図　縄文時代　剥片石器類の石材別分布



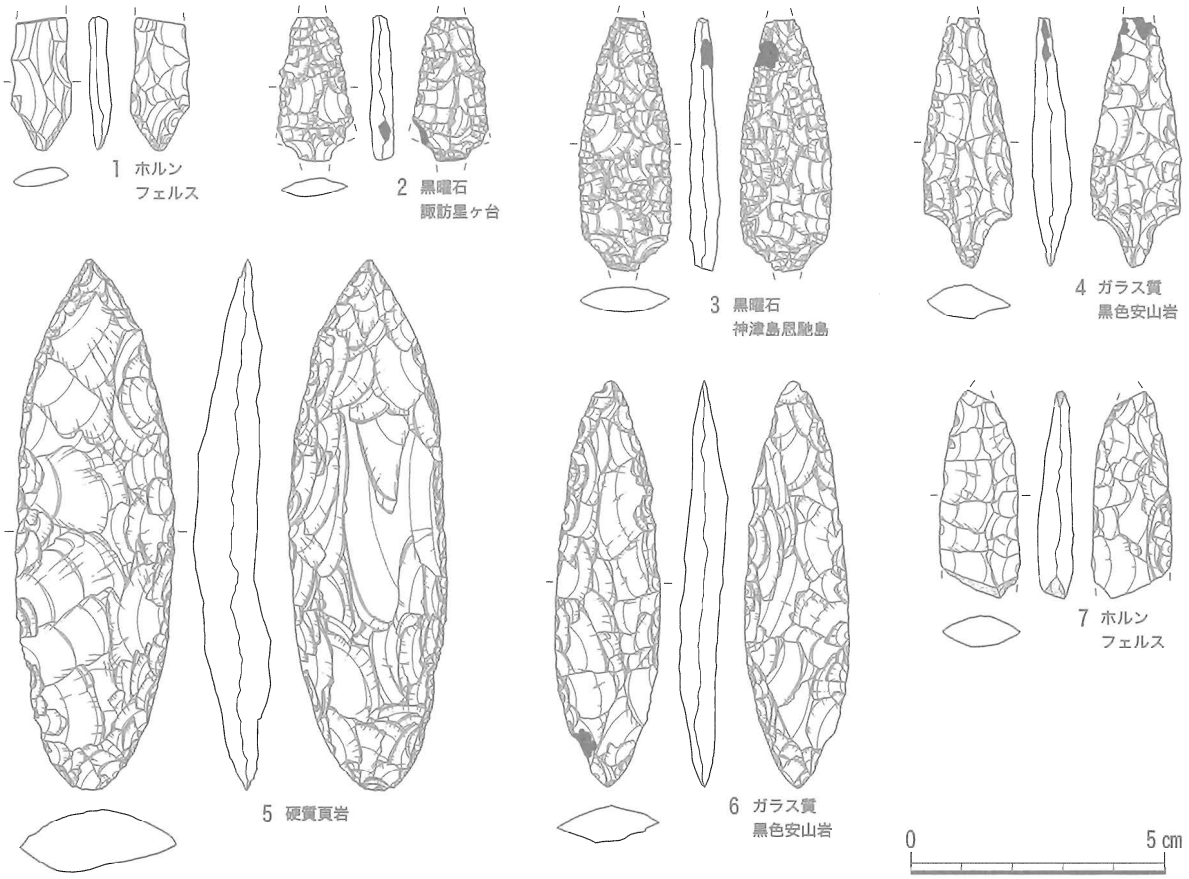
等高線はKU層

第80図　縄文時代　礫石器類の器種別分布



等高線はKU層

第81図　縄文時代　礫石器類の石材別分布



第82図　縄文時代　尖頭器類

(2) DEF５－８グリッドの石器群（第83-91図、表15/16/32）

１．石器集中

調査区南西部のグリッドである。礫を除く石器の総点数は1160点で、礫石器類72点（6.2%）を含む。草創期から前期後半の石器群が重畳したものである。

Ｅ６グリッド東南部を中心に分布する黒曜石の集中を主体にして、この周囲にいくつかの小集中が分布する。特に目に付くのは以下の５箇所である。

①Ｅ６グリッド　黒曜石集中

本グリッドのなかで点数が最も多い集中である。Ｅ６グリッドにおけるｚｎ以上の検出数869点を層位別にみると、以下のようになる。

層位	点数	比率
KU	329点	37.9%
FB	532点	61.2%
ZN	3点	0.3%

ZNからの出土点数は非常に少なく、FBを中心にしつつもKUにも多いことが分かる。縄文時代草創期の石器群が包含されることの多いYLUからZNの検出はたいへん少ない。このことから、石器群の大半は早期後半に帰属すると思われる。

その大部分は黒曜石の砕片（15㎜未満）である。おそらく石鏃生産の痕跡と推測されるが、肝心の石鏃は最も密度の高い集中部ではなく、周囲に散漫に分布する。製品の多くは持ち出されてしまったのか

もしれない。重複分布している石鏃１点（第86図17）は珪質頁岩製である。

②F６/７グリッド　ガラス質黒色安山岩集中

FBを中心として12点が包含される。同石材の小型石鏃を２点（第86図19/20）伴う。

③D７/８グリッド　黒曜石・礫石器類集中

FBを中心に包含される。礫石器類は重複分布する茅山下層式土器よりも30cm余り下位に分布するものが多い。また、①との比較でも明らかに低い。とすると、早期前半あたりに帰属する可能性が考えられるが、本遺跡では押型文土器が検出されていないので、早期前半撚糸文期か、それ以前の時期に帰属するだろう。

④E６グリッド　石斧集中

５点のうち４点がほぼ同一個体（輝石安山岩）の剥片を素材とし（第87図）、折り重なった状態で検出された（第85図）。意図的に集積されたものと考えられる。KU（おそらく上半部）に包含されていた。図にあるように、茅山下層式土器（茅山下層１）よりも約30cm上位で、上ノ坊式土器（上ノ坊１）が伴うので、前期前半に帰属するものと推定される。

⑤F/G６グリッド　黒曜石集中

DEF５－８の範囲内とはいえないが、一応採り上げておく。黒曜石製剥片と砕片を中心として、ガラス質黒色安山岩製石鏃（第86図18）を組成する。KUが殆どであるから年代が新しいと考えられる。ただし礫石器類はFBが中心なので、剥片類よりも古いだろう。

以上５箇所の石器集中は、個別に見ると濃集層準が異なるので、必ずしも同一時期のものではなさそうである。それぞれの形成年代は、層位的に③が最も古く、これに②が続き、④⑤が最も新しいと考えられる。④⑤は前期に帰属するので、これよりも下位の石器群、特に②③は早期を中心とするだろう。FBを中心にしている①もそれに近いと思われる。

土器群については、早期前半撚糸文土器、同後半沈線文土器、条痕文土器、前期前半上ノ坊式土器、前期後半諸磯ｂ式土器がみられた。最も多いのは条痕文土器で、これには野島式、茅山下層式、打越式が、それぞれ１または２個体ずつある。撚糸文土器は少なく、またDEF５－８よりも西方にあることから、上記石器群との関連は薄そうである。したがって、FB層を中心とする石器群は早期後半に帰属する可能性が高い。

以上の検討結果をまとめると、尖頭器石器群→③→①②→④⑤の順で残される石器群の帰属時期は、石器群と土器群の年代が対応関係にあるとの前提で、草創期前半→草創期から早期前半→早期後半→前期に対応するものと推測できる。

２．出土石器の検討（第86-91図）

■　二次加工石器類

石鏃（８-20）

石鏃に利用される石材は黒曜石が多く、神津島恩馳島産５点、天城柏峠産４点、箱根畑宿産３点、諏訪星ヶ台産４点、である。これに加えてガラス質黒色安山岩３点、珪質頁岩２点がみられる。産地の偏りがなく分散する傾向がある。

20点中13点を図示した。８と14は尖端部両側縁がやや内湾して基部に緩やかな肩部を作出する特徴的な形態を呈する。これは未実測の箱根畑宿産黒曜石製石鏃（遺物番号4349；ただし破損品）や後述の「EFG13-16グリッド」に含まれる天城柏峠産黒曜石製の76にも共通し、近傍産石材にみられる特徴といえるのかもしれない。

表15　DEF５－８グリッド　剥片石器類の石材組成

	黒曜石						ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	細粒安山岩	緑色凝灰岩	ホルンフェルス	珪質頁岩	計
	諏訪星ヶ台群	箱根畑宿群	天城柏峠群	神津島恩馳島群	測定不可	未分析							
尖頭器							1						1
有舌尖頭器							1						1
石鏃	4	3	4	5			2					2	20
彫器						1							1
削器									1				1
打製石斧								4		1			5
二次加工剥片						3							3
微細剥離痕剥片						2							2
削片						1							1
剥片	2	1		2		99	9				3	2	118
砕片		1		1	1	922						2	927
石核						7	1						8
計	6	5	4	8	1	1035	14	4	1	1	3	6	1088

表16　DEF５－８グリッド　礫石器類の石材組成

	輝石安山岩	多孔質安山岩	玄武岩	多孔質玄武岩	粗粒玄武岩	デイサイト	中粒砂岩	計
磨-敲石	3		1					4
磨石	22	4	8	1	2	3		40
敲石	6		2	2			1	11
台石	12		1					13
石皿	2							2
礫器	1		1					2
計	46	4	13	3	2	3	1	72

８－10は神津島恩馳島産黒曜石製である。11と12は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。13は天城柏峠産黒曜石製である。14と15は箱根畑宿産黒曜石製である。16と17は珪質頁岩製である。18-20はガラス質黒色安山岩製である。18はＧ６グリッド出土だが、Ｆ６グリッドを中心とするガラス質黒色安山岩の石器集中に含まれるのでここで掲示する。いずれも黒曜石製にくらべて小型である。

打製石斧（21-25）

５点出土した。すべてＥ６グリッドの石斧集中（第85図）に含まれる。前期前半に帰属する。

21は緑色凝灰岩製である。器体の幅と厚さを考慮すると、刃部側は半分以上失われていると推測される。

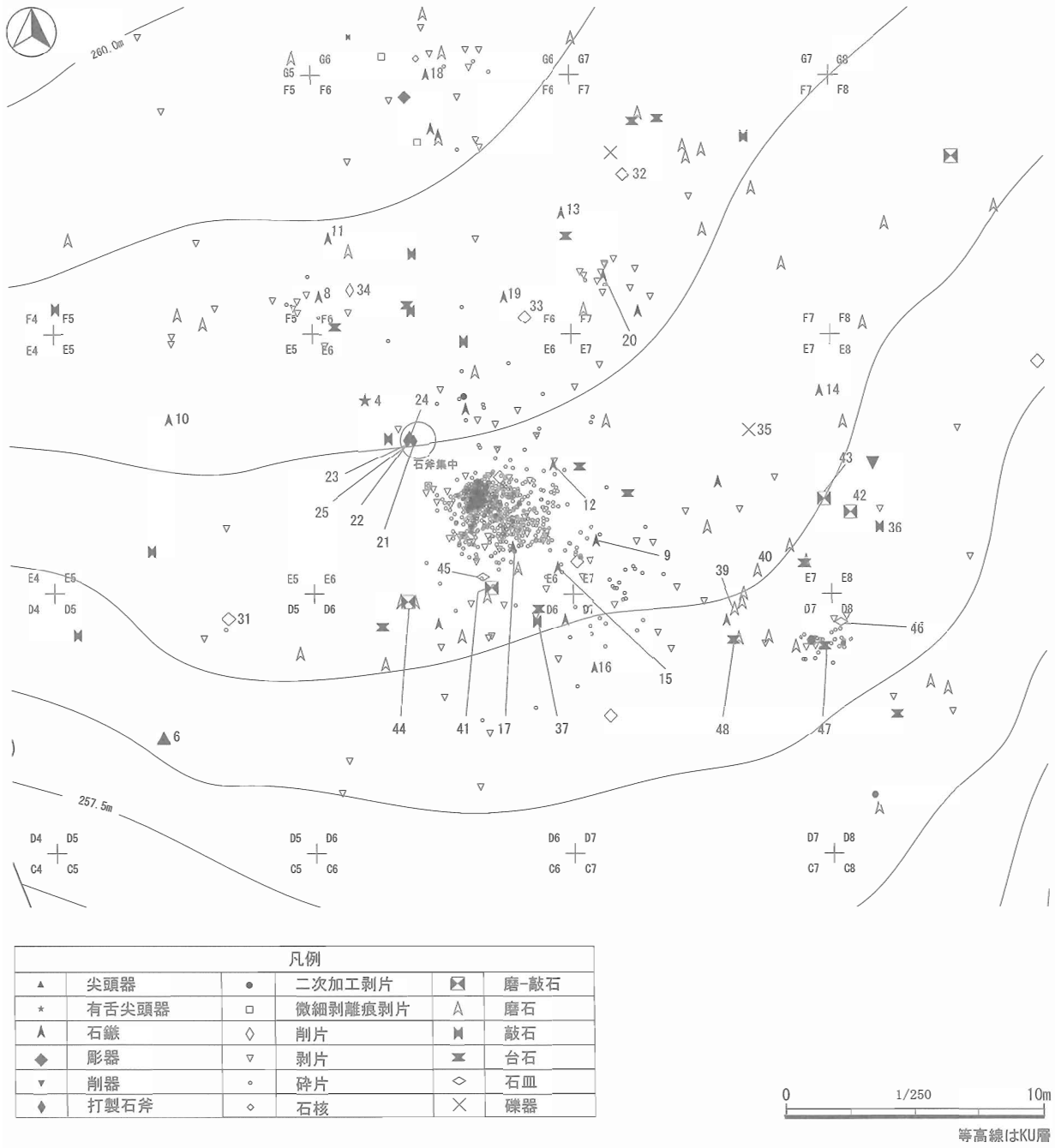
22は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を、基部側にむかって少し細くなる短冊状に整形する。刃部はやや内湾している。使用履歴があるのだろう。

23は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を、基部と刃部に向かってやや外湾するように整形する。刃部は外湾して凸状を呈する。

24は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を、基部と刃部の両端に向かってやや細くなるよう整形する。刃部形状は22とよく類似している。仮に22と25も機能が類似するなら、これもやはり使用履歴を示す可能性がある。大きさは石斧集中で最大である。

25は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を基部と刃部に向かってやや外湾するように整形する。刃部が斜めになっており、使用履歴を示しているのかもしれない。

上記のうち４点は個体も同一の可能性が高い輝石安山岩で製作され、１点だけが緑色凝灰岩製（21）である。この石材の違いは、集中の検出状況と遺存状態に対応し、すなわち前者は大きな破損痕跡もなく、方向を揃えており重ねてあったのに対して、後者は半分以上を失った状態で少し離されていた。共通点を挙げるとするなら、製作痕跡が全く見られないことだけである。



第83図　DEF５－８グリッド　器種別分布

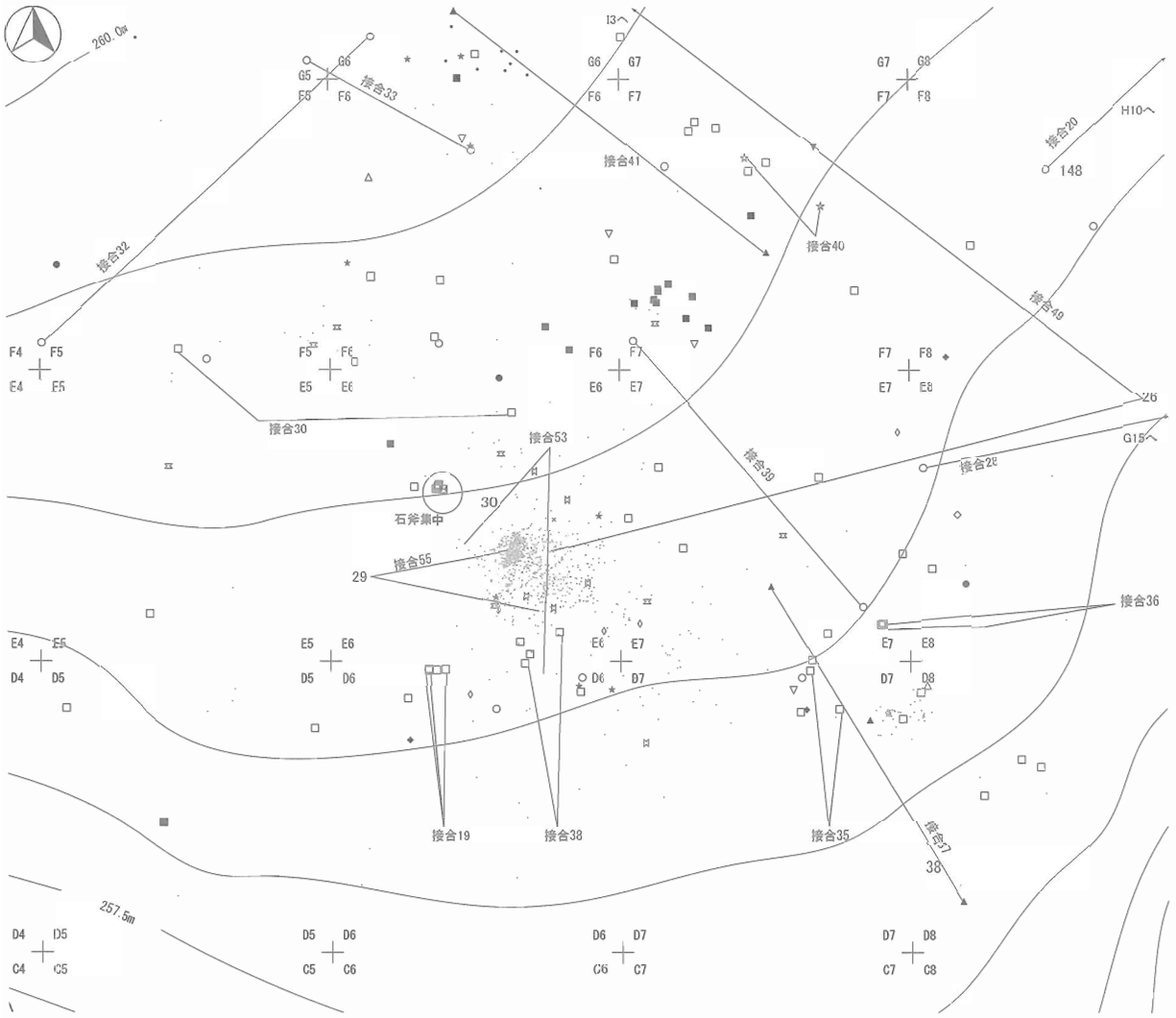
■　剥片/石核類

接合資料（26-30）

礫以外で16例を確認し、このうち３例が剥片石器・石核類のもので、他は礫石器類のものである。

26-28は黒曜石３点の接合資料（接合49）とその部品である。黒曜石は産地分析していないが、箱根畑宿産に類似して見える。接合資料の内訳は、二次加工剥片（27）、石核（28）である。大型剥片が分割してできた角錐状剥片の分割面を打面、主剥離面を作業面として底面の付く幅広剥片を剥離する。剥片剥離の際に石核は中央から割れた（28は接合した状態で石核）。剥離した剥片は左側縁の裏面に微細な二次的剥離痕が連続する。使用痕かもしれない。

29は黒曜石２点の接合資料（接合55）である。天城柏峠産黒曜石に類似する非常に小型扁平な原石を



凡例					
★	黒曜石　諏訪星ヶ台群	■	ガラス質黒色安山岩	●	多孔質玄武岩
◊	黒曜石　箱根畑宿群	□	輝石安山岩	☆	粗粒玄武岩
▽	黒曜石　天城柏峠群	▲	多孔質安山岩	◆	デイサイト
¤	黒曜石　神津島恩馳島群	◇	細粒安山岩	△	ホルンフェルス
×	黒曜石　測定不可	⌘	緑色凝灰岩	⌘	珪質頁岩
·	黒曜石　未分析	○	玄武岩	▼	中粒砂岩

0　1/250　10m

等高線はKU層

第84図　DEF５－８グリッド　石材別分布

長軸方向に数回剥離する。

30は黒曜石２点の接合資料（接合53）である。黒曜石は産地分析していないが、箱根畑宿産に類似して見える。接合する石器はともに剥片である。

石核（31-33）

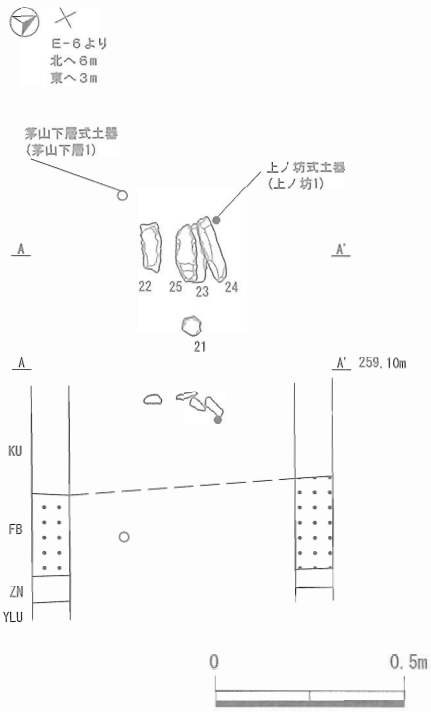
31は黒曜石の石核である。産地分析は行っていないが、不透明で光沢がなく斑晶が少ないので神津島恩馳島産か箱根畑宿産にみえる。自然面の残る剥片の背・腹面で剥片剥離する。この際、主要な打面は共有される。

32は黒曜石の石核である。産地分析していないが、諏訪星ヶ台産に近似してみえる。遺存状態はほぼ原石に近く、作業面は有効な剥片を得るためのものとも思われないので、これは石質を確かめるために入れられたのだろう。大きさからして当初は石鏃生産を目的としていたに違いない。

33はガラス質黒色安山岩の石核である。大きく自然面の付いた分厚い剥片の腹面を作業面として数回の剥片剥離を行い、さらにこの作業面の一部を打面として、背面側でも剥片をとる。

削片（34）

34は黒曜石製（未分析）である。肉眼では神津島恩馳島産に類似して見える。厚手剥片の打面部付近から縁辺を取り込みながら剥離する。



第85図　石斧集中

■　礫石器類

礫器（35）

出土した２点のうち１点を図示した。35は輝石安山岩製である。扁平礫の隣り合う二辺に片刃を作出して尖頭形を呈する。

敲石/磨石類（36-44）

36は多孔質玄武岩製敲石である。正面観が楕円形をなしていたと推測される扁平礫の表裏中央部と両側部に敲打痕が付き、一端を欠損する。欠損部は敲打による可能性が高いが、器種名は形態分類上で敲-片刃礫器ともいいうる。

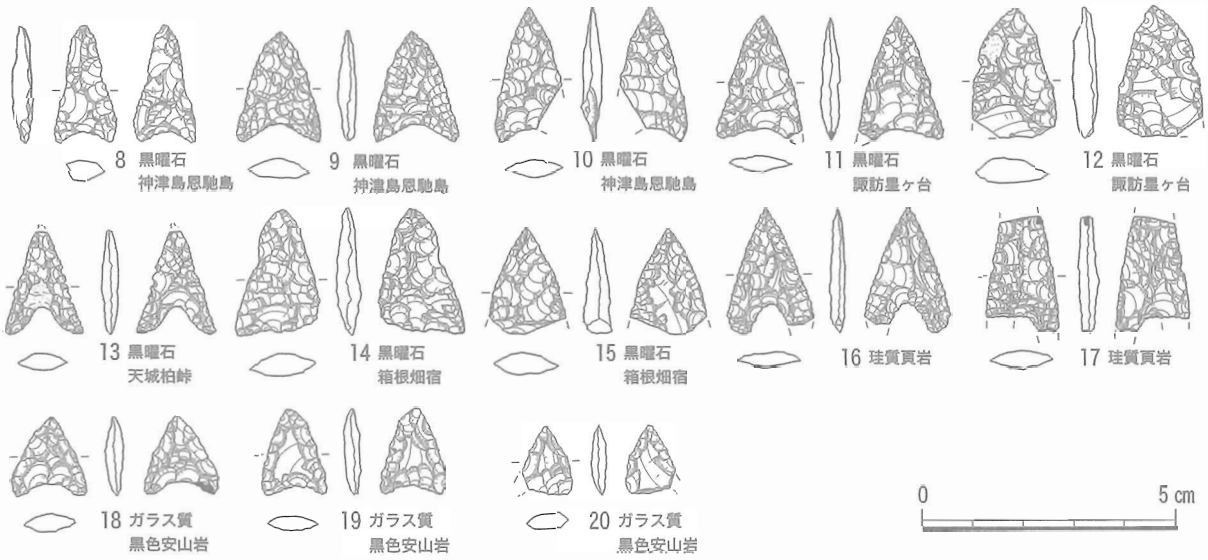
37は輝石安山岩製敲石である。亜円礫の側部のほぼ全縁に敲打痕が付く。

38は多孔質安山岩製磨石である（接合37）。正面観がほぼ円形を呈する扁平礫の表裏および側部に稜が形成されるほど著しい研磨痕が付く。

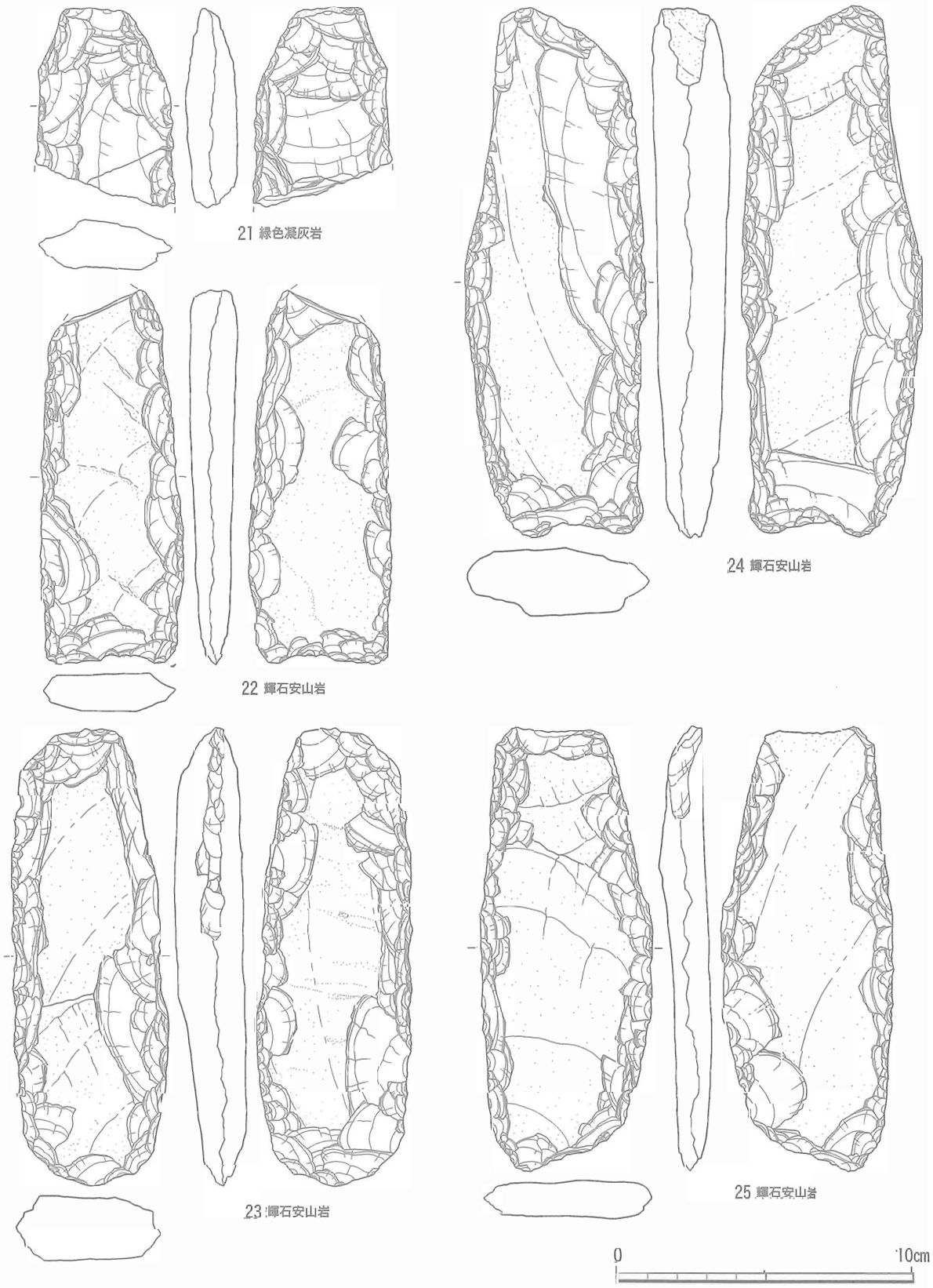
39は玄武岩製磨石である。亜円礫の表裏に研磨痕が付く。

40は輝石安山岩製磨石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の表裏に研磨痕が付く。

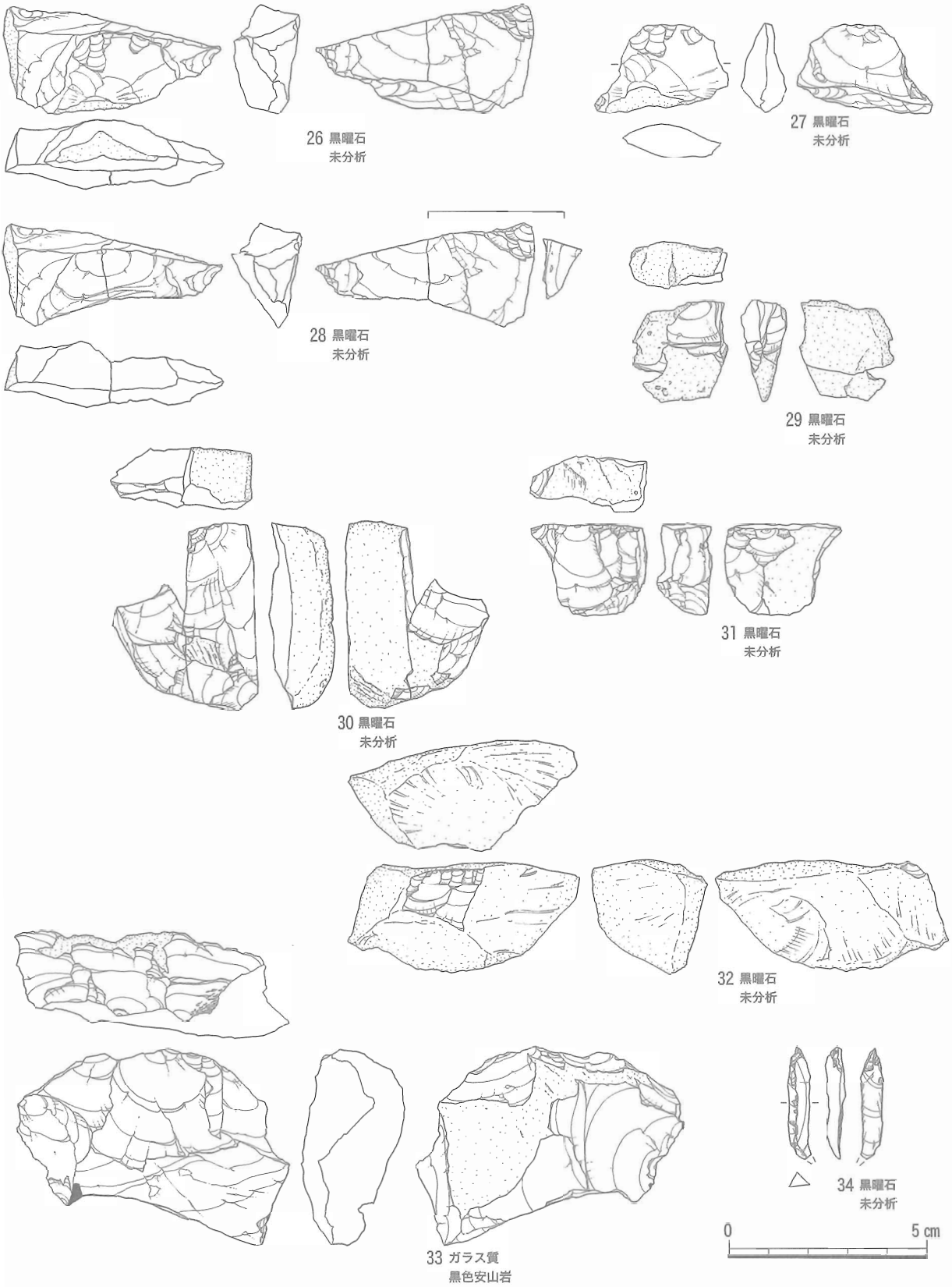
41は輝石安山岩製磨-敲石である。亜円礫の側部の半分程度に幅広く敲打痕、片面に研磨痕が付く。黒塗り部分は発掘時に擦った欠損部である。



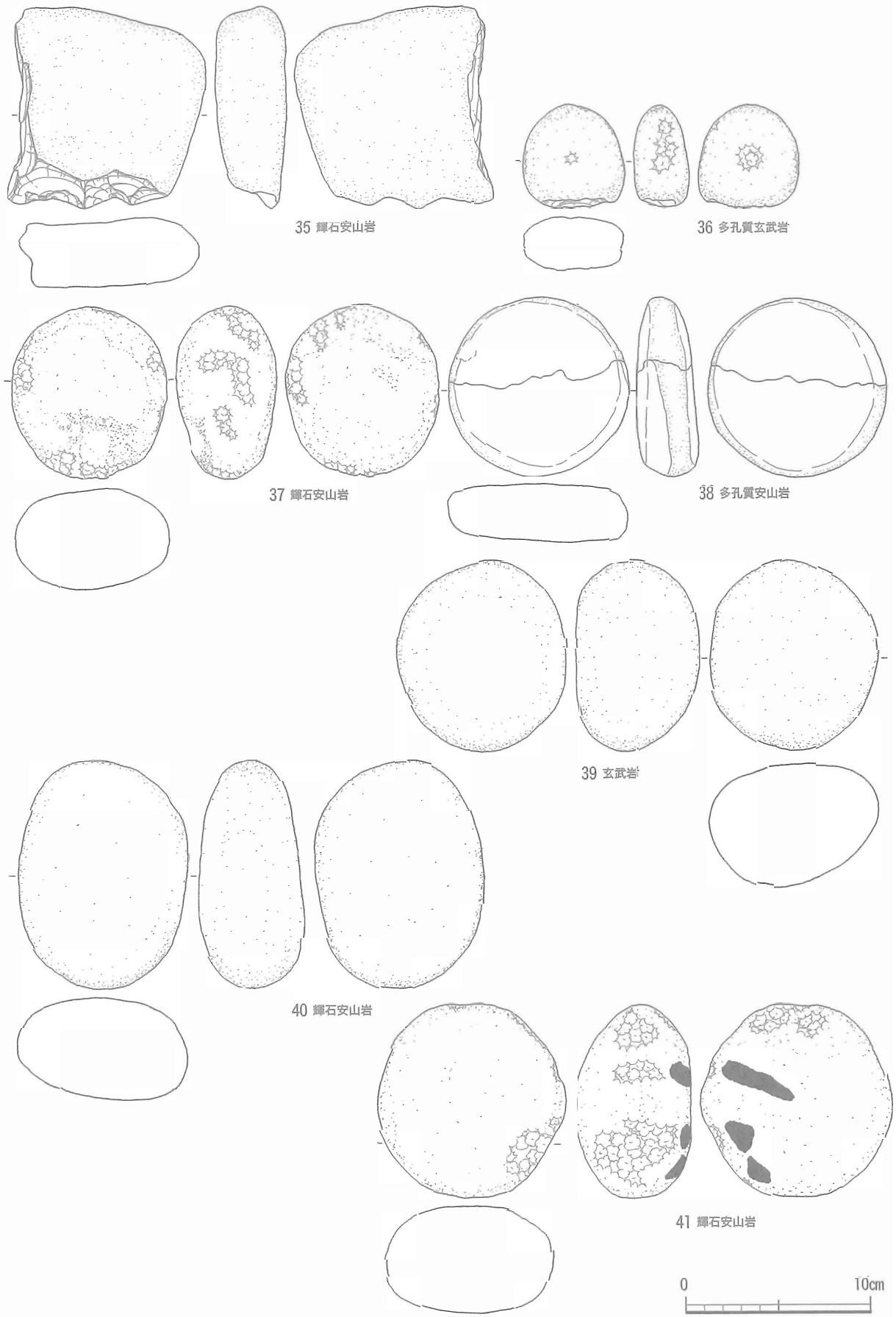
第86図　DEF５-８グリッドの石器群（１）



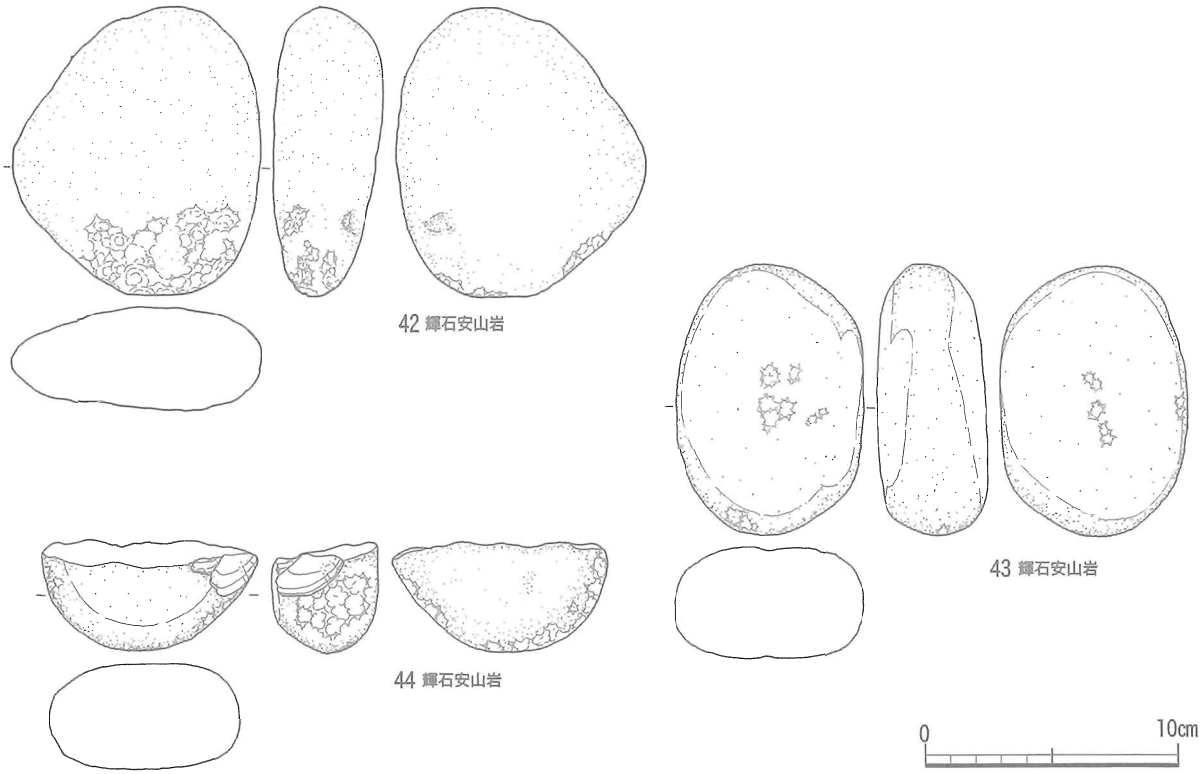
第87図　DEF５－８グリッドの石器群（２）



第88図　DEF５－８グリッドの石器群（３）



第89図　DEF５－８グリッドの石器群（４）



第90図　DEF５－８グリッドの石器群（５）

42は輝石安山岩製磨-敲石である。扁平礫の端部に集中的な敲打痕、裏面に研磨痕が付く。

43は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の表裏に稜が形成されるほど著しい研磨痕、また、それぞれの中央部および端部と側部の一部に敲打痕が付く。

44は輝石安山岩製磨-敲石である。原形不明の礫の端部に敲打痕、正面に研磨痕が付く。

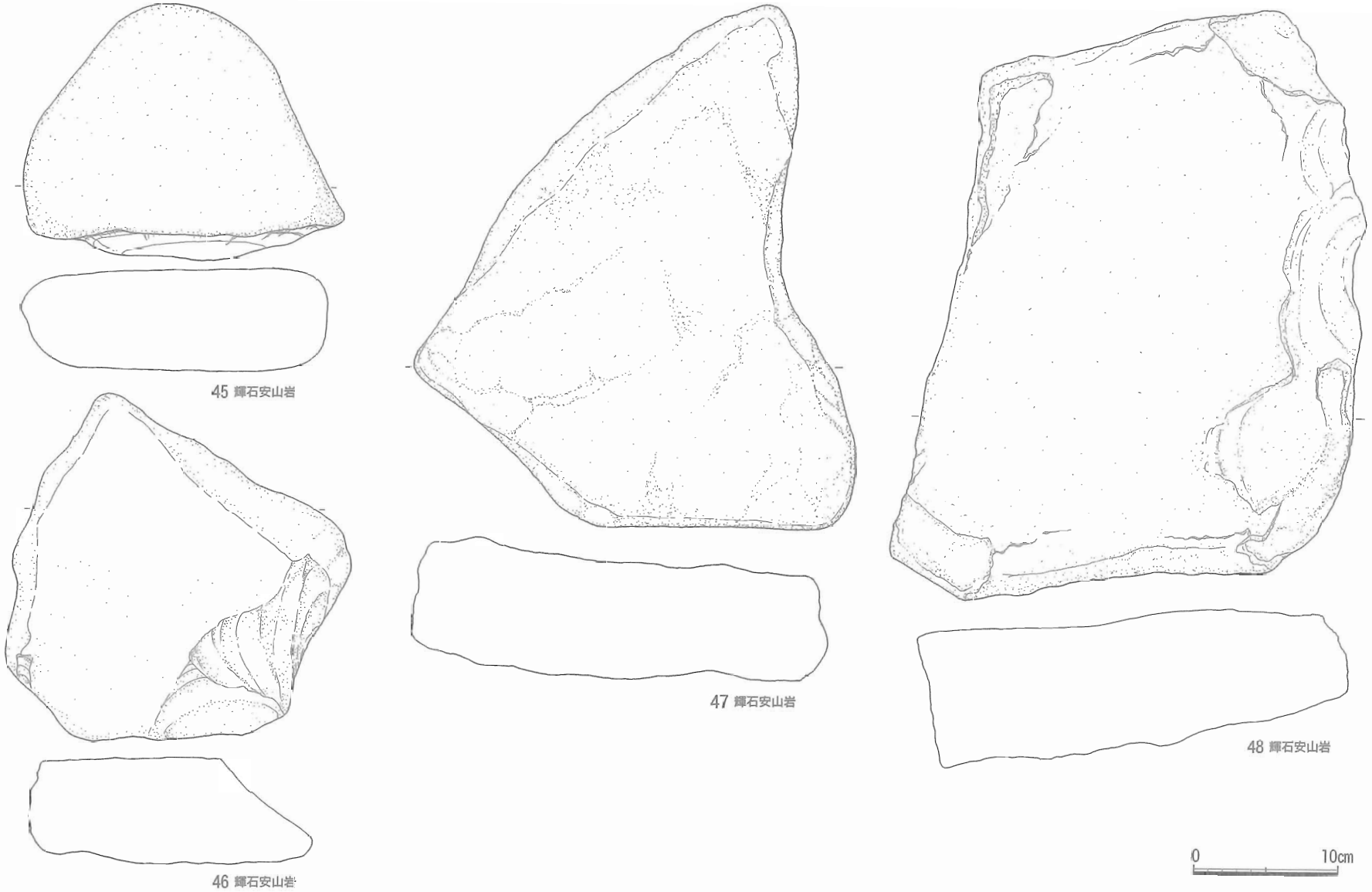
台石/石皿類（45-48）

45は輝石安山岩製石皿である。大型扁平礫の片面に研磨痕が付く。図上の下部は切り立った剥離面である。

46は輝石安山岩製石皿である。周囲が切り立つ大型亜角礫の片面に研磨痕が付く。

47は輝石安山岩製台石である。大型亜角礫である。明確な敲打痕は認められなかったが、搬入の行動的背景を考慮して機能的に分類した。このため、研磨痕が形成されない石皿や、炉石の可能性もある。

48は輝石安山岩製台石である。風化の著しく進行した大型亜角礫である。明確な敲打痕は認められなかったが、周囲を整形している可能性と搬入の行動的背景を考慮して機能的に分類した。このため、研磨痕が形成されない石皿や炉石の可能性もある。



第91図　DEF５－８グリッドの石器群（６）

(3) EFG13-16グリッドの石器群（第92-98図、表17-20/32）

１．石器集中

総点数2403点、剥片石器2321点、石核29点、礫石器類53点が検出された（礫を除く）。層位別点数は次の通りである。

層位	点数	比率
SNZ	2点	0.1%以下
KGP	157点	6.5%
KU	1075点	44.7%
FB	687点	28.6%
ZN	472点	19.6%
YLU	1点	0.1%以下
遺構内	9点	0.4%

これをみると、半数近くがKUから検出され、下位に行くほど漸減していることがわかる。逆に上位のKGPとSNZには大変少ない。KUの比率が先述のＥ６グリッドの黒曜石集中より高いことは、相対的に年代が下る石器群が多く含まれることを意味している。また、ZNの検出数も多いことから、草創期から早期前半に帰属する石器群の存在も示唆されよう。

剥片石器類（石核を含める）は99.4%が黒曜石である。ZNから出土した黒曜石470点の産地分析結果は、多い方から順に、諏訪星ヶ台127点、和田鷹山35点、天城柏峠19点、箱根畑宿14点、和田芙蓉ライト４点、神津島恩馳島２点、箱根黒岩橋１点、推定不可70点、測定不可（砕片がほとんど）198点だった。FB以上の産地分析は石鏃以外ほとんど行っていないのでわかならない。以上の産地を地域別に纏めると、中部高地産166点（35.3%）、伊豆箱根産34点（7.2%）、神津島産２点（0.4%）となり、中部高地産のものが他を圧倒している。神津島恩馳島産が大部分を占める早期末から前期の一般性とは異なっている。

■　E15グリッドとその付近の石器集中（表19/20）

当該グリッドの石器群はいくつかの小石器集中が複合したものであり、小石器集中間には時期差があるものと予想された。なかでもE15グリッドを中心に分布する石器群は、他の小石器集中とは際立って異なる特徴がみられるので、ここで採り上げてみたい。

特に集中していると思われる場所（1373点）を抽出した。石器の検出数を層位別に見ると、YLUには０点、ZNに471点（34.3%）、FBに415点（30.2%）、KUに388点（28.3%）、KGPに99点（7.2%）含まれている。ZNの高い割合が目を引く。EFG13-16グリッドのZN出土の石器群は全部で472点であるから、ほぼ全てがこの小石器集中に分布することになる。

この小石器集中（1373点）の内訳は、剥片石器類1337点、石核11点、礫石器類25点である（表19）。剥片石器類には石鏃22点が含まれており、このうち18点が黒曜石製である。集中部を形成する黒曜石のまとまった消費は石鏃生産に伴うようにも見える。しかし、ZNに限ってみると、黒曜石製石鏃は和田鷹山産１点、礫石器類もまた１点と、たいへん少ない（表20）。よってZNの石器群は、大部分の石鏃及び礫石器類よりも古い時期に帰属している可能性が高い。しかも、黒曜石の消費から窺われるように、石鏃生産との関連は予想されるものの、その製品はほとんど残されずに持ち出されたとものと推測される。この様相はFB以上の石器群とは対照的である。よって、この石器集中は複数の時期の石器生産が重畳したものと推測され、石鏃廃棄頻度の少ない下層の時期と、礫石器利用と石鏃廃棄頻度の高い上層

表17　EFG13-16グリッド　剥片石器類の石材組成

	黒曜石											
	諏訪 星ヶ台群	蓼科 冷山群	和田 鷹山群	和田 芙蓉 ライト群	箱根 畑宿群	箱根 鍛冶屋群	箱根 黒岩橋群	天城 柏峠群群	神津島 恩馳島群	推定 不可	測定 不可	未分析
尖頭器												
石鏃	19	1	1		5	1		8	5	1		
楔形石器												4
抉入削器												1
削器												1
二次加工剥片					1							8
微細剥離痕剥片												5
石刃												
細石刃												1
剥片	24		5		1			10	2	1	1	524
砕片	102		29	4	11			9	1	69	197	1255
石核	1				1		1					26
計	146	1	35	4	19	1	1	27	8	71	198	1825

	ガラス質 黒色 安山岩	緑色 凝灰岩	デイ サイト	ホルン フェルス	珪質 粘板岩	チャート	頁岩	計
尖頭器				1				1
石鏃	3				1			45
楔形石器								4
抉入削器								1
削器	1							2
二次加工剥片	2							11
微細剥離痕剥片								5
石刃			1					1
細石刃								1
剥片	1	1		1		1	1	573
砕片								1677
石核								29
計	7	1	1	2	1	1	1	2350

表18　EFG13-16グリッド　礫石器類の石材組成

	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	角閃石 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	デイ サイト	珪質 粘板岩	中粒砂岩	計
磨-敲石	6				4					10
磨石	11		4	1	6	2	2			26
敲石	5	1			1				1	8
敲石片								1		1
台石	1		1							2
石皿	2				1	1				4
礫器	2									2
計	27	1	5	1	12	3	2	1	1	53

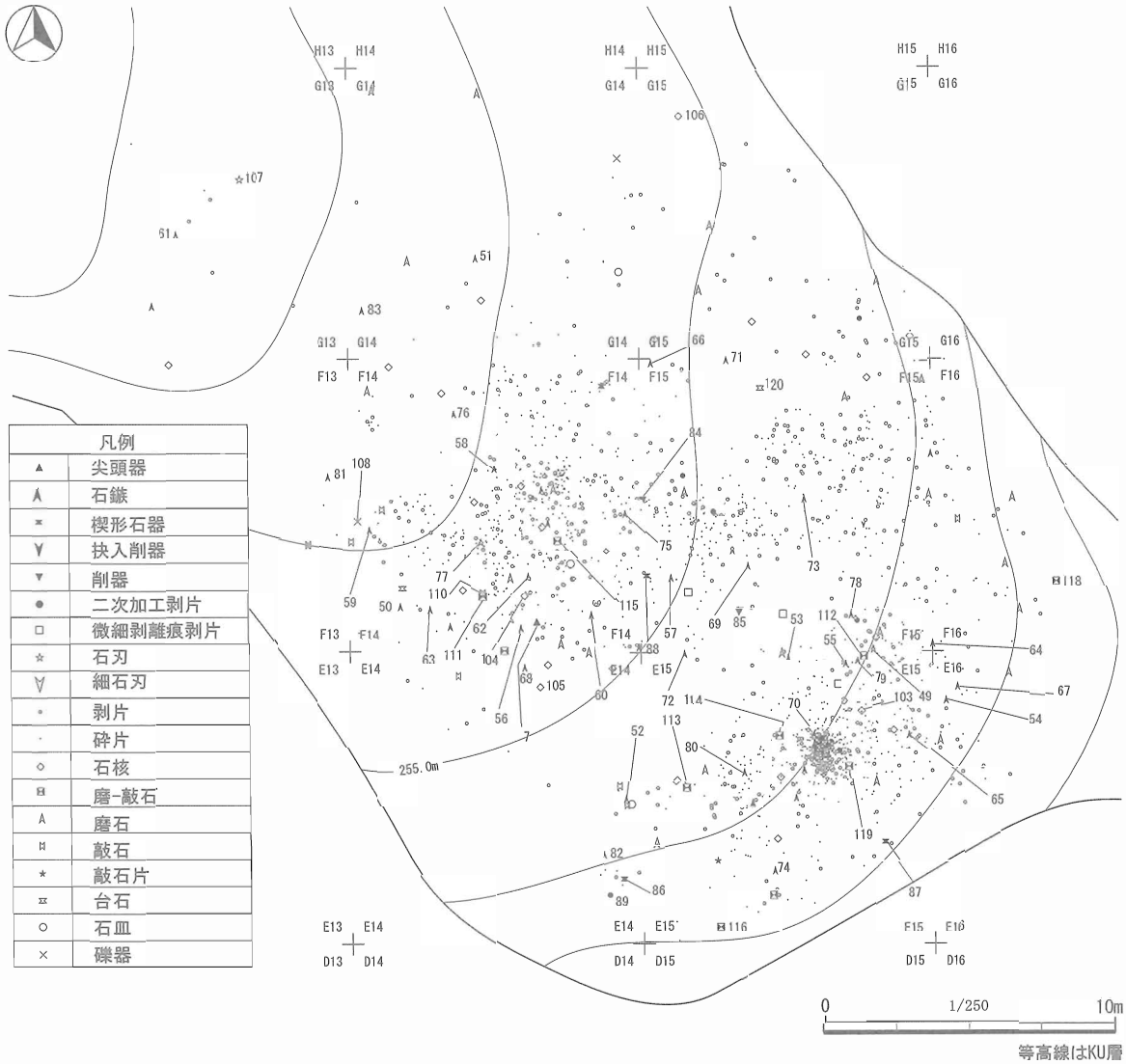
表19　E15グリッド石器集中　石器石材組成（ZN-SNZ）

	黒曜石										
	諏訪 星ヶ台群	和田 鷹山群	和田芙蓉 ライト群	箱根 畑宿群	箱根 鍛冶屋群	箱根 黒岩橋群	天城 柏峠群	神津島 恩馳島群	推定不可	測定不可	未分析
石鏃	8	1		3	1		2	1	2		
楔形石器											2
二次加工剥片				1							4
微細剥離痕剥片											4
細石刃											1
剥片	23	5		1			10	1	1	1	194
砕片	102	29	4	11			9	1	69	197	643
石核	1			1		1					8
磨-敲石											
磨石											
敲石											
敲石片											
石皿											
計	134	35	4	17	1	1	21	3	72	198	856

	ガラス質 黒色 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	頁岩	珪質 粘板岩	計
石鏃	3							1	22
楔形石器									2
二次加工剥片	1								6
微細剥離痕剥片									4
細石刃									1
剥片							1		237
砕片									1065
石核									11
磨-敲石		6			3				9
磨石		4		3	1	3			11
敲石		1	1						2
敲石片								2	2
石皿					1				1
計	4	11	1	3	5	3	1	3	1373

表20　E15グリッド石器集中　石器石材組成（ZN）

	黒曜石									輝石 安山岩	珪質 粘板岩	計
	諏訪 星ヶ台群	和田 鷹山群	和田芙蓉 ライト群	箱根 畑宿群	箱根 黒岩橋群	天城 柏峠群	神津島 恩馳島群	推定不可	測定不可			
石鏃		1									1	2
二次加工剥片				1								1
剥片	23	5		1		10	1	1	1			42
砕片	102	29	4	11		9	1	69	197			422
石核	1			1	1							3
磨石										1		1
計	126	35	4	14	1	19	2	70	198	1	1	471



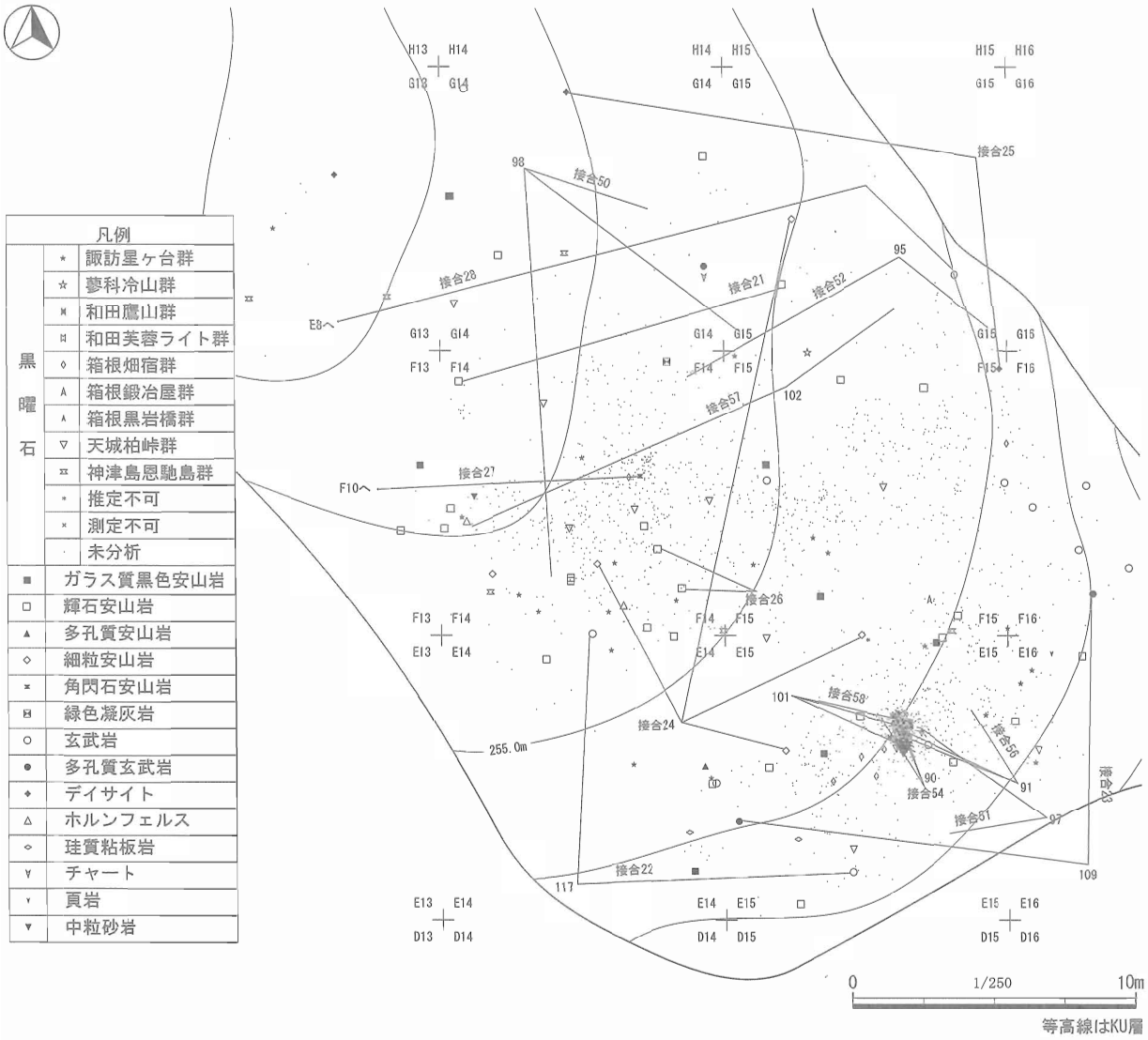
第92図　EFG13-16グリッド　器種別分布

の時期の、少なくとも２つ以上の石器群形成時期があったと推測される。

その時期とはいつだろうか。まず、ZNから出土した下層石器群は縄文時代草創期の可能性が考慮される。しかし、YLUから出土した石器はなく尖頭器石器群の出土もない。縄文石器群の時期決定には土器型式を援用するほかない。この地点の土器を時期順に列記すると下のようになる。

撚糸文土器	１個体
型式不明の沈線文土器	４個体
判ノ木山西式土器	３個体
茅山下層式土器	１個体
型式不明の条痕文土器	４個体
諸磯b式土器	２個体
型式不明の前期土器	２個体
型式不明の中期土器	２個体

土器の個体組成は早期後半のものが多く、石器群もこの時期が多い可能性が考えられる。しかし、DEF５－８の早期後半と思われる石器群よりは明らかに層位が低いことから、草創期から早期前半の資



第93図　EFG13-16グリッド　石材別分布

料を高い比率で組成しているものと考えておきたい。製品と石核の組成頻度の低さは、この時期における石材消費状況の一端を表すのかもしれない。

FB以上にある上層石器群は周囲の小石器集中との共通点が多い。しかし予算と時間の制限から、産地分析が石鏃を除くFB以上の石器群に及んでおらず、わからない部分も多かった。黒曜石製石鏃８点の産地推定結果は、諏訪星ヶ台産２点、天城柏峠産２点、箱根畑宿産３点、推定不可１点である。石鏃に利用される黒曜石はZNのように諏訪星ヶ台等の中部高地産ではなく、伊豆箱根産が中心といえる。しかし、本グリッドの剥片の個体分類を行ったところでは、149点のうち39点が伊豆箱根に類似するものに分類され、この結果は製品と剥片類の産地構成比が対応していない可能性を示唆している。よって伊豆箱根産の生産は他所で行われたのかもしれない。

この石器群には多くの礫石器類が伴う。しかし、住居跡や石皿・台石を伴わないので、一時的な滞在中に簡便な加工作業を行った結果と推定される。土器をみると、推測される時期は早期後半から中期と幅広い。

２．出土石器の検討（第94-98図）

■　二次加工石器類

石鏃（49-83）

49-78と83は黒曜石製である。分析産地を単位に配列した。出土総数36点の内訳は、諏訪星ヶ台産/蓼科冷山産/和田鷹山産といった中部高地の黒曜石が計21点（58.3%）、箱根鍛冶屋産/天城柏峠産といった伊豆箱根の黒曜石が計９点（25.0%）、神津島恩馳島産の黒曜石が５点（13.9%）、その他（産地推定不可）１点である。６割近くが中部高地産で、逆に神津島産が少ないことに注意したい。

49-51は神津島恩馳島産である。５点中３点を図示した。

52と54-69は諏訪星ヶ台産である。19点中17点を図示した。53は黒曜石製（推定不可）である。１点出土した。70は和田鷹山産である。１点出土した。71は蓼科冷山産である。１点出土した。72-77と83は天城柏峠産である。８点中７点を図示した。78は箱根鍛冶屋産である。１点出土した。

79-82は黒曜石製以外の石鏃である。

79-81はガラス質黒色安山岩製である。82は珪質粘板岩製である。この石材は珪質分が多くチャートにもみえるが、薄く剥がれやすい性質をもつ。この珪質粘板岩製の細身扁平で基部の抉りが浅い石鏃は本地域の遺跡でよく見られる。珪質粘板岩製にこのような形態が多いのは、その性質により薄手の素材剥片を得やすい反面、基部を抉入状に整形する二次加工がしにくいからだろう。いまのところ、愛鷹・箱根地域でまとまった素材生産等が行われた遺跡は確認されていない。森嶋富士夫によると、この石材が富士川上流の釜無川で採取されたとのことであるから、中部高地産黒曜石製石鏃の高い組成率とあわせ、その消費の密接な関連が暗示されよう。

削器（84/85）

84は黒曜石製（産地未分析）である。僅かに灰色がかった縞があり、透光性があり、斑晶がないので、中部高地産だろう。バルブの発達しない主剥離面の状態からみて、素材剥片は両極剥離によって生産したと推測される。右縁辺の表裏に連続する平坦剥離を施して刃部を作出する。

85はガラス質黒色安山岩製である。自然面を打面として剥離された、やや縦長の剥片の左側縁の末端寄りにやや大振りだが平坦な二次加工痕を施す。また、右側縁の背面に微細剥離痕が連続的に付く。

楔形石器（86-88）

86黒曜石製（産地未分析）である。黒い縞があり、透光性があり、斑晶がないので、中部高地産か神津島産だろう。大きく自然面の残る小型原石を挟み撃ちにしたものと思われる。

87は黒曜石製（産地未分析）である。黒みが強く、透光性がなく、斑晶が多いので、箱根畑宿産だろう。小型幅広剥片製で、打面が折れ、末端は石核底面を取り込んでか切り立つ面となっている。それぞれの面を打面として表裏に微細な剥離痕が連続する。

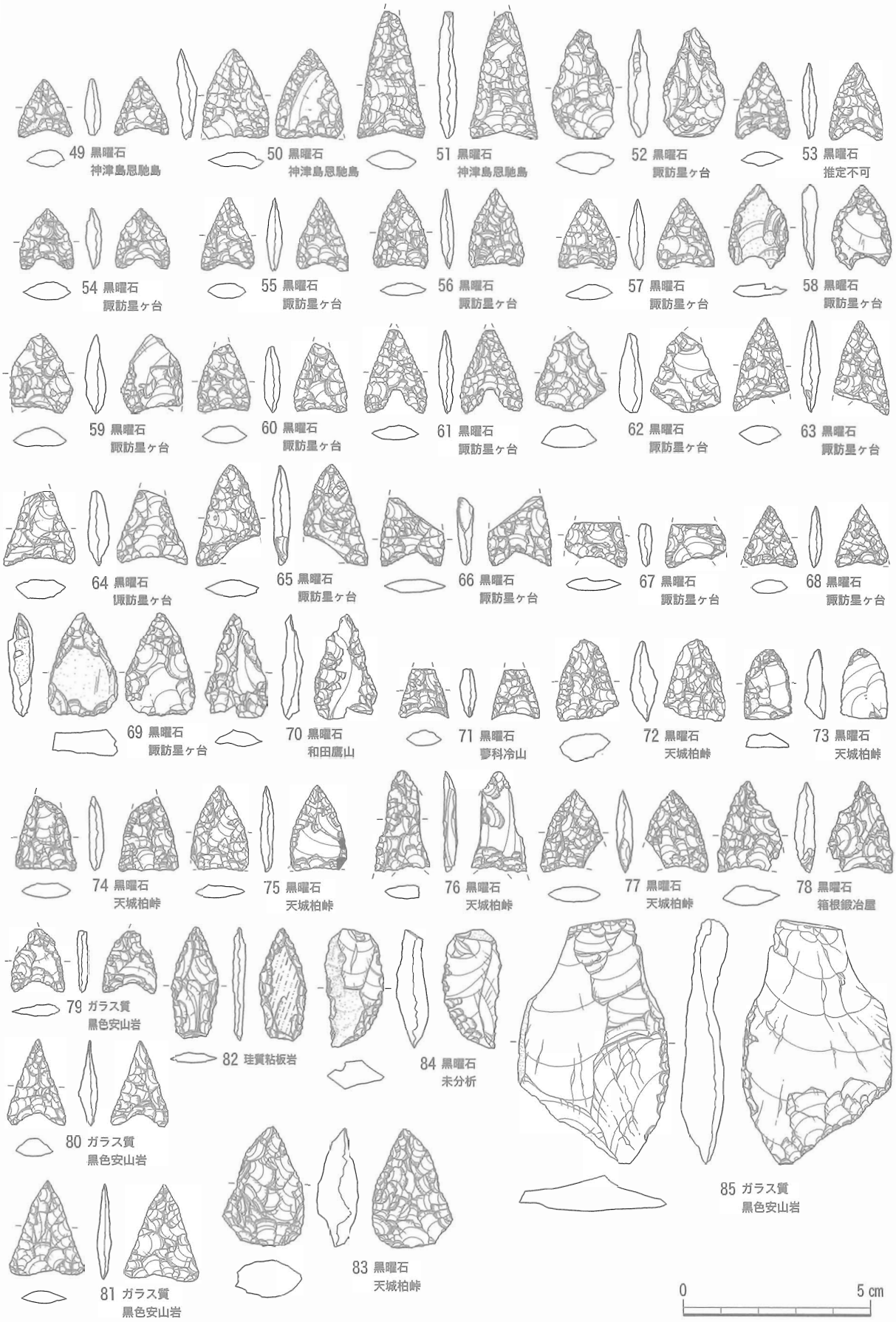
88黒曜石製（産地未分析）である。灰色がかり、透光性がなく、斑晶が多いので、天城柏峠産の可能性が高い。小型扁平な原石を四方から挟み撃ちにしたものと思われる。

二次加工剥片（89）

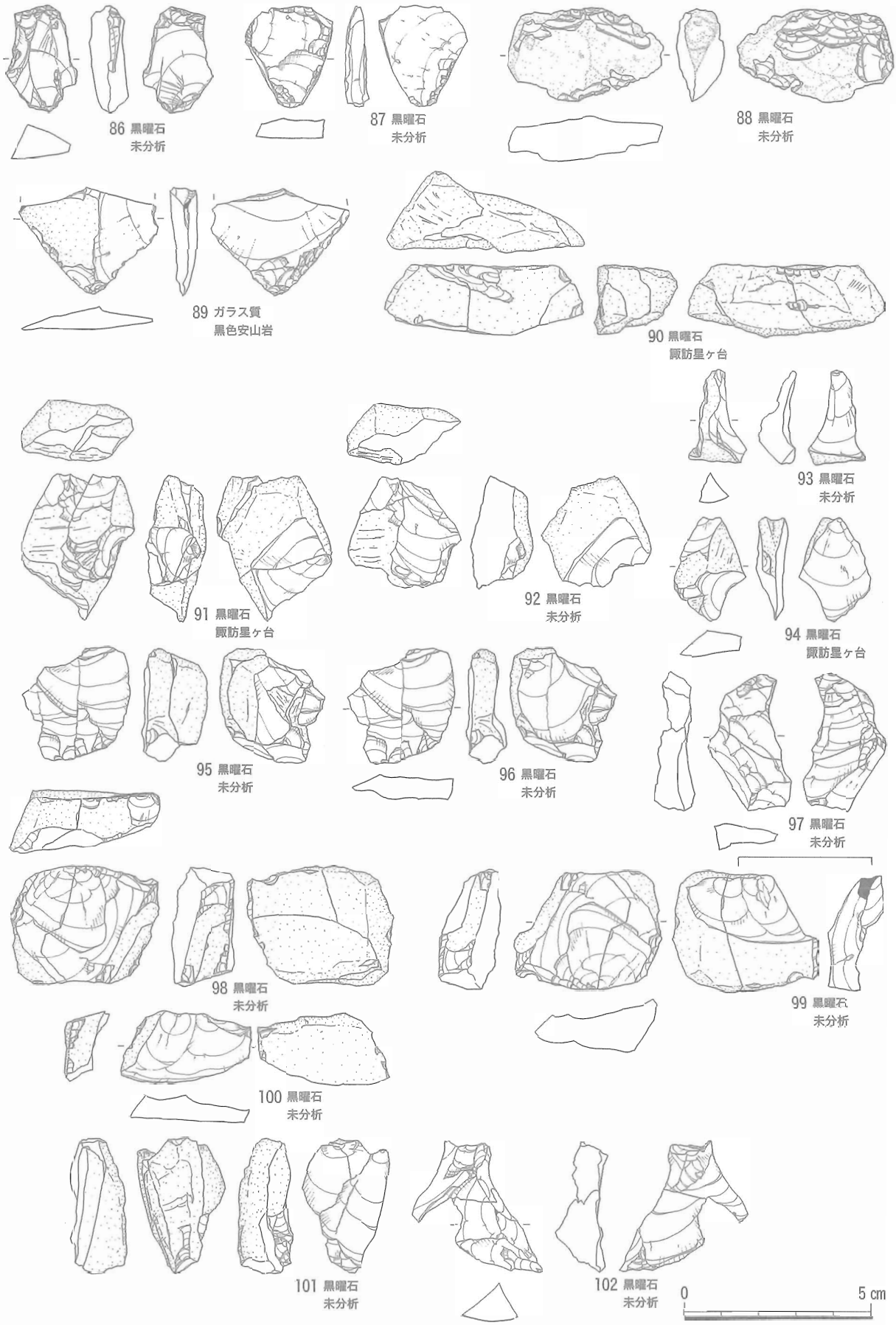
89はガラス質黒色安山岩製である。自然面が残る折れた剥片の末端裏面に小型剥離痕が連続する。使用痕の可能性も考慮される。

■　剥片・石核類（90-107）

90は諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片１点と石核２点の接合資料である（接合54）。白ないし黄色がかった節理がみられる原石状態に復元された。これも諏訪星ヶ台産黒曜石の搬入実態を示す重要な資料である。



第94図　EFG13-16グリッドの石器群（１）



第95図　EFG13-16グリッドの石器群（２）

91は諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片2点と石核1点の接合資料である（接合56）。非常に小型の原石の表裏に対抗方向からの剥片剥離痕が見られる。これも、天城柏峠産黒曜石と同様、両極剥離による小型剥片（おそらくは石鏃の素材剥片）生産を主要な目的として搬入された石材と推測される。

95と96は黒曜石製（産地未分析）剥片（95）と楔形石器（もしくは石核）（96）の接合資料である（接合52）。黒曜石は接合54と56に近似しており、おそらく諏訪星ヶ台産と思われる。これも両極剥離によって小型剥片生産を企図したものだろう。

97は黒曜石製（産地未分析）剥片の接合資料である（接合51）。半ばで折れた面が接合する。バルブが発達せず、間隔が詰まったリングの特徴は両極剥離で生産されたことを示唆する。

98-100は黒曜石製（産地未分析）接合資料である（接合50）。やや灰色がかり透光性がなく、少ない斑晶が入る。天城柏峠産の可能性がある。98は接合状態、99は100から剥離された剥片で、100が石核である。小型原石を両極剥離で消費し、小型剥片生産を行ったようである。99はさらに分割されたが、100から剥離されたときに衝撃で割れたものかもしれない。

101は黒曜石製（産地未分析）剥片3点の接合資料である（接合58）。白ないし黄色がかった節理がみられる特徴は接合54等に共通するので、諏訪星ヶ台産の可能性が高い。ただし、主剥離面の状態等からして、両極剥離とはことなる剥離技法で小型剥片が生産されていると推測される。

102は黒曜石製（産地未分析）の折れた剥片の接合資料である（接合57）。雲がかったような黒色で、透光性が低く、少ない斑晶が入る。

103は黒曜石製（産地未分析）である。黒色で透光性がなく斑晶が多いので箱根畑宿産だろう。小型石核の作業面に微細剥離痕が連続する。加工具かもしれない。

104は黒曜石製（産地未分析）である。光沢はあるが透光性が低く、少ない斑晶が入るので神津島恩馳島産と思われる。小型剥片の周辺から半求心剥離で小型剥片を生産する。

105は黒曜石製（産地未分析）である。灰色で透光性がなく斑晶が非常に多いので天城柏峠産に違いない。作業面は対抗方向からの剥片剥離によって形成されている。この石核も106と同じく両極剥離が関与しているだろう。

106は黒曜石製（産地未分析）である。灰色で透光性がなく斑晶が多いので天城柏峠産に違いない。小型原石の一面に作業面がみられ、また注意深く見ると、対面の下にも反対方向からの小さな剥離痕が見られる。両極剥離が関与した可能性が高い。サイズからいって、生産剥片は石鏃の素材となるものと予測可能である。先の105も併せ、このような例は天城柏峠産黒曜石の獲得と消費の実態を示唆する資料として重要である。

107はデイサイト製である。第Ⅳ文化層にも同質石材の消費痕跡が確認されていることから、それと何か関連するかもしれないが、出土層準（KU）を優先して縄文時代の石器として扱った。

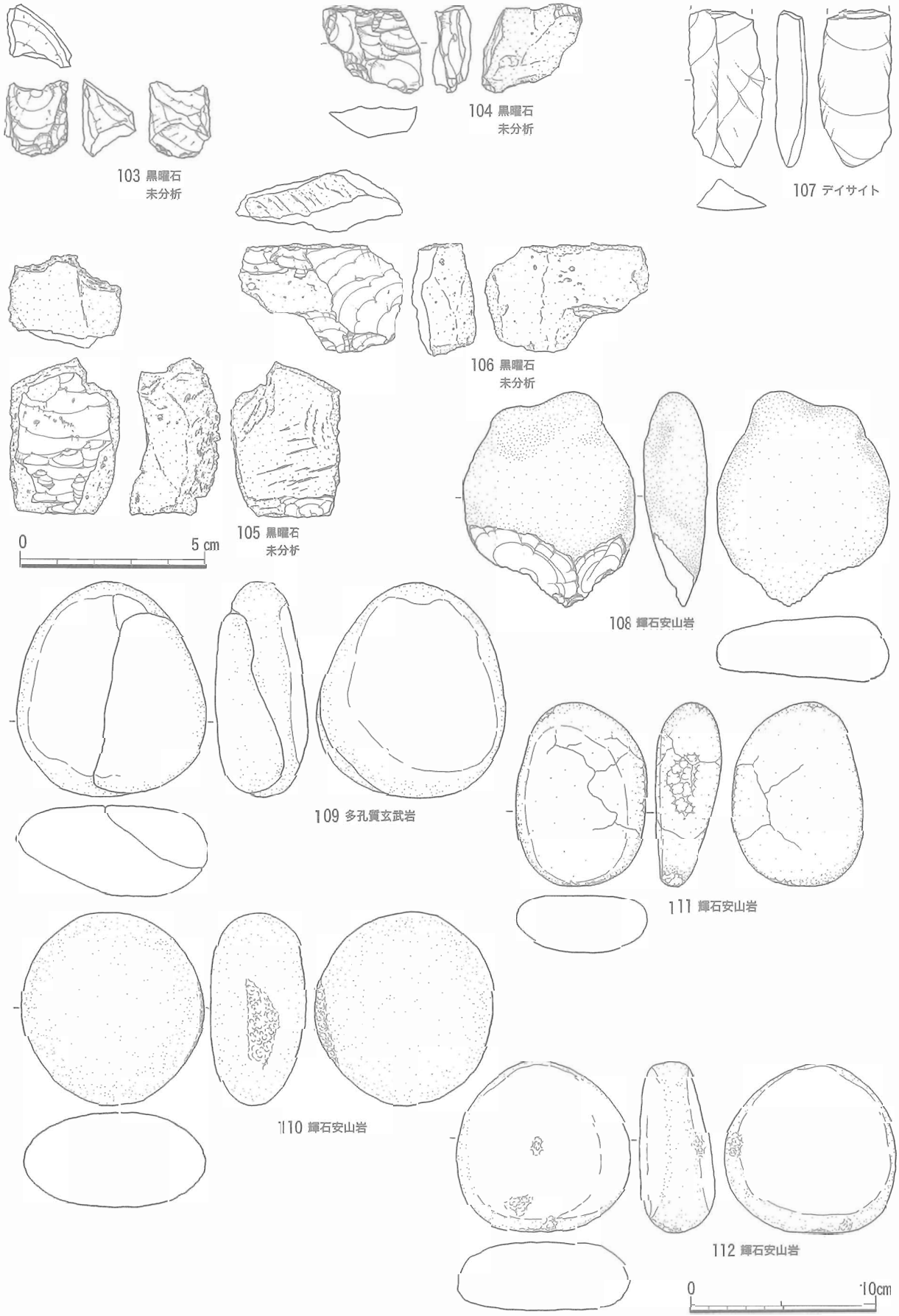
■　礫石器類

礫器（108）

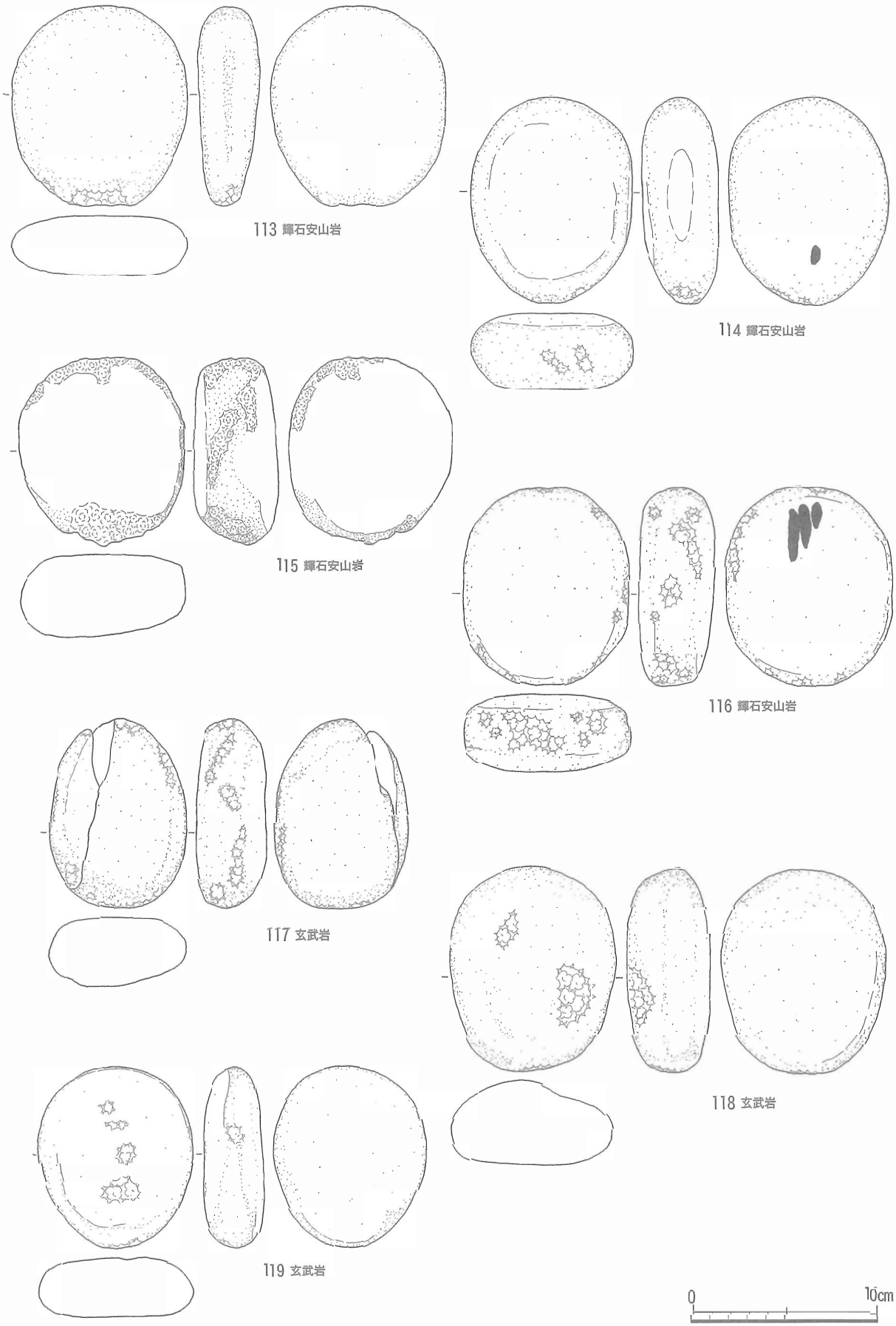
108は輝石安山岩製片刃礫器である。扁平礫の端部に大振りの剥離を隣り合わせて施し、尖状の刃部を整形する。

磨石（109）

109（接合23）は多孔質玄武岩製磨石である。正面観がやや非対称の楕円形を呈する扁平礫の表裏に研磨痕が付く。



第96図　EFG13-16グリッドの石器群（３）



第97図　EFG13-16グリッドの石器群（４）

敲石（110）

110は輝石安山岩製敲石である。正面観が円形を呈する扁平礫の一端に敲打痕が付く。

磨-敲石（111-119）

111は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の側部と端部に敲打痕、片面に研磨痕が付く。

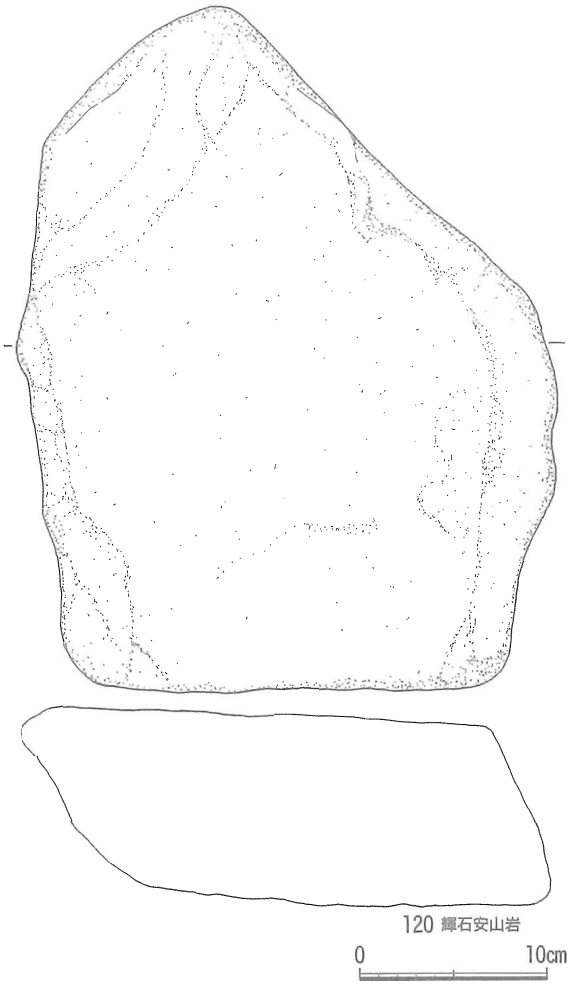
112は輝石安山岩製の磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の中央と側部の所々に敲打痕、両面の広範囲に研磨痕が付く。著しい研磨痕によって、両面には稜が形成されている。

113は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の一端に敲打痕、表裏に研磨痕が付く。

114は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の端部に敲打痕、片面と側部の一部に研磨痕が付く。著しい研磨痕により一部に稜が形成されている。

115は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の周囲全体に敲打痕、表裏のほぼ全面に著しい研磨痕が付く。

116は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の周囲全体に敲打痕、両面に研磨痕が付く。著しい研磨痕のため、表裏に稜が形成されている。



第98図　EFG13-16グリッドの石器群（５）

117（接合22）は玄武岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の側部の大部分と両端部に敲打痕が付き、片面に研磨痕が付く。

118は玄武岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の片面と端部に敲打痕、反対の面に研磨痕が付く。図中の右下には著しい研磨により稜が形成されている。

119は玄武岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の片面中央と側部の一部に敲打痕、表裏に研磨痕が付く。

台石（120）

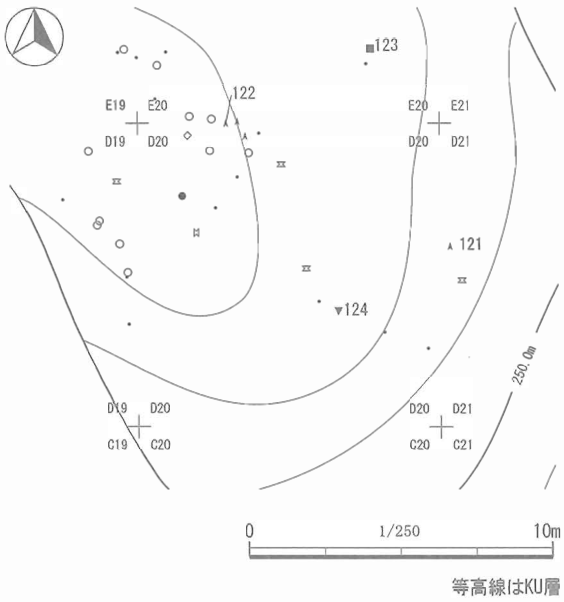
120は輝石安山岩製大型扁平礫であるが、搬入の行動的背景と全体形状から推測される機能とから台石に分類した。よって、石皿や炉石等の可能性も当然ある。

(4)　CDE19-21グリッドの石器群（第99-101図、表21）

調査区西部に伸びる尾根の僅かな平坦面に位置する石器群である（第99/100図）。検出石器数は38点で、礫石器類５点を含む（表21）。石鏃は４点検出され、その内訳は神津島恩馳島産黒曜石製２点、箱根畑宿産黒曜石製２点である。出土層準がKGPに偏ること（52.6%）から、ほかのグリッドと比較して新しい時期に形成された石器群と推定される。集石３基（３、４、10号）がFBからKUを中心に検出されたが、土器が出土しなかったので時期は分からない。

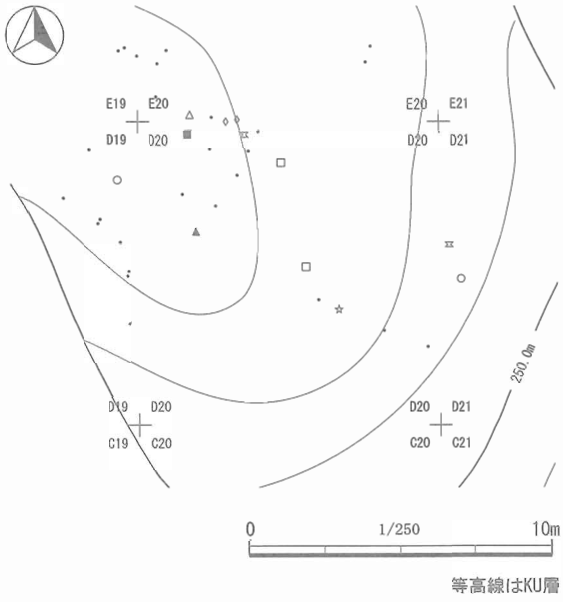
表21　CDE19-21グリッド　石器石材組成

	黒曜石			ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	流紋岩	玄武岩	細粒斑レイ岩	計
	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	未分析							
石鏃	2	2								4
石錐			1							1
削器							1			1
二次加工剥片			1							1
剥片			10						1	11
砕片			14							14
石核				1						1
磨石					2			2		4
石皿						1				1
計	2	2	26	1	2	1	1	2	1	38



凡例			
▲	石鏃	・	砕片
▼	削器	◇	石核
■	石錐	⌘	磨石
●	二次加工剥片	⌗	石皿
○	剥片		

第99図　CDE19-21グリッド　器種別分布



凡例			
黒曜石	◊	箱根畑宿群	□	輝石安山岩
	⌘	神津島恩馳島群	▲	多孔質安山岩
	・	未分析	☆	流紋岩
■		ガラス質黒色安山岩	○	玄武岩
			△	細粒斑レイ岩

第100図　CDE19-21グリッド　石材別分布

出土石器の検討（第101図）

石鏃（121/122）

121は神津島恩馳島産黒曜石製石鏃である。

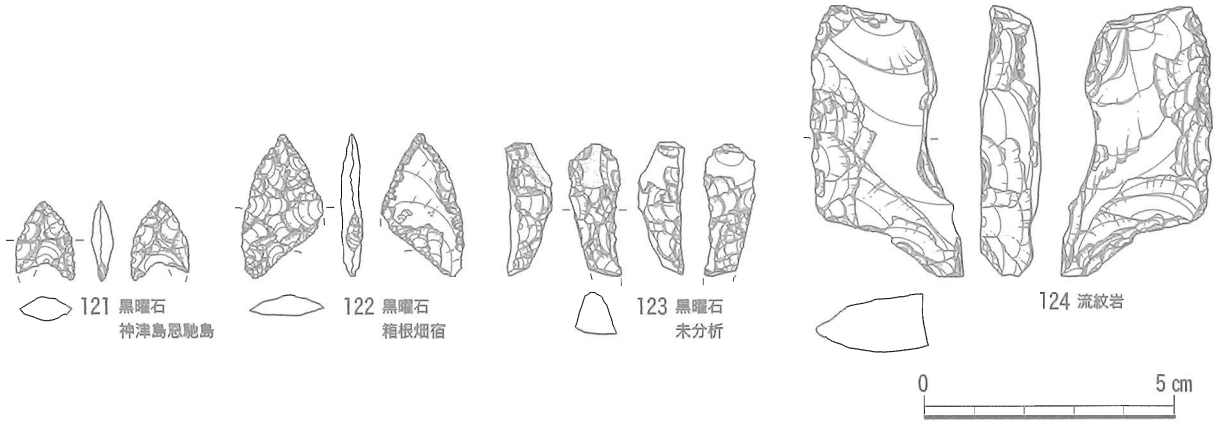
122は箱根畑宿産黒曜石製石鏃である。

石錐（123）

123は黒曜石製（産地未分析）の石錐である。自然面の残る剥片を素材にして、打面とバルブを残して急角度な剥離を施し角錐状に整形する。刃部は使用のためか折れている。

削器（124）

124は流紋岩製の削器である。分厚い剥片の打面を残して周囲全体に不整形な剥離を施して刃部を整形する。単独個体である。



第101図　CDE19-21グリッドの石器群

(5)　HIJK 6 - 11グリッドの石器群（第102-109図、表22/23）

総点数106点で、うち76点（71.7%）までもが礫石器類である。石器群の分布はたいへん散漫である。黒曜石の消費も少なく、石器生産痕跡も相対的に低調である。複数の時期を包摂している可能性が高く、実際、この内部にある有舌尖頭器と石器集中１箇所は縄文時代草創期に帰属する。132-135、138-140、152はこの集中を構成する石器である。

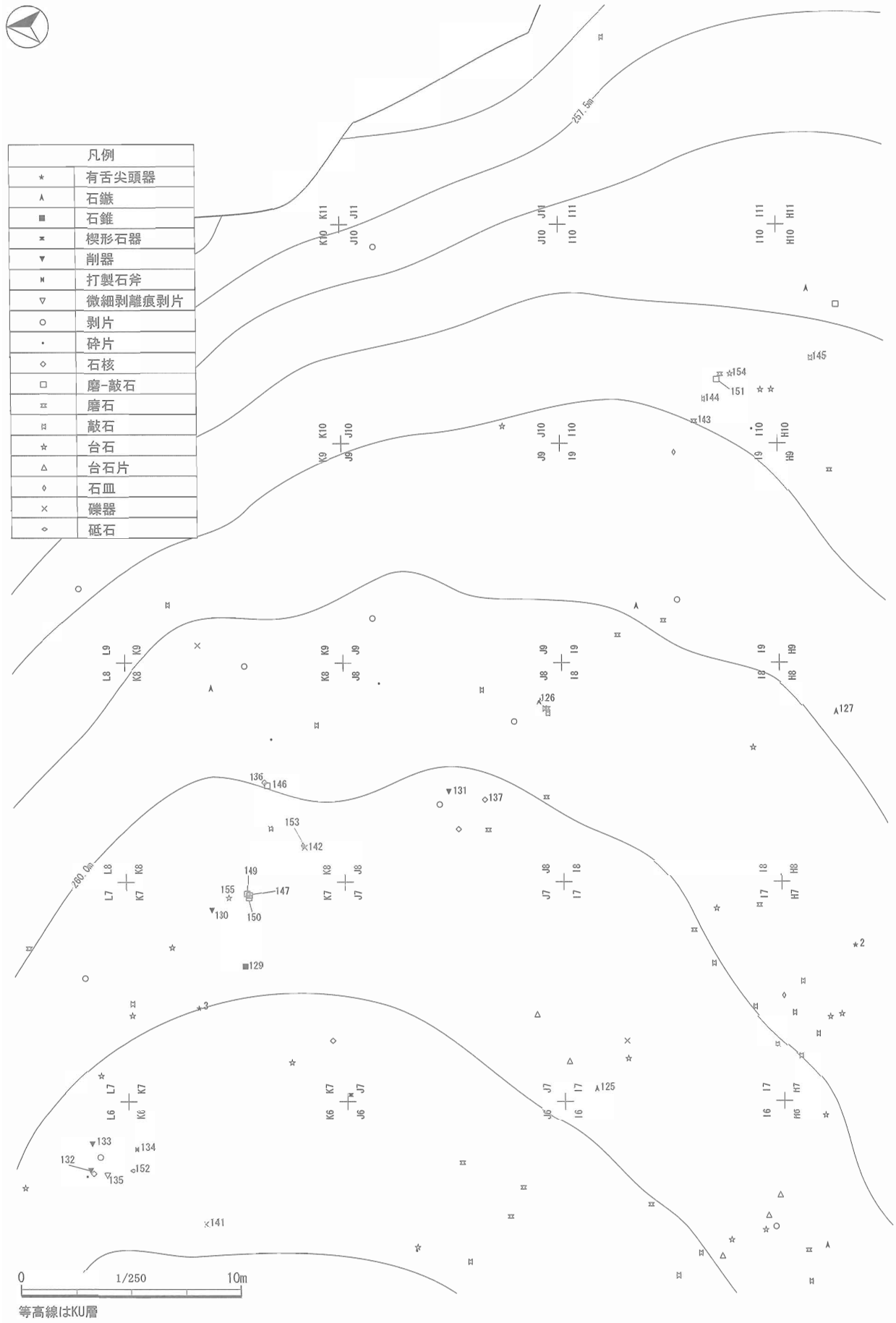
礫石器類の帰属時期については検討が及ばなかった。ただし、その一部に付いては、中期の土器群よりも明らかに低い層準から検出されていることが分かった。殆どは早期後半に帰属するものと予測している。

表22　HIJK 6 - 11グリッド　剥片石器類の石材組成

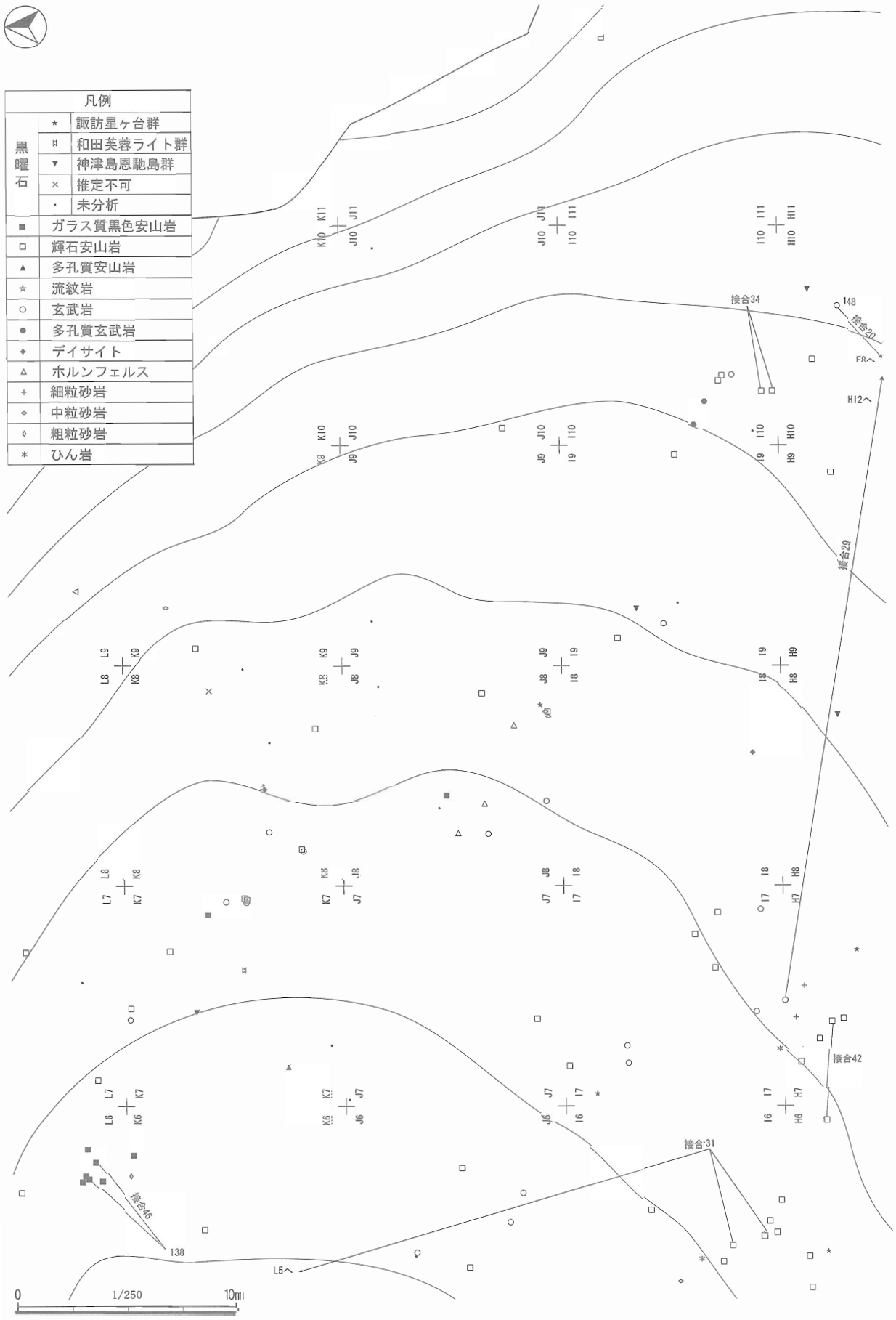
	黒曜石					ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	流紋岩	ホルンフェルス	計
	諏訪星ヶ台群	和田芙蓉ライト群	神津島恩馳島群	推定不可	未分析					
有舌尖頭器	1		1							2
石鏃	3		3	1				1		8
石錐		1								1
楔形石器					1					1
削器						2				2
打製石斧						1				1
剥片					5		1		1	7
砕片					4					4
石核					1				3	4
計	4	1	4	1	11	3	1	1	4	30

表23　HIJK 6 - 11グリッド　礫石器類の石材組成

	輝石安山岩	多孔質安山岩	玄武岩	多孔質玄武岩	デイサイト	細粒砂岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ひん岩	計
磨-敲石	3		2		1					6
磨石	8		7	1						16
敲石	10		2	1		2	4		2	21
台石	11	1	5		1					18
台石片	5									5
石皿	3		1							4
礫器	2		2							4
砥石								2		2
計	42	1	19	2	2	2	4	2	2	76



第102図　HIJK 6－11グリッド　器種別分布



等高線はKU層

第103図　HIJK 6－11グリッド　石材別分布

出土石器の検討（第104-109図）

二次加工石器類

石鏃（125/126）

125と126は諏訪星ヶ台産黒曜石製石鏃である。127は神津島恩馳島産黒曜石製石鏃である。基部がやや外湾する三角形鏃である。128は白色風化する流紋岩製石鏃である。

石錐（129）

129は和田芙蓉ライト産黒曜石製の石錐である。剥片の周縁を急角度な剥離で連続的に二次加工し、打面側に刃部を作出する。風化が著しいので、旧石器時代に帰属する可能性もあるが、ほかに検討できる材料は得られていない。

削器（130-133）

130はガラス質黒色安山岩製削器（側削器）である。側縁の収束するやや縦に長い剥片の末端の刃部と、左縁辺に直線的な刃部を作出する。

131はガラス質黒色安山岩製の削器（側削器）である。両極剥離によって得られた可能性のある剥片の左側縁に使用痕も含む二次的剥離痕が連続する。右側縁は、両極剥離のためか、彫刻刀面のような樋状の剥離面が形成されている。

132はガラス質黒色安山岩製削器である。分厚い剥片の左縁辺に微細剥離痕が連続する。右縁辺は急角度になっているが、これを打面として表裏にみられる二次的な剥離面は刃部ではなく、挟み撃ちによる潰れ痕であろう。

133はガラス質黒色安山岩製の削器（尖頭削器）である。大型剥片の左縁辺の末端に収斂するように、尖頭器のそれと類似する平坦剥離で整形する。右縁辺は折れているが、こちらにも刃部が作出されていた可能性がある。調整加工技術の特徴は両面加工石器のそれと共通する。

打製石斧（134/135）

134はガラス質黒色安山岩製打製石斧である。分厚い剥片ないし石核を素材として、端部に微弱な二次加工を施す。全体形状は嘴状を呈する。

135はガラス質黒色安山岩製である。尖端に向けて収斂する剥片の左右縁辺に微細剥離痕が連続する。縄文時代草創期の石器である。YLU出土である。

■　剥片・石核類および接合資料

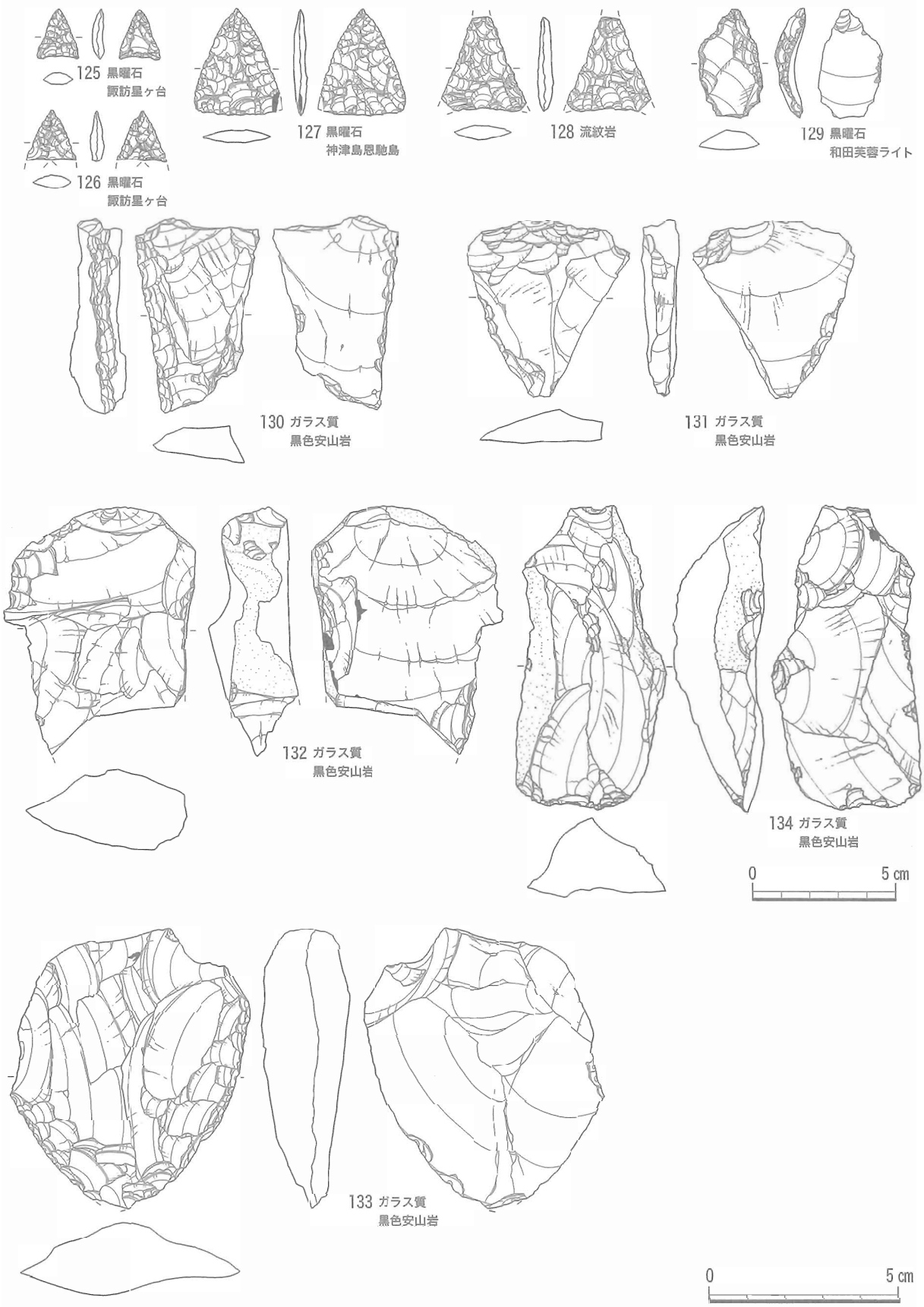
石核（136/137）

136はホルンフェルス製の石核である。ただし、石質が本地域における一般的なホルンフェルスと異なり、むしろ礫石器類の石材に近いことから、片刃礫器の可能性がある。

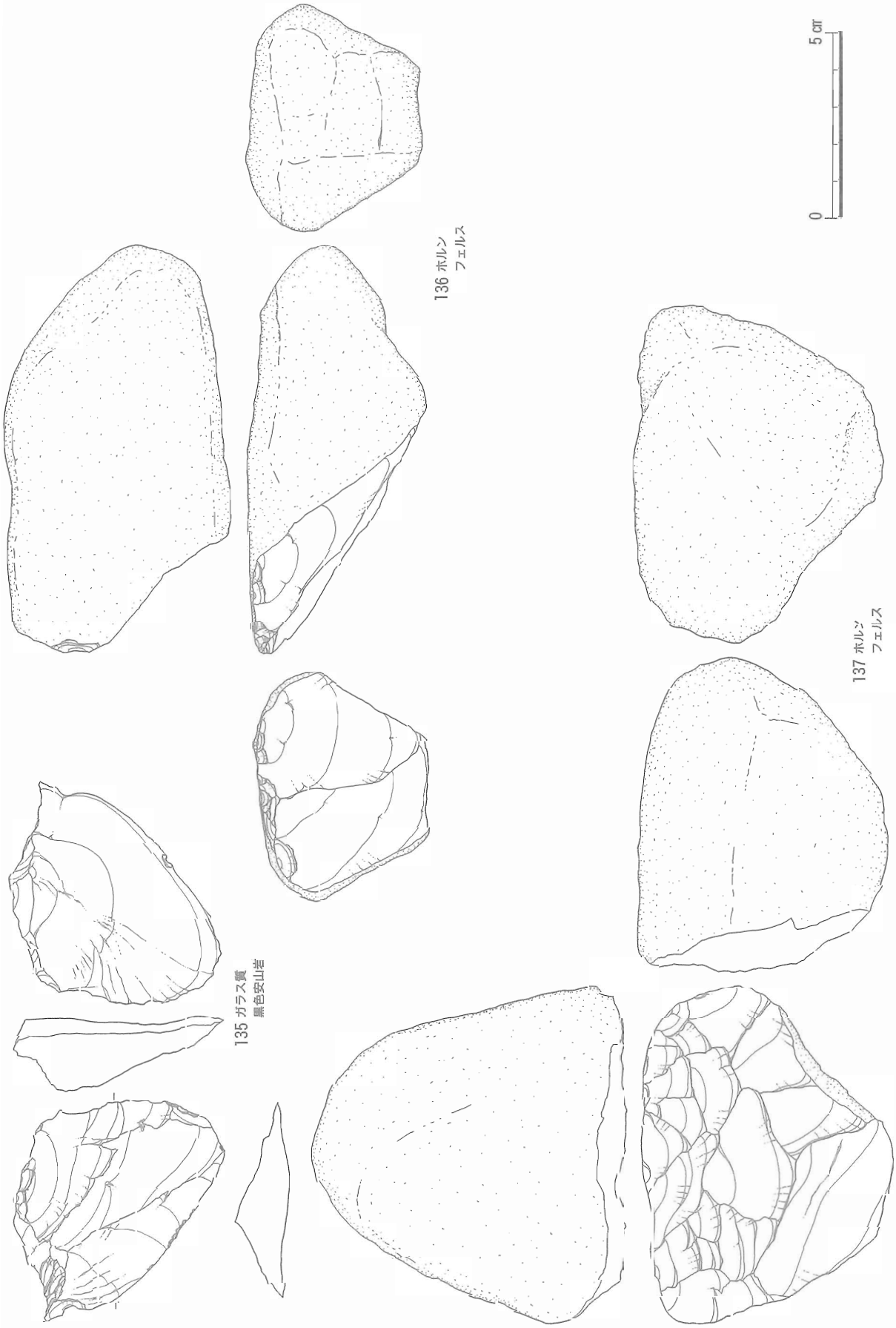
137はホルンフェルスの石核である。拳二つ分くらいの亜円礫の一端から同一方向へ連続して加撃し、幅広剥片を得るが、大型のまま放棄される。

接合資料（138-140）

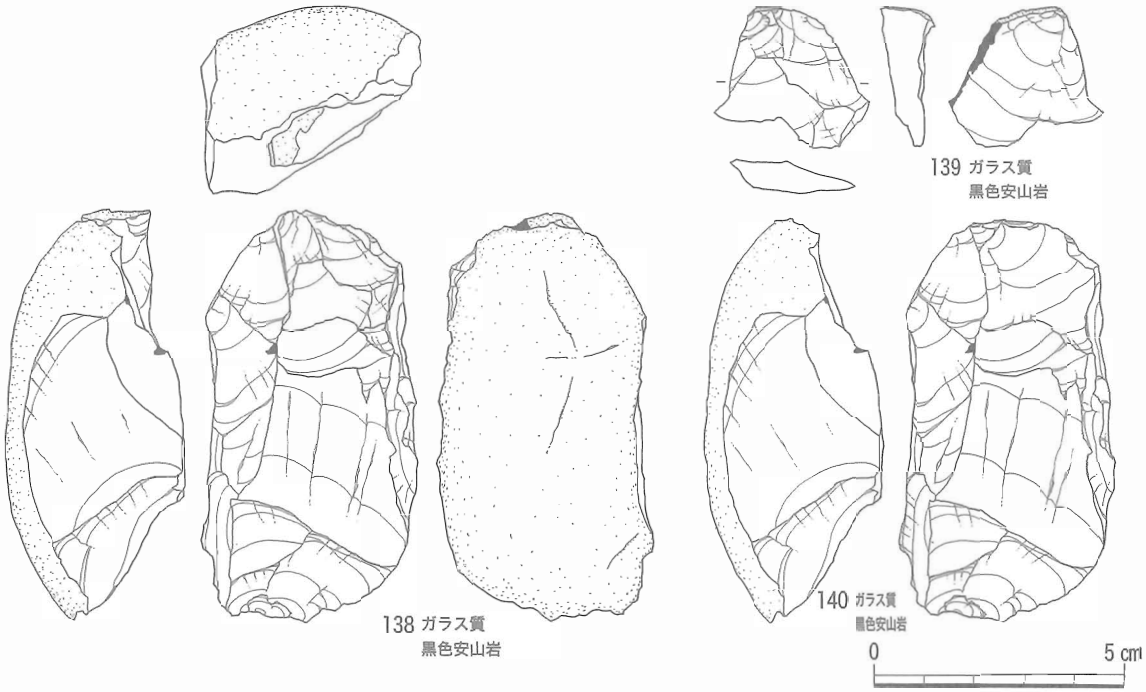
138-140はガラス質黒色安山岩の接合資料（接合46）とその部品である。亜円礫の自然面を大きく取り込む分厚い剥片（140）に両極的な打撃を加え、腹面から剥片（139）をとる。



第104図　HIJK 6－11グリッドの石器群（１）



第105図　HIJK 6－11グリッドの石器群（２）



第106図　HIJK６－11グリッドの石器群（３）

■　礫石器類

礫器（141/142）

141は輝石安山岩製礫器（片刃礫器）である。正面観が略台形を呈する扁平な自然石の端部に数回の打撃を加えて片刃を作出する。

142は玄武岩製礫器（片刃礫器）である。扁平な自然石の尖頭状端部対面に大振りの二次加工を施して片刃を作出する。

磨石（143）

143は多孔質玄武岩製磨石である。正面観が円形に近い扁平歴の片面に研磨痕が付く。

敲石（144/145）

144は多孔質玄武岩製敲石である。正面と長軸端部に著しい敲打痕が付く。

145は輝石安山岩製敲石である。側面と長軸端に著しい敲打痕が付く。

磨-敲石（146-151）

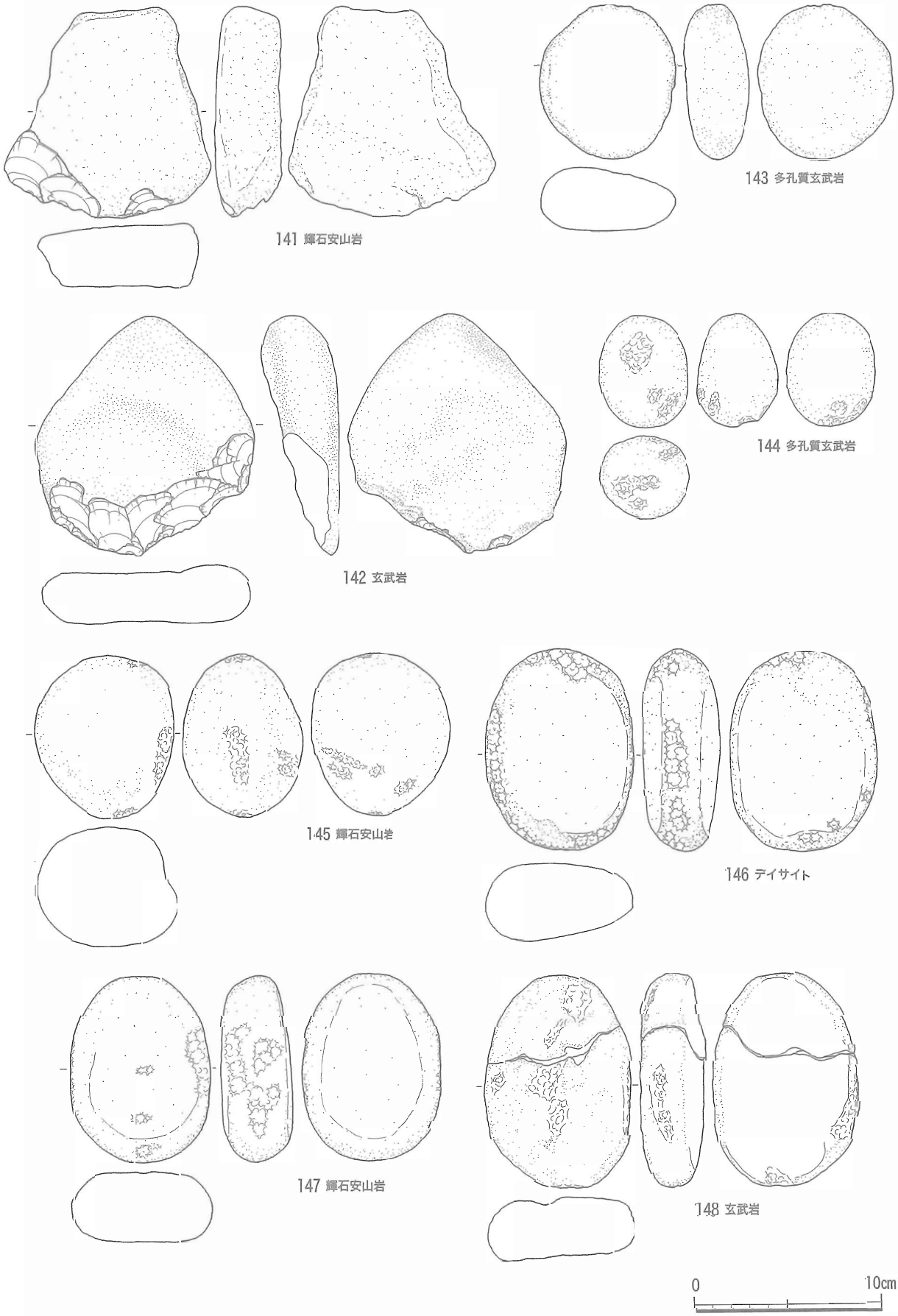
146はデイサイト製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の周縁全体にわたって著しい敲打痕が付き、また表裏に平坦面と稜を形成するほど著しい研磨痕が付く。

147は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の両側面に著しい敲打痕、表裏に研磨痕が付く。著しい使用の結果、研磨痕と側面との間には稜が形成されている。

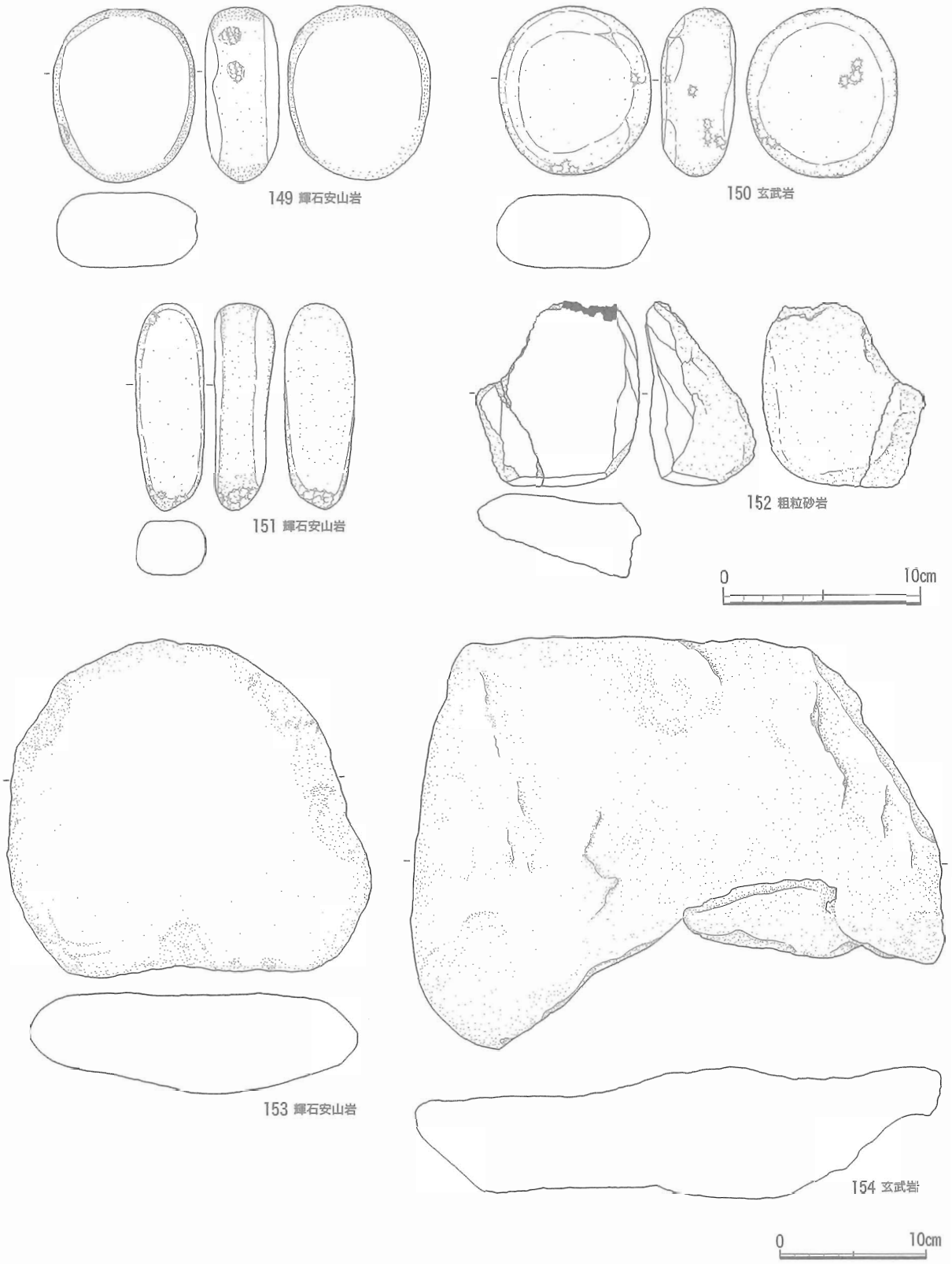
148（接合20）は玄武岩製磨-敲石である。正面観が楕円形を呈する扁平礫の中央と側面に著しい敲打痕、裏面には著しい研磨痕が付く。少なくとも２種の機能が複合する石器である。

149は輝石安山岩製の磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の側面の所々に敲打痕が付き、また表裏の広範囲には、稜を形成するほど著しい研磨痕が付く。

150は玄武岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平礫の所々に敲打痕が付き、また表裏の広範囲に研磨痕が付く。場所によって、研磨痕同士が切り合い、稜を形成している部分も見られる。



第107図　HIJK６－11グリッドの石器群（４）



第108図　HIJK６－11グリッドの石器群（５）

151は輝石安山岩製の磨-敲石である。棒状礫の端部に著しい敲打痕が付き、表裏の広範囲に研磨痕が付く。

砥石（152）

152は粗粒砂岩製である。表裏と左右側面に複数の平滑な研磨痕が付き、研磨痕同士が接してしばしば稜をなす。YLU出土である。

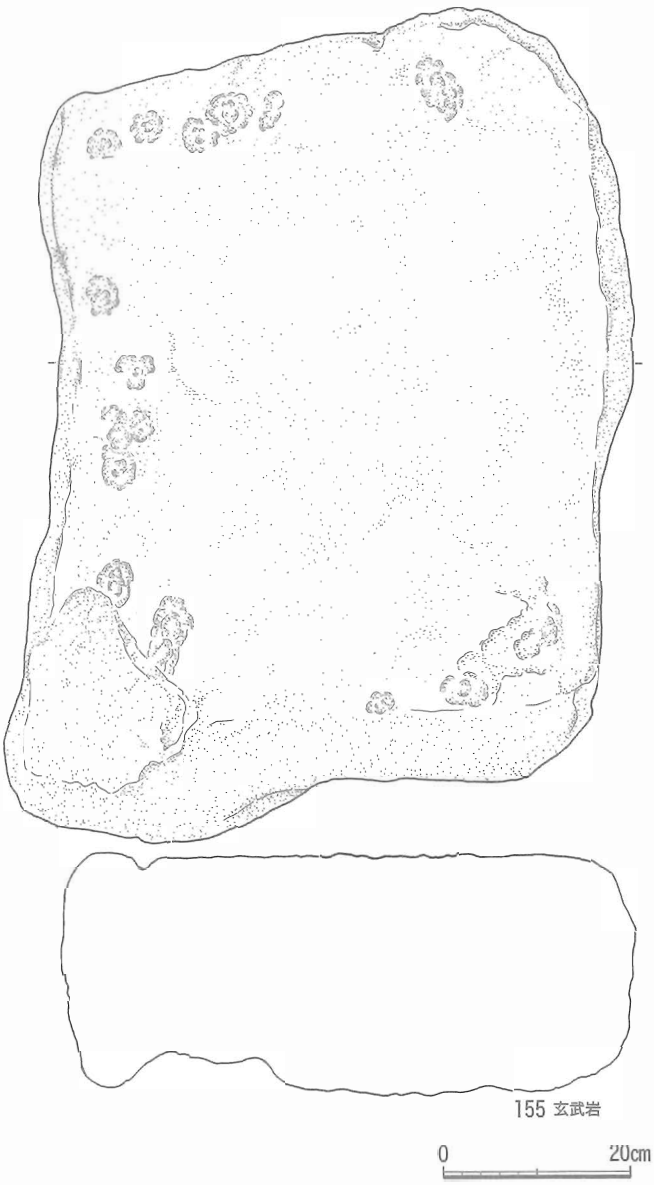
石皿（153）

153は輝石安山岩製石皿である。正面観が円形に近い大型扁平礫の広範囲に研磨痕が付く。

台石（154/155）

154は玄武岩製台石と推測される。大型の扁平礫である。明確に敲打痕といえる部位は認められなかった。

155は玄武岩製台石と推測される。大型の扁平礫である。明確に敲打痕といえる部位は認められなかったが、平坦面の周辺に自然状態と区別の難しい凹みが多数認められた。



第109図　HIJK６-11グリッドの石器群（６）

(6)　その他の石器群（第78/79図）(156-165)

以上に提示したグリッドに含まれなかった石器群をここにまとめた。総点数は98点で、礫石器類54点を含む。

156は神津島恩馳島産黒曜石製石鏃である。形態は「鍬形鏃」といわれるものに近い。Ｊ５グリッド出土。

157-159は諏訪星ヶ台産黒曜石製石鏃である。159はかえしの部分が折れているので不明確だが、他２点は平基に近い形態をとる。それぞれ、Ｃ６、Ｋ５、Ｊ５グリッド出土。

160は輝石安山岩製打製石斧である。素材は、表裏に自然面が残っていることから、細長く扁平な礫であろう。Ｆ９グリッド出土。

161は緑色凝灰岩製打製石斧である。基部の背面に自然面を残して周縁全体に荒っぽい平坦剥離を施し、部分的に敲打して杓文字状に整形する。Ｇ８グリッド出土。

162は黒曜石製削器である，周縁全体の表裏を平坦剥離で整形し刃部を作出する。産地は未分析だが、半透明で斑晶がないので諏訪周辺と想定される。素材剥片となっている石刃の表面と二次加工部の表面の風化の度合いが著しく異なり、おそらく旧石器時代に剥離された石刃を後代の人間が拾い上げて再利用したものと推測される。Ｇ４グリッド出土。

163はガラス質黒色安山岩製微細剥離痕剥片である。左縁辺に微細剥離痕が連続する。末端は折れている。Ｇ６グリッド出土。

表24　その他のグリッド　石器石材組成

	黒曜石					ガラス質黒色安山岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	玉髄	緑色凝灰岩	玄武岩
	諏訪星ヶ台群	和田芙蓉ライト群	箱根畑宿群	神津島恩馳島群	未分析						
尖頭器											
有舌尖頭器											
石鏃	4	1		1		1					
削器					1	2					
打製石斧							1			1	
二次加工剥片			1		1						
微細剥離痕剥片	1					2					
剥片	1				8	3	1				
砕片					5	1			1		
石核					1	1					
磨石							12	1			3
敲石							7				2
台石							12				4
台石片							1				1
石皿							1				1
凹石											
礫器							1				
計	6	1	1	1	16	10	36	1	1	1	11

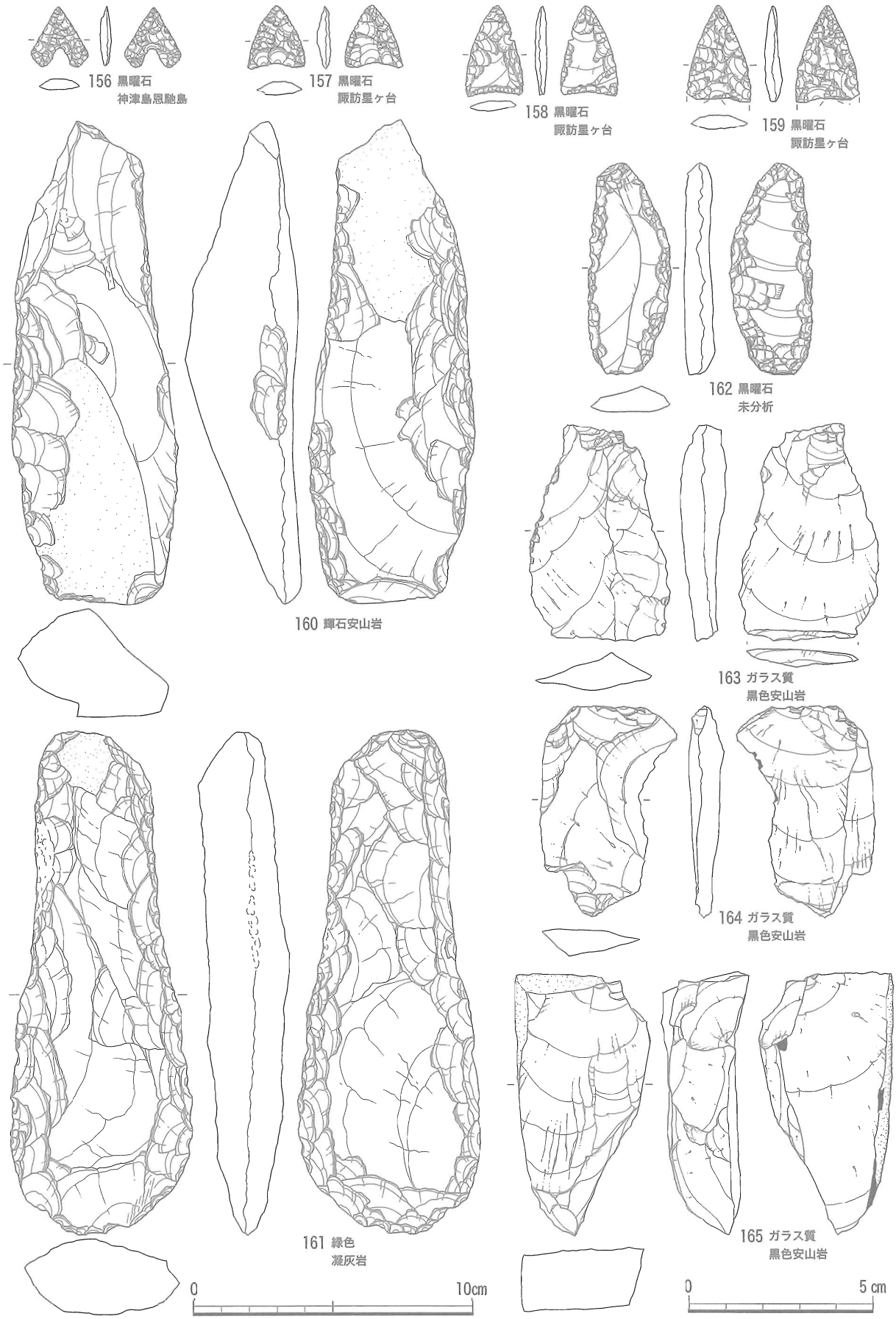
	多孔質玄武岩	閃緑岩	デイサイト	細粒斑レイ岩	ホルンフェルス	硬質頁岩	細粒砂岩	粗粒砂岩	計
尖頭器					1	1			2
有舌尖頭器					1				1
石鏃									7
削器									3
打製石斧									2
二次加工剥片									2
微細剥離痕剥片									3
剥片					2				15
砕片									7
石核									2
磨石	1		2	1					20
敲石		1					1	1	12
台石									16
台石片									2
石皿									2
凹石	1								1
礫器									1
計	2	1	2	1	4	1	1	1	98

164はガラス質黒色安山岩製剥片である。両極剥離によったためか、打面付近に表裏におよぶ小型剥離痕が多数観察される。

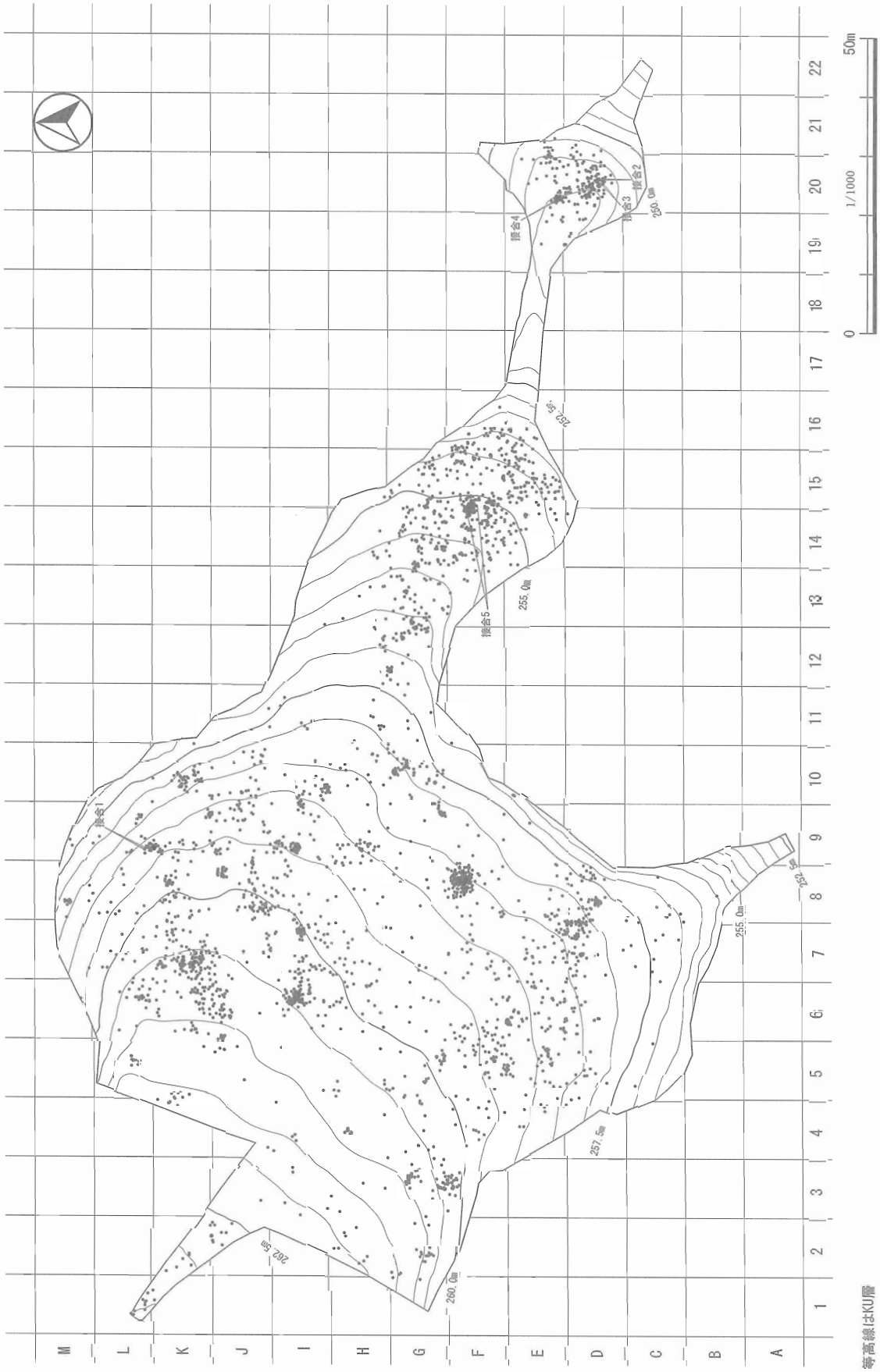
165はガラス質黒色安山岩製剥片である。打面の深いところを打撃して得られており、分厚い。右側縁には二次的に剥離された可能性もある剥離面が見られる。石核かもしれない。

(7)　表採資料

輝石安山岩製の磨-敲石1点、同石材製の台石1点、および礫2点が回収された。



第110図　その他の石器群



第111図　縄文時代　礫分布

第６節　縄文時代の遺構

縄文時代のものと思われる焼土１箇所、集石33基、土坑29基が検出された。遺構別に分布をみると、集中域が異なっている。集石は調査区北部(IJKLM６－９グリッド)と南部(DRFG５－８グリッド)を中心とし、緩やかに分かれる枝尾根の頂部に立地するのに対して、土坑は調査区北西部（GHIJKL２－８グリッド）を中心とし、尾根の中でも撚り幅のある平坦部に立地する。両者の機能的な相違が反映するからであろう。

以下、焼土、集石、土坑の順で図と所見を提示する。なお、各遺構は、分布図上で以下の略号と番号をもって表している。その略号は、焼土：FP、集石：SY、土坑：PFで、番号は調査された順に01から始まる。ただし、文中ではこれを次のように読み替えて表記する；　例えば、分布図上の「SY01」は文章上で「１号集石」とする。

１．焼土（第112/113図）

Ｋ７グリッドのKU上部で検出された。上部に炭化物が少量混じっている。楕円形を呈し、最大長1.34m、最大幅0.92m、最大深0.18mである。大型の台石１点を伴う。時期は早期後半よりも層位からみると新しいだろう。

２．集石（第112/114-124図、表28）

33基が検出された。すべて縄文時代のものと思われる。それぞれの時期は、共伴すると判断された土器や、層位的な上下にある土器との関係から推定され、その結果、早期前半１基、早期後半８基、早期のいずれかの時期１基、前期前半２基、中期２基、不明17基である。不明なものが半数以上と多いが、判明したものについては早期後半が多い。この結果は、時期ごとの土器個体数と整合的である。

集石の形態を区分するのは困難だが、通常は、集石の周囲や下位に掘り込みがあるかどうかで分けられる。掘り込みを伴うかどうかは調理方法の違いによるものといわれている。掘り込みを伴うものは６/８/９/23/26/27/32/33号の計８基、伴わないものはそれ以外の25基だった。

■　掘り込みを伴う集石

32号（第114図）　Ｉ７グリッドに分布し、FBで検出された。礫151点で構成され、炭化物１点を伴う（年代測定と樹種同定は行っていない）。

27号（第115図）　Ｉ９グリッドに分布し、FB上部で検出された。礫40点で構成される。

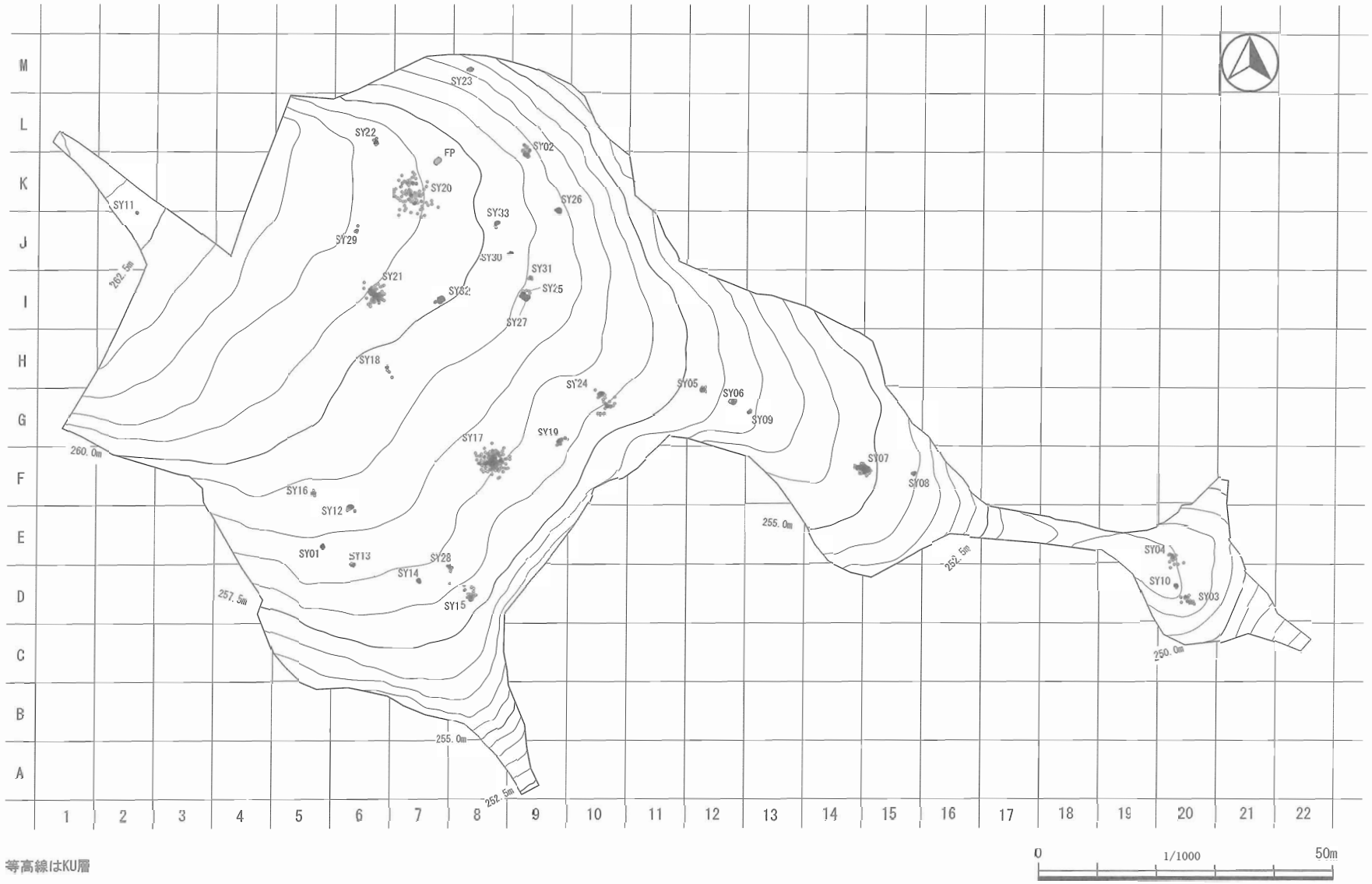
23号（第115図）　Ｍ８グリッドに分布し、KU下面で検出された。礫39点で構成される。

６号（第115図）　G12グリッドに分布し、KU下面で検出された。礫11点で構成される。

26号（第115図）　Ｋ９グリッドに分布し、KU上部で検出された。層位的には中期の可能性が高い。礫63点で構成される。

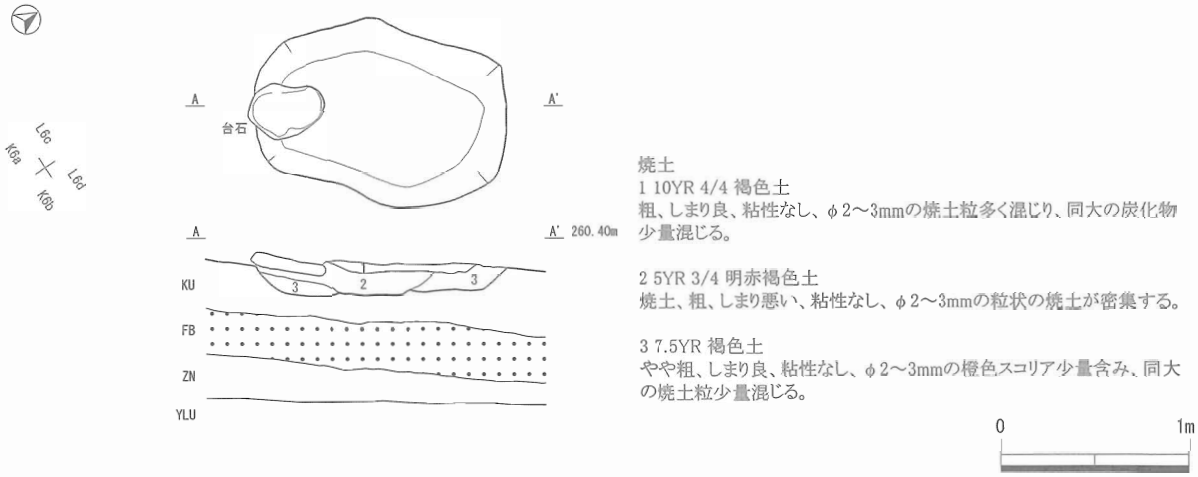
33号（第116図）　Ｊ８グリッドに分布し、FBで検出された。礫22点で構成され、条痕文土器（その他の条痕文）破片２点が伴う。

８号（第116図）　F15グリッドに分布し、FB上面で検出された。掘り込みには上位のKUが落ち込んでいた。付近で検出された諸磯ｂ式土器（諸磯ｂ４/５）よりも下位で、沈線文土器（沈線文１）とほぼ同層準に包含される。礫９点で構成され、黒曜石製剥片１点と砕片７点を伴う。

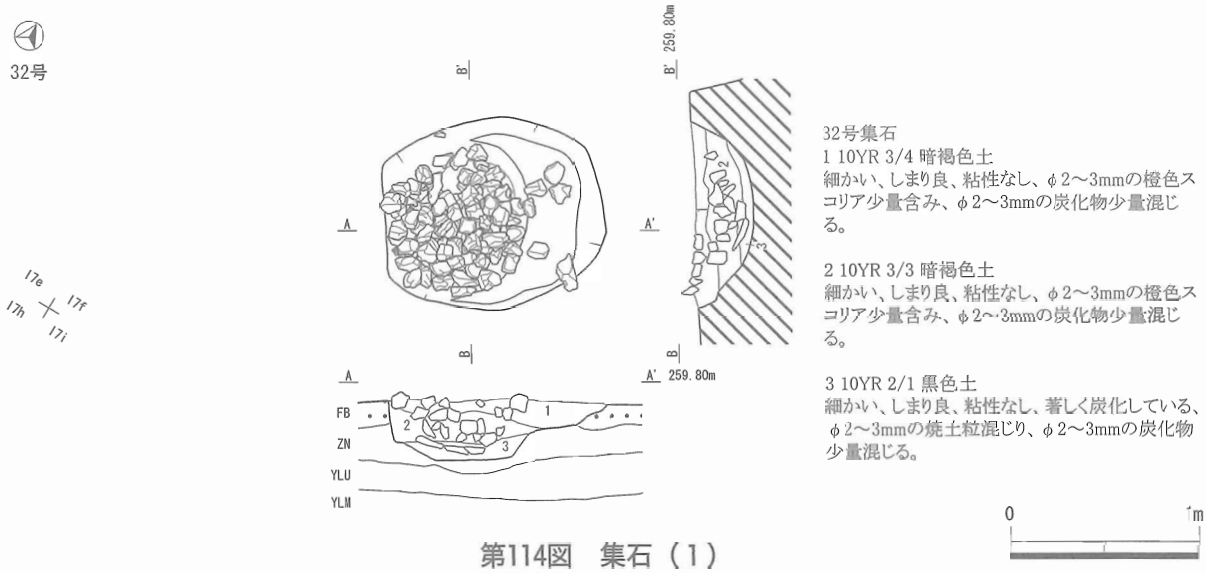


等高線はKU層

第112図　集石・焼土分布



第113図　焼土



第114図　集石（１）

９号（第116図）　G13グリッドに分布し、FB上面で検出された。礫11点で構成される。掘り込みには上位のKUが落ち込んでいた。

■　掘り込みを伴わない集石

掘り込みを伴わないものは、検出面の低い方を先に図示し、高い方をあとにした。層位別の検出数と該当する集石番号は以下の通り。

FBが検出面となるもの	：５基	７/11/28/29/31号
FBからKUが検出面となるもの	：５基	３/４/10/21/30号
KUが検出面となるもの	：14基	１/５/12-20/22/24/25号
KGPが検出面となるもの	：１基	２号

28号（第116図）　D７/８グリッド北部に分布し、FBで検出された。付近から出土した諸磯ｂ式土器（諸磯ｂ１-５）よりも下位で、茅山下層式土器（茅山下層１）とほぼ同層準に包含される。礫19点で構成され、１ｍほど離れた同層準に台石１点が分布していた。

29号（第116図）　J6グリッド北部に分布し、FBで検出された。礫５点で構成される。台石１点と黒曜石の砕片２点が伴う。

11号（第117図）　Ｊ２グリッド北部に分布し、FB上部で検出された。礫６点で構成される。

31号（第117図）　Ｉ９グリッドに分布し、FBで検出された。茅山下層式土器（茅山下層１）破片２点が伴う。礫６点で構成される。

７号（第117図）　F14/15グリッドに分布し、FB上面で検出された。付近で検出された判ノ木山西式土器（判ノ木山西３）と茅山下層式土器（茅山下層１）はほぼ同層準に包含される。多数の接合資料を含む礫107点で構成される。

３号（第118図）　D20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準の上部で検出された。接合資料を含む礫29点で構成される。

４号（第118図）　D/E20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準の上部で検出された。接合資料を含む礫21点で構成される。

10号（第119図）　D20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準で検出された。礫17点で構成される。

30号（第119図）　Ｊ８/９グリッドに分布し、KUを主体に一部がFBに及んで検出された。付近で検出された茅山下層式土器（茅山下層２/３）よりも下位に包含される。礫14点で構成される。

21号（第119図）　Ｊ６グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準で検出された。礫125点で構成され、時期と型式の分からない土器片１点を伴う。磨石１点を伴う。

14号（第120図）　Ｄ７グリッドに分布し、KU下部で検出された。礫25点で構成される。

12号（第120図）　E/F６グリッドに分布し、KUで検出された。付近で検出された上ノ坊式土器（上ノ坊２）とほぼ同層準に包含される。礫24点で構成され、黒曜石の砕片１点を伴う。

５号（第120図）　G/HI2グリッドに分布し、KUで検出された。礫18点で構成される。

22号（第120図）　Ｌ６グリッドに分布し、KUで検出された。付近に藤内式土器（藤内２）が分布するが、地形がねじれた斜面で堆積も薄く、上ノ坊式土器と藤内式土器が同層準に包含されるなどでやや混乱しているので、上下関係の比較は難しかった。礫19点で構成される。

18号（第120図）　Ｈ６/７グリッドに分布し、KUで検出された。礫６点で構成される。

24号（第121図）　G10グリッドに分布し、KUに包含される。礫５点で構成され、玄武岩製磨石１点を伴う。

19号（第121図）　F/G９グリッドに分布し、KUで検出された。礫25点で構成される。

13号（第121図）　D/E６グリッドに分布し、KUで検出された。礫11点で構成され、磨石３点と磨-敲石１点（第90図44）を伴う。

17号（第122図）　F/G８グリッドに分布し、KU下部で検出された。礫212点で構成され、野島式土器（野島３）破片63点、早期と思われる土器片２点、磨-敲石１点（第107図148）、磨石１点を伴う。

15号（第123図）　Ｄ８グリッドに分布し、KUで検出された。礫31点で構成され、磨石２点と台石１点を伴う。

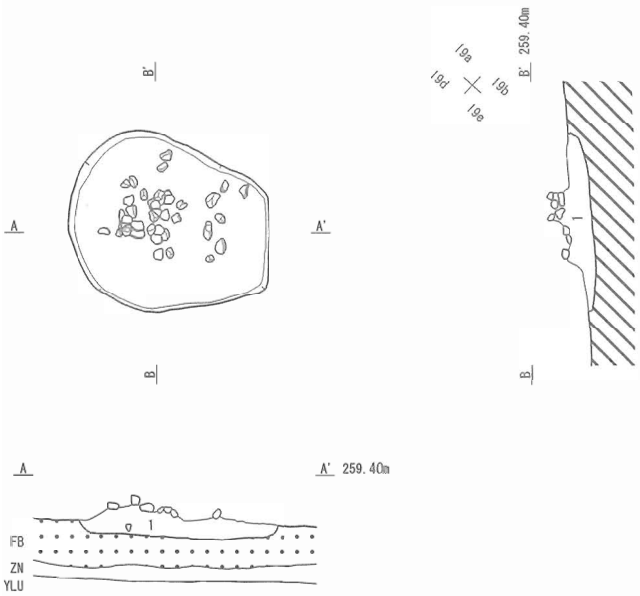
25号（第123図）　Ｉ９グリッドに分布し、KUで検出された。礫37点で構成され、茅山下層式土器の茅山下層１と２の破片をそれぞれ２点、玄武岩製磨石１点を伴う。

16号（第123図）　Ｆ５グリッドに分布し、KUで検出された。付近に分布する早期の縄文土器（早期縄文４）と打越式土器（打越１）よりも上位で、上ノ坊式土器（上ノ坊１）とほぼ同層準に包含される。礫11点で構成される。

20号（第124図）　J/K７に分布し、KUで検出された。礫112点で構成され、多孔質安山岩製台石１点を伴う。前期の土器（前期その他１）を伴う。

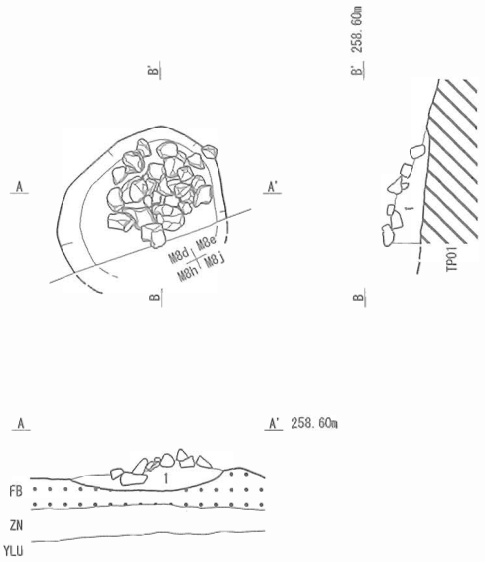
１号（第124図）　Ｅ５グリッドに分布し、KU上部で検出された。礫20点で構成される。

27号



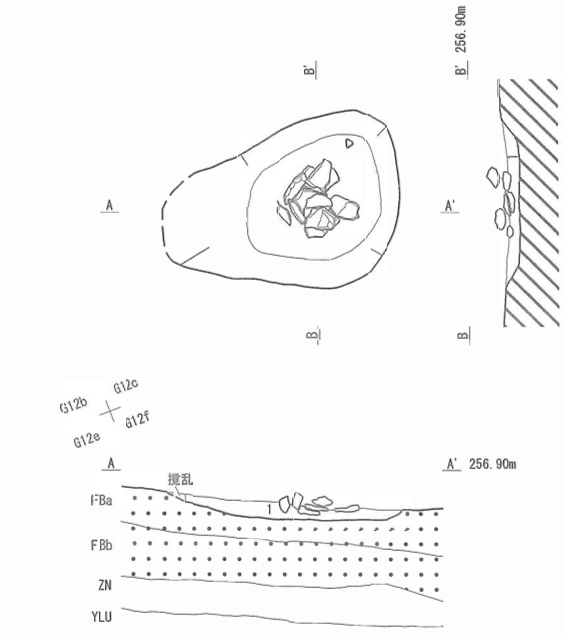
27号集石
1 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含む。

23号



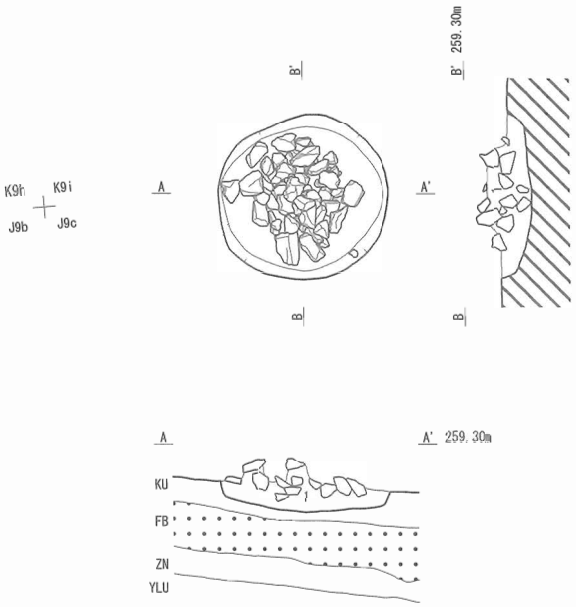
23号集石
1 10YR 4/4 褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、白色パミス少量含む。

6号



6号集石
1 10YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、φ2～3mmの褐色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

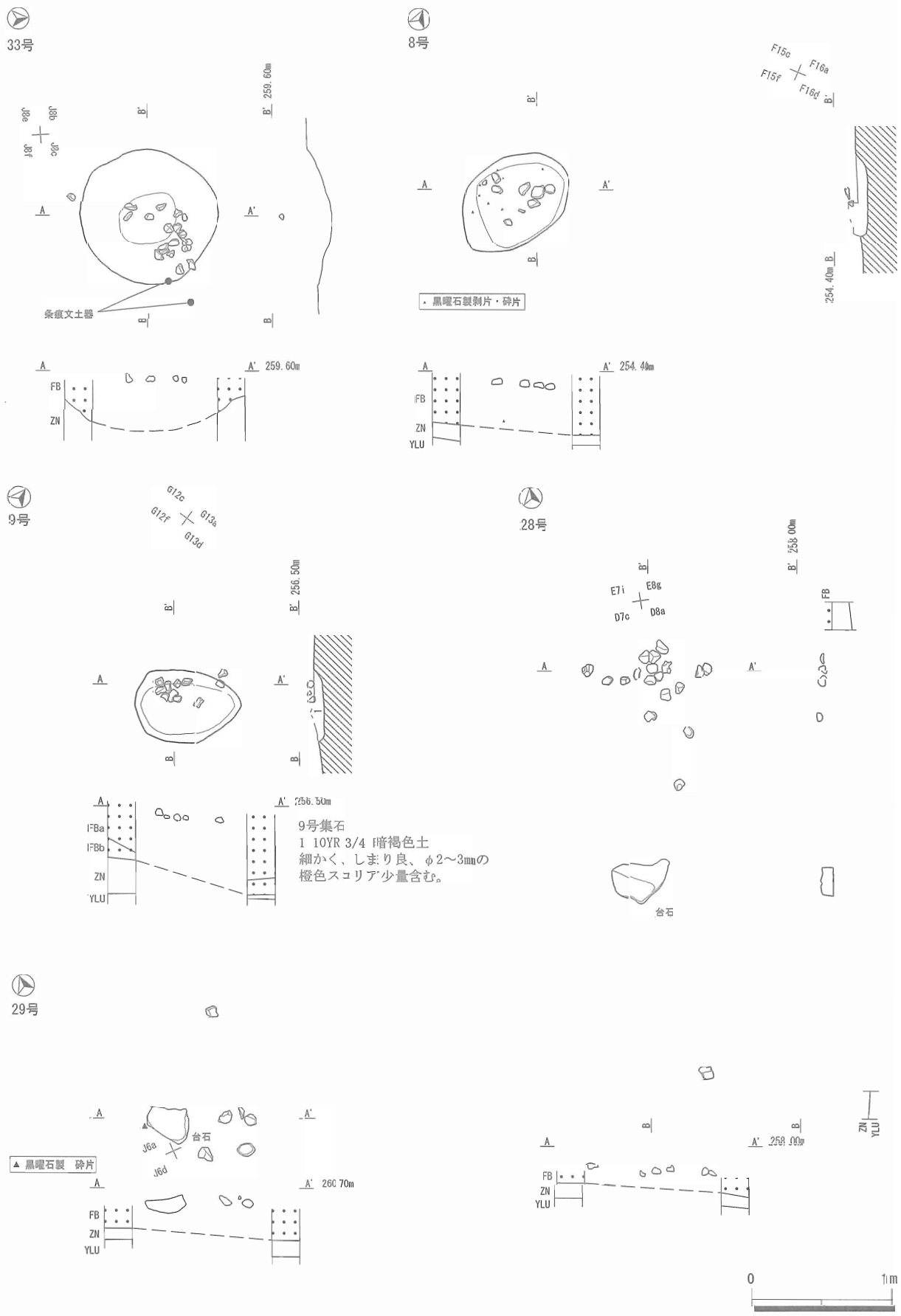
26号



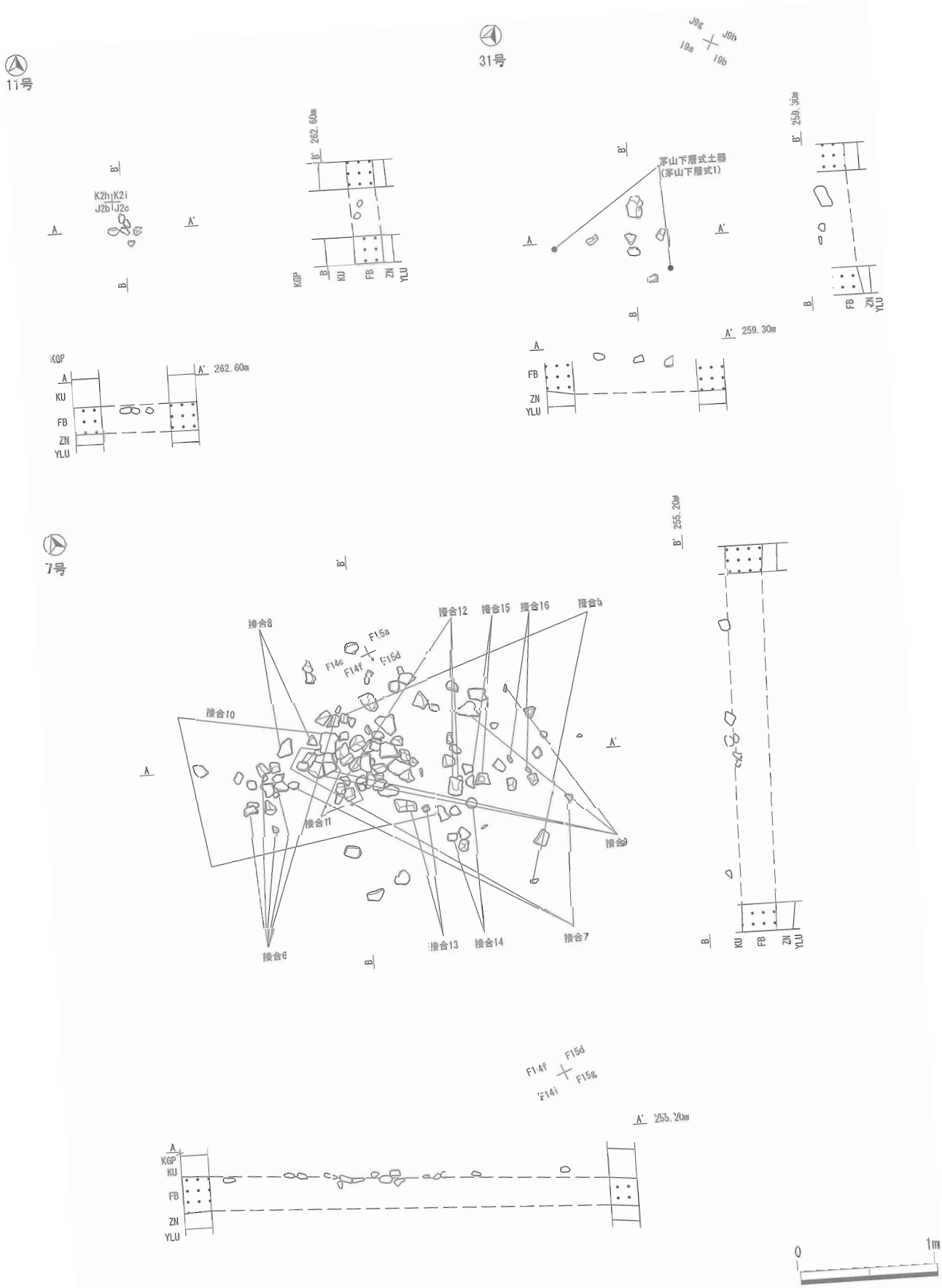
26号集石
1 10YR 4/4 褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含む

第115図　集石（２）

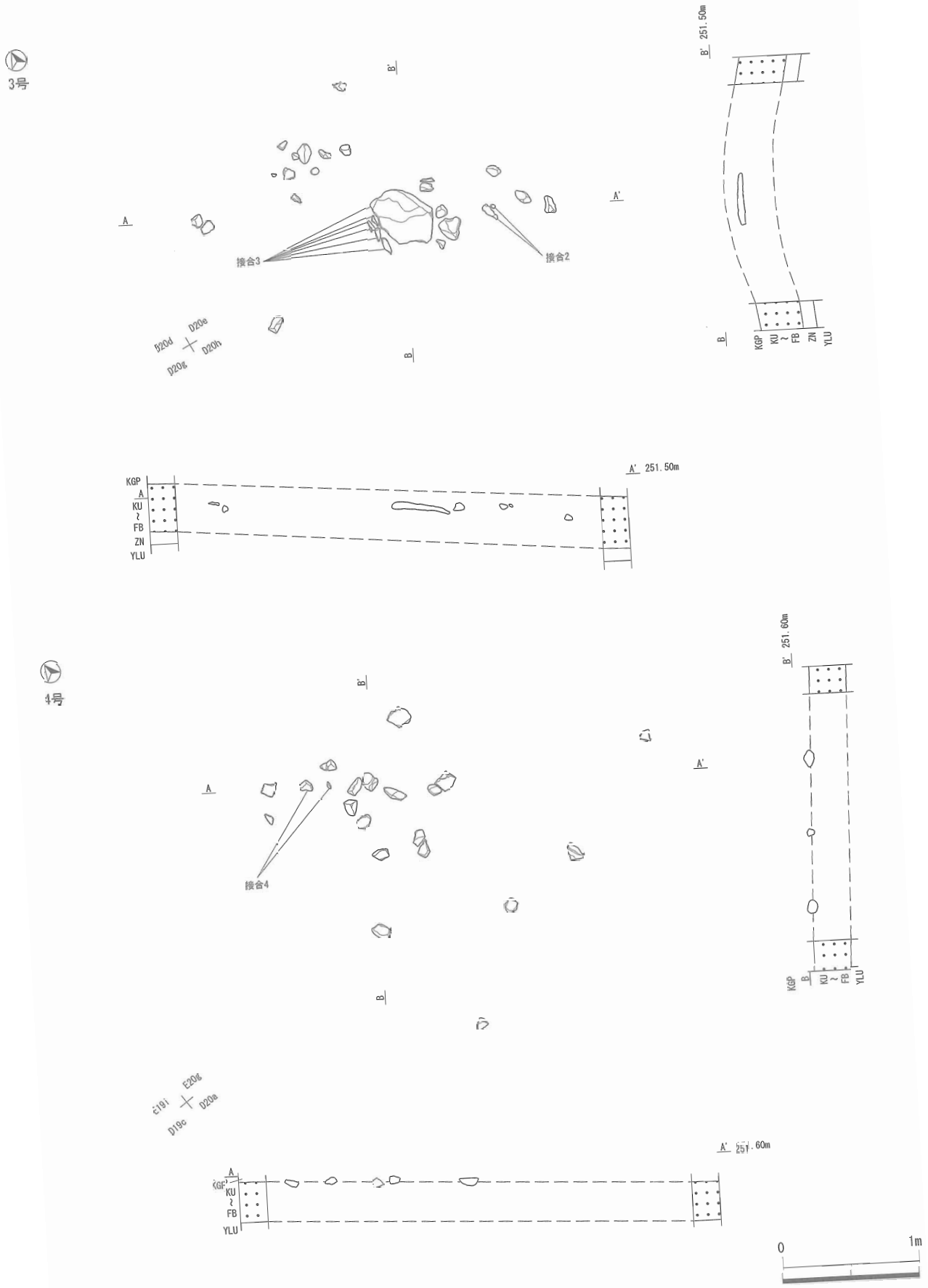
２号（第124図）　K/L９グリッドに分布し、KGP下部で検出された。層位的には、本遺跡で最も上位にある集石である。礫34点で構成される。


33号
条痕文土器
259.60m
8号
黒曜石製剥片・砕片
254.40m
9号
256.50m
9号集石
1 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、φ2～3mmの
橙色スコリア少量含む。
28号
258.00m
台石
29号
黒曜石製　砕片
台石
260.70m
259.00m
0
1m

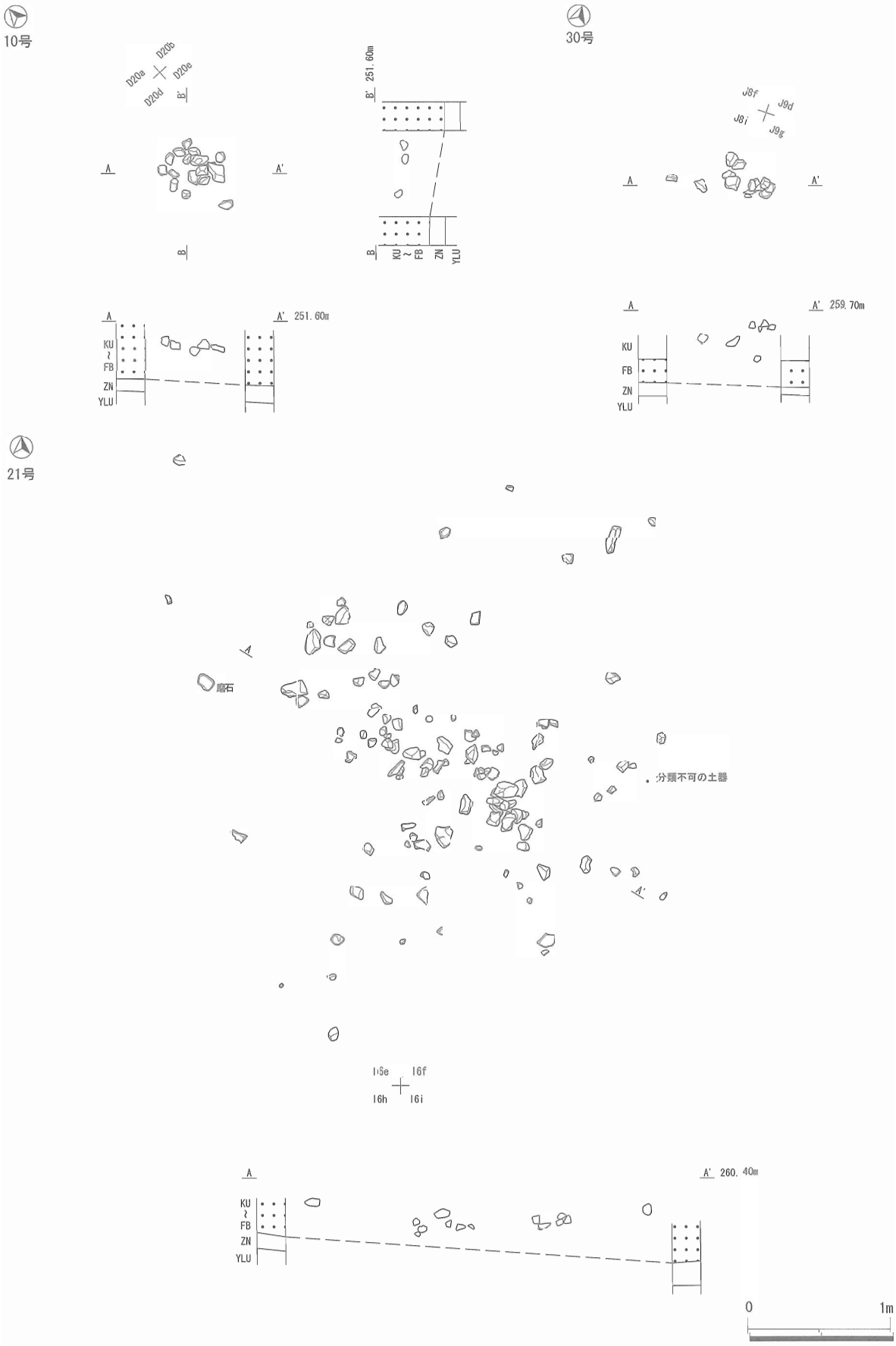
第116図　集石（３）


11号
31号
7号
K2h
K2i
J2b
J2c
262.60m
259.30m
255.20m
KGP
KU
FB
ZN
YLU
茅山下層式土器
(茅山下層式1)
接合5
接合6
接合7
接合8
接合9
接合10
接合11
接合12
接合13
接合14
接合15
接合16
F14c
F14f
F15a
F15d
F14i
F15g
0
1m

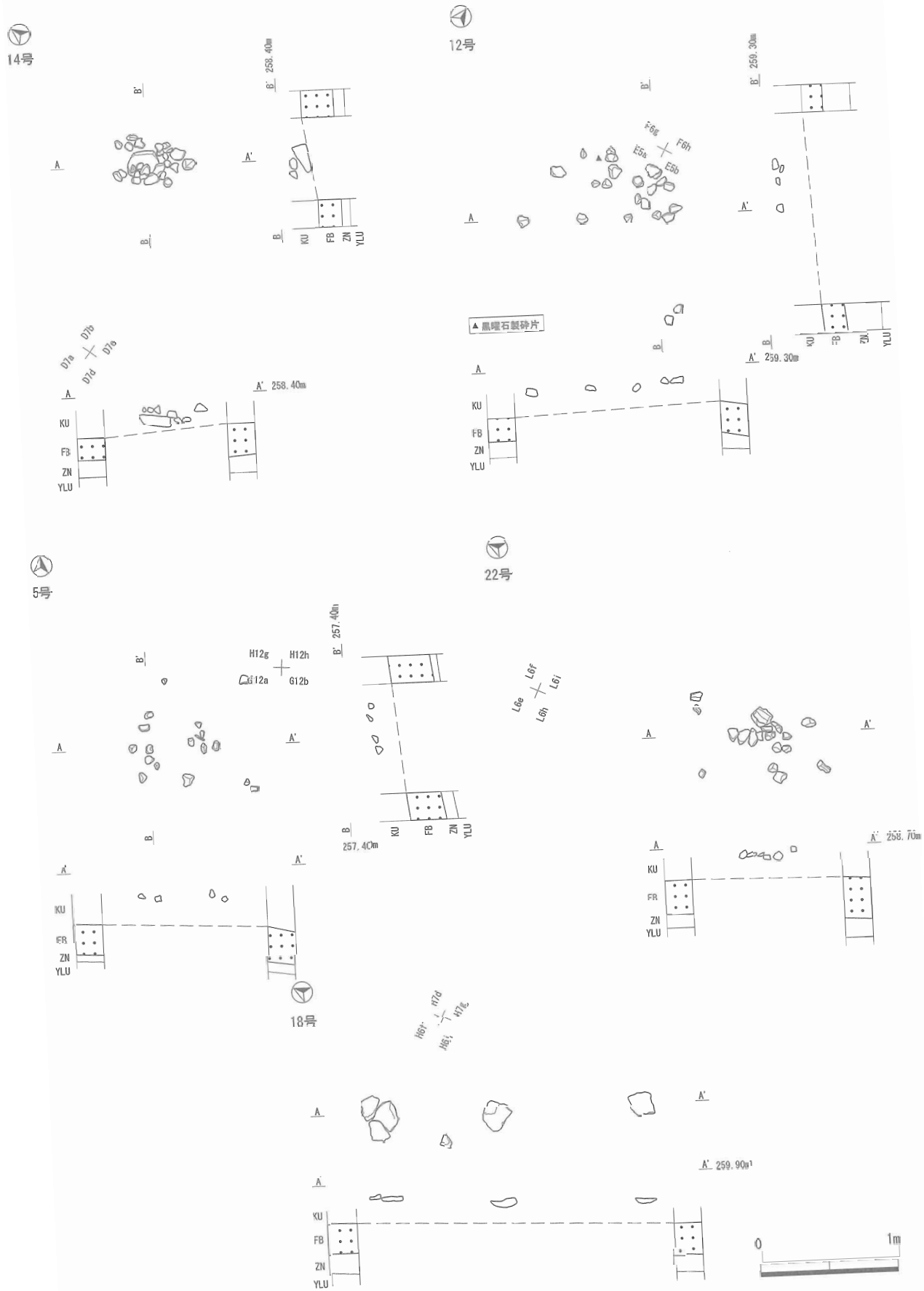
第117図　集石（４）


3号
B'
A
A'
接合3
接合2
B
B' 251.50m
KGP
KU
～
FB
ZN
YLU
A' 251.50m
4号
B'
A
A'
接合4
B
B' 251.60m
A' 251.60m
0
1m

第118図　集石（５）


10号
D20a
D20b
D20c
D20d
B'
A
A'
B
B' 251.60m
KU～FB
ZN
YLU
A' 251.60m
30号
J8f
J9d
J8i
J9g
A' 259.70m
21号
扁石
:分類不可の土器
I5e
I6f
I6h
I6i
A' 260.40m
0
1m

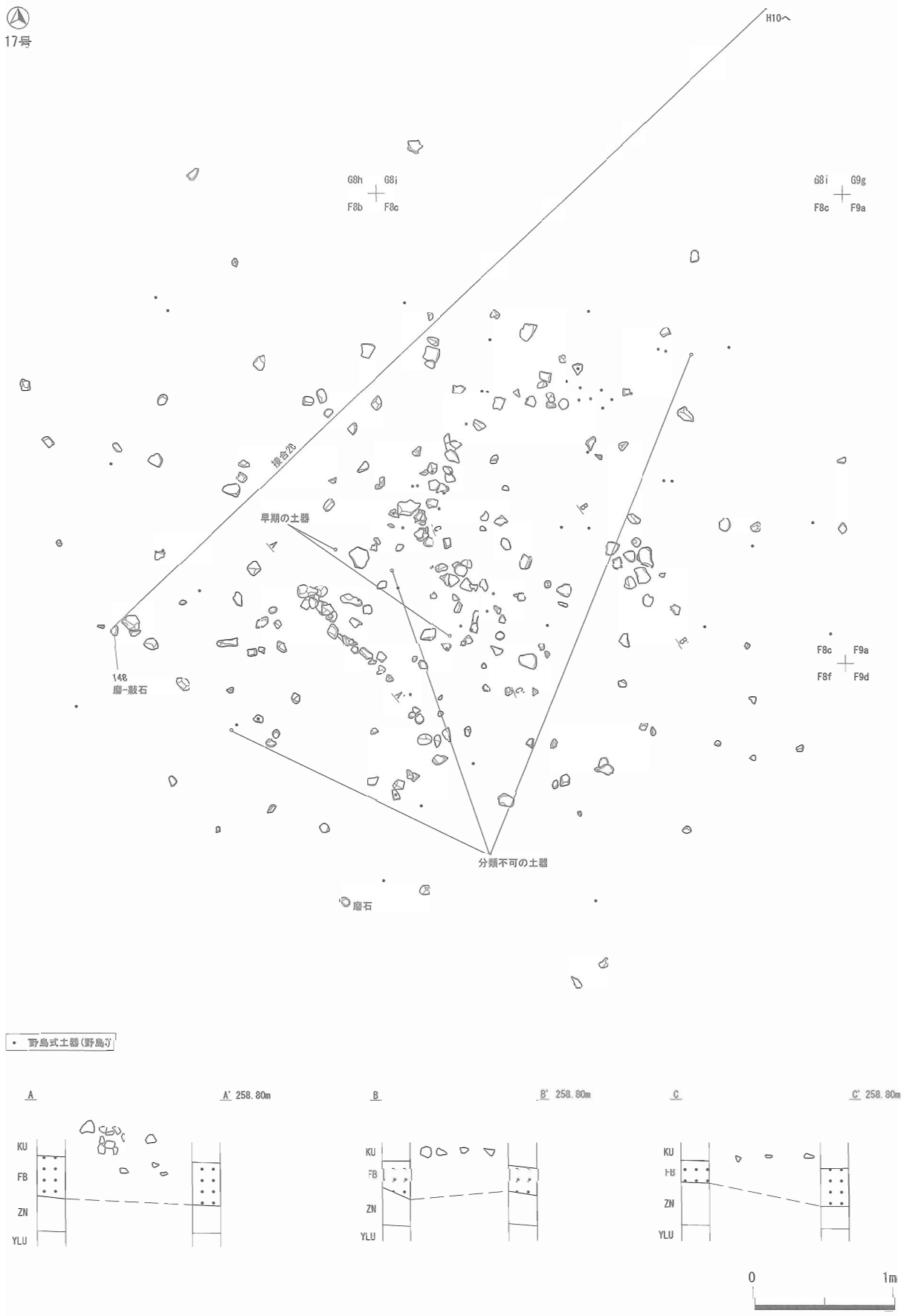
第119図　集石（６）


14号
12号
5号
22号
18号
258.40m
259.30m
257.40m
258.70m
259.90m
黒曜石製砕片
KU
FB
ZN
YLU
0
1m

第120図　集石（７）

24号
G10a
G10d
G10b
G10e
A
A'
H10h
G10b
H10i
G10c
磨石
A
A' 258.20m
KU
FB
ZN
19号
A
A'
G9i
F9c
G10g
F10a
A
A' 258.20m
KU
FB
ZN
YLU
13号
B'
44
磨-敲石
E6g
E6h
D6a
D6b
A
A'
磨石
接合19
B
B' 258.70m
KU
FB
ZN
A
A' 258.70m
KU
FB
ZN
0
1m

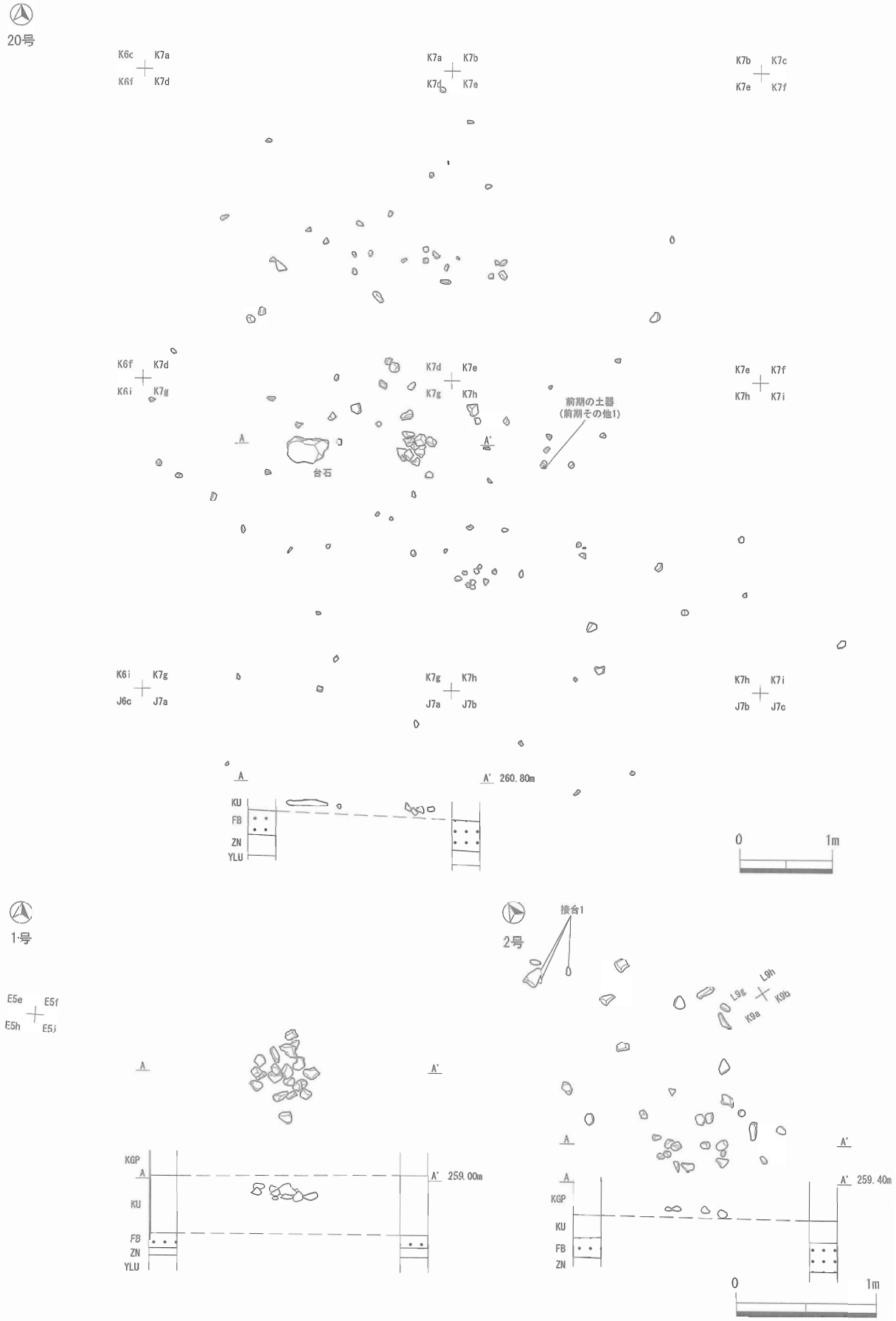
第121図　集石（８）


17号
H10へ
G8h
G8i
F8b
F8c
G8i
G9g
F8c
F9a
接合20
早期の土器
148
磨ー敲石
F8c
F9a
F8f
F9d
分類不可の土器
磨石
野島式土器（野島3）
A
A' 258.80m
B
B' 258.80m
C
C' 258.80m
KU
FB
ZN
YLU
0
1m

第122図　集石（９）

15号
16号
25号
D8a
D8b
D8d
D8e
磨石
台石
A' 258.20m
B' 258.20m
KU
FB
ZN
YLU
F5e
F5f
F5h
F5i
19a
19b
19d
19e
茅山下層式土器
(茅山下層2)
茅山下層式土器
(茅山下層1)
A' 259.60m
B' 259.60m
0
1m

第123図　集石（10）


20号
K6c K7a
K6f K7d
K7a K7b
K7d K7e
K7b K7c
K7e K7f
K6f K7d
K6i K7g
K7d K7e
K7g K7h
K7e K7f
K7h K7i
前期の土器
（前期その他1）
A
A'
台石
K6i K7g
J6c J7a
K7g K7h
J7a J7b
K7h K7i
J7b J7c
A
A' 260.80m
KU
FB
ZN
YLU
0
1m
1号
E5e E5f
E5h E5i
A
A'
KGP
A
KU
FB
ZN
YLU
A' 259.00m
2号
接合1
L9g L9h
K9a K9b
A
A'
A
A' 259.40m
KGP
KU
FB
ZN
0
1m

第124図　集石（11）

３．土坑（第125-136図、表25/26/29）

縄文時代に帰属するものが29基検出された。調査区の北西部に集中し、一部が中央部に散在する。西南部における希薄さは、尾根の主稜線かそうでないかとの違いと対応する。

土坑の形態分類は、まず検出面の最大幅に対する最大長の比によって、大略３つに区分される。①１：1.2以下、②１：1.7以下、③１：1.7以上、である。他の遺跡も加えた多数の類例から閾値を知りたいところだが、ここではなしえない。

平面形態には円形から長方形が主体であるが、ひょうたん形などの特殊な形態を呈するものはない。円形・楕円形と方形・長方形の分類は発掘精度の違いに左右されやすいので、ここでは問わないことにする。上で挙げた幅と長さの比に従って、順に、円型（円形から方形）、楕円型（楕円形から長方形）、長楕円型（楕円型よりも幅と長さの比が大きい楕円形から長方形）と呼んでおく。

次いで小穴の有無で細分される。以上の２段階分類に従うと、老平遺跡の縄文時代土坑は表25のように集計される。これをみると、長楕円型に著しく偏って小穴が認められることが明らかである。

縄文時代の土坑には竪穴住居、墓坑、貯蔵穴、陥し穴などの機能が想定されるが、この遺跡の場合はその形態と周囲の遺構及び遺物の時期などからみて陥し穴とみられる。土坑内の小穴は一般に陥し穴の上部構造を支える柱穴や陥れた動物の身動きを制限する、あるいは殺傷するなどの機能をもつ逆茂木を敷設した痕跡である。逆茂木痕の有無が平面形態の違いと明らかな相関を示しているとすれば、常識的にはその背後に陥し穴としての機能に相違があると見なしうる。

陥し穴の円型と長楕円型（溝型と呼ばれるものに近い）は、対象動物とその行動生態に応じて設置場所や組み合わせの方法が異なるとされる。具体的な証拠が得られていない対象動物はさておき、前者は山地丘陵部の幅広い地形に対応して、大規模に群集する傾向があるとされ、後者は谷底か尾根上で、高低差のある方向を長軸として、列をなす傾向が強いといわれている。谷底の場合は谷の上下流方向を長軸とし、尾根上の場合は等高線に直行するという。

この視点から、本遺跡の長楕円型16基を等高線との角度で直行型と平行型に二分してみると、直行型７基（36/37/47/28/42/41/40号）、平行型９基である。ここでは平行型の方がやや多いので、例外的なのかもしれない。念のため、個々の長楕円型が等高線に直行して配置される傾向が強く、そうした陥し穴が横列を構成するという仮説に従って観察すると、感覚的には47-46-37という列と28-42-41-40-27という線が見えなくもない。しかし、検出面は前者がYLU-FB-KUとバラバラで、後者はKU-YLU-YLU-YLU-KUと中央３基と両端とでは層位が異なる。42-41-40の列だけが組み合わされている可能性を辛うじて指摘できる。

平面形態と掘り込み面の相関関係はあるだろうか。集計結果は表26のようになった。

これを分布上でみると、調査区南部に散漫に分布する長楕円形の一群はすべてKUを掘り込み面としている。27/37/35/36/29号がこれにあたる。北部では少なく、28と24号があるだけだ。これらがすべて長楕円型であることに注意したい。KUを掘り込み面とするものは長楕円型に特化し、空間を尾根の主稜線から外れた場所に配置されている傾向が指摘できる。

各土坑の帰属時期を直接検討するのは困難である。29号土坑に諸磯b式土器が伴ったほかは、覆土に土器が検出された例がないからである。上表を見ると、YLUを掘り込み面としているものが多くなっている。YLUは後期旧石器時代後半期の尖頭器石器群や細石刃石器群が検出される層準であるとともに、縄文時代草創期石器群の下限層準でもある。よって、以上の結果からはその時期の土坑が多いかのようにみえるが、しかし検出精度の低さも影響しているため、ある程度は差し引いてみなければならない。現在のところ、旧石器時代に、長楕円型を含む土坑群がまとまってみつかったという信頼のおける事例は知られていないので、おそらくは草創期以降のものと推測される。

しかし、他方で、掘り込み面の出現頻度がYLUとKUに離れてピークを迎える点は、２時期以上の土坑製作期があったと推測する材料とみなしうる。帰属時期はどうしても土器型式に依存せざるを得ないが、それに従うなら、YLUのものは草創期の可能性が低く、早期後半条痕文土器期に帰属する可能性が高い。KUのものは前期から中期という曖昧な位置づけしかできない。中間層準のものはさらに分からない。

以下、各土坑に関して実測図を掲示し、簡単な記載を添えておく。

17号（第126図）　H11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。

20号（第126図）　G11グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。

45号（第126図）　K７グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。円形を呈する。

33号（第127図）　I３グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。

34号（第127図）　H３グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。楕円形に近い円形を呈する。

18号（第127図）　I12グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。楕円形を呈する。

31号（第127図）　G１グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。楕円形を呈する。

30号（第128図）　J３グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。楕円形を呈する。

43号（第128図）　L５/６グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形に近い楕円形を呈する。

５号（第129図）　D21グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。本遺跡で最も東に位置する土坑である。逆茂木痕らしきものが認められたが積極的には評価しがたかった。

21号（第129図）　G12グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。楕円形を呈する。

22号（第130図）　J11グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形ないし隅丸方形を呈する。

27号（第130図）　H４グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長楕円ないし隅丸長方形を呈する。

40号（第130図）　I４グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長楕円ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線とほぼ直交する。

29号（第131図）　D/E８グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。隅丸長方形を呈する。底部に長軸と平行して１列をなす４箇所の逆茂木痕が検出された。また、覆土内から、諸磯b式土器の諸磯ｂ１と同４破片が１点ずつ出土した。

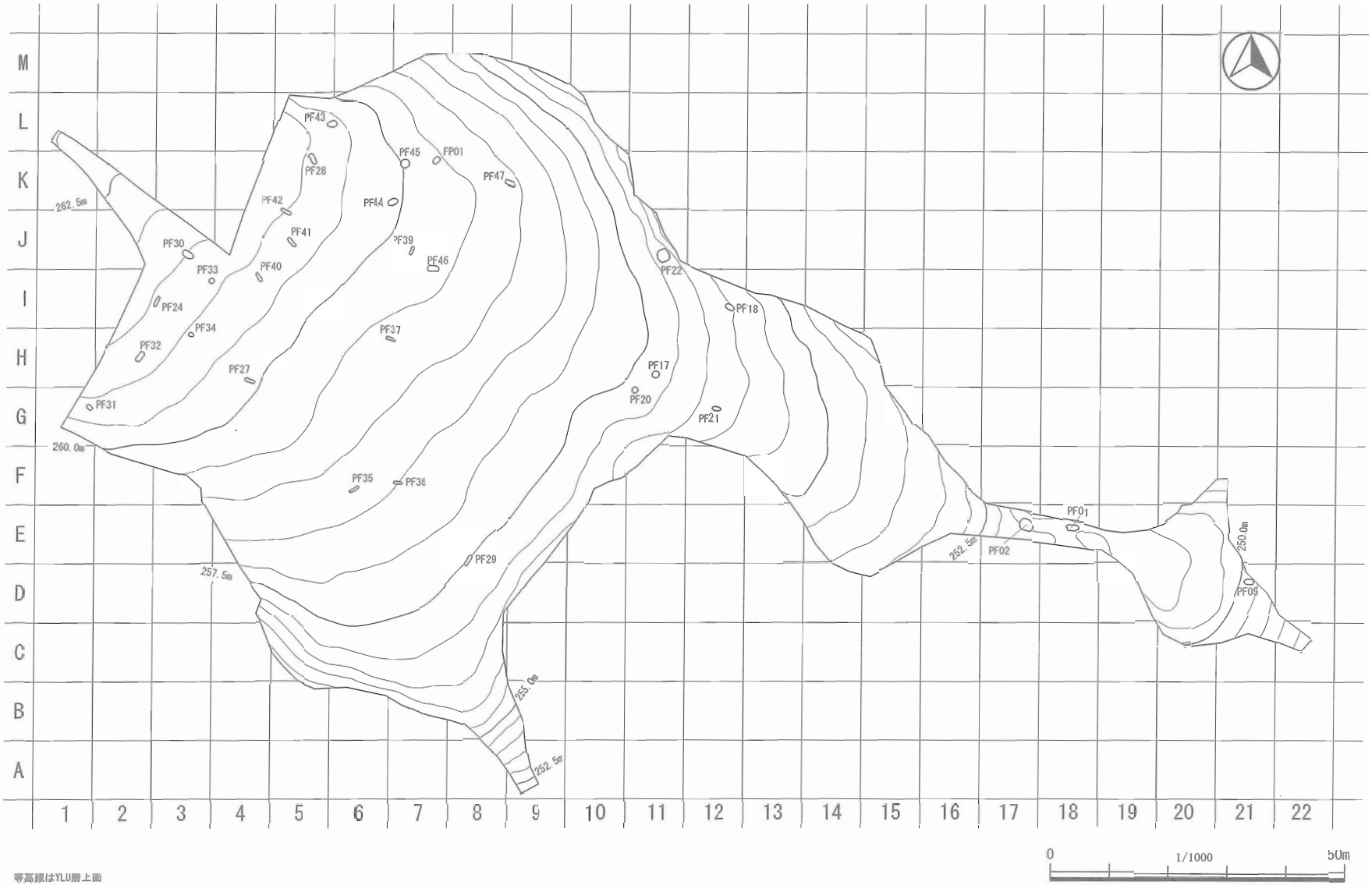
24号（第131図）　I２/３グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長楕円ないし隅丸長方形を呈する。

２号（第132図）　EI7グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が確認された。ただし、立地が痩せ尾根であり、確認調査で掘削したトレンチの断面で認められたように、YLU以上の堆積は不十分だった。上部が楕円形を呈するが、下がるとともに段を付けてすぼまり、底部は細い長方形を呈する。

41号（第132図）　J５グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。底部の長軸両端に逆茂木痕が１箇所ずつ検出された。長軸は等高線とほぼ直交する。

32号（第133図）　H２グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が確認された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。北東側の壁だけが緩やかに傾斜する。逆茂木痕が底部中央付近に１箇所検出された。長軸は等高線と平行に近い。

37号（第133図）　H６/７グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。底部に５箇所の逆茂木痕が検出された。長軸は等高線とほぼ直交する。



零高線はYLU層上面

第125図　縄文時代　土坑分布

47号（第133図）　K８/９グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。底部中央に２箇所の逆茂木痕が１列土坑の長軸に並行して検出された。長軸は等高線と斜交する。

36号（第133図）　F７グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。底部に５箇所の逆茂木痕が長軸と平行して１列検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

１号（第134図）　E18グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。底部に４箇所の逆茂木痕が長軸と平行して１列検出された。長軸と平行に長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。痩せ尾根の頂部付近に位置する。

46号（第134図）　I/J７グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。中央に並んだ二つの逆茂木痕が検出された。

42号（第134図）　J/K５グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長軸両端の底部に逆茂木痕が１箇所ずつ検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

39号（第135図）　J７グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。底部にややバラツキのある７箇所の逆茂木痕が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線とほぼ直交する。

28号（第135図）　K５グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

35号（第136図）　F６グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長軸の両端近くに、それぞれ２箇所と３箇所の逆茂木痕が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線にほぼ平行する。

44号（第136図）　K６/７グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。底部中央に１箇所のやや大型の小穴が検出された。楕円形を呈する。

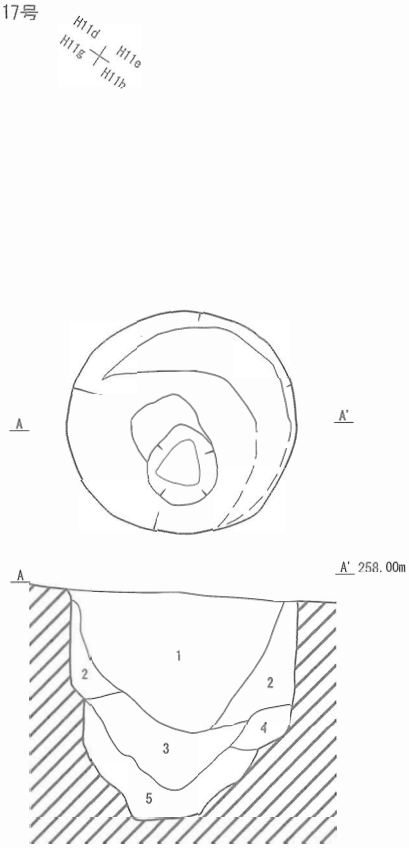
表25　土坑の平面形態と小穴の有無

	総数（小穴のあるもの）
円型	6（0）
楕円型	7（1）
長楕円型	16（11）
計	29（12）

表26　土坑の平面形態と掘り込み面の層位

	KGP	KU	FB	ZN	YLU	計
円型	1			1	4	6
楕円型			1	2	4	7
長楕円型		6	2	1	8	17
計	1	6	3	3	16	29

17号



17号土坑
1 7.5YR 4/4 褐色土
非常に粗、しまり良、φ2～3mmの橙色のスコリア、φ5mmの砂沢スコリア、φ10mmの仙石スコリア多く含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

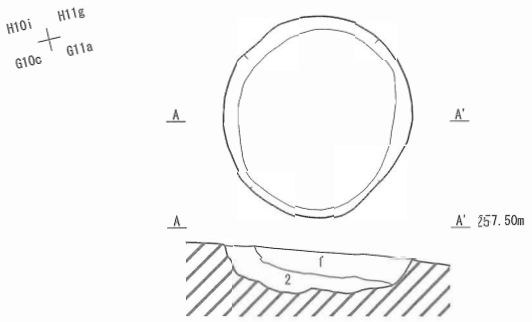
2 10YR 3/4 暗褐色土
細かい、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 10YR 4/4 褐色土
細かい、しまり良、硬質、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。
1層土が互層に混じる、比率は1:1と1層の混合土。

4 10YR 4/6 褐色土
細かい、しまり良、φ5mmの黒色スコリア少量含む。

5 10YR 4/6 褐色土
細かい、しまり良、硬質、粘性やや有り、φ2～3mmの橙色スコリア、φ5mmの黒色スコリア少量含む。

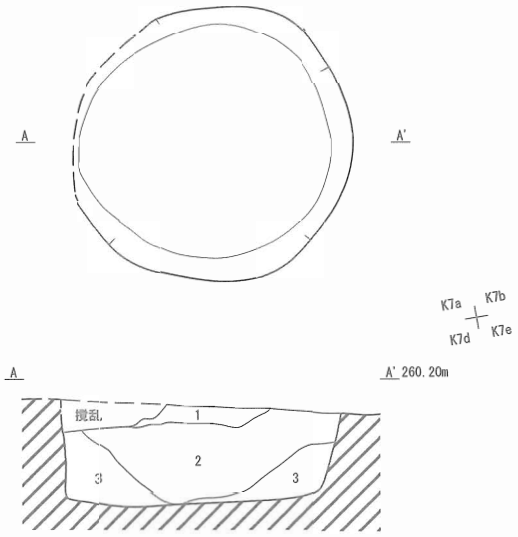
20号



20号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
細かい、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物粒少量混じる。

2 7.5YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

45号



45号土坑
1 10YR 2/3 黒褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

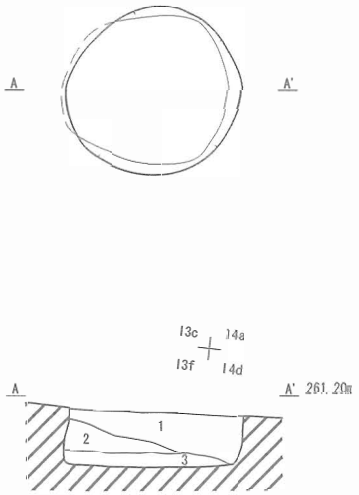
2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～10mmの炭化物少量混じる。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

0　1m

第126図　縄文時代　土坑（1）

33号

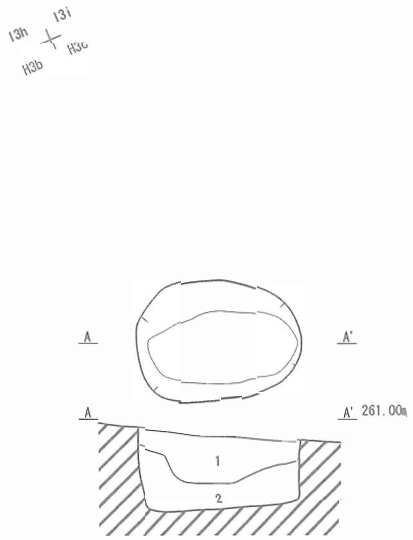


33号土坑
1 7.5YR 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

2 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、FB相当土。

3 7.5YR 4/4 褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

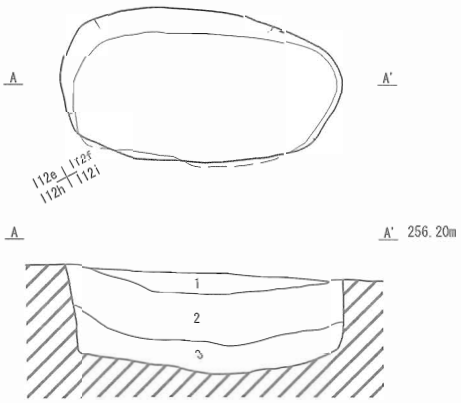
34号



34号土坑
1 7.5YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、FB相当土。

2 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

18号

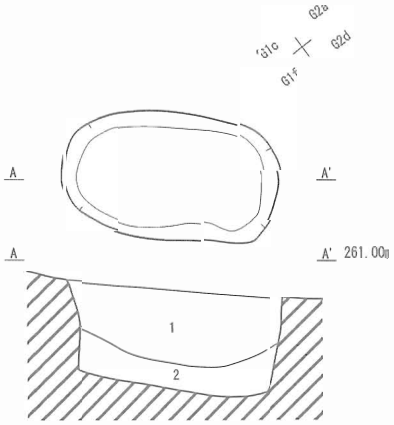


PF18
1 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

2 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性やや有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

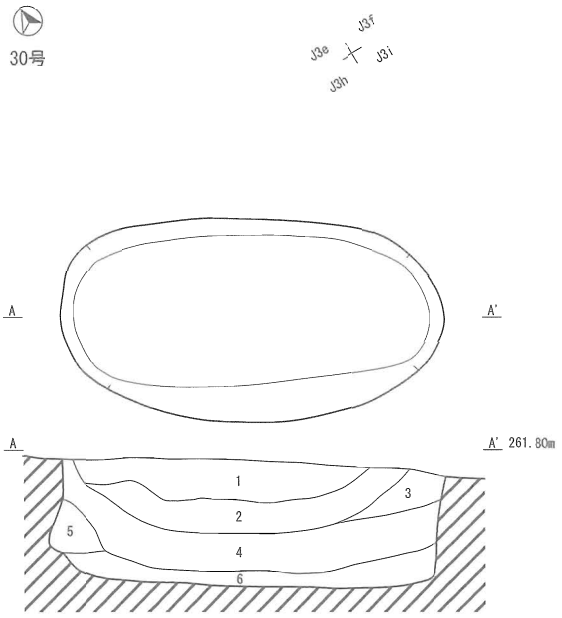
31号



31号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

第127図　縄文時代　土坑（２）



30号土坑
1 7.5YR 4/4 褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、白色パミス多く含み、φ2～3mmの炭化物粒多く混じる。

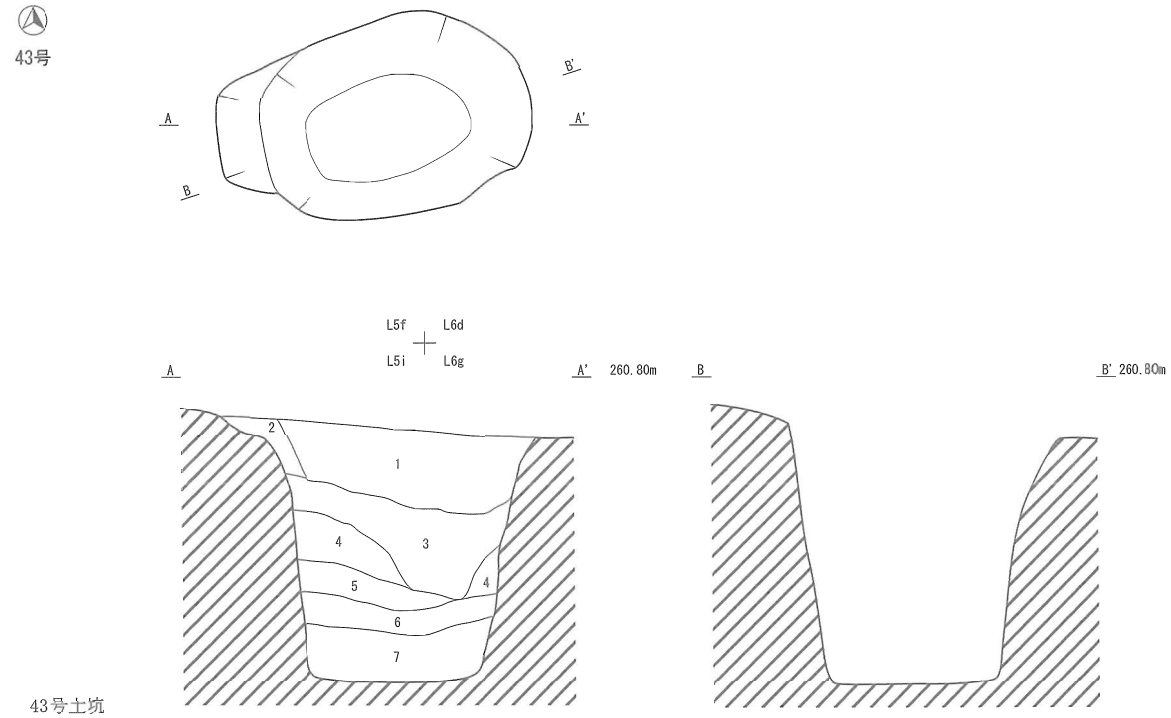
2 5YR 3/6 暗赤褐色土
φ1mmの砂質のスコリア、1層土中に厚さ100mm、巾200～300mmの帯状に入る。

3 10YR 3/3 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

4 10YR 3/3 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

5 10YR 3/3 暗褐色土
やや粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

6 10YR 3/3 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性僅かに有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。



43号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～5mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。KU崩落土。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、非常に硬くしまっている、粘性なし、φ2～5mmの橙色スコリア少量含む。

4 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの橙色スコリア少量含む。

5 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの橙色スコリア少量含む。

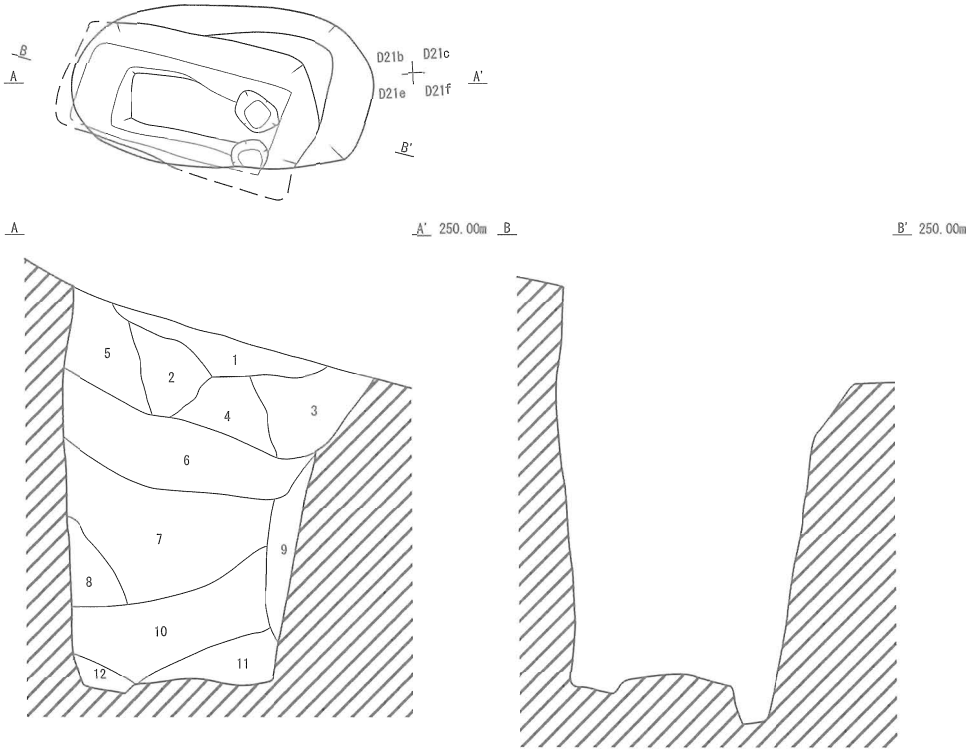
6 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの橙色スコリア少量含む。

7 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの橙色スコリア極少量含む。

0　1m

第128図　縄文時代　土坑（３）

5号



PF05
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア、φ10mmの仙石スコリア少量含む。

3 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ5mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

4 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

5 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや悪い、φ5mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

6 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

7 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり非常に悪い、φ10mmの仙石スコリア多く含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

8 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性僅かに有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

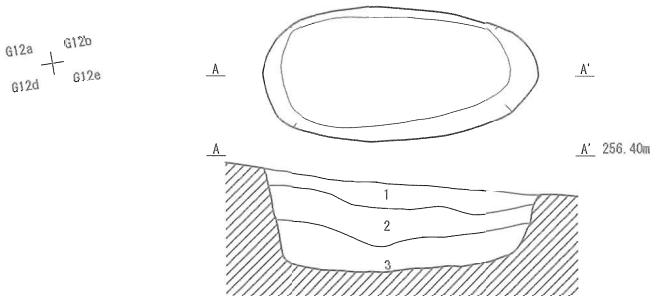
9 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ50～100mmのBB0～SCⅠ層土ブロック50%混じる。

10 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性僅かに有り、φ10mmの仙石スコリア多く含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

11 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性僅かに有り、含有物なし。

12 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性有り、φ2～3mmの地山のNL層土ブロック50%混じる。

21号



21号土坑
1 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

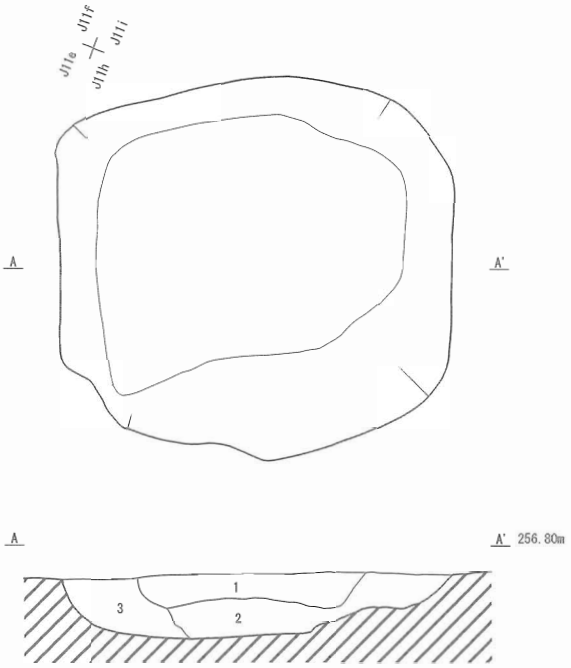
2 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性やや有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

0　1m

第129図　縄文時代　土坑（４）

22号

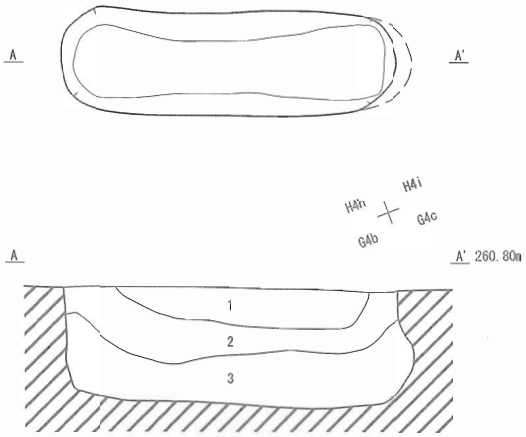


22号土坑
1 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ5～10mmの仙石スコリア非常に多く含む。

2 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ5mmの仙石スコリア多く含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗い、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

27号

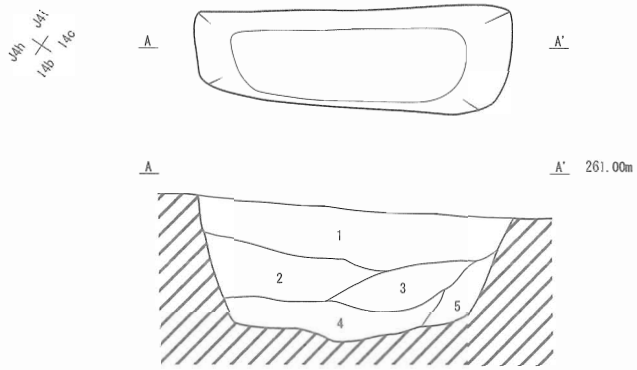


27号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ5mmの仙石スコリア、白色パミス含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ5mmの仙石スコリア含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性僅かに有り、φ5mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

40号



40号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、白色パミス含む。

2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～5mmの仙石スコリア少量含む。

3 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの仙石スコリア少量含む。

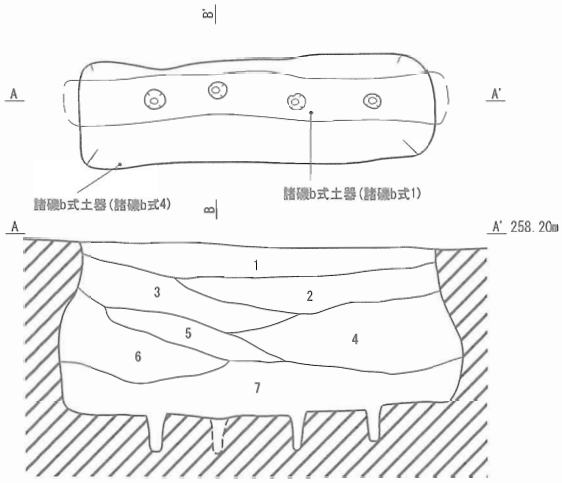
4 7.5YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの仙石スコリア少量含む。

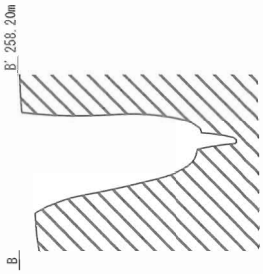
5 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの仙石スコリア極少量含む。

0　1m

第130図　縄文時代　土坑（５）

29号





29号土坑
1 7.5YR 褐色土
粗、しまりやや良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ5mmの仙石スコリア含み、白色パミス少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ5mmの仙石スコリア含む。

3 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり非常に悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ5mmの仙石スコリア多く含む

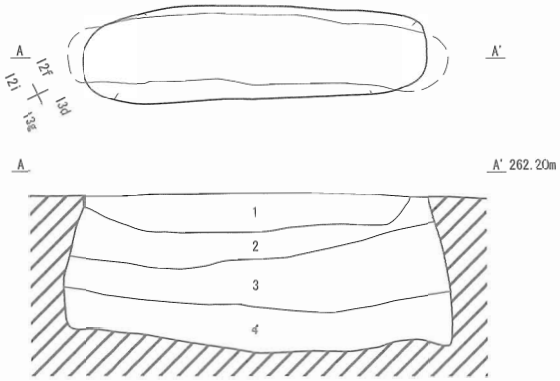
4 7.5YR 4/4 褐色土
非常に粗、しまり非常に悪い、粘性なし、φ5mmの仙石スコリア含む。

5 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

6 7.5YR 褐色土
非常に粗、しまり非常に悪い、砂質粘性なし、φ5mmの仙石スコリア含む

7 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり非常に悪い、粘性なし、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

24号



24号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ10mmの仙石スコリア、白色パミス少量含み、φ5mmの炭化物少量混じる。

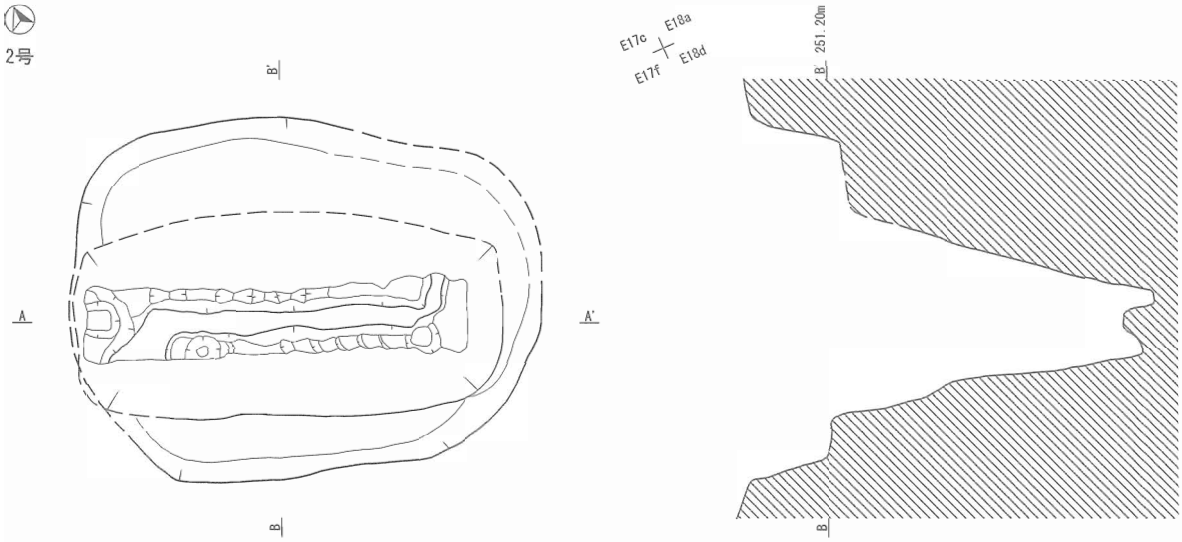
2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや良、粘性弱い、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

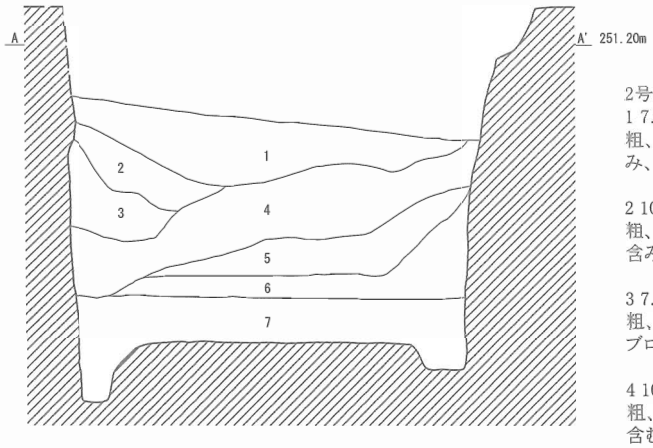
3 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

4 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり非常に悪い、粘性弱い、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

0　1m

第131図　縄文時代　土坑（６）





2号土坑
1 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

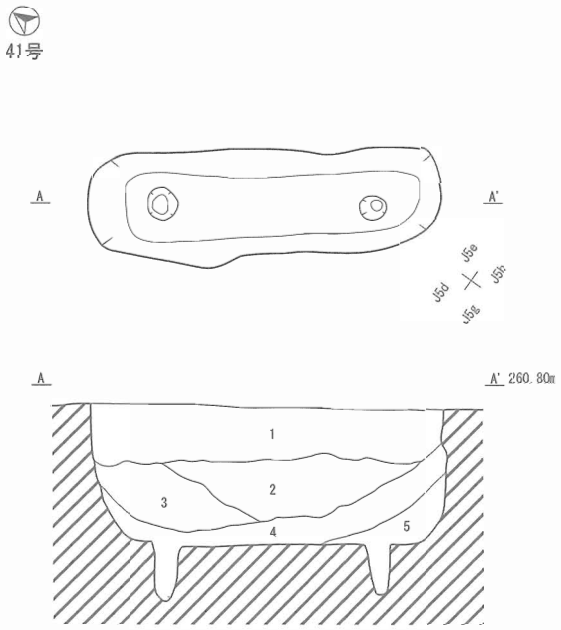
3 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmのSC土層とブロック少量混じる。

4 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。→確認調査 PF02、1層と対等。

5 10YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

6 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含む。

7 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性僅かに有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ10mmの仙石スコリア含む、5層と対応。



41号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2mmの橙色スコリア、白色パミス含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含む。

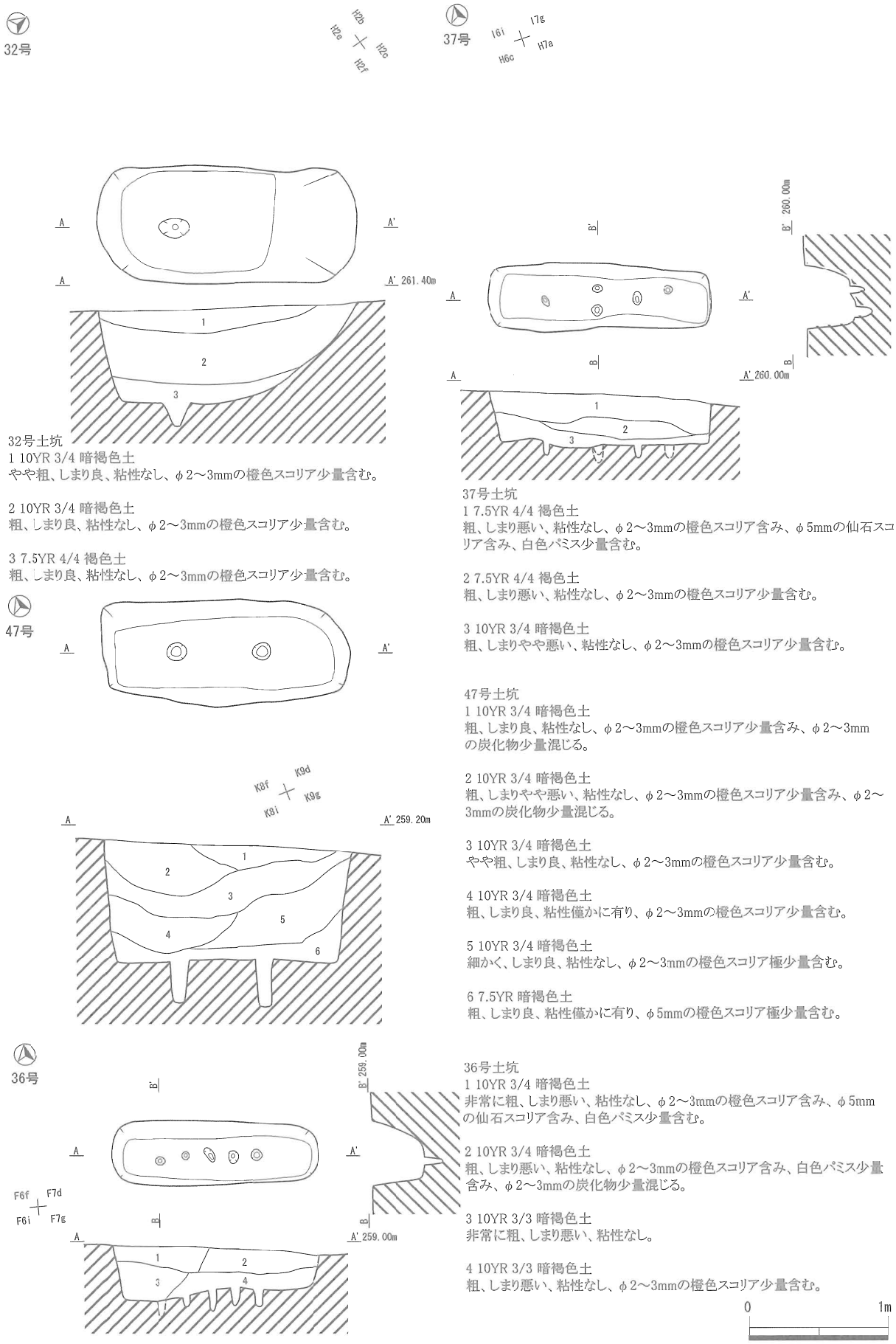
3 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

4 10YR 3/3 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

5 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

0　1m

第132図　縄文時代　土坑（７）



32号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

37号土坑
1 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ5mmの仙石スコリア含み、白色パミス少量含む。

2 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

47号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

3 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

4 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性僅かに有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

5 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

6 7.5YR 暗褐色土
粗、しまり良、粘性僅かに有り、φ5mmの橙色スコリア極少量含む。

36号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ5mmの仙石スコリア含み、白色パミス少量含む。

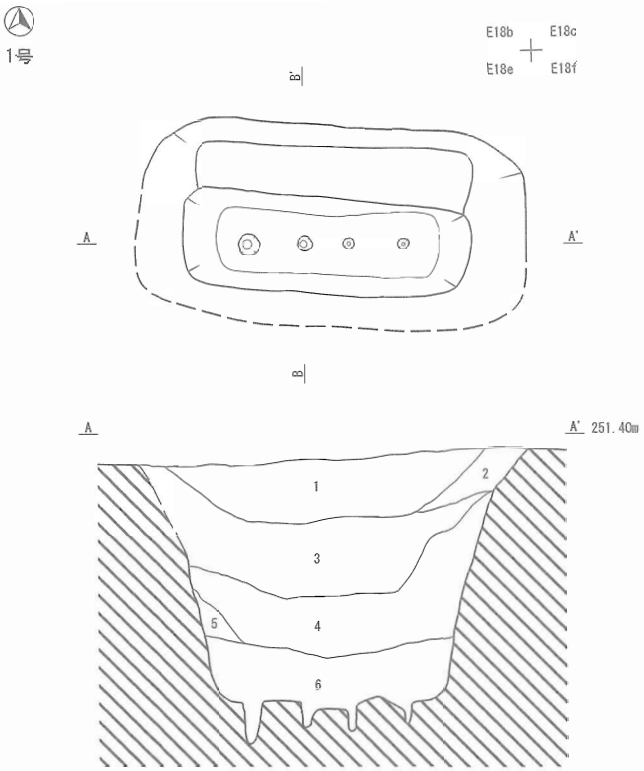
2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、白色パミス少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

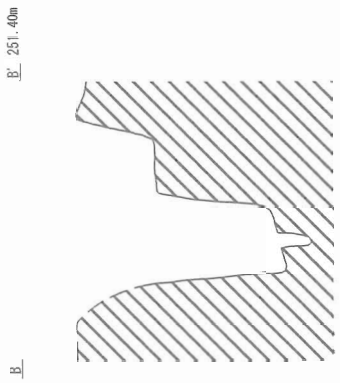
3 10YR 3/3 暗褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性なし。

4 10YR 3/3 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

0　1m

第133図　縄文時代　土坑（８）





1号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまりやや悪い、φ5mmの褐色スコリア多く含む。FB相当。

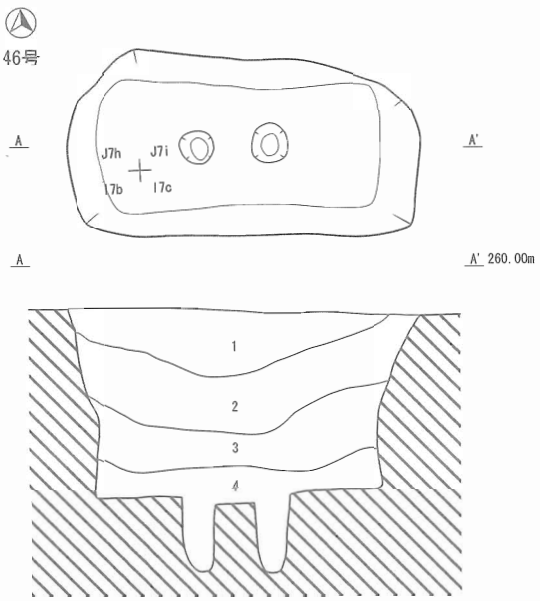
2 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗、しまりやや悪い、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。
YLの崩落土か？

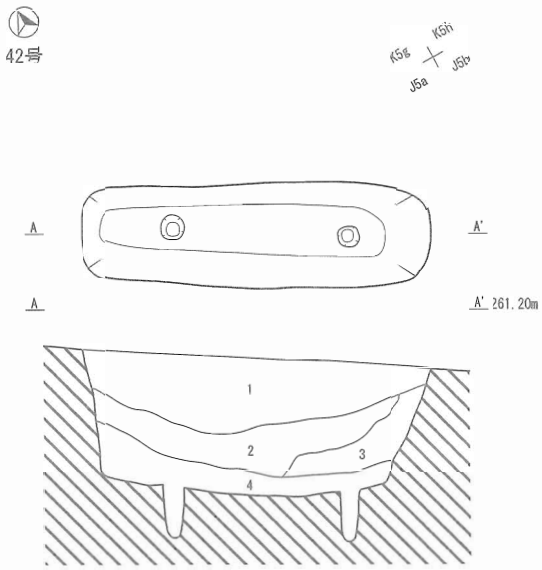
3 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり非常に悪い、φ5mmの褐色スコリアを多く含む。YL相当。

4 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ5mmの褐色スコリア含む。YL相当。

5 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、φ5mmの褐色スコリア極少量含む。YL相当。

6 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、φ5mmの褐色スコリア少量含む。





46号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物粒少量混じる。KU層相当。

2 10YR 3/3 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。FB相当。

3 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ5mmの橙色スコリア少量含む。

4 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性僅かに有り、φ5mmの橙色スコリア少量含む。

42号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、白色パミス含む。

2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

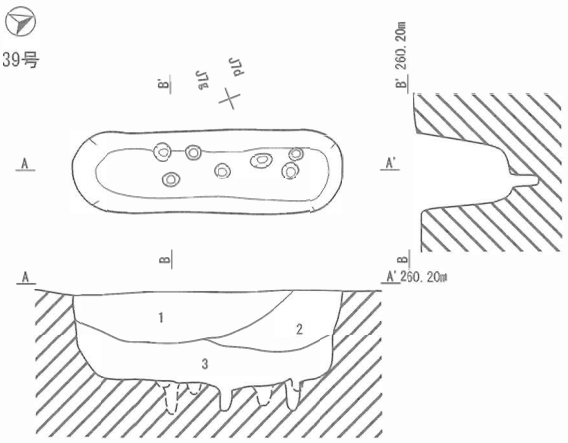
3 10YR 暗褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

4 10YR 3/3 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

0　1m

第134図　縄文時代　土坑（９）

39号

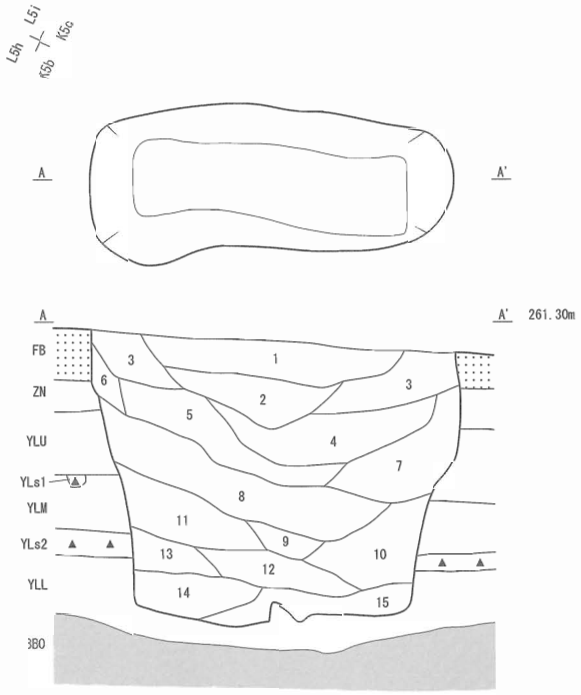


39号土坑
1 7.5YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、白色パミス、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

2 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

3 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性やや有り。

28号



28号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ5mmの仙石スコリア多く含み、白色パミス少量含み、5～10mmの炭化物粒多く混じる。

2 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ5mmの仙石スコリア含む。

3 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、粘性僅かに有り、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ5～10mmの仙石スコリア含む。

4 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまりやや悪い、粘性僅かに有り、φ5～10mmの仙石スコリア含む。

5 7.5YR 4/4 褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性なし、φ5～10mmの仙石スコリア含む。

6 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

7 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性僅かに有り、φ5～10mmの仙石スコリア含む。

8 10YR 3/4 暗褐色土
非常に粗、しまり非常に悪い、粘性なし、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

9 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性やや有り、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

10 10YR 3/4 暗褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性強、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

11 10YR 3/4 暗褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性やや有り、φ5mmの仙石スコリア含む。

12 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗い、しまり悪い、粘性強、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

13 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性強、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

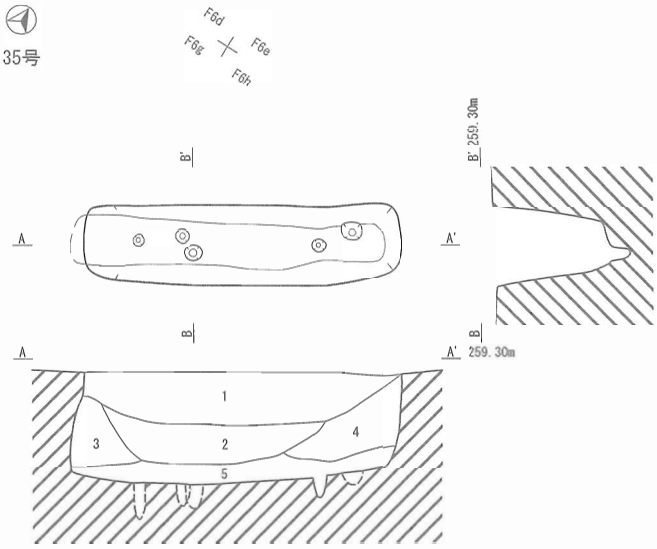
14 7.5YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性強、φ5mmの仙石スコリア含む。

15 7.5YR 4/4 褐色土
やや粗い、しまり悪い、粘性やや有り、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

0　1m

第135図　縄文時代　土坑（10）

35号



35号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア、φ5mmの仙石スコリア、白色パミス多く含む。

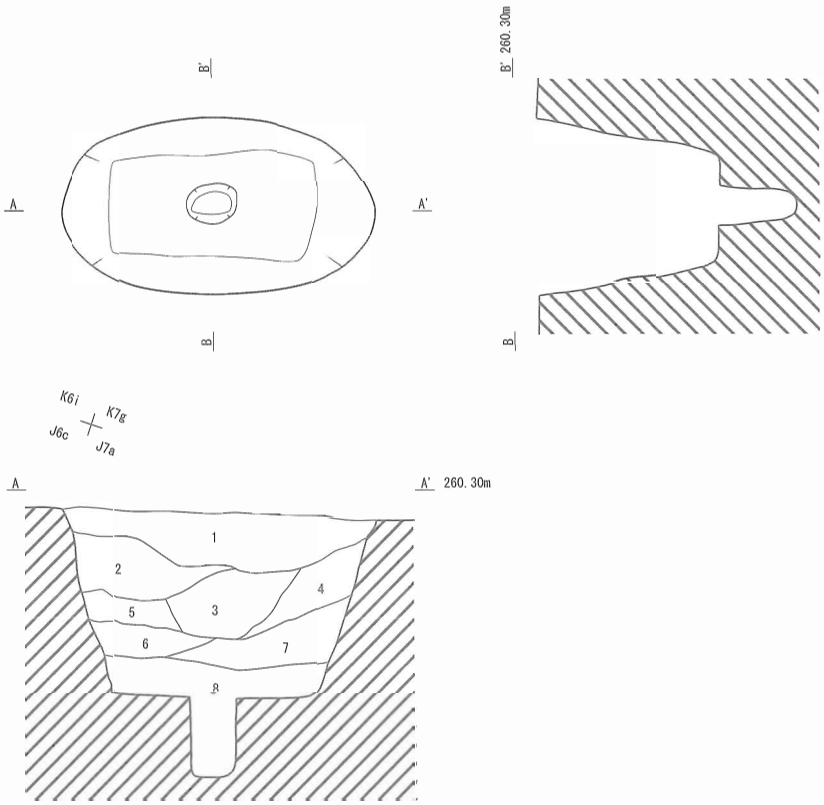
2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

3 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

4 10YR 4/4 褐色土
非常に粗、しまり悪い、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

5 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

44号



44号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～10mmの炭化物混じる。

2 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～10mmの炭化物混じる。

3 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含み、φ2～3mmの炭化物極少量混じる。

4 10YR 3/4 暗褐色土
細かく、しまり良、粘性やや有り、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含み、φ2～3mmの炭化物極少量混じる。

5 10YR 3/4 暗褐色土
やや粗、しまり良、粘性やや有り、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含み、φ2～10mmの炭化物少量混じる。

6 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性有り、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含み、φ2～10mmの炭化物少量混じる。

7 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性有り、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

8 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性強、φ2～3mmの橙色スコリア極少量含む。

0　1m

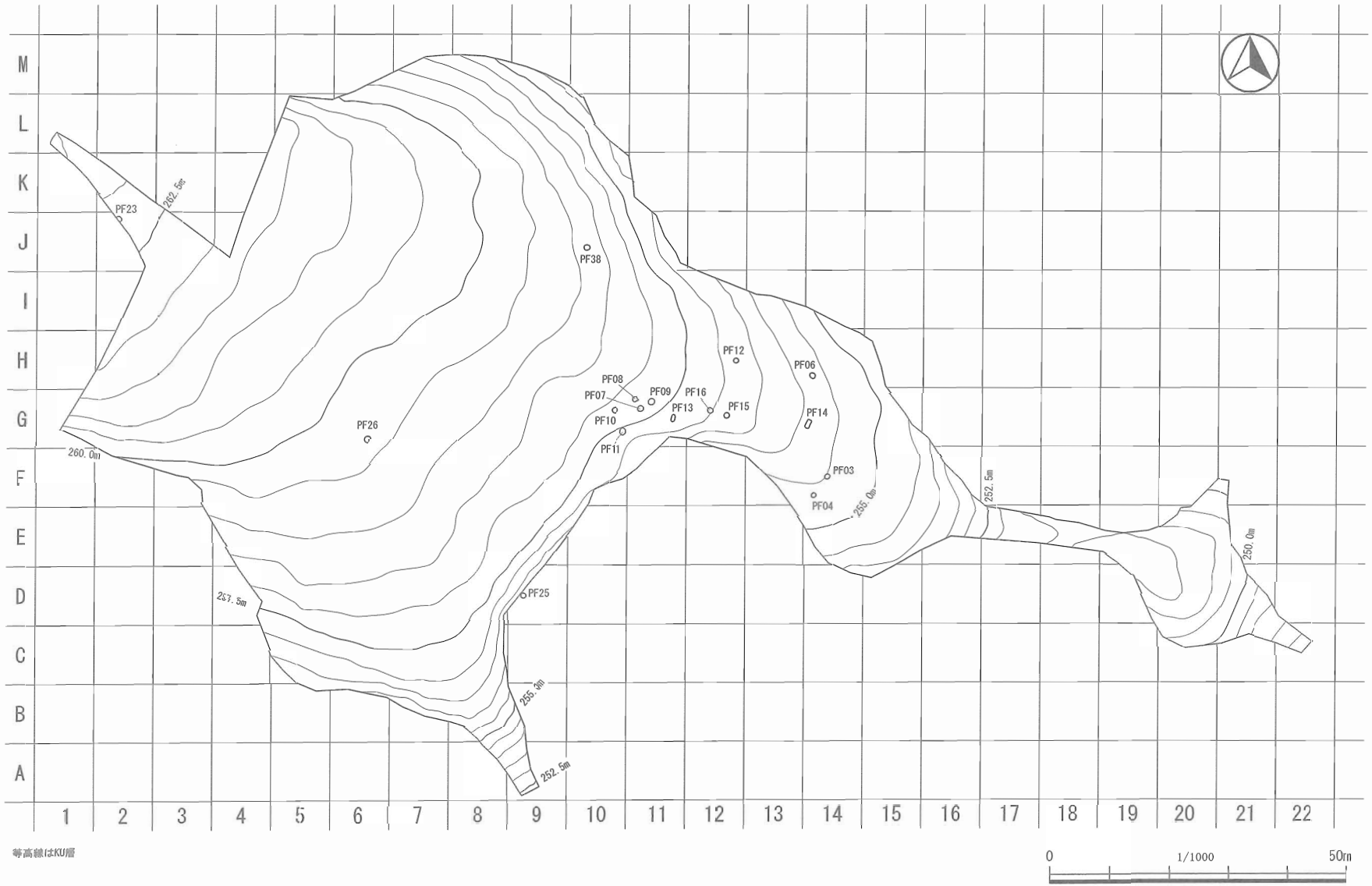
第136図　縄文時代　土坑（11）

第６章　時期不明の土坑

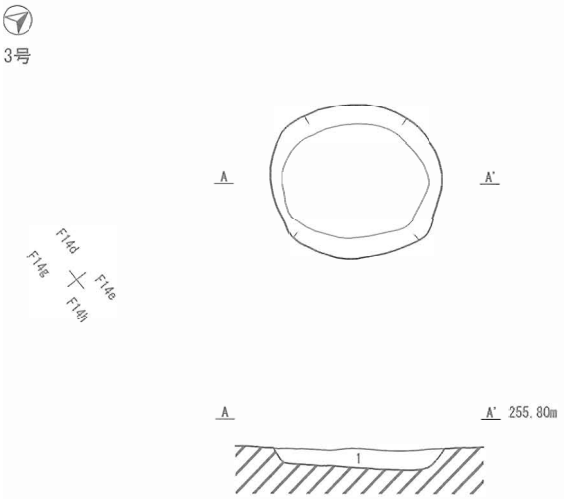
縄文時代以外の土坑は総数17基である。殆どが円形を呈している。これらの土坑は、縄文時代のものとは異なり、掘り込み面がKU上部からSNZにあり、円形で浅く、擂り鉢状になるものが多い。しかし、KUにあるものは掘り込み面が不明確になることも多く、しばしば縄文時代のものと区別が曖昧になることもあるため、時期の判別は必ずしも容易ではない。

時期不明土坑の多くは調査区の中央部、西から東へ尾根が急速に細くなる括れ部分、その南側斜面の落ち際にあり、調査区西部の平坦面に集中していた縄文時代の土坑とは、立地のうえでも対照的な分布を示している（第137図）。

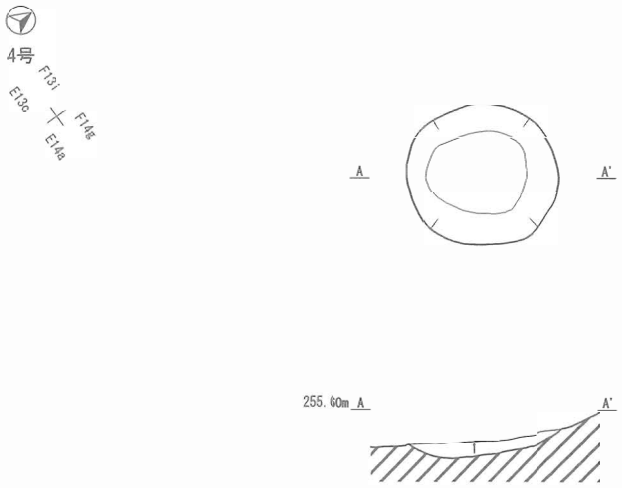
３号（第138図）　F14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
４号（第138図）　F14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
６号（第138図）　H14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
７号（第138図）　G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
９号（第139図）　G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
10号（第139図）　G10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
11号（第139図）　G10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
12号（第139図）　H12グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
15号（第140図）　G12グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
16号（第140図）　G12グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
23号（第140図）　Ｊ２グリッドに分布し、NSCで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
25号（第140図）　Ｄ９グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
26号（第141図）　Ｇ６グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
38号（第141図）　J10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
８号（第141図）　G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。不整円形を呈する。
14号（第141図）　G13/14グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。隅丸長方形を呈する。覆土から19世紀以降と推測される陶磁器片が１点出土した。
13号（第141図）　G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。楕円形を呈する。



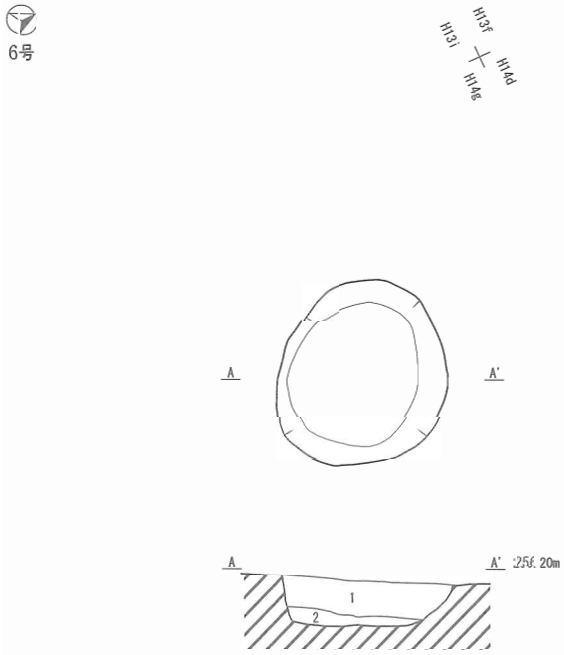
第137図　時期不明　土坑分布



3号土坑
1 10YR 4/4　褐色土
粗、しまり良、φ　2～3mmの橙色スコリア含み、φ　10mmの仙石スコリア少量含み、φ　2～3mmの炭化物少量混じる。

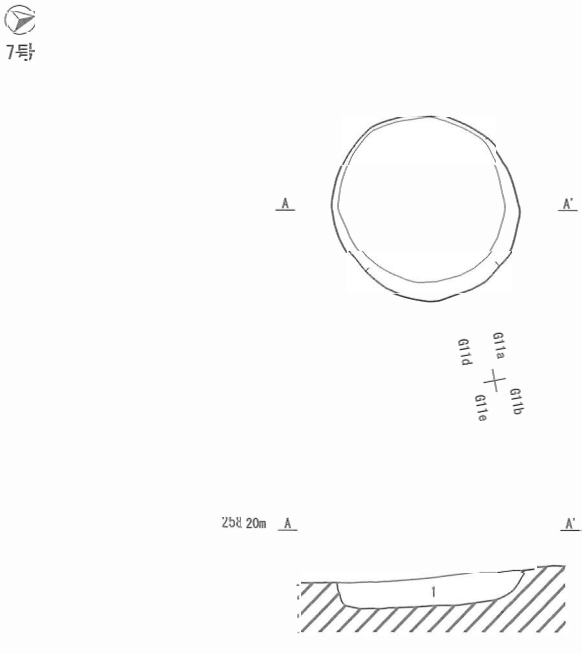


4号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。



6号土坑
1　10YR 4/4　褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、仙石スコリア含み、φ2～3mmの炭化物粒少量混じる。

2 10YR 4/4　褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含む。

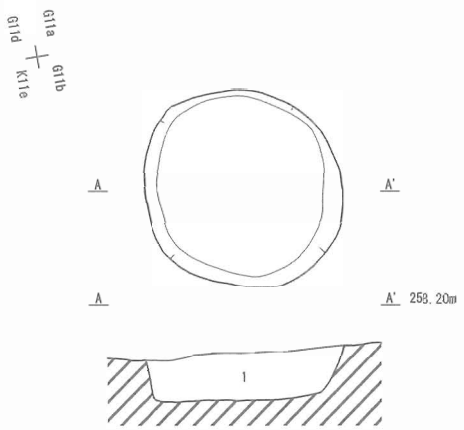


7号土坑
1 10YR 4/4　褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物粒少量混じる。

0　1m

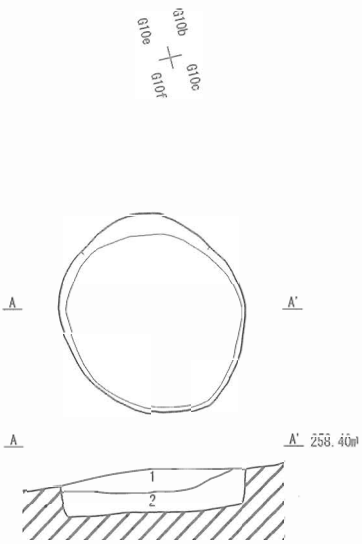
第138図　時期不明　土坑（1）

9号



9号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

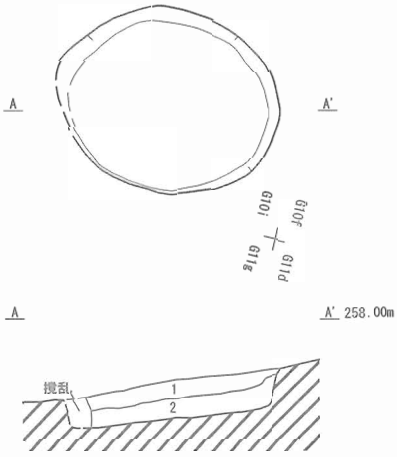
10号



10号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、
φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、
φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる

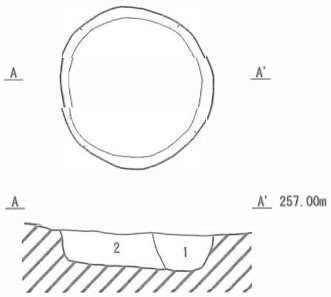
11号



11号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

12号

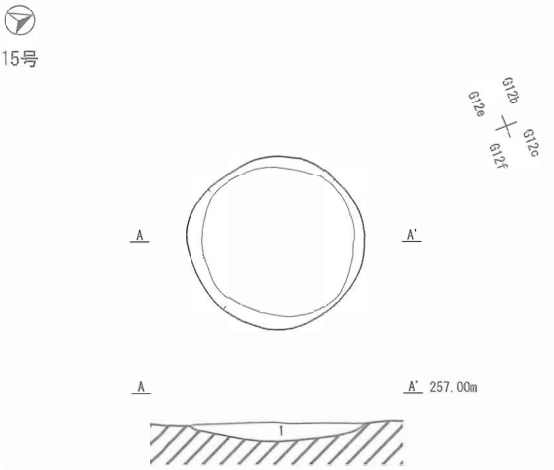


12号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
やや粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

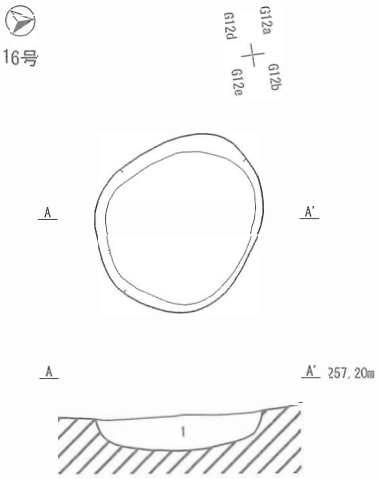
2 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

0　1m

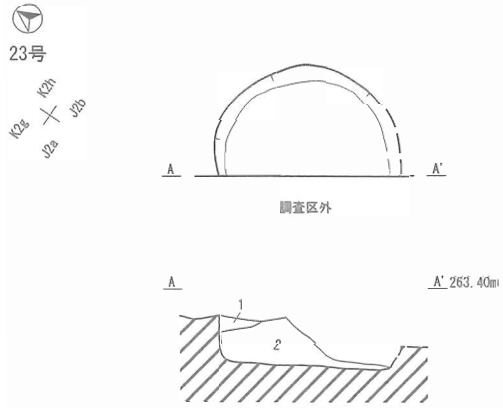
第139図　時期不明　土坑（２）



15号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

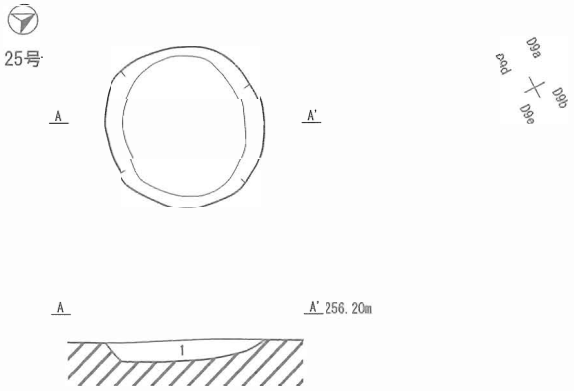


16号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物粒混じる。



23号土坑
1 10YR 3/3 暗褐色土
粗、しまり悪い。

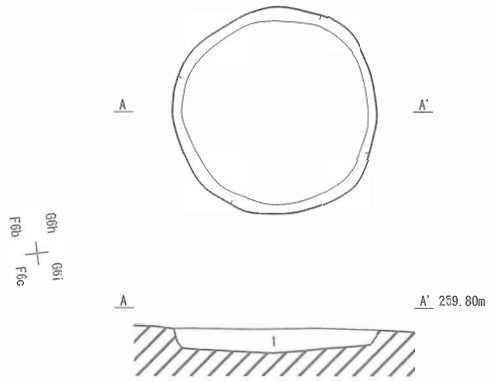
2 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア、φ10mmの仙石スコリア少量含む。



25号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ1mmの仙石スコリア含み、φ5mmの砂沢スコリア少量含み、白色パミス含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

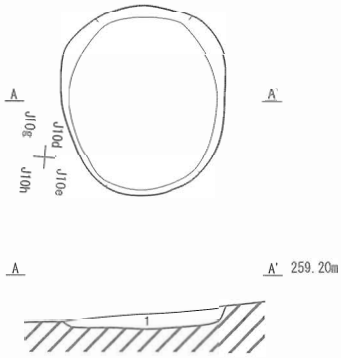
第140図　時期不明　土坑（３）

26号



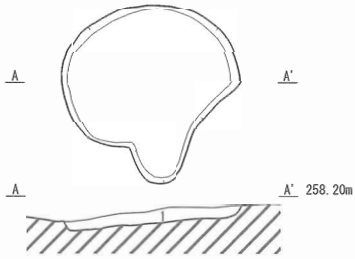
26号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア多く含み、φ1mmの仙石スコリア含み、白色パミス少量含み、φ2～10の炭化物多く混じる。

38号



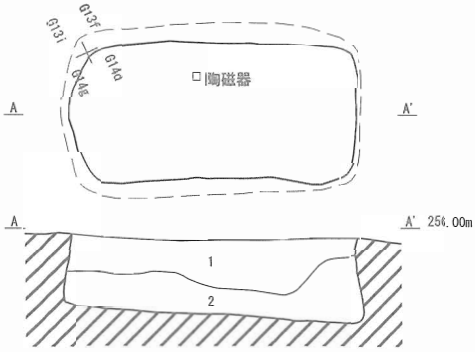
38号土坑
1 10YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり良、粘性なし、φ2～3mmの橙色スコリア含み、白色パミス含み、φ5mmの仙石スコリア少量含む。

8号



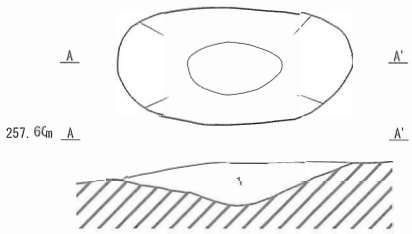
8号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

14号



14号土坑
1 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含み、φ2～3mmのKU層土ブロック少量混じる。
2 7.5YR 3/4 暗褐色土
粗、しまり悪い、φ10mmの仙石スコリア含み、φ2～3mmの橙色スコリア少量含む。

13号



13号土坑
1 10YR 4/4 褐色土
粗、しまり良、φ10mmの仙石スコリア少量含み、φ2～3mmの橙色スコリア含み、φ2～3mmの炭化物少量混じる。

0　1m

第141図　時期不明　土坑（４）

第７章　まとめ

後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期の石器群とその評価

本遺跡では、後期旧石器時代後半期に帰属する４枚の文化層と縄文時代草創期に帰属する石器群を確認し、縄文時代早期から中期に帰属する可能性の高い石器群（第142図）および土器群と各種の遺構群を検出した。

旧石器時代各文化層および縄文時代遺構・遺物の詳細な内容に関しては各章を参照願うとして、本章では、各章で不足していた事項、特に石器群内容に関して追補するとともに、それぞれについての評価を付すことにしたい。

愛鷹箱根地域の後期旧石器時代石器群編年は、大略５期に区分されている。その第１期と第２期はATパミス包含層準（ニセローム下部）の下位にあり、第３期から第５期が同上位にある。この５期区分は研究者間で概ね共有されおり、それを基礎に最近提出された高尾好之（2006）の編年はその代表例といえる。そのほかにも重要な諸見解があるので、これらも適宜参照する。

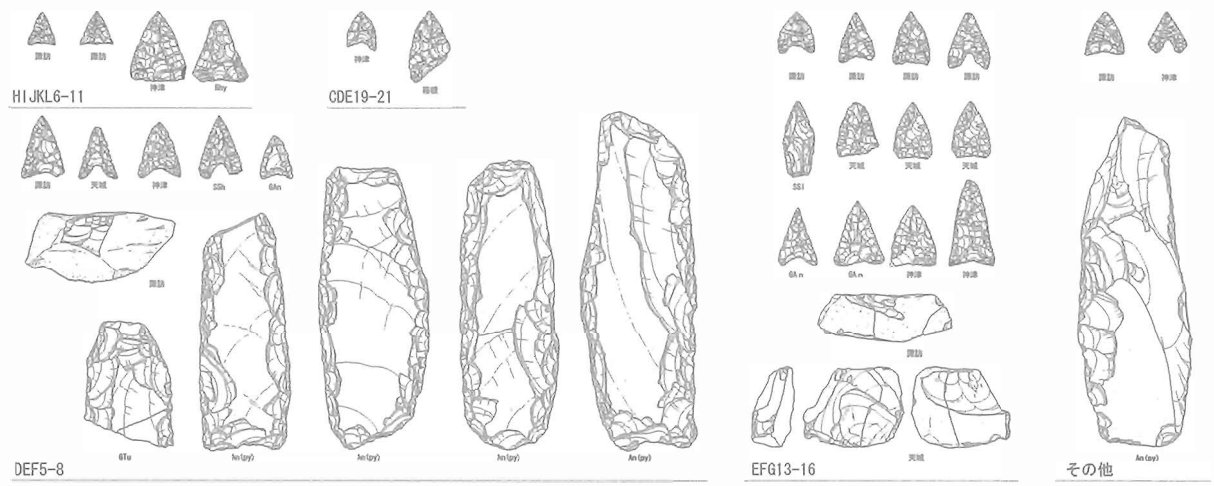
高尾（前掲）は第３期をa/b/c段階に細分し、笹原千賀子（2004）が寺林遺跡の報告に伴って提起した「c'段階」を加える案を肯定的にとらえている。次の第４期については、高尾は前半と後半とに分割し、中村雄紀（2005・2006）は第３期を前半と後半に２分して、さらに前半と後半のそれぞれについて古相と新相に細分し、都合４段階を想定している。高尾と中村の編年は共に第３期を４段階、第４期を２段階に区分する点でよく類似するが、編年の指標となる遺跡（石器群）の包含層準や集中部の取り扱いや、更なる段階細分にしばしば歩み寄りがたい相違がみられるので、同じには扱えない。しかしながら、これらの編年によく「砂川期」などの呼称が引用されていることからも分かるように、愛鷹箱根編年は基本的に武蔵野編年等を念頭にして構築されており、したがって、おおよそ次のような対応関係を想定することも可能と思われる。

基本層序	愛鷹箱根編年	武蔵野台地の編年
BBI-SCI	第３期ａ段階	Ⅴ層下部段階
BB0-YLL	第３期ｂ段階	Ⅴ層上部-Ⅳ層下部　古段階
YLL-YLM	第３期ｃ段階	Ⅴ層上部-Ⅳ層下部　新段階
	第３期c'段階	Ⅴ層上部-Ⅳ層下部　最新段階
YLM-YLU	第４期前半	Ⅱb期前半（「砂川期」）
YLU	第４期後半	Ⅱb期後半（ナイフ形石器群「終末期」）

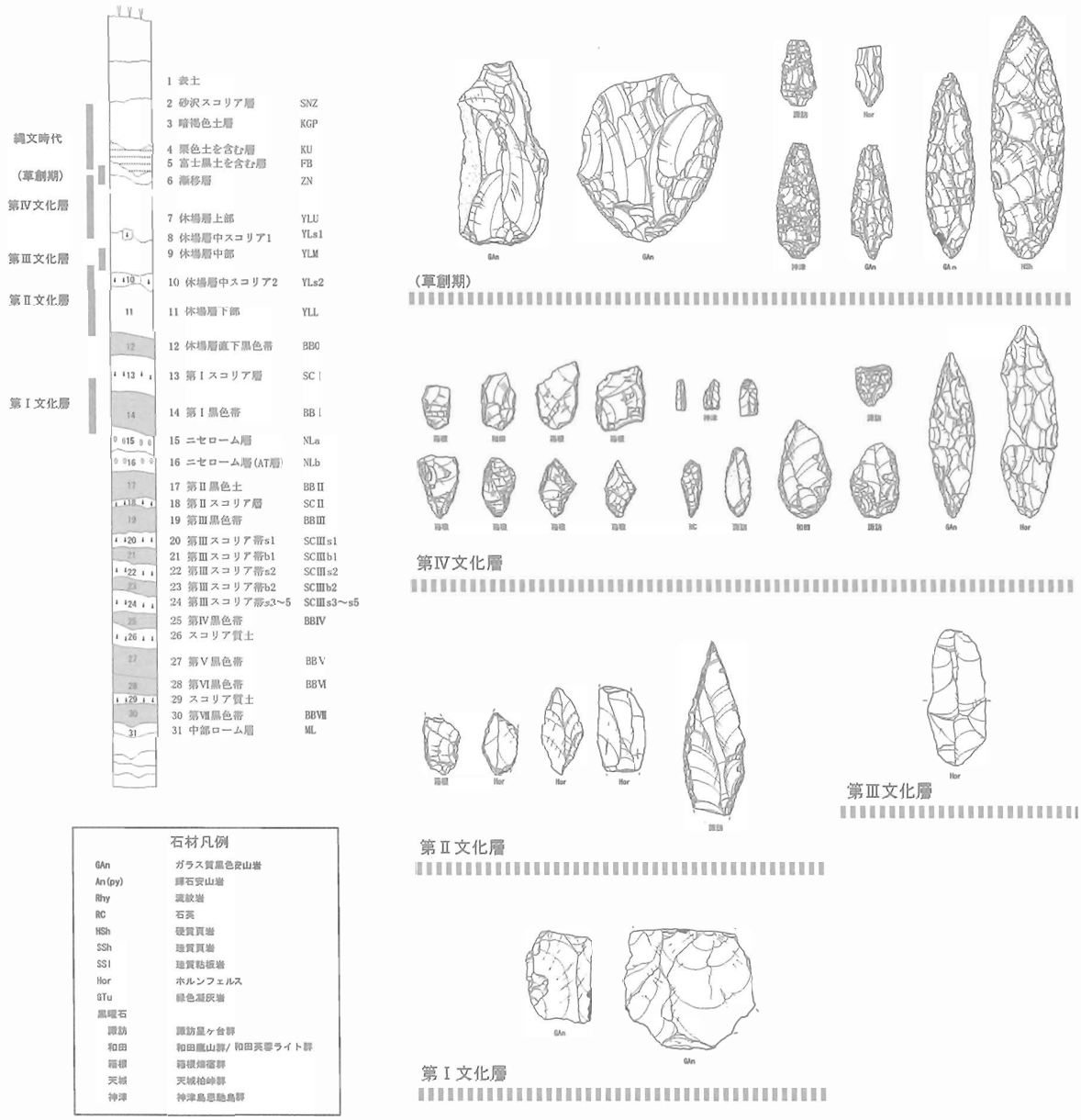
基本層序と石器群編年の対応はもちろん厳密なものではない。しかし、周辺地域を含めた対比でも概ね支持されているようにみうけられるので、本遺跡の各文化層の位置づけについても援用してみたい。

(1)　第Ⅰ文化層の石器群

第Ⅰ文化層は第Ⅰ黒色帯から第１スコリア帯（BBI-SCI）で検出された石器群である。諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型剥片と砕片、ガラス質黒色安山岩製の剥片が検出された。どちらも消費途中にあった石材を限定的に消費して残されたものである。検出された石器は、黒曜石製が相対的に小さく、安山岩製



縄文時代



第142図　老平遺跡における旧石器時代から縄文時代の石器群編年

がより大きい。前者は中部高地、後者は富士川流域を採取地としている可能性が高いので、サイズの違いは産出地からの距離を反映しているのかもしれない。石器総数5点と大変少ないため、全体像は不明である。3期前半の遺跡がこの層準にあることが多いといわれている。

(2) 第Ⅱ文化層の石器群

第Ⅱ文化層は休場層下部から休場層中部（YLL-YLM）に包含される。石器濃集層準は休場層下部（YLL）にある。石器集中はホルンフェルスを第1石材とする2箇所が確認された。総点数19点と小規模ながら、ホルンフェルス製ナイフ形石器6点、諏訪星ヶ台産黒曜石製石刃製ナイフ形石器1点、箱根畑宿産黒曜石製切出形石器（幾何形）1点を含み、製品組成率が高い。

本文化層の特徴は、近傍に産地のある箱根産黒曜石製の小型剥片製石器群、中部高地産黒曜石製の石刃石器群という対照的な石器群と、この中間的な構成としてホルンフェルス製の小型石刃/剥片製石器群が共存することである。対照的な石器群の共存関係は後期旧石器時代前半期から踏襲されてきた構造性のあらわれであり、3期全体の特徴でもある。中村によると、3期前半はそうした対照性が加工部位や全体形状というより石器の大きさに対応し、3期後半は器種と石材の結びつきに表れる。3期後半では、BB0を中心としてナイフ形石器に小型品が多い古相の石器群と、YLLを中心として尖頭器や涙滴形のナイフ形石器が加わる新相の石器群に区分でき、新相の石器群には信州系黒曜石が多いとされる。この区分に従えば、第Ⅱ文化層の石器群は、層位的にも内容的にも3期後半新相の石器群と考えられる。

(3) 第Ⅲ文化層の石器群

第Ⅲ文化層は礫群の検出層準によって抽出された石器群で、休場層中部（YLM）のなかでも下部を基準とする。掲示した石器実測図が石刃1点しかないことからも分かるように、同層準で検出された石器は極めて少ない。この石刃はホルンフェルス製である。ホルンフェルスは本地域の石器群にとって最もポピュラーな消費石材のひとつである。

(4) 第Ⅳ文化層の石器群

第Ⅳ文化層は休場層上部（YLU）を主要な検出層準とする石器群と礫群で構成される。石器の一部は休場層中部（YLM）に及んでいるが、礫群は安定的で、第Ⅲ文化層の礫群との層位差も明瞭である。

石器群は、①小型剥片製石器群、②石刃製石器群、③尖頭器石器群、④細石刃石器群にわけられる。異なる時期の石器群が混在している可能性も推測されたが、徹底して行った層位的な検討でも有意な結果は得られなかったので、同文化層として扱うことにした。

上記①-④は主要な消費石材種が異なり、①は箱根畑宿産黒曜石、②は諏訪星ヶ台産黒曜石に偏りをみせ、③は安山岩、ホルンフェルス、諏訪星ヶ台産黒曜石と多様である。④は、厳密にいうと1点のみだが、神津島恩馳島産黒曜石に対応する。このような関係は各石器群が背景とする行動特性が反映した結果とみられるが、それはどういうことか。以下では、この4者にわけて検討する。

①　小型剥片製石器群

素材を横に用いる例が多く、二側縁を二次加工して斜刃を残すものが多い。全体形状は台形や三角形の幾何形を呈するタイプと基部の片側が内湾する切出形を呈するタイプがある（両者は連続性をもつので、分類名称はとりあえず切出形石器に一括した）。一般に、このような小型剥片製石器群は石刃石器群や両面体石器群にくらべて便宜性の高い、つまり石器の場当たり的な消費行動によって特徴づけられると見なされており、形態的に細かな変異のあるものを多く含む。かえしの付いたものなどは異なる機

能をもつ道具としてつくり分けられたものに違いないが、微妙な変異がとくに忖度されているようには見えないものが多い。

本遺跡の小型剥片製石器群もおそらく基本的にそのような行動によって特徴づけられると推測される。しかしながら、出土状況は明らかに素材剥片ないし製品の持ち込みを支持しており、場当たり的行動特性とは相反するかのような、寧ろ管理的な道具扱いを想起させる。遊動域内の特定地点への原石搬入ないし一括消費と、その他の作業地点への個別石器の持ち込みが特徴となるのは4期後半の様相に特徴的とされている（中村前掲）。このような行動は、中部高地産黒曜石製石刃製石器群や両面体石器群によくみられるが、小型剥片製石器群にもそうした作用が及んでいるのかもしれない。

②　石刃製石器群

石刃製石器群（ここでは縦長剥片製もそう呼んでおく）は背部加工ナイフ形石器が主体である。諏訪星ヶ台産黒曜石製が主体で、細身の小型品と涙滴形の中型品が2点ずつ出土した。これに水晶製が1点加わる。注目すべきは、縦長剥片を素材として魚鱗状の二次加工で整形する涙滴形のナイフ形石器（第27図26）である。この石器と似たナイフ形石器が調査区の東部D19グリッドで検出されている（同図24）。後者の整形には、魚鱗状剥離ではなく、素材を切り取る急斜度剥離が採用されているが、全体形状は涙滴形を呈する。他の石器を殆ど伴わないので具体的な関連は不明と謂わざるをえないが、石槍と推定される両者の間に背部加工から両面加工への変換を読み取るのは不可能ではない。ともに諏訪星ヶ台産であることは、この変換が彼の地で媒介されたことを暗示する。このような涙滴形を呈する特徴があるナイフ形石器は第4期後半に特徴的とされている。

③　尖頭器石器群

尖頭器石器群には、諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型品が1点（25）、ガラス質黒色安山岩製1点（27）、ホルンフェルス製1点（28）がある。後2者は相対的にサイズが大きい。諏訪星ヶ台産黒曜石製とガラス質黒色安山岩製は第Ⅳ文化層石器群の集中域に比較的近くに分布していたが、ホルンフェルス製の尖頭器は遠くはなれて検出されていたので、遺棄/廃棄に至る経緯は異なっていた可能性が高い。ただし、3点はそれぞれ同一母岩が見当たらない単体資料であり、共伴関係を勘案できる情報は殆どない。

愛鷹箱根地域における尖頭器石器群の具体的様相はまだよくわからない部分が多い。主要な包含層準は休場層中部から上部（YLM-YLU）にあるが、縄文時代草創期の尖頭器石器群がその直上層である漸移層から富士黒色土層（ZN-FB）に包含されるため、境界域にあたるZNとその上下で旧石器時代と縄文時代の尖頭器石器群が混在し、時期判別が難しいことも理由の一つである。

現在の資料による限り、愛鷹箱根地域で最も深いところから出土したとされる尖頭器石器群は、西大曲遺跡Ⅰ'文化層と、礫群が休場層直下黒色帯ないし休場層下部（BB0-YLL）で検出された寺林遺跡第Ⅲ文化層（笹原2003）であり、ともに第3期後半という位置づけがなされている（中村 前掲）。西大曲遺跡では信州系黒曜石製1点、寺林遺跡では流紋岩製と信州系黒曜石製が1点ずつ組成する。少ない資料ながら、尖頭器の消費石材に信州系黒曜石がよく利用される傾向は指摘しうる。

第3期の遺跡に尖頭器が組成される事例は極めて少なく、より一般的に認められるのは休場層中部から上部（YLM-YLU）に包含される石器群である第4期、そのなかでも後半期になってからである。老平遺跡の第Ⅳ文化層は礫群を含めて休場層上部に包含され、同中部（YLM）の下部を底面とする第Ⅲ文化層の礫群と明らかな層位差があった。この点から、まず、第4期の中でも比較的新しい年代の石器群である可能性が考慮される。

④　細石刃石器群

4点提示しておいたが、全て同質のものというわけではない。水晶製（28）のものは、ナイフ形石器（23）の生産に関連するもので、その素材と同様に小型石刃の量産に伴うものと思われ、押圧剥離によ

る組織的な細石刃石器群とは異なる。中部高地産に類似する35と37もそれに近いだろう。他方、神津島恩馳島産黒曜石製は、背面に残る数条の平行剥離痕から、組織的な細石刃生産であることは明らかである。当地域の細石刃石器群の石材が神津島恩馳島産に著しく偏ることは既に周知の如くであり、これによく合致している。

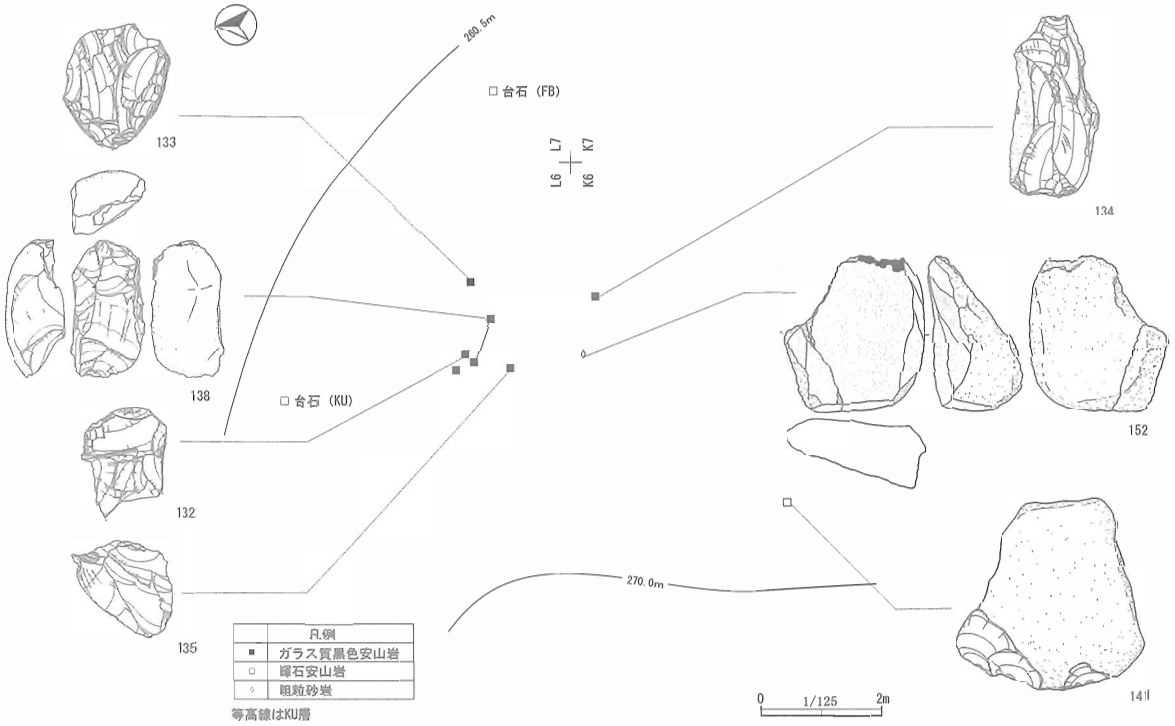
以上、第Ⅳ文化層の石器群を生産過程に応じて大別し、それぞれについて概観した。まず本文化層は、愛鷹箱根地域の基本層序のYLUを主要な包含層として、YLMとは年代が異なることが確認された。また、伊豆箱根産黒曜石を中心石材とする小型剥片製石器群が主体を占め、これに中部高地産黒曜石を中心とする石刃製石器群が伴い、中部高地産を含む両面加工尖頭器が付加された状況が看取された。神津島産黒曜石の細石刃は、少なすぎて分からないが、少なくともナイフ形石器群との共伴は不確実なので、ここでは控除しておこう。

従来から謂われているように、第4期後半の石器群は遺跡間の変異が大きく、上記①,②,③は遺跡によって比率が異なっていることが多い。これらの変異をそのまま時期的な変化として捉える考えもが提示されているが、いまのところそれを保証するに十分な根拠はみあたらない。

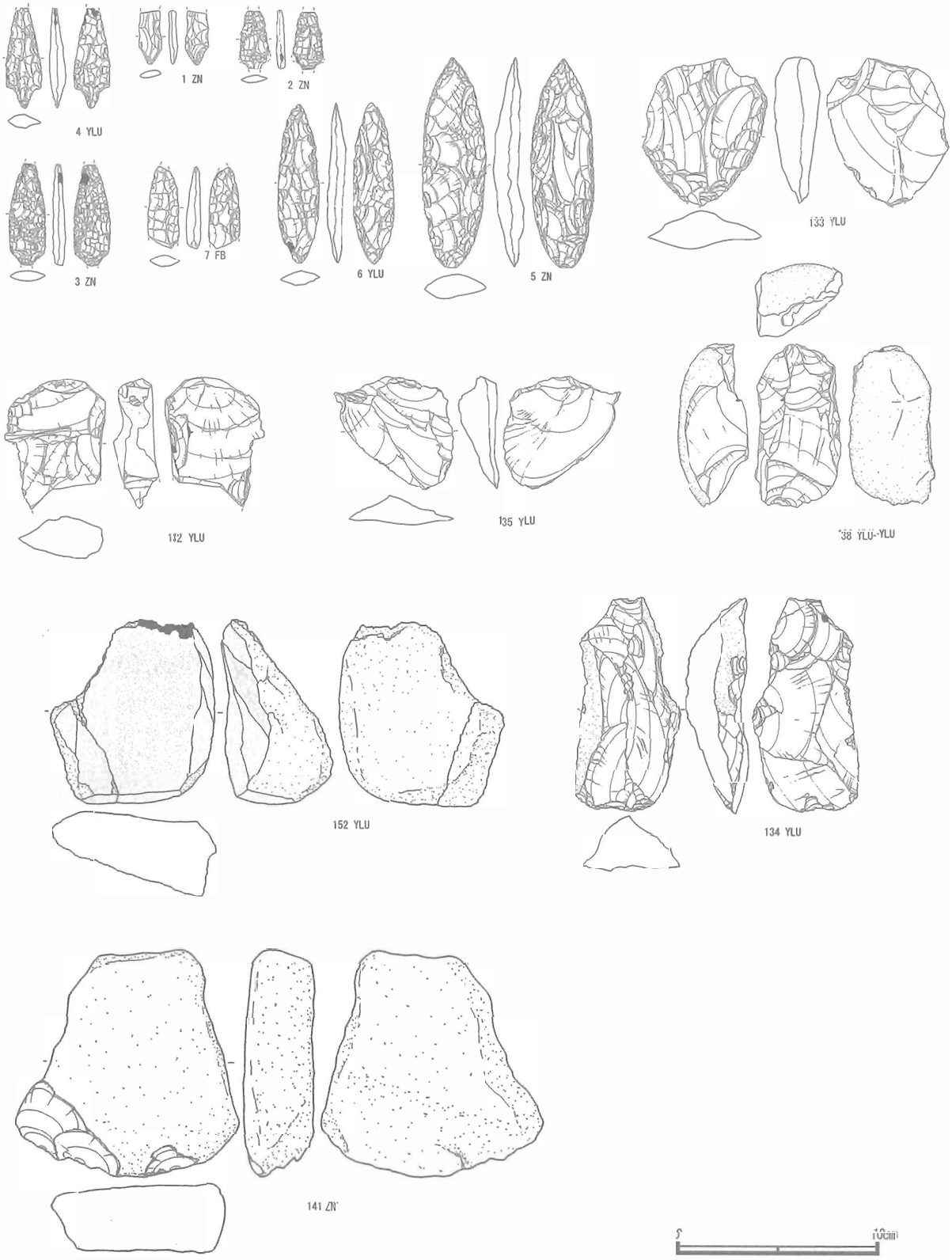
ここでの結論としては、包含層準と、小型剥片製石器群の運用形態の特徴、涙滴形ナイフ形石器と両面加工尖頭器の特徴から、第4期後半に帰属するものと理解しておく。

(5)　縄文時代草創期

縄文時代草創期の石器群は従来、富士黒色土層（FB）が主要な包含層準とみなされてきたが、老平遺跡の近くに立地する下ノ大窪遺跡と佛ヶ尾遺跡で漸移層（ZN）に包含されることが確認されており、本遺跡でも共通の傾向が捉えられた。また、後出の早期土器群をみると、その包含層はFBを中心としてKUに及ぶ例は枚挙にいとまがないが、しかし逆にZNに包含される例は皆無に近いこともわかってきた。このことから、少なくとも愛鷹山東麓の裾野市域ではZNに縄文草創期、FB以上を中心に縄文早



第143図　縄文時代草創期の石器集中



第144図　縄文時代草創期の石器群

期の遺構・遺物が包含されるものと理解することができる。裾野市域の土壌は沼津市域よりも厚く堆積していることに注意されたい。

本遺跡では、こうした背景を考慮して、ZNとその上下に堆積するFBおよびYLUに包含される石器群、とくに有舌尖頭器の出土地点に近い石器群について、その包含層準を限無く検査し、縄文草創期に帰属する可能性の高い15点の石器群を抽出することができた（第144図。石器の番号は第5章の掲載番号と同じで、アルファベットは検出層をあらわす）。

抽出した草創期石器群の内訳は、有舌尖頭器4点（第144図1－4）、尖頭器3点（5－7）、打製石斧1点（134）、削器2点（132/133）、微細剥離痕剥片1点（135）、剥片1点（138の一部）、砕片1点、石核1点（138の一部）、砥石1点（152）、礫器1点（141）である。検出層準は、YLUが10点、ZNが5点、FBが1点である。このうち砕片1点を除く14点を第144図に掲示する。

YLUで検出された石器集中1箇所（第143図）を第Ⅳ文化層ではなく草創期に帰属させたのは、有舌尖頭器がZNを主要な包含層準とし、YLUに及ぶことが明らかにされたうえ、その構成内容に打製石斧、砥石、魚鱗状剥離で調整する尖頭削器（133）、両極剥離による小型剥片生産を示す接合資料（138）といった、愛鷹・箱根地域における後期旧石器時代後半期の一般性とは異質な石器群が含まれていたからである。

現在、愛鷹箱根地域で発見されている草創期の遺跡は数十箇所と推測されるが、このうち住居址が発見されたのは葛原沢第Ⅳ遺跡と大鹿窪遺跡の2遺跡しかない。この2遺跡を除くと、土器の出土した遺跡が数箇所あるほかは、ほぼ全て有舌尖頭器を含む尖頭器石器群の出土遺跡である。石器群の動態は移動・居住の実態に接近するために不可欠であることはいまさら謂うまでもないが、しかし石器製作過程を跡づけられるような材料はまだまだ不十分な状況にあることは否めない。我々に課せられていることはまずこのような基本的な現象を説明することであり、そのためには今後も該期の単位的な石器群の地道な抽出と蓄積が肝要となろう。老平遺跡の上述の石器群は草創期の単位石器群のひとつにすぎないが、将来を見据えれば住居跡の検出に偏重しない今後の研究に与するはずである。

参考文献

池谷信之　2006「環中部高地における黒耀石流通と原産地開発」『黒耀石文化研究』第4号、161-171頁。
笹原千賀子　2004「愛鷹・箱根山麓第3期の石器群－第3期から第4期へ、寺林遺跡の編年的位置－」『静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』、73-86頁。
高尾好之　2006「東海地方の地域編年」安斎正人・佐藤宏之（編）『旧石器時代の地域編年研究』、62-102頁。
中村雄紀　2005「愛鷹・箱根山麓における「ナイフ形石器終末期」の遺跡群」『石器文化研究』12、121-146頁。
中村雄紀　2006「後期旧石器時代後半期の居住形態の地域的様相－愛鷹・箱根第3期・第4期の遺跡群－」『東京大学考古学研究室紀要』第20号、1-36頁。

掲載遺構属性表
掲載遺物属性表

注

1．黒曜石産地　　望月明彦氏の蛍光X線分析にもとづく。産地名の「群」は省略した。
2．文化層　　「Ⅰ」から「Ⅳ」は旧石器時代の文化層。
「草創期」は縄文時代草創期の可能性が高いもの。
「縄文」は縄文時代であるが時期の分からないもの。
3．接合番号　　接合資料の番号。礫の接合番号とその他の石器の接合番号は連番。

表27　礫群属性

遺構番号	グリッド	検出層位	文化層	構成礫数	出土遺物数
1号	K5	YLU	Ⅳ	6	石器2
2号	C7	YLU	Ⅳ	8	
3号	K6/7	YLM	Ⅲ	20	

表28　集石属性

遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	構成礫数	出土遺物数
1号	E5	KU						20	
2号	K/L9	KGP						34	
3号	D20	FB-KU						29	
4号	D/E20	FB-KU						21	
5号	G/H12	KU						18	
6号	G12	KU	不整楕円	西北西	1.25	0.90	0.13	11	
7号	F14/15	FB						107	
8号	F15	FB	楕円	北東	0.86	0.60	0.12	9	石器8
9号	G13	FB	楕円	北東	0.75	0.52	0.07	11	
10号	D20	FB-KU						17	
11号	J/K2	FB						6	
12号	E/F6	KU						24	石器1
13号	D/E6	KU						11	石器4
14号	D7	KU						25	
15号	D8	KU						31	石器3
16号	F5	KU						11	
17号	F/G8	KU						212	石器2　土器65
18号	H6/7	KU						6	
19号	F/G9	KU						25	
20号	J/K7	KU						112	石器1
21号	I6	FB-KU						125	石器1　土器1
22号	L6	KU						19	
23号	M8	KU	不整円	東	0.94	0.94	0.0055	39	
24号	G10	KU						5	石器1
25号	I9	KU						37	石器1　土器3
26号	K9	KU	円		0.90	0.86	0.25	63	
27号	I9	FB	不整円		1.06	0.95	0.18	40	
28号	D7/8	FB						19	石器1
29号	J6	FB						5	石器3
30号	J8/9	FB-KU						14	
31号	I9	FB						6	土器2
32号	I7	FB	楕円	北北東	1.22	1.04	0.31	151	炭化物1
33号	J8	FB						22	土器2

表29　土坑属性（縄文時代）

遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	小穴数	出土遺物数
1号	E18	YLU	隅丸長方形	西	2.80	1.06	1.56	4	
2号	E17	YLU	隅丸長方形	西北西	2.15	1.91	2.16		
5号	D21	YLU	楕円形	西北西	1.55	0.88	0.23		
17号	H11	KGP	円形		1.21	1.18	1.30		
18号	I12	YLU	楕円形	西北西	1.48	0.80	0.58		
20号	G11	YLU	円形		1.06	1.00	0.26		
21号	G12	YLU	楕円形	西	1.45	0.69	0.55		礫1
22号	J11	YLU	隅丸方形	北北西	2.07	2.01	0.35		
24号	I2/3	KU	隅丸長方形	北北東	1.82	0.49	0.85		礫1
27号	H4	KU	隅丸長方形	西北西	1.77	0.55	0.65		
28号	K5	KU	隅丸長方形	北北西	1.93	0.74	1.56		
29号	D/E8	KU	隅丸長方形	北東	1.89	0.54	0.11	4	土器2
30号	J3	FB	楕円形	西北西	2.03	1.08	0.69		
31号	G1	ZN	楕円形	北西	1.15	0.68	0.64		
32号	H2	YLU	隅丸長方形	北東	1.86	0.83	0.88	1	
33号	I3	YLU	円形		0.96	0.89	0.31		
34号	I2/3	YLU	円形	西北西	0.87	0.63	0.45		
35号	F6	KU	隅丸長方形	東北東	1.68	0.42	0.76	5	
36号	F7	KU	隅丸長方形	西	1.48	0.46	0.50	5	
37号	H6/7	KU	隅丸長方形	西北西	1.60	0.46	0.50	5	
39号	J7	FB	隅丸長方形	北北東	1.43	0.43	0.64	7	
40号	I4	YLU	隅丸長方形	北西	1.66	0.52	0.77		
41号	J5	YLU	隅丸長方形	北西	1.88	0.54	1.03	2	礫1
42号	J/K5	YLU	隅丸長方形	西北西	1.83	0.56	1.04	2	
43号	L5/6	YLU	楕円形	東	1.66	1.00	1.45		
44号	K6/7	ZN	楕円形	東北東	1.65	0.94	1.41	1	礫1
45号	K7	ZN	円形		1.47	1.44	0.57		礫9
46号	I/J7	FB	隅丸長方形	西	1.86	0.97	1.40	2	礫2
47号	K8/9	YLU	隅丸長方形	西北西	1.76	0.75	1.18	2	

表30　土坑属性（時期不明）

遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主軸方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	出土遺物数
3号	F14	KGP	円形		0.91	0.81	0.11	
4号	F14	KGP	円形		0.81	0.74	0.15	
6号	H14	KGP	円形		0.96	0.90	0.26	
7号	G11	KGP	円形		1.00	0.97	0.21	礫1
8号	G11	KGP	不整円形		0.95	0.93	0.13	
9号	G11	KGP	円形		1.04	1.03	0.29	
10号	G10	KGP	円形		1.04	0.99	0.24	
11号	G10	KGP	円形		1.18	0.96	0.31	
12号	H12	KGP	円形		0.84	0.81	0.21	
13号	G11	KGP	楕円形	北北東	1.24	0.62	0.23	
14号	G13/14	KU	隅丸長方形	北北東	1.52	0.71	0.47	土器1　礫1
15号	G12	KU	円形		0.94	0.91	0.10	
16号	G12	KU	円形		0.97	0.82	0.21	
23号	J2	NSC	円形		0.97	0.58	0.28	
25号	D9	KGP	円形		0.85	0.83	0.12	
26号	G6	KGP	円形		1.10	1.08	0.13	
38号	J10	KGP	円形		1.00	0.85	0.12	

表31　掲載土器属性

挿図番号	掲載番号	時期	系統	個体番号	器種	遺構	層位	残存	残存高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	色調	胎土	焼成
35	1	早期	撚糸文	撚糸文2	深鉢		KU/FB	胴部1/4	11.9			20.7	5YR5/6 明赤褐	鉱石少、繊維痕	良
35	2	早期	撚糸文	撚糸文2	深鉢		FB/KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	鉱石少、繊維痕	良
35	3	早期	撚糸文	撚糸文2	深鉢		KU/FB	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	鉱石少、繊維痕	良
35	4	早期	撚糸文	撚糸文3	深鉢		KU	胴部破片					2.5YR5/6 明赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
35	5	早期	撚糸文	撚糸文3	深鉢		FB/KU	胴部破片					2.5YR5/6 明赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
35	6	早期	撚糸文	撚糸文3	深鉢		FB	胴部破片					2.5YR5/6 明赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
35	7	早期	撚糸文	撚糸文3	深鉢		KU/FB	胴部破片					2.5YR5/6 明赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
36	8	早期	撚糸文	撚糸文7	深鉢		KU	口縁1/6、胴部一部	14.2	27.8			5YR4/4 にぶい赤褐	鉱石、黒色粒子少、礫多、繊維痕	粗
36	9	早期	撚糸文	撚糸文7	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	鉱石、黒色粒子少、礫多、繊維痕	粗
36	10	早期	撚糸文	撚糸文7	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	鉱石、黒色粒子少、礫多、繊維痕	粗
36	11	早期	撚糸文	撚糸文1	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
36	12	早期	撚糸文	撚糸文4	深鉢		KU	胴部破片					10YR6/3 にぶい黄橙	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
36	13	早期	撚糸文	撚糸文5	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/6 赤褐	鉱石少、繊維痕	良
36	14	早期	撚糸文	撚糸文6	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石やや多、白色粒子多、繊維痕	良
36	15	早期	撚糸文	撚糸文8	深鉢		FB/KU	胴部破片					2.5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子やや多、繊維痕	良
38	16	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		KU/FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	17	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	18	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	19	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	20	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		KU/FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	21	早期	縄文	早期縄文1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色粒子多、繊維痕	良
38	22	早期	縄文	早期縄文2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR4/6 褐	鉱石少、白色粒子多、赤色粒子少、繊維痕	良
38	23	早期	縄文	早期縄文2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR4/6 褐	鉱石少、白色粒子多、赤色粒子少、繊維痕	良
38	24	早期	縄文	早期縄文2	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR4/6 褐	鉱石少、白色粒子多、赤色粒子少、繊維痕	良
38	25	早期	縄文	早期縄文3	深鉢		FB	口縁部破片					5YR4/6 赤褐	鉱石、白色粒子少	良
38	26	早期	縄文	早期縄文3	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/6 赤褐	鉱石、白色粒子少	良
38	27	早期	縄文	早期縄文4	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色岩片やや多	良
38	28	早期	縄文	早期縄文4	深鉢		FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色岩片やや多	良
38	29	早期	縄文	早期縄文4	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色岩片やや多	良
38	30	早期	縄文	早期縄文4	深鉢		FB/KU	胴部1/5	13.3			28.4	5YR5/6 明赤褐	鉱石少、白色岩片やや多	良
38	31	早期	縄文	早期縄文5	深鉢		FB	胴部破片					7.5YR6/6 橙	白色粒子やや多、繊維痕	良
38	32	早期	縄文	早期縄文6	深鉢		FB	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
38	33	早期	縄文	早期縄文6	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
38	34	早期	縄文	早期縄文6	深鉢		FB	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
38	35	早期	縄文	早期縄文6	深鉢		FB	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
40	36	早期	沈線文	判ノ木山西1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子少、繊維痕	良
40	37	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		KU/FB	口縁部1/6、胴部1/4	17.2	31.5			5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
41	38	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		FB	口縁部1/10、胴部1/8	13.3	31.4			5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
41	39	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
41	40	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
41	41	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
41	42	早期	沈線文	判ノ木山西2	深鉢		KU/FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
42	43	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU/FB	口縁部1/8、胴部1/6	23.9	33.9			7.5YR5/4 にぶい褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色粒子、繊維痕	良
42	44	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KR/FB/KU	口縁部1/8、胴部1/6	19.2	33.8			7.5YR5/4 にぶい褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色粒子、繊維痕	良
43	45	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU/KR	口縁部1/8、胴部1/5	9.9	33.9			7.5YR5/4 にぶい褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色粒子、繊維痕	良
43	46	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部1/8	18.5				7.5YR5/3 にぶい褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色粒子、繊維痕	良
43	47	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
43	48	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
43	49	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
43	50	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
44	51	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KGP/KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
44	52	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
44	53	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
44	54	早期	沈線文	判ノ木山西3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、白色粒子多、鉱石少、繊維痕	良
44	55	早期	沈線文	判ノ木山西4	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英多、鉱石、金雲母、白色、赤色粒子、繊維痕	良
46	56	早期	沈線文	沈線文2	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子少、繊維痕	良
46	57	早期	沈線文	沈線文3	深鉢		KU	口縁部破片					10YR5/3 にぶい黄褐	石英、鉱石、白色、赤色粒子少、繊維痕	良
46	58	早期	沈線文	沈線文3	深鉢		KU	胴部破片					10YR5/3 にぶい黄褐	石英、鉱石、白色、赤色粒子少、繊維痕	良
46	59	早期	沈線文	沈線文4	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
46	60	早期	沈線文	沈線文4	深鉢		KU/FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
46	61	早期	沈線文	沈線文4	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
46	62	早期	沈線文	沈線文1	深鉢		KU	口縁部、胴部1/5	14.4	24.4			2.5YR5/6 明赤褐	石英少、鉱石やや多、繊維痕	良
48	63	早期	条痕文	野島1	深鉢	SY17	KU	口縁部1/4、胴部1/2	19.7	31.4			5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石やや多、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
48	64	早期	条痕文	野島1	深鉢		KU/FB	口縁部1/8、胴部1/3	19.8	31.4			5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石やや多、白色岩片、赤色粒子少、繊維痕	良
49	65	早期	条痕文	野島2	深鉢		KU/FB	口縁ほぼ完存、胴部一部欠損	13.2	13.8			7.5YR5/4 にぶい褐	石英やや多、鉱石、白色、赤色岩片少、繊維痕	良
49	66	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU/FB	胴部1/4	16.7			29.4	7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
49	67	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU/FB	胴部1/4	17.0			27.4	7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
49	68	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
49	69	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
49	70	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU	口縁部付近破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
50	71	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU	口縁部付近破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
50	72	早期	条痕文	野島3	深鉢	SY17	KU	口縁部付近破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色岩片少、繊維痕	良
50	73	早期	条痕文	茅山下層1	深鉢		KU/FB	口縁部1/5	12.1	31.7			5YR6/6 橙	石英、白色粒子多、赤色岩片少、繊維痕	良
50	74	早期	条痕文	茅山下層1	深鉢		FB	口縁部破片					5YR6/6 橙	石英、白色粒子多、赤色岩片少、繊維痕	良
50	75	早期	条痕文	茅山下層1	深鉢		FB	胴部破片					5YR6/6 橙	石英、白色粒子多、赤色岩片少、繊維痕	良

挿図番号	掲載番号	時期	系統	個体番号	器種	遺構	層位	残存	残存高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	色調	胎土	焼成
50	76	早期	条痕文	茅山下層3	深鉢		KU	胴部1/6	9.6			29.3	5YR6/6 橙	石英、白色粒子多、赤色岩片少、繊維痕	良
52	77	早期	条痕文	茅山下層1	深鉢		KU	底部2/3	4.1			14.4	5YR6/6 橙	石英、白色粒子多、赤色岩片少、繊維痕	良
53	78	早期	条痕文	茅山下層2	深鉢		KU	口縁部1/3、胴部1/4	27.0	32.3			10YR7/4 にぶい黄橙	石英多、鉱石、白色岩片少、繊維痕	良
54	79	早期	条痕文	茅山下層2	深鉢		KU/FB	胴部1/4	18.8			32.3	10YR7/4 にぶい黄橙	石英多、鉱石、白色岩片少、繊維痕	良
54	80	早期	条痕文	茅山下層2	深鉢		KU/FB	口縁部破片					10YR7/4 にぶい黄橙	石英多、鉱石、白色岩片少、繊維痕	良
54	81	早期	条痕文	茅山下層2	深鉢		KU	底部2/3	8.1		10.2		10YR7/4 にぶい黄橙	石英多、鉱石、白色岩片少、繊維痕	良
56	82	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU/FB	口縁部破片					5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
56	83	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU	胴部1/8	10.0			24.0	5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
56	84	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU/FB	胴部1/10	16.6			25.0	5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
56	85	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU/FB	胴部1/5	7.8			25.9	5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
57	86	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU	胴部1/8	16.5			27.5	5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
57	87	早期	条痕文	打越1	深鉢		KU/FB	底部1/4	4.2				5YR6/6 橙	石英、白色粒子、赤色岩片少、繊維痕	良
58	88	早期	条痕文	打越2	深鉢		KU	口縁付近1/9、胴部1/4	17.0	31.6			7.5YR5/4 にぶい褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
58	89	早期	条痕文	打越2	深鉢		KU	口縁付近、胴部1/4	15.5	31.6			7.5YR5/4 にぶい褐	白色粒子やや多、繊維痕	良
60	90	早期	条痕文	打越3	深鉢		KU	口縁部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、白色、赤色粒子少、繊維痕	良
60	91	早期	条痕文	条痕文1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR4/3 にぶい赤褐	石英、鉱石、白色粒子少、繊維痕	良
60	92	早期	条痕文	条痕文1	深鉢		KU/FB	口縁部破片					5YR4/3 にぶい赤褐	石英、鉱石、白色粒子少、繊維痕	良
60	93	早期	条痕文	条痕文1	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/3 にぶい赤褐	石英、鉱石、白色粒子少、繊維痕	良
60	94	早期	条痕文	条痕文2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英多、鉱石、白色、赤色粒子少、繊維痕	良
60	95	早期	条痕文	条痕文2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英多、鉱石、白色、赤色粒子少、繊維痕	良
60	96	早期	条痕文	条痕文3	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/4 にぶい赤褐	石英多、鉱石、赤色粒子少、繊維痕	良
60	97	早期	条痕文	条痕文4	深鉢		KU	口縁部破片					5YR6/6 橙	石英多、白色、赤色粒子少	良
60	98	早期	その他	早期その他1	深鉢		KU/FB	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色、赤色粒子、繊維痕	良
60	99	早期	その他	早期その他1	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色、赤色粒子、繊維痕	良
60	100	早期	その他	早期その他2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色、赤色粒子、繊維痕	良
60	101	早期	その他	早期その他3	深鉢		KU	底部付近破片					7.5YR6/6 橙	石英、白色、赤色粒子、繊維痕	良
60	102	早期	その他	早期その他4	深鉢		KU	底部破片	2.5		4.3		7.5YR6/4 橙	石英、黒色粒子少、白色粒子多	良
60	103	早期	その他	早期その他5	深鉢		KU	底部破片	2.7		4.0		10YR6/4にぶい黄橙	石英多、白色、黒色粒子少	良
65	104	前期		上ノ坊1	深鉢		FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	105	前期		上ノ坊1	深鉢		FB	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	106	前期		上ノ坊1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	107	前期		上ノ坊1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	108	前期		上ノ坊1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	109	前期		上ノ坊1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	110	前期		上ノ坊1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、白色粒子少	良
65	111	前期		上ノ坊2	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英少、白色、黒色、赤色粒子	良
65	112	前期		上ノ坊2	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英少、白色、黒色、赤色粒子	良
65	113	前期		上ノ坊2	深鉢		KU/FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英少、白色、黒色、赤色粒子	良
65	114	前期		上ノ坊2	深鉢		KU/FB	底部付近破片					5YR5/6 明赤褐	石英少、白色、黒色、赤色粒子	良
65	115	前期	竹管文	諸磯b1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石多、金雲母、白色粒子少	良
65	116	前期	竹管文	諸磯b1	深鉢		KU	口縁部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石多、金雲母、白色粒子少	良
66	117	前期	竹管文	諸磯b1	深鉢		KU	口縁部1/6、胴部1/3	15.0	33.7			5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石多、金雲母、白色粒子少	良
66	118	前期	竹管文	諸磯b1	深鉢	PF29	覆土/KU	胴部1/6					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石多、金雲母、白色粒子少	良
66	119	前期	竹管文	諸磯b2	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石やや多、金雲母、白色粒子少	良
66	120	前期	竹管文	諸磯b2	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石やや多、金雲母、白色粒子少	良
66	121	前期	竹管文	諸磯b2	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石やや多、金雲母、白色粒子少	良
66	122	前期	竹管文	諸磯b2	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石やや多、金雲母、白色粒子少	良
66	123	前期	竹管文	諸磯b3	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石、金雲母、白色粒子やや多	良
66	124	前期	竹管文	諸磯b3	深鉢		KU	胴部破片					5YR4/4 にぶい赤褐	石英、鉱石、金雲母、白色粒子やや多	良
67	125	前期	縄文	諸磯b4	深鉢		KU	口縁部1/8、胴部1/6	15.9	26.9			7.5YR5/4 にぶい褐	石英、金雲母多、鉱石、白色粒子	良
67	126	前期	縄文	諸磯b4	深鉢		KU	口縁部1/3、胴部1/8	20.7	26.9			7.5YR5/4 にぶい褐	石英、金雲母多、鉱石、白色粒子	良
67	127	前期	縄文	諸磯b4	深鉢		KGP	底部3/4	2.5		8		7.5YR5/4 にぶい褐	石英、金雲母多、鉱石、白色粒子	良
67	128	前期	縄文	諸磯b5	深鉢		KU	胴部1/2	8.2			12.1	7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石、金雲母非常に多	良
69	129	前期	縄文	前期縄文1	深鉢		KU	胴下部、底部1/4	13.3		10.4		5YR5/6 明赤褐	石英非常に多、鉱石、金雲母、白色、黒色、赤色粒子	良
69	130	前期	縄文	前期縄文1	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英非常に多、鉱石、金雲母、白色、黒色、赤色粒子	良
69	131	前期	縄文	前期縄文1	深鉢		KU/FB	底部破片	3.3		10.2		5YR5/6 明赤褐	石英非常に多、鉱石、金雲母、白色、黒色、赤色粒子	良
69	132	前期	縄文	前期縄文1	深鉢		KU	底部1/6	3.0		10.1		5YR5/6 明赤褐	石英非常に多、鉱石、金雲母、白色、黒色、赤色粒子	良
69	133	前期	縄文	前期縄文2	深鉢		KU	口縁部破片					7.5YR4/3褐	石英、黒色粒子多、金雲母少	良
69	134	前期	縄文	前期縄文3	深鉢		KU/KGP	底部ほぼ完存	3.5		7.8		5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、金雲母多	良
69	135	前期	その他	前期その他1	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英非常に多、赤色岩片少	良
69	136	前期	その他	前期その他1	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英非常に多、赤色岩片少	良
69	137	前期	その他	前期その他2	深鉢		KGP	底部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、金雲母多	良
69	138	前期	その他	前期その他2	深鉢		KU	底部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、金雲母多	良
74	139	中期		新道	深鉢		KU	口縁部1/8	9.0	13.4			5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子	良
74	140	中期		新道	深鉢		KU	胴部3/4	9.7			10.2	5YR5/6 明赤褐	石英多、鉱石、白色粒子	良
74	141	中期		藤内1	深鉢		KGP	口縁部一部、胴部1/4	20.0	22.9			5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子非常に多	良
75	142	中期		藤内1	深鉢		KGP	底部1/3	9.4		6.5		5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子非常に多	良
75	143	中期		藤内2	深鉢		KU/FB/KGP	口縁部1/4、胴部1/2	25.7	22.7		25.1	5YR5/4 にぶい赤褐	石英やや多、鉱石、金雲母、白色粒子少	良
76	144	中期		藤内3	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子	良
76	145	中期		藤内3	深鉢		KU	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子	良
76	146	中期		藤内3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、鉱石、白色粒子	良
76	147	中期		藤内4	深鉢		KU	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石、白色、黒色、赤色粒子	良
76	148	中期		藤内4	深鉢		FB	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石、白色、黒色、赤色粒子	良
76	149	中期		藤内4	深鉢		FB	胴部破片					7.5YR5/4 にぶい褐	石英、鉱石、白色、黒色、赤色粒子	良
76	150	中期		藤内5	深鉢		KGP/KU	口縁部1/8	8.2	22.0		26.4	5YR5/6 明赤褐	石英やや多、鉱石、金雲母多	良
76	151	中期		藤内5	深鉢		KU/KGP	口縁部破片					5YR5/6 明赤褐	石英やや多、鉱石、金雲母多	良

挿図番号	掲載番号	時期	系統	個体番号	器種	遺構	層位	残存	残存高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	色調	胎土	焼成
76	152	中期		藤内5	深鉢		KGP	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英やや多、輝石、金雲母多	良
76	153	中期		藤内5	深鉢		KGP	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英やや多、輝石、金雲母多	良
76	154	中期		藤内5	深鉢		KU/KGP	胴部1/3					5YR5/6 明赤褐	石英やや多、輝石、金雲母多	良
76	155	中期		藤内5	深鉢		KU	底部1/2	1.5		7.0		5YR5/6 明赤褐	石英やや多、輝石、金雲母多	良
77	156	中期		藤内6	深鉢		KU/FB	口縁部完存,胴部2/3,底部5/6	22.3	15.3	8.1		5YR6/6 橙	石英、金雲母多、輝石、白色、黒色粒子	良
77	157	中期	縄文	中期縄文1	深鉢		KU	口縁部1/3					5YR6/6 橙	石英、輝石少	良
77	158	中期	縄文	中期縄文2	深鉢		KGP	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、輝石、白色粒子多、金雲母少	良
77	159	中期	縄文	中期縄文2	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、輝石、白色粒子多、金雲母少	良
77	160	中期	縄文	中期縄文2	深鉢		KGP	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、輝石、白色粒子多、金雲母少	良
77	161	中期	縄文	中期縄文3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、輝石、金雲母、白色粒子少	良
77	162	中期	縄文	中期縄文3	深鉢		KU	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、輝石、金雲母、白色粒子少	良
77	163	中期	縄文	中期縄文3	深鉢		FB	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、輝石、金雲母、白色粒子少	良
77	164	中期	縄文	中期縄文3	深鉢		KGP	胴部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、輝石、金雲母、白色粒子少	良
77	165	中期	縄文	中期縄文3	深鉢		KU	底部破片					5YR5/6 明赤褐	石英多、輝石、金雲母、白色粒子少	良
77	166	中期	その他	中期その他1	深鉢		KGP	底部1/4	2.0		8.0		5YR6/6 橙	石英、輝石多、白色粒子	良
77	167	中期	その他	中期その他1	深鉢		KGP	底部破片					5YR6/6 橙	石英、輝石多、白色粒子	良
77	168	中期	その他	中期その他2	深鉢		KGP	底部破片					5YR5/6 明赤褐	石英、輝石、金雲母	良

表32　掲載石器属性（旧石器-縄文時代）

挿図番号	掲載番号	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	文化層	石器集中グリッド	遺物番号	接合番号	X座標	Y座標	Z座標
10	1	BB1	剥片	ガラス質黒色安山岩		39.5	28.5	10.1	12.0	I	1	8648		-90430.130	35620.864	258.260
10	2	BB1	剥片	ガラス質黒色安山岩		51.1	57.5	17.3	36.9	I	1	8662		-90430.374	35621.088	258.099
15	3	YLL	切出形石器	黒曜石	箱根畑宿	24.5	16.5	4.5	1.6	II	F5	8684		-90472.345	35605.107	258.303
15	4	YLL	ナイフ形石器	ホルンフェルス		15.5	10.5	3.4	0.7	II	2	8605		-90473.830	35613.578	258.219
15	5	YLL	ナイフ形石器	ホルンフェルス		26.4	15.4	4.0	1.5	II	2	8607		-90475.254	35610.477	258.135
15	6	YLL	ナイフ形石器	ホルンフェルス		37.7	17.7	7.3	1.7	II	2	8608		-90474.798	35611.296	258.147
15	7	YLL	ナイフ形石器	黒曜石	諏訪星ヶ台	75.5	26.2	9.0	13.4	II	G5	8614		-90465.449	35601.182	258.740
15	8	YLL	ナイフ形石器	ホルンフェルス		37.1	21.0	8.8	7.9	II	2	8610		-90473.526	35610.203	258.029
19	9	YLM	石刃	ホルンフェルス		58.5	24.6	10.0	14.7	III	L9	204		-90416.844	35642.931	257.695
27	10	YLU	切出形石器	黒曜石	箱根畑宿	19.0	12.4	6.3	1.3	IV	5	8653		-90487.866	35609.847	257.896
27	11	YLU	切出形石器	黒曜石	箱根畑宿	28.1	17.2	7.1	2.8	IV	I5	8618		-90442.025	35602.311	260.399
27	12	KU	切出形石器	黒曜石	箱根畑宿	29.9	18.9	6.0	3.1	IV	G14	1394		-90466.368	35693.570	255.638
27	13	KU	切出形石器	黒曜石	未分析	26.8	22.5	6.2	4.0	IV	J8	5209		-90436.090	35635.160	259.900
27	14	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	20.4	15.5	4.7	1.1	IV	G4	8709		-90464.183	35596.964	259.713
27	15	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	25.0	12.8	4.2	1.0	IV	C5	8650		-90502.972	35605.691	256.635
27	16	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	26.7	17.0	8.2	3.0	IV	G16	8600		-90464.732	35614.091	258.873
27	17	ZN	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	25.8	14.4	8.5	2.2	IV	F5	5241		-90472.397	35600.522	259.368
27	18	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	19.0	14.5	4.5	1.2	IV	F5	8659		-90475.029	35505.294	258.667
27	19	FB	ナイフ形石器	黒曜石	和田英蓉ライト	25.0	15.3	5.9	1.8	IV	H7	8263		-90453.347	35622.376	259.266
27	20	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	箱根畑宿	21.5	14.8	5.2	1.3	IV	G4	8613		-90460.702	35594.776	259.592
27	21	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	諏訪星ヶ台	30.4	10.8	5.0	1.1	IV	D5	8652		-90491.247	35609.547	257.750
27	22	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	諏訪星ヶ台	22.2	12.7	4.0	1.1	IV	G5	8672		-90464.435	35606.758	259.231
27	23	YLU	ナイフ形石器	水晶		25.0	9.1	4.4	0.8	IV	H5	8716		-90458.158	35605.291	259.444
27	24	YLU	ナイフ形石器	黒曜石	和田鷹山	42.7	22.8	10.4	6.4	IV	D20	3639		-90492.056	35752.393	251.063
27	25	YLU	尖頭器	黒曜石	諏訪星ヶ台	18.0	15.5	6.5	1.6	IV	5	4070		-90486.768	35611.353	258.333
27	26	YLU	尖頭器	黒曜石	諏訪星ヶ台	32.0	21.4	6.6	3.5	IV	D6	8651		-90497.743	35614.645	257.221
27	27	YLU	尖頭器	ガラス質黒色安山岩		71.8	20.2	9.1	11.0	IV	E7	8493		-90483.162	35624.689	257.821
27	28	YLU	尖頭器	ホルンフェルス		83.4	24.5	10.6	22.3	IV	L7	8627 8638	45	-90415.111 -90415.100	35623.980 35623.950	259.219 259.214
27	29	YLU	角錐状石器	黒曜石	箱根畑宿	25.4	16.2	8.5	2.8	IV	F7	8636		-90475.361	35620.175	258.213
27	30	YLU	削器	黒曜石	箱根畑宿	20.0	20.4	6.0	2.2	IV	E6	8665		-90485.904	35612.206	257.906
28	31	YLU	削器	デイサイト		53.1	57.3	16.5	35.8	IV	6	3905		-90465.939	35685.989	255.347
28	32	YLU	削器	ホルンフェルス		77.8	39.6	19.4	68.9	IV	6	3898		-90464.800	35683.819	255.506
28	33	YLU	削器	細粒安山岩		87.5	57.4	20.7	81.9	IV	6	3899		-90464.324	35684.058	255.504
28	34	YLU	微細剥離痕剥片	黒曜石	箱根畑宿	56.0	67.1	8.0	19.4	IV	G4	8612		-90460.262	35594.587	259.634
28	35	FB	細石刃	黒曜石	未分析	13.8	3.9	1.5	0.1	IV	G2	4085		-90467.877	35572.696	260.457
28	36	YLU	細石刃	黒曜石	神津島恩馳島	12.8	6.4	1.4	0.2	IV	5	8654		-90485.995	35613.589	258.090
28	37	FB	細石刃	黒曜石	未分析	16.5	7.8	3.0	0.3	IV	L8	4995		-90416.256	35633.412	259.460
28	38	YLU	細石刃	水晶		13.4	9.5	2.3	0.3	IV	H5	8717		-90464.800	35683.819	255.506
28	39	YLU	二次加工剥片	黒曜石	高原山甘湯沢	21.7	17.5	5.7	2.2	IV	C7	8555		-90504.318	35625.206	256.655
28	40	YLU	削片	黒曜石	神津島恩馳島	43.8	14.0	5.7	1.9	IV	D6	8642		-90494.754	35619.869	257.633
28	41	YLU	剥片	ホルンフェルス		50.2	37.4	9.6	19.2	IV	6	3902		-90465.896	35685.308	255.410
28	42	YLU	剥片	ガラス質黒色安山岩		55.0	33.5	12.1	14.4	IV	5	8656		-90485.281	35615.863	258.050
28	43	YLU	石核	ホルンフェルス		74.9	33.6	21.0	53.1	IV	G13	3901		-90466.448	35684.942	255.427
29	44	YLU	石核	ホルンフェルス		41.0	94.5	26.2	138.7	IV	E7	8599		-90484.304	35625.600	257.735
29	45	YLU	接合状態	ガラス質黒色安山岩		75.2	40.0	23.2	46.7	IV	5	8643 8646	47	-90487.446 -90485.900	35616.205 35614.768	258.099 258.132
29	46	YLU	礫器	輝石安山岩		111.1	100.5	41.9	683.1	IV	C7	8710		-90509.803	35622.551	256.644
29	47	YLU	敲石	輝石安山岩		87.5	78.1	37.0	302.7	IV	D20	2367		-90493.654	35758.787	250.660
82	1	ZN	有舌尖頭器	ホルンフェルス		26.4	12.0	4.7	1.3	草創期	L7	4996		-90412.149	35624.267	259.429
82	2	ZN	有舌尖頭器	黒曜石	諏訪星ヶ台	28.8	15.0	5.0	1.2	草創期	H7	8320		-90453.332	35627.142	259.168
82	3	ZN	有舌尖頭器	黒曜石	神津島恩馳島	50.4	18.0	6.5	5.4	草創期	K7	8382		-90423.249	35624.303	259.849
82	4	YLU	有舌尖頭器	ガラス質黒色安山岩		49.7	18.1	8.0	5.5	草創期	E6	7946		-90482.530	35612.044	258.528
82	5	ZN	尖頭器	硬質頁岩		105.2	31.8	15.0	45.8	草創期	G9	8067		-90466.602	35646.085	257.840
82	6	FB	尖頭器	ガラス質黒色安山岩		80.3	21.0	10.2	13.4	草創期	D5	6576		-90495.545	35604.148	257.695
82	7	FB	尖頭器	ホルンフェルス		41.4	16.3	7.3	5.3	草創期	F14	3046		-90478.947	35696.442	254.856
86	8	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	23.0	12.5	4.0	0.8	縄文	F6	4034		-90478.537	35610.276	259.237
86	9	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	22.0	17.0	4.0	1.0	縄文	E7	4214		-90487.951	35620.912	258.640
86	10	FB	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	26.5	13.0	4.5	0.9	縄文	E5	6575		-90483.310	35604.420	258.738
86	11	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	24.0	17.0	4.0	1.1	縄文	F6	6356		-90476.315	35610.655	259.175
86	12	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	26.4	17.4	5.3	1.7	縄文	E6	7696		-90485.002	35619.270	258.383
86	13	KU	石鏃	黒曜石	天城柏峠	20.5	15.5	3.0	0.6	縄文	F6	4407		-90475.316	35619.664	259.085
86	14	KU	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	25.0	17.0	5.0	1.4	縄文	E7	4744		-90482.133	35629.590	258.469
86	15	FB	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	21.3	15.3	5.6	1.3	縄文	E5	7147		-90488.960	35619.414	258.309
86	16	FB	石鏃	珪質頁岩		25.0	17.5	3.0	1.1	縄文	D7	7600		-90492.806	35620.847	258.046
86	17	FB	石鏃	珪質頁岩		23.0	15.0	4.5	1.4	縄文	E6	6682		-90488.175	35617.690	258.651
86	18	KU	石鏃	ガラス質黒色安山岩		15.5	15.0	4.0	0.6	縄文	G6	4839		-90469.964	35614.439	259.382
86	19	FB	石鏃	ガラス質黒色安山岩		17.0	13.0	3.5	0.7	縄文	F6	6357		-90478.543	35617.438	258.918
86	20	FB	石鏃	ガラス質黒色安山岩		13.5	10.0	3.5	0.4	縄文	F7	6582		-90477.691	35621.268	258.793
87	21	覆土	打製石斧	緑色凝灰岩		67.0	46.5	17.8	65.8	縄文	E6 (石斧集中)	4076		-90484.089	35613.874	258.958
87	22	覆土	打製石斧	輝石安山岩		125.2	47.8	16.1	137.0	縄文	E6 (石斧集中)	4072		-90484.069	35613.630	259.014
87	23	覆土	打製石斧	輝石安山岩		153.6	52.0	23.8	268.0	縄文	E6 (石斧集中)	4074		-90483.979	35613.707	258.995

挿図番号	掲載番号	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	文化層	石器集中グリッド	遺物番号	接合番号	X座標	Y座標	Z座標
87	24	覆土	打製石斧	鉄石安山岩		178.1	61.0	26.0	399.0	縄文	E6 (石斧集中)	4075		-90483.939	35613.723	258.981
87	25	覆土	打製石斧	鉄石安山岩		149.5	57.3	17.4	186.6	縄文	E6 (石斧集中)	4073		-90484.019	35613.687	259.015
88	26	FB FB KU	接合状態	黒曜石	未分析	27.1	55.8	17.6	18.5	縄文	E8 E6 I3	7780 7593 4006	49	-90481.015 -90486.221 -90443.578	35638.048 35617.659 35589.324	257.897 258.432 261.687
88	27	KU	二次加工剥片	黒曜石	未分析	22.2	34.0	10.8	5.4	縄文	I3	4006	49	-90443.578	35589.324	261.687
88	28	FB	接合状態(石核)	黒曜石	未分析	26.0	55.5	16.3	13.1	縄文	E8 E6	7780 7593	49	-90481.015 -90486.221	35638.048 35617.659	257.897 258.432
88	29	KU FB	接合状態	黒曜石	未分析	25.8	24.2	11.4	6.1	縄文	E6	4530 6683	55	-90486.234 -90488.271	35616.040 35617.160	258.665 258.516
88	30	KU	接合状態	黒曜石	未分析	47.5	36.5	14.7	23.6	縄文	E6 D6	4519 3939	53	-90490.417 -90485.969	35617.328 35614.632	258.683 258.635
88	31	FB	石核	黒曜石	未分析	23.5	29.2	12.9	9.3	縄文	D5	6410		-90490.417	35617.328	258.683
88	32	FB	石核	黒曜石	未分析	27.8	59.2	27.8	40.4	縄文	F7	7314		-90485.969	35614.632	258.635
88	33	FB	石核	ガラス質黒色安山岩		50.0	68.8	25.0	81.7	縄文	F6	7251		-90490.417	35617.328	258.683
88	34	KU	削片	黒曜石	未分析	28.4	6.3	5.5	1.1	縄文	F6	4035		-90485.969	35614.632	258.635
89	35	FB	礫器	鉄石安山岩		106.6	99.1	37.9	650.0	縄文	E7	6650		-90490.417	35617.328	258.683
89	36	KU	敲石	多孔質玄武岩		55.0	54.3	29.1	100.0	縄文	E8	5955		-90485.969	35614.632	258.635
89	37	KU	敲石	鉄石安山岩		90.2	82.2	52.5	590.0	縄文	D6	6169		-90490.417	35617.328	258.683
89	38	KU	磨石	多孔質安山岩		94.1	94.3	32.3	376.5	縄文	D8 E7	6063 7238	37	-90498.231 -90487.422	35631.772 35625.193	257.623 258.327
89	39	KU	磨石	玄武岩		101.3	91.1	65.2	740.0	縄文	D7	6006		-90498.231	35631.772	257.623
89	40	KU	磨石	鉄石安山岩		121.5	91.4	55.3	791.2	縄文	E7	6003		-90487.422	35625.193	258.327
89	41	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		104.0	102.9	63.5	970.0	縄文	E6	6165		-90498.231	35631.772	257.623
90	42	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		112.7	96.1	42.3	570.0	縄文	E8	5954		-90487.422	35625.193	258.327
90	43	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		105.1	73.5	43.3	572.0	縄文	E7	5953		-90498.231	35631.772	257.623
90	44	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		42.2	84.5	43.1	169.0	縄文	D6	7158		-90487.422	35625.193	258.327
91	45	KU	石皿	鉄石安山岩		173.0	217.0	70.0	4290.0	縄文	E6	6166		-90498.231	35631.772	257.623
91	46	KU	石皿	鉄石安山岩		237.0	231.0	81.0	5550.0	縄文	D8	7872		-90487.422	35625.193	258.327
91	47	KU	台石	鉄石安山岩		357.0	285.0	93.0	12910.0	縄文	D7	8132		-90498.231	35631.772	257.623
91	48	KU	台石	鉄石安山岩		385.0	296.0	93.0	20170.0	縄文	D7	6008		-90487.422	35625.193	258.327
94	49	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	16.0	14.5	4.2	0.7	縄文	F15	1914		-90498.231	35631.772	257.623
94	50	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	2.5	18.5	5.0	1.6	縄文	F14	234		-90487.422	35625.193	258.327
94	51	FB	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	33.8	17.8	5.0	2.6	縄文	G14	2694		-90466.562	35694.404	255.292
94	52	KGP	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	29.2	17.0	6.0	2.3	縄文	E14	389		-90485.007	35699.500	254.632
94	53	KU	石鏃	黒曜石	推定不可	21.0	14.5	4.0	0.8	縄文	E15	627		-90480.147	35705.056	254.672
94	54	KGP	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	16.0	14.5	4.2	0.8	縄文	E16	513		-90481.673	35710.449	254.267
94	55	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	20.0	14.0	4.0	0.9	縄文	E15	623		-90480.365	35707.051	254.518
94	56	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	20.7	14.9	3.7	0.9	縄文	F14	2502		-90479.167	35695.911	255.052
94	57	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	19.0	16.0	4.0	1.0	縄文	F15	867		-90477.497	35701.029	254.906
94	58	KGP	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	22.6	16.5	4.4	1.1	縄文	F14	257		-90473.753	35694.996	255.694
94	59	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	21.5	17.0	6.0	1.5	縄文	F14	1466		-90475.825	35690.729	255.404
94	60	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	18.5	14.0	4.5	1.0	縄文	F14	890		-90478.759	35698.302	255.141
94	61	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	22.0	17.0	4.0	1.0	縄文	G13	731		-90465.701	35684.150	256.248
94	62	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	21.0	19.0	6.2	2.0	縄文	F14	1336		-90477.445	35696.140	255.187
94	63	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	25.0	15.0	5.0	1.2	縄文	F14	1100		-90478.571	35692.749	255.349
94	64	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	20.0	19.0	5.5	1.7	縄文	F16	1219		-90479.732	35710.000	254.109
94	65	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	27.0	17.0	4.5	1.6	縄文	E15	2749		-90482.783	35709.208	254.044
94	66	KGP	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	18.5	17.0	4.5	1.1	縄文	F15	484		-90470.160	35700.393	254.953
94	67	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	11.5	16.5	3.5	0.7	縄文	E16	609		-90481.207	35710.849	254.211
94	68	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	16.5	14.0	3.5	0.6	縄文	E14	715		-90480.511	35696.003	254.982
94	69	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	28.0	19.0	7.0	3.4	縄文	F15	1023		-90477.088	35703.668	254.874
94	70	ZN	石鏃	黒曜石	和田鷹山	27.3	16.9	4.6	1.6	縄文	E15	3390		-90482.816	35705.945	254.226
94	71	KU	石鏃	黒曜石	蓼科冷山	13.0	13.0	4.5	0.6	縄文	F15	994		-90470.048	35702.975	254.676
94	72	KU	石鏃	黒曜石	天城柏峠	22.0	17.0	7.5	1.9	縄文	E15	181		-90480.095	35701.472	254.818
94	73	KU	石鏃	黒曜石	天城柏峠	19.0	12.5	6.0	1.1	縄文	F15	836		-90474.789	35705.619	254.739
94	74	FB	石鏃	黒曜石	天城柏峠	20.0	16.2	4.1	1.2	縄文	E15	3250		-90487.505	35704.503	253.948
94	75	KU	石鏃	黒曜石	天城柏峠	23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	F14	655		-90475.265	35699.481	255.150
94	76	KGP	石鏃	黒曜石	天城柏峠	26.8	15.0	4.2	1.3	縄文	F14	258		-90471.856	35693.644	255.751
94	77	FB	石鏃	黒曜石	天城柏峠	22.2	15.7	4.4	1.3	縄文	F14	2577		-90476.241	35694.528	255.126
94	78	FB	石鏃	黒曜石	箱根鍛冶屋	24.4	17.5	5.5	1.8	縄文	F15	3097		-90478.718	35707.231	254.152
94	79	KU	石鏃	ガラス質黒色安山岩		17.0	14.5	3.0	0.8	縄文	E15	714		-90480.253	35707.448	254.359
94	80	KU	石鏃	ガラス質黒色安山岩		23.0	15.0	5.0	1.1	縄文	E15	1263		-90484.150	35703.481	254.529
94	81	KU	石鏃	ガラス質黒色安山岩		26.0	19.5	4.0	1.4	縄文	F13	1558		-90474.039	35689.278	255.385
94	82	ZN	石鏃	佐賀粘板岩		30.0	12.5	4.0	1.5	縄文	E14	3247		-90486.916	35698.724	254.061
94	83	KGP	石鏃	黒曜石	天城柏峠	32.0	22.0	11.5	5.9	縄文	G14	259		-90468.347	35690.494	256.079
94	84	KU	削器	黒曜石	未分析	32.2	15.8	8.8	3.6	縄文	F15	658		-90474.790	35700.124	255.041
94	85	KU	削器	ガラス質黒色安山岩		65.3	40.5	12.7	24.5	縄文	F15	1091		-90478.630	35703.380	254.770
95	86	FB	楔形石器	黒曜石	未分析	28.8	19.4	10.7	4.5	縄文	E14	2763		-90487.738	35699.385	254.325
95	87	FB	楔形石器	黒曜石	未分析	27.1	23.5	5.9	3.6	縄文	E15	2688		-90486.517	35708.313	253.940
95	88	KU	楔形石器	黒曜石	未分析	25.3	41.9	12.9	11.7	縄文	F15	865		-90477.419	35700.208	254.845
95	89	KU	二次加工剥片	ガラス質黒色安山岩		28.5	37.1	6.7	5.4	縄文	E14	528		-90488.284	35698.906	254.330
95	90	FB FB ZN	接合状態	黒曜石	諏訪星ヶ台	19.0	53.4	19.2	26.8	縄文	E15	3167 3315 3415	54	-90483.232 -90483.049 -90482.910	35706.266 35706.103 35705.512	254.280 254.275 254.186
95	91	KGP KU ZN	接合状態	黒曜石	諏訪星ヶ台	39.1	31.0	17.5	13.7	縄文	E15	461 928 3477	56	-90482.627 -90483.643 -90483.364	35708.687 35706.496 35706.289	254.354 254.394 254.238

挿図番号	掲載番号	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	文化層	石器集中グリッド	遺物番号	接合番号	X座標	Y座標	Z座標
95	92	KGP	石核	黒曜石	未分析	29.5	30.0	13.2	9.5	縄文	E15	461	56	-90482.627	35708.687	254.354
95	93	KU	剥片	黒曜石	未分析	25.3	15.4	8.0	1.6	縄文	E15	928	56	-90483.643	35706.496	254.394
95	94	ZN	剥片	黒曜石	諏訪星ヶ台	27.8	19.2	7.9	2.6	縄文	E15	3477	56	-90483.364	35706.289	254.238
95	95	KU FB	接合状態	黒曜石	未分析	30.6	28.6	16.5	11.2	縄文	G15 F14	1436 2786	52	-90469.173 -90470.901	35709.325 35698.731	254.074 254.801
95	96	FB	楔形石器	黒曜石	未分析	30.9	28.6	10.3	6.8	縄文	F14	2786	52	-90470.901	35698.731	254.801
95	97	KU FB	接合状態	黒曜石	未分析	37.2	22.3	11.3	5.5	縄文	E15	1923 3117	51	-90483.344 -90486.974	35706.983 35707.912	254.290 253.742
95	98	KU KU KGP	接合状態	黒曜石	未分析	31.5	39.6	16.9	22.1	縄文	G14 F14 G15	1040 1110 154	50	-90464.994 -90477.915 -90469.333	35697.340 35693.881 35700.561	255.313 255.396 255.163
95	99	KU KGP	接合状態 (剥片)	黒曜石	未分析	32.1	40.0	13.2	17.0	縄文	G14 G15	1040 154	50	-90464.994 -90469.333	35697.340 35700.561	255.313 255.163
95	100	KU	石核	黒曜石	未分析	19.7	35.1	11.2	5.1	縄文	F14	1110	50	-90477.915	35693.881	255.396
95	101	FB KGP FB	接合状態	黒曜石	未分析	36.0	23.5	14.2	9.3	縄文	E15	3153-1 314 2980	58	-90482.972 -90484.088 -90483.161	35706.117 35706.660 35706.059	254.262 254.502 254.318
95	102	KU	接合状態	黒曜石	未分析	35.5	35.0	11.5	5.1	縄文	G15 F14	830 1314	57	-90468.514 -90476.160	35706.022 35691.081	254.650 255.488
96	103	KU	石核	黒曜石	未分析	20.6	16.8	12.4	3.7	縄文	E15	1283		-90481.976	35707.569	254.324
96	104	KU	石核	黒曜石	未分析	24.1	27.0	9.9	5.6	縄文	F14	1105		-90478.090	35696.041	255.199
96	105	FB	石核	黒曜石	未分析	29.0	44.1	15.1	17.5	縄文	G15	3113		-90481.226	35696.524	254.983
96	106	KU	石核	黒曜石	未分析	41.9	29.2	21.2	30.3	縄文	E14	643		-90461.660	35701.432	254.670
96	107	KU	石刃	デイサイト		42.1	20.1	7.5	6.7	縄文	G13	1493		-90463.823	35686.820	255.896
96	108	FB	礫器	鉄石安山岩		115.0	94.0	34.1	440.0	縄文	F14	2584		-90475.532	35690.331	255.249
96	109	KGP KU	磨石	多孔質玄武岩		113.6	101.2	48.5	636.5	縄文	F16 E15	505 640	23	-90478.547 -90486.528	35713.006 35700.470	253.944 254.488
96	110	KU	敲石	鉄石安山岩		101.4	94.6	49.7	740.0	縄文	F14	1981		-90478.547	35713.006	253.944
96	111	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		95.9	69.1	34.3	303.8	縄文	F14	1980		-90486.528	35700.470	254.488
96	112	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		89.8	92.4	38.2	430.0	縄文	E15	2736		-90478.547	35713.006	253.944
97	113	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		105.8	93.3	33.1	430.0	縄文	E15	545		-90486.528	35700.470	254.488
97	114	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		110.9	86.4	43.0	630.0	縄文	E15	2743		-90478.547	35713.006	253.944
97	115	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		98.4	87.8	44.6	600.0	縄文	F14	1963		-90486.528	35700.470	254.488
97	116	FB	磨-敲石	鉄石安山岩		106.3	90.9	42.4	660.0	縄文	E15	2755		-90478.547	35713.006	253.944
97	117	KGP KU	磨-敲石	玄武岩		100.1	71.8	37.3	342.4	縄文	E15 F14	474 2567	22	-90488.310 -90479.941	35704.488 35695.336	254.223 255.163
97	118	KU	磨-敲石	玄武岩		107.6	88.5	44.5	560.0	縄文	F16	674		-90477.618	35714.285	253.709
97	119	KU	磨-敲石	玄武岩		95.5	81.4	32.3	380.0	縄文	E15	633		-90483.852	35707.132	254.347
98	120	KU	台石	鉄石安山岩		365.0	281.0	99.0	16490.0	縄文	F15	2841		-90471.011	35704.139	254.693
101	121	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	15.0	12.0	4.2	0.5	縄文	D21	1624		-90494.056	35760.325	250.843
101	122	FB	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	28.6	16.0	4.0	1.4	縄文	D20	2908		-90490.004	35752.924	251.402
101	123	KGP	石錐	黒曜石	未分析	25.7	10.5	9.5	2.1	縄文	E20	300		-90487.519	35757.745	251.232
101	124	FB	削器	流紋岩		54.2	30.2	12.5	19.5	縄文	D20	2871		-90496.186	35756.643	251.152
104	125	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	13.0	11.0	3.0	0.3	縄文	I7	4855		-90441.442	35620.623	260.255
104	126	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	13.6	13.0	3.8	0.4	縄文	J8	8234		-90439.007	35638.263	259.485
104	127	FB	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	28.3	21.8	4.0	1.7	縄文	H8	8182		-90452.585	35637.787	258.959
104	128	SNZ	石鏃	流紋岩		25.0	22.0	4.0	1.5	縄文	H10	589		-90459.109	35659.078	258.285
104	129	FB	石錐	黒曜石	和田芙蓉ライト	28.3	16.9	7.9	2.0	縄文	K7	8009		-90425.427	35626.216	260.205
104	130	KU	削器	ガラス質黒色安山岩		50.8	32.6	14.5	21.7	縄文	K7	5629		-90423.882	35628.744	260.196
104	131	KU	削器	ガラス質黒色安山岩		46.2	42.4	8.9	15.3	縄文	J8	5601		-90434.794	35634.140	259.898
104	132	YLU	削器	ガラス質黒色安山岩		64.9	90.5	22.9	64.1	草創期	L6	8675		-90418.288	35616.884	259.949
104	133	YLU	削器	ガラス質黒色安山岩		73.3	62.4	22.7	90.3	草創期	L6	8676		-90418.371	35618.072	259.939
105	134	YLU	打製石斧	ガラス質黒色安山岩		106.2	51.6	31.5	153.6	草創期	K6	8677		-90420.398	35617.845	260.014
105	135	YLU	微細剥離痕剥片	ガラス質黒色安山岩		56.0	59.6	18.4	38.2	草創期	L6	8679		-90419.024	35616.658	260.020
105	136	KU	石核	ホルンフェルス		47.5	61.0	109.4	343.5	縄文	K8	5627		-90426.390	35634.552	259.778
105	137	FB	石核	ホルンフェルス		67.0	90.2	33.1	621.8	縄文	J8	8308		-90436.445	35633.777	259.746
106	138	YLU	接合状態	ガラス質黒色安山岩		81.0	43.0	32.9	142.8	縄文	L6	8664 8674	46	-90418.726 -90418.430	35617.484 35616.752	260.091 260.015
106	139	YLU	剥片	ガラス質黒色安山岩		27.3	30.5	32.9	4.3	草創期	L6	8664	46	-90418.726	35617.484	260.091
106	140	YLU	石核	ガラス質黒色安山岩		79.4	43.0	8.7	138.5	草創期	L6	8674	46	-90418.430	35616.752	260.015
107	141	ZN	礫器	鉄石安山岩		112.0	111.0	35.7	567.6	縄文	K6	8072		-90423.515	35614.435	260.415
107	142	KU	礫器	玄武岩		127.0	114.3	37.8	530.0	縄文	K8	45		-90428.185	35631.613	259.864
107	143	KU	磨石	多孔質玄武岩		813.0	695.0	333.0	270.0	縄文	I10	5795		-90446.187	35651.023	258.881
107	144	KU	敲石	多孔質玄武岩		59.2	46.6	42.5	130.0	縄文	I10	5796		-90446.355	35652.053	258.758
107	145	KU	敲石	鉄石安山岩		85.3	73.9	63.9	540.0	縄文	H10	5802		-90451.583	35653.920	258.413
107	146	KU	磨-敲石	デイサイト		106.3	79.2	42.2	554.9	縄文	K8	5628		-90426.514	35634.412	259.782
107	147	FB	磨-敲石	鉄石安山岩		99.6	73.3	38.0	438.1	縄文	K7	8217		-90425.646	35629.421	259.853
107	148	KU	磨-敲石	玄武岩		112.8	77.1	32.5	370.0	縄文	H10 F8	5803 6905	20	-90452.734 -90473.115	35656.361 35634.764	258.306 258.489
108	149	FB	磨-敲石	鉄石安山岩		87.1	69.3	38.0	370.0	縄文	K7	8304		-90425.538	35629.486	259.777
108	150	FB	磨-敲石	玄武岩		83.3	76.2	37.0	348.2	縄文	K7	8216		-90425.621	35629.311	259.980
108	151	KU	磨-敲石	鉄石安山岩		102.5	34.3	30.7	160.0	縄文	I10	5797		-90447.271	35652.952	258.689
108	152	YLU	砥石	粗粒砂岩		92.2	32.3	47.7	356.5	草創期	K6	8678		-90420.182	35616.884	260.029
108	153	KU	石皿	鉄石安山岩		220.0	241.0	74.0	5060.0	縄文	K8	43		-90428.106	35631.701	259.916
108	154	KU	台石	玄武岩		271.0	353.0	88.0	11980.0	縄文	I10	5804		-90447.883	35653.231	258.629
109	155	KU	台石	玄武岩		408.0	307.0	125.0	27500.0	縄文	K7	5633		-90424.707	35629.328	260.346
110	156	KU	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	16.0	15.0	3.0	0.5	縄文	J5	4069		-90435.749	35601.052	261.081
110	157	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	17.2	15.4	3.4	0.7	縄文	C6	6062		-90502.002	35619.002	257.599
110	158	KU	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	24.5	15.5	3.0	1.0	縄文	K5	4736		-90420.591	35609.590	261.097
110	159	FB	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	26.0	17.0	4.8	1.7	縄文	J5	4077		-90438.398	35601.275	260.974
110	160	KGP	打製石斧	鉄石安山岩		173.1	59.6	40.8	366.0	縄文	F9	4745		-90473.571	35647.382	258.102

挿図番号	掲載番号	層位	器種	石材	黒曜石産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	文化層	石器集中グリッド	遺物番号	接合番号	X座標	Y座標	Z座標
110	161	KU	打製石斧	緑色凝灰岩		180.6	65.3	32.1	437.1	縄文	G8	5787		-90461.243	35639.713	258.821
110	162	KU	削器	黒曜石	未分析	57.4	22.8	7.8	10.8	縄文	G4	3896		-90460.529	35590.387	260.902
110	163	KU	微細剥離痕剥片	ガラス質黒色安山岩		58.7	38.0	12.0	22.7	縄文	G6	5313		-90461.983	35610.167	259.782
110	164	KU	剥片	ガラス質黒色安山岩		56.5	37.0	8.5	15.0	縄文	F4	5292		-90472.882	35595.693	259.852
110	165	FB	剥片	ガラス質黒色安山岩		71.0	36.5	20.0	72.3	縄文	G4	4191		-90466.765	35590.404	260.322

附編

老平遺跡出土黒曜石の産地分析

望月明彦（沼津高等専門学校）

分析法　エネルギー分散蛍光X線分析法（EDX）

分析装置　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光X線分析計　SEA-2110L

分析条件

管電圧　50kV

管電流　自動設定

測定時間　240sec

雰囲気　真空

照射径　10㎜

検出器　Si（Li）半導体検出器

測定元素　Al（アルミニウム）、Si（ケイ素）、K（カリウム）、Ca（カルシウム）、Ti（チタン）、Mn（マンガン）、Fe（鉄）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Y（イットリウム）、Zr（ジルコニウム）

分析法の特徴

長所　非破壊分析　多元素同時分析　前処理不要（ただし洗浄は必要）迅速分析　操作が簡単

短所　微量分析は不得意

表面分析

→試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。

→そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。
類似した組成の標準試料が必要。

試料の洗浄

5分間（汚れがひどい場合は15分間）超音波洗浄器で洗浄。

さらに汚れを拭き取ってから測定。

測定不可能な試料

・風化した試料（ただし破壊すれば可能）

・汚れがとれない試料（ただし破壊すれば可能）

・厚さが1㎜以下の試料

・大きさ5㎜以下の試料

・遺物番号などの書き込みで測定できる面がない試料

産地推定可能な石材

上記の条件をクリアしていれば、以下の分析が可能。

・現在は黒曜石（日本全国）と下呂石

・ガラス質安山岩は分類可能。
ただし、原石データが不足しているため、産地推定は不可能。
現在、原石データを収集中

・その他の石材（特に堆積岩）は分類不可能。

産地推定法

得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標

Sum＝Rb＋Sr＋Y＋Zr とする。

Rb分率＝Rb/Sum

Sr分率＝Sr/Sum

分率＝Zr/Sum

Mn＊100/Fe

log（Fe/K）

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

①判別図法

用いる指標

横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe

横軸：Sr分率、縦軸：log（Fe/K）

特長

簡単な計算であり、誰にでも作成可能

視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法

遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

②判別分析（推定結果表参照）

用いる指標

算出された指標全て

特長

各産地との類似度を距離で算出

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法。未知の産地の判別はできない。

推定方法

判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

この産地は試料と２次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にｎ次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

推定結果表

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6046	L145-1	3251	天城柏峠群
MOK4-6047	L145-2	3389	諏訪星ヶ台群
MOK4-6048	L145-3	3390	和田鷹山群
MOK4-6049	L145-4	3391	測定不可
MOK4-6050	L145-5	3392	測定不可
MOK4-6051	L145-6	3393	和田鷹山群
MOK4-6052	L145-7	3394	諏訪星ヶ台群
MOK4-6053	L145-8	3395	測定不可
MOK4-6054	L145-9	3397	諏訪星ヶ台群
MOK4-6055	L145-10	3398	測定不可
MOK4-6056	L145-11	3399	諏訪星ヶ台群
MOK4-6057	L145-12	3400	推定不可
MOK4-6058	L145-13	3401	推定不可
MOK4-6059	L145-14	3402	諏訪星ヶ台群
MOK4-6060	L145-15	3403	測定不可
MOK4-6061	L145-16	3404	推定不可
MOK4-6062	L145-17	3405	和田鷹山群
MOK4-6063	L145-18	3406	推定不可
MOK4-6064	L145-19	3407	推定不可
MOK4-6065	L145-20	3408	諏訪星ヶ台群
MOK4-6066	L145-21	3409	測定不可
MOK4-6067	L145-22	3410	測定不可
MOK4-6068	L145-23	3411	推定不可
MOK4-6069	L145-24	3412	諏訪星ヶ台群
MOK4-6070	L145-25	3413	推定不可
MOK4-6071	L145-26	3414	推定不可
MOK4-6072	L145-27	3415	諏訪星ヶ台群
MOK4-6073	L145-28	3416	諏訪星ヶ台群
MOK4-6074	L145-29	3417	諏訪星ヶ台群
MOK4-6075	L145-30	3418	天城柏峠群
MOK4-6076	L145-31	3419	天城柏峠群
MOK4-6077	L145-32	3420	天城柏峠群
MOK4-6078	L145-33	3421	天城柏峠群
MOK4-6079	L145-34	3422	天城柏峠群
MOK4-6080	L145-35	3424	天城柏峠群
MOK4-6081	L145-36	3425	天城柏峠群
MOK4-6082	L145-37	3426	天城柏峠群
MOK4-6083	L145-38	3427	天城柏峠群
MOK4-6084	L145-39	3428	天城柏峠群
MOK4-6085	L145-40	3429	天城柏峠群
MOK4-6086	L145-41	3430	測定不可
MOK4-6087	L145-42	3431	天城柏峠群
MOK4-6088	L145-43	3432	諏訪星ヶ台群
MOK4-6089	L145-44	3433	測定不可
MOK4-6090	L145-45	3434	和田鷹山群
MOK4-6091	L145-46	3435	測定不可
MOK4-6092	L145-47	3436	箱根畑宿群
MOK4-6093	L145-48	3437	和田鷹山群
MOK4-6094	L145-49	3438	測定不可
MOK4-6095	L145-50	3439	推定不可
MOK4-6096	L145-51	3440	諏訪星ヶ台群
MOK4-6097	L145-52	3441	推定不可
MOK4-6098	L145-53	3442	諏訪星ヶ台群
MOK4-6099	L145-54	3443	測定不可
MOK4-6100	L145-55	3444	測定不可
MOK4-6101	L145-56	3445	推定不可
MOK4-6102	L145-57	3446	推定不可
MOK4-6103	L145-58	3447	諏訪星ヶ台群
MOK4-6104	L145-59	3448	諏訪星ヶ台群
MOK4-6105	L145-60	3449	推定不可
MOK4-6106	L145-61	3450	推定不可
MOK4-6107	L145-62	3451	推定不可
MOK4-6108	L145-63	3452	推定不可
MOK4-6109	L145-64	3453	測定不可
MOK4-6110	L145-65	3454	諏訪星ヶ台群
MOK4-6111	L145-66	3455	天城柏峠群
MOK4-6112	L145-67	3456	諏訪星ヶ台群
MOK4-6113	L145-68	3457	天城柏峠群
MOK4-6114	L145-69	3458	天城柏峠群
MOK4-6115	L145-70	3459	箱根畑宿群
MOK4-6116	L145-71	3460	諏訪星ヶ台群
MOK4-6117	L145-72	3461	和田鷹山群
MOK4-6118	L145-73	3462	測定不可
MOK4-6119	L145-74	3463	測定不可
MOK4-6120	L145-75	3464	測定不可
MOK4-6121	L145-76	3465	測定不可
MOK4-6122	L145-77	3466	諏訪星ヶ台群

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
AGKT	AGKT	6.7	1	HNKT	88.02	0
SWHD	SWHD	5.28	1	SBIY	95.87	0
WDTY	WDTY	0.75	0.9999	WDHY	17.15	0.0001
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
WDTY	WDTY	8.24	0.9981	WDHY	18.36	0.0019
SWHD	SWHD	13.77	1	SBIY	88.66	0
測定不可	測定不可			測定不可		
SWHD	SWHD	1.55	1	SBIY	98.01	0
測定不可	測定不可			測定不可		
SWHD	SWHD	17.73	1	SBIY	77.87	0
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	12.77	1	SBIY	53.85	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
WDTY	WDTY	4.79	0.9999	WDHY	22.16	0.0001
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	4.55	1	WDTN	80.27	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	14.2	1	SBIY	52.25	0
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	2.31	1	SBIY	95.12	0
SWHD	SWHD	21.59	1	SBIY	52.9	0
SWHD	SWHD	4.22	1	SBIY	65.67	0
AGKT	AGKT	3.49	1	HNKT	123.62	0
AGKT	AGKT	3.91	1	HNKT	135.41	0
AGKT	AGKT	3.06	1	HNKT	108.1	0
AGKT	AGKT	2.44	1	HNKT	112.15	0
AGKT	AGKT	2.85	1	HNKT	89.39	0
AGKT	AGKT	8.06	1	HNKT	112.79	0
AGKT	AGKT	3.18	1	HNKT	106.78	0
AGKT	AGKT	4.27	1	HNKT	140.23	0
AGKT	AGKT	2.22	1	HNKT	124.73	0
AGKT	AGKT	7.14	1	HNKT	91.95	0
AGKT	AGKT	3.81	1	HNKT	129.79	0
測定不可	測定不可			測定不可		
AGKT	AGKT	1.79	1	HNKT	102.58	0
SWHD	SWHD	7.45	1	SBIY	62.14	0
測定不可	測定不可			測定不可		
WDTY	WDTY	1.54	1	WDHY	28.51	0
測定不可	測定不可			測定不可		
HNHJ	HNHJ	5.46	1	HNKI	146.74	0
WDTY	WDTY	6.75	1	WDKB	31.29	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	5.89	1	SBIY	106.77	0
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	9.62	1	SBIY	55.34	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
SWHD	SWHD	4.79	1	SBIY	89.53	0
SWHD	SWHD	12.68	1	SBIY	105.23	0
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
SWHD	SWHD	13.58	1	SBIY	88.49	0
AGKT	AGKT	0.44	1	HNKT	106.58	0
SWHD	SWHD	9.59	1	SBIY	44.27	0
AGKT	AGKT	9.6	1	HNKT	107.55	0
AGKT	AGKT	7.43	1	HNKT	87.86	0
HNHJ	HNHJ	2.38	1	HNKI	120.49	0
SWHD	SWHD	12.88	1	SBIY	73.41	0
WDTY	WDTY	1.79	0.9998	WDHY	16.1	0.0002
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
SWHD	SWHD	9.43	1	SBIY	77.85	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6123	L145-78	3467	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.33	0.9996	SBIY	31.68	0.0004
MOK4-6124	L145-79	3468	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6125	L145-80	3469	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.03	1	WDTN	63.04	0
MOK4-6126	L145-81	3470	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	20.71	1	SBIY	86.48	0
MOK4-6127	L145-82	3471	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6128	L145-83	3472	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.59	1	SBIY	53.96	0
MOK4-6129	L145-84	3473	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6130	L145-85	3474	和田鷹山群	WDTY	WDTY	12.5	1	WDKB	35.26	0
MOK4-6131	L145-86	3475	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6132	L145-87	3476	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.18	1	SBIY	100.87	0
MOK4-6133	L145-88	3477	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.64	1	SBIY	53.97	0
MOK4-6134	L145-89	3478	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.07	1	SBIY	91.35	0
MOK4-6135	L145-90	3479	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.56	1	SBIY	106.79	0
MOK4-6136	L145-91	3480	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6137	L145-92	3481	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.01	1	SBIY	85.64	0
MOK4-6138	L145-93	3482	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6139	L145-94	3483	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6140	L145-95	3484	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.81	1	SBIY	57.87	0
MOK4-6141	L145-96	3485	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.81	1	SBIY	60.19	0
MOK4-6142	L145-97	3486	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6143	L145-98	3487	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.14	1	SBIY	90.23	0
MOK4-6144	L145-99	3488	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.88	0.9809	WDHY	15.32	0.0191
MOK4-6145	L145-100	3489	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.34	1	SBIY	43.17	0
MOK4-6146	L145-101	3490	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.22	1	SBIY	67.11	0
MOK4-6147	L145-102	3491	和田鷹山群	WDTY	WDTY	8.42	0.9981	WDHY	18.57	0.0019
MOK4-6148	L145-103	3492	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.78	1	WDHY	26.52	0
MOK4-6149	L145-104	3493	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6150	L145-105	3494	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.44	1	SBIY	71.5	0
MOK4-6151	L145-106	3495	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6152	L145-107	3496	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6153	L145-108	3497	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.82	0.9887	WDHY	11.33	0.0113
MOK4-6154	L145-109	3498	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.19	1	SBIY	61.97	0
MOK4-6155	L145-110	3499	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6156	L145-111	3500	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6157	L145-112	3501	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6158	L145-113	3502	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6159	L145-114	3503	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6160	L145-115	3504	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.08	1	SBIY	80	0
MOK4-6161	L145-116	3505	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.12	1	SBIY	39.73	0
MOK4-6162	L145-117	3506	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6163	L145-118	3507	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6164	L145-119	3508	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6165	L145-120	3509	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6166	L145-121	3510	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6167	L145-122	3511	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.4	1	SBIY	88.92	0
MOK4-6168	L145-123	3512	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6169	L145-124	3513	天城柏峠群	AGKT	AGKT	20.22	1	HNKT	63	0
MOK4-6170	L145-125	3514	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.87	1	HNKT	112.47	0
MOK4-6171	L145-126	3515	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6172	L145-127	3516	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6173	L145-128	3517	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6174	L145-129	3518	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6175	L145-130	3519	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6176	L145-131	3520	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6177	L145-132	3521	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.87	1	SBIY	92.2	0
MOK4-6178	L145-133	3522	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.03	1	SBIY	60.77	0
MOK4-6179	L145-134	3523	箱根黒岩橋群	HNKI	HNKI	1.01	1	HNKJ	46.71	0
MOK4-6180	L145-135	3524	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.97	1	SBIY	136.27	0
MOK4-6181	L145-136	3525	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.68	1	SBIY	89.47	0
MOK4-6182	L145-137	3526	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.99	1	WDHY	23.09	0
MOK4-6183	L145-138	3527	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6184	L145-139	3528	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6185	L145-140	3529	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6186	L145-141	3530	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6187	L145-142	3531	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6188	L145-143	3532	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.81	1	HNKI	94.37	0
MOK4-6189	L145-144	3533	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6190	L145-145	3534	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.53	1	HNKI	73.78	0
MOK4-6191	L145-146	3535	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.51	1	SBIY	34.19	0
MOK4-6192	L145-147	3540	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.85	1	SBIY	59.09	0
MOK4-6193	L145-148	3541	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6194	L145-149	3542	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6195	L145-150	3543	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6196	L145-151	3544	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.59	1	SBIY	65.59	0
MOK4-6197	L145-152	3545	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6198	L145-153	3546	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.39	1	SBIY	103.32	0
MOK4-6199	L145-154	3547	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.62	1	WDTN	91.84	0
MOK4-6200	L145-155	3548	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6201	L145-156	3549	和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.51	0.9967	WDHY	19.53	0.0033
MOK4-6202	L145-157	3550	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6203	L145-158	3551	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.63	1	HNKI	130.73	0
MOK4-6204	L145-159	3552	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6205	L145-160	3553	和田鷹山群	WDTY	WDTY	16.7	0.9557	WDHY	20.41	0.0443
MOK4-6206	L145-161	3554	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6207	L145-162	3556	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.28	1	SBIY	82.99	0
MOK4-6208	L145-163	3557	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6209	L145-164	3558	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6210	L145-165	3559	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.83	1	SBIY	38.33	0
MOK4-6211	L145-166	3561	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6212	L145-167	3562	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.05	1	SBIY	84.11	0
MOK4-6213	L145-168	3563	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.87	1	SBIY	86.11	0
MOK4-6214	L145-169	3564	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.75	1	SBIY	86.67	0
MOK4-6215	L145-170	3565	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6216	L145-171	3566	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.15	1	HNKT	92.79	0
MOK4-6217	L145-172	3567	和田鷹山群	WDTY	WDTY	17.86	0.9999	WDKB	36.04	0.0001
MOK4-6218	L145-173	3568	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.35	1	SBIY	66.15	0
MOK4-6219	L145-174	3569	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6220	L145-175	3570	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.88	1	WDTN	87.28	0
MOK4-6221	L145-176	3571	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6222	L145-177	3572	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6223	L145-178	3573	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.76	1	WDHY	19.68	0
MOK4-6224	L145-179	3574	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.91	1	SBIY	45.87	0
MOK4-6225	L145-180	3575	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.1	1	SBIY	98.78	0
MOK4-6226	L145-181	3577	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.44	1	SBIY	46.91	0
MOK4-6227	L145-182	3578	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6228	L145-183	3579	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.67	1	WDTN	68.8	0
MOK4-6229	L145-184	3580	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.83	1	SBIY	94.62	0
MOK4-6230	L145-185	3581	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.75	1	SBIY	60.29	0
MOK4-6231	L145-186	3582	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.72	1	SBIY	102.07	0
MOK4-6232	L145-187	3583	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6233	L145-188	3584	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6234	L145-189	3585	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6235	L145-190	3586	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.51	1	WDTN	90.59	0
MOK4-6236	L145-191	3587	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.77	1	SBIY	73.06	0
MOK4-6237	L145-192	3588	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.1	1	SBIY	39.22	0
MOK4-6238	L145-193	3589	和田鷹山群	WDTY	WDTY	14.4	0.9996	WDKB	29.35	0.0004
MOK4-6239	L145-194	3590	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.18	1	HNKI	63.41	0
MOK4-6240	L145-195	3591	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6241	L145-196	3592	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.52	1	HNKI	70.03	0
MOK4-6242	L145-197	3593	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6243	L145-198	3594	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6244	L145-199	3595	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.41	1	HNKI	126.39	0
MOK4-6245	L145-200	3596	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6246	L145-201	3597	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6247	L145-202	3598	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.69	1	SBIY	86.04	0
MOK4-6248	L145-203	3599	和田鷹山群	WDTY	WDTY	12.76	0.9942	WDHY	20.64	0.0058
MOK4-6249	L145-204	3600	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.59	1	SBIY	81.59	0
MOK4-6250	L145-205	3601	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.08	1	HNKI	114.75	0
MOK4-6251	L145-206	3602	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6252	L145-207	3603	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.28	1	SBIY	73.74	0
MOK4-6253	L145-208	3604	和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.49	1	WDHY	22.7	0
MOK4-6254	L145-209	3605	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.84	1	SBIY	99.02	0
MOK4-6255	L145-210	3606	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6256	L145-211	3607	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.58	1	WDTN	118.58	0
MOK4-6257	L145-212	3608	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.88	1	SBIY	123.43	0
MOK4-6258	L145-213	3609	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.63	1	SBIY	82.19	0
MOK4-6259	L145-214	3610	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8	1	SBIY	84.22	0
MOK4-6260	L145-215	3611	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6261	L145-216	3612	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6262	L145-217	3613	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.72	1	SBIY	108.31	0
MOK4-6263	L145-218	3614	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.54	1	SBIY	78.8	0
MOK4-6264	L145-219	3615	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.23	0.987	WDHY	11.46	0.013
MOK4-6265	L145-220	3616	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6266	L145-221	3617	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.55	1	SBIY	38.39	0
MOK4-6267	L145-222	3618	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6268	L145-223	3619	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.47	1	SBIY	76.6	0
MOK4-6269	L145-224	3620	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6270	L145-225	3621	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6271	L145-226	3622	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6272	L145-227	3623	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6273	L145-228	3624	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6274	L145-229	3625	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6275	L145-230	3626	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6276	L145-231	3627	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.69	1	SBIY	70.79	0
MOK4-6277	L145-232	3628	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6278	L145-233	3629	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.11	1	HNKI	66.8	0
MOK4-6279	L145-234	3630	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.44	1	SBIY	84.93	0
MOK4-6280	L145-235	3631	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6281	L145-236	3632	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.27	0.9997	WDHY	19.86	0.0003
MOK4-6282	L145-237	3633	和田芙蓉ライト群	*WDTY	WDHY	18.37	0.7588	WDTY	18.51	0.2412

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6283	L145-238	3634	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6284	L145-239	3635	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6285	L145-240	3636	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6286	L145-241	3637	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6287	L145-242	3639	和田鷹山群	WDTY	WDTY	8.19	0.995	WDHY	16.36	0.005
MOK4-6288	L145-243	3640	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6289	L145-244	3641	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.66	1	SBIY	52.75	0
MOK4-6290	L145-245	3642	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6291	L145-246	3645	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6292	L145-247	3646	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.47	1	SBIY	50.36	0
MOK4-6293	L145-248	3647	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.54	1	SBIY	42.93	0
MOK4-6294	L145-249	3648	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6295	L145-250	3649	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6296	L145-251	3650	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6297	L145-252	3651	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6298	L145-253	3652	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6299	L145-254	3653	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6300	L145-255	3654	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6301	L145-256	3655	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.29	1	WDTN	111.88	0
MOK4-6302	L145-257	3656	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.49	1	SBIY	52.11	0
MOK4-6303	L145-258	3657	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6304	L145-259	3658	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6305	L145-260	3659	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.79	0.9604	WDHY	8.73	0.0396
MOK4-6306	L145-261	3660	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6307	L145-262	3661	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6308	L145-263	3662	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6309	L145-264	3663	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.89	1	WDHY	21.96	0
MOK4-6310	L145-265	3664	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.67	0.9994	WDHY	15.06	0.0006
MOK4-6311	L145-266	3665	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6312	L145-267	3666	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6313	L145-268	3667	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6314	L145-269	3668	和田芙蓉ライト群	*WDTY	WDHY	4.36	0.6709	WDTY	8.22	0.3291
MOK4-6315	L145-270	3669	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6316	L145-271	3670	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6317	L145-272	3671	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6318	L145-273	3672	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6319	L145-274	3673	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6320	L145-275	3674	和田鷹山群	WDTY	WDTY	16.04	0.9998	WDHT	30.6	0.0002
MOK4-6321	L145-276	3675	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.88	1	SBIY	69.85	0
MOK4-6322	L145-277	3676	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6323	L145-278	3677	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.86	1	KZSN	41.99	0
MOK4-6324	L145-279	3678	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6325	L145-280	3679	和田芙蓉ライト群	*WDTY	WDHY	7.8	0.6637	WDTY	8.87	0.3363
MOK4-6326	L145-281	3680	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6327	L145-282	3681	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6328	L145-283	3682	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6329	L145-284	3684	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6330	L145-285	3685	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6331	L145-286	3686	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6332	L145-287	3687	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.08	1	WDTN	87.49	0
MOK4-6333	L145-288	3688	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6334	L145-289	3689	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.11	0.9995	WDHY	17.03	0.0005
MOK4-6335	L145-290	3690	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6336	L145-291	3691	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.46	1	SBIY	53.87	0
MOK4-6337	L145-292	3692	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6338	L145-293	3693	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6339	L145-294	3694	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6340	L145-295	3695	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6341	L145-296	3696	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.16	1	SBIY	84.9	0
MOK4-6342	L145-297	3697	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6343	L145-298	3698	和田鷹山群	WDTY	WDTY	12.77	0.971	WDHY	17.36	0.029
MOK4-6344	L145-299	3699	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.6	1	WDHY	30.16	0
MOK4-6345	L145-300	3700	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.52	1	WDTN	101.17	0
MOK4-6346	L145-301	3701	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6347	L145-302	3702	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.51	1	WDHY	35.05	0
MOK4-6348	L145-303	3703	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6349	L145-304	3704	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.13	0.9999	WDHY	17.04	0.0001
MOK4-6350	L145-305	3705	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6351	L145-306	3706	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	19.36	0.0002
MOK4-6352	L145-307	3708	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6353	L145-308	3709	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6354	L145-309	3710	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6355	L145-310	3711	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	23.92	1	SBIY	83.84	0
MOK4-6356	L145-311	3712	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6357	L145-312	3713	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6358	L145-313	3714	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6359	L145-314	3715	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6360	L145-315	3716	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6361	L145-316	3717	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.29	0.9999	SBIY	31.37	0.0001
MOK4-6362	L145-317	3718	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6363	L145-318	3719	和田鷹山群	WDTY	WDTY	8.46	1	WDKB	37.38	0
MOK4-6364	L145-319	3720	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6365	L145-320	3721	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6366	L145-321	3722	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6367	L145-322	3723	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6368	L145-323	3724	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.2	1	SBIY	61.46	0
MOK4-6369	L145-324	3725	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6370	L145-325	3726	和田美蓉ライト群	*WDTY	WDHY	4.17	0.6822	WDTY	8.12	0.3178
MOK4-6371	L145-326	3727	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6372	L145-327	3728	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.21	1	HNKI	209.42	0
MOK4-6373	L145-328	3729	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6374	L145-329	3730	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6375	L145-330	3731	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.52	1	SBIY	63.75	0
MOK4-6376	L145-331	3732	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6377	L145-332	3733	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6378	L145-333	3734	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	26.33	1	SBIY	80.94	0
MOK4-6379	L145-334	3735	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.03	1	WDTN	80.29	0
MOK4-6380	L145-335	3736	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.66	1	WDTN	111.84	0
MOK4-6381	L145-336	3737	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6382	L145-337	3738	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6383	L145-338	3739	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.41	1	SBIY	47.1	0
MOK4-6384	L145-339	3740	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.97	1	SBIY	83.96	0
MOK4-6385	L145-340	3741	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.3	0.9907	WDHY	13.2	0.0093
MOK4-6386	L145-341	3742	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6387	L145-342	3743	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.12	1	SBIY	74.4	0
MOK4-6388	L145-343	3744	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6389	L145-344	3745	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6390	L145-345	3746	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.21	1	SBIY	74.17	0
MOK4-6391	L145-346	3747	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.53	1	SBIY	61.13	0
MOK4-6392	L145-347	3748	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.27	1	HNKI	204.77	0
MOK4-6393	L145-348	3749	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6394	L145-349	3750	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6395	L145-350	3751	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.59	1	SBIY	71.09	0
MOK4-6396	L145-351	3752	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6397	L145-352	3753	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.3	1	SBIY	56.35	0
MOK4-6398	L145-353	3754	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6399	L145-354	3755	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.25	1	SBIY	75.32	0
MOK4-6400	L145-355	3756	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6401	L145-356	3757	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6402	L145-357	3758	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6403	L145-358	3759	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6404	L145-359	3760	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6405	L145-360	3761	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6406	L145-361	3762	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6407	L145-362	3763	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.36	1	SBIY	76.41	0
MOK4-6408	L145-363	3764	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.13	1	WDTN	110.09	0
MOK4-6409	L145-364	3765	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6410	L145-365	3766	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6411	L145-366	3767	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6412	L145-367	3768	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6413	L145-368	3769	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.12	1	WDHY	21.47	0
MOK4-6414	L145-369	3770	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6415	L145-370	3771	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6416	L145-371	3772	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.53	1	SBIY	115.04	0
MOK4-6417	L145-372	3773	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6418	L145-373	3774	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6419	L145-374	3775	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.41	1	WDKB	25.76	0
MOK4-6420	L145-375	3776	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6421	L145-376	3777	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.61	1	WDTN	73.24	0
MOK4-6422	L145-377	3778	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6423	L145-378	3779	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6424	L145-379	3780	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6425	L145-380	3781	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6426	L145-381	3782	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6427	L145-382	3783	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6428	L145-383	3784	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.43	1	SBIY	46.62	0
MOK4-6429	L145-384	3786	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6430	L145-385	3787	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6431	L145-386	3788	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6432	L145-387	3789	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.53	1	SBIY	46.12	0
MOK4-6433	L145-388	3790	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.93	1	SBIY	89.78	0
MOK4-6434	L145-389	3791	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.39	1	HNKI	83.45	0
MOK4-6435	L145-390	3792	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6436	L145-391	3794	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6437	L145-392	3795	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6438	L145-393	3796	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.23	1	SBIY	58.72	0
MOK4-6439	L145-394	3797	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6440	L145-395	3798	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6441	L145-396	3799	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6442	L145-397	3800	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.56	1	WDTN	107.32	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6443	L145-398	3802	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6444	L145-399	3803	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6445	L145-400	3804	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.28	1	SBIY	56.71	0
MOK4-6446	L145-401	3805	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6447	L145-402	3806	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6448	L145-403	3807	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6449	L145-404	3808	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6450	L145-405	3809	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6451	L145-406	3810	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6452	L145-407	3811	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6453	L145-408	3812	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6454	L145-409	3813	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6455	L145-410	3814	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6456	L145-411	3815	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6457	L145-412	3816	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6458	L145-413	3817	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6459	L145-414	3818	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6460	L145-415	3819	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6461	L145-416	3820	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6462	L145-417	3821	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6463	L145-418	3822	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6464	L145-419	3823	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6465	L145-420	3824	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6466	L145-421	3825	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6467	L145-422	3826	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6468	L145-423	3827	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6469	L145-424	3828	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6470	L145-425	3829	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	26.13	1	SBIY	98.58	0
MOK4-6471	L145-426	3830	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6472	L145-427	3831	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6473	L145-428	3832	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.52	1	SBIY	107.52	0
MOK4-6474	L145-429	3833	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6475	L145-430	3834	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.19	1	SBIY	126.89	0
MOK4-6476	L145-431	3835	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6477	L145-432	3836	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6478	L145-433	3837	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.91	1	SBIY	64.68	0
MOK4-6479	L145-434	3838	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6480	L145-435	3839	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.05	1	SBIY	51.39	0
MOK4-6481	L145-436	3840	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6482	L145-437	3841	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6483	L145-438	4842	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6484	L145-439	3843	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6485	L145-440	3844	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6486	L145-441	3845	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.23	1	SBIY	77.67	0
MOK4-6487	L145-442	3846	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6488	L145-443	3847	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6489	L145-444	3848	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6490	L145-445	3849	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6491	L145-446	3850	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6492	L145-447	3851	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6493	L145-448	3852	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6494	L145-449	3853	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.67	1	SBIY	45.03	0
MOK4-6495	L145-450	3854	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6496	L145-451	3855	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.39	1	WDKB	28.15	0
MOK4-6497	L145-452	3856	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6498	L145-453	3857	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.41	1	HNKI	47.16	0
MOK4-6499	L145-454	3858	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6500	L145-455	3859	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	22.06	1	WDTN	64.31	0
MOK4-6501	L145-456	3860	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6502	L145-457	3861	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.35	1	SBIY	55.93	0
MOK4-6503	L145-458	3862	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.75	1	SBIY	43.53	0
MOK4-6504	L145-459	3863	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.74	1	SBIY	58.65	0
MOK4-6505	L145-460	3864	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6506	L145-461	3865	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6507	L145-462	3866	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6508	L145-463	3867	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6509	L145-464	3868	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	24.22	1	SBIY	49.76	0
MOK4-6510	L145-465	3869	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.62	1	SBIY	51.8	0
MOK4-6511	L145-466	3870	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.6	1	KZSN	58.38	0
MOK4-6512	L145-467	3871	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6513	L145-468	3872	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6514	L145-469	3873	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.98	1	SBIY	74.94	0
MOK4-6515	L145-470	3874	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6516	L145-471	3875	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6517	L145-472	3876	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6518	L145-473	3877	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.61	1	SBIY	55.79	0
MOK4-6519	L145-474	3878	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6520	L145-475	3879	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6521	L145-476	3880	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MOK4-6522	L145-477	3881	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MOK4-6523	L145-478	3882	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6524	L145-479	3897	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.34	1	KZSN	35.58	0
MOK4-6525	L145-480	4070	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.39	1	WDTN	86.15	0
MOK4-6526	L145-481	5241	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.88	1	HNKI	89.65	0
MOK4-6527	L145-482	7155	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.42	1	SBIY	109.81	0
MOK4-6528	L145-483	7250	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7	1	SBIY	62.99	0
MOK4-6529	L145-484	7656	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.24	1	KZSN	37.02	0
MOK4-6530	L145-485	7783	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.16	1	SBIY	60.1	0
MOK4-6531	L145-486	7784	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.05	1	HNKI	142.87	0
MOK4-6532	L145-487	7785	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.07	1	SBIY	84.96	0
MOK4-6533	L145-488	7820	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MOK4-6534	L145-489	7835	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.26	1	HNKI	69.24	0
MOK4-6535	L145-490	7945	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.09	1	KZSN	49.75	0
MOK4-6536	L145-491	8074	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.58	1	HNKI	178.62	0
MOK4-6537	L145-492	8320	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8	1	SBIY	89.26	0
MOK4-6538	L145-493	8382	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.5	1	KZSN	40.64	0
MOK4-6539	L145-494	8555	高原山甘湯沢群	THAY	THAY	1.04	1	NYHA	120.84	0
MOK4-6540	L145-495	8561	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.49	1	SBIY	101.73	0
MOK4-6541	L145-496	8600	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.2	1	HNKI	113.89	0
MOK4-6542	L145-497	8612	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.93	1	HNKI	107.95	0
MOK4-6543	L145-498	8613	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.8	1	HNKI	115.85	0
MOK4-6544	L145-499	8614	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.91	1	SBIY	79.45	0
MOK4-6545	L145-500	8617	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.3	1	KZSN	35.28	0
MOK4-6546	L145-501	8618	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.59	1	HNKI	99.1	0
MOK4-6547	L145-502	8636	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.2	1	HNKI	172.69	0
MOK4-6548	L145-503	8637	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.29	1	HNKI	95.65	0
MOK4-6549	L145-504	8642	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.27	1	KZSN	46.9	0
MOK4-6550	L145-505	8645	天城柏峠群	AGKT	AGKT	11.4	1	HNKT	121.15	0
MOK4-6551	L145-506	8650	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.52	1	HNKI	117.94	0
MOK4-6552	L145-507	8651	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.68	1	SBIY	79.27	0
MOK4-6553	L145-508	8652	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.45	1	SBIY	100.02	0
MOK4-6554	L145-509	8653	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.72	1	HNKI	87.23	0
MOK4-6555	L145-510	8654	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.33	1	KZSN	41.76	0
MOK4-6556	L145-511	8655	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.84	0.9999	TSHG	15.84	0.0001
MOK4-6557	L145-512	8657	天城柏峠群	AGKT	AGKT	24.94	1	HNKT	141.08	0
MOK4-6558	L145-513	8658	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.15	1	SBIY	67.59	0
MOK4-6559	L145-514	8659	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.27	1	HNKI	152.92	0
MOK4-6560	L145-515	8665	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.14	1	HNKI	209.04	0
MOK4-6561	L145-516	8672	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.34	1	WDTN	87.98	0
MOK4-6562	L145-517	8680	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.13	1	HNKT	92.6	0
MOK4-6563	L145-518	8681	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.44	1	SBIY	112.19	0
MOK4-6564	L145-519	8684	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.28	1	HNKI	93.52	0
MOK4-6565	L145-520	8695	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	23.16	1	SBIY	112.72	0
MOK4-6566	L145-521	8706	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.66	1	SBIY	47.48	0
MOK4-6567	L145-522	8708	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.08	1	SBIY	107.28	0
MOK4-6568	L145-523	8709	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.85	1	HNKI	80.09	0
MOK4-6569	L145-524	8713	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.8	1	HNKI	138.22	0
MK07-4446	L145-525	181	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.47	1	HNKT	122.99	0
MK07-4447	L145-526	234	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.08	1	KZSN	46.41	0
MK07-4448	L145-527	252	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.27	1	HNKI	114.54	0
MK07-4449	L145-528	257	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.98	1	WDTN	138.54	0
MK07-4450	L145-529	258	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.48	1	HNKT	121.34	0
MK07-4451	L145-530	259	天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.69	1	HNKT	110.55	0
MK07-4452	L145-531	280	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.08	1	KZSN	59.89	0
MK07-4453	L145-532	389	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.57	1	SBIY	108.31	0
MK07-4454	L145-533	484	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.47	1	SBIY	99.06	0
MK07-4455	L145-534	513	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.4	1	SBIY	60.1	0
MK07-4456	L145-535	551	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.42	1	SBIY	117.5	0
MK07-4457	L145-536	609	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.04	1	WDTN	101.12	0
MK07-4458	L145-537	623	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	14.52	1	SBIY	120.92	0
MK07-4459	L145-538	627	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK07-4460	L145-539	655	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.69	1	HNKT	145.54	0
MK07-4461	L145-540	715	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.27	1	SBIY	82.53	0
MK07-4462	L145-541	731	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.53	1	SBIY	134.06	0
MK07-4463	L145-542	836	天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.97	1	HNKT	111.36	0
MK07-4464	L145-543	867	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.28	1	SBIY	98.14	0
MK07-4465	L145-544	890	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.6	1	SBIY	110.97	0
MK07-4466	L145-545	916	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.83	1	SBIY	116.11	0
MK07-4467	L145-546	994	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.87	0.9999	TSHG	15.57	0.0001
MK07-4468	L145-547	1023	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.3	1	SBIY	84.07	0
MK07-4469	L145-548	1062	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.72	1	HNKI	127.07	0
MK07-4470	L145-549	1100	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.17	1	SBIY	76.29	0
MK07-4471	L145-550	1219	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.21	1	SBIY	118.73	0
MK07-4472	L145-551	1237	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.36	1	HNKI	142	0
MK07-4473	L145-552	1336	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.79	1	SBIY	83.31	0
MK07-4474	L145-553	1394	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.1	1	HNKI	138.42	0
MK07-4475	L145-554	1466	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.52	1	SBIY	89.02	0
MK07-4476	L145-555	1484	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.58	1	KZSN	61.87	0
MK07-4477	L145-556	1496	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.38	1	HNKI	143.94	0
MK07-4478	L145-557	1509	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.71	1	HNKT	102.17	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第１候補産地			第２候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK07-4479	L145-558	1624	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	12.47	1	KZSN	67.97	0
MK07-4480	L145-559	1637	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.42	1	SBIY	98.46	0
MK07-4481	L145-560	1914	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.35	1	KZSN	54.05	0
MK07-4482	L145-561	2473	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	3.05	1	KZSN	35.72	0
MK07-4483	L145-562	2502	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.07	1	SBIY	88.3	0
MK07-4484	L145-563	2577	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.31	1	HNKT	125.03	0
MK07-4485	L145-564	2594	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.08	1	KZSN	28.87	0
MK07-4486	L145-565	2749	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.19	1	SBIY	86.52	0
MK07-4487	L145-566	2908	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.35	1	HNKI	93.24	0
MK07-4488	L145-567	2909	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.24	1	HNKI	106.01	0
MK07-4489	L145-568	3097	箱根鍛冶屋群	HNKJ	HNKJ	9.31	0.9996	HNKI	22.44	0.0004
MK07-4490	L145-569	3250	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.41	1	HNKT	113.05	0
MK07-4491	L145-570	4034	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	2.99	1	KZSN	60.35	0
MK07-4492	L145-571	4069	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5.29	1	KZSN	31.11	0
MK07-4493	L145-572	4077	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.26	1	SBIY	76.1	0
MK07-4494	L145-573	4082	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.61	1	SBIY	91.84	0
MK07-4495	L145-574	4083	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	3.05	1	WDTY	40.41	0
MK07-4496	L145-575	4214	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.91	1	KZSN	48.48	0
MK07-4497	L145-576	4220	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.38	1	SBIY	95.98	0
MK07-4498	L145-577	4247	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.68	1	HNKT	101.35	0
MK07-4499	L145-578	4343	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	4.47	1	KZSN	28.98	0
MK07-4500	L145-579	4349	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.35	1	HNKI	152.69	0
MK07-4501	L145-580	4407	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.98	1	HNKT	87.89	0
MK07-4502	L145-581	4736	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.84	1	SBIY	119.66	0
MK07-4503	L145-582	4744	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.54	1	HNKI	135.71	0
MK07-4504	L145-583	4756	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.27	1	SBIY	85.73	0
MK07-4505	L145-584	4853	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.32	1	SBIY	75.77	0
MK07-4506	L145-585	4855	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.43	1	SBIY	92.25	0
MK07-4507	L145-586	4997	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.35	1	KZSN	29.42	0
MK07-4508	L145-587	5100	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9	1	KZSN	72.59	0
MK07-4509	L145-588	5450	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK07-4510	L145-589	6062	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.51	1	SBIY	103.7	0
MK07-4511	L145-590	6356	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.97	1	SBIY	99.75	0
MK07-4512	L145-591	6575	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	9.54	0.9991	KZSN	21.26	0.0009
MK07-4513	L145-592	6578	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.06	1	HNKT	126.43	0
MK07-4514	L145-593	6584	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.52	1	HNKT	135.2	0
MK07-4515	L145-594	7147	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.81	1	HNKI	78.76	0
MK07-4516	L145-595	7237	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	13.49	1	KZSN	33.61	0
MK07-4517	L145-596	7696	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.28	1	SBIY	81.43	0
MK07-4518	L145-597	8009	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	1.41	1	WDTY	35.89	0
MK07-4519	L145-598	8182	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	6.09	1	KZSN	53.37	0
MK07-4520	L145-599	8234	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.7	1	SBIY	74.12	0
MK07-4521	L145-600	8263	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	2.78	0.9994	WDTY	20.18	0.0006

写真図版

NLa及びYLU全景

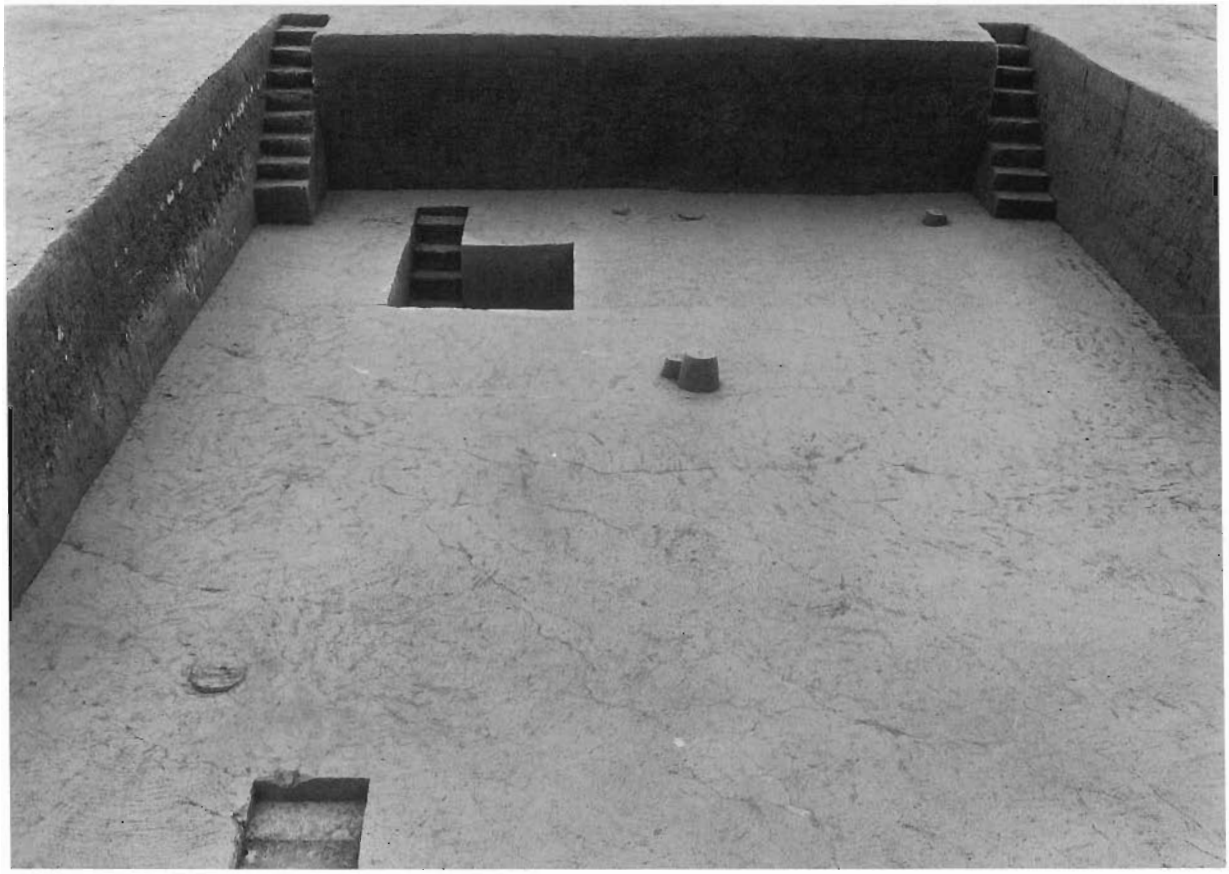
テストピット全景

図版 2

深掘り範囲全景

完掘全景

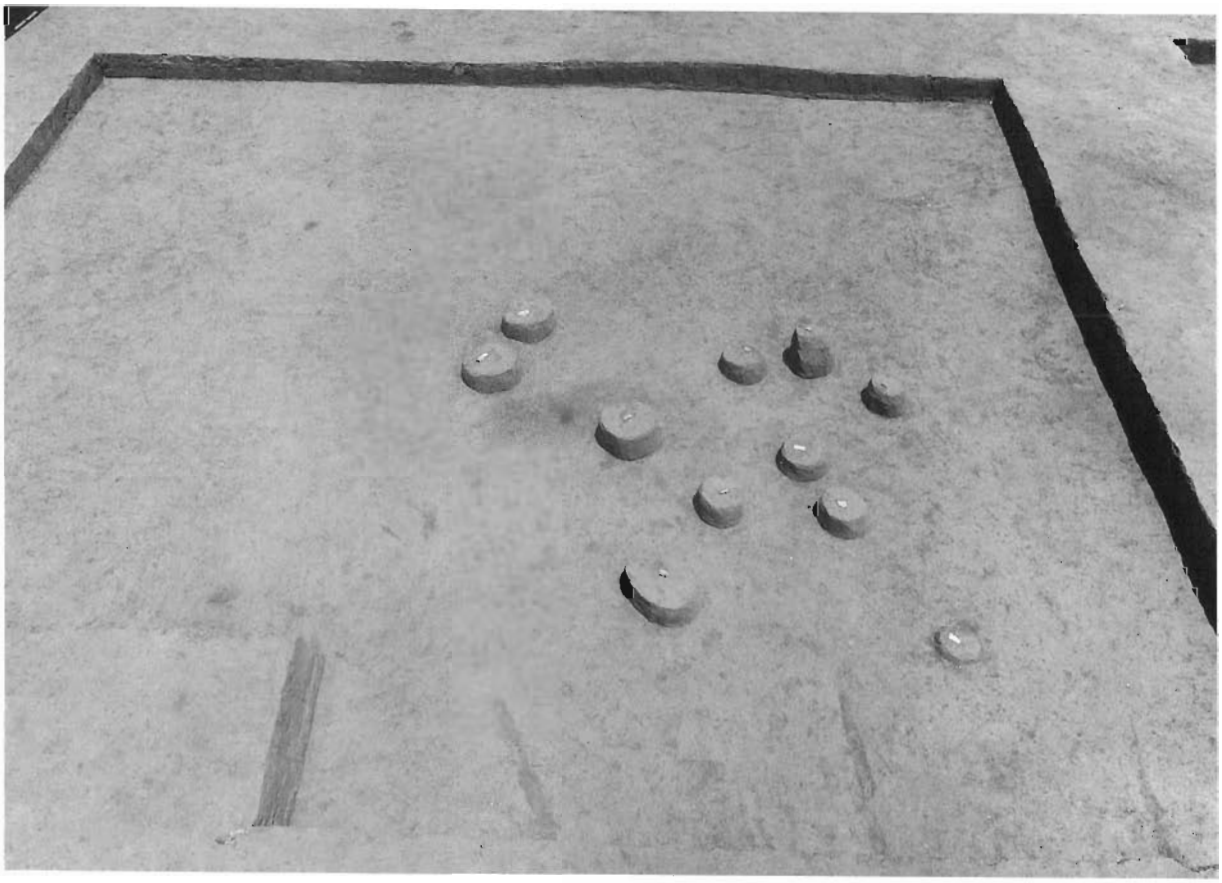
テストピット31遺物出土状況



遺物検出状況（北から）

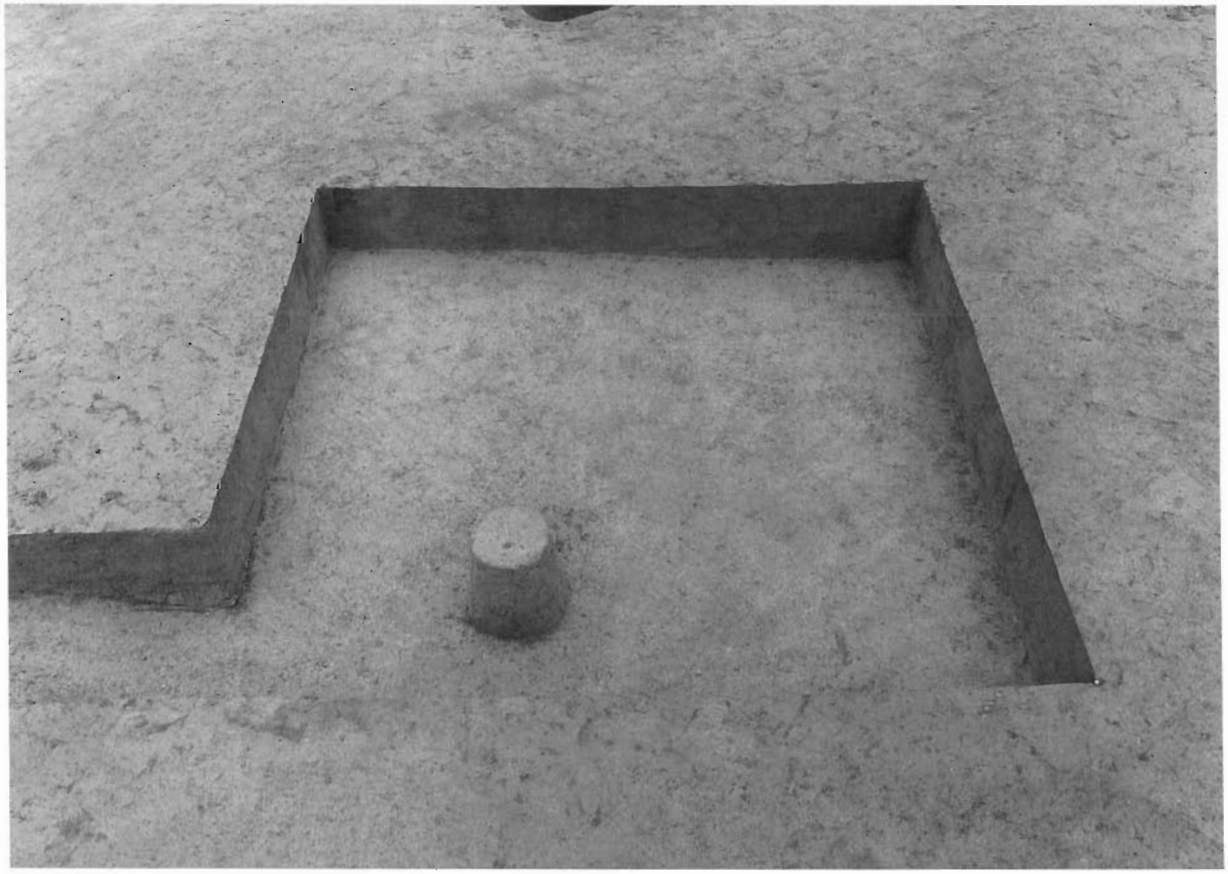
図版 4

遺物検出状況（北東から）



テストピット22遺物検出状況

テストピット27遺物出土状況

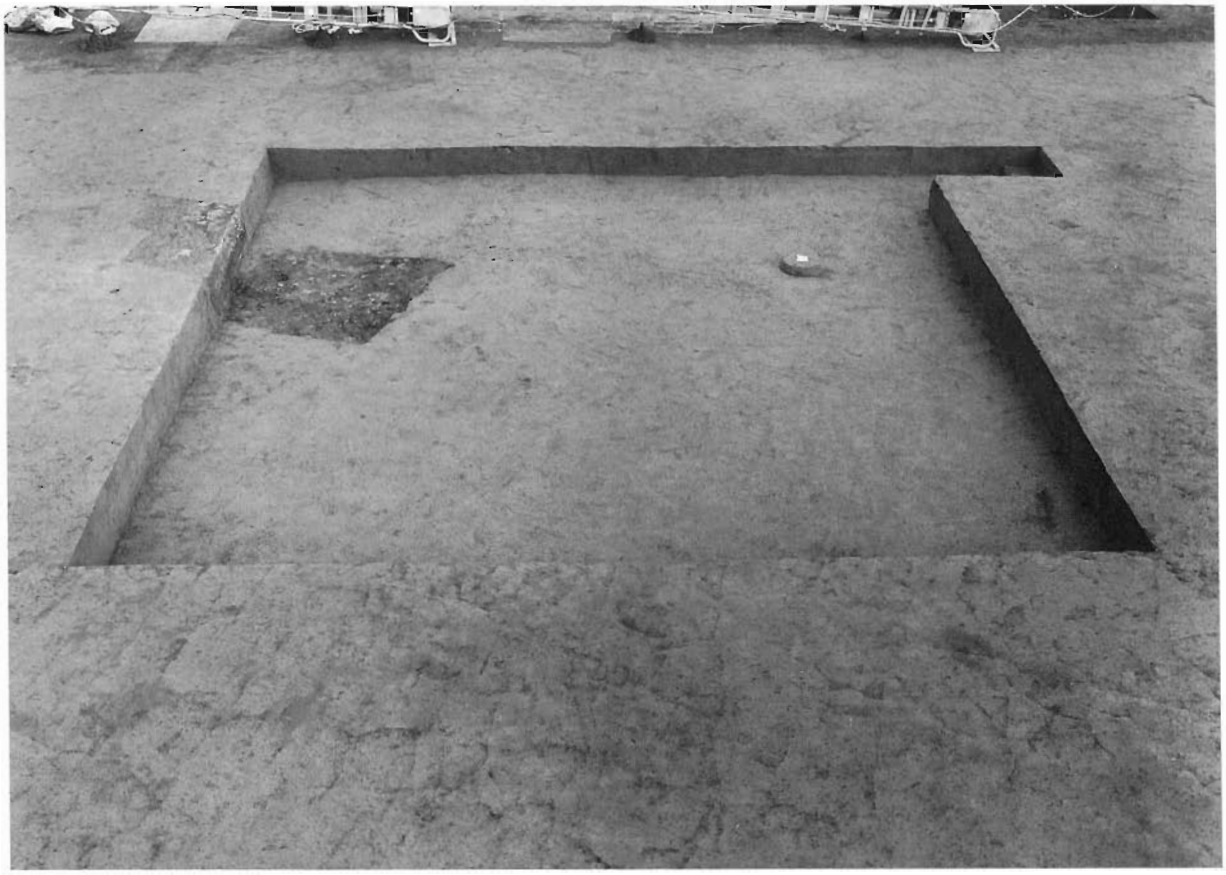


テストピット34遺物出土状況

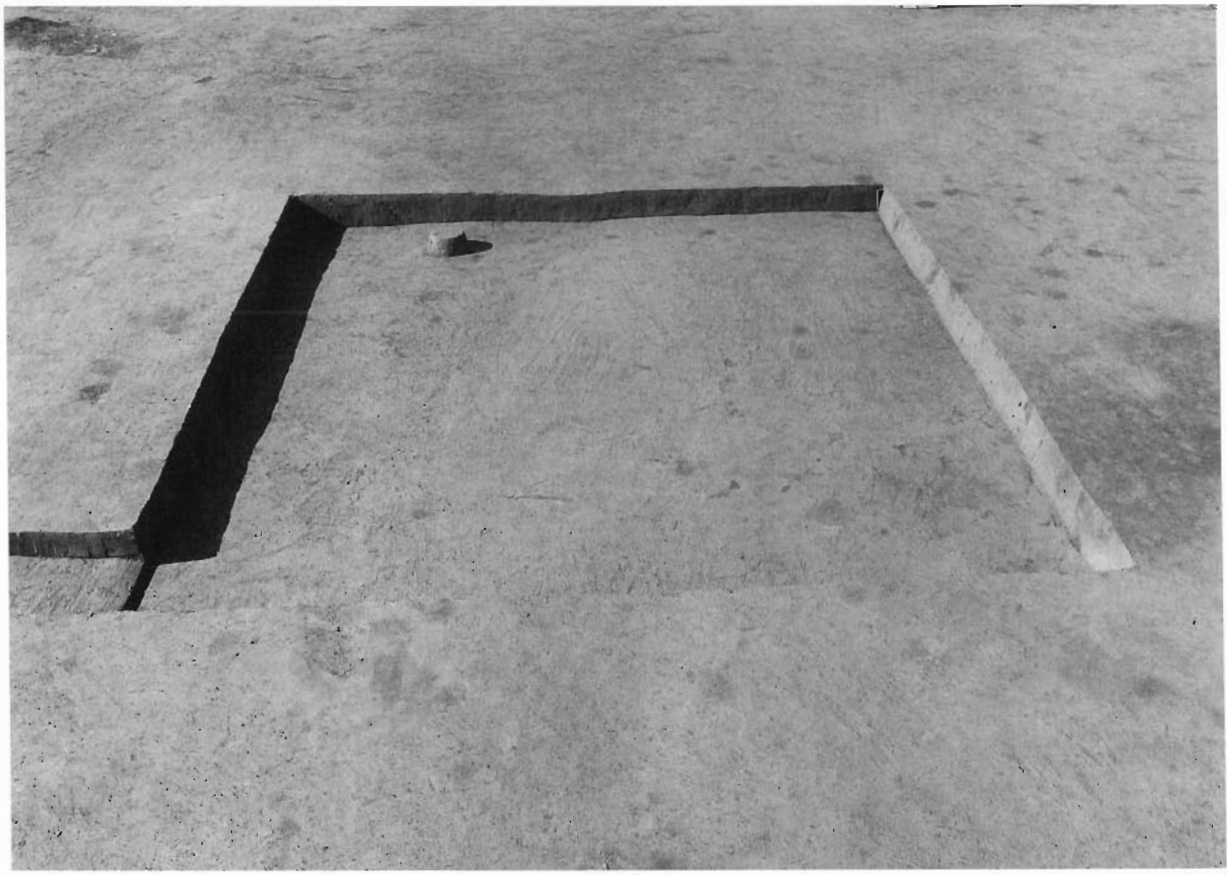
図版 6

テストピット46遺物出土状況

テストピット47遺物出土状況



テストピット48遺物出土状況

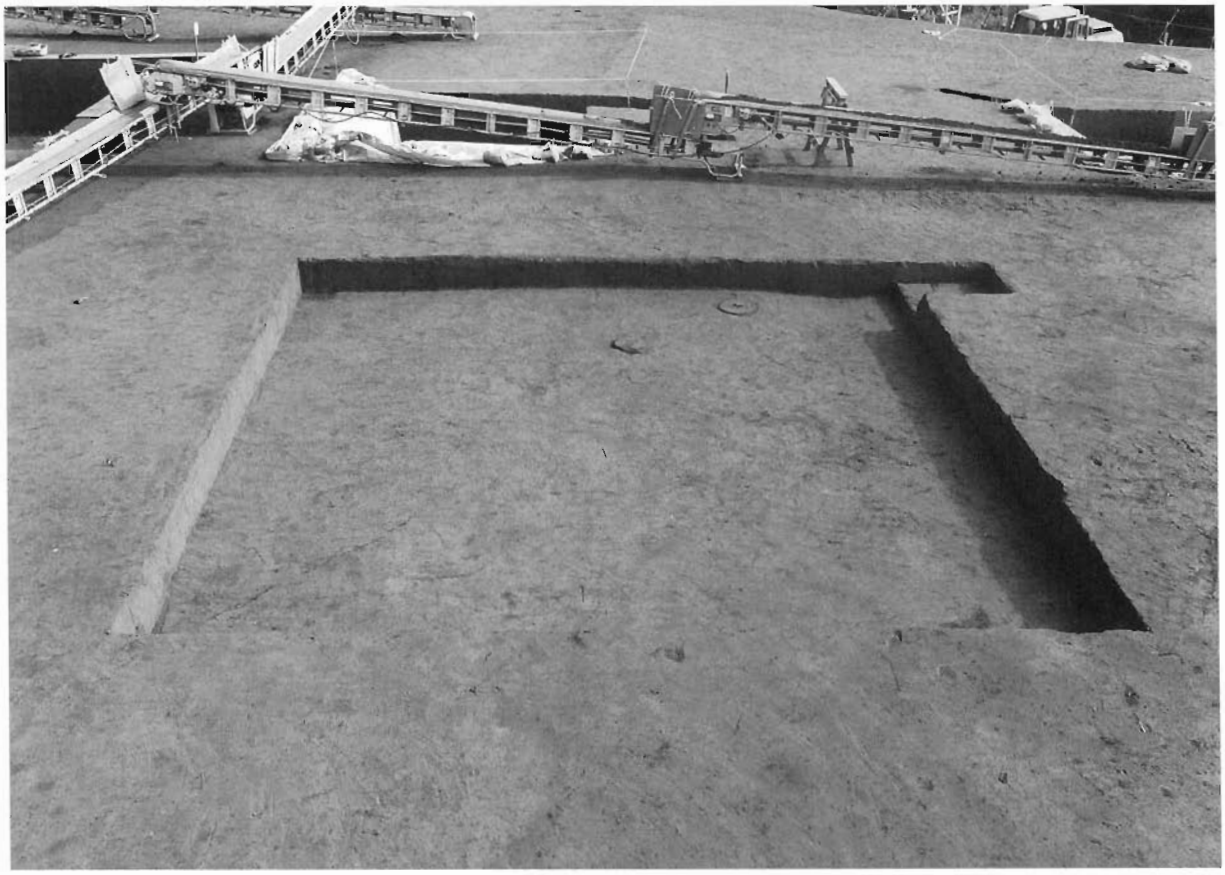


テストピット49遺物出土状況

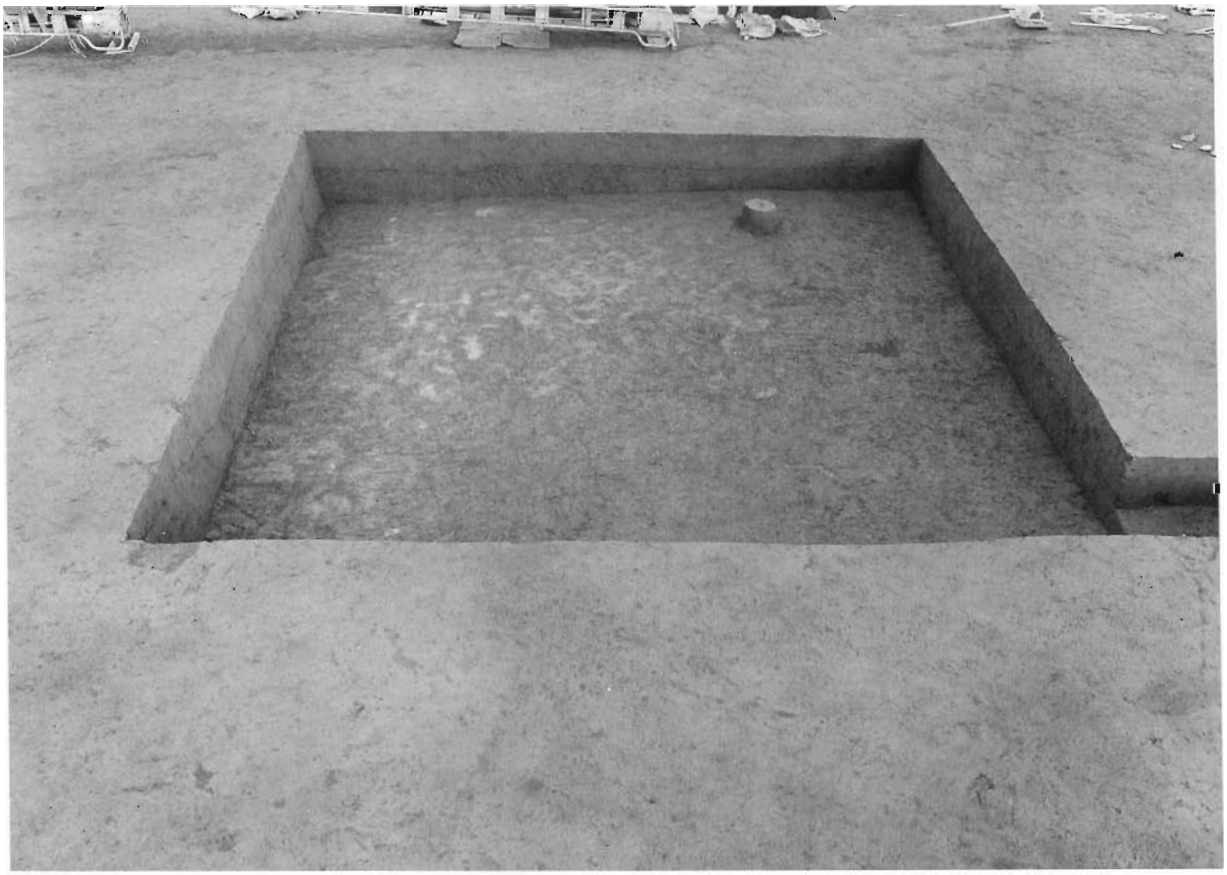
図版 8

テストピット53遺物出土状況（東から）

テストピット53遺物出土状況（西から）



テストピット58遺物出土状況



テストピット62遺物出土状況

図版10

Ｈ５グリッド遺物出土状況

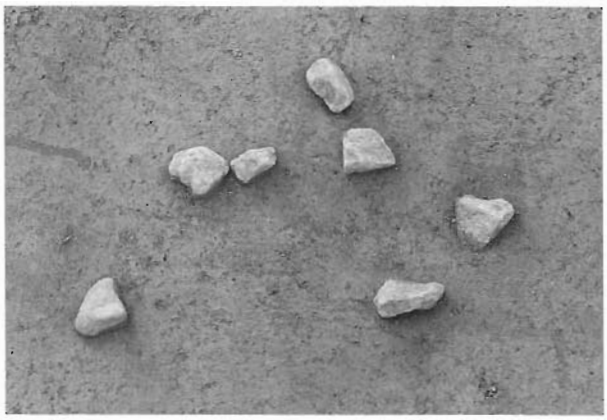
K/L６グリッド遺物出土状況（南東から）

K/L 6 グリッド遺物出土状況（東から）

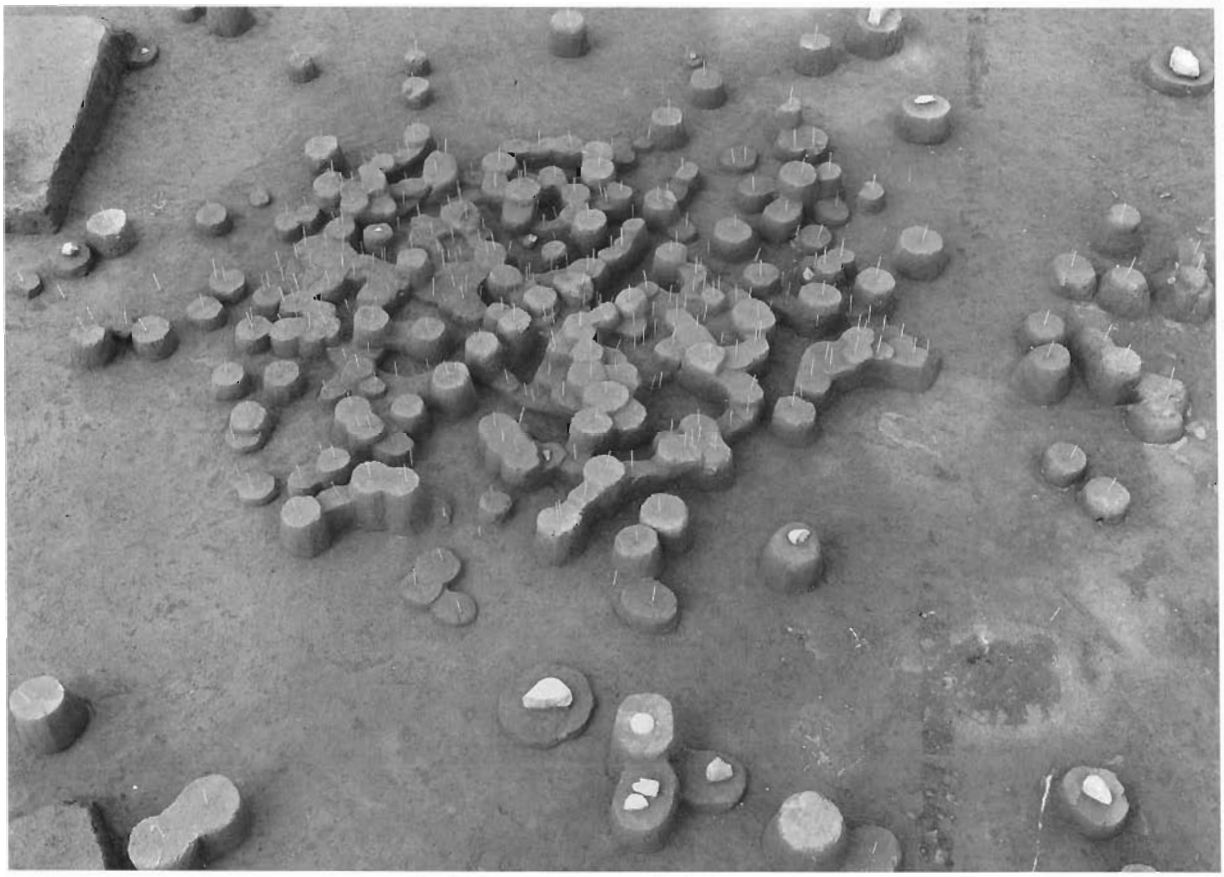
K 6 / 7 グリッド遺物出土状況

図版12

1号礫群検出状況



2号礫群検出状況



E6グリッド黒曜石集中検出状況

石斧集中検出状況

焼土完掘状況

1 号集石検出状況

2 号集石検出状況

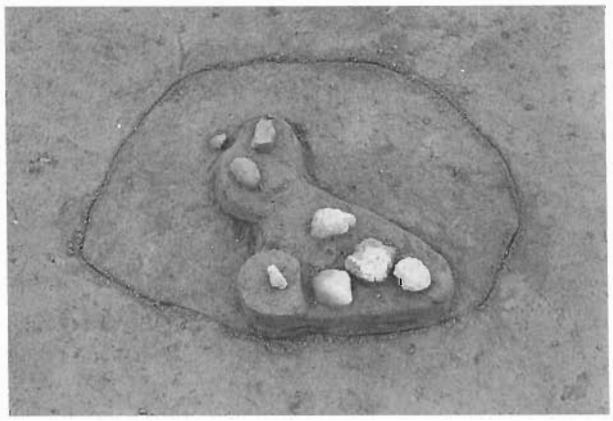
3 号集石検出状況

4 号集石検出状況

5 号集石検出状況

6 号集石出土状況

7 号集石検出状況



8 号集石出土状況

図版14

9 号集石出土状況

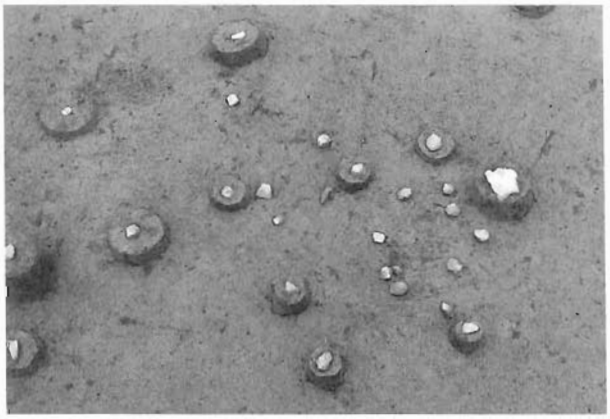
10号集石検出状況

11号集石検出状況

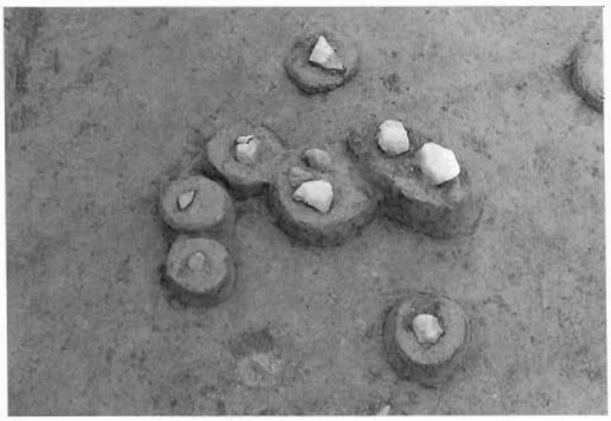
12号集石検出状況

13号集石検出状況

14号集石検出状況

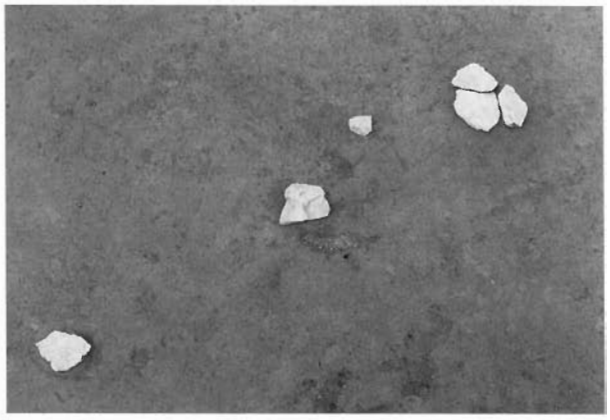


15号集石検出状況



16号集石検出状況

17号集石検出状況



18号集石検出状況

19号集石検出状況

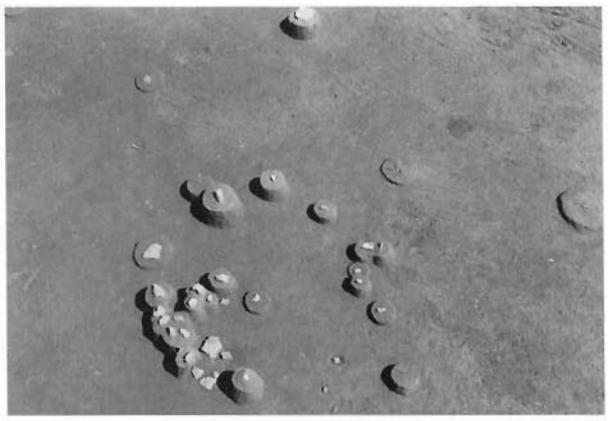
20号集石検出状況

21号集石検出状況

22号集石検出状況

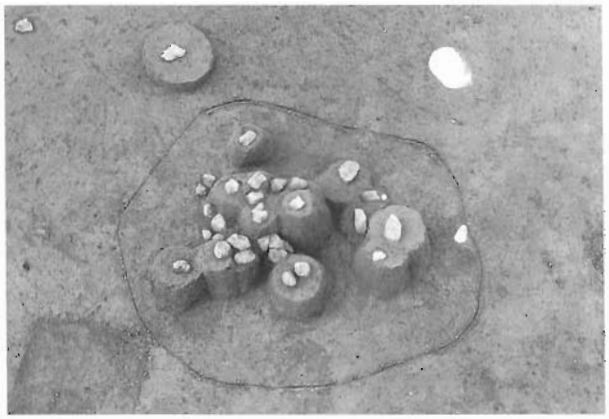
23号集石検出状況

24号集石検出状況



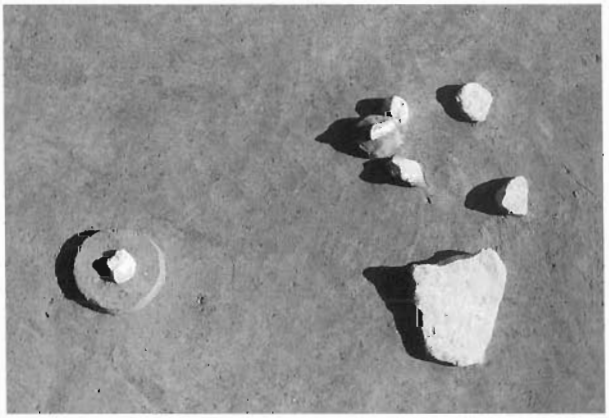
25号集石検出状況

26号集石出土状況

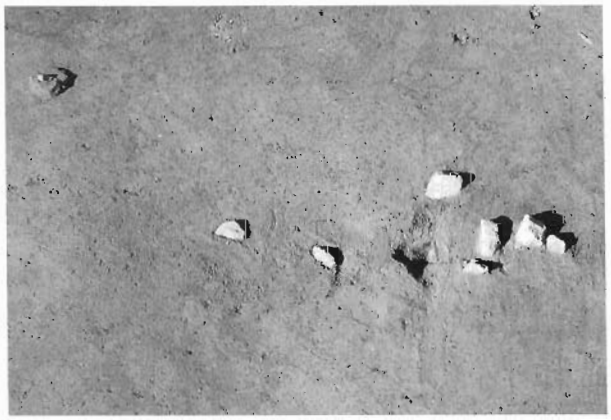


27号集石検出状況

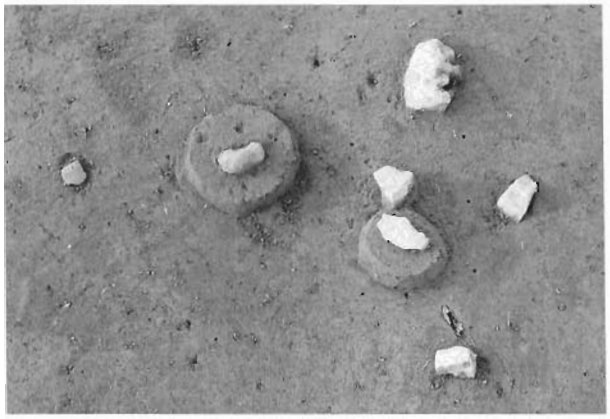
28号集石検出状況



29号集石検出状況



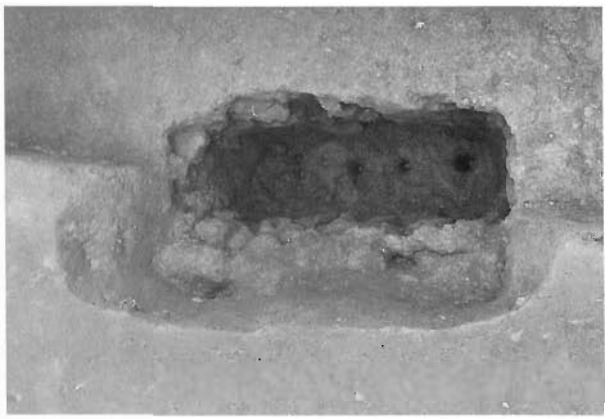
30号集石検出状況



31号集石検出状況

32号集石出土状況

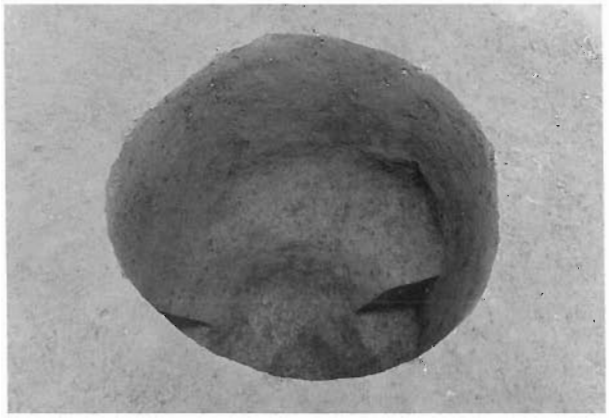
33号集石検出状況



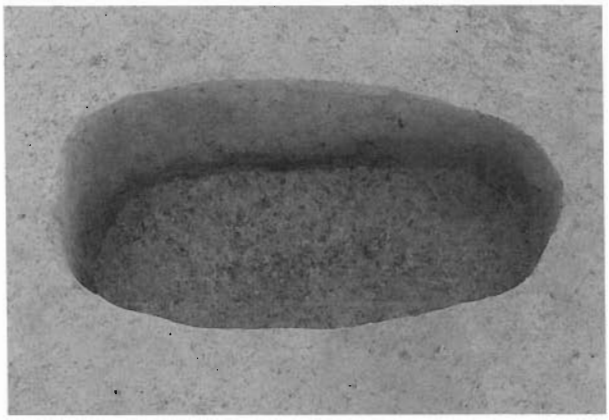
1号土坑完掘状況

1号土坑底面の状況

4号土坑完掘状況



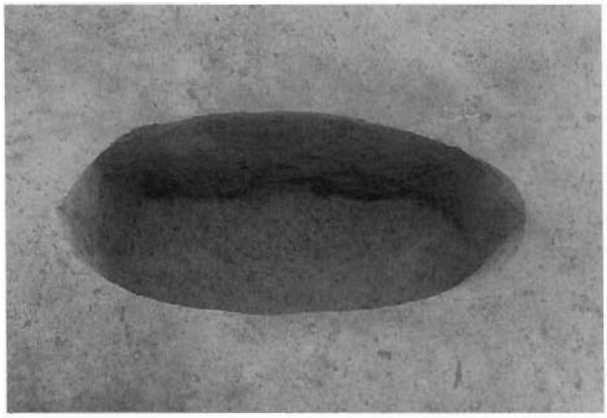
17号土坑完掘状況



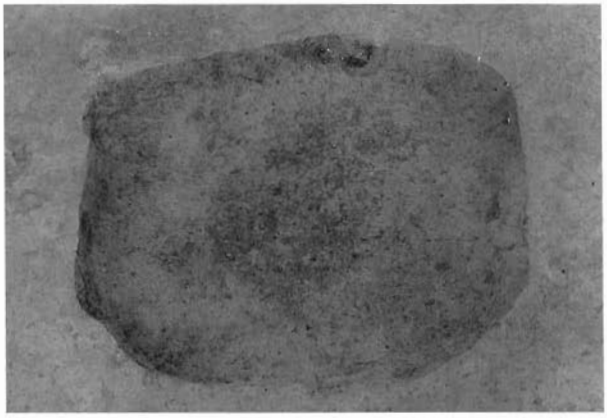
18号土坑完掘状況

19号土坑完掘状況

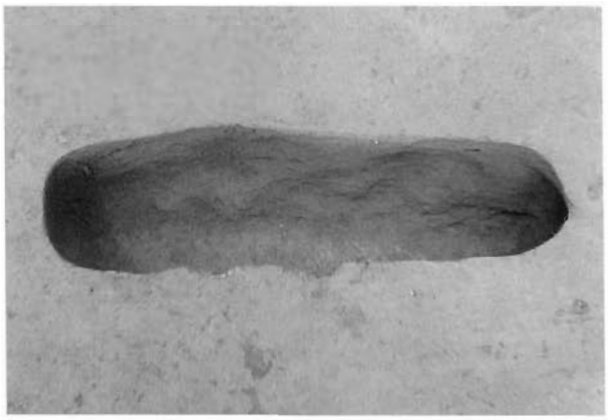
20号土坑完掘状況



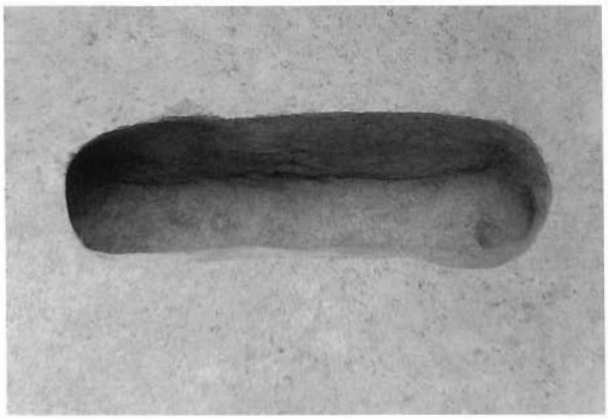
21号土坑完掘状況



22号土坑完掘状況



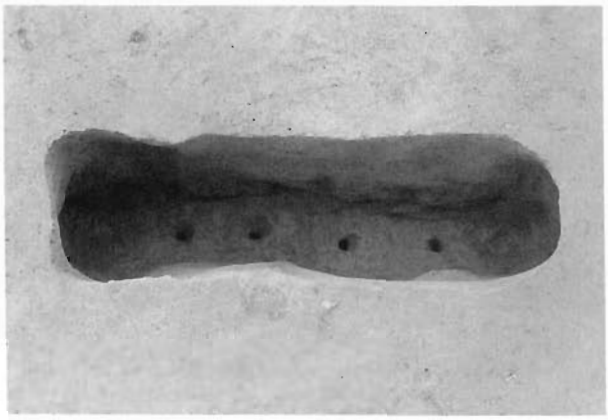
24号土坑完掘状況



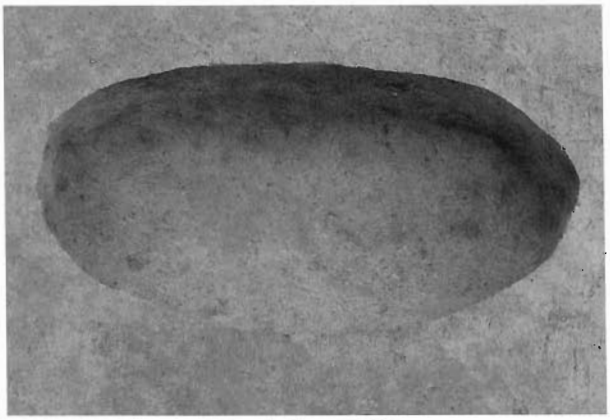
27号土坑完掘状況

28号土坑完掘状況

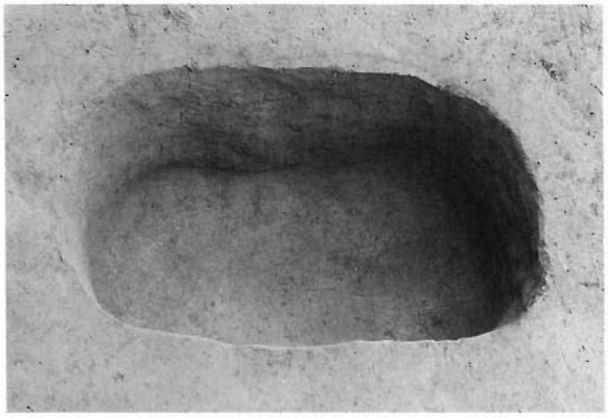
28号土坑裁ち割り断面



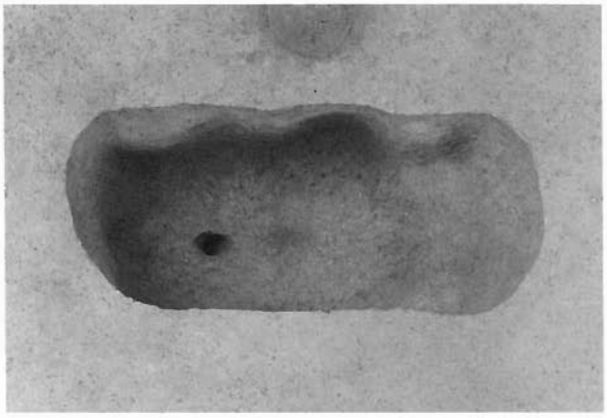
29号土坑完掘状況



30号土坑完掘状況

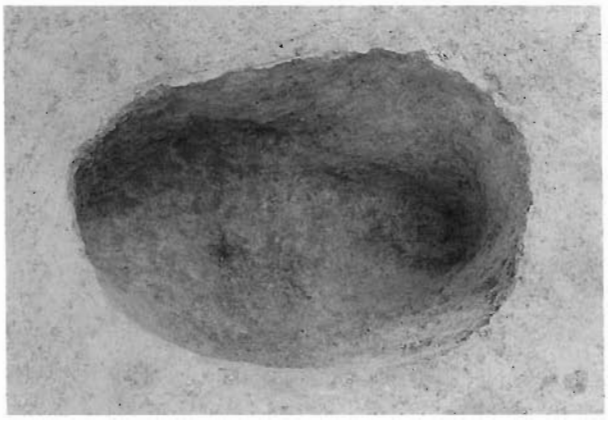


31号土坑完掘状況



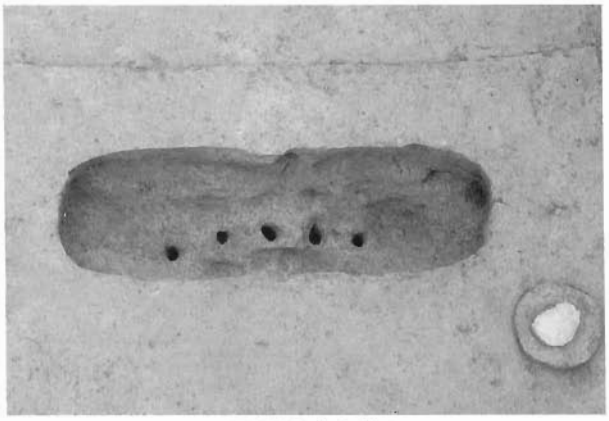
32号土坑完掘状況

33号土坑完掘状況

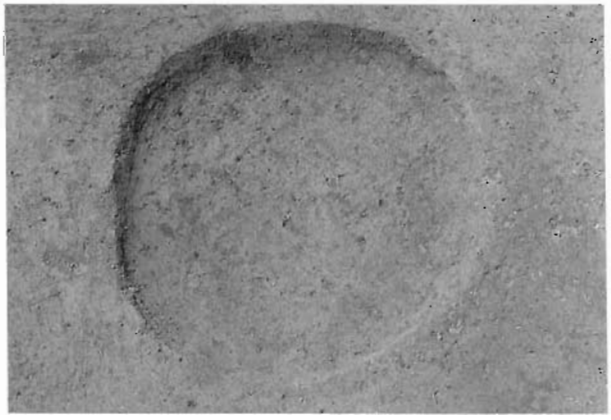


34号土坑完掘状況

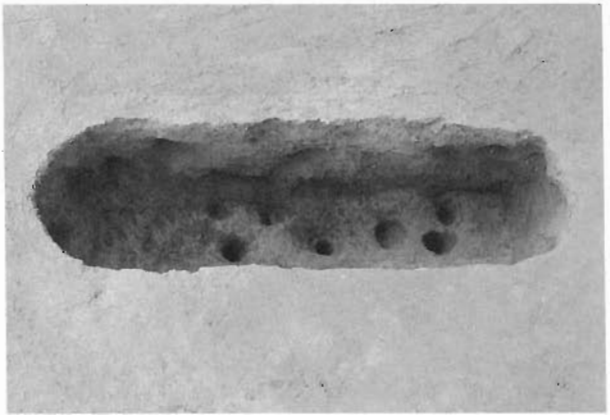
35号土坑完掘状況



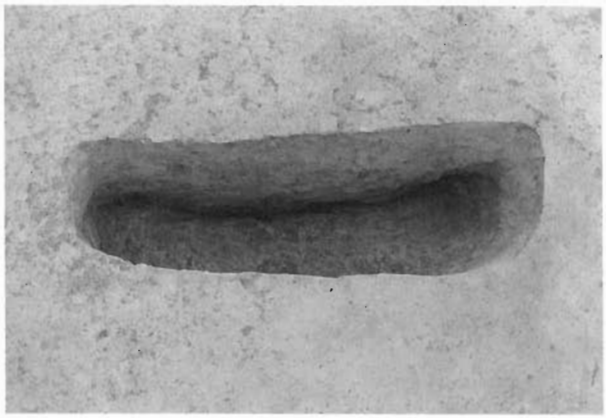
36号土坑完掘状況



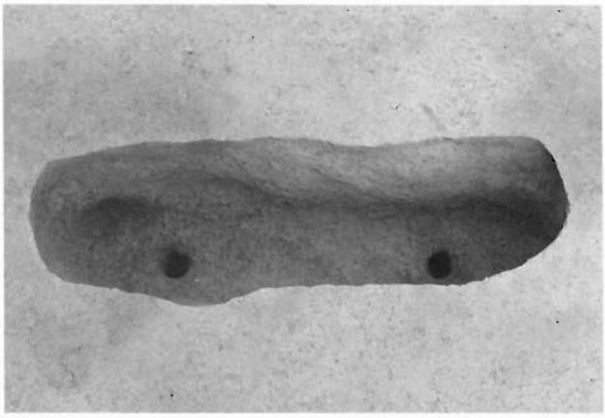
38号土坑完掘状況



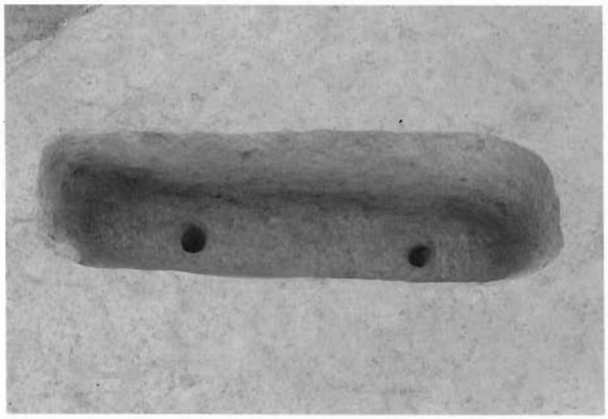
39号土坑完掘状況



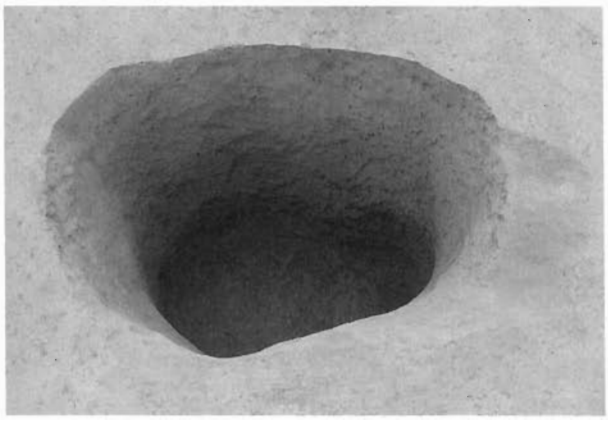
40号土坑完掘状況



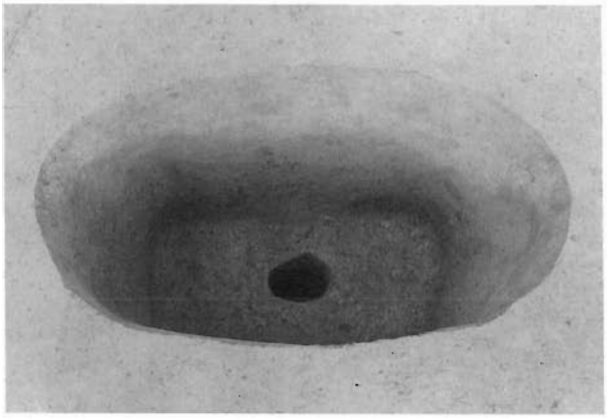
41号土坑完掘状況



42号土坑完掘状況

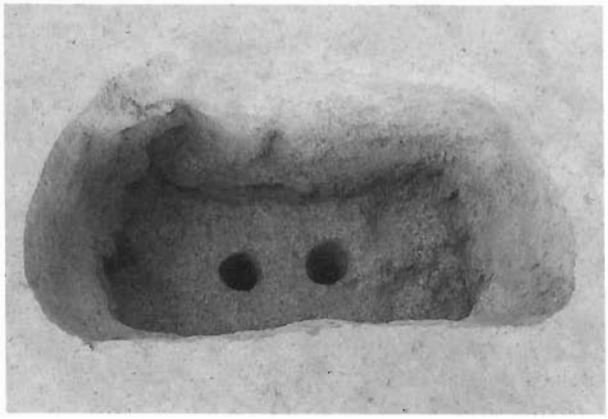


43号土坑完掘状況

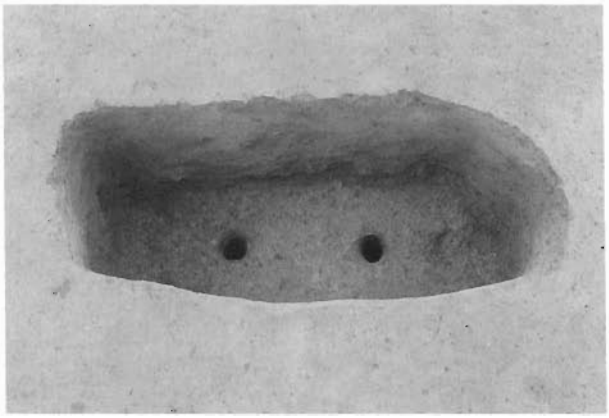


44号土坑完掘状況

45号土坑完掘状況



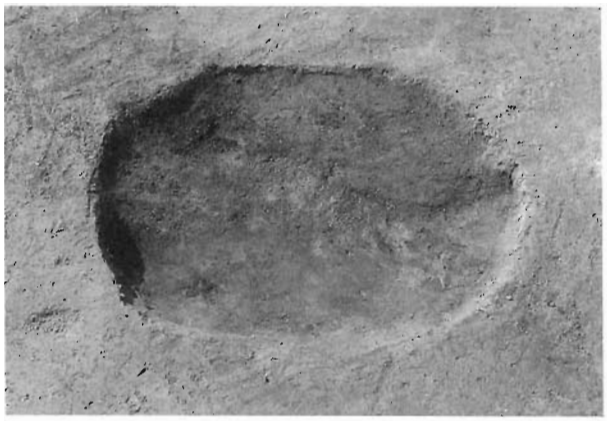
46号土坑完掘状況



47号土坑完掘状況

2 号土坑完掘状況

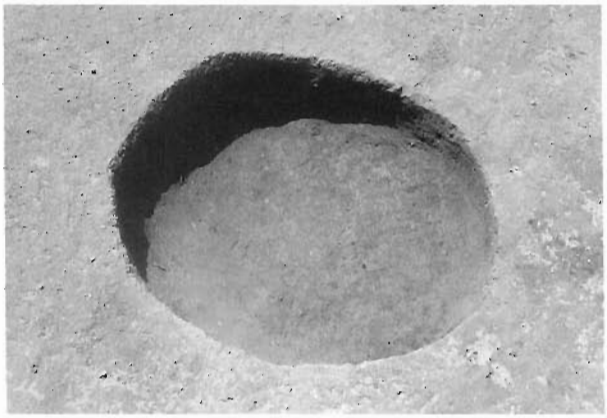
2 号土坑底面の状況



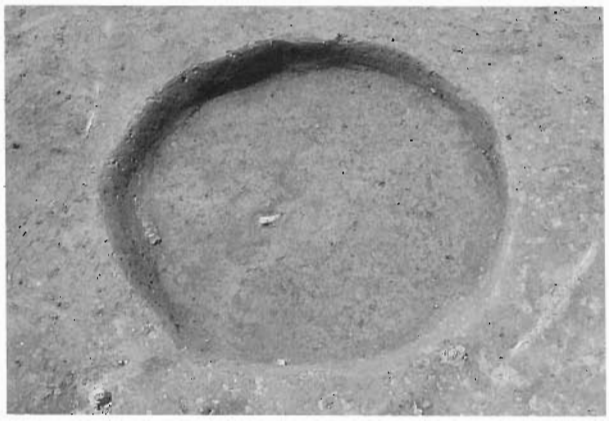
3 号土坑完掘状況

5 号土坑完掘状況

5 号土坑底面の状況

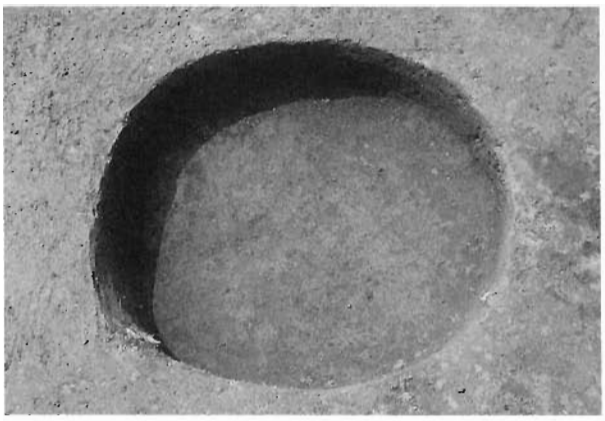


6 号土坑完掘状況

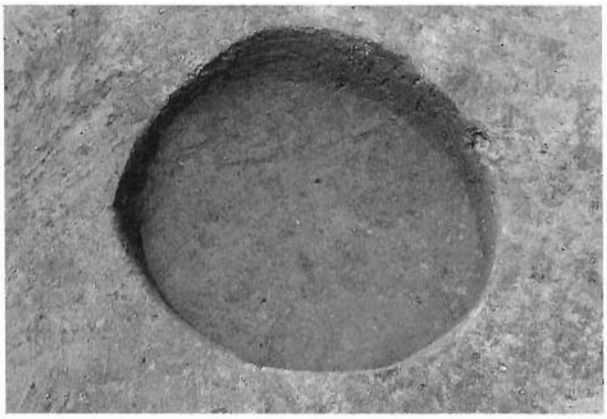


7 号土坑完掘状況

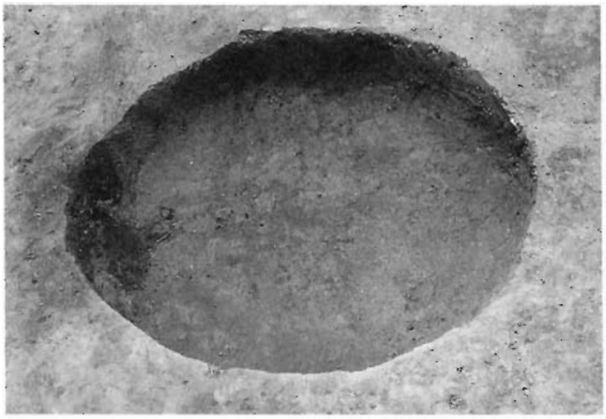
8 号土坑完掘状況



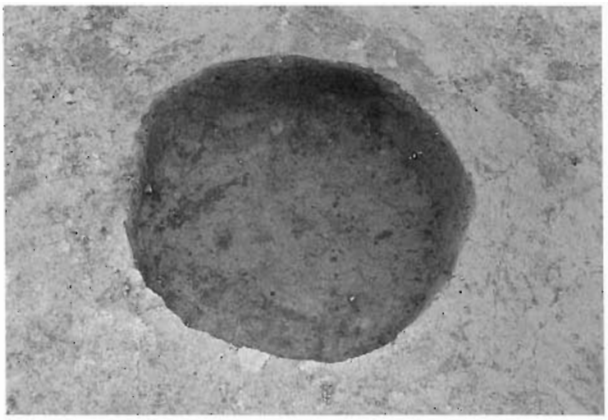
9 号土坑完掘状況



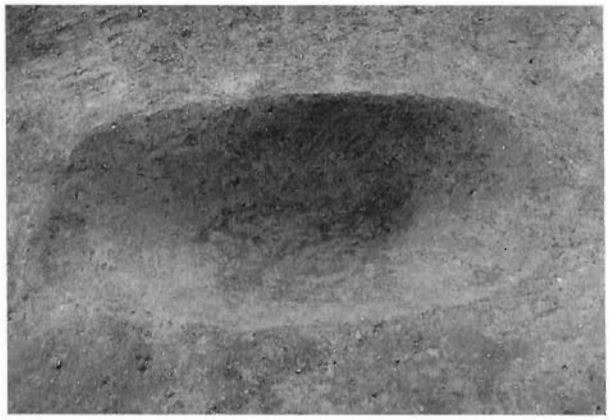
10号土坑完掘状況



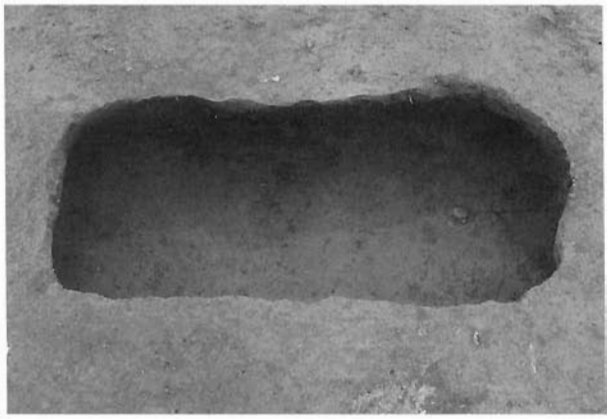
11号土坑完掘状況



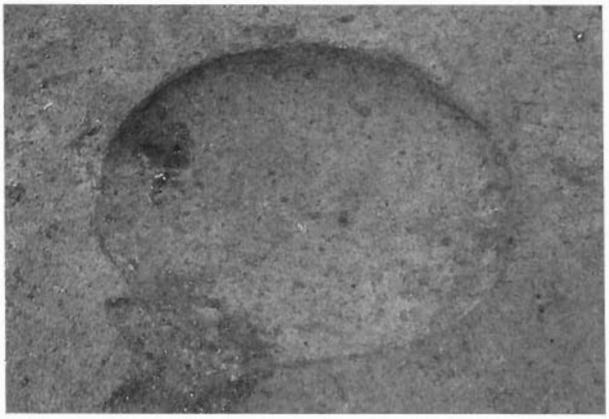
12号土坑完掘状況



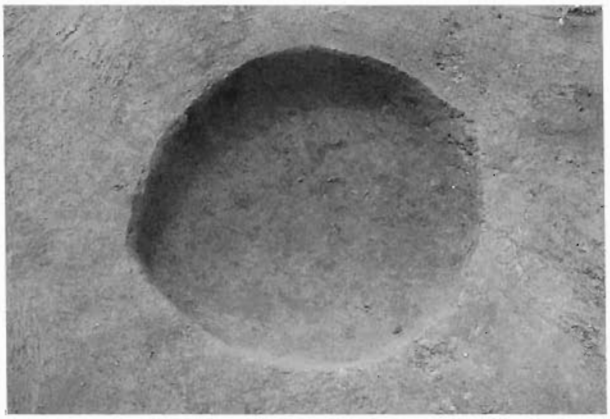
13号土坑完掘状況



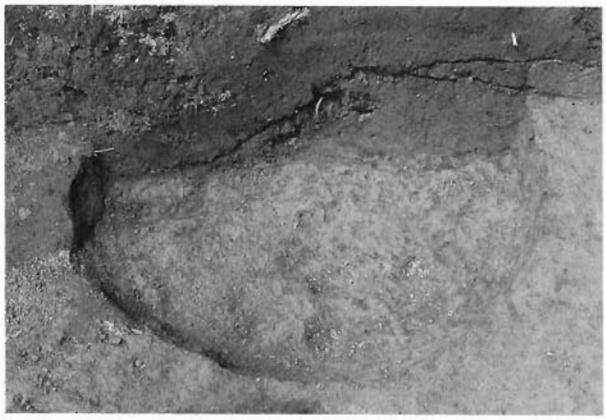
14号土坑完掘状況



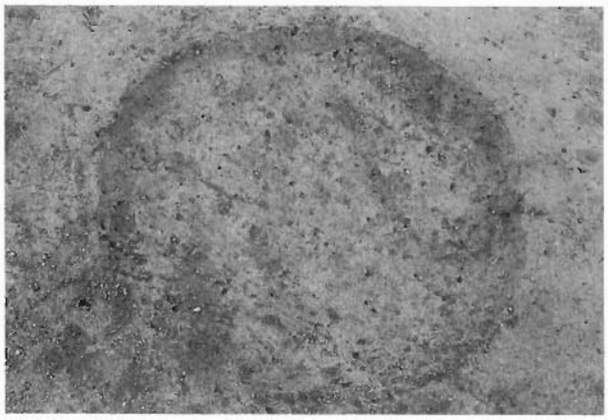
15号土坑完掘状況



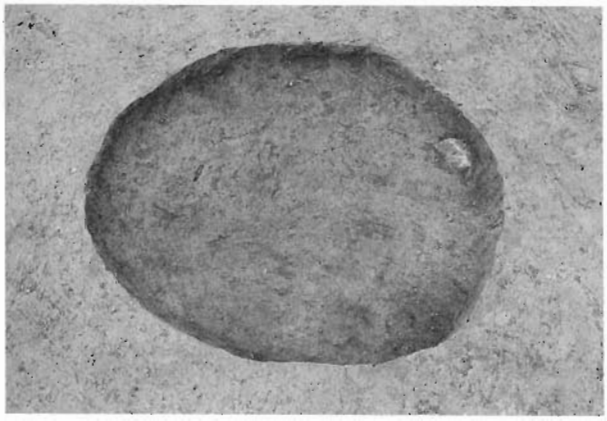
16号土坑完掘状況



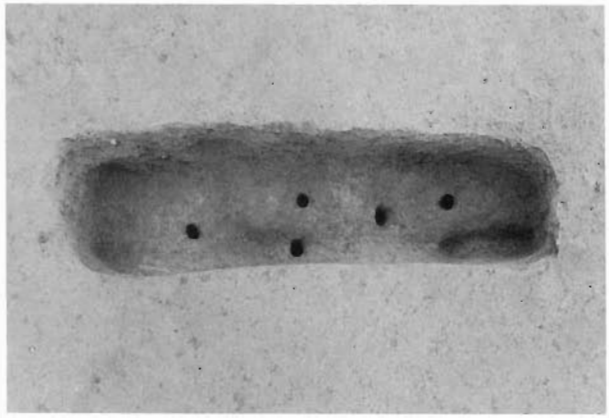
23号土坑完掘状況



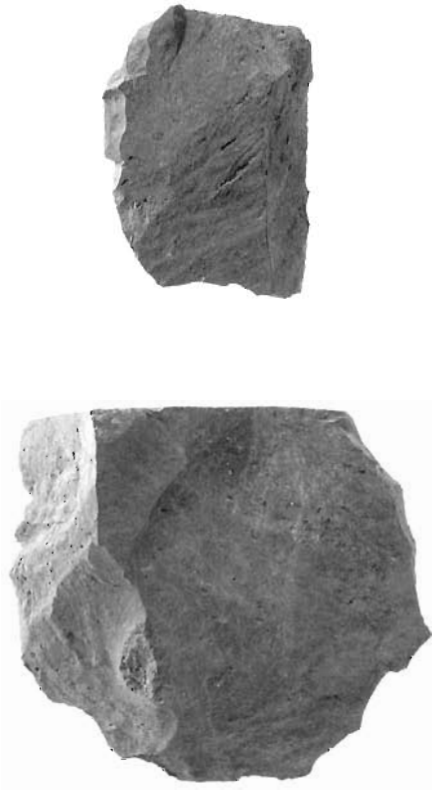
25号土坑完掘状況



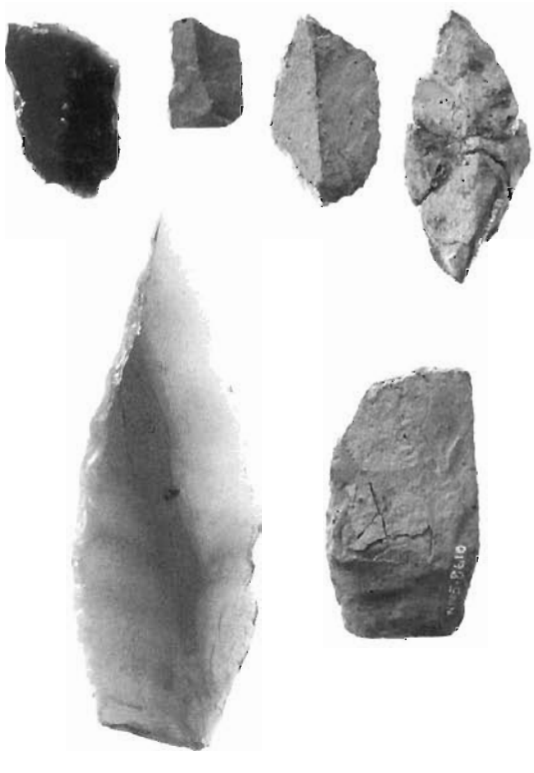
26号土坑完掘状況



37号土坑完掘状況



第Ⅰ文化層の石器群

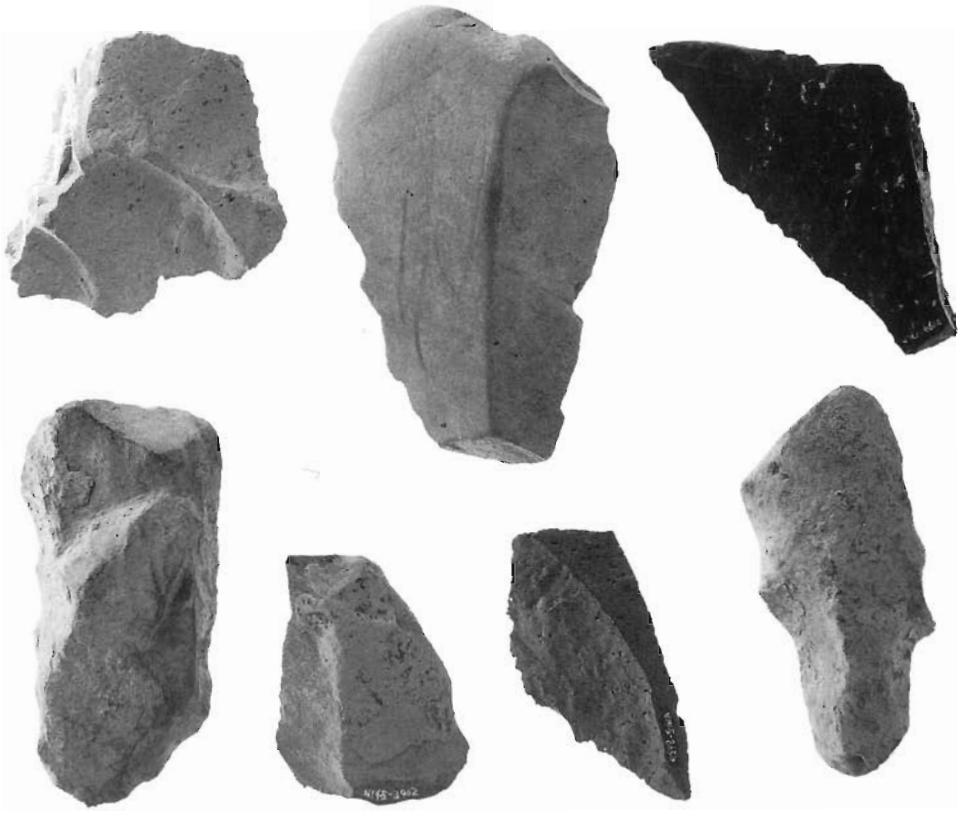


第Ⅱ文化層の石器群

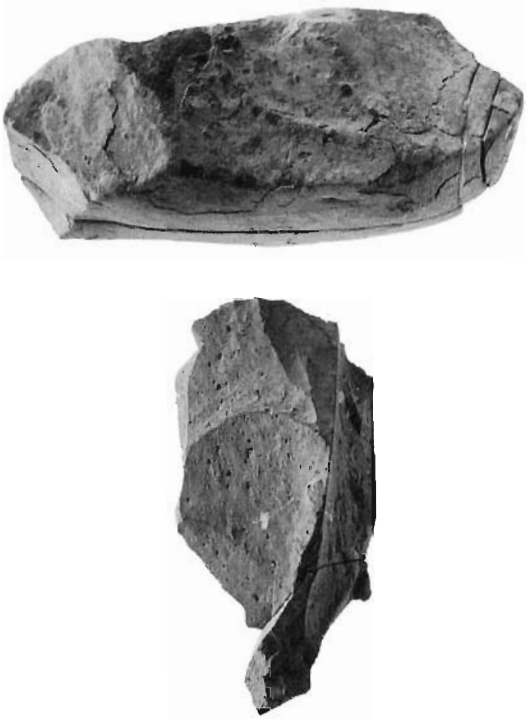
第Ⅲ文化層の石器

第Ⅳ文化層の石器群（1）

第Ⅳ文化層の石器群（2）

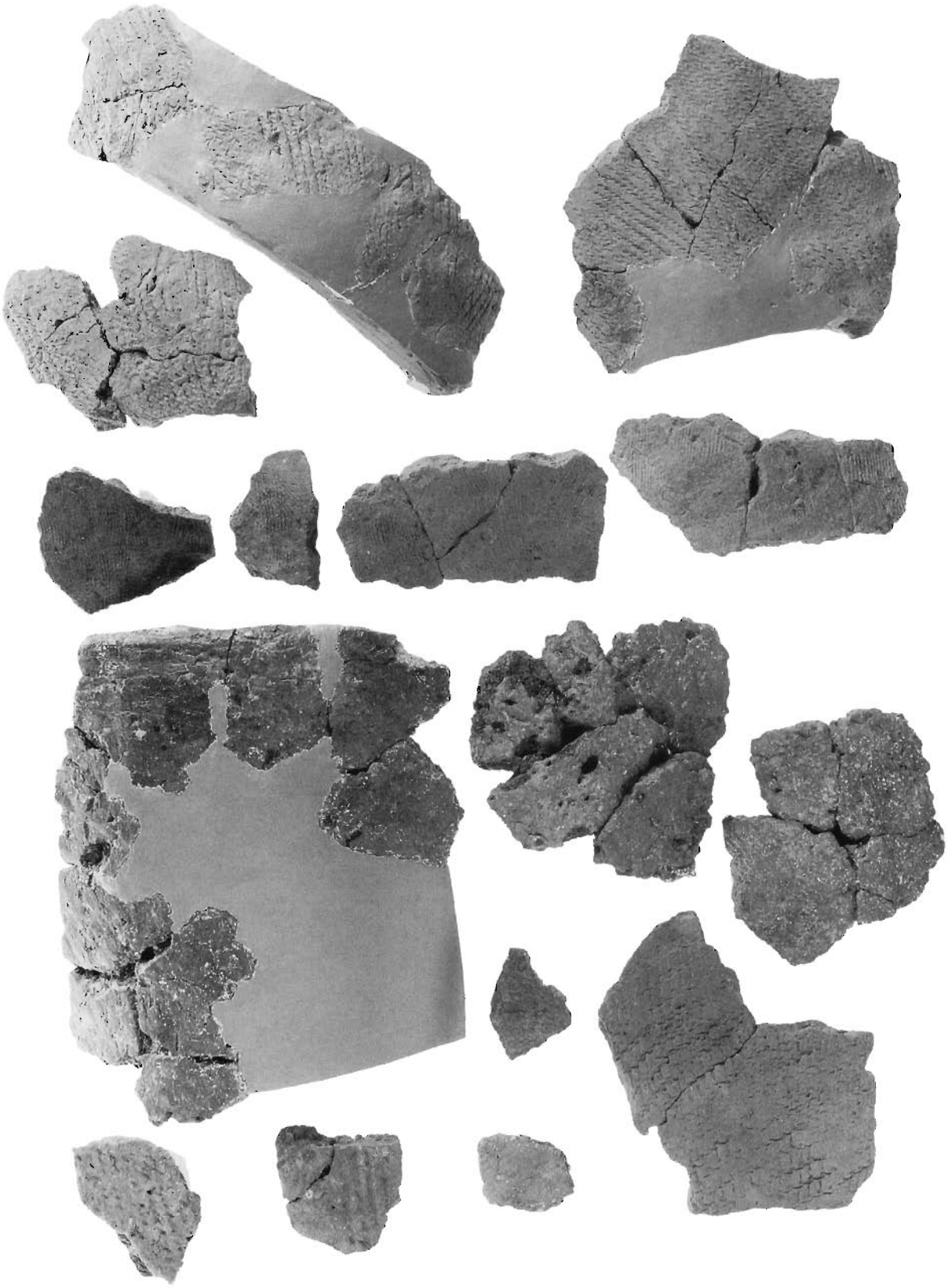


第Ⅳ文化層の石器群（３）

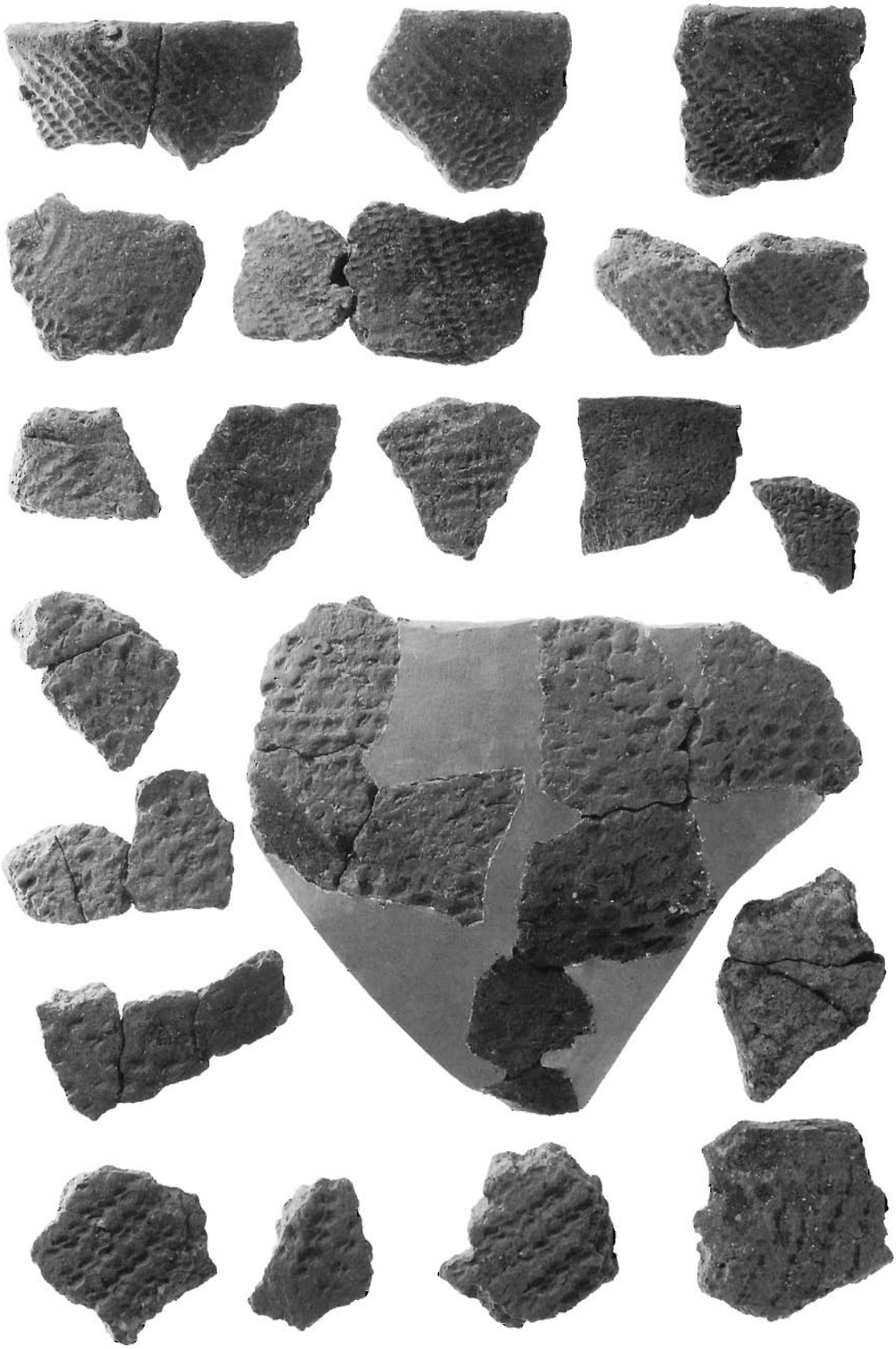


第Ⅳ文化層の石器群（４）

第Ⅳ文化層の石器群（５）



撚糸文土器



早期　縄文土器

判ノ木山西式土器（1）

判ノ木山西式土器（2）

野島式土器（1）

野島式土器（2）

野島式土器（3）

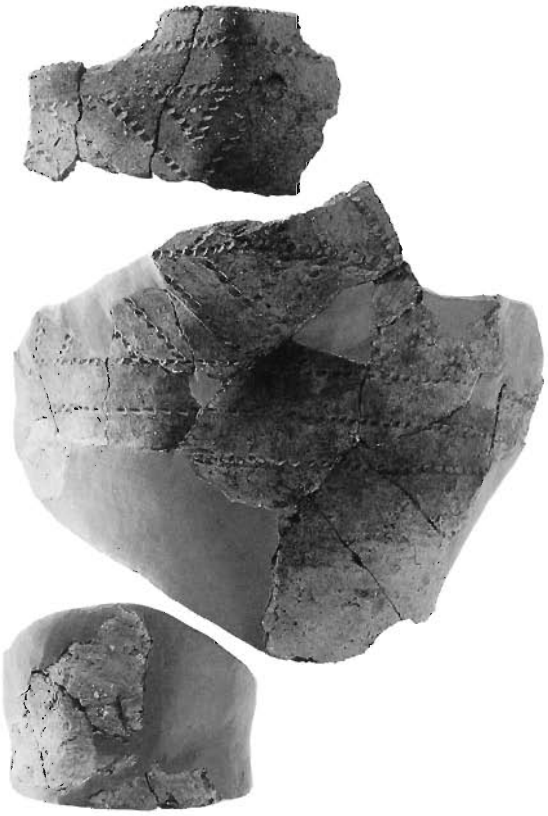
野島式土器（4）

野島式土器（5）

野島式土器（6）

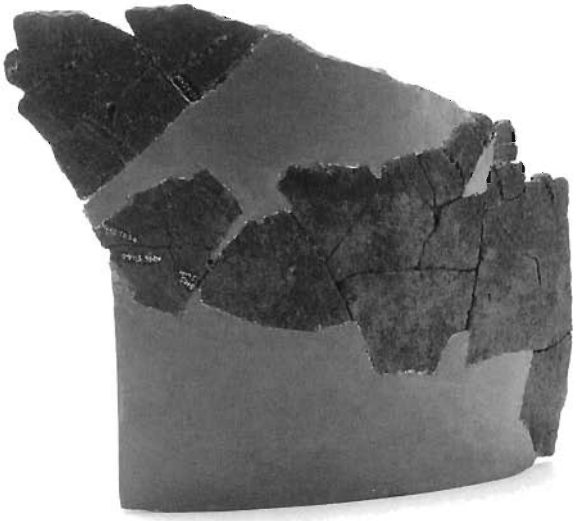
茅山下層式土器（1）

茅山下層式土器（2）

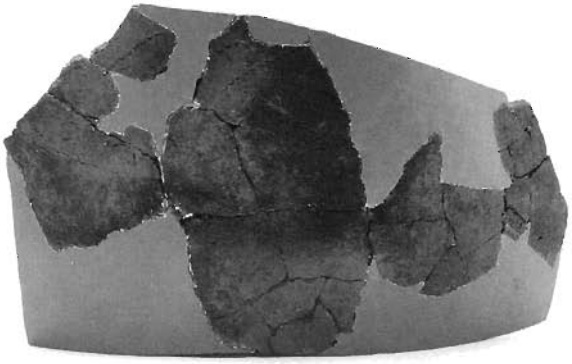


茅山下層式土器（3）

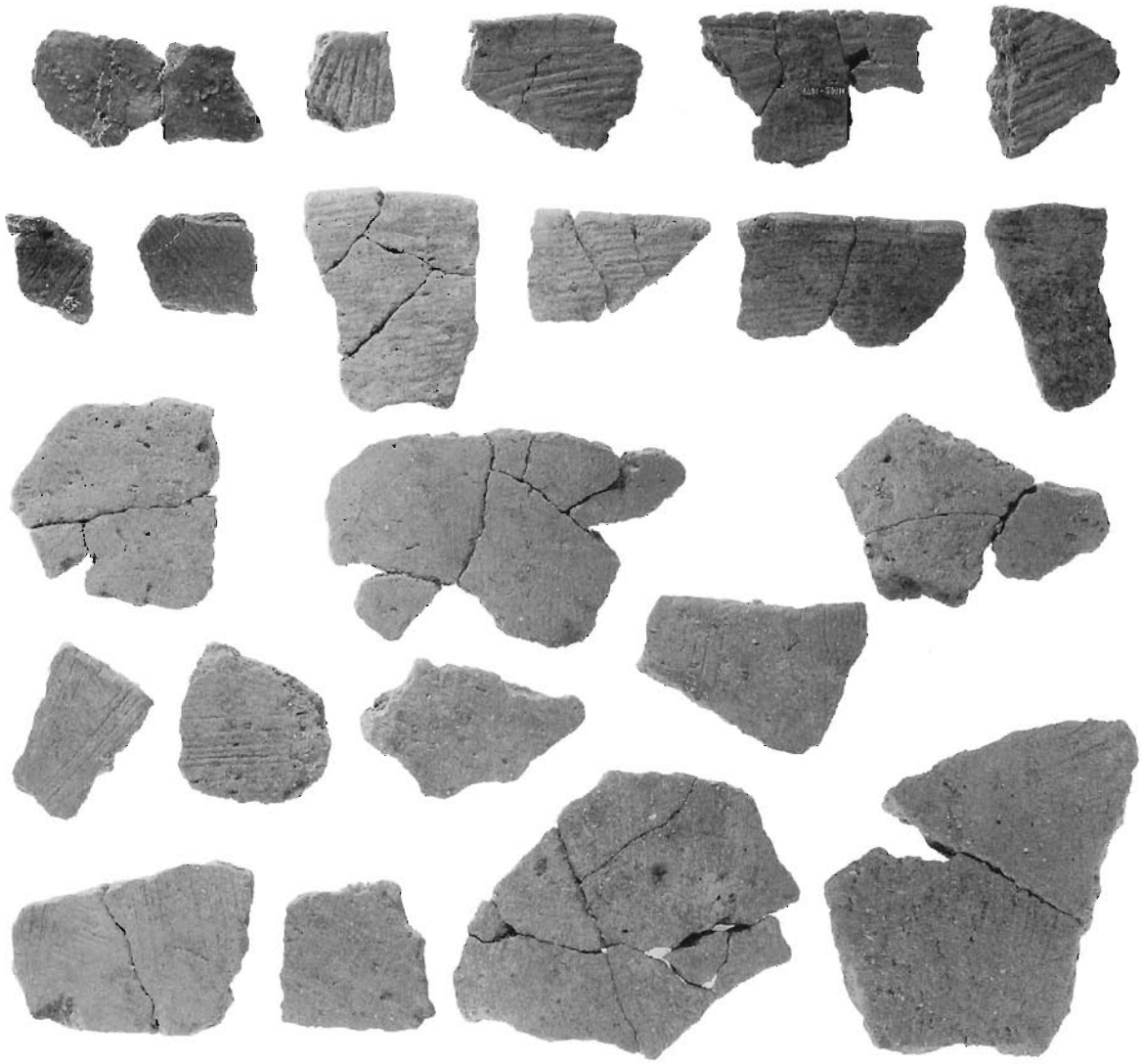
打越式土器（1）



打越式土器（2）



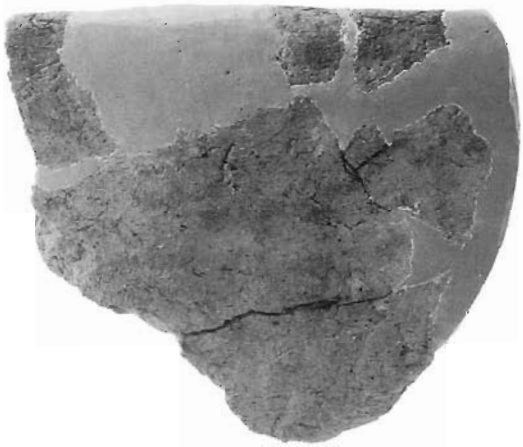
打越式土器（3）



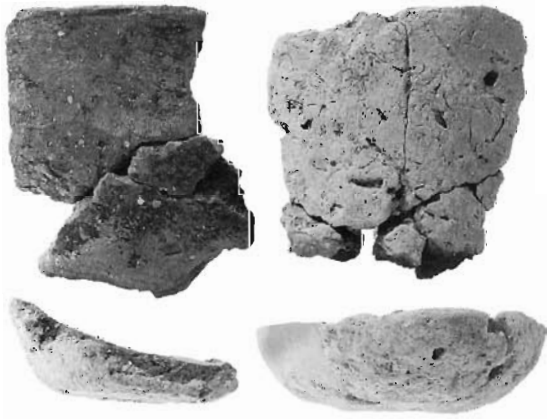
打越式土器（4）　その他の沈線文土器（1）　その他の条痕文土器　判ノ木山西式土器（3）

その他の沈線文土器（2）

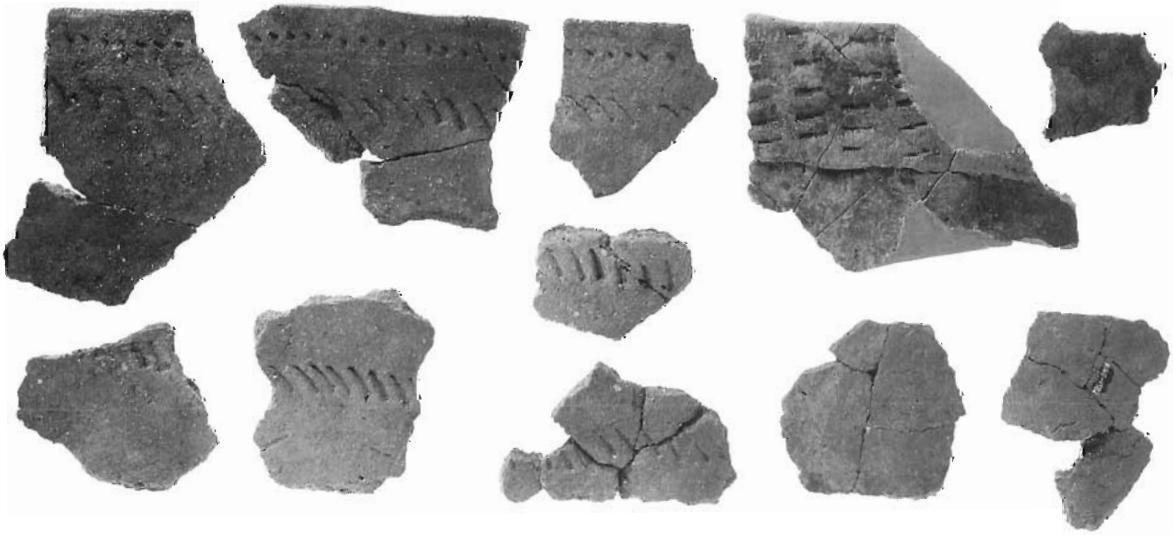
早期　その他の土器（1）



早期　その他の土器（2）

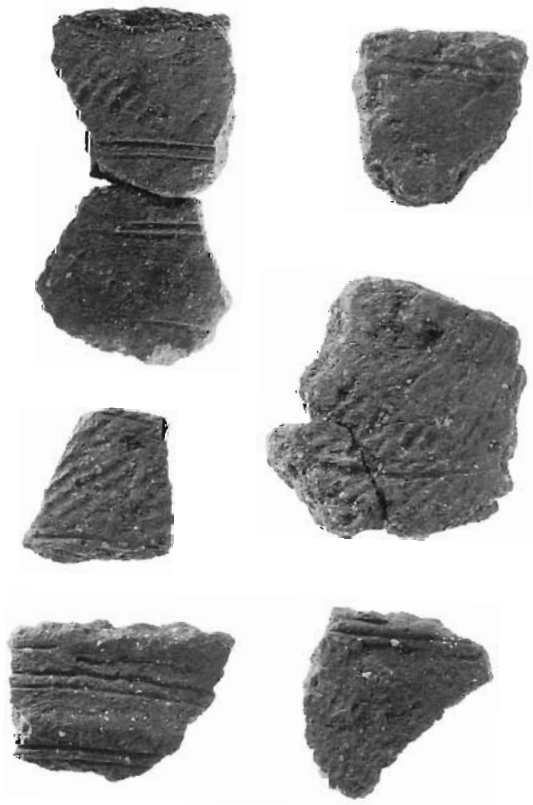


早期　その他の土器（3）



上ノ坊式土器

諸磯ｂ式土器（1）

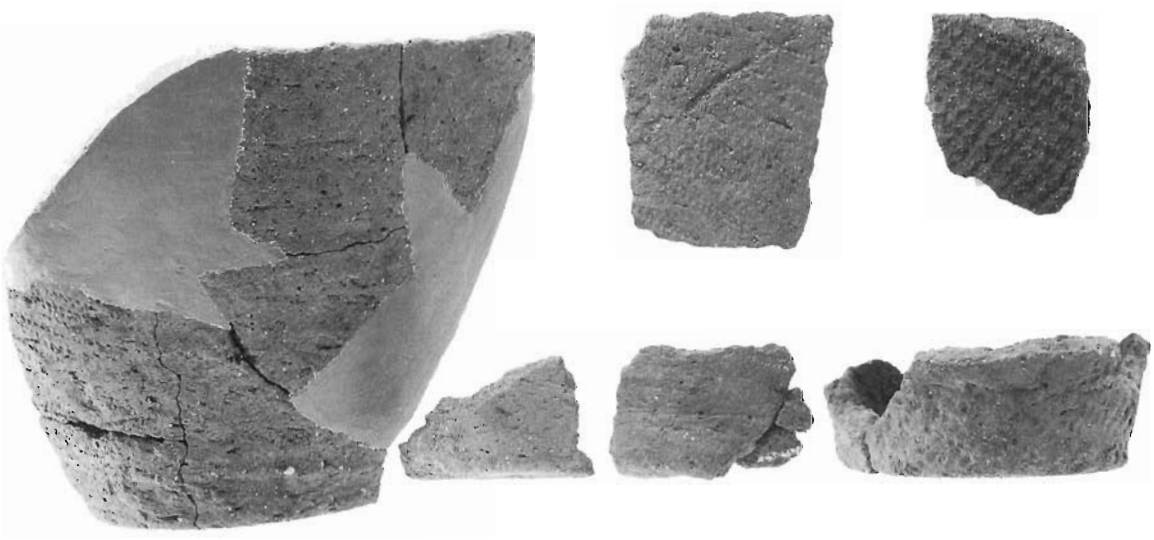


諸磯ｂ式土器（2）

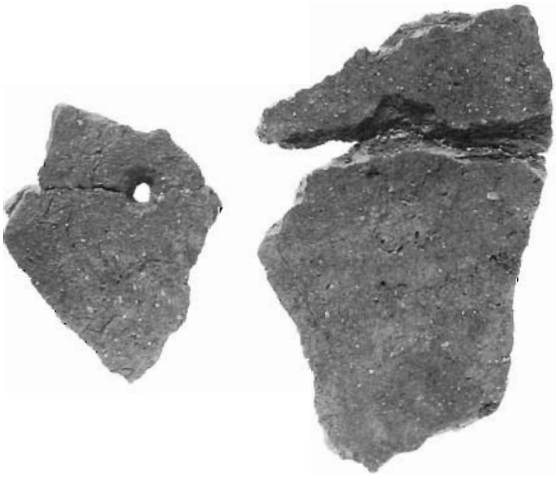
諸磯ｂ式土器（3）

諸磯ｂ式土器（４）

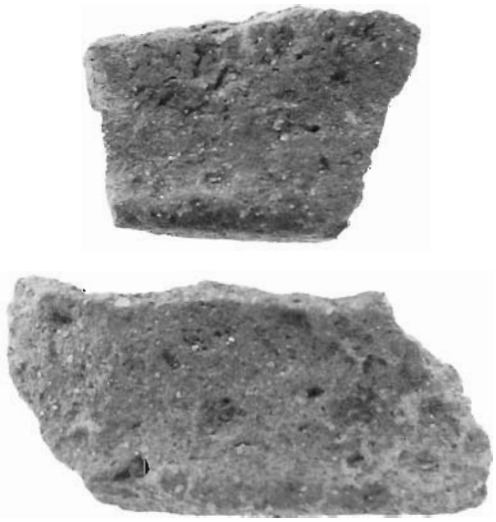
諸磯ｂ式土器（５）



前期　縄文土器



前期　その他の土器（１）



前期　その他の土器（２）

新道式土器（1）

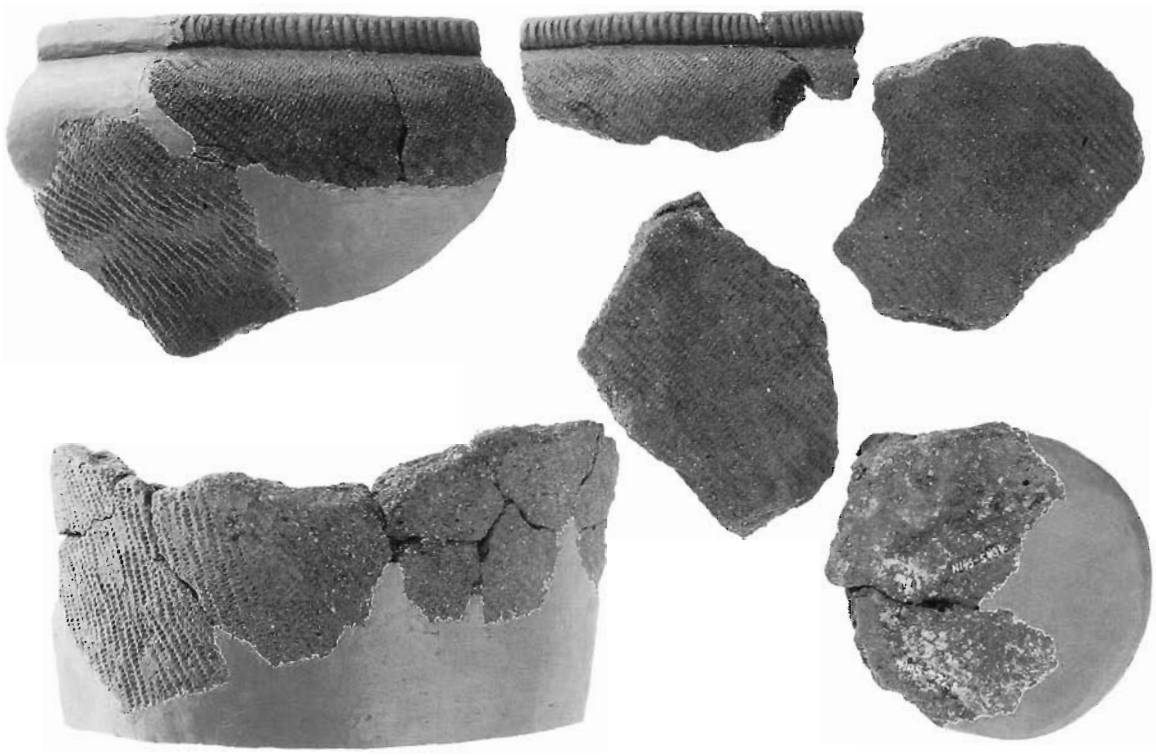
新道式土器（2）

藤内式土器（1）

藤内式土器（2）

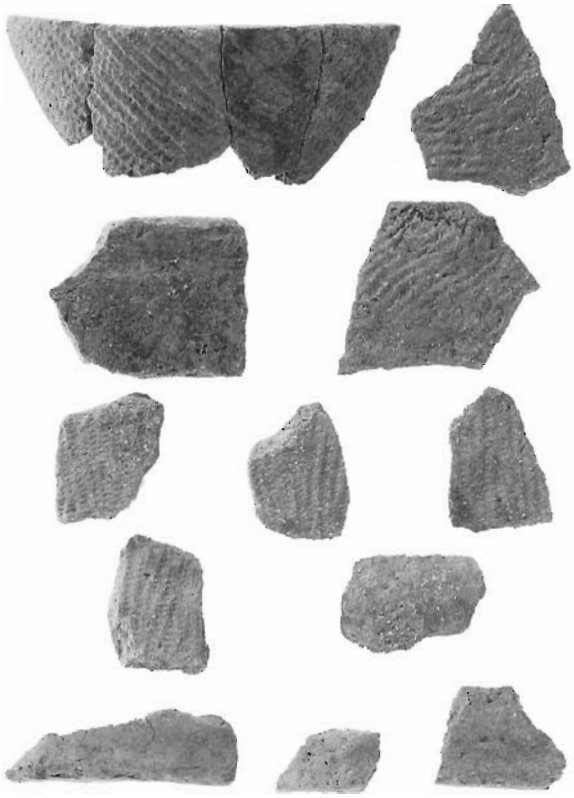
藤内式土器（3）

藤内式土器（4）

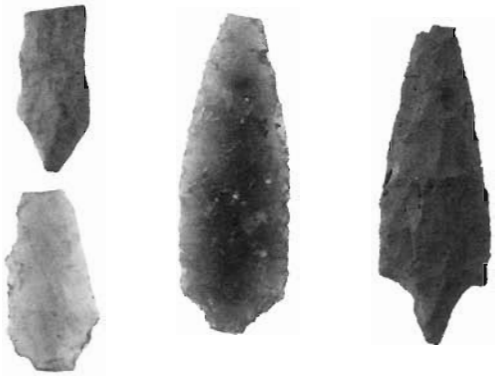


藤内式土器（5）

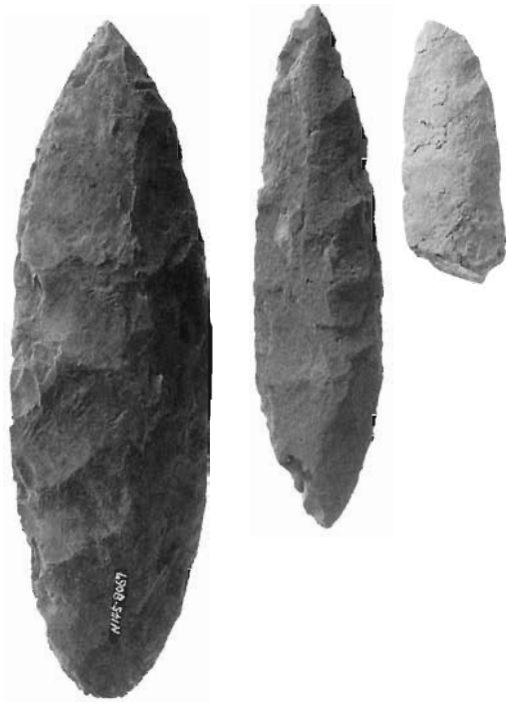
藤内式土器（6）



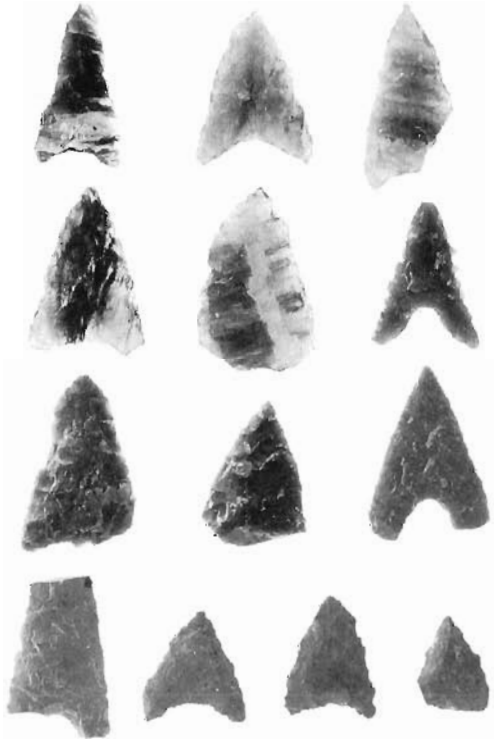
中期　縄文土器　その他の土器



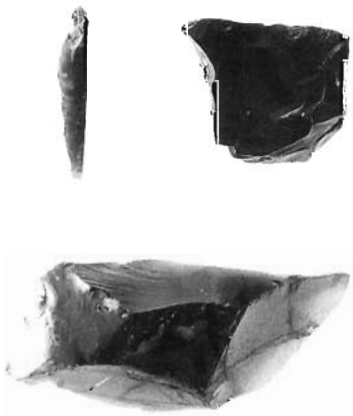
縄文時代草創期の尖頭器類（1）

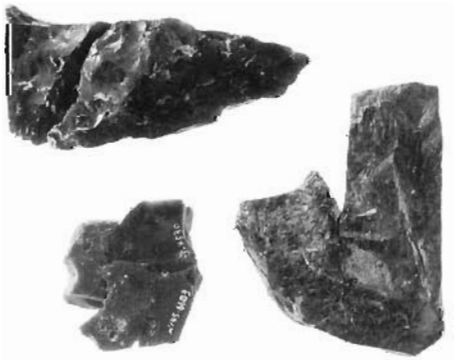


縄文時代草創期の尖頭器類（2）



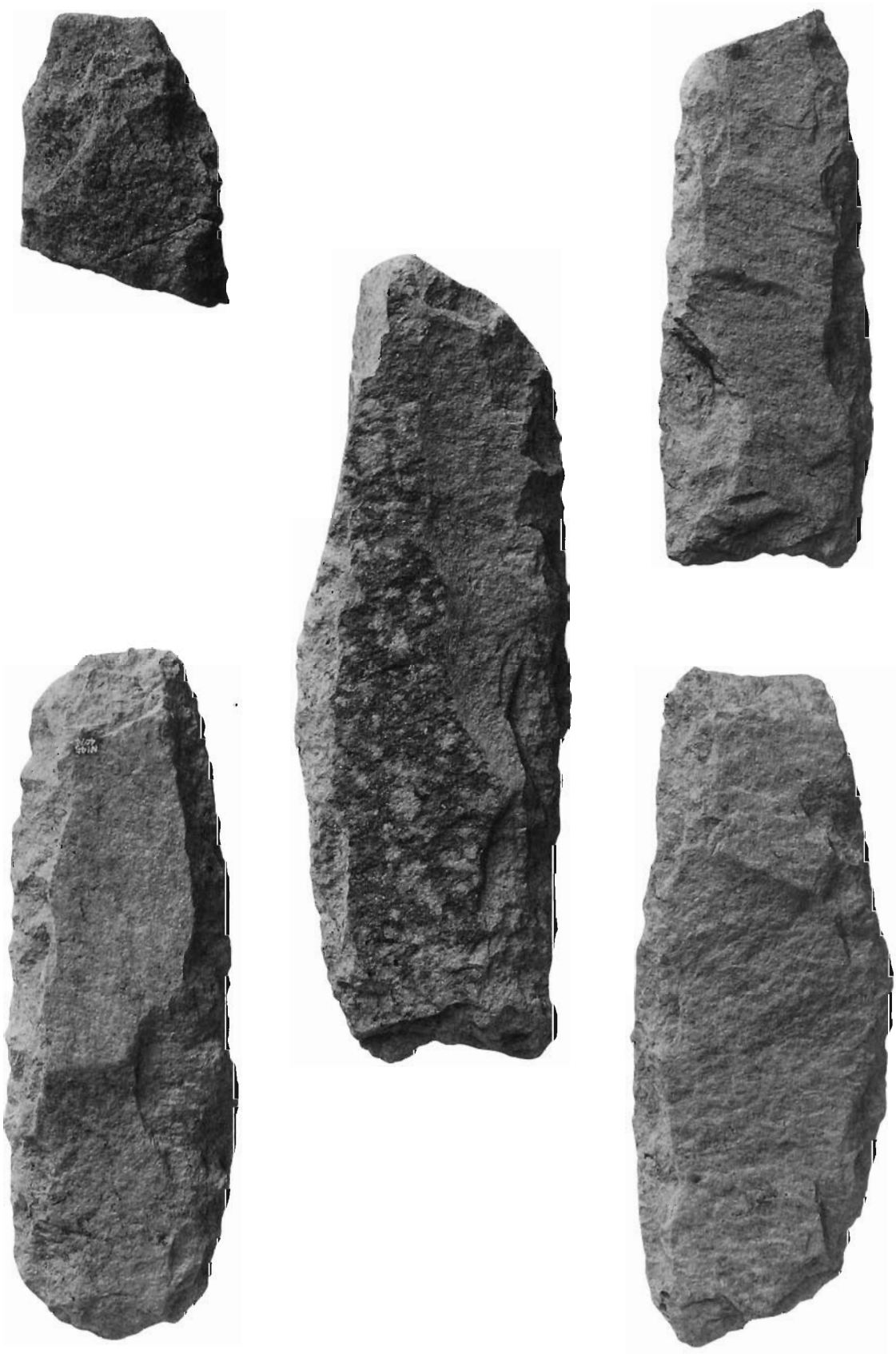
DEF 5 - 8 グリッドの石器群（1）





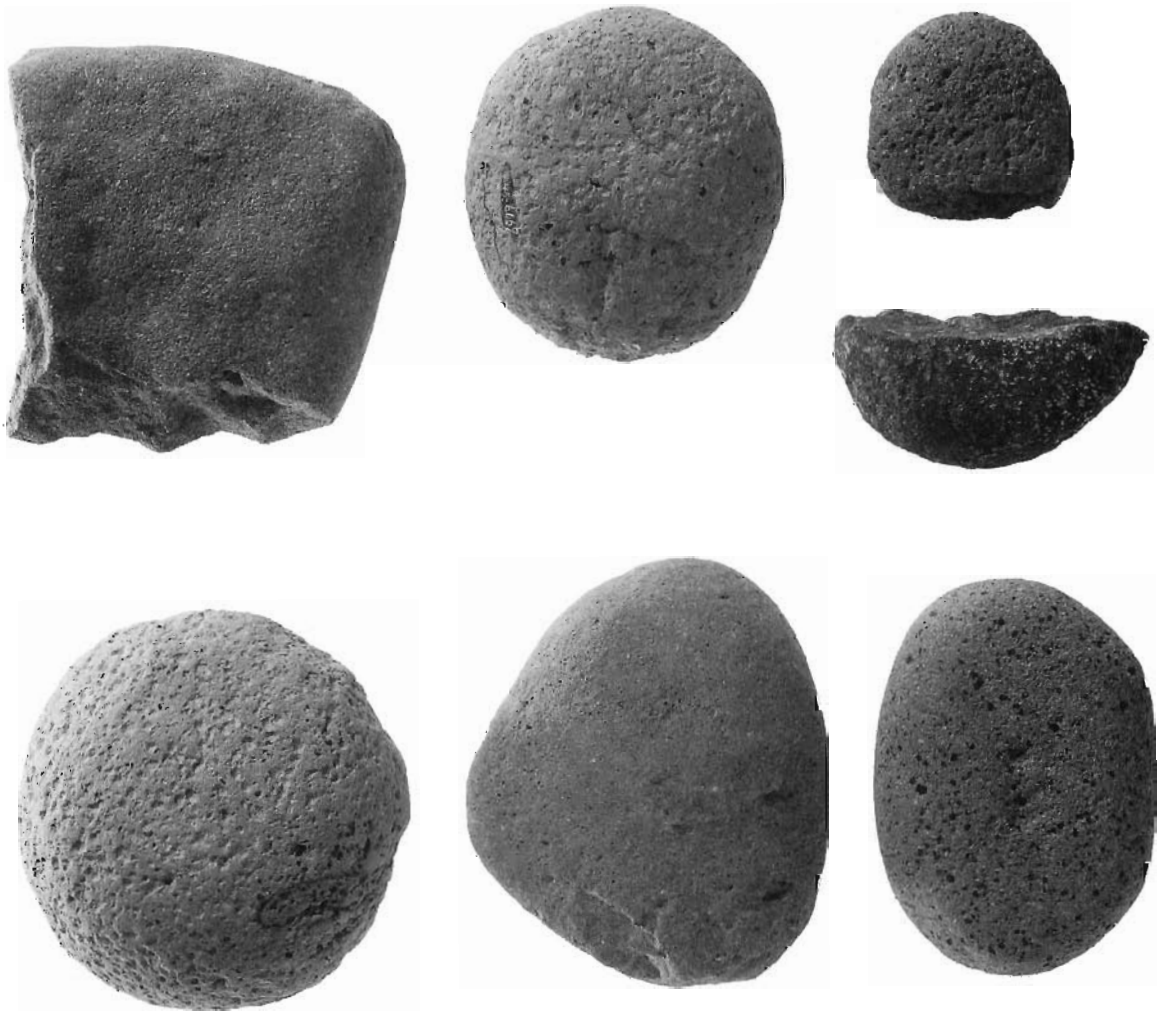
DEF 5 - 8 グリッドの石器群（2）

DEF 5 - 8 グリッドの石器群（3）

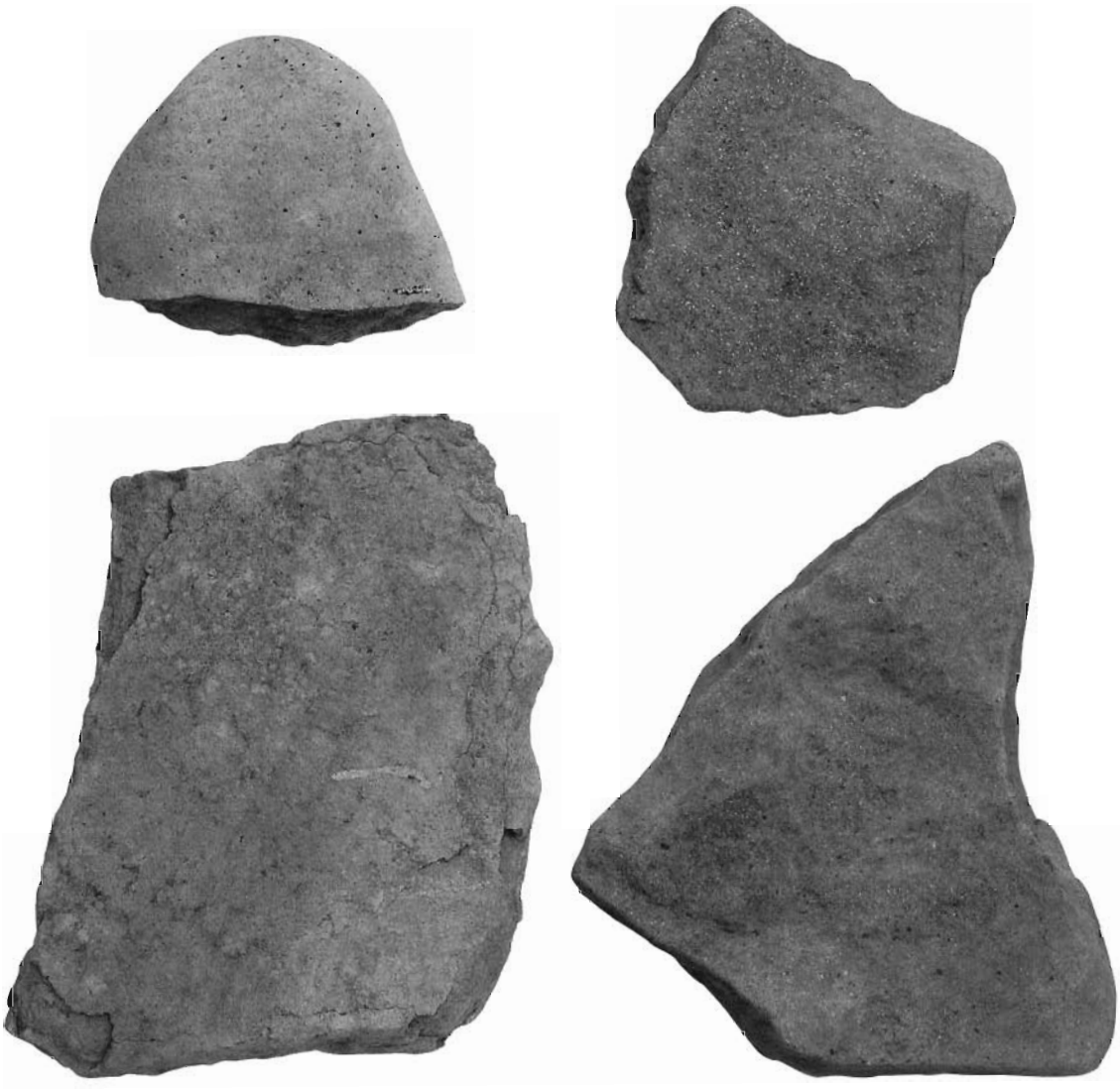


DEF 5 - 8 グリッドの石器群（4）

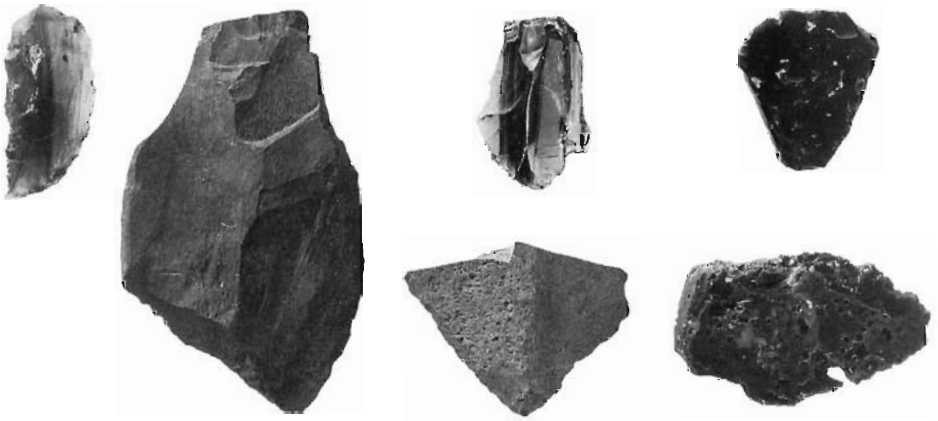
DEF 5 - 8 グリッドの石器群（5）



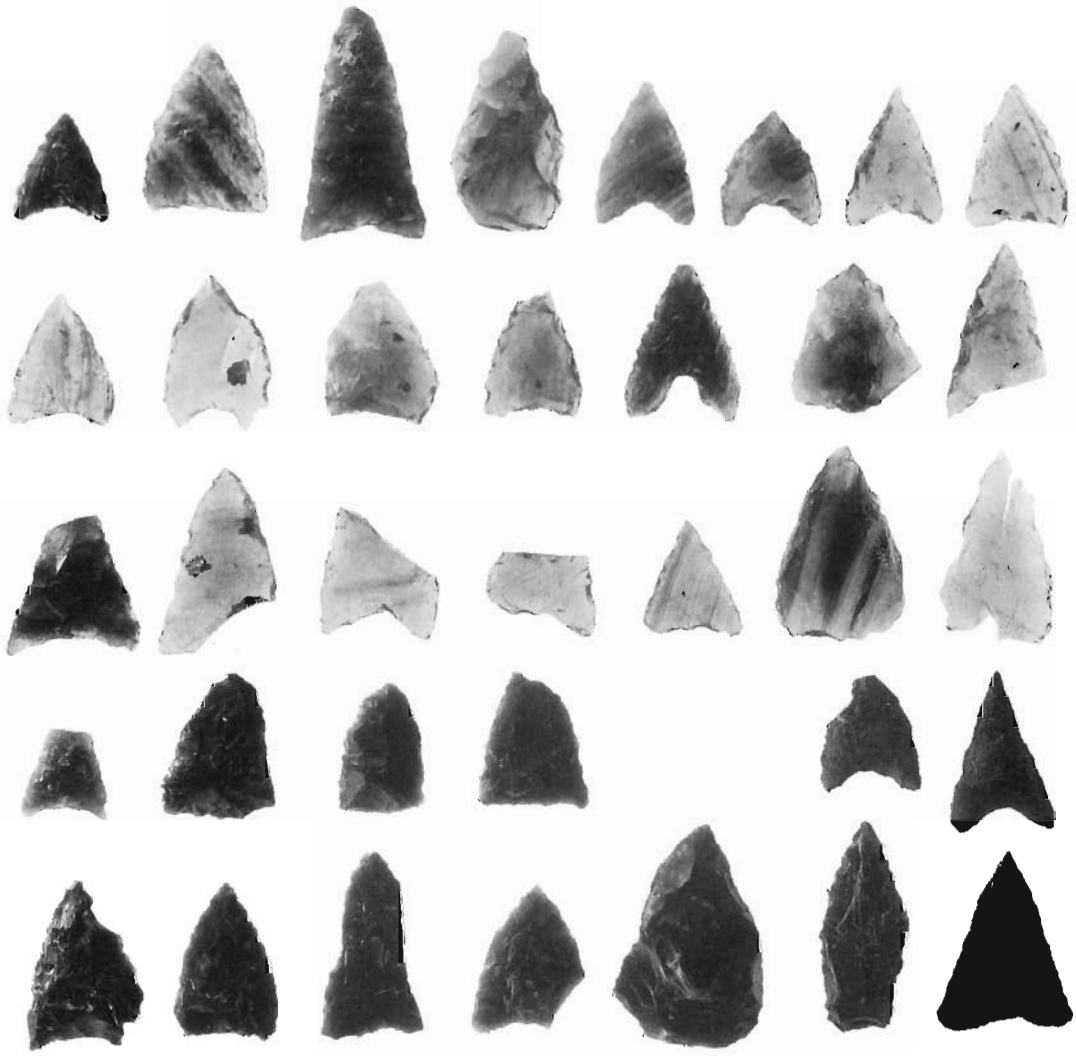
DEF 5 - 8 グリッドの石器群（6）



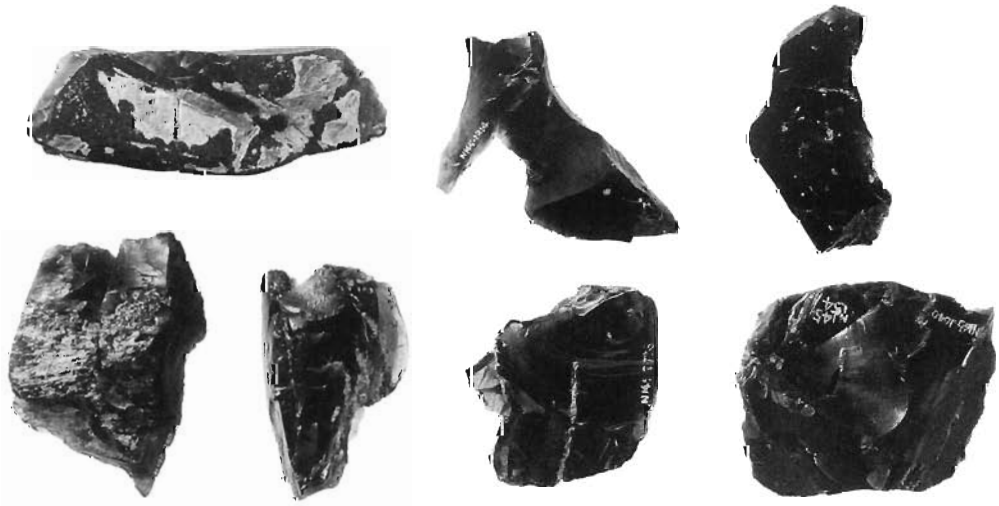
DEF 5 - 8 グリッドの石器群（7）



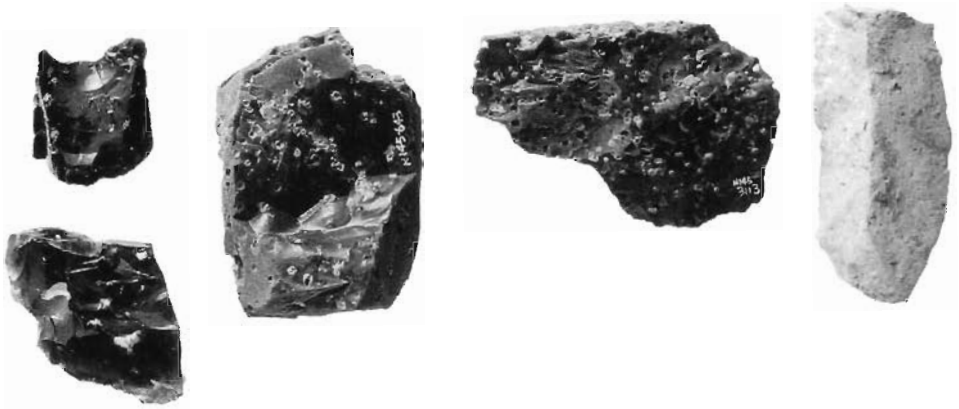
EFG13-16グリッドの石器群（1）



EFG13-16グリッドの石器群（２）



EFG13-16グリッドの石器群（３）



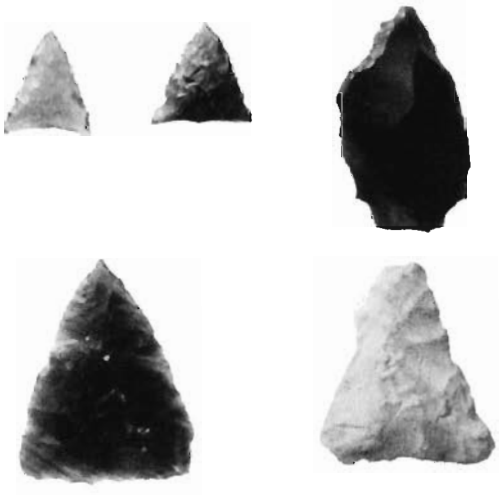
EFG13-16グリッドの石器群（４）

EFG13-16グリッドの石器群（５）

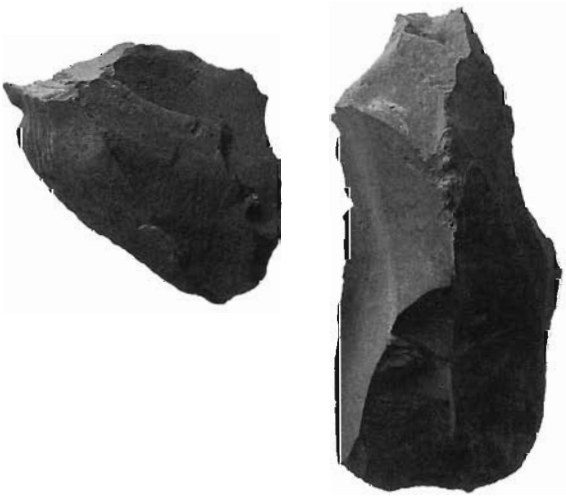
EFG13-16グリッドの石器群（６）

EFG13-16グリッドの石器群（７）

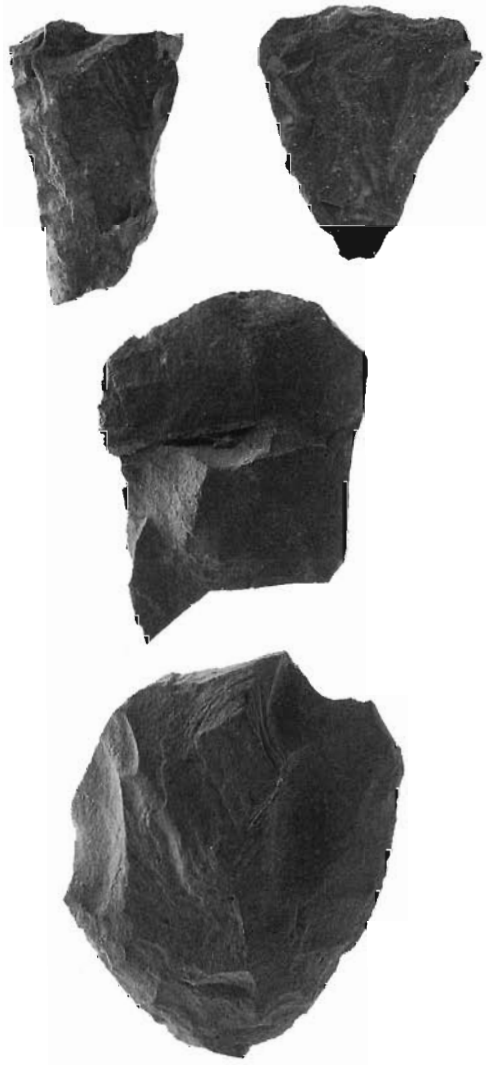
CDE19-21グリッドの石器群



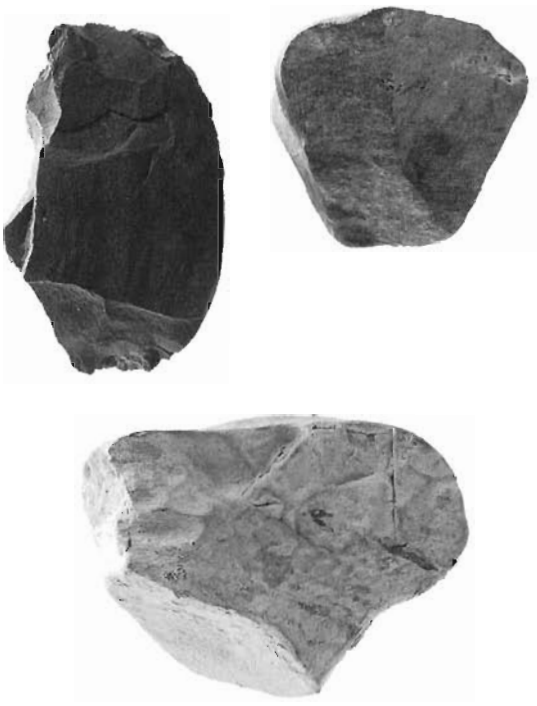
HIJK 6 -11グリッドの石器群（１）



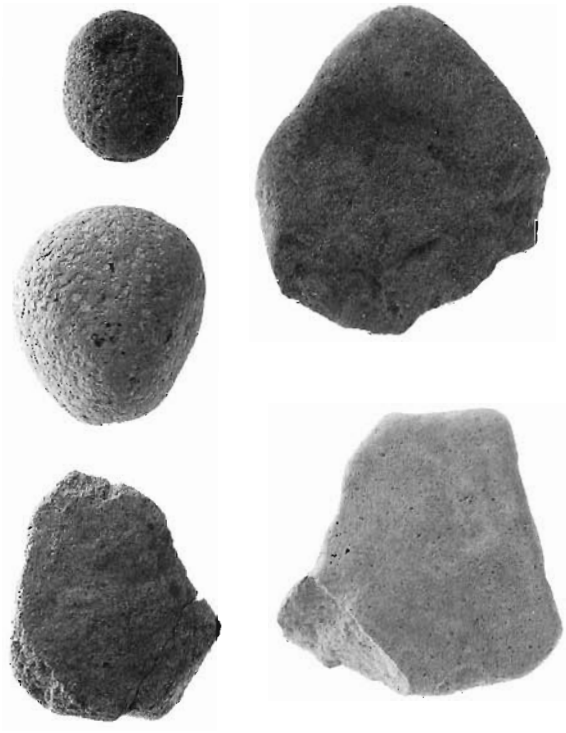
HIJK 6 -11グリッドの石器群（２）



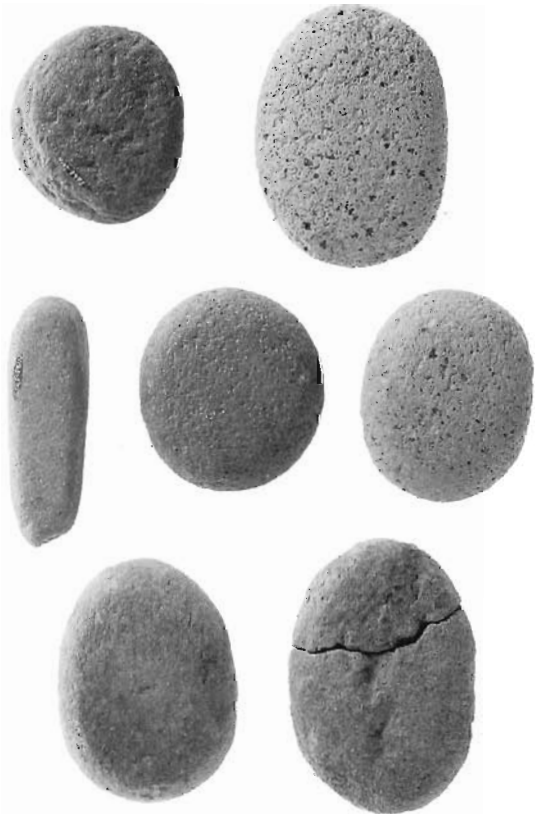
HIJK 6 -11グリッドの石器群（３）



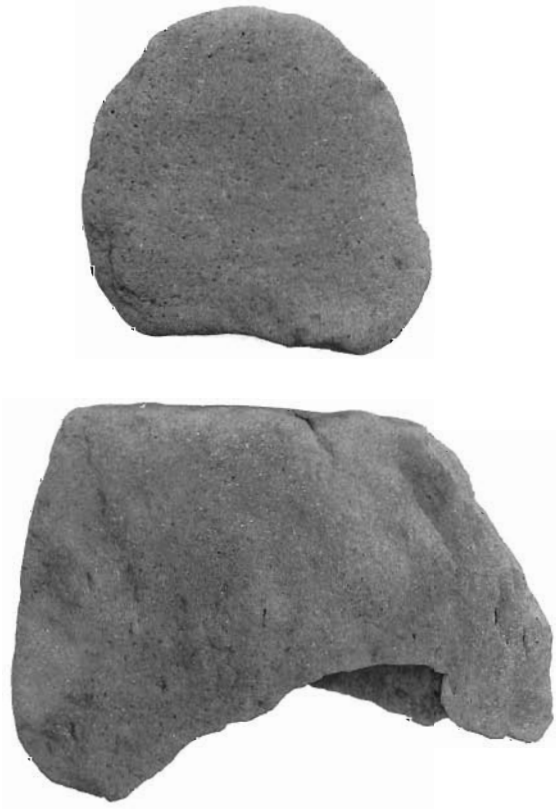
HIJK 6 -11グリッドの石器群（4）



HIJK 6 -11グリッドの石器群（5）

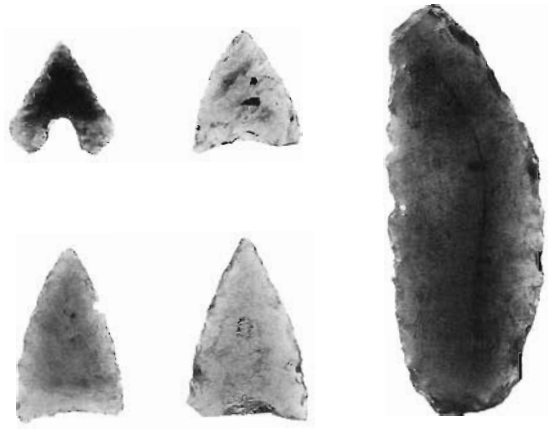


HIJK 6 -11グリッドの石器群（6）

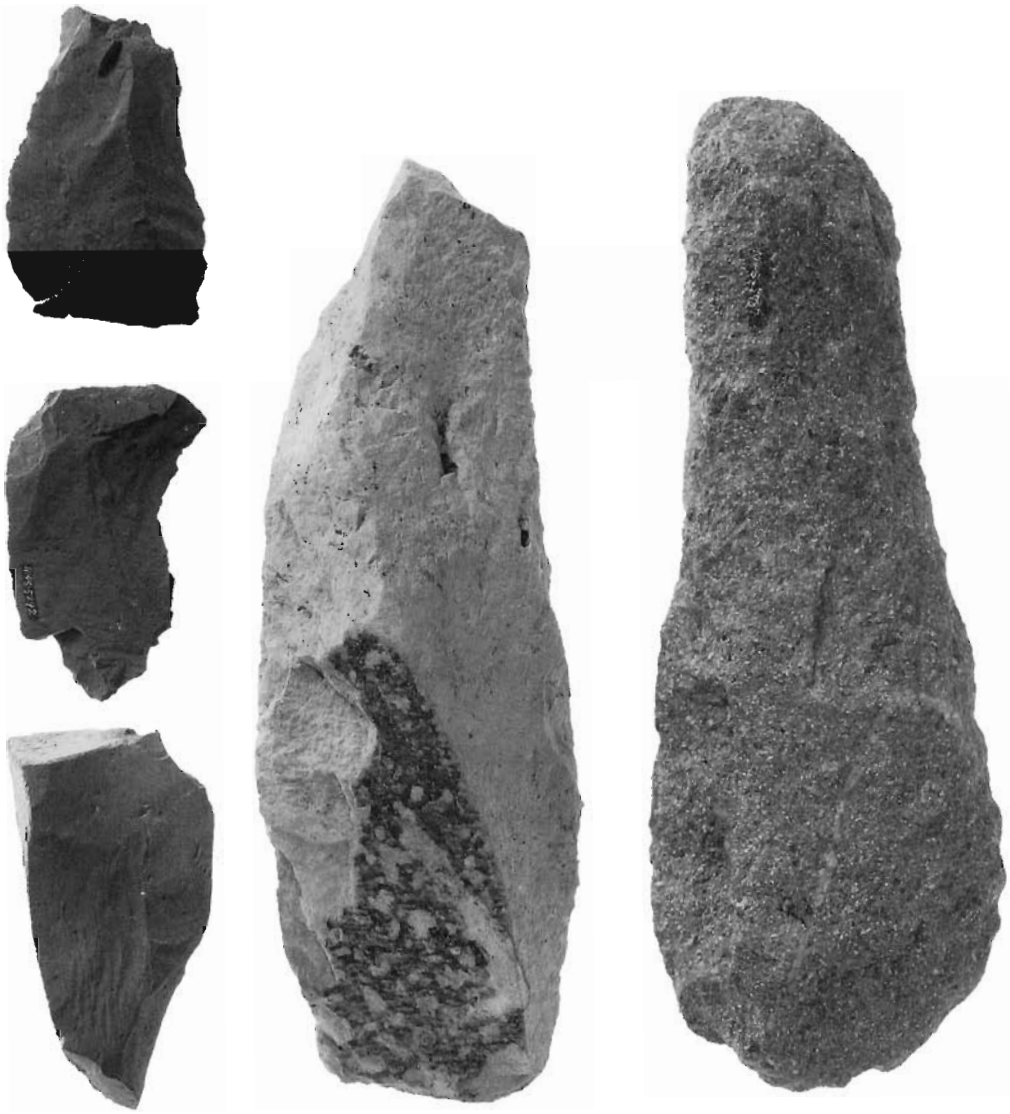


HIJK 6 -11グリッドの石器群（7）

HIJK 6 -11グリッドの石器（8）



その他のグリッドの石器群（1）



その他のグリッドの石器群（2）

報告書抄録

ふりがな	ろうだいらいせき
書名	老平遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	裾野市－4
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第192集
編著者名	阿部　敬
編集機関	財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　　TEL 054-262-4261（代）
発行年月日	西暦2008年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ろうだいらいせき 老平遺跡	すそのしおおはた 裾野市大畑 あざろうだいらほか 字老平他 ひつ 16筆	22220		世界測地系 35°11’16”	138°53’21”	2004.4 ～ 2006.3	9,030 ㎡	第二東名建設事業
				日本測地系 35°11’05”	138°53’33”			

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
老平遺跡	散布地	旧石器時代 BB I BB0-YLL YLM YLU	礫群3基 石器集中6箇所	石器（尖頭器/ナイフ形石器/切出形石器/端削器/側削器/彫器/角錐状石器/二次加工剥片/微細剥離痕剥片/彫器/削片/石刃/剥片/砕片/石核/敲石/台石）	後期旧石器時代の石器製作址の重層遺跡
	散布地	縄文時代 草創期 早期 前期 中期	集石33基 土坑29基	土器（早期-中期）、石器（有舌尖頭器/石鏃/端削器/側削器/石匙/石錐/打製石斧/礫器/敲石/磨石/石皿/台石/二次加工剥片/微細剥離痕剥片/剥片/砕片/石核/楔形石器）	縄文時代草創期から中期の石器群、早期から中期の土器群

要約　旧石器時代はAT上位で4枚の文化層を検出。第Ⅰ文化層は石器集中1箇所で剥片のみ、第Ⅱ文化層は石器集中2箇所で石刃/剥片製ナイフ形石器が組成、第Ⅲ文化層は石器集中がなく、単体の石刃のみ、第Ⅳ文化層は石器集中3箇所で、両面加工尖頭器、石刃/剥片製ナイフ形石器などを組成する。縄文時代は、住居跡が検出されず、早期から中期の土器群と草創期から中期の石器群を検出。中心となっているのは早期後半の判ノ木山西式土器ほか条痕文土器。このほか縄文時代の焼土/集石/土坑、時期不明の土坑が検出されている。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第192集

老　平　遺　跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年9月30日発行

編集・発行　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054-262-4261㈹
FAX　054-262-4266
印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421-0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL　0548-32-0851㈹